黎明二十年

千葉県立成田北高等学校

創立二十周年記念行事

全校遠足　平成12.4.28

2年クラス別　お台場

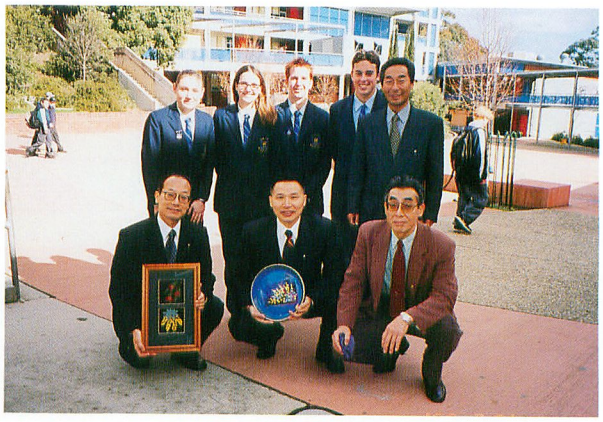
1年バス遠足　ディズニーランド

2年クラス別　浅草（他に横浜、後楽園）

3年クラス別　横浜

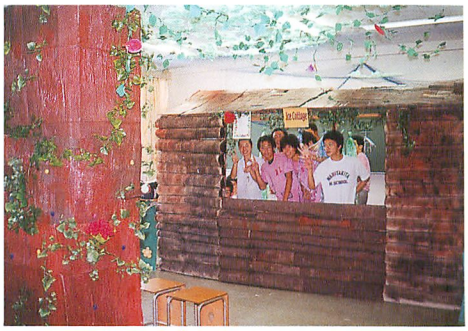
ワガワガ高校表敬訪問　平成12.7.19〜7.25

ロジャーズ校長先生のご案内でワガワガ市長を訪問



生徒会役員と共に

黎　明　祭　平成12.9.14～15



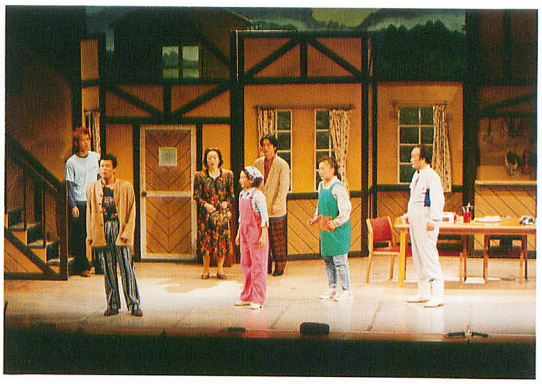
スポーツ大会　平成12.9.21～22

創立二十周年記念式典及び祝賀会　平成12.11.1

祝賀会

芸術鑑賞会　平成12.11.2　於成田市国際文化会館

「噂のファミリー1億円の花婿」－劇団ふるさとキャラバン



二十年のあゆみ

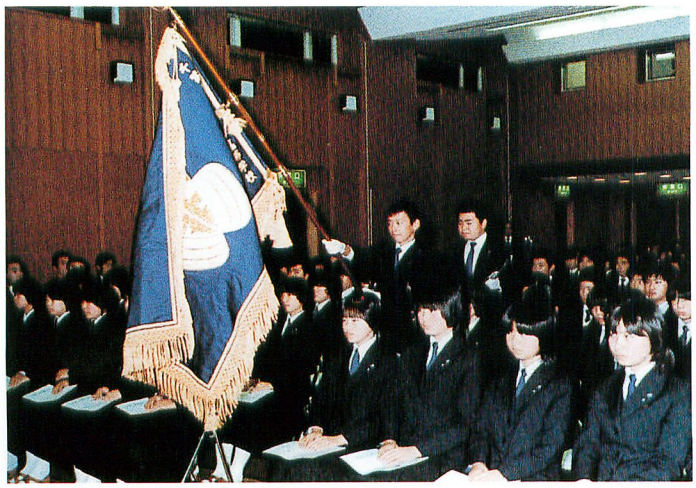
千把ヶ池を埋立てグラウンド造成中

埋立て前の千把ヶ池の夏祭り　昭和33.7.27
（山田保雄氏所蔵）「創立五周年記念誌」より転載

教室棟南校舎のみでスタート

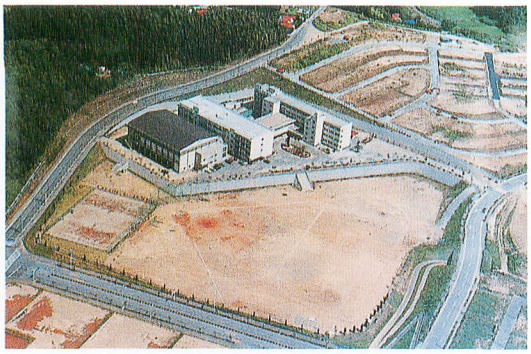
開校式・入学式　昭和55.4.15
4学級188名（於成田西高体育館）

擁壁工事　昭和55.10月
古東京湾の貝殻層が見られる



校旗・校歌制定式　昭和55.11.22（於成田市中央公民館）

寄贈されたツゲ
を全校で植樹
昭和55.10.18



完成した校舎（昭和57.8月）

第２期工事（昭和56.3月）

校舎竣工記念植樹
（昭和57.10.30）

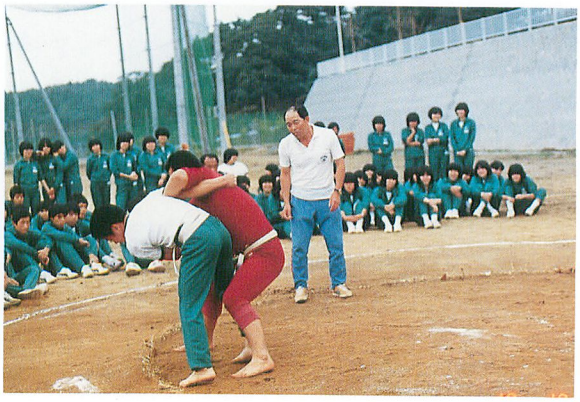
校門・前庭完成（昭和57.11.18）

懐しの行事

リーダー研修会（昭和55～平成４）

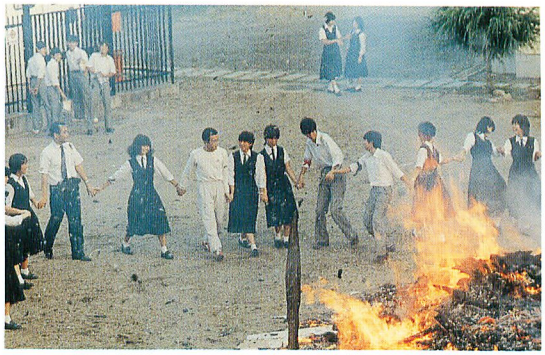
１年徒歩遠足　房総風土記の丘（昭和55～63）

１年林間学校（昭和55～平成７）



スポーツ大会では相撲や綱引きも

創立十周年記念黎明祭（平成2.9.29～30）



黎明祭一般初公開（昭和59.9.23）　終了後に後夜祭

創立十周年記念体育祭（平成２.10.7）

最初の部室完成（昭和60.12.17）

全校野球応援（昭和56～平成７）

中台陸上競技場でのスポーツテスト（昭和59～平成８）

予餞会（昭和55～平成11）

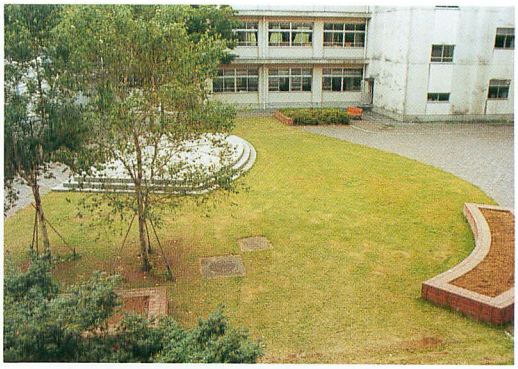
２年関西方面修学旅行（昭和55～平成２）

スキー修学旅行開始　平成3.2.14〜17

工芸窯場竣工　平成2.11.1

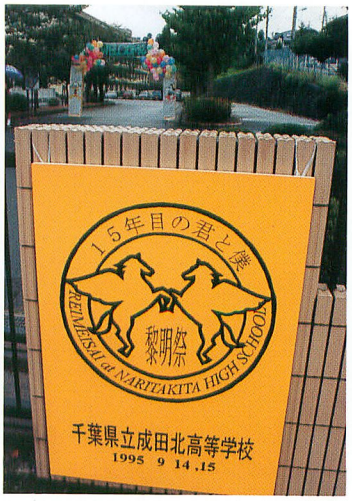
ＣＡＩ教室工事完成　平成4.12.24

グラウンド全面改修工事　平成4.3月

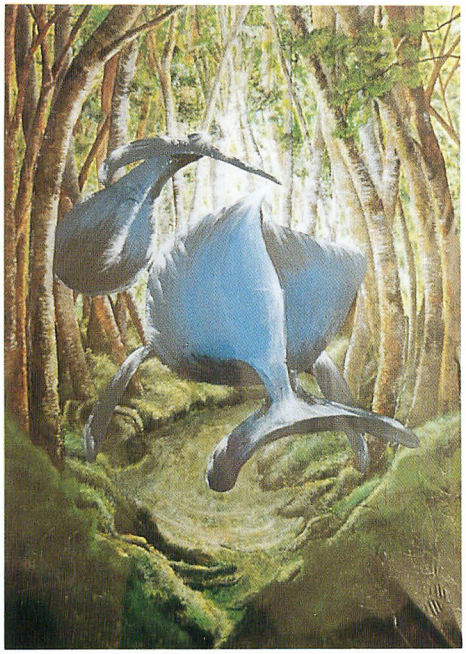


中庭整備工事完成　平成7.3.22

第44回学展　デザイン部門大賞
「kabutogani〜風太郎〜」
木川恵美



創立15周年文化祭
平成7.9.14〜15



第47回学展　デザイン部門
大賞「時の声」 篠原芽衣

ワガワガ高校との交流派遣開始
平成8.7.23〜8.12

インターネット接続開始　平成10.9.1

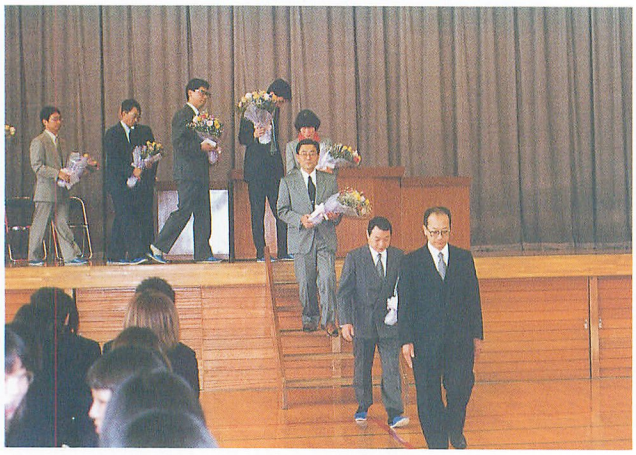
部活壮行のたれ幕、横断幕開始
平成11年開始時のたれ幕（下）
平成12年横断幕（上）

新制服発表　平成12.11.1

成田北高の一年

3月　入学許可候補者説明会

3月　学力検査、合格発表



4月　離退任式

4月　入学式

4月　2、3年芸術鑑賞会

4月　1年校外学習

春　夏　秋　冬

5月　球技大会

5月　身体測定、スポーツテスト

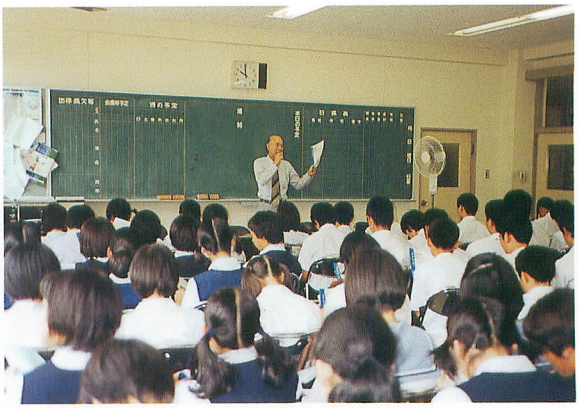
6月　文化祭準備開始

6月　除草作業

7月　野球応援

7月　期末考査

9月　文化祭



7・8月　学校説明会

10月　防災訓練

9月　スポーツ大会

2月　マラソン大会

11月　学年ＰＴＡ

3月　卒業式

2月　2年修学旅行

日常の風景－成田北高の一日

朝のＳＨＲ

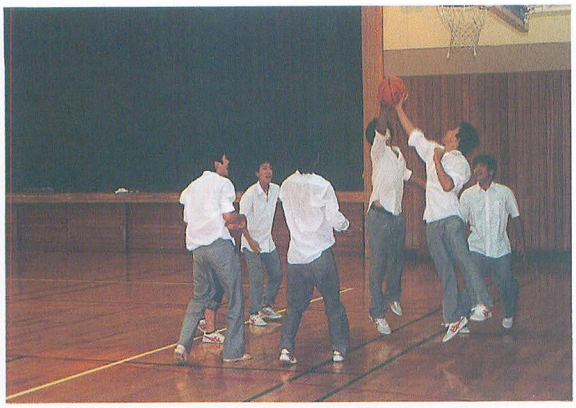
登校風景　自転車で続々と

授業風景　家庭科調理実習

授業風景　化学実験

昼休み　パンの販売

授業風景　英語ＡＬＴとの授業

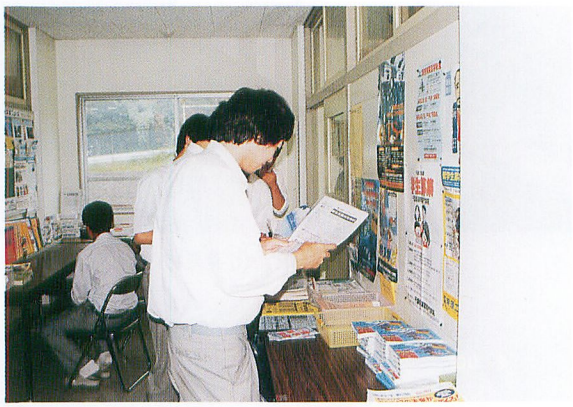


昼休み　体育館で一汗

昼休み　楽しいひと時

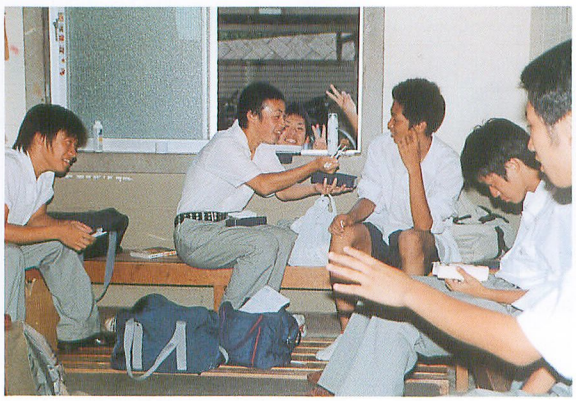
清　　掃

授業風景　書道



放課後　進路指導室にて

放課後　補習



放課後　部活を終えて

放課後　部活動

校　訓

自律　協調　健全

教育目標

本校は教育基本法および学校教育法に基づき、高等学校普通科の教育を行う。

教育の理想は、知育・徳育・体育の調和によって、円満な人間形成を目指すことにある。

これらの目標を達成するため、次の教育方針を設定する。

1．一人一人の生徒を尊重し、個性の伸長と能力の開発を重点に、自主・自律の精神をもつ青年の育成に努める。

2．社会連帯の意識を養い、勤労と責任を重んじ、協調性に富む青年の育成に努める。

3．心身ともに健全でたくましい実践力のある青年の育成に努める。

努力目標

本校教育目標の具体化を図るため、適切な教育計画の作成とその実践により、生徒が充実した学校生活を体験できるよう努める。このため、特に次の重点努力目標を定める。

1．学習指導の充実　　2．進路指導の推進　　3．生徒指導の充実

4．体育・保健活動の充実　　5．特別活動・部活動の育成　　6．環境の整備・美化の推進

目次

口絵
創立二十周年記念行事　二十年のあゆみ
春夏秋冬　成田北高の一年　日常の風景―成田北高の一日

挨拶
記念誌の発刊の御挨拶　校長　越川雄次郎
「黎明二十年」　創立二十周年記念事業実行委員会委員長　小川　和夫
創立二十周年を迎えて　PTA会長　大川　正芳
北高生よ、信念をもって　同窓会会長　安部　志朗
創立二十周年を祝して　後援会会長　飯塚　信一

創立二十周年記念式典
式辞　校長　越川雄次郎
御挨拶　創立二十周年記念事業実行委員会委員長　小川　和夫
ごあいさつ　生徒代表　増井久美子
御祝辞　成田市長　小川　国彦様
御祝辞　成田市立成田中学校長　髙槁　龍之様
創立二十周年記念式典について
創立二十周年記念事業について　教頭　松井　立夫
ワガワガ高校を表敬訪問　校長　越川雄次郎

創立二十周年記念に寄せてⅠ

青年期の北高　第七代校長　村田　一男…2
明るく　楽しく　元気よく　第三代校長　羽生　正允…3
祝辞　第四代校長　杉山　進…3
『黎明二十年』発刊に寄せて　第五代校長　井上　洋一…4
若人の皆さんへ　第六代校長　花井　保…4
創立二十周年記念に寄せて　第二代教頭　菅谷　泰夫…5
二十一世紀への更なる発展と飛躍を願って　第三代教頭　香取　秀紀…6
二十周年をお祝いして　第五代教頭　中田　成气…6
創立二十周年に思うこと　第四代事務長　大又　一雄…7
創立二十周年に寄せて　第五代事務長　小林　澄江…8
思い出　第六代事務長　多田　要三…8
創立二十周年を迎え、今後の発展を願って　第六代PTA会長　鬼澤　和夫…9
創立二十周年を祝して　第七代PTA会長　谷　照雄…10
さらなる飛躍を　第九代PTA会長　髙仲　昭雄…10
「黎明二十年」発刊に寄せて　第十代PTA会長　大久保靖夫…11
特色のある学校に　第十三代PTA会長　篠崎美津男…12
二十周年記念誌発刊にあたっての祝辞　第十四代PTA会長　大場　正治…12
創立二十周年に寄せて　第十五代PTA会長　相川　光規…13
創立二十周年を振り返って　後援会顧問　谷　重吉…13

創立二十周年記念に寄せてⅡ

創立二十周年記念に寄せて　創立二十周年記念事業実行委員会委員　岩本美津子…200
野球部への思い　創立二十周年記念事業実行委員会監事　櫻井　笑子…201
草創期の思い出　旧職員　高岡　誠次…201
いつまでも目標としたい学校　旧職員　小松栄三郎…202
思い出すままに　旧職員　赤井　正男…202
成田北高校の思い出　旧職員　青柳　佳親…203
思い出　旧職員　小早志剛規…204
生徒会の思い出　旧職員　小倉　晶文…204
思いだすこと　旧職員　真鍋　憲雄…205
二〇年前のこと　旧職員　齋藤公美子…205
メタセコイヤの木の如く…　旧職員　根本　直美…206

学校図書館のこと　旧職員　大木　実…207
司書室雑考　旧職員　工藤眞由美…207
第一回スキー修学旅行の思い出　旧職員　纐纈　康世…208
創立二十周年記念によせて　旧職員　多田　敏…209
私の成田北高校　旧職員　内海　曜子…209
創立二十周年を迎えて　地歴科　川澄　成生…210
創立二〇年を迎えて　数学科　吉川　勲生…210
創立二十周年を迎えて……今後の期待　理科　金塚　省吾…211
二十周年記念に向けて　保健体育科　三橋　啓重…211
一〇年を振り返り　保健体育科　鈴木小枝子…212
卒業生―赤間賢二（一期生・同窓会副会長）・松﨑吉洋（十一期生徒会長）・
高田哲（十三期生徒会長）・伊能英男（十四期生徒会長）・菊地恵美
（十五期生徒会長）・木村悦子（十八・十九期生徒会長）・五十嵐慶彦
（二十期生徒会長）・佐藤正教（第十期）・石川賀大（第十四期）・
篠田千晶（第十六期）・佐藤瑞紀（第十七期）・平山千恵（第十八期）・
篠原芽衣（第十八期）……212
在校生―三ノ宮茜（一年）・江澤正哲（一年）・米元麻実子（二年）・宮本豪
誠（二年）・高橋成美（三年）・松﨑一等（三年）・田島丈史（三年）…220

沿革―成田北高二十年のあゆみ―

成田北高二十年のあゆみ（沿革史）……16
千葉県立成田北高等学校沿革年表……49
校務分掌の二十年……65
総務部・教務部・生徒指導部・進路指導部・図書部・保健厚生部・管理部・同和教育推進委員会・情報教育推進委員会・国際理解教育推進委員会・事務部
生徒会活動の二十年……89
生徒会本部の二十年・規律委員会・体育委員会・放送委員会・図書委員会・美化委員会・保健委員会・社会福祉委員会・購買委員会・文化委員会・北星編集委員会・応援委員会・選挙管理委員会
文化部……107
吹奏楽部・科学部・写真部・英会話部・美術部・書道部・電気部・演劇部・映画研究部・茶道部
運動部……116
野球部・卓球部・ソフトテニス部・硬式テニス部・サッカー部・陸上競技部・ゴルフ部・バレーボール部・バスケットボール部・柔道部・剣道部・バドミントン部・空手道部・女子サッカー部
同好会・愛好会……137
軽音楽同好会・イラストレーション同好会・将棋同好会・華道同好会・フォークソング同好会・合唱同好会・工芸同好会・ペン字同好会・パソコン同好会・少林寺拳法同好会・郷土研究同好会・ハンドボール同好会・弓道愛好会
PTA・同窓会・後援会の二十年……145
心に残る学校行事・学校生活……152
心に残る行事―黎明祭―・高校生活最高の思い出〝修学旅行〟・校外学習（遠足）のあゆみ・林間学校について・球技大会・スポーツ大会・耐寒マラソン大会・芸術鑑賞会の取り組み・読書感想文・画コンクール・「現代学生百人一首」入選作・成田北高等学校開放講座・交換留学・国際理解教育活動
ドナルド・キーン氏の講演会……195

成田北高を見つめる・語る

……225
卒業生座談会・在校生座談会
高校生活への抱負・成田北高への期待（アンケート結果一〇年間の変遷）
成田北高についてのアンケート集計結果Ⅰ・Ⅱ（新入生・新入生保護者）

現況並びに資料

……265
編集後記
題字―山内美和　表紙レイアウト―湯浅仁　イラスト―イラスト同好会

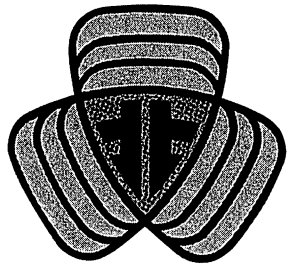
校　歌

作詞　沢田繁二
作曲　寺内　昭

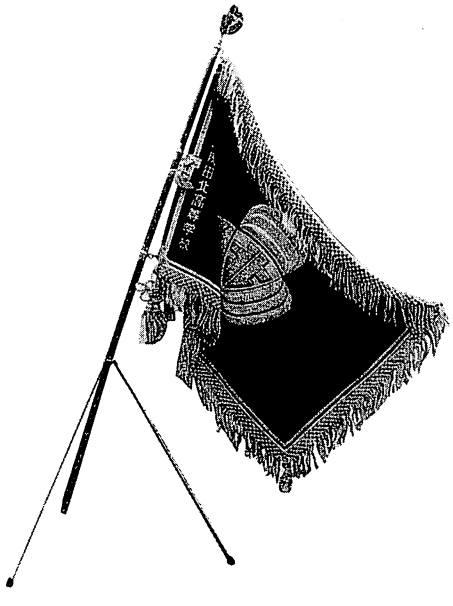
一、黎明近き　成田路に
光を待ちて　佇めば
新星北に　またたきて
さやけく開く　英知の門
おお　その名　北　高
奮ひ立ち　希望に燃えて
自律の旗　高くかかげん

二、若草萌ゆる　土深く
太古の海が　眠りゐて
校庭に散りしく　白き貝
その成長の　線のごと
おお　その名　北　高
向上の　記章を胸に
協調の輪を　固く結ばん

三、翼を挙げて　ペガサスは
針路を北に　天翔ける
たとへ嵐は　荒ぶとも
若き生命に　力あり
おお　その名　北　高
たくましく　未来に向ひ
健全の道　ともに進まん



校　章



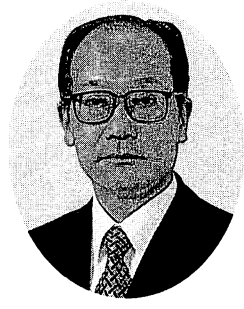
校　旗

校章の由来

成田ニュータウンの北端に位置する本校の校地は、地質時代第四期更新世の地層である成田層が露出していて、太古の海底に堆積した貝類などが化石として大量に出土する。校章は、その貝殻の三枚を組み合わせたデザインで、本校の教育理想「知育・徳育・体育の調和」を形象化し、また校訓「自律・協調・健全」を目指して努力する若人の進歩を貝殻の成長線で示した。中央には校名より「北」の字を配して、国際空港都市、成田から世界に雄飛するジェット機に模し、未来に向かって発展する若人の可能性を表現している。

記念誌の発刊の御挨拶

校長　越川　雄次郎



成田北高等学校は、昭和五十五年四月に開設され、これまで二十年の歴史を刻んで参りました。この記念すべき二十周年を迎えるに当たり、ＰＴＡ、同窓会、後援会の皆様の御協力により創立二十周年記念事業実行委員会が組織され、記念式典、芸術鑑賞会など様々な記念事業が実施されて参りました。その記録を含め、本校二十年の歩みを記録する記念誌がここに刊行される運びとなりました。御多忙の中、玉稿をお寄せくださった関係の皆様、貴重な資料や写真を御提供くださった方々に厚く御礼申し上げます。

本誌は、これまで学校発展の節目を記録するものとして編纂された五周年記念誌、十周年記念誌に続く本校二十年間の教育活動を集約するものです。折から日本の経済社会は泡のように膨張飽和する一方で瞬く間にしぼみ、高校生のみならず私たちは豊かさの試練とともに世紀末的不安を背景とする世相の中で生活を送ってきました。この記念誌に収められた二十年間の記録は、そうした社会背景の激変や、平成時代の始めごろを頂点とする高校生の急増、急減という難しい試練を乗り越えてきた歴史でもあります。

今、改めて本校の二十年をさかのぼり、学校創設時の歴史を顧みますと、校地の整理・校舎の建築に始まる草創の季節がありました。貝化石の堆積する岩のような傾斜地と水はけの悪い沼地という厳しい立地条件を克服しながら校舎内外の施設や植栽を整え、不自由な中で本校高等学校教育の内容を充実させていった初代校長岩上利夫先生をはじめとする職員の皆様とまだ学校規模の小さかった頃の生徒たち。「自律

・協調・健全」の校訓のもと、道なきところに道を拓け、進んで試練に挑戦せよという古訓に心を励ましながら、創る喜びを励みとし、厳しい結果にさらに闘志を掻き立てる日々であったと伺っています。

そうした創業時の苦節十年と、成長期から安定期に進む次の十年の時を経て、今や一学年十学級三箇学年計三十学級という県下有数の規模を持つとともに、成田市を中心とする地域の皆様や保護者の支持を戴き、多くの入学希望者を集める学校へと成長をとげてまいりました。本校はこの三月で累計六千六百余名の卒業生を世に送り出して来ましたが、その一人一人が各地域、各分野で社会の中堅を担って活躍していると聞いております。この記念誌が、そうした成田北高校の歩みをたどりつつ、現在直面している課題の確認と解決のヒントを示唆するものとなり、さらに将来への展望につながるものとなることを念願しています。

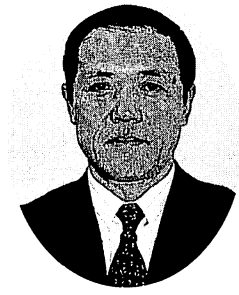
これからの千葉県は、これまでにも増して大きな社会構造の変化や価値観の多様化が進み、高校教育に対して様々な対応が求められると思います。そうした中で本校教育の基本である校訓「自律・協調・健全」は次代を担う若者に望まれる基本的な資質として最も肝要なものであり、校訓のもつ意味はますます輝きを増していくに違いありません。

本校二十年の歴史を改めて振り返り、伝統として伝えるべきものを大切にしながら、新しい世紀で活躍する人材の育成に職員一丸となって取り組んでいく所存です。関係の皆様のなお一層の御支援・御協力をお願い申し上げます。

最後に、多忙な校務の中にあって編集の作業に当たられた委員の先生方、並びに本誌編纂のため寸暇を惜しみ御尽力くださった旧職員手島和史先生のお骨折りに対してお礼と感謝の念を表して発刊の御挨拶といたします。

「黎明二十年」
――創立二十周年記念誌発刊によせて――

創立二十周年記念事業実行委員会委員長　小川和夫



千葉県立成田北高等学校はここに二十周年を迎え、西暦二〇〇〇年という千年紀の年に記念事業の一環として、二十周年記念誌「黎明二十年」が発刊の運びとなりました事は、関係諸氏に感謝を申し上げますと共に、心より御祝いを申し上げる次第であります。

「五周年記念誌」や「黎明十年」をひもときますと、まだまだ開発途中でありました成田ニュータウンの北端に、南棟一棟だけの校舎、四学級、一八八名の一期生でスタートした開校時における学校関係者の御苦労が、文章や写真をとおして、ひしひしと伝わってまいります。

私も縁が有り、昭和五十五年に成田の当地を知る事となりましたが、その頃の成田ニュータウンは六住区（現在の玉造六丁目）の造成が最盛期であり、北高も校舎とグランドの境の石積みや校舎の増築が精力的に進められていた事が鮮明に思い出されます。成田ニュータウンは平成元年にほぼ完成を見、さらに十年の歳月が流れ、北高が二十年を迎えるにあたり、ＰＴＡの発足、校旗校歌の制定、教育環境の整備、美化等々、歴代校長先生始め、諸先生方、ＰＴＡ役員、後援会、生徒、保護者、そして地域の方々まで、ほんとうに多くの人々の惜しみない努力と情熱で現在の北高のある事を思わずにはいられません。二十歳を迎えた北高生の現在を見ますれば、本校の教育理念「知育、徳育、体育の調和」、又校訓「自律・協調・健全」の教えが花を咲かせ、「校風」として実を結んだ感を覚えます。

今教育は、二十一世紀に向け、我が国を担うたくましい心身と、豊かな人間性、創造力を持った青少年を育てる事を目的に家庭、学校、地域社会が一層「密」になるように求められております。しかし現在の世の中の流れの速さの中で、人が人を思いやる気持ちが薄れてしまったような多くの事件、憤りを覚える事件が多発しています。子供達に伝えるべき価値に確信を持てず、しつけへの自信を失なった感のある大人社会は、まさに「次世代を育てる心を失う危機」に直面しているのではないでしょうか。我々大人が率先してモラルの低下を是正していきたいものです。

今、開校した当時を偲び、不自由な環境の中で今日の北高の基盤を築き、すばらしい子供達を送り出して下さった諸先輩方の功績をたたえると共に、今後の進みゆく道をさぐるのは、私達の大きな責任であると考えます。この記念誌の発刊にあたり、二十年の歴史を振り返り玉稿をお寄せ下さった皆様始め、それらの収集及び編集に特に尽力されました手島和史記念誌編纂委員長はじめ委員の方々に改めて御礼を申し上げます。更にこの記念誌が、北高の宝として後世に受け継がれていきますことを期待してやみません。皆様方の深いご理解とご協力をいただき、充実した記念事業を行うことができました事を、心から感謝申し上げ「黎明二十年」発刊の御挨拶とさせていただきます。

創立二十周年を迎えて

ＰＴＡ会長　大　川　正　芳

成田北高等学校創立二十周年、おめでとうございます。

人間に例えますと、成人式を迎えたこととなり、今後のさらなる充実発展がいっそう期待されます。記念誌『黎明二十年』が、二十年間の成田北高等学校の足跡の一頁として発刊されることは、大変意義深いことであるとお慶び申し上げます。

此の二十年間に、幾多の諸先生方と語らい、学び、巣立っていった多くの卒業生をはじめ一一八六名の在校生が、此の記念すべき年を迎えた母校に、自分達の足跡を何処かで語り合っていることと思います。

さて、二十一世紀を目前に控え、高校生を取り巻く社会環境が急速に変化しています。この社会環境の中で、一人一人がいのちの大切さを知り、他人への思いやり、社会への恩、美しいものや自然の雄大さに感動出来る心が持てる生徒の育成のための、心の充実を図っていく教育が大切ではないでしょうか。成田北高等学校の「北高主義」（校訓）の三本柱である「自律」は、一人一人の生徒を尊重し、個性の伸長と能力の開発を重点にした自主・自立の精神を持つ青年の育成であり、「協調」は、社会連帯の意識を養い、勤労と責任を重んじ、協調性に富む青年の育成であり、「健全」は、心身ともに健全でたくましい実践力のある青年の育成です。校訓はまさに、このことを言っていると言えるのではないでしょうか。

今後は、ますます核家族化、少子化、高齢化社会を迎えようとしています。国際化や高度情報化、ライ

フスタイルや価値観の多様化、さらには生涯学習社会への移行など、社会は大きく変貌を遂げていくことでしょう。こうした中で、二十一世紀を担う次世代の高校生が、自主性と社会性を備え、豊かな教養と広い視野を持った、心豊かで健やかなたくましい人間に成長することがのぞまれます。また、青少年が、社会や地域の一員として、基本的なルールを身につけ、変化の激しいこの時代において、自ら考え、判断し、行動でき、それぞれの意欲、適性にあった進路を見いだせるように支援していくことが重要だと思います。このためには、地域社会、学校、家庭が、お互いに連携することが重要ではないでしょうか。こういう時期に、国際交流委員会が設立されたことは、たいへん意義深いことと思います。

卒業生並びに在校生の皆様にとっては、目前に迫っている二十一世紀はまさに皆様の時代です。それぞれが、それぞれの社会でご活躍されることを心よりお祈りいたします。

最後に、成田北高等学校の益々の発展のため、関係各位の今まで以上の温かい御支援、御協力をお願い申し上げます。

北高生よ、信念をもって

同窓会会長　安部志朗

右腕に死球を受けたリチャード・デービス（当時近鉄）は激高し、バットを放り投げ、マウンドに駆け上がった。そして相手投手の顔面を一発二発と素手で殴り、挙げ句の果てに蹴りまで入れたのだ。もはや野球の試合ではない。両軍ベンチから一斉に選手達が飛び出し、まさに大乱闘である。デービスは即退場を命じられた。一方、投手の方はタオルで傷の部分を拭ったあと、また再びマウンドに立ち勝利投手になった。東尾修である。ベテラン投手の貫禄勝ちである。昭和六十一年六月十三日の西武球場での事件だった。

今では、試合中の乱闘や審判との小ぜりあいなどはあまり珍しくはなくなったが、当時は珍しく各マスコミが争ってその事件を大きく取り上げた。それは「絶対に暴力は許されない。」というデービスを非難するものが大半である。現に、デービスにはその試合後、パ・リーグ会長から出場停止十日、罰金十万円というペナルティーが科せられている。

ところが、数日後、新聞各紙の論調が一変する。それは、東尾の投球方法を疑問視する内容だった。現役時代の東尾は打者の胸元をえぐるシュートボールを持ち味としており、そのせいか打者に与えた死球もかなりのものだった。「暴力はいけない。しかし、デービスの行為も理解できなくはない。」「今回の事件は東尾の投球に起因しているのではないか。」パ・リーグの西武以外の球団の監督や選手らが、マスコミを介してデービスを擁護し、東尾を批判し始めたのである。

十七日、久しぶりに西武球場付近の練習場に入った東尾は、報道陣にもみくちゃにされ、フラッシュの放列を浴びた。そして彼は毅然とした態度でこう叫んだ。

「おれの投球法はかえない！」

これでいいのだ。これこそまさに東尾の信念である。たとえ敵陣から誹謗中傷を受けても、またマスコミから叩かれても、東尾は決して自分の信念を曲げなかった。もしも罵詈雑言の重圧に負けて安易に己の投法を変え、打者に迎合するような選手になってしまったら……。おそらく、大投手として名を残すことはなかったことであろう。また、あのとき以上の彼の信念と闘争心こそが、監督就任後、西武ライオンズを二度のリーグ優勝に導いたのだと私は確信している。

二十周年という節目を目の当たりにした北高生のみなさん、強い信念をもって今後の人生をがんばってください。

創立二十周年を祝して

後援会会長　飯　塚　信　一

昭和五十三年に国際空港が成田に開港し、変遷著しい最中の昭和五十五年、県立成田北高等学校が開校してここに創立二十周年という記念すべき日をむかえ、まことにおめでたく心よりお喜び申し上げます。

創立の頃はまだ成田の玉造地区は造成の最中であり、開発途上の中に本校は発展に期待をこめての始まりであったと存じます。私は昭和六十二年にＰＴＡ会長を務めさせて戴きましたが、その頃と比べても現在本校はすばらしい発展をとげ、施設や設備等は勿論のこと、「知・徳・体」の調和のとれた人間形成の上で有意義な教育がなされ、地元の期待に十分応えて居ります。これも歴代校長先生をはじめ全職員・全生徒が一丸となって、本校を立派に作りあげようとして来た努力と心意気・気概があったからではないでしょうか。本校の後援会は昭和五十六年に谷初代会長をはじめ、ＰＴＡ役員の皆様の呼びかけにより、生徒の部活動を助成する趣旨のもとに、多くの皆様の賛同を得て組織され設立されました。以来生徒諸君の各種活動や同好会の活動等が、県内のみならず県外でも活発に活躍して居られる事は誠にご同慶にたえません。

今、日本は経済的に大きな飛躍をとげ、世界の中でもリーダー的存在になって来て居りますが、この豊かさの中で将来の日本のかじとりをまかせる青少年の教育の問題は大変重要な意義をもって居ります。このようなときに学校と家庭と地域社会がお互いに連携をとり、協力して行動して行くことが肝要であると存じます。我々後援会もこの観点に立って本校の教育環境をよりよいものに出来るように、又生徒諸君の

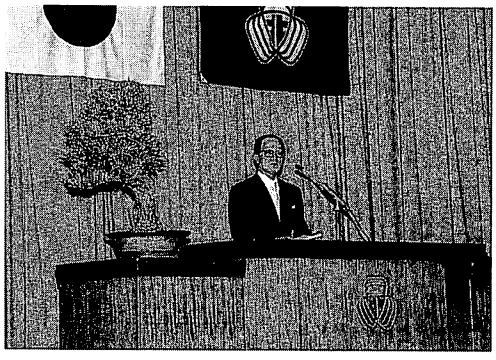
活動の助成等のためにもより一層の努力を重ねて行くべき所存でありますので、皆様のご理解あるご協力とご支援をいただけますようお願い申し上げる次第です。

終りに成田北高等学校が今後三十周年、五十周年にむけて益々飛躍し発展されますようご祈念申し上げまして二十周年に寄せる言葉とさせていただきます。

創立二十周年記念式典

式辞

校長　越川　雄次郎



深まり行く秋の季節を迎え、本日ここに千葉県立成田北高等学校創立二十周年記念式典を、成田市長小川国彦様はじめ、本校に深いゆかりを持つ御来賓の皆様の御列席のもとに挙行出来ますことは、生徒、教職員一同にとりましてこの上ない喜びであります。

本校が記念すべき創立二十周年を迎えるに当たり、関係の皆様の御協力により二十周年記念事業実行委員会が組織され、その事業として本式典の実施、明日成田国際文化会館を会場に公演されます記念芸術観賞会など各記念行事の開催、また来春の刊行を目指して鋭意編集中であります記念誌の発行等が決定されました。小川和夫実行委員長をはじめ委員の皆様に心から御礼申し上げます。

さて、本校は、昭和五十五年四月、県内全域の人口増加、特に成田空港開港や、都市計画による印旛郡市の人口増加による中学校卒業者数の急増に対応すべく、造成途上の成田ニュータウンの一画に誕生いたしました。本校周辺は旧石器時代から縄文文化時代の遺跡が次々発掘されている土地柄で、程近い「房総風土記の丘」にある「岩屋古墳」は日本最大の方墳といわれています。そもそも学校所在地の地名「玉造」は、古墳時代の玉作工房跡が発掘されたことから名付けられているように、本校は豊かな歴史遺産に囲まれているといえましょう。

一方開校年度の昭和五十五年は県立高校一〇校が相次いで開設されるという新設ラッシュの中、本校は必ずしも恵まれた条件下での発足ではありませんでした。「千把が池」と称された沼地を埋め立てたグランド用地と、丘の斜面を削った段丘の中段に一棟教室棟が建てられ、学校周辺に造成された宅地は建つ家もまばら、交通の便もバスが一日数便で、ほとんどススキの原に囲まれた学校という状況でありました。今でこそ校門からなだらかに曲線を描いて、桜並木の下を校舎に向かう心地よいアプローチが形成されていますが、当初は柵も舗装もなく、一雨降ればぬかるみと化し、風が吹けば砂塵が舞う中を生徒たちは通学したのであります。

爾来二〇年、成田市の急速な経済発展を背景に、学校関係者、ＰＴＡや地域の皆様方の温かい御支援を頂き、歴代校長先生をはじめとする教職員の献身的な御尽力のもと、生徒たちは力強く学校生活に取り組み、

学校は地域の皆様の信頼を次第に獲得し、曲折は経てきましたが、順調な発展の歩みをたどってまいりました。今、成田北高に集う若者たちは、学業に、芸術・文化活動にまたスポーツにと活躍の場を広げ、充実した学校生活を送っております。学校としては短い二十年の歴史ではありますが、卒業生は本年三月をもって六二八六名にのぼっており、それぞれが目指す上級学校へ、或いは企業へと進路を定めて本校を巣立ったのち、各界の指導的立場や中軸として、社会において確かな地歩を占めるに至っております。

それらの卒業生たちとともに大きく成長してきた木々の豊かな緑に囲まれた現在の成田北高でありますが、これらの緑の多くは地域の皆様、ＰＴＡ、同窓会、後援会の皆様の御支援によってもたらされたものであり、いまもって誠に感謝の念に堪えません。その一本一本の木には、太古の地層をつるはしで掘って植えた人々の心が宿っており、それぞれに歴史を背負っています。

中でもこの体育館前には一際目立つ大きな木があります。これは、初代校長岩上利男先生が校舎竣工にあたり、本校の校地が何十万年も前に形成された貝化石の地層として有名な成田層であるならば、本校には生きた化石として有名なメタセコイアこそよく似合う、と記念の植樹に選ばれ、その強い生命力のごとく本校の生徒が、そして学校がたくましく成長・発展するよう希望を託されたのであります。植樹の時は二メートル程の苗木だったものが、まさにその後の北高の姿を象徴するかのごとく大きくそびえ立つまでに成長しております。

本校は、廊下・教室・体育館等、生徒たちが代々大切に使ってきた様子が十分にしのばれ、生徒たちと教職員とが一体となって活動してきたことが実感されるのでありますが、だれがそうしたというのではなく、これは代々の生徒が、代々そのように大切に使ってきたということなのです。それらの一人一人の活動が友人同士伝わり次の生徒に引き継がれ、無言のうちに生徒に浸透するものとなり、年月を重ねて磨り減ってはいますが開校当時の姿をここまでとどめているのです。これは本校の一つの歴史であり、校風であります。

生徒諸君に感じてほしいのは、現在の成田北高等学校そのものが、今ここにいる在校生が作り出したものであるとともに、本校を卒業していったたくさんの生徒たちの活動の積み重ねの上にあるということです。学校の歴史や校風といわれるものは、あたかも伏流水のように校内を脈々と流れ生徒を潤し変えていく。在校生の皆さんの活動もまた、やがては伏流水となって将来の北高の校風に加わっていくのであります。このような無言のつながりこそ強く自覚し大切にしてほしいのです。

今、成田北高では、生徒と教職員とがこの学校で出会ったことを喜びとして、将来の北高の校風の要素となるであろう充実した学校生活への取り組みが進行しています。今を精一杯に生き、活動している生徒は、成田北高校の二十周年の式典に参加し、式典の年に在学したことを、将来のある時、温かく思い出すはずです。

本日の記念式典が、在校生一人一人現在の自分を見つめ直し、自分の出発点を確認する契機となり、さらには学校生活への新しい意欲と、未来への期待を呼び起こすものとなってほしいと願っております。

終わりになりましたが、本日御多用のところ、二十周年記念式典に御列席くださいました皆様の御厚情に心より御礼申し上げますとともに、今後本校になお一層の御支援と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして式辞といたします。

平成十二年十一月一日

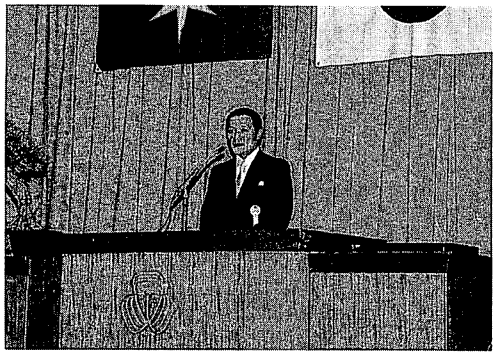
御挨拶

創立二十周年記念事業実行委員会委員長

小川和夫

秋も深まりつつある佳き日に、このように多くの方々のご臨席を賜り、成田北高等学校創立二十周年の記念式典を挙行できますことは、私ども実行委員一同最大の喜びとするところでございます。

私が、実行委員長を仰せつかり、五周年記念誌と十周年記念誌をお預かりしてひもといてみますと、まだまだ開発途中でありました成田ニュータウンの北端に、南棟一棟だけの校舎で、四学級一八八名の一期生でスタートしたことがわかります。開校当時における関係者各位のご苦労が、文章や写真を通してひしひしと伝わってまいります。



私も縁があって昭和五十五年に成田のこのあたりを知ることとなりましたが、その頃の成田ニュータウンは、現在の玉造六丁目付近の造成工事が最盛期でありまして、本校もグランドと校舎の間の石垣や校舎の増築工事が急がれていたことが鮮明に思い出されます。

成田ニュータウンは平成元年にほぼ完成を見ましたが、それからさらに十年の歳月が流れて本校が二十周年を迎えることになりました。その間、ＰＴＡの発足、校旗や校歌の制定、教育環境の整備、美化等々、歴代の校長先生をはじめ諸先生方やＰＴＡ・同窓会・後援会の役員各位、保護者・生徒の皆様、そして地域の方々の惜しみない努力と情熱によって現在の成田北高校のあることを思わずにはいられません。

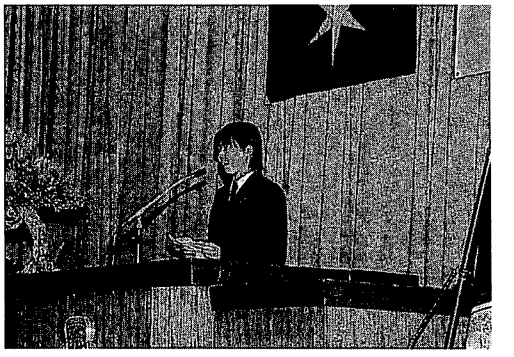
二十周年を迎えた成田北高校の現在を見ますと、本校の教育理念である「知育・徳育・体育の調和」と校訓である「自律・協調・健全」の教えが花を咲かせ、「校風」として実を結んだ感を覚えます。この良き校風を生徒諸君の先輩たちが引き継いでまいりましたが、さらにその校風を充実させ、発展させていくのは、いまここにいる生徒諸君でございます。まもなく二十世紀が終わり、新しい世紀が始まります。二十一世紀に向かって、この成田北高校がますます発展されますようぜひとも頑張っていただきたいと思います。

最後になりましたが、本日の記念式典並びに本校の二十周年記念事業に対し、皆様がそれぞれのお立場で深いご理解とご協力をいただきましたことに、改めて心からの御礼と感謝を申し上げ、本日のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

ごあいさつ

生徒代表（生徒会副会長）　増井久美子

私たち在校生にとりまして、本校にとって大きな節目となる創立二十周年記念を迎えられましたことは、大変幸せなことと身の引き締まる思



いを覚えております。同時に、私たち在校生こそが、本校の二十年間の歴史を振り返り、そこからしっかりと学びとり、これからの母校成田北高校のあり方について考えていかなければならない立場にあることを自らに言い聞かせております。

その第一歩として、私は、私たち生徒一人一人が成田北高生であることに誇りを持って、「自律」・「協調」・「健全」の校訓をよく理解し、それに沿った行動をしていくところから始めていかなければならないと思っております。

また、本校での高校生活を楽しく、伸び伸びと学び、さまざまな活動に専念できるのも、創立当時から今日にいたるまでの諸先生方や先輩の皆様の良きご指導やご努力のおかげと心から感謝しております。私たち在校生は、本校のすばらしい校風や伝統を、後輩の皆さんにきちんと伝え、成田北高校の一層の発展を目指して努力していかなければならないと思っております。

本日は本当にありがとうございました。

御祝辞

成田市長　小川国彦様

千葉県立成田北高等学校の創立二十周年記念式典にあたりまして、地元の成田市長といたしまして心からお祝いのご挨拶を申し上げさせていただきます。

今日の二十周年という記念すべき日を迎えられましたことは、越川校長先生をはじめとする歴代の校長先生や教職員の方々、並びに保護者の皆様、そして多くの卒業生の皆様の御協力、そうした多くの皆様のお力によって、この二十周年というすばらしい節目の年を迎えられたのだと思います。

先日、成田市では、これからの教育をどうしたらよいかということで、千葉大学の教授お二人をお招きして「教育フォーラム」という催しを行いました。その中で、教授のお一人が、将来の教育にとって大事なことは、「家自慢」・「学校自慢」・「町自慢」の三つの「自慢」が大切だと話されました。自分の「家」というものを自慢することが出来るような立派な「家」を創っていくということ。それから自分の母校を自慢出来る

ような立派な「学校」を創っていくということ。そして自分の住む町を誇りうる「町」にしていくということ。この三つの自慢が出来ることが大事だとおっしゃいました。それらを堅い言葉で言い表せば、「家風」・「校風」・「町風」だと、こういう風におっしゃられたわけでございます。

私は先週、成田市と姉妹都市の提携を結んで十周年を迎えましたサンブルーノ市での式典に招かれて行ってまいりました。サンブルーノ市はサンフランシスコ空港のある都市でございます。式典が無事に終わりましたら、市長であられるフレンツァーさんから「夕方、私の家に遊びに来ませんか。」とご招待をいただきました。お言葉に甘えてお訪ねいたしますと、「私の自宅ツアーをいたしませんか。」とおっしゃいました。「自宅ツアー」とは一体なんなのかと思っておりましたら、「私の家の中をぐるーっとご案内します。」というのです。ご案内をしていただいたお住まいは七部屋ほどのお住まいでしたけれど、その最後のお部屋に、ご自分がお生まれになられた幼い頃のお写真から、小学校・中学校・高校、そして大学を卒業されるまでのお写真がずーっと飾られてありました。それからご自分のご兄弟のお写真、ご両親のお写真、お祖父様・お祖母様のお写真、従兄弟様のお写真、そしてご結婚式のお写真など、一つ一つのブロマイドでお部屋が一杯になるほど飾ってありました。「このお部屋で何かお仕事をされるのですか。」とお尋ねいたしますと「いや、この部屋に来て家族のことをいろいろ思い出し力づけられるのです。」とのお言葉でした。

私は、もう一つ思い出したのですが、三年前に、やはりサンブルーノ市を訪問した時に、当時の市長マーシャルさんからご自宅へのご招待をいただきました。その時も市長さんは今回と同じようにご家族のお写真を飾ってあるお部屋にご案内くださいました。個人主義を尊重するアメリカで、家族に対するこれほどの温かく深い思いやりが、一人一人の方にあるんだということを痛感させられました。まさに、これこそが一つの「家風」のあり方だと思ったわけであります。

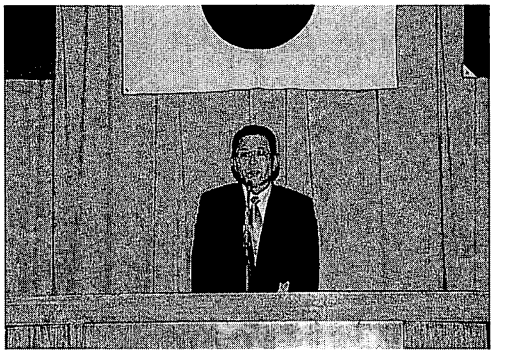
皆さんの母校にも、この学校のさまざまな学術・文化・スポーツを通しての誇りうる記録がたくさん飾られています。これは立派な「校風」であります。

どうか皆さん、このような「家風」・「校風」とともに、私たちは誇りうる国際都市成田としての「都市風」をしっかりと創っていきたいと思います。どうかこれからも、みなさんの「家」と同じように誇りうる成田北高校をしっかりと創っていただきたいと思います。そうした「校風」の今後の大きな飛躍を期待いたしまして、地元市長としてのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

本日は大変おめでとうございました。

御祝辞

成田市立成田中学校長　髙　槁　龍　之　様



ただいまご紹介をいただきました成田中学校の髙槁と申します。

成田北高校の生徒みなさんの約三分の一が成田市内の中学校の卒業生であるというようなことから、近隣の中学校を代表させていただきまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、千葉県立成田北高等学校が創立二十周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

誕生してからちょうど二十年。人に例えればまさに二十歳になるということで、すばらしい年齢を迎えたことになります。みなさんの学校が生まれた当時の様子や今日に至るまでの経過については、先程の校長先生の式辞の中でお話がありました。私自身も本校開設当初から成田市内の中学校に勤務しておりましたので、昭和五十五年に産声を上げた当時の様子、年々充実する施設・設備の様子、その中でたくましく成長する本校生徒の皆さんをつぶさに知ることが出来ました。

開校初年度は生徒数一八八名、四学級でございました。今でも記憶に残っているのは、昭和五十五年の創設時に、本校に入学いたしました私の教え子たちが、時折母校を訪れまして、新しい成田北高に胸を躍らせながら、「おれたちの学校だ！」「おれたちが新しい校風を創るんだ！」「毎日が楽しくて仕方がない！」と意気盛んに語っていたことを思い出します。おそらく生徒諸君だけでなく、先生方や保護者の皆様もすばらしい学校を創ろうということで燃え上がっていたことと思います。もう二十年の歳月が経過いたしますが、創設時のそうした思いが現在の成田北高等学校の校風になっていると思っております。

在校生の皆さんは、成田北高等学校が生まれ育った二十年の歴史には、多くの先輩たちの努力や思い、さまざまな人びとの関わり合いがあったことはおわかりだと思います。

先日、越川校長先生とお会いする機会がありましたが、現在の成田北高生皆さんへの思いを次のように語っておられました。「本校の生徒は、能力のある生徒がたくさんいる。努力すればさらに伸びる可能性を持っている。先生方も実力のある先生方ばかりである。生徒と先生方で力を合わせて一人一人の良さをさらに伸ばしていきたい。」―このように熱く語っておられました。在校生の皆さんには、皆さんを支えてくださるたくさんの人の願いを正しく受けとめていただき、さらに大きく成長するための努力を積み重ねていっていただきたいと思います。また、多くの先輩たちが残していってくれた校風・伝統にさらに良いものを積み上げ、後輩の方たちに引き継いでいって欲しいと思います。

成田北高等学校のますますのご発展をお祈りし、整いませんがお祝いの言葉に代えさせていただきます。本日はおめでとうございました。

創立二十周年記念式典について

本校創立二十周年記念式典は、平成十二年十一月一日（水）午後一時三〇分より、本校体育館において厳粛に挙行された。

式典には、ご多忙中にもかかわらず、成田市長小川国彦様をはじめ多数の皆様の御臨席を賜り、本校創立二十周年を心からお祝いするお言葉とお気持ちが寄せられた。

式典次第は、松井立夫教頭の「創立二十周年記念事業について」に紹介されている通りであるが、越川校長の式辞、小川和夫実行委員長の挨拶、生徒代表の増井久美子さんの挨拶に続いて、成田市長小川国彦様並びに成田中学校長髙槁龍之様より大変心温まる、有意義なご祝辞を頂戴した。市長小川国彦様をはじめ中学校や教育関係者の皆様、地域の皆様が、いかに本校を温かく見守り、御支援とご期待をお寄せくださってきたかが強く感じられるご祝辞であった。生徒諸君が、本校を陰に陽に支えてくださっている皆様のお気持ちに応えて、母校の二十年の足跡、母校の歴史と伝統をしっかりと受けとめ、二十周年の「節目」を将来への更なる飛躍の契機にしてほしいと願わずにはいられない。

引き続いて、本校の創設と発展に多大なるご尽力をいただいた初代校長岩上利男様、第二代校長石井功様、第三代校長羽生正允様、第四代校長杉山進様、第五代校長井上洋一様、第六代校長花井保様、第七代校長村田一男様に創立二十周年記念事業実行委員長並びに校長連名の感謝状をさしあげた。

御臨席を賜ったご来賓の皆様は、以下の通りである。成田市長小川国彦様、ＪＲ成田駅長高橋健二様、成田国際高校長島崎正夫様、成田西陵高校長細野茂様、富里高校長飯森武男様、八街高校長下地正信様、佐倉東高校長山岸正和様、佐倉西高校長丸島輝夫様、四街道高校長鈴木鐵洋様、四街道北高校長山崎忠義様、印旛高校長関沢誘様、白井高校長石橋洋夫様、成田高校長藤田信義様、東京学館高校長鎌形勝敏様、愛国学園大学付属四街道高校長三浦亮一様、成田中学校長髙槁龍之様、遠山中学校長今井慶司様、久住中学校長髙木繁様、豊住中学校長鈴木一男様、吾妻中学校長石橋勤様、玉造中学校長遠藤俊治様、中台中学校長小川新太郎様、富里中学校長橘内忠成様、富里北中学校長牛玖俊一様、下総中学校長髙橋進様、学校薬剤師宍倉清様、前述いたしました本校歴代校長様、本校ＰＴＡ顧問篠崎美津男様、同大場正治様、後援会役員古林玄一様、旧職員菅谷泰夫様、同香取秀紀様、同中田成气様、同多田要三様、同國本正美様、同瓜生利恵子様、二十周年記念事業実行委員会委員飯塚信一様、同安倍志朗様、同和田えみ子様、同越川光司様、同伊藤信一様、同関口正一様、同鬼澤和夫様、同赤間賢二様、同植田真知子様、同櫻井笑子様、同野口國昭様、同小幡敏雄様、同岩本美津子様、同谷重吉様、同相川光規様、同小川和夫様、同志鎌留美子様、同手島和史の皆様である。

また、平日の午後ということでご出席できなかった皆様から、ご丁重なるご祝電を頂戴した。ご祝電を頂戴した方々は、財団法人諸岡報恩会会長諸岡謙一様、佐原女子高校長富田金秋様、小見川高校長伊藤龍芳様、九十九里中学校長夏目允様、匝瑳高校教頭鈴木文夫様、佐原女子高校事務長小林澄江様、本校ＰＴＡ会長大川正芳様である。

なお、同日午後五時三〇分より日航ホテルで創立二十周年記念祝賀会が催され、多数の皆様のご臨席を仰いだが、席上、本校の発展に永年にわたりご尽力いただいたＰＴＡ顧問の谷重吉様、山内克己様（物故）、小野田和弘様、丸山茂孝様、村木宣夫様、飯塚信一様、石原正一様、鬼澤和夫様、谷照雄様、岩澤貞男様、髙仲昭雄様、大久保靖夫様、木内信次様、片野寿夫様、篠崎美津男様、大場正治様、相川光規様に越川校長より感謝状を贈呈した。また、創立二十周年記念事業実行委員会委員長としてご苦労いただいた小川和夫様にも感謝状を贈呈した。

創立二十周年記念事業について

教頭　松井立夫

平成十年度のＰＴＡ総会（平成十年六月五日）において、創立二十周年記念事業実施準備委員会の設置が承認されました。並びに同窓会総会及び後援会総会においても承認を得て、準備委員会の活動が開始されました。

同委員会は十五名の委員で構成され、第一回目の会議が平成十年八月二十一日に開かれ、相川光規ＰＴＡ会長が委員長に就任しました。

準備委員会の委員構成

委員長　相川光規（ＰＴＡ会長）

副委員長　村田一男（校長）飯塚信一（後援会会長）小川和夫（ＰＴＡ副会長）安部志朗（同窓会会長）

委員　矢部進（平成十年度ＰＴＡ副会長）・片寄照文（同）・新倉光政（同）・櫻井笑子（同）・鬼澤博資（後援会監事）赤間賢二（同窓会副会長）

学校職員　（中田教頭・水野事務長・小早志・秋葉）

平成十年度に計三回の会議がもたれ、創立二十周年記念事業実行委員会を発足させ、新に二六名の委員で推進することが決まりました。

㈠　創立二十周年記念事業実行委員会

顧問　相川光規（準備委員長）

委員長　小川和夫（平成十一年度ＰＴＡ会長）

副委員長　片寄照文（平成十一年度ＰＴＡ副会長）・飯塚信一（後援会会長）・安部志朗（同窓会会長）・村田一男（校長）

監事　矢部進（平成十年度ＰＴＡ副会長）新倉光政（同）・櫻井笑子（同）

委員　野口國昭（平成十一年度ＰＴＡ副会長）・小幡敏雄（同）・岩本美津子（同）・大川正芳（同）鬼澤和夫（後援会監事）赤間賢二（同窓会副会長）教頭・事務長・総務部長・記念誌編集委員会委員長・図書部長・教務主任・生徒指導主事・進路指導主事・学年主任・総務部員（書記）

㈡　活動内容

①　記念誌を平成十二年度末に発行。

②　第一回の実行委員会を平成十一年五月中旬に設定。

以上のことを確認、決定し準備委員会を解散。

（平成十一年三月五日発行　ＰＴＡ広報誌第五六号に掲載）

平成十一年五月十五日（土）に第一回目、同六月七日（月）に第二回目の実行委員会が開かれ、次の記念事業並びに創立二十周年記念学校行事について承認を得ました。

（平成十一年七月十九日発行　ＰＴＡ広報誌第五七号に掲載）

一　記念事業

(1)　創立二十周年記念事業実行委員会会則の制定

(2)　実行委員会委員の委嘱

(3)　予算の概要

(4) 国際交流の姉妹校「ワガワガ高等学校」表敬訪問
(5) 記念式典・記念祝賀会
(6) 記念誌「黎明二十年」の発行（二五〇〇部）

二　創立二十周年記念学校行事

以下の行事は、創立二十周年記念に位置づけ、学校行事として実施する。

(1) 第一学年遠足　（平成十二年四月二十八日）
(2) 文化祭　（平成十二年九月十四日～九月十五日）
(3) スポーツ大会　（平成十二年九月二十日～九月二十一日）
(4) 記念式典　（平成十二年十一月一日）
(5) 芸術鑑賞会　（平成十二年十一月二日）

○表敬訪問

本校では、平成八年度からオーストラリア、ワガワガ市のワガワガ高校と独自に姉妹校交流を行なっています。今回、記念事業の一つとして、平成十二年七月十九日（水）から七月二十五日（火）にかけて、平成九年度大場正治ＰＴＡ会長・平成十年度相川光規ＰＴＡ会長・越川雄次郎校長の三名で、今後の継続・発展を図るために現地の教育機関並びに同高校を公式訪問しました。

○記念式典

招待状リスト

印旛地区高等学校長　公立及び私立校
中学校長　市内中学校・平成十二年度本校に在席している生徒の出身中学校
小学校　神宮寺小学校
官公署
学校医・薬剤師
ＰＴＡ（平成十一・十二年度役員及び理事）・後援会（役員）・同窓会（役員）
旧職員（歴代校長・平成三年度から平成十一年度まで在籍した職員）

記念式典は、十一月一日（水）の六限目、本校体育館において、来賓、保護者、生徒、職員の出席の下、来賓の小川国彦成田市長、高橋龍之成田市立成田中学校長から御祝辞をいただき、厳粛に行われました。

創立二十周年記念式典次第

開式の辞・国歌斉唱・校長式辞並びに実行委員会委員長挨拶・生徒代表挨拶・祝辞・感謝状贈呈・受章者代表挨拶・来賓紹介並びに祝電披露・校歌斉唱・閉式の辞

○祝賀会

同日午後五時三〇分から、成田日航ホテルで祝賀会が開かれ、一一〇名の方々が出席されました。下座囃子と手古舞のアトラクションが入り、会場が盛り上がる中、出席者同志での思い出話が弾み予定の時間が瞬く間に過ぎました。

○芸術鑑賞会

芸術鑑賞会は、十一月二日（木）、成田国際文化会館において、劇団ふるさときゃらばんによる「噂のファミリー一億円の花婿」を午前、午後の二部制で公演し、市民にも公開しました。

家族や地域の結束の大切さを教えられる内容で、感動した観客も多く、大変好評を博しました。

ワガワガ高校を表敬訪問
二十周年記念事業―オーストラリアの姉妹校へ

校長　越　川　雄次郎

成田北高等学校創立二十周年記念事業の一環として、海外姉妹校の提携を結んでいるオーストラリアＮＳＷ州ワガワガ市立高等学校を表敬訪問する事業は、平成十一年度から実施計画が進められていましたが、その準備が整い、平成九年度大場正治ＰＴＡ会長、平成十年度相川光規ＰＴＡ会長の両氏、学校からは花香教諭と校長越川の計四名が、平成十二年七月十九日より四泊六日の日程でワガワガ市を訪問いたしました。

これに対し、ワガワガ高校側は大歓迎で、私共はビル・ロジャーズ校長、ロイ・サンダースＰＴＡ会長、日本語教師クリスティーナ・ハリウエル先生ほかの方々より、到着から帰路同空港を出発するまで、心のこもったおもてなしを受けました。

ワガワガ・ハイスクール校長
ビル・ロジャーズ氏とともに

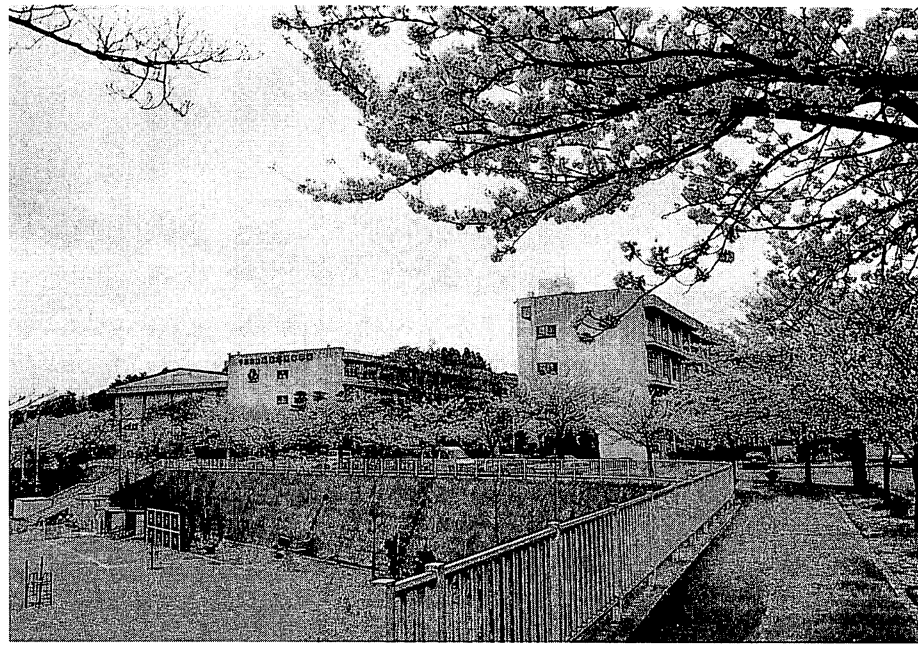
ワガワガ市は、シドニー市から西方へ五〇〇㎞ほど内陸に入った、人口約七万人の農業と商業の町です。ワガワガとは英語圏らしくない名ですが、先住民族アボリジニの言葉で鳥が盛んに鳴く声を模した意味だということです。人種的には欧米諸国人とアジア諸国人が入り交じり、経済治安の面では非常に安定している印象を受けました。高校生が語学研修のため落ち着いて長期滞在するには誠に好適な環境と考えられます。

私共の行った公式行事としてはワガワガ高校訪問、ワガワガ市長及び教育関係機関訪問、姉妹校提携関係者とのレセプション、ホストファミリー宅訪問等で、どなたからも大歓迎を受け、一同大いに感激いたしました。ワガワガ高校では全校での歓迎式が催され、学校内を見学させて戴き、開講している日本語の授業も参観してまいりました。

オーストラリアは日本と季節が逆で七月は真冬ですが、水仙や椿がたくさん咲いている市立植物公園内のレセプションセンターに、ワガワガ市の関係者を多数お招きして感謝の宴を開催し、いろいろな方と交流することが出来ました。また、伺ったホームステイ宅は、オウムや鶏、羊も飼っている郊外の広々としたお宅で、本校留学生のために羊の丸焼きバーベキューを準備されていました。ティーパーティーでは日本留学生の写真額を見せて戴くなど親日家ぶりが伺えるもので、このような方に姉妹校交流は支えられていることが分かりました。

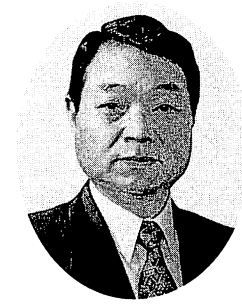
これらの行事や関係機関訪問など次々と日程をこなすには厳しいものもありましたが、大変充実した表敬訪問であったというのが一行の実感です。今回の表敬訪問の目的であるワガワガ市当局及びワガワガ高校関係の皆様に対するお礼と、留学生のホームステイ引き受け家庭の方々に感謝の気持ちを伝えるという主旨は十分達成され、両校の姉妹校交流は一段と深く確かなものになったと思います。ワガワガ高校と本校との姉妹校交流は他では得がたいものであり、なお一年一年積み上げていく努力を継続し、各方面の皆様の御支援・御協力により一層の充実・発展を図ってまいりたいと思います。

創立二十周年記念に寄せてI



青年期の北高

第七代校長　村田一男



千葉県立成田北高等学校が創立二十周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

今日まで、成田北高校発展のため多大なご尽力をくださった歴代の教職員の方々、卒業生のみなさん、ＰＴＡならびに後援会のみなさんに深く敬意を表します。

私は平成十年四月に転任してきたとき、北高を遠くからながめて大変驚きました。きれいに整備された成田ニュータウンの一角に新設校であった成田北高が毅然とそびえるように立っていました。早くも創立十九年目でありました。校門から桜並木が続き、刈り込まれた植え込み、そして大樹が高々とそびえているのが印象的でした。校舎内外とも整備され、学校の諸制度及び教育活動の基盤は整い、大規模校の様相を呈しておりました。成田ニュータウンの北端に位置し、新しい街づくりとともに地域の期待を担って成長して、やがて二十周年を迎える青年期の学校として内容充実とさらなる飛躍をめざす若々しい高校という姿でした。

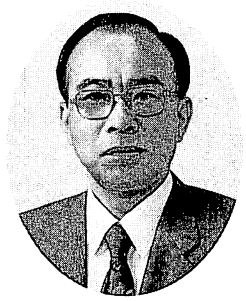
ところで、成田空港建設計画との関連で、成田ニュータウンの造成プランが出されました。当時、ＪＲ成田駅の西側は駅の出口もなく、谷津田と山林とそこに拓かれた畑しかありませんでした。開発に先だって埋蔵文化財の所在調査が行われました。私は教員のかたわらその調査員として委嘱されこの地域を歩き回ったのでした。私の記憶にはそのときの風景しかなく、ニュータウンと北高がこんなに発展していたことに驚嘆したのでした。同時にかつて調査に係わったところであり、しかも我が青年時代の多古高校在職時代の生徒や関係者にかこまれた好環境の中で、私の教職終焉の任地という幸運に恵まれたのでした。

在職二年間でしたが、明るくのびのびと元気な生徒諸君と熱心に生徒を指導してくださった先生方に恵まれ、夢を育む教育事業でのドナルド・キーン先生の講演会も好評をはくし、創立二十周年記念事業の準備を進めることができました。改めて教育活動を支えてくださったＰＴＡ、後援会、同窓会のみなさんに感謝申し上げます。

おわりに、成田北高校の特色であるワガワガ高校との国際交流活動がさらに発展し、地域に愛される魅力ある普通高校として益々のご発展をお祈り申し上げます。

明るく　楽しく　元気よく

第三代校長　羽　生　正　允



成田北高等学校が誕生して早二〇年、人にたとえるなら成人式を迎えたことになります。おめでとうございます。

「ローマは一日にして成らず」と言いますが、教職員、生徒、保護者のお力で北高がここまでに成長し、地域社会からも高い評価を得るに至ったことはご同慶に堪えません。とりわけ私にとっては、校長としての最初の赴任校でもあり、愛着ひとしおのものがあります。わずか四年間の短い勤務でしたが、教職三十七年の中でも格別充実した毎日を送ることが出来、今でも感謝の気持で一杯です。十周年のお祝いをしたこと、スキー修学旅行を実施したこと、年毎の学級増で職員人事に奔走したこと、美術部の全日本学生美術展での活躍、ＰＴＡの皆様との研修旅行、又職員の中から十一組の新婚家庭が生まれたことなど、思い出は尽きません。

ところで、私は毎年はじめ、その年のモットーを考えていますが、今年は北高二十周年にあやかってその校訓である「自律」「協調」「健全」をアレンジし、「明るく、楽しく、元気よく」を実践してまいるつもりです。「明るく」すごすには自らの努力、気持のもち方が大切です。「楽しく」は友との交わりから生まれます。協調の心をもって友人を大事にすることです。「元気よく」生きるには心身の健康が一番です。せんえつながら、関係各位がこの精神のもとで成田北高のますますの発展に寄与されんことを心から願いお祝いのことばといたします。

祝　辞

第四代校長　杉　山　　進

学校創立二十周年を迎え、記念誌を刊行されますことに、心からお祝いの言葉を申し上げます。

成田北高校が、一九八〇年にニュータウン北端の地に産声をあげて早くも二十年が経ちました。創立当初より輝かしい実績を挙げ、その名を北総の地に定着させた先輩の諸先生をはじめ関係者の皆様、そして同窓生各位に心から敬意を表するものであります。

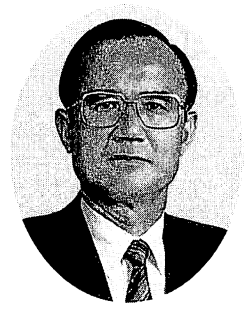
ゼロからのスタート乍ら、伝統校に劣らぬ充実した指導を行い、多数の若者を立派に育てて社会に送り出された、発足当初の十年間の御苦労は並み大抵のものではなかったことと推察致します。更に、それに続く十年間は、これ迄の実績を基盤にして激烈な競争の中を頑張り、現在の地位にまで飛躍させた先生方、そしてその期待に応えた生徒達、県市民の厚い信頼を勝ち得た現在の成田北高校は、このような努力の継続によるものと喜びに堪えません。

我国は長らく豊かで平和な日々が続きました。又、子供達には少子化で豊かな愛情が注がれています。しかし乍ら、心は豊かにならず、様々

な問題が多発しています。家庭や社会の教育は勿論ですが、学校教育の一層の充実が叫ばれております。特に学校では生徒減、激増する不登校生、斬新な方向への学科改編など、問題が山積しています。成田北高校もこの二十周年を契機として、更なる発展と限りない繁栄を目指して邁進されますよう祈念してお祝いの言葉と致します。

『黎明二十年』発刊に寄せて

第五代校長　井上洋一



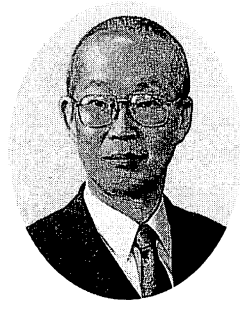
ものを見たときの印象は、人それぞれ異なるのでしょうが、この成田北高校がこれからの勤務校になるのだ、と思いながら玄関に足を運んで行く時、内心うれしかったのを憶えています。緑豊かに、明るく整えられた周囲の景観から、創立以来成田北高校の発展に携わってこられた方々、地域の方々の学校への期待が大きいことを感じたからでした。この皆さんから寄せられる期待を胸に、私は、生徒の皆さんが一人一人持つ、かけがえのない特性を一層伸ばし、若さと柔軟性の中に秘められている大きな可能性を追求して欲しいと願い、日々勤務しておりました。

また、これから国際化社会に生き、その社会から貢献を期待されることになる生徒の皆さんが、異なる民族、文化、風土などに接して、その基礎的な理解を得て欲しいとの思いから海外との交流を考えました。幸い、知人で教育省語学担当官であったジョン・ニコルさんのお骨折りで、オーストラリアのワガワガ高校と話合いが始まりました。ワガワガ高校は、東海岸からさらに内陸部に入った都市の高校でしたが、海外交流に大変関心があることを電話や文書で確認し、交流の長期継続が第一条件であろうと考え、相手校に選びました。この交流が関係の皆様方のご尽力で一層充実し、生徒の皆さんのためになることを願っております。

最後になりましたが、成田北高校の益々のご発展を祈念いたします。

若人の皆さんへ
―創立二十周年に寄せて―

第六代校長　花井　保



成田北高校創立二十周年、おめでとうございます。卒業された方々、また、これから卒業される方々。是非、素晴らしい未来を構築されるよう、頑張ってください。

北高在任中、私は生徒の皆さんに、何回か「人生は自分探しの旅である。」と言っていました。また、ある経済学者は「人生はその人が社会に第一歩を踏み出してから始まる。」とも言っています。自ら、どんな道を選び、どのように歩いていくかによって、人の人生は決まっていくのでしょう。

ところで、学校の主人公は生徒たちです。学校の大きな使命は、一人一人の生徒を尊重し、自主的精神に充ちた青年を社会に送り出すことだろうと思います。そのために、成田北高の先生方は、生徒の目線を大事

にしながら、生徒一人一人の主体性の確立を目指して努力を重ねておられます。

卒業生の皆さん、在校生の皆さん。明るい未来を開いてください。しかし、ある新聞は「来世紀に向け日本の現実は必ずしも明るいとはいえない。」とも述べています。そうであるならばこそ、私たちは「自主自立」の精神を土台として「協力共同」を進めていかなければならないと考えられます。若い皆さんの御活躍を楽しみにしております。

＊　＊　＊

（追伸）成田北高は、私にとって生涯の宝となっております。こんなに素敵な生徒たちに会えて幸せです。北高のますますの御発展を、心からお祈りいたします。

ここに、拙い俳句ですが、当時私が生徒たちに贈った句の中から、三つほど並べさせていただきます。

寒風に若人たちの汗光る
春嵐（しゅんらん）や若者の眉凛（りん）として
花の香を纏（まと）ひて乙女卒業す

創立二十周年記念に寄せて

第二代教頭　菅　谷　泰　夫

千葉県立成田北高等学校の創立二十周年を心から寿ぎ申し上げます。

私が北高に赴任したのは、創立五年目の昭和五十九年四月のことである。校訓の「自律」「協調」「健全」の具現化を目標に職員・生徒・ＰＴＡ会員の方々の意気込みがあふれていた。初代校長岩上利男先生・同教頭石井寛先生のご栄進の後を受けて、石井功校長先生と共々の着任であった。植えられてほどない桜の花が満開であった。

教頭として石井功・羽生正允両校長先生にお仕え申し上げた。それぞれ三年間・二年間とご指導賜った。両先生の職員・生徒に対する愛情あふるるご指導と高邁な識見に基づく学校経営は頭が下がるばかりであった。

先生方にはいろいろ助けていただいた。教務主任の富田金秋・越川雄次郎・赤井正男の各先生、生徒指導主事の小松栄三郎先生には特にご協力いただいた。また、五周年記念誌の越川先生、十周年記念誌の手島和史先生を中心とした編集委員の先生方には今も感謝している。

冬のマラソン大会に参加した四十代の私、雨天のとき以外は成田駅からニュータウンの緑道を通って学校まで歩いた日々、土曜日の午後を利用して学校から佐原の寓居まで幾度か歩いたことなど次から次へと思い

出される。ささやかな私の半生の中でもすばらしい五年間であった。
終わりに、成田北高校のさらなるご発展を利根川べりの草庵からお祈り申し上げる。

二十一世紀への更なる発展と飛躍を願って

第三代教頭　香取秀紀

創立二十周年誠におめでとうございます。

思えば、私が本校に教頭として赴任したのが平成元年です。翌年には開校十年ということで十周年記念行事にたずさわりました。今思い起こすと当時のことが走馬燈のように駆けめぐります。平成二年六月十七日成田国際文化会館で行われた吹奏楽部の演奏会からスタート。次いで記念黎明祭、体育祭、そして十周年記念事業の一環として歴代ＰＴＡのご厚志により制作中だった少女のブロンズ像「海へ」が完成。まさに「はちきれんばかりの若さを表現」と広報誌に書かれているように北高の将来を明示しているようでした。

同年十一月には前進座の「さんしょう太夫」の鑑賞会が成田国際文化会館で行われ、生徒と共に保護者も鑑賞。引き続いて行われた祝賀会は同小ホールで歴代校長、ＰＴＡ、新旧教職員だけというささやかではあったが家庭的でとても心のこもった温かい祝賀会であったことが記憶に残っています。一方で、関西方面の修学旅行がスキー教室に変わった年でした。この年は雪が多くホワイトスクールの帰路で猛吹雪のためバスが立ち往生。帰校が大幅に遅れ、留守部隊の責任者として、生徒の保護者宅に一軒一軒先生方と共に連絡、何の事故もなく生徒達を帰宅させ、気がついたときは真夜中の十二時をまわっていました。こうした経験も今はなつかしい思い出となっています。とにかく、教職員、ＰＴＡが一丸となって新設まもない北高の進むべき道に取り組み活気にあふれていました。

二十年という節目を迎え、二十一世紀という新しい時代に向って、成田北高校の更なる発展を願いつつお祝いの言葉とさせていただきます。

二十周年をお祝いして

第五代教頭　中田成气

創立二十周年、誠におめでとう御座います。記念誌「黎明二十年」に寄稿させて頂けることはこの上ない光栄と存じ上げます。

私は、平成七年一月一日から平成十一年三月三十一日迄の四年三ヶ月間、新米教頭として北高でお世話になりました。今振り返ってみますと、この間は私の教職経験の中で、最も思い出深い、ドラマティックな出来事が沢山ありました。生徒を対象にした仕事から、先生方をまとめて、学校運営を補佐する立場にたったわけですから、いかに呑気な私でも些か緊張致しました。しかも三学期からの赴任でした

ので何が何だかよく解らないまま、夢中で仕事（校務分掌案編成やスキー修学旅行引率・入学学力検査・卒業式・終業式等々）をしたことが懐かしく思い出されます。このような私を、当時の井上洋一校長先生を始め、小林澄子事務長や多くの先生方、事務室の職員、用務員さん等が大変温かく、優しく親切に導いて下さったので何とか務められてきました。とりわけ、用務員の三沢さんには朝、出勤した時から、色々とお世話をしていただいたのが非常に有り難く、良き思い出となりました。

北総地域の公立高校普通科の進学校として、創立以来の諸先生方が懸命に努力して築いてこられた良き伝統・校風をさらに充実・発展させるために、当時の校長先生のお考えで、オーストラリアの高校と交換留学の実施や推薦入学制度の導入などを推進致しました。しかしながら、先生方全員の賛成を得るのが大変困難で、何度も何度も会議を重ねて漸く実現できたのも、今となっては懐かしい思い出です。当時の先生方は、真面目で熱心な人が多く、三十学級の大規模校のため七十七名の教職員の考えを纏めて、方向性を見つけだしていくのが大変でした。何とか合意点を探して、北高のため、生徒のために良い結論を出そうとしましたが、結論百出、甲論乙駁の様相を呈したことが多く、職員会議の時間が延長されたことが何回もありました。お陰様で議事運営の方法について、随分勉強させて頂きました。

二十一世紀での新たな発展を期待して、成田北高校が一層飛躍するために、校長先生のリーダーシップの下、全教職員が一体となって生徒の指導に邁進されますことを祈念いたしまして拙文を閉じさせて頂きます。

（千葉県立千葉南高等学校教頭）

創立二十周年に思うこと

第四代事務長　大　又　一　雄

私は、成田ニュータウンのはずれにある、教育環境に恵まれた成田北高等学校に、平成元年四月から平成三年三月まで在職しました。成田北高等学校は学級数増加の時期でした。昭和五十五年に四学級で開校し、年々学級増が続き、十年目の平成二年度に三十学級の大規模校となり現在にいたっています。

三年間の在職中、学級増による施設・設備の充実に苦慮したことが思い出されます。生徒数・職員数の増加にともない普通教室・特別教室の配置等を協議し、部室の新設・陶芸窯場の新設・自転車置き場の増設・焼却炉増設等々工事も多くありました。その後十年、ますます施設・設備が充実されよりよい学校環境になったと思います。

平成元年着任時から創立十周年記念事業の実行委員会に参加し、事業計画等を協議し実行に努力しました。平成二年十月から十一月にかけて、創立十周年記念事業が行われました。昇降口入り口前の記念像の除幕式・芸術鑑賞会・記念祝賀会等々、諸行事が盛大に行われました。当時のPTA・後援会・同窓会の方々のご協力は大変大きな力となり感謝しております。

創立二十周年を迎えて、在校生は日々の勉学に励み、部活動・委員会

活動等に汗を流し、先輩のより良き伝統を継承し、名実共に地域を代表する高等学校として発展していくことをお祈り申し上げます。

創立二十周年おめでとうございます。

（千葉県立茂原農業高等学校事務長）

創立二十周年に寄せて

第五代事務長　小　林　澄　江

成田北高等学校創立二十周年を迎え、ますます充実・発展しております事を心よりお祝い申し上げます。

私は平成四年から三年間、初任の事務長として勤務させていただきました。

平成四年春には、沼地で地盤沈下が激しく、水はけの悪かったグランドが全面改修されたところでした。校門から校舎までのアプローチは右にいちょう、左に桜並木があり落ち着いたたたずまいでした。玄関からは整備されたグランドを見下す事ができました。授業はもちろん、サッカーや野球等の部活動が生き生きと展開されるグランドでした。

ＰＴＡ活動も盛んで、広報の発行、校外の自転車登下校指導、成田山新勝寺や宗吾霊堂の祭礼の巡回指導、文化祭への参加、研修会等の行事には積極的な参加があり、ＰＴＡ総会の出席者も多数ありました。

施設・設備としては、生徒用コンピュータ室の整備や図書室の冷房装置の設置、中庭整備等がありました。現在の厳しい県財政を思うとき、まだ豊かな時代であったのだと思います。

私にとって初めての学校現場での仕事で、わからない事だらけの新米事務長。事務・用務員の皆さんの協力はもとより、校長先生はじめ多くの先生方のご指導とご協力で仕事に取り組む事ができ、今でも印象深い三年間であり、忘れることができません。

成田北高等学校の更なる発展をお祈り申し上げます。

（千葉県立佐原女子高等学校事務長）

思　い　出

第六代事務長　多　田　要　三

創立二十周年を迎えられ誠におめでとうございます。

私が赴任した平成七年四月、桜が満開であったことを思い出します。成田北高校は、創立当時の先輩方が植えられた桜をはじめとした多くの樹木が校庭の至る所に植えられ、また樹木に限らず、現在活躍されている先輩方の思いが様々な形で残っていました。このことを意識しての仕事は、身が引き締まる思いがいたしましたし、微力ながら先輩方の仕事を引き継いでいるのだという意識がもて、充実した日々を過ごすことができました。

顧みますと私にとって成田北高校での三年間は、非常に有意義で貴重な経験でした。部室の建設や、テニスコート等の整備、その他の環境整

備の仕事も思い出として蘇りますが、多くの皆さんと共に知恵を出し合い、苦労した仕事が印象深く、心に残っています。

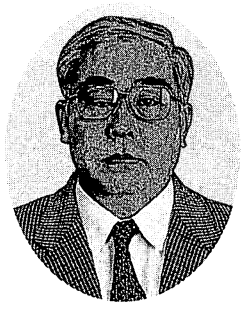
特にダイオキシン対策は、多くの皆さんと一緒に取り組みましたので鮮明に思い出します。環境問題の学習、いろいろな方との協議、予算がない中での準備、本当に多くの方の協力をいただきました。日暮さんには、収集場所を作っていただきましたし、湯浅管理部長さんには、ペンキを塗っていただきました。校長先生、教頭先生には、美化委員と一緒に収集場所で作業に御協力をいただきました。今振り返ると成田北高校での仕事は、このような思い出をたくさんいただいたように思います。改めて心から感謝申し上げます。

終わりに成田北高校の益々の発展を祈念いたします。

（県教育庁香取地方出張所庶務課長）

創立二十周年を迎え、今後の発展を願って

第六代ＰＴＡ会長　鬼　澤　和　夫



成田北高等学校の創立二十周年をお祝い致しまして、ひと言ごあいさつ申し上げます。本校は、今年で創立二十周年記念を迎えました。成田は皆様もご存じのように、成田山新勝寺の門前町を中心に、商業・農業の町として繁栄し、現在に至ってまいりました。そして現在は、新国際空港の開港により、国際都市成田へと飛躍的な変貌をなしつつあります。

このような環境の中で、本校は緑に囲まれた素晴らしい立地条件にあり、教育設備は年ごとに整備され、先生方も各専門分野で十分に研究されたベテランの方々ばかりです。本校の生徒諸君は、ほんとうに幸せだと思います。生徒たちにとってよい教育環境とは、ただ単に施設設備が整っているということでもなければ、校名が知られていることだけでもありません。生徒一人ひとりのことを本気で考え、導いてくださる熱意ある先生がいらっしゃるかどうかだと私は信じております。その意味で本校は、全くよい教育環境にあると申せましょう。本校の生徒諸君が、今日なに不自由なく勉学にいそしむことができますのも、ひとえに伝統を築いてこられた先輩方諸氏のご苦労のたまものです。二十周年を記念する意義深い日にあたり、心から感謝申し上げる次第であります。

生徒の皆さんも、自主性を大切にして、巣立っていった先輩方に負けぬよう、目的をしっかり持って頑張ってください。私としましては、創立当時からの教育理念を大切にし、今後の世の中の激動に押し流されることなく、本校独自の信念を貫き通していただきたいと思います。

ここに校長先生をはじめ教職員の皆様の日ごろのご努力の成果をたたえ、さらに生徒諸君が、なおいっそう飛躍されることを願って、私のごあいさつとさせていただきます。

創立二十周年を祝して

第七代ＰＴＡ会長　谷　照　雄

月日は流れる水のごとくとか、歳月人を待たずとか云われますが、私が成田北高のＰＴＡ会長の重責を仰せつかってより、早や十年の月日が経過したわけで誠に隔世の感が致します。当時は創立十年目の節目に当たり記念誌「黎明十年」が出されましたが、今回は創立二十周年ということで再度の発刊となり、誠によろこばしく、心よりお祝い申し上げる次第です。

千葉県立成田北高等学校が、地域住民の要望と熱い期待の中成田ニュータウンの一角に創立されてより早や二十年を迎えたわけですが、この間創立当時の教職員やＰＴＡの方々の筆舌につくせぬ御努力により、今日見られる通りの発展と成果をあげられ、県下有数の生徒数を有するすばらしい大規模校になったことは、誠に御同慶の至りと存じます。

私がＰＴＡ役員として微力ながら務めましたのは、昭和六十三年から平成二年の三年間でしたが、創立より十年近くになりましたので教育環境も整備され、学習活動、文化活動やスポーツ等に大きな成果が上っておりました。あれから十年、社会の様相も変化致しました。経済不況とリストラ、高卒者の就職難、青少年の意識の多様化や犯罪の増加等、高校生に与える影響は深刻なものがあります。これからはこのような現象に敗けない強い意志と確かな思慮を身につけた子弟に育ってほしいと思います。

創立二十周年にあたり成田北高等学校が、地域社会の要望に応え、理想に燃えて益々発展されますよう祈念致し、お祝いの言葉と致します。

さらなる飛躍を

第九代ＰＴＡ会長　高　仲　昭　雄

成田北高等学校創立二十周年誠におめでとうございます。

二十年の永きにわたり卒業生を送り出し、今もなお二十一世紀で活躍するべき人材の養成をめざし、着実に歩まれるその勇姿は頼もしい限りであります。振り返りますと創立十周年時に、私はＰＴＡ活動に参加させていただいておりました。元号が平成に改まった時で、期待と不安を覚えた事を思い出します。

それから十年、時代はまさに国際化、情報化、高齢化と目まぐるしく移り変わり、時代に対応した教育が求められ、多様化が進んでいると思います。長引く不況、社会不安、環境の汚染等々、決して楽観できない現在、神聖な教育の場としてのその存在は重要な役割を担っているわけです。いつの時代でも本校がその一端を担う教育の発信基地的存在で、将来に向って歩まれる事を望んでやみません。

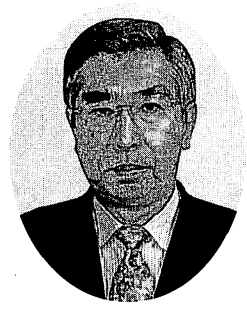
学校を取りまくさまざまの出来事、教育現場の試行錯誤等々、教育の

難しさも伝わってまいります。教育の原点を今一度、見直す時期にあるのかな、と思う事もしばしばです。学校と家庭との一体が、問題解決の糸口ではないかと思います。創立二十周年を節目に、歴史の重みを大切にしつつも、さらなる飛躍を熱望するものです。

終わりに本校の在校生、卒業生の皆様、ご指導いただいた教職員の皆様方の益々のご発展とご多幸をお祈りいたしますと共に、記念行事に関しご苦労をいただきました実行委員の皆様方に心より感謝申し上げます。

「黎明二十年」発刊によせて

第十代ＰＴＡ会長　大久保　靖　夫



西暦二〇〇〇年の良い年に、成田北高等学校が創立二十周年を迎えるという事を心よりお祝い申しあげます。

一口に二十年とはいえ創立から今日まで歴代の校長先生を始め当校に赴任された先生方、さらに歴代ＰＴＡ会長、役員の皆様のたゆまぬ努力の結晶が、県下での北高の歴史を築いてくださった歴代校長先生を始め、先生方、ＰＴＡ役員各位の皆様方の御労苦に衷心より感謝申し上げます。本当に御苦労様でした。

縁あって娘が成田北高にお世話になり、高岡先生の策略により（?）、ひょんなことから私まで和気あいあいの、しかし活力あるＰＴＡに席を押しも押されもせぬ文武両道の優良校に育ったのだと思います。今日まで培われた良き伝統と校風を、先生方と生徒とＰＴＡが「三位一体」となって、千葉県に北高ありと言われるよう頑張っていただきたいと思います。

最後に成田北高の益々の発展と皆々様のご健勝御多幸をお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

置かせてもらい、三年間色々な地域の方々に教えてもらい、又ご協力いただき、本当に楽しいＰＴＡ活動をさせていただきました。

ＰＴＡ活動の中で一番感動したのは卒業式の時です。式が無事終わり卒業生が退場するとき、クラスごとに一列ずつ起立し「ありがとうございました」と一斉におじぎをして、にこやかに退場する生徒の姿を見るたびに涙が溢れてたまりませんでした。いろいろな卒業式を見てきましたが、こんなに清々しく、感動的な式は見たことがありません。きっと卒業生の胸には三年間の先生とのさまざまな思い出が交錯し万感胸に迫っての言葉だと思います。

このような感謝の気持ちを素直に表せる生徒に育ったのは、校長先生始め先生方のご指導の賜物と心より御礼申し上げます。

特色のある学校に

第十三代ＰＴＡ会長　篠　崎　美津男

成田北高等学校創立二十周年を迎え、心より御祝いを申し上げます。

顧みますと、当時オーストラリアのワガワガ高校との姉妹校提携を実現させ、お互いに交流が開始されました。以前からロータリークラブの協力で何名かの生徒がホームステイをしておりましたが、二十名前後で行き来するようになり、成田北高等学校の一つの特色となりました。

また、黎明祭ではＰＴＡ役員も参加して、焼き鳥などを販売して盛り上げていただきました。この場を借りまして、ＰＴＡの皆さんを初め、ワガワガ高校から研修で来ていた先生を半年間面倒みてくださいました古林さん、焼き鳥道具一式を準備していただいた横山さんに御礼申し上げます。これからも特色のある活動を取り入れて欲しいと思います。

近年、就職難が続いておりますが、採用の方法に変化が見られるようになりました。今までは就職先で「何がしたいのか。」でしたが、今では「何ができるのか。」に変化しております。何か資格の取れる物を取り入れる事もよいと思います。しかし、資格ばかりではなく、色々な活動に参加して、その中から得られるものもあります。そして発想力、観察力、決断力を身につける事も大切だと思います。

又、高齢化社会が叫ばれている現在、ボランティア活動もとても大切な事だと思います。「自分に何が出来るか。」を考え、表面だけでなく心の中から行動できる人を育てていきたいと思います。

最後に何かする時には、いつも相手の立場に立って考えて下さい。

以上、取り留めありませんが、今後の成田北高等学校に期待し、御祝いの言葉といたします。

二十周年記念誌発刊にあたっての祝辞

第十四代ＰＴＡ会長　大　場　正　治

成田北高等学校が、創立二十周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

又、このミレニアムの時代に、北高の二十年にわたる歴史を「記念誌」という形で発刊することは、大変有意義であり喜びにたえません。

人間は中味さえ良ければ外側はどうでも良いと考えてしまいがちですが、その点、成田北高は昭和五十五年創立以来、多くの卒業生、後援会、ＰＴＡ、諸先生方のご協力により、校舎や教育施設が年毎に整備されて参りました。又、中味につきましても、ここ数年来北高への入学志望率や大学への進学率も高くなってきました。これはとりも直さず世間一般が北高の真価を認め、高く評価している証拠であると私は確信すると共に誠に頼もしく感じております。

成田北高のこの発展は歴代の校長先生はじめ諸先生方の教育への情熱、又、学校関係、ＰＴＡの方々のご協力、在校生並びに卒業生の皆様方の刻苦努力の総和の賜物という事で、本当に限りない喜びでございます。

ここに、成田北高の二十周年記念誌発刊のお祝いをすると共に、ご関係の皆様方のより一層のご協力と、在校生の皆様方の努力と勤勉に期待致しまして、県立成田北高等学校が益々発展される事をお祈り致します。

創立二十周年に寄せて

第十五代ＰＴＡ会長　相　川　光　規

県立成田北高等学校創立二十周年を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。

成田北高校は昭和五十五年成田ニュータウン内に開設された普通高校で、緑地と住宅地に囲まれた環境は学園生活を送るための素晴らしい条件が整っています。

一八八名の新入生を迎えた昭和五十五年には施設整備が充分ではなく、先生方そして生徒諸君大変な不自由をされたことと思いますが、以後ＰＴＡや地域の方々の教育に対する深い御理解と御協力、更に関係当局の御努力により、実質外観共に充実した現在の成田北高に至った訳です。

成田北高の生徒は『素直でのびのびしている』といわれますが、それは先生方や関係者、又環境等により築き上げられた素晴しい校風だと思います。長い歴史あるいは伝統を感じるような気がいたします。

成田空港の開港による急激な人口増、そして子供達をとりまく大きな環境の変化、こういう大きな流れの中にあって、常に情熱をもって教育にあたって頂いた歴代の校長先生はじめ諸先生方には心から敬意と感謝を申し上げる次第です。

教育制度をはじめ教育の場においても大きく変化をしようとしています。成田北高の目指している『自律の精神をもち協調性に富む実践力のある青年の育成』は、まさにこれからの時代に生きる人間を育てるにふさわしいものです。

成田北高の輝かしい二十年に更に磨きをかけ一層の発展を続けられることを心から念願いたします。

創立二十周年を振り返って

後援会顧問　谷　重　吉

成田北高校が充実し発展しつつ、二〇〇〇年の節目に、創立二十周年を迎えましたことを心よりお祝い申し上げます。

時の経つのは早いもので、開校当時誕生した子供達は、今年成人して社会人としてはばたき始めています。

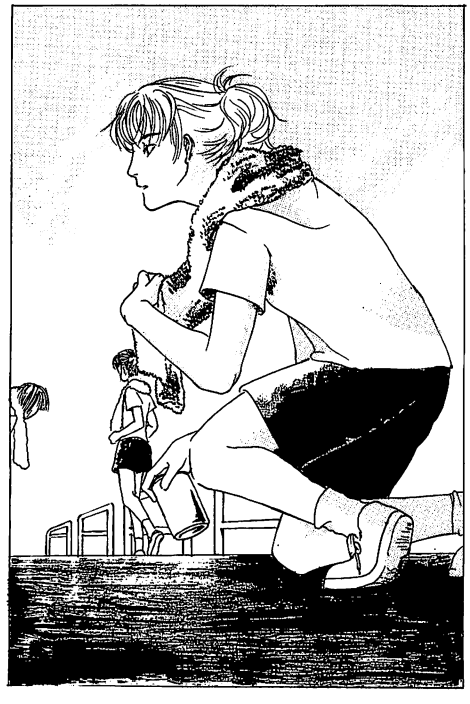
十年前、創立十周年の頃の日本経済は、バブル景気に満ちていました。

十年の歳月の流れの中で社会情勢が一変しました。バブルの時代の傷跡はすぐには回復出来ず、多方面での影響が続いています。大企業や銀

行の倒産、縮小で多くの失業者が出ています。これに伴い新卒生の就職難がつづいていると伝えられています。しかし過去の歴史から見ても、不況の時代だけが、延々と続くことはないと確信しています。「十年一昔」といいますが、次に迎える三十周年の頃には、豊かで、住み良い環境であることを願っています。

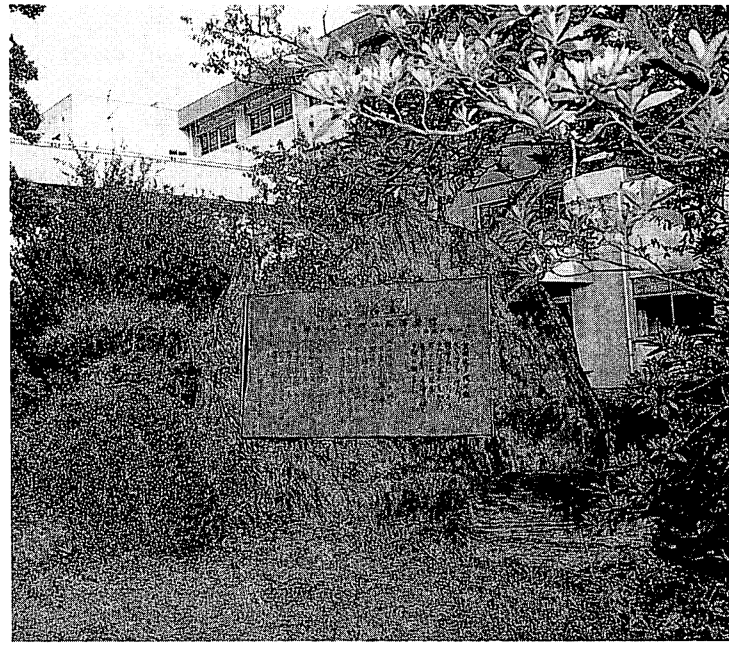
昨今、北高を訪れることは稀ですが、開校当初、一期生の保護者の寄贈により植栽した県木でもある槙の木が、二十年の歳月を経てどっしりと根付き、学校の発展と共に成長しているように、開校当時の学校との関りを新にしています。初代校長の岩上先生が入学式で、本校の使命は二十一世紀を展望した時代に適合した若者を育てることにある、と言われた言葉を思い出します。その二十一世紀が到来しました。

成田北高校が国際社会に相応しい教育の場として、益々飛躍、発展することを祈念して二十周年を祝う言葉と致します。



イラスト同好会　椿沙耶香（２年）

沿革
―成田北高二十年のあゆみ―



成田北高二十年のあゆみ（沿革史）

一　はじめに
二　二十年の社会的・歴史的環境の変化
　㈠　学問・科学技術の発達と課題
　　―本校周辺からも貴重な遺跡が出土―
　㈡　政治・経済・社会状況の激変―進む少子化―
　㈢　教育制度の改革
三　本校をとりまく地理的・歴史的環境と社会状況の変化
　㈠　悠久の歴史を語る貝化石―校歌と校章に―
　㈡　豊かな歴史に彩られる「成田」
　㈢　本校周辺の歴史の概観
四　成田ニュータウンの造成と成田市の発展
五　本校二十年のあゆみ
　㈠　本校の創設―開校準備と草創期の基盤づくり―
　㈡　四学級から六学級・七学級・十学級へ
　　―意欲的な学校生活、諸行事への取組み―
　㈢　三十学級大規模校としてのあゆみ
　㈣　創立十周年を記念し、さらなる発展を期す
　㈤　一九九〇年代における本校のあゆみ
六　おわりに―二十一世紀に向けて新たな発展を―

一　はじめに

創立五周年記念事業、同十周年記念事業と、本校発展の節目を記念しながら、その歴史を刻んできたが、二十一世紀を前にした二千年ミレニアムの年に、早くも創立二十周年を迎えることになった。「歳月人を待たず」というが、職員や生徒諸君の移り変わり、地域の変貌に目を奪われているうちに、なんと二十年の歳月が経過し、本校の歴史の営みが蓄積されていたのである。

この二十年は、「バブル経済」といわれた異常ともいえる経済の「発展」と、社会主義世界体制の崩壊、国内政治体制における「五五年体制」の破綻などに象徴される激動と混乱の時代であった。そして、後半の十年は、「失われた十年」などと評されるように、国内外で政治的にも経済的にも文化的にも、構造的に停滞と混迷を見せた時期であった。それは、直接的に教育状況や子どもたちの世界に投影し、重大な課題が提起されるにいたっている。

二十一世紀を目前にした現在、教育のあり方をめぐって深刻な論議が提起されつつある。「学校五日制」や「教育課程の再編」などの制度的な問題だけでなく、「教育基本法」の内容に言及する動きも起きている。創立二十周年を迎えた本校も、現在の教育課題を見据えながら、早急に、今後の本校のあるべき姿、発展の方向を明らかにしていかなければならない。二十一世紀に向けて、成田ニュータウンの一角に位置する本校が、どのような「学校づくり」を求められているのか、創立二十周年を記念する中で、二十年の足跡を振り返り、その総括と反省の上に、本校の今後を展望していかなければならない。記念誌『黎明二十年』の発刊が、その契機の一つになり、その努力の一つになることを念じつつ、本校の二十年のあゆみを概観してみたいと思う。

二　二十年の社会的・歴史的環境の変化

㈠　学問・科学技術の発達―本校周辺からも貴重な遺跡が出土―

創設以来二十年の歳月は、本校周辺の地域環境を大きく変えた。「成田ニュータウン」の整備が進展し、デパート「ボンベルタ」の開業や中・高層住宅の建設、銀行や街路の整備が行われ、ニュータウンの人口も著しく増加した。成田ニュータウンに隣接して美郷台商住地の建設、公津の杜駅の新設やニュータウン「公津の杜」の造成、大型スーパーの進出などが見られ、最近では土屋地域の大規模開発も行われて、成田市は、成田山新勝寺とともに北総地域における経済・文化の拠点的都市としての発展を見せている。しかし、同時にバブル経済破綻後の不況や大型店の進出などの影響が、深刻な影を落としていることも見落とせない。

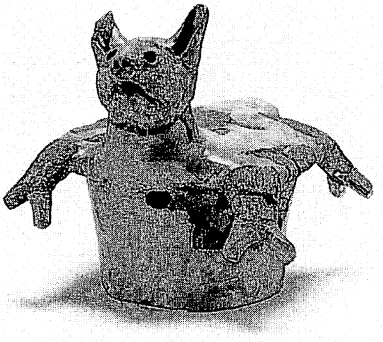
この二十年はまた、学問や科学技術の分野でも画期的な発展を見せた。ＩＴ革命といわれる情報技術の発達と普及、医学や生命科学の進歩、考古学・歴史学の発達など、目を見張るような状況が現出しているが、同時にきわめて深刻な問題も起きている。重大な事態を招いた薬害や医療ミスも頻発し、地球温暖化や環境ホルモン、ダイオキシン問題など、地球的規模の環境破壊が憂慮されている。また、平成九年（一九九七）にはクローン羊が誕生し、クローン人間の「現実」化や「ヒトゲノム」の解読、バイオテクノロジーの発達による遺伝子組み替え食品の開発など、安全性の問題だけでなく、科学技術の発達にともなう倫理上の問題が提起されている。昭和六十三年にチェルノブイリの原発事故が起きたが、平成十一年九月には東海村のＪＣＯで臨界事故が発生し、改めて現代社会の危険性の深刻さを突きつけられた。考古学や歴史学の分野でも、平成五年五月に宮城県の高森遺跡の発見によって、日本における前期旧石器文化の始まりが五〇万年前の原人類の時代にまで遡ることが明らかにされ、さらに上高森遺跡の「発掘」によって、日本の歴史は六〇万年以上前にまで遡るとされ、埼玉県の小鹿坂遺跡や秩父長尾根遺跡でも原人類による前期旧石器文化の存在が「確認」されたといわれたが、平成十二年秋には、かなりの遺跡で捏造の事実が発覚し大きな衝撃を与えた。現在、各地の前期旧石器文化遺跡で再検証の必要性が指摘され、高校日本史教科書の訂正・削除など、学校教育にも深刻な影響を与えている。

しかし、青森県の三内丸山遺跡の発見は、縄文時代の見直しを迫るきわめて重要な発見となった。鹿児島県の上野原遺跡の発見や北海道南茅部町大船Ｃ遺跡、新潟県朝日村の奥三面遺跡など、重要な縄文遺跡の発見が相次ぎ、縄文文化再評価の課題はますます大きくなっている。本県の下太田貝塚でも、平成九年の発掘調査で縄文時代後期（約三〇〇〇年前）の墓域が発見され、一人一人を埋葬した墓域の近くに、数十人分の遺骸を詰め込むように埋め込んだ大小三つの楕円形の墓域が確認された。縄文後期のこうした埋葬方法の違いをどのように見るか、大きな注目を集めている。弥生時代についても、佐賀県の吉野ヶ里遺跡をはじめ、大阪府の池上曽根遺跡、島根県・鳥取県の西谷墳墓群、神庭荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡、平成十年には大きな注目を集めた妻木晩田遺跡など、邪馬台国論争を含む弥生時代の研究を進める上で画期的な発見がなされた。古墳・飛鳥時代についても、埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣銘、市原市稲荷台一号墳出土の鉄剣銘、奈良県黒塚古墳からの大量の三角縁神獣鏡の出土、日本最古の貨幣と考えられる「富本銭」の出土や酒船石との関連の可能性が指摘されている飛鳥庭園施設の発見など数限りない。

このように、この二十年間に、日本の原始・古代史を書き換えるような発見や研究成果が生まれているが、本校周辺地域でも、全国的にも注

南羽鳥の中岫遺跡出土の「人頭形土製品」（印旛郡市文化財センター所蔵）

目を集めている発見が多数見受けられた。龍角寺古墳群の一つである一〇一号墳からは大量の埴輪が出土し、復元作業が進められるとともに、レプリカによって往時の墳墓の様子が再現された。およそ六〇〇〇年前の縄文時代前期の南羽鳥の中岫（なかのごき）遺跡からは全国初の「人頭形土製品」が出土し、同じく南羽鳥の古墳時代後期の正福寺遺跡一号墳からは、これも全国的に類例を見ないムササビ形の埴輪が出土している。龍角寺古墳群に隣接する大畑Ⅰ遺跡からは六〇棟を超える大型の掘立柱建物群が確認され、飛鳥・奈良時代の埴生郡衙跡ではないかと考えられている。また、謎に包まれていた龍角寺古墳群最大の前方後円墳である浅間山古墳の調査も行われ、仏教文化への移行期に造られた首長墓であり、今後の研究の成果が待たれる貴重な古墳であることが判明した。さらに、「房総風土記の丘」に隣接して設置された「房総のむら」も、江戸時代末期から明治時代の暮らしぶりを見学し、体験できる博物館として完成し、多くの見学者を集めている。



南羽鳥正福寺遺跡一号墳出土のムササビ（印旛郡市文化財センター所蔵）

㈡　政治・経済・社会状況の激変―進む少子化―

この二十年間の政治・社会・経済の動きもきわめて激しく、それらは、教育状況や進路状況、生徒諸君の日常生活など生徒諸君を取りまく環境だけでなく、生徒諸君の人間形成にも大きな影響をもたらしている。

世界の政治状況では、冷戦構造が崩壊するとともに、ソヴィエト連邦の解体や東欧諸国の変革などがひき起こされた。国内政治でも、いわゆる「五五年体制」といわれた政治状況が崩れ、きわめて流動的な政治情勢が生まれている。経済面でも、「バブル経済」とその破綻によって危機的な不況に陥ったが、生徒諸君の進路状況にとどまらず、学校をはじめ教育をとりまく環境にも深刻な動きと変化が見られている。

その一つが、少子化に伴う児童・生徒数の大幅な減少である。小学校の児童数は、昭和五十六年をピークにして減少し続けたが、高校の生徒数も平成元年をピークにして、平成二年度には二万一〇〇〇人減の五六二万三〇〇〇人と減少傾向に突入し始めた。しかし、その一方で、高校生の進路状況は、大学・短大進学率が三六・三％、専修学校等の進学率が二九・八％、就職が三五・二％とほぼ三分され、なかでも、大学・短大進学者について、女子が初めて男子を二・二％上回るという状況が生まれた。昭和六十年頃からの異常ともいえる受験戦争の過熱ぶりは衰えず、平成四年を最高にして十八歳人口の減少期に入っていったにもかかわらず、進学希望者の増加傾向に対応して大学・短大の増設が続いた。しかし、やがて「バブル」経済がはじけ、少子化が進むとともに私学助

成制度の見直しや、「氷河期」「超氷河期」などといわれた就職難が深刻化し始めると、大学・短大・専修学校等全てにわたって生き残りをかけた「学生集め」に奔走しなければならなくなった。それは同時に、大学・短大教育の内容や質をいかに維持し、高めていくかという深刻な問題を生み出している。

この少子化傾向が顕著となったのは、「バブル」経済の破綻が容易ならざる事態であるという現実が突きつけられ始めた頃からであり、今もなおこの傾向が続いている。日本の合計出生率（ＴＦＲ）は、平成元年に一・五七という低率を見せた後も下がり続け、平成八年には同一・四三、平成九年には同一・三九、平成十年には同一・三八と減少している。こうした少子化傾向は、小・中・高校にも重大な影響をもたらし、学級減、学校の統廃合、教員採用の減少、教職員の高齢化など、子どもをとりまく環境の変化だけでなく、子ども自体の世界にも深刻な状況が現れた。子ども集団の解体、子ども同士の人間関係の希薄化、過保護・過干渉による子どものストレス増大や生育の歪みなどにより、学校生活や社会生活に対する不適応を示す病理的な現象が各方面で頻発している。傷害・殺人・自殺といった事態をもひき起こす校内暴力やいじめ、さまざまな要因による登校拒否や不登校、中途退学者の増加、最近では、「学級崩壊」といわれる事態まで発生している。少年による刑事事件でも、凶悪化、粗暴化、低年齢化の傾向はさらに進み、覚醒剤乱用のケースも広がっている。家庭内暴力や幼児虐待も、こうした社会状況と深く関わり合いながら深刻な様相を見せている。

㈢　教育制度の改革

平成四年（一九九二）九月から、月一回の学校週五日制が始まったが、さらに平成十四年度（二〇〇二）からは学校完全週五日制度に移行し、学習指導要領の改訂にともなって、小中学校では同年度から、高校は翌十五年度から新しい教育課程に基づく教育が求められている。そこでは、教科の授業時数・学習内容が削減され、教科横断的なもので問題解決学習を基本に据えた「総合的な学習」の時間が新設される。自由裁量にまかされているこの時間を活用して、文部省は小学校での英語学習を推奨している。また、少子化による児童・生徒数の減少や不登校・中途退学者の増加に対応する一つとして、学校の特色を打ち出すための中高一貫教育、総合性高校、単位制高校、専門高校など、新しい公立高校のあり方が試みられようとしているが、一方、学校教育を補完するものとしてフリースクールや塾の存在が公認され始めてもいる。

平成十二年三月三十一日には、千葉県における県立高等学校通学区域に関する規則が改めて制定され、四月一日施行となった。それによると、従来の第二学区と第三学区が併合されて第二学区に、第四・五学区がそれぞれ第三・第四学区に、第六・第七学区が併合されて第五学区に、第八・第九・第十学区がそれぞれ第六・第七・第八学区に、第十一・第十二学区が併合されて第九学区に編成替えされた。そして、高等学校が所在する学区に隣接する学区内の中学校からは全て志願できることになった。従って、本校は、所属する第四学区内はもとより、第一・第二・第三・第五・第六学区から志願できることになり、ほぼ県北部全域からの志願（通学）が可能となって、平成十三年度からは一気に通学圏が拡大されることになった。また、平成十二年十月十七日、県教委は、翌年度の本校の募集定員を三六〇名（九クラス）にすると発表した。募集定員が減り、本校生徒諸君の通学圏が拡大することによって、本校の生徒集団にどのような影響と変化が生まれるのか。来年度は本校にとって再び

大きな転機となる可能性がある。新しい事態を的確に見きわめ、最善の対応が出来るように努めていく必要があるだろう。

三　本校をとりまく地理的・歴史的環境と社会状況の変化

㈠　悠久の歴史を語る貝化石―校歌と校章に―

本校は、更新世期に形成された房総半島北部の「公津ヶ原」といわれる下総台地の一角を造成、整地して建設された「成田ニュータウン」の北端に位置している。標高二〇～四〇メートルの下総台地は、砂層と泥層による「成田層」の上に、更新世末期の激しい火山活動によって堆積した火山灰層である常総層・武蔵野ローム層・立川ローム層などの関東ローム層と最上部の表土（黒土層）で形成され、浸食谷である数多くの谷津がはしっている。本校の所在するあたりは、成田市を南から北へ流れて利根川に合流する根木名川本谷の支谷である小橋川支谷と、印旛沼本谷から分岐した江川支谷にはさまれた地で、本校グランドは、小橋川支谷の谷頭の一つである「千把ヶ池」といわれたため池を埋め立てて造成したものである。

およそ二〇〇万年前から一万年余り前まで続いた更新世は、氷期と間氷期が交互に訪れているが、氷期には海退によって沖合まで陸地化し、間氷期には海進が進んで内陸深くまで海と化した。更新世の終わり頃のミンデルーリス間氷期には、鹿島灘から銚子あたりまでを湾口とする「古東京湾」といわれる内湾が成立し、関東地方の大半が海となった。この時に砂層や泥層が堆積して形成されたのが「成田層」であり、「成田層」には、茨城県南部から千葉県北西部を経て千葉市誉田周辺にまたがって、各地に四〇万年前から一〇万年前頃に形成された自然堆積の貝化石層（貝層）が散見される。

本校の校舎は、谷津の谷頭に面した丘陵部の関東ローム層や貝層を含む「成田層」を掘り崩して整地し敷地としているために、掘り崩した丘陵の露頭中央部や校舎の周辺の土中には、多量の貝化石が堆積したり散乱したりしている。

「校庭に散りしく」大量の貝化石

本校の校歌（作詞　沢田繁二氏、作曲　寺内昭氏）は、その二番で

「若草萌ゆる土深く　太古の海が眠りゐて　校庭（には）に散りしく白き貝

その成長の線のごと（略）」と

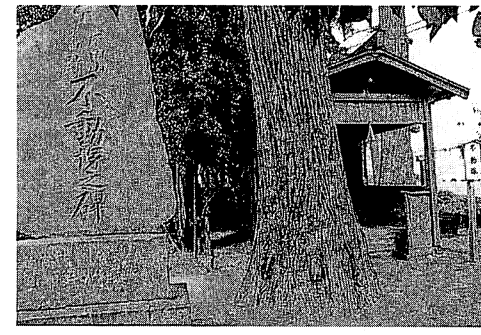
歌っており、また、校章は三個の貝殻を図案化し、貝殻の成長線に若い命の絶えることのない成長を託し、三個の貝には本校の教育理念である「知育・徳育・体育の調和」と「自律・協調・健全」の校訓を託している。歌詞にある「太古の海が眠りゐて」は、更新世の終わり頃に本校の周辺も「古東京湾」の一部であり、入り江のようになっていた名残である。「校庭に散りしく白き貝」は、「古東京湾」の沿岸地域に何らかの事情で大量に自然堆積した貝化石であり、少なくとも十万年以上前の、学術的にはきわめて重要な遺跡であり遺物なのである。やがて、更新世末期には地球環境は大きく変わり、後氷期といわれるウルム氷期を迎えると、海退による陸地化や土地の隆起によって大陸と陸続きになるとともに、箱根火山や古富士火山などが大規模な噴火を繰り返し、安山岩質、玄武岩質の火山灰を大量に噴き上げて下総台地の関東ローム層を形づく

った。その後、下総台地には幾筋もの樹枝状の浸食谷が形成され、およそ一万年前に更新世が終わって温暖な完新世になると、海進によって海面が急激に上昇し、日本が列島化するとともに浸食谷はおぼれ谷となる。印旛沼や手賀沼もこうしたおぼれ谷であり、中世末までは香取海の入り江であって、印旛沼や手賀沼は「印波浦」「手下浦」といわれた。千葉県北部地域の地形は、このように下総台地といわれる台地と、その台地を東西南北に切り裂くようにはしる谷（谷津）によって特徴づけられ、台地上では畑作が、谷津では稲作が営まれている。従って、台地上では水の確保が日常的な課題であり、龍角寺の創建にまつわる龍神伝説に代表されるように、雨乞い伝承や行事が数多く継承されている。また、本校のグランドが以前は「千把ヶ池」といわれたため池であったように、谷津田の用水確保のために、谷頭部にため池を造成した地域も多い。千把ヶ池にまつわる伝説や房総風土記の丘に隣接した坂田ヶ池の「片歯の梅」伝説に見られるように、多くの災害による犠牲をうかがわせる悲しい伝説を残している所も少なくない。なお、利根川や渡良瀬川は現在の東京湾に流れ込んでいて、銚子方面に流路が変えられたのは近世初期（一七世紀中頃）のことである。

㈡　豊かな歴史に彩られる「成田」

「成田」の地名の由来は諸説あるが、文献資料の初見は、応永十五年（一四〇八）に彫像された成田安養寺の本尊である木像聖観音坐像の胎内墨書に見られる。そこには「大檀那光量　応永十五年二月　成田郷安養寺本尊」と記されている。

「成田」の名が全国に広まったのは、何といっても「成田のお不動様」として庶民の熱い信仰を集めている成田山神護新勝寺の門前町としてである。とりわけ、江戸の町人に「新勝寺」の名を一気に広めたきっかけは、元禄十六年（一七〇三）に照範上人によって行われた「江戸出開帳」であったといわれる。寺の縁起によれば、ご本尊である不動明王は、平安京遷都直後の弘仁元年（八一〇）に嵯峨天皇の勅願により弘法大師空海が彫り、高雄山神護寺に安置されていたものという。平安時代は、藤原氏による摂関政治に代表される貴族政治が発展した時代であるが、同時に地方豪族や農民層が著しい成長を見せ、公地公民制という古代の土地制度から荘園公領制という土地制度への転換を見せていた時代でもある。やがて、各地で税をめぐるさまざまな紛争も発生し、十世紀に入る頃には武士団が結成され、東国には桓武天皇の血を引くとされる平氏が有力となっていった。奈良時代から東国の農民は、税（調・庸）や兵役（防人・衛士）の負担に苦しめられてきたが、そうした社会状況を背景にして、平氏の一門である平将門は、一族の内紛を契機に、天慶二年（九三九）、常陸国司藤原維幾を攻撃して朝廷に対する大規模な内乱をひき起こした。将門は、下総国猿島郡岩井郷を本拠にして、常陸国のみならず、下野・上野へと兵を進め、自ら新皇と称して文武百官を任じるとともに、一族の者を関東の国々の国司に任命した。しかし、翌天慶三年（九四〇）二月、一族の平貞盛と下野国の藤原秀郷の連合軍に敗れ、猿島であえなく敗死した。この将門の反乱に際して、朱雀天皇は、藤原忠文を征東大将軍に任じるとともに、自分の従兄弟にあたる京都広沢遍照寺の寛朝大僧正に朝敵を調伏するように密勅を下した。寛朝上人は、高雄山神護寺の不動明王と宝剣を奉持して、淀川を下り難波から海路をとって東国に向かった。下総国匝瑳郡尾垂ヶ浜（現光町）から上陸し、公津ヶ原に立ち至ると、戦乱による荒廃がひどかったため、寛朝上人は直ちに護摩壇を設置して不動明王に朝敵将門の調伏を祈願したとこ



寛朝上人が将門の乱を調伏した所と伝えられる「不動塚」

ろ、満願の日に将門は討たれて乱は治まったという。寛朝上人が都に戻る際、不動明王が微動だにしなかったため、上人は不動明王をこの地に安置して一人戻られた。その地が現在の成田市並木町の不動塚のあたりだと伝えられる。その後、天皇は「神護新勝寺」の寺号を下賜し、新たに堂宇の建立を命じたとされるが詳細は不明である。室町時代末期、荒れ果てた堂宇を見かねた周辺の名主たちが相談し、成田村（現「米屋羊羹」の裏庭）に不動明王と宝剣を安置することになり、永禄九年（一五六六）、時の戦国武将海保甲斐守の尽力により、ほぼ現在地に諸堂の建立を見たという。明暦元年（一六五五）には現在の薬師堂が、元禄十四年（一七〇一）に現光明堂が、安政五年（一八五八）に現釈迦堂が本堂として再建され、昭和四十三年（一九六八）に現在の本堂が建立されている。

「信仰の町」である「成田」を全国に知らしめたもう一つの歴史上の事件は、「佐倉惣五郎の一揆」である。通説によれば、承応二年（一六五三）、佐倉藩主堀田正信の年貢増徴策に対して、藩内の名主層が決起したが、藩への強訴や幕府の老中への訴えも実らず、遂に木内惣五郎による将軍家綱への直訴が行われる。惣五郎らの「罪」は藩によって厳しく糾弾され、妻子共々死罪に処せられたという。『地蔵堂通夜物語』として物語化されたり歌舞伎で上演されたりして、「義民惣五郎」の名は、周辺の農民のみならずその名は全国に流布されていった。今もなお、惣五郎一家の霊を祀る鳴勝山東勝寺は「宗吾霊堂」として多くの人びとの厚い信仰を集め、毎年九月二日の「お待夜」は盛大なお祭りとして賑わっている。

㈢　本校周辺の歴史の概観

本校がその一角を占める成田ニュータウンは、成田市域の西南部に位置し、寛朝上人ゆかりの公津ヶ原に造成された。公津ヶ原一帯は、「公津ヶ原古墳群」といわれて遺跡が密集する地域であるが、事前の遺跡調査によって、ウルム氷期にあたる二万数千年前、旧石器時代後期の先土器文化時代から平安時代までの複合遺跡の存在が確認されている。

先土器文化時代の遺跡・遺物としては、ニュータウン内の十カ所で採取されているが、赤坂の米野遺跡以外は表層採集などによるものであって遺跡自体の詳細は不明である。米野遺跡からは、彫器一、掻器四、削器二、加工痕のある剥片五など合計五一点出土し、その内三四点は黒曜石であった。しかし、米野遺跡からは生活用具としての尖頭器の出土がないために、そこでは、長期間にわたる居住の可能性は考えられないとされている。尖頭器は、橋賀台や加良部地区から出土しているが、遺跡が見つかっていない。更新世末期のウルム氷期に、この公津ヶ原の地に人びとのくらしが営まれ、黒曜石で作られた多数の石器の出土は、人びとが広い範囲を生活圏としながら交流していたことを物語っている。

約一万年前に、地球環境はウルム氷期が終って温暖化し、地質年代は更新世から完新世へと変わった。海面が上昇（海進）し、日本は大陸から切り離されて列島化した。最近の考古学の研究成果は、縄文時代の始まりが一万年前以前に遡ることを明らかにしつつあるが、とりわけ、弓

矢の発明を始めとする石器の発達もさることながら、国分市の上野原遺跡に見る壺形土器の製作や定住生活の開始時期の早まりとその規模の大きさなどから、縄文時代は狩猟・漁撈・植物採集の経済構造に加えて、一部の穀物などを含む植物栽培を行い、縄文前期から中・後期になると、米の伝来と稲作農耕への取り組みがある程度なされていた可能性も裏付けられつつある。また、縄文時代前期から中期にかけて、長期にわたる大規模な集落と文化を営んだ三内丸山遺跡などの巨木建築をはじめ、北陸・北日本に広く分布する大型建物の建造などから優れた建築技術や漆工芸などの高度の技術を発達させ、それに伴う精神文化を持って、地域間の活発な交流活動を展開するという世界の他の文化圏とは異質の文化を築き上げていた可能性がうかがえる。こうして約一万年余りにわたる縄文文化の発達が見られたが、それは生活基盤に恵まれていた東日本を中心に繰り広げられ、その中でも千葉県は、加曽利貝塚や姥山貝塚をはじめとして、縄文遺跡の数や規模において全国でも有数の発達を見せた。

成田周辺でも、根古名川谷や印旛沼谷、尾羽根川谷の本谷・支谷に面した台地上に多数の集落や貝塚が形成された。とくに、成田市荒海貝塚は、「荒海式土器」と名付けられた独特の土器を出土し、縄文末期の貝塚として全国的に注目を集めただけでなく、市内宝田鳥羽貝塚とともに、この時期の関東でははじめてイネのプラント・オパールが発見され、稲作の開始が確認されている。成田ニュータウン内でも、縄文期の遺跡が一四カ所、住居址が二〇数カ所発見されている。特に、台方・橋賀台Ⅱ遺跡（現在の橋賀台公園）からは縄文早期の集落址が出土している。床面の形も円形や方形などさまざまで、住居の配列も台地の縁辺に沿って南北方向に向かって不規則に分布していた。床面には炉址らしいものはほとんど見られず、炊事など火の使用はすべて屋外で行っていたと考えられている。

前述したように、縄文時代のかなり早い時期から、人びとは食用植物の栽培に着手し、岡山県の姫笹原遺跡や南溝手遺跡などでの縄文中・後期の稲作の可能性だけでなく、同県の朝寝鼻遺跡では前期の稲作の存在さえうかがわせる可能性が指摘され、世界的に気候が寒冷化したといわれる縄文晩期には、北九州の板付遺跡や野多目遺跡などで本格的な灌漑農耕が成立していたことが明らかになった。紀元前三世紀頃になると、西日本を中心に本格的な水稲農業の発展が見られ、社会は急速な変化を見せていった。鉄文化や青銅器文化も大陸から伝来し、まず北九州地域に小規模な国家（クニ）が成立し、他の地域にも広がっていった。相対的に豊かな縄文社会を維持していたと思われる東日本では、水稲農業をはじめとした弥生文化の全面的な受け入れは遅れる。千葉県でも、全体として弥生遺跡の数は少なく、その展開は中期以降である。成田市内の弥生遺跡は四〇カ所ほどであり、成田ニュータン内では五カ所である。

水稲農業や金属器文化の発達は、全国的に社会構造の大きな転換をもたらし、各地の小国家の発展と統合が進み、紀元三世紀には「邪馬台国」などの成立を見て、三世紀末から七世紀にかけて古墳文化が発達していった。古墳文化は畿内を中心にして全国に広がり、その数は一五万基とも二〇万基ともいわれているが、こうした大規模な墳墓の造成は、強大な権力者の台頭と国家の発展を意味し、やがて大和朝廷として成立する古代国家への統一過程となっていった。それは、「倭（倭国）」から「日本国」へ、氏姓社会から律令国家への転換のプロセスであった。

県内にはおよそ五〇〇〇基の古墳があるといわれているが、成田市内では、二一の古墳群に三一七基の古墳を数えている。墳形には、前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳などがあるが、その分布地は根古名川谷、

印旛沼谷などの本谷、支谷の流域の台地上に集中している。これは、水稲耕作をはじめとする農業生産地の掌握と、古墳の造成に必要な石材や土砂の確保と運搬などの条件を考慮してのことであろうと思われる。

成田ニュータウン一帯にはおよそ一二〇基ほどの古墳が分布し、「公津ヶ原古墳群」といわれているが、それらは、瓢塚古墳群（前方後円墳一基・円墳三一基・方墳一六基）、天王・船塚古墳群（前方後円墳三基・前方後方墳一基・円墳三七基・方墳七基）、八代台古墳群（前方後円墳一基・円墳二〇基・方墳二基）などの古墳群を形成している。公津ヶ原古墳群は、県内でも有数の古墳群であるが、ニュータウン造成に先立って、六〇基の古墳が緊急調査され、築造時期は古墳時代後期の六世紀初頭から七世紀末に築造されたもので、なかでも七世紀代の方墳が多いことが特徴である。最大規模のものは、天王・船塚古墳群に属する船塚古墳であるが、これは、全長八五メートル、後方部の幅五〇メートル、前方部の幅二五メートルの前方後方墳である。船塚古墳は、赤坂公園の中にあって、まだ本格的な調査は行われていない。規模の点でこれに次ぐ古墳が天王塚古墳で、全長六三メートル、前方部の幅三〇メートルの前方後円墳で、これも未調査である。調査された古墳の主体部（内部構造）の特徴は、直葬や木棺直葬が多く、横穴式石室が十数例、箱式石棺が四例ほどであった。集落址は、橋賀台二丁目付近、赤坂二丁目付近、中台一丁目付近・同六丁目付近、吾妻三丁目付近、玉造三・四丁目付近、同二・四丁目付近、成田国際高校付近などに一〇〇軒余りの竪穴住居址が発見されているが、最大規模の住居址としては、一辺一〇メートルにおよぶものもあった。

古墳や住居址からは、多数の土器や石器とともに、鉄器や青銅器、人骨なども出土している。瓢塚古墳群の第十六号墳からは、白銅製の変形四神鏡（ほう製鏡）が出土し、同十七号墳からは乳文鏡が発見されている。また、同四十号墳から出土した大刀が、保存処理のためにX線照射をしたところ銀象嵌の大刀であることが判明し注目された。さらに、公津ヶ原古墳群をはじめ千葉県北部から茨城県南部にかけて、数多くの古墳に精巧に加工された石枕が副葬されていることも特徴的である。

本校に隣接した八代からは、大規模な玉作工房址が発見され、数百メートル離れた外小代にも玉作工房址が確認されている。公津ヶ原古墳群の北方に隣接して、一辺が八〇メートル余もある全国的にも最大級の方墳である「岩屋古墳」を含み、「千葉県立房総風土記の丘」として周辺地域一帯が保存されている「龍角寺古墳群」に接して大竹玉作遺跡が発見されたが、ここも工房址であることが確認された。

古墳時代の後半、大和朝廷による全国制覇が進展する中で、千葉県と茨城県の一部は「総（ふさ）の国」といわれたが、六四五年の大化改新の際に上総国と下総国の二国に分けられた。この「総」は麻を意味しているといわれ、麻を織った布は下総国や上総国の特産品として都の貴族からも大変珍重された。寺伝によれば、和銅二年

龍角寺薬師如来（白鳳仏）頭部（レプリカ）（房総風土記の丘資料館所蔵）

（七〇九）には東国最古の寺院の一つであり白鳳仏で名高い龍角寺（天竺山寂光院）が創建される。大宝元年（七〇一）の大宝律令の制定以後、律令体制が整い、本格的な統一国家が確立した奈良・平安時代には、東国は、中央政府にとって経済的にも軍事的にもきわめて重要な役割を果たしていく。「千葉」という呼称が初見された「千葉の野の兒手柏の含まれどあやにかなしみ置きてたか来ぬ」や本校の近くの農民が詠んだと思われる「天地のいづれの神を祈らばか愛し母にまた言問はむ」など、防人の歌が数多くおさめられている『万葉集』からもわかるように、房総からは多数の若者が徴兵された。この時代の周辺の遺跡としては、中台一丁目付近や囲護台のあたりから百数十軒の竪穴住居址や十数棟に及ぶ掘立柱の建物跡が出ている。

十世紀になると、土地制度は変質し、班田制が崩れる中で地方に武士団が台頭し、前述した平将門の乱と西国での藤原純友の乱（承平・天慶の乱）や、一〇〇年後には上総を舞台にひき起こされた平忠常の乱、十一世紀後半の前九年・後三年の役などが起き、その中で源氏が台頭して東国に強力な地盤を築き、十二世紀末には源頼朝により鎌倉幕府が成立した。将門の乱を鎮圧した平貞盛（将門の従兄弟）の末裔である千葉常胤は、頼朝の信任も厚く御家人の中でも特に重用され、六人の子息が「千葉六党」として北総を中心に大きな勢力を持った。しかし、頼朝の死後、御家人間の勢力争いと中世武士団としての限界から抜け出せず、豊臣秀吉の全国制覇の前に、関東の雄北条氏とともに滅亡してしまう。

織田信長・豊臣秀吉の政権を引き継いだ徳川家康は、江戸に幕府を開設して幕藩体制といわれる強固な支配体制を確立した。江戸時代の千葉県の特徴は、十万石程度までの中小の藩を配置し、譜代勢力で固めたことである。成田市一帯は、幕末には淀藩領や田安家領なども一部にはあったが、わずかな旗本領を除いて大半が佐倉藩領であった。古代から房総には、多氏などと縁のある渡来人系の人びとが住んで馬牧を経営していたが、江戸時代には、北総一帯は小金五牧（上野牧・中野牧・下野牧・高田台牧・印西牧）、佐倉七牧（内野牧・柳沢牧・高野牧・矢作牧・油田牧・小間子牧・取香牧）といわれる幕府直轄の広大な野馬の放牧地があった。ニュータウンの中台・橋賀台・加良部・赤坂のあたりは、内野牧の一部であった。この牧は、富里の七栄から成田ニュータウンにかけて二、二一〇ヘクタールの広さを持ち、約二百頭の野馬が放牧されていた。前述したように、四代将軍家綱の時に、佐倉藩主堀田正信の悪政に対して義民佐倉惣五郎の一揆が起きている。

一八六八年、明治維新によって日本は近代化へ大きく踏み出したが、下総の地は葛飾県から印旛県となり、明治六年（一八七三）六月十五日、印旛県と木更津県が合併して千葉県となった。明治二年四月には東京府と葛飾県とで「下総牧々開墾大意」が作成され、五月には下総開墾局が設置され、その後開墾会社が設立されて下総の牧の開墾が進められた。初富（中野牧、明治五年までに入植した人数は八二〇人）・二和（下野牧、同・三四六人）・三咲（下野牧、同・十余一を合併して四一六人）・豊四季（上野牧、同・十余二を合併して四五六人）・五香（中野牧、同・六実と合わせて六六七人）・六実（中野牧）・七栄（内野牧、同・六〇三人）・八街（柳沢牧、同・一、三一〇人）・九美上（油田牧、同・一二八人）・十倉（高野牧、同・三三六人）・十余一（印西牧）・十余二（高田台牧）・十余三（矢作牧、同・三八九人）の地名は、開墾が始められた順序を表している。成田ニュータウンのあたりは、明治の初めには八代村、船形村、台方村、江弁須村、郷部村などの一部であったが、市制・町村制の施行により、明治二十二年（一八八九）に郷部村は成田町に、

他の村々は、下方村など六村とともに公津村となった。日清・日露戦争、第一次世界大戦、太平洋戦争などを経て、昭和二十九年（一九五四）に成田町、公津村、八生村、中郷村、久住村、豊住村、遠山村が合併して成田市が誕生したのである。

四　成田ニュータウンの造成と成田市の発展

本校は、千葉県立成田西高等学校（現　千葉県立成田国際高校）とともに、成田ニュータウン事業の一環として設立された。

千葉県は、明治以来農林水産業を軸に発展をしてきたが、昭和二十五年（一九五〇）に川崎製鉄の誘致を決め、翌々年に京葉臨海地域が国土総合開発計画法の特定地域総合開発計画に指定されると、京葉工業地帯造成がスタートした。三十年代以降には、京葉臨海地域の埋め立てによる土地造成と京葉工業地帯の建設が進み、本県の工業振興策が本格化していった。茨城県でも、鹿島臨海工業地帯造成計画が動き出したが、昭和四十一年（一九六六）には、前年に富里地区に内定していた新東京国際空港が成田市三里塚に建設されることになった。こうした状況の中で、北総の中心に位置している成田市では、人口の社会増加による急激な都市化が予測されたため、昭和四十四年（一九六九）、成田ニュータウン事業の基本計画・基本設計が作成された。それによると、計画面積四八二ヘクタール、計画人口は六万人、住宅一万六千戸、道路、公園、上下水道、電気、ガスなどの都市基盤の整備を行い、日常の生活単位としては、八住区で編成し、各住区は小学校を中心に編成されることになった。一住区の人口は平均七、五〇〇人程度とし、原則として小学校・幼稚園・保育園・診療所・購買施設などを整え、二住区ごとに中学校・公民館・郵便局などを設置し、高校は二校設置する、というものであった。昭和三十九年（一九六四）に、八生中学校、公津中学校と成田中学校（一部）が統合して開校していた成田西中学校を含めて、昭和四十七年（一九七二）には市立向台小学校、加良部保育所が、翌四十八年には加良部小学校、中台中学校が、昭和五十年（一九七五）には橋賀台小学校、県立成田西高等学校（現成田国際高等学校）が、昭和五十二年（一九七七）には新山小学校が、翌年には吾妻小学校、吾妻中学校が、そして、昭和五十五年（一九八〇）には本校が、さらにその翌年には玉造小学校が、翌五十七年には中台小学校が、昭和五十九年には神宮寺小学校、玉造小学校が開校した。

成田市は、成田山新勝寺への参拝者の増加や新東京国際空港の開港、成田ニュータウンへの入居開始、内陸工業団地の造成などによって、さまざまな問題を抱えながらも大きな変貌と発展を見せてきた。市制が施行された昭和二十九年（一九五四）には四五、〇七五人であった人口は、本校が開校した昭和五十五年には六七、〇三八人となり、平成十一年（一九九九）には九二、七八九人と年々増加してきた。しかし、成田ニュータウンの人口は、入居が始まった昭和四十六年（一九六一）は八六人、一〇年後、本校開校の昭和五十五年には二〇、九〇一人、平成十一年には三三、〇六八人と増加しているが、バブル経済崩壊後の深刻な経済事情を反映してか、平成五年の三五、二四八人をピークにその後は毎年漸減傾向を見せている。

五　本校二十年のあゆみ

㈠　本校の創設―開校準備と草創期の基盤づくり―

昭和五十四年九月五日、本校設立に関する千葉県教育委員会議案が県議会で可決されて本校の開設が正式に決定され、同年十一月十五日には、

岩上利男委員長をはじめ八名の開設準備委員が任命された。開設準備室は、県立成田西高校（現成田国際高校）内に置かれ、以後、翌年四月十五日の開校式・入学式を含めて、同校にはさまざまなご援助・御指導を賜ることになる。

十一月二十七日に第一回開設準備委員会が開かれ、開設へ向けての具体的な準備作業が進められていった。校務分掌や年間行事予定、生徒心得などの作成とともに、とりわけ、本校教育の柱となる校訓・教育目標・校章や制服については、新しい時代に雄飛する成田の高校に相応しいものになるように心をくだいた。

開校初年度の学校運営組織・分掌は、教務部・生徒指導部・保健部・管理部・学年で構成され、特別委員会としては、企画運営委員会・学習指導委員会・生徒指導委員会・同和教育委員会が置かれた。企画運営委員会は、校長、教頭、各部・各学年の部長・主任で構成され、学校経営全般にわたる基本的な活動方針などを企画・立案し、各分掌・係などの報告を受け、それについての協議や連絡・調整を行い、職員会議にかける議案の検討や取りまとめをすることとした。また、学力検査にあたっては「学検総務」として全体を統括する任にあたっていった。学習指導委員会は、教務主任、進路指導主事、各教科主任によって構成され、本校の学習指導に関わる事項を研究協議するきわめて重要な組織であった。教育課程の編成や改善、習熟度別学習指導の取り組みとその総括・見直し、成績評価の検討と改善、さらに、留学に伴う「成績評価・単位認定制度」の一部改正、学校裁量時間のあり方やその改定に取り組み、いま、学校五日制や新たな教育課程の編成のために中心的に活動している。

開校当初は、進路指導部は進路係として、図書部は図書係として教務部の中に置かれていた。翌年度から進路指導部が独立し、保健部が保健厚生部と改称され、購買活動などにも取り組み始めた。昭和五十八年度からは、特別委員会としてＨＲ運営委員会・部活動推進委員会・図書選定委員会が設置され、翌五十九年度に教務部から図書係と視聴覚係が図書部として独立し、図書選定委員会が図書館運営委員会として改組・改称された。昭和六十年度には体力向上推進委員会と五周年記念委員会が設置され、平成元年度には創立十周年記念事業校内実行委員会が置かれて、十周年事業の準備活動が進められていった。なお、平成二年度には、学年主任会が設けられ、学年行事やＬＨＲ活動についての連絡調整や研究協議を行うとともに、適宜、林間学校・遠足・修学旅行など、学年が主体となって進める学校行事のあり方、見直しについても、その任にあたってきた。この年、コンピュータ委員会も設置されて、社会の情報化に伴う情報教育の推進のあり方が検討され始め、同四年度からは情報教育推進委員会が発足している。

校訓と教育目標については、「知育・徳育・体育」の調和を基本にした人間形成を目標にして、自学自習の態度を育成し、教育機器を積極的に導入・活用しながら、新しい時代に対応した教育の実現を目指し、校訓として「自律・協調・健全」を掲げた。また、教育目標としては、

一、一人ひとりの生徒を尊重し、個性の伸長と能力の開発を重点に自主・自律の精神を持つ青年の育成に努める。

二、社会連帯の精神を養い、勤労と責任を重んじ、協調性に富む青年の育成に努める。

三、心身ともに健全でたくましい実践力のある青年の育成に努める。

の三つを設定した。

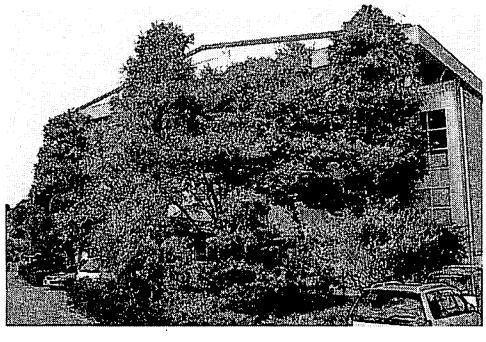
校章は、本校の敷地が、前述したように自然堆積の貝化石層を含む更新世後期の成田層を掘り崩して造成してあったために、貝化石が台地中

腹の露頭に堆積していたり、校舎の周辺に散乱していたのを目にして、三枚の貝殻と三本の成長線を図案化したものとした。三枚の貝殻と三本の成長線は、本校の教育理念である「知育・徳育・体育」と校訓「自律・協調・健全」を実現するために努力する若者の成長を示し、中央には校名「成田北」の「北」の字を配し、国際空港都市成田から世界に飛び立つジェット機に模して、未来に向けて発展する生徒の可能性を表現したのである。

制服は、成田に新設される高校にふさわしく、あか抜けしていて、洗練されたセンスがあり、国際的な感性を感じさせるものを作ることにした。成田市内の制服業者四店をも交えて協議し、試作を重ねた結果、男女とも濃紺のブレザー型とし、男子の上着はアウトポケット、ズボンの柄は千鳥格子、女子のスカートはジャンパースカートとした。ネクタイは、男女統一のブルーとし、防寒用のコートはシングルのスクールコートで、色は紺とベージュの二種類として希望制とした。この制服は二十年間着用され続けてきたが、本年度、創立二十周年を迎え、折しも二十一世紀を前にして、本校の制服の見直しと検討がなされた。制服と合わせて、通学バッグや体操服、上履きなども決められたが、白地に紺で校名を入れたスポーツバッグは、「北高バッグ」の愛称で親しまれたが、後述するように現在はどのようなバッグを使用してもよいことになっている。

こうして、校舎の建設や施設の整備とともに教育体制も整えられ、募集定員一八〇名に対して男子一五三名、女子八九名の二四二名（倍率一・三四倍）の志願者を得て、二月二十八・二十九日に当時の成田西高等学校で入学学力検査が実施され、一八八名（男子一一八名、女子七〇名）の入学許可候補者を発表した。なお、校舎は、三月三十一日に第一期工事の普通教室・特別教室棟（現南校舎）が完成したが、普通教室二四室、特別教室四室であった。

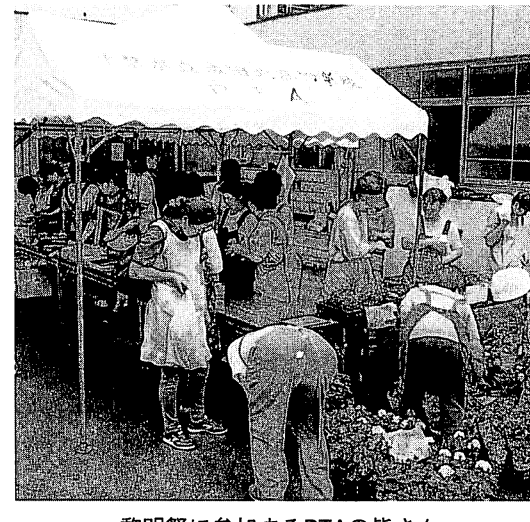
本校の校舎の完成を見たのは昭和五十六年度末であった。その年度の入学式は、初年度同様県立成田西高等学校（現成田国際高等学校）の体育館をお借りしたが、この年の七月二十三日には、第二期工事としての体育館・格技場が完成、ひき続いて八月六日には、管理・特別教室棟（現北校舎）の第二期工事分が完成し、さらに、翌年の一月五日には管理・特別教室棟の第三期分も完成して、ここに本校の校舎建築は完了したのである。翌年度には、校門並びに校地舗装工事も完了し、三〇学級規模の生徒を迎えることの出来る学校としての体制を整えたのである。あわせて、保護者の方々のご厚意とご協力によって、約五〇種、大小五〇〇本の植樹も行われ、本校の緑化も一気に進んだ。体育館の西側には、本校竣工記念樹としてメタセコイアが、生徒諸君・教職員の手で植えられた。メタセコイアは、生きている化石として話題になった木で、貝化石層に囲まれ、日本・アメリカ・中国の学術研究と交流の国際性と「アケボノスギ」の和名が新設校としての本校にふさわしいと、岩上校長は述べている。この年の十月三十日、校舎落成記念式典が本校体育館で挙行された。


開校記念植樹された20年後のメタセコイア

初年度の職員数は二一名であった。四月七日の職員会議を皮切りに連日

の会議を経て、教育目標・校訓・努力目標をはじめ校務分掌・年間行事予定・時間割・日課表・生徒心得などを決め、四月十五日の開校式・入学式を県立成田西高等学校（現成田国際高等学校）の体育館をお借りして開催した。まず、寺田欣一千葉県教育委員より「ここに千葉県立成田北高等学校を開校する」との開校宣言があり、ひき続いて岩上利男校長より一八八名の入学許可が行われた。岩上校長は、式辞で「名誉ある第一回生として、本校の輝かしい歴史の冠頭を飾り、良き校風や伝統を築く責務を自覚」してほしいと強調し、校訓の「自律・協調・健全」の体現を訴えた。その中で、自律は、「自分の規範を持った自主積極的な正しい行動力」であるとし、協調は「一人ひとりが本校を代表する一員であるとの自覚で、学校のこと、相手のことを考えて協力し、責任を果たす誠意」であるとし、健全は「心身の健康と安全に努め……これらの徳性や体力の上に養われる知識や技能こそがまさに豊かな人間性」であると説いた。

五月十日には、ＰＴＡの設立準備委員会も発足し、六月十四日に設立総会を迎えた。総会では、青少年や学校をとりまく社会環境の変化に対応して、親と教師（学校）が手を携えて力を合わせることが確認された。以後今日まで、本校のＰＴＡ活動は、Ｐ（保護者）とＴ（教職員）はそれぞれの役割と責任を相互に尊重してきわめて緊密な協力関係を維持してきた。研修委員会、広報委員会、校外指導委員会の設立と活動、一学期に行われる保護者とホームルーム担任との面談、二学期の学年ＰＴＡの開催だけでなく、必要に応じたＰＴＡの理解と協力は、本校の教育環境の充実のために大きな役割を果たしてきた。とりわけ、開校初年度の秋には、荒涼とした校庭に緑のうるおいをということで、久住地区の方々から一〇一本ものツゲの木が寄贈され、十月十六日、保護者・生徒・職員が一丸となって植え込み作業を行った。



黎明祭に参加するPTAの皆さん

各ホームルームから選出された委員によって設立準備が進められてきた生徒会は、一学期も押しつまった七月三日に設立総会を開催するにいたり、同月十五日には、第一回生徒会役員立会演説会と投票が行われ、本校生徒会の発足を見たのである。以後今日まで、多少の紆余曲折はあるが、文化祭（黎明祭）をはじめとした諸行事への取り組みだけでなく、学校行事への協力や、なによりも日常的な学校生活における生徒諸君の活動の核として、さらに、同一学年はもとより上級生・下級生の人間関係の理解と親密化を図る上できわめて大きな力を発揮してきた。生徒会設立を実現させた各ホームルーム選出の委員は、部活動の結成にも尽力し、初年度から吹奏楽、写真、科学、サッカー、柔道、卓球、硬式テニス、バレーボール、野球、陸上の一〇部とゴルフ同好会を発足させていった。

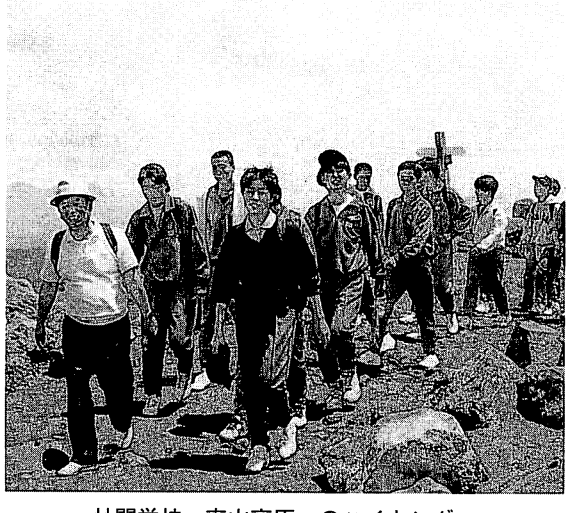
本校の校旗・校歌制定式は、開校初年度の十一月二十二日、成田市中央公民館で行われた。校旗は、九〇〇×一、三五〇ミリメートルの正絹綾錦西陣織の生地の中央に、校章を純金糸総刺繍「北」市松盛上刺繍共

色縁取り刺繍で入れた大変豪華なものであった。校歌は、作詞を沢田繁二先生、作曲を寺内昭先生にお願いし、成田の歴史と文化をベースにして若い心をとらえる新鮮さとリズム感を持った、格調の高い、感動的な校歌を作っていただいた。制定式の式辞の中で岩上校長は「校歌の大意は、国際空港都市としての成田市に、新しい時代の幕開けとともに新星のように誕生し注目を集めている北高生は、自らに厳しく、知識を磨き、向上を期して力を合わせ、心身を鍛えて優れた学園を築き、未来へ羽ばたこうとおしえてくれております。建設の意気に燃える現在の本校にも、また、発展を続けて歴史や伝統を築くであろう未来の本校にとっても、力強く格調の高い歌詞であり曲であることを諸君は誇れるのであります。」と讃えた。いま、本校体育館正面の向かって左側壁面に、大きな校歌のレリーフが掛けられている。これは、昭和六十三年度の第七回卒業生諸君の卒業記念として、三年生の大木田由美子さんが揮毫し、三年生全員と当時の職員が刻字を少しずつ分担して仕上げたものである。

(二) 四学級から六学級・七学級・十学級へ

―意欲的な学校生活、諸行事への取組み―

年間行事としては、林間学校、遠足、作文指導などとともに、球技大会・スポーツ大会にも力をいれることとした。とりわけ林間学校は、自然とのふれあいの中で学校生活のうるおいと喜びを得るとともに、生徒間、生徒諸君と職員間の親睦と理解を深め、一日も早く学校としての体制や内容を充実することを目指したものであった。初年度は、七月二十七日から二十九日までの二泊三日の日程で、富士山麓の富士緑の休暇村で実施した。この林間学校は翌年度も富士山麓で行われたが、三年目、四年目は磐梯高原で、五年目は河口湖で実施したが、六年目以降は、昭和六十二年度（八年目）に河口湖で実施した以外は、長野県の蓼科高原に変更した。開校当初の四学級から、昭和五十八年度には六学級へ、昭和六十一年度には七学級へ、さらに、二年後の昭和六十三年度には十学級へと本校の規模が拡大したために、宿舎の確保や林間学校の内容・日程など、さまざまな問題点も出てきて、継続の是非が問われる状況となった。しかし、自然とふれあい、学校生活への適応を促すとともに、生徒間や生徒と職員の人間関係を深める役割の大きさを考慮し、十学級になってからも継続したが、後述するように、平成七年度を最後にしてさまざまな問題点が指摘されるにいたり、中止に踏み切らざるを得なかった。



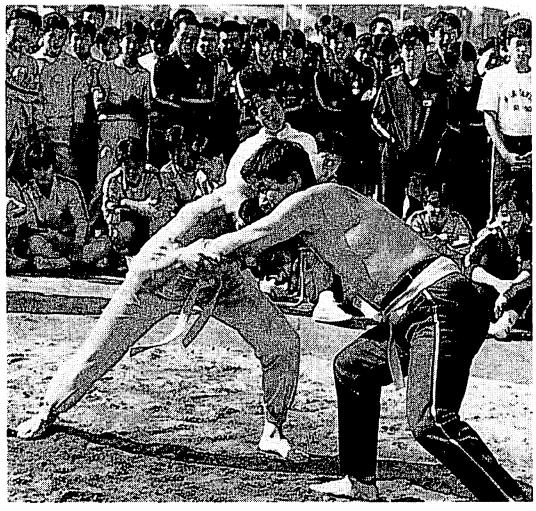
林間学校―車山高原へのハイキング―

遠足は、ホームルームの親睦と体力の向上、身近にある郷土の文化財にふれることを目的にして隣接する栄町にある千葉県立房総風土記の丘へ徒歩遠足を実施した。

遠足は、三年目以降、一年生が県立房総風土記の丘への徒歩旅行（昭和五十八年度は筑波山へ、五十九年度は林間学

校）、二年生が上野公園での博物館見学やレクリエーション、三年生が工場見学やディズニーランドというように一応のパターンを持って行われるようになった。ただし、昭和六十年度には、全校で筑波国際科学技術博覧会（科学万博）へ、平成元年度には、二・三年生が横浜博覧会へ行った。

開校一年目の一学期末の七月十七日には、体育館もなくグランドも整備されていない状態であったが、そうした条件を苦にすることなく、生徒・教職員一体となって実に楽しく球技大会が実施された。二学期（十月九日）には、さらに規模を拡大してスポーツ大会が行われた。以後、時期や内容には多少の変更も行われたりしているが、毎年、球技大会・スポーツ大会ともに、体育委員や関係部活動の部員の協力とリーダーシップにはすばらしいものがある。また、耐寒マラソン大会も初年度から実施された。その後、本校の耐寒マラソン大会は一・二年生を対象に行われていくが、生徒諸君が自分の体力・体調・身体的条件に合わせて、寒風をついて精一杯走りきる姿はさわやかであり、感動的である。



スポーツ大会―職員も参加しての相撲大会―

毎年行われているスポーツテストは、昭和五十八年度までは本校のグランドで行われていたが、翌年から市営の中台陸上競技場で行うようになった。千把ヶ池を埋め立てて造成した本校グランドの水はけは悪く、競技に打ち込む条件としてはきわめて良くない。タータントラックの恵まれた競技場でプレーすることにより、集中力とともにスポーツに対する興味や喜びを高めるとともに、生徒諸君の潜在的な能力を引き出し、個々の生徒の記録も大幅に伸びて、運動能力章合格者がそれまでの十数名から百名前後に増加していく。しかし、スポーツテストの種目の変更などにより、平成十一年度からは、また本校のグランドや体育館で実施することになった。

本校の中心的な行事となっている文化祭（黎明祭）は、初年度は生徒会主催の「文化月間」として、一月十九日から二十九日までの十一日間にわたって取り組まれた。大変バラエティーに富んだユニークな催しで、のど自慢大会や百人一首大会、自由展、職員展など、小規模ではあったが、

黎明祭―「下総栄太鼓」のみなさんによる和太鼓の演奏―

生徒諸君全員が参加しエネルギーあふれる催しであった。初年度から生徒会を中心にして発揮された積極性と行動力が、二年目以降の黎明祭へと結実していく。本校生徒会の日常的な活動と努力は、本校生徒の活力とまとまりを語る上で、きわめて重要な役割を担ってきたことは改めていうまでもない。開校三年目からは、生徒諸君からの希望をふまえて、年二回の映画鑑賞会などにも取り組んでいった。

修学旅行は、二年目の秋から実施された。二年生が、十月二十五日から二十八日までの三泊四日の日程で奈良・京都方面に出かけた。四期生からは広島にまで足を伸ばし、広島の「歴史」と奈良・京都に息づく日本の文化にふれた。六期生は、趣を変えて岩手・青森・秋田を訪れ、東北の自然と文化、生活にふれる機会を持ったが、十期生からはウインタースポーツとしてのスキーに親しむ体験旅行に切り換え、現在まで続いている。スキー修学旅行は、雪国の美しさ・厳しさとそこに息づく文化と生活を体験するとともに、スキーに親しみ、その技能を身につける達成感を味合わせたいという目的で取り組まれてきた。近年、県の修学旅行に対する施策にも変更が見られ、航空機の利用なども認められるようになったが、本校も創立二十周年を機に、修学旅行の一層の充実を目指して、修学旅行の見直しを具体化しつつある。

雪をついて—スキー体験修学旅行—

開校二年目の秋、本物のすぐれた文化を直接親しむことの重要性を顧慮して、年間行事の一つとして芸術鑑賞会を実施することにした。十月十六日、成田国際文化会館で成田園芸高等学校と合同で、モリエール作の『町人貴族』を鑑賞した。観劇後に成田山新勝寺の光輪閣を見学し、御内仏殿では弘法大師作と伝わる秘宝波切不動尊を拝観させていただくという貴重な機会に恵まれた。第四回芸術鑑賞会では、小見川町野田芸座連による無形文化財小見川囃子を鑑賞したり、第五回では能・狂言に親しみ、第八回では林家木久蔵一門の落語や漫才を楽しんだが、演劇鑑賞と音楽鑑賞と古典芸能鑑賞をほぼ三年一サイクルで実施していくようにした。しかし、学校規模が十学級になったために、本校体育館での芸術鑑賞の無理が明らかになり、平成八年度から成田国際文化会館で実施することとした。ところが、当該会館の収容人員が一、二〇〇名のために三箇学年を対象に実施できず、やむをえず一学年は遠足、二・三学年は芸術鑑賞という方式で実施している。内容も、演劇鑑賞と音楽鑑賞か古典芸能鑑賞を交互に実施することを原則とすることにした。

初年度から夏期の長期休暇を活用して取り組まれた読書感想文指導は、二年目に発表会を実施するという意欲的な試みを行ったが、こうした前向きの姿勢が、昭和六十二年度からの読書感想画指導への取り組みに発展し、平成元年度（一九八九）には、読書感想画中央コンクールで最優秀賞を獲得するという大きな成果を上げていった。

昭和五十八年度から、本校は四学級規模から六学級規模となり、男子

一三七名、女子一三四名、計二七一名の新入生を迎えた。さらに、三年後の昭和六十一年度には七学級規模となり、男子一七六名、女子一四四名、計三二〇名の新入生を、そして、二年後の昭和六十三年度には十学級規模となり、男子二五一名、女子二一九名、計四七〇名になったのである。本校の規模拡大のテンポは、驚くほどの早さで進められた。こうした急激な変化に混乱と後退をもたらさずにいかに対応するかが、職員全体に厳しく求められていったのである。

六学級規模となった林間学校は、裏磐梯高原で七月下旬に行われたが、この時期の林間学校はこの年が最後であった。それは、本格化した部活動がこの時期に合宿などを実施することが多くなり、部活動育成のために林間学校の時期を変える必要が出てきた。林間学校の果たしてきた教育的な意義を考慮して、時期を早めた方が良いとの判断から、五月か六月に実施することにした。授業への影響を少なくするために、翌年から一学期の中間考査と二・三学年の遠足を日程的に組み合わせて行うようにした。しかし、この時期の変更は、年度始めの諸業務とともに、生徒との面談、保護者との面談、進路説明会など、他の重要な行事との兼ね合いとともに、中間考査の前後に実施することにより、学習への集中力や学校生活に対する落ち着きを失わせることにならないか見ていくことの必要性が生まれた。六学級になった時と十学級になった時に検討したが、人間関係が薄れ、歪められる状況が強まる中で、新入生諸君が学校生活になじみ、友人関係を親密化させる価値は小さくないとの判断から続けて実施することにした。

六学級になった四年目の冬休みに、希望者を対象に第一回スキー教室が、信州車山高原スキー場で開催された。また、この年の第四期生徒会役員は、黎明祭の一般公開へ向けて積極的な論議を提起していった。初年度の文化月間に始まる文化祭への努力と熱意が、開校五年目にして一般公開を実現させ、五〇〇名からの一般の入場者を迎えることが出来た。

七学級規模になる前年に、開校以来続けてきた英語・数学の習熟度別クラス編成の是非について検討された。二クラスをα・β・βの三クラスに分けて、成績によってαクラスとβクラスの一部を入れ替えるという指導方法は、一クラス三〇人前後であったため、一人ひとりの生徒に目が行き届き、学力に応じた指導が出来るという利点があったが、クラス編成の困難さやβクラスの生徒の受けとめ方にも問題が生じ、この年に数学が、翌年には英語もこの方式をやめて自然学級での指導に切り換えた。教育課程についても、昭和六十一年度から英語の習得科目の組み替えと、三年文化系の芸術三科目（音楽・美術・書道）に確率・統計を加えて、そこからの一科目選択とした。

㈢ 三十学級大規模校としてのあゆみ

一挙に学年十学級規模となった昭和六十三年度からは、芸術科に工芸を加えて四科目から一科目を選択することにした。また、三年文化系の選択科目（二単位）にさらに国語表現と英語ⅡAを付け加えた（英語ⅡAは理科系の選択科目ともした）。必修クラブについては、三年生は、全員を進路クラブに所属させ、進路指導の時間として活用することにした。さらに、平成二年度（一九九〇）からは、以前から指摘されていた必修クラブ指導の困難性を解消し、あわせて部活動を育成するために、一・二年の必修クラブを部活動に連動させることにした。そして、映画研究同好会と空手道同好会を部に昇格させ、工芸・調理・華道・茶道・ペン字・郷土研究・少林寺拳法が新たに同好会として発足した。なお、演劇同好会は昭和六十三年度には部への昇格が認められている。

防災訓練―２年生は消火器の実地訓練―

年間行事にも一定の変更が必要になった。平成元年度からは、一学期末に行われていた球技大会は、期末考査の答案指導と組み合わせて学年別に実施し、出来る限り多くの生徒が参加できるようにした。防災訓練も、従来は一学期末に避難訓練と一年生の救助袋の実地訓練、九月一日に防災講話、二学期末に避難訓練と消火器の実地訓練という方式を実施してきた。しかし、さまざまな災害が各地で多発している状況にいかに備えるかが緊急の課題になっている中で、十学級規模になった本校で、生徒にとって内容のある訓練とするために、九月一日に防災講話を実施し、二学期の十月か十一月に、全校生徒諸君の避難訓練後に、一年生は救助袋の実地訓練、二年生は消火器の実地訓練、三年生は防災映画と講話という、三年間を一サイクルとする総合的な訓練を実施することにした。日常的な清掃や除草についても、七学級規模までは毎日全員で清掃に取り組んできたが、十学級規模になると人数が多過ぎて掌握しきれないという状況が生まれ、当番制に切り換えた。除草もグランドを除く校舎周辺の植え込みなどを中心にして、クラスごとに年間を通して分担することにした。

生活指導の面でも、社会状況の変化などもふまえて、昭和六十三年度から長期休業中のアルバイトを原則として届出制にして、生徒諸君との信頼関係を深めながら、自主的に余暇の活用に努めるとともに、勤労の意味と社会的な責任感を培うこととした。ここには、学校に無断でアルバイトをして特別指導を受けるような生徒は出さないようにするとの配慮があった。また、翌平成元年度から、女子の開襟シャツの着用と、アンケート調査を基にした生徒会の要望を受けて黒のストッキングの着用（十月～翌年三月）を認めた。生徒諸君との信頼関係を基盤にして、生徒諸君の自主性を尊重しながら、生徒諸君の自覚を促していくという指導方針は、特別指導を受けた生徒諸君に対する処理にも生かされていったのである。

昭和五十七年秋から佐倉市や印西市のロータリークラブの依頼を受けて、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなどからの交換留学生を受け入れてきたが、本校からも昭和五十八年には西山麻由さんがアメリカへ、六十年には丸山知栄さんが、翌年には早川利恵さんが、六十二年には近藤桂子さんもオーストラリアへ留学し、六十三年の與世里幸子さんと平成二年の岩崎力君はニュージーランドへ留学していたが、「県立高等学校管理規則」の一部改正をふまえて、平成二年度には本校の「成績評価・単位認定等の規定」を変更し「留学」の項目を追加して、本校での高校生活の中に積極的に海外留学を位置づけるようにした。

なお、現在も北校舎一階通路で橋本商店のパン販売が行われているが、それは、十学級規模になった昭和六十三年五月からである。弁当持参を指導の原則にしているが、用意できなかった生徒諸君には安全なものを市価よりも安く提供してもらい、落ち着いて学校生活に専念してもらう

とともに、その収益が経営者の橋本妊壽奈氏を中心にした国際交流活動（来日した外国人の日本語教育）の資金として活用されることに共鳴したからである。しかし平成十二年九月からは、パンなどの購入先が航空会社の機内食を製造していたＴＦＫからユアサ・フナショクパンに切り換えられた。

㈣　創立十周年記念を祝し、さらなる発展を期す

前述したように、昭和六十三年度から募集定員が十学級規模となった本校は、平成二年度には三箇学年三十学級となり、大規模校としてのあゆみが始まったが、この年は創立十周年記念式典をはじめさまざまな記念事業が取り組まれた。その基本方針は、①本校創立十周年の記念すべき節目を迎え、母校の歴史と伝統に対する認識と自覚を深め、母校への愛着と誇りを涵養するような、生徒諸君にとって有益なものになるようにする。②記念式典をはじめ記念の諸事業は簡素を心がけ、儀式・形式面について華美にならないようにする。③記念事業の実施にあたっては日常の授業に支障が出ないように十分に留意する。④記念事業を行うための寄付行為は一切しない、というものであった。

この方針に基づいて、記念行事としては、①吹奏楽部記念演奏会を六月十七日に成田国際文化会館で実施する。②恒例の芸術鑑賞会を記念行事として、十一月十四日に成田国際文化会館で実施する。前進座の『さんしょう太夫』を午前・午後の二回公演し、生徒諸君・教職員はもとより、保護者・同窓生等もお招きして鑑賞する。その際、本校創立十周年の記念式典をあわせて行い、十周年記念の意義を明らかにする。③秋のスポーツ大会を体育祭として実施し、スポーツを通して生徒諸君の親睦を深めるとともに、地域との親密化を図るために近隣の中学生の代表を招待し、本校の保護者ともども競技に参加してもらう。④文化祭（黎明祭）も記念行事として取り組み、ＰＴＡも一団体として参加してもらう。

記念事業としては、①十周年記念のブロンズ像『海へ』（製作者・綿貫ひろ子先生）の建立。この像は、昭和六十年の第一回現代具象彫刻展に入選された作品で、「人間の持つ生命感や強さを求めて大地にしっかりと立ち、海にかこまれた千葉のこの土地、その海へ向かって広がりや発展を願ったもの」（ブロンズ像『海へ』について―綿貫ひろ子先生）である。②『千葉県立成田北高等学校』の案内標識を二カ所設置する。③十周年記念誌『黎明十年』を発行する（平成三年三月九日発行）。④同窓会会員名簿を発行する（平成二年七月発行）。その他、生徒・職員から募集して応援歌を作る計画もあったが、この計画は実現されなかった。しかし、全体として、芸術鑑賞会や黎明祭、体育祭をはじめとして十周年記念事業は、生徒諸君や保護者の皆様に大きな感動と思い出を残してくれたといってよいであろう。

㈤　一九九〇年代における本校のあゆみ

①深刻化する教育環境

この十年間は、国内外の社会情勢とともに、学校をはじめ教育をとりまく環境にも激しく、厳しい動きと変化が見られた。その一つは前述したように、一九八〇年代末から九〇年代にかけて減少傾向を見せ始めていた児童・生徒数は、経済の「バブル」現象がはじけるのとほぼ軌を一にして急激な減少傾向に移行したのである。それは、平成元年に一・五七という低率を見せた日本の合計出生率（ＴＦＲ）はその後も低下状況を続けているためである。千葉県並びに成田市周辺の動向にも共通する傾向がはっきりと現れている。

印旛地区における小・中学校の児童・生徒数の推移を見てみると、平成元年度には小学生数が四七、九〇四人、中学生数が二六、九八九人であったのが、平成五年度には小学生は四八、七五五人と若干増えてはいるが、中学生は二六、一四二人と減少傾向が続き、平成十年度には小学生が四四、四六四人、中学生が二五、一三六人と大幅な減少を見せ、平成十二年度には小学生四二、一八二人、中学生二三、〇六七人と更に減少し続けている。この十年間の小学生の減少率はなんと一三・三%、中学生は一三・六%という大きな減少傾向を示しているのである。

本校の生徒諸君の動向で注目されるのは、予期しない状況も作用して、平成四年度には初めて定員割れとなり二次募集を余儀なくされた。生徒諸君の学習面や生活面での後退を起こさせないように、職員も生徒諸君も努力して進路関係でも注目される成果を上げることが出来た。また、この十年間で、本校を志願する中学生の動向にも一定の変化が見られる。それは、平成元年（一九八九）頃までは、成田市内の中学校出身者が昭和六十年度の五九・一%をピークにして定員の五〇%前後を占めていたが、平成二年度頃から急激に減り始めて、平成七年度の二六・五%、同十一年度の二六・四%を最低にして三〇%強という状況になっている。一方、佐原市内の中学校出身者は、昭和六十三年度まではほぼ五%以下であったが、平成元年度頃から増え始めて平成七年度の一八・六%（七五人）をピークに毎年十数%を維持している。出身中学校数は、定員割れを起こした平成四年度には五〇校を数えたことを例外として、一学年十学級規模になってからはほぼ四〇校前後で安定している。

社会状況の変化、家庭環境、とりわけ親子関係を中心にした家族の人間関係の希薄化と歪みが進み、小・中・高の全般にわたって生徒集団の解体、人間関係の軋轢が深刻化し、いじめの日常化と悪質化、登校拒否や不登校、中途退学、学校生活に起因していると思われる自殺の増加、さらには学級崩壊の広がり、青少年の犯罪の頻発と凶悪化など憂慮すべきさまざまな事態が起きている。

全国各地で深刻ないじめが頻発する中で、平成七年十二月十八日には本県教育長が「いじめの問題への取組の徹底等について（通知）」を出し、生命尊重の教育に関する指導の充実と教師と児童生徒、児童生徒間に好ましい人間関係を育成し、学校が児童生徒にとって生き生きと安心して過ごせる『心の居場所』となるように求めた。平成八年一月三十日には、いじめ問題に関して文部大臣が「緊急アピール～かけがえのない子どもの命を守るために～」を発し、子どもたちが決して自ら命を絶つことがないように、いじめによって友だちを傷つけることを絶対にしないように、親や教師、地域の大人たちが、子どもの世界に起きている深刻ないじめに真剣に立ち向かうように訴えた。本校でも、平成八年一月十日、こうした社会状況に対応するために生徒指導委員会（七名）と教育相談担当者、養護教諭の九名で「いじめ対策委員会」を設置し、一月二十二日には「教育相談委員会」と改称した。二月一日には本校生徒の状況を把握するために「いじめに関する意識調査」（一年生二〇九名、二年生二〇九名、三年生一四七名を抽出）を実施した。それによると、小・中・高校の時にいじめられたことがあると答えた生徒諸君は一七七名（三一・三%）、いじめられた時期は、小学生の時が一〇三名（五八・二%）、中学生の時が九三名（五二・五%）、高校生の時が二五名（一四・一%）であった。いじめの内容は、暴力・言葉・無視などの仕打ちであったが、いじめられた生徒諸君が誰にも相談できていない場合が多かったということである。本校の生徒諸君の人間関係は、同学年の間でも上級生と下級生の間でも日常的に落ち着きと穏やかさに満ちていると

思われていたが、入学以前に三〇％近くの生徒諸君がいじめに遭っていること、三一五名（五五・八％）の生徒諸君がいじめの場に遭遇していること、少ないとはいえ本校に入学後も一五％近くの生徒諸君が「いじめ」を受けたと受けとめていることなど、教育相談委員会はもとより学校として十分な心構えと対応が求められた。翌八年度以後の教育相談委員会は、保健厚生部の教育相談係と養護教諭、各学年主任、生徒指導主事、生徒指導部生徒会係の七名で構成されることになった。

文部省の調査によれば、平成十一年度の小・中学生の不登校は一三万人を超え（一三〇、二〇八人）、過去最高の数字を示している。本県でも、小学生が九二四人（前年度より七九人増）、中学生が四、三四七人（同九二人増）となっている。また、昨年度の公立の小・中・高校での暴力行為も、三六、五七七件（校内三一、〇五五件、校外五、五二二件）と、前年度よりも三・八％増加して過去最高となった。小・中・高の件数の割合は、小学校が四・六％、中学校が七六・八％、高校は一八・七％となっている。校内暴力も初めて三万件を超えている。さらに、公立校のいじめの報告件数は三一、三六九件で、小学校が九、四六二件（三〇・二％）、中学校が一九、三八三件（六一・八％）、高校が二、三九一件（七・六％）、盲・ろう・養護学校一三三件（〇・四％）となっている。本県の報告件数は、暴力行為が七八二件、いじめが二、八五九件である。二十一世紀を前にして、次の世代の世界に不気味な軋みが広がっているといえるかもしれないのである。

別稿で詳述するが、本校では創立十周年を記念して、平成二年度からほぼ毎年、新入生諸君と保護者の方にアンケート調査を実施してきた。アンケートで「本校への印象」を尋ねているが、平成二年度の新入生諸君の回答では「まじめな生徒が多く、明るく生き生きした雰囲気」という回答が一六・七％、「生徒の人間関係がよく、安心して過ごせる」が二四・八％で合わせると四〇％を超え、保護者の方も前者が三五・〇％、後者が一九・〇％であった。この傾向は、その後の調査でもほぼ同様の数字を見せ、本年度の新入生諸君の場合でも前者が二〇・六％、後者が二五・六％、保護者の方も前者が二四・一％、後者が二一・三％であった。入学後の本校の教育に対する期待でも、「生徒同士の交流が活発に行われ、豊かな人間性が育まれる」という回答が、平成二年度新入生諸君が四二・四％、保護者の方が二三・二％（保護者の方は、「先生と生徒のふれあい、人間味ある学校」を期待する方が三五・〇％もいた。）であったが、本年度の新入生諸君も実に四二・四％、保護者の方が三二・二％（同二七・九％）にも達し、地域の中学生や保護者の方の本校を見る目、期待をうかがわせて身の引き締まる思いがする。

②「国際化」と「情報革命」に対応して

この十年間は、「国際化」への対応が強調され、実態の冷静な分析と的確な方向性が探られる余裕がないままに、「国際化」への動きが加速してきた。本県でも中国等引揚者子女の特別入学者も増加し、昭和六十三年度には一二人、翌年度には一六人を数え、本校でも中国からの帰国子女である女子一名の入学者を迎えた。また、海外留学にともなう学年終了の認定についても制度の弾力化を進め、海外での学習状況を積極的に評価し認めていく方針に改められた。平成元年には学習指導要領も改訂され、高校英語科の細分化、社会科の地理歴史科と公民科への改変と世界史学習の重視が行われた。その是非はともかく、最近では小学校教育への英語教育の導入や英語の「第二公用語」化の動きなども起きている。

さらには、国内外で加速度的に進む情報産業の発達、社会の情報化という激流ともいえる波に、学校教育や学校現場がいかに対応するのかが問われ続けている十年間でもあった。前述したように、平成二年度からコンピュータ委員会が置かれて学校教育と学校運営にどのように位置づけられるかを検討していたが、平成四年度からは情報教育推進委員会として本格的な取り組みを始めた。また、本校では、昭和六十一年度より図書館にいち早くパソコンを導入して、パソコン・システムによる図書館運営の推進を心がけてきたが、平成元年度には、県教育委員会の「特色ある学校づくり」の研究指定校となり、パソコン七台を設置して書誌情報検索システムを完成した。図書館内の四台のコンピュータがパソコンＬＡＮで結ばれ、貸出・返却手続きをはじめ、開放端末による資料検索が自由に行えるようになり、さらに、国語科、社会科、理科の準備室に、図書館と共通のデータを内蔵したコンピュータが配置され、図書資料の検索などに活用されている。平成四年十二月には、それまでの南校舎三階東端の社会科教室をＣＡＩ（Computer Assisted Instruction）教室として改造し、教師用のコンピュータ一台と生徒用のコンピュータ四五台をはじめプリンターなどの諸施設を整え、平成六年度からは商業科情報教育科目を設置した。平成十年九月からは本校がインターネットと接続され、時間的な制約はあるが、生徒諸君も図書館などのパソコンでインターネットを利用できるようになった。ＰＨＳや携帯電話も急速に普及し、生徒諸君の人間形成や人間関係、社会意識にも大きな影響を与えているが、学校教育が、基礎的な学力の増進、学習意欲の向上や人間性の涵養などの課題に応えながら、情報産業の発達や社会の情報化に対応する情報教育とどのように関わり合うのかが厳しく問われている。平成十三年一月からは、ＣＡＩ教室の教師用パソコン本体（二台）・生徒用パソコン本体（四〇台）をはじめＷＥＢサーバー本体など、施設・設備が一新され、生徒用パソコンがＬＡＮで接続されるとともにインターネットの利用にも対応できるようになった。

③基礎学力の一層の充実と多様な進路希望の実現を目指して

こうした社会・教育環境の激変の中で、平成元年（一九八九）、学習指導要領の改訂が実施され、平成六年度からの導入が求められた。その「一般方針」によれば、教育課程は「生徒の人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態、課程や学科の特色、生徒の心身の発達段階及び特性等を十分考慮して」編成されるものとされた。制度面での大きな変更点は、必修科目を精選し、履修科目の選択制を拡大するとともに、社会科を解体して地理歴史科と公民科を設置する、理科に「総合理科」を設置し、科目全般を細分化する、家庭科を男女共修とする、英語科におけるオーラルコミュニケーションを導入する、海外からの帰国生徒については外国での生活経験を生かすこと、などである。その中で、「新学力観」という言葉の下に「学力」のとらえ直しを行い、「自ら学ぶ意欲」や「個性を生かす教育」を重視することが強調された。また、平成五年度からは、将来的には学校五日制を念頭に置いて、四週五休制が導入され、第二土曜日が休日になった。本校では、授業時数の確保を維持するために、第二土曜日の授業を基本的には金曜日の六時限に振り替えて対応した（行事との関係などで水曜日に振り替えることもあった）。さらに、平成七年度からは、第二・第四土曜日が休日となる四週六休制となり授業時数の確保に苦慮したが、本校では、第一・第三・第五水曜日の四時限をロングホームルーム、五・六時限を授業とし、第二・第四水曜日の四時限を授業、五時限をロングホームルーム、六時限を

学校裁量の時間として、第二・第四土曜日の授業を吸収して対応することにした。

本校では、平成三年度から学習指導委員会を教育課程検討委員会として位置づけ、あわせて企画運営委員会や職員会議で本格的な検討に入った。その際、児童・生徒の減少が進む中で、駅からの距離など通学条件の問題点を考えると、本校の将来像は決して安直なものではないとの危機感もあり、なんとしても特色ある学校づくりにつながる教育課程を編成したいとの思いが強かった。そうした問題意識から、進学指導を充実させるためのコース制や習熟度別クラス編成、選択科目の大幅な拡大などが必要ではないかとの検討を行ったが、地域住民や本校への志願者の希望や期待などを分析し、あわせて開校時に実施した英語・数学での習熟度別クラス編成の問題点などを考慮すると、むしろどのような進路希望にも対応しうる基礎的・基本的な学力の一層の充実、意欲的な学習習慣の涵養が求められているのではないかとの結論に至った。こうして、二年次で従来の芸術科に加えて、地理歴史科、国語・数学科、理科などで選択制を採用し、三年次では今まで通り文科系・理科系の二類型を維持するとともに、それぞれの特徴をさらに生かす方向で選択制を拡大した。商業科の情報処理科を新設して、共通選択による十学級での展開授業なども導入した。平成元年度に教務部内に情報処理係が置かれたが、その翌年には教務部から独立してコンピュータ委員会として独立した。さらに、平成四年度からは、情報教育推進委員会に改称され、本校における情報教育の推進とともに、各教科の準備室（研究室）等を校内ＬＡＮでつなげて、平成十一年度からは成績処理もコンピュータで処理されるようになった。

平成十一年度（一九九九）には、学習指導要領がさらに改訂されて、平成十四年度から実施される学校五日制、十五年度からの総合学習の導入などに対応した新教育課程の編成に向けて、本校でも検討作業が進められている。

④推薦制度の導入

もう一つの教育制度の改定は、普通科における推薦制度の導入という入学者選抜制度の変更である。職業学科ではすでに先行実施されていたが、平成八年度入学者選抜から普通科でも推薦による入学者選抜が、入学許可予定人員の一〇％から二〇％の枠内で認められることになった。本校では、平成七年度に推薦入試検討委員会を発足させ、さまざまな角度から本校を志願する生徒諸君の分析を行い、本校における導入の是非、意義から検討していった。その中で、推薦入試制度の持つ積極面と同時に、さまざまな問題点も指摘され、平成八年度からの実施については拙速を避けるように留意したが、県の意向は近い将来に全県的な実施を目指しているという予測の中で、導入の是非に拘わらず、本校における推薦入試制度の方向性と内容を具体化していく必要に迫られていた。推薦入試検討委員会は、本校生徒諸君の状況を分析しながら、職員全体の意向を把握するとともに県の動向に対応しなければならないという立場に立たされていた。推薦入試検討委員会や企画運営委員会、職員会議では、推薦入試制度に対する賛否とともに、学習成績や特別活動等の位置づけ・評価を中心に、推薦枠、検査等の内容について論議を深めていった。学習成績については、本校の生徒諸君の学力に相当するとともに本校の教育内容・水準に対応する学習成績を有すること、特別活動等については、公平性と公正性を堅持しながら可能な限り評価の対象を幅広く設定することに努め、平成九年度の入学者選抜から導入することとしたが、

折しも、予測されたように、県は平成九年度から県立高校普通科全てで、定員の五％から三〇％の枠内で推薦入試制度を実施するという方針を打ち出したのである。平成九年度実施に向けて、推薦入試検討委員会から推薦入試委員会に引き継がれ、実務面の準備活動に取り組んでいった。教務部の沿革にもあるが、最終的に本校の推薦入試実施要項は次の通り決定した。

推薦枠　定員の二〇％

検査等の内容　面接・作文

推薦要件　人物に優れるとともに意欲的な中学校生活をおくり、次の「ア」又は「イ」のいずれかの条件を具備する者。

ア　学習成績全般が特に優秀であること。

イ　学習成績が優れるとともに、部活動及び生徒会活動などにおいて顕著な実績を有すること。

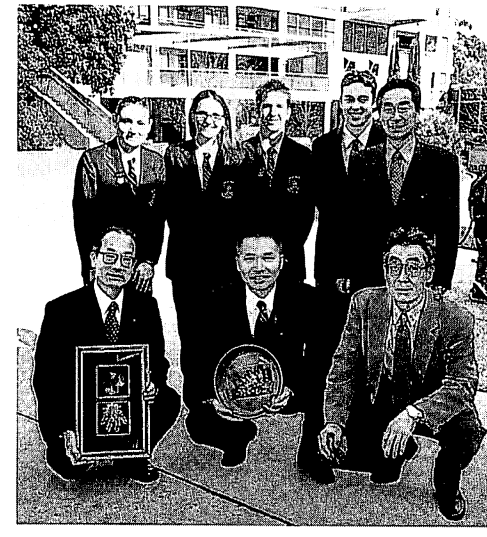
なお、本校の推薦入試の枠は、平成十二年度から二五％に変更され、来年度からはさらに四〇％に拡大される。来年度からは学区制も大幅に変更されるだけでなく、学力検査による入学者選抜制度も、日程や内容の改定が行われる。社会環境、教育環境が大きく変貌を遂げる中で、新教育課程の編成作業とともに、学力検査・推薦入試制度の分析・総括を深め、本校のあり方と方向性を明らかにしていくことが求められている。

また、それまでも夏休み頃から、高校進学を控えた中学生が学校見学に訪れていたが、中学校における進路指導が一部変更されることによって、平成七年度以降には数百名規模の見学者が見込まれる状況が生まれ、各高校が主体的に学校説明会を実施する必要性が出てきた。本校では、七月二十五・二十六・二十七日、八月一・二日の午前中に学校説明会を実施することにし、校長・教頭・総務部（二名）・教務部（一名）・生徒指導部（一名）・図書部（一名）・体育科（一名）・情報教育推進委員会（一名）で対応することにした。この年は、学校説明会への参加者は六七〇名、個人的な見学者は三八名であった。翌年以降も夏休みに五日間ずつ開催しているが、中学生の見学者は年々増加し、たちまち一、〇〇〇名を超える規模になっている。

⑤国際交流活動の発展―ワガワガ・ハイスクールと姉妹校提携

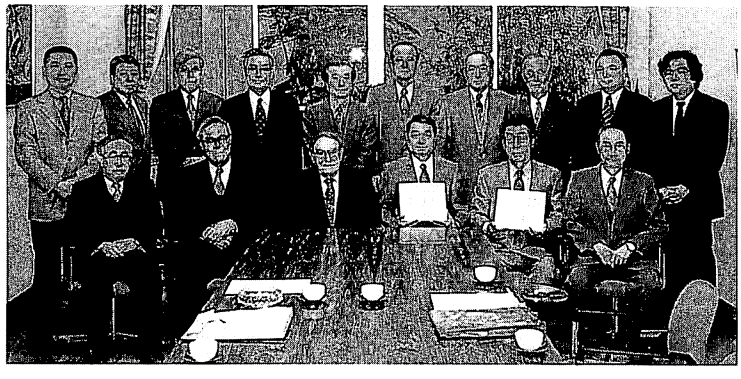
昭和五十七年度（一九八二）から、地域のロータリークラブの要請を受けて、アメリカ・オーストラリア・ニュージーランドなどからの交換留学生を受け入れ、昭和六十二年度（一九八七）には、本校がＡＥＴ（Assistant English Teachers）の拠点校を引き受けたりして、国際交流活動を進めてきたが、平成七年六月十二日の職員会議で国際理解教育推進委員会の発足が承認され、本校の国際交流活動の推進母体として活動することになった。委員会の活動としては、①国際理解教育に関する資料の収集と整理、②国際理解に関わる講演会等の行事の企画、実施、③諸外国の高校との交流、④短期もしくは長期にわたる海外への留学生の派遣活動、⑤海外からの留学生の受け入れ等に取り組むことにした。

国際理解教育推進委員会は、この年の十二月十九日、大韓航空（ＫＡＬ）の新東京国際空港支店長であり常務理事でもある朴仲弘（パクチョンホ）氏を招いて、「戦後五十年と私」という演題で講演会を開催した。「近くて遠い国」ともいわれる韓国の方から、韓国の歴史や文化、生活ぶりを直接お話ししていただく機会を持てたことは貴重な経験であった。また、オーストラリアのニューサウスウェールズ州にあるワガワガ・テクノロジー・ハイスクール（Wagga Wagga Technology High School―その後ワガワガ・ハイスクールと改称）と姉妹校の提携を行い、交換留



ワガワガ・ハイスクールの生徒諸君とともに
―表敬訪問団一行―

学制度を確立して翌年度の夏休みから実施している。本校創立二十周年を記念して、本年七月十九日から七月二十五日まで、本校を代表して越川雄次郎校長、PTAから平成九年度会長の大場正治氏、同十年度会長の相川光規氏がワガワガ・ハイスクールを表敬訪問して、今までの交流活動における理解と協力、友好の深まりに心からの感謝を申し上げた。本校の表敬訪問団に対して、ワガワガ・ハイスクールの校長（Principal）であられるビル・ロジャース（Bill Rogers）先生は、訪問団滞豪中の三日間を終始お世話くださり、きわめて親密・友好的に対応してくださった。本年で五回目となる交換留学にも、一五名（二年生の女子五名と一年生の女子一〇名）の生徒諸君が参加し、七月十七日から八月六日までの三週間を有意義に過ごした。本年は、七月十七日から二十六日までを花香武男教諭が、二十六日から八月六日までを金子佐知子教諭が引率されたが、生徒諸君は午前中三時間の英語の特別レッスンと午後からの授業への参加、休日を利用してのキャンベラ市内の見学や牧場、金鉱山の見学など、盛り沢山の日程を精力的にこなした。また、日本語学科を設置しているだけでなく、日本での中学一年生にあたる七年生全員が一年間日本語を学び、八年生から十二年生は選択で学べるというように、大変日本語教育に力を入れられているワガワガ・ハイスクールに、本校の創立二十周年を記念して、今までの御礼をこめて心ばかりの記念品をお贈りした。贈呈式には、全校生徒が参加して七月二十一日に行われたが、この日の午後六時からは、ワガワガ市が経営しているレストランのガーデンコートで、七〇名余の市民の方々が集まってくださり、盛大な祝賀パーティが催され、地方新聞にも紹介された。本校の交換留学制度が始められて五年になるが、本校の生徒諸君のホームステイを受け入れてくださった家庭はおよそ五〇軒におよび、日豪の親善と相互理解に果たしている役割はきわめて大きいといわざるを得ない。なお、本年度（十一月十二日から十二月一日まで）、ワガワガ・ハイスクールの一年生（年齢は一五・一六歳）の女子生徒諸君八名が、引率の先生（一名）とともに来日し、本校を訪問し、本校生徒と交流して親睦と相互理解を深めた後、日光・京都・広島などを見学して帰国された。



ドナルド・キーン先生を囲んで

国際理解教育推進という点で画期的な講演会が、平成十年十二月二日に本校体育館で開催された。それは、「千葉県夢を育む教育」推進事業の一環として、日本文化研究の世界的権威であるコロンビア大学名誉教授ドナルド・キーン氏をお招きして、「伝統と個人」という演題の講演をしていただいたのである。日本文化の伝統とすばらしさを改めて認識させられるとともに、日本人や日本文化の課題などをわかりやすく具体的に話され、本校生徒や職員をはじめ、保護者、成田市内の教育関係者などに大きな感銘を与えた。

⑥ゴミ問題への取り組み―いち早く分別処理に取り組む―

この十年間は、地球的規模での環境破壊の深刻さが表面化した時期であったが、学校においても緊急に対応が求められる事態に立ち至っていることが認識された。それは、産業廃棄物等の埋め立てによる環境汚染もさることながら、ゴミの焼却によって発ガン性物質であるダイオキシン等の有害物質の排出が放置できないというものであった。常時、摂氏七五〇度以上の高温で焼却しないと、焼却の際のダイオキシンの発生を抑えることが出来ないため、高性能の焼却施設以外での焼却が認められなくなったのである。従って、一般家庭や企業でのゴミの焼却はもとより、学校の焼却炉の使用も不可能となり、学校生活から排出されるゴミの少量化とともに、ゴミの分別の徹底が必要となった。この事態に、管理部は実に機敏に対応し、平成九年六月の職員会議で、当番制による美化委員の生徒諸君の協力を得て、ゴミを、燃えるゴミとペットボトルや弁当のパック・ビニール袋などの燃やせないゴミ、ビンやカンの三種類に分別し、教室にもそれぞれのゴミを入れるゴミ箱を設置することが承認され、直ちに実行に移された。管理部や用務員さんの速やかな対応と美化委員会の協力、地道な活動ぶりには頭が下がる思いである。

ごみの分別作業に取り組む

⑦本校の生徒諸君の成長と今後の課題

本校の生徒諸君は、喫煙問題やバイクなどによる交通事故など、若干の問題行動は起こしてはいるが、創立以来の本校生徒の特徴としては、全体としてはきわめて落ち着いた学校生活を送っている。不登校に陥る生徒諸君や中途退学を余儀なくされる生徒諸君もきわめて少ない。同級生、同学年の生徒諸君同士の人間関係はもとより、上級生と下級生の人間関係や生徒諸君と職員の人間関係も安心感と信頼感にあふれ、多少の誤解や気持ちの行き違いなどないことはないが、いわゆるいじめやけんかなどはきわめて少ないといってよい。学校施設や設備の意図的な損壊やいたずら、落書きなどもほとんど見られない。誤ってガラスなどを割ってしまった場合などは、必ずといっていいほど当事者が申し出ている。

学習面については、授業態度や復習、宿題などへの取り組みはきわめてまじめであり、基本的な学力も身につけている。しかし、課題として

は、学習への姿勢が受け身である生徒諸君が多く、深刻な不況と就職戦線の厳しさの一方で、最近の受験事情や大学生の学力低下が問題となっていることなどを考え合わせると、なんとしても一層の自覚的で積極的な学習態度や学習意欲を喚起、育成し、困難な社会状況に主体的に立ち向かえる力を培うことが急務であると思われる。また、ここ数年来、一部の生徒諸君の服装や頭髪をはじめとした身だしなみについては、指導に困難を来す事例が増えている。さらに、交通事故に対する認識の甘さや交通マナーについても今後の指導課題として努力していく必要がある。

日常的な学校生活や学校行事などにおいて、生徒会本部や各委員会の果たしている役割はきわめて大きい。とりわけ、生徒会本部の役員の意欲的で一貫した活動と努力は、黎明祭（文化祭）をはじめとした諸行事を支え、生徒諸君が学校行事を自らのものとして受けとめていく上で大きな力となっている。また、前述の美化委員会をはじめ球技大会やスポーツ大会、授業準備などでの体育委員会の活動、健康診断や日常的な保健活動を支える保健委員会の活動、黎明祭への意欲的な参加と地道な日常業務に取り組む図書委員会の活動等々、どの委員会もきわめて積極的にその責任を果たしている。生徒会本部は、そうした委員会活動の組織的・精神的な「柱」的存在となっているといえるのではないかと思われる。なお、本校の文化祭である黎明祭は、平成九年度までは実行委員会方式で取り組まれてきたが、平成十年度からは文化委員会を発足させ、生徒会本部と協力しながら文化委員会が中心になって準備、運営を行うようになった。

第19期生徒会本部役員

本校の部・同好会・愛好会活動は、高等学校における特別活動としてきわめてオーソドックスな活動を展開しているが、その中にあって、この十年間における部・同好会・愛好会の活動の発展には注目すべき成果が見られる。とりわけ、運動部では陸上競技部の活躍をはじめとしてサッカー部、野球部、バレー部、バドミントン部、ソフトテニス部、ゴルフ部、女子サッカー部など、ほとんどの部がすばらしい活動を行っている。創立二十周年記念を祝賀する本年度、陸上部のハイジャンプで三年女子が関東大会への出場、インターハイ（全国総合体育大会）への出場を果たし、ゴルフ部も関東大会・全国大会への出場を実現した。サッカー部も県大会でベスト三十二に進出し、野球部も秋の新人戦で県大会への勝ち名乗りを上げた。女子サッカー部では、三年生二名がアンダー十八・県選抜チームの代表選手に選出された。文科系の部や同好会でも、美術部のように開校以来全国的な展覧会で優秀な成績を上げ続けている部や、書道部、吹奏楽部、科学部、演劇部、茶道部、ペン字同好会、イラストレーション同好会、調理同好会などのように粘り強く地道に努力している部、同好会もある。とりわけ、美術部は、昭和六十二年度の「第三十七回学展」で油絵部門・デザイン部門で大賞を受賞したのに引き続き、平成六年度にも、「第四十四回学展」のデザイン部門大賞を受賞し、あわせて最優秀学校賞を受賞し、千葉県教育委員会や県議会、成田市の表彰を受けた。さらに平成九年度の「第四十七回学展」でもデザ

全国大会出場を果たした陸上競技部とゴルフ部（平成12年度）

イン部門で大賞を受賞し、千葉県教育委員会や県議会、成田市の表彰も受けている。平成十一年度の第二十三回全国高等学校総合文化祭には、美術・工芸部門千葉県代表として三年生女子二名が選出された。しかしその一方で、部員の確保が難しく、活動に大きな「波（浮き沈み）」を見せている部や同好会も少なくなく、顧問は頭を痛めている。

平成三年度以降の十年間に誕生した部・同好会としては、平成五年度に愛好会として活動していた女子サッカーが、翌年度から同好会としての活動が認められ、平成九年度には部に昇格した。翌年度からは本校グラウンド内のハンドボールコートを活動場所にしているが、それまでは成田ニュータウンの空き地を借用しながら粘り強く活動を続けてきた。平成二年度から必修クラブの充実・改善と部活動の発展のために、必修クラブと部・同好会との連動を図ったが、それ以来同好会として活動してきた茶道同好会が、平成十一年度にその着実な活動を認められて部に昇格した。また、この年の秋にはハンドボール愛好会が結成されたが、本年度には同好会として承認された。練習場所は、サッカーコートとハンドボールコートを、サッカー部、女子サッカー部、ハンドボール同好会で譲り合い調整しながら活動している。平成十二年七月には、思いもかけず弓道愛好会が結成され、普段は校舎内の廊下で「型」の練習を、週一回成田市の体育館をお借りして練習に励んでいる。

⑧「北高バッグ」消える―スクールバッグの自由化

本校の生徒指導は、保護者の方々と学校との相互理解と協力関係を大切にするとともに、社会状況の変化に可能な限り的確に対応し、学校に対する生徒諸君の信頼感や安心感を大切にすることを基本にして取り組んできた。平成三年度末には、特別指導を受ける生徒諸君の「処分規定」を改正し、学校生活から離れて謹慎する期間を可能な限り短縮して指導することにした。平成四年度に入ると、生徒会（生徒会長馬場純君）が主導する形で、開校以来のスクールバッグの自由化を求める動きが活発になった。本校のスクールバッグは、「北高バッグ」と「愛称」されていたビニール製で、白地に紺で校名を入れたスポーツバッグであったが、生徒の評

なつかしい「北高バッグ」

判も流行にそぐわない面が強いとしてあまり芳しいものではなかった。生徒会から出された改正を求める理由としては、一般の生徒諸君にとっては大き過ぎて自転車の前の籠に入らない。一方、運動部の生徒諸君にとっては部活動の用具が全て入らず、もう一つのバッグを必要としてしまう。また、特製のバッグであったために修理に時間がかかり過ぎる、というようなものであった。当時の生徒諸君の気持ちとしては、ひとめで「北高生」とわかってしまうことに対する多少の抵抗感があったようである。アンケートの仕方には若干の問題があったが、生徒会が行った全校生徒のアンケート結果では、「指定のスクールバッグを変えたい」という意見が九六・七％、「登校に使用するバッグは自由にしてほしい」という意見が九五・三％であった。五月の職員会議では賛否両論の意見が激しく交わされたが、最終的には、通学バッグは必ず持参すること、形は自由とするが高校生としてふさわしくないもの認めない（「ふさわしくないもの」は明文化しないが、指導として紙袋などは認めない）、スクールバッグの自由化の実施時期は本年度の九月一日からとすることにした。この動きは、高校生徒会の意欲的で活発な活動として、朝日新聞からも注目され、夕刊に大きく紹介されたりした。

本校では従来から保護者との連携を重視し、ＰＴＡ総会の折りや学年ＰＴＡの時の懇談にとどまらず、毎年六月には保護者面談期間を二週間程設定して、保護者・生徒・担任の共通理解を深めてきた。しかし、この保護者面談は、ホームルーム担任の授業の合間の空き時間を利用してきたために、面談にも授業にもマイナスの影響を出してしまうことが少なからずあった。平成五年三月の職員会議で改善策を協議し始め、結局この年の六月から授業を午前中四時間として特別時間割を組み、一週間の保護者面談週間を設定して実施することにして現在に至っている。

⑨制服の見直しに着手

平成五年一月には、現行の制服の一部を改めて、女子生徒のジャンパースカートをベストとスカートのセパレーツにしたらどうか、という案が出されて協議したが、ベストに対する指導が徹底しにくいこと、生徒諸君からの強い要望が出ているわけではないこと、制服の改正で制服購入の経済的な負担がかなり増える心配があることなどを考慮して、しばらく見送ることにした。その後、高校生のファッションの流行の影響を受けて、一部の女子生徒諸君がスカートを長くしたり短くしたり、男子生徒諸君でもズボンの裾幅を広くしたりして、その都度指導に追われたが、本校の制服に対する生徒諸君の不満や強い要望は基本的に出てこなかった。その時々に多少の不満や要求はあったにしても、それらは生徒諸君なりに我慢の出来る範囲であったということかも知れない。また、仮に制服が改正されても、当事者の在校生はその恩恵を受けられないため

向って左側が新しい男・女子の制服
向って右側が今までの男・女子の制服

の諦め的な納得の仕方をしていたのではないかと思わせられる声を耳にすることもあった。昨年度、本校も創立二十周年を迎えて、改めて制服の見直し問題に着手し、制服検討委員会を発足させて検討を重ねた結果、平成十三年度入学生から着用する新しい制服が決まり、二十周年記念式典で披露された。

全国的に健康や安全が損なわれる学校職員が増加する状況の中で、本県でも平成六年十二月一日、千葉県立学校職員安全衛生管理規定が成立し、翌年四月一日から施行され、同時に県立学校職員健康管理要綱が出された。それを受けて、本校でも平成七年六月の職員会議に、衛生委員会の設置が提案され、学校管理医に校医である鳥居内科医院長の鳥居敏明先生をお迎えして、衛生委員会として職員の健康管理への取り組みが始まった。鳥居先生による職員の血圧測定や健康相談、喫煙が及ぼす健康被害などの講演をお聞きするとともに、職員の休養施設の設置に向けて努力した。独自に休養室検討委員会を発足させて検討を重ねた結果、平成九年九月の職員会議で北校舎一階の職員更衣室と書庫を改造して、男性用休養室と女性用休養室を設置することが承認された。それぞれに他の場所に移動できない職員のロッカーを残し、休養室の一角で更衣も出来るようにしたのである。

⑩部室問題が基本的に解決

この十年間に本校の施設で見るべき増改築、改善がなされた所としては、平成二年三月に、体育館北側に体育倉庫兼部室が竣工したが、依然として活発化する部活動に応える部室不足の悩みは解消されなかった。南校舎一階の女子更衣室と倉庫の改善と交換なども行ってみたが、根本的な解決策にはならなかった。平成九年三月、体育館東側に体育倉庫兼部室が完成して部室不足はようやく基本的な解決を見た。また、平成二年十一月には工芸用の窯場も完成し、生徒・職員の活動に寄与している。野球部の練習の際のファールボールによる事故が時々起きていたが、平成十一年九月に防球ネットの増設工事も完成し、事故は大幅に減少した。溜め池であった千把ヶ池を埋め立てて造成したグランドの水はけは思わしくなく、野球部やサッカー部の悩みの種であったが、平成四年三月のグランド全面改修工事によって大きく改善を見た。平成七年三月には、それまで芝生と雑草におおわれていた中庭にレンガを敷き詰め、花壇によって彩りを添える改造が行われた。平成六年二月には図書館に冷房装置が整備され、翌七年八月にはＣＡＩ教室にも冷房が整えられた。

なお、平成十三年三月末には、マスターコンソールシステムをはじめ、参照用カラーモニター、ＤＶＤプレーヤー、学習ユニットなど、ＬＬ教室の施設・設備が全面的に一新され、個々の生徒諸君の学習進度に合わせた個別学習指導が極めて効果的に行えるようになった。

六　おわりに―二十一世紀に向けてさらなる発展を―

本校は、昭和五十五年（一九八〇）に開校して以来、本年度二十一年目を迎え、十一月一日には創立二十周年を記念する記念式典が挙行され、四月二十八日には二十周年を記念する全校の遠足を実施した。一年生はディズニーランドで一日を楽しく過ごし、二年生は、東京駅に集合してクラスごとに御台場や浅草、横浜などを見学し、三年生は、横浜に集合して市内の散策を楽しんだ。九月十四・十五両日の黎明祭も記念行事として取り組まれ、セレモニー的な行事として中国雑技団をお招きして、鍛えられた技を堪能した。九月二十・二十一日にはスポーツ大会、十一月二日には芸術鑑賞会を成田国際文化会館で実施し、劇団「ふるさとき

やらばん」のミュージカル『噂のファミリー・一億円の花嫁』を鑑賞した。本校の生徒数と会場規模との関係で午前・午後の二回公演としたが、創立二十周年を記念するにふさわしい本格的な劇団の公演に大きな感銘を受けた。また、姉妹校提携をしているオーストラリアのワガワガ・ハイスクールを表敬訪問して友好を深め、二十周年記念誌『黎明二十年』を発刊するとともに、二十周年記念ファイルを作成した。

平成十三年二月五日、記念誌『黎明二十年』の校正作業の最終段階を迎えているところに、本年度の第十五回読書感想画千葉県コンクールで、三年生の大竹郁さんの「夏の庭―The Friends―」が優秀賞（第一位）に輝き、全国コンクールに出品されるというれしいニュースが飛び込んできた。三年生の渡邊美幸さんの作品も佳作となり、本校が「学校賞」も受賞した。創立二十周年を飾る快挙の一つであり、喜びを共にしながらここであえて紹介したいと思う。

二十一世紀を目前にして、社会状況・教育環境はきわめて深刻な混迷と変化、困難な事態に直面し、学校教育、とりわけ公教育に対する批判と期待が表裏一体となって厳しく突きつけられている。置かれた状況は本校も決して例外ではない。それだけに、築き上げられた本校二〇年の歴史を総括し、新しい世紀に対応する学校づくり、成田北高教育の方向を探り、その具体化に向かって努力していかなければならない。成田北高二十年の足跡を大切にし、将来へ向けての総括と新しい教育課程の編成はその第一歩である。

本文でもふれたが、社会全体で人間関係が疎遠になり、希薄化し、殺伐とした状況が生まれている中で、本校生徒の人間関係の温もり、落ち着きは貴重な財産であり、本校の伝統として誇り、守っていくとともに、さらに高めていかなければならないものであろう。また、本校生徒の素直で純朴な人間性を傷つけあわないように心し、どのような厳しさにも立ち向かっていく強さとたくましさを涵養していかなければならないであろう。

来年度から本県の入学者選抜に関する日程や内容が変更され、一日目に五教科の学力検査を実施し、二日目は作文・小論文や面接・実技が行われることになった。また、前述したように、学区制度が大幅に改められるとともに、来年度の本校の募集定員は三六〇名（九クラス）に削減された。その結果、募集定員が減少する一方で通学区域が一気に拡大されることになるが、そうであればあるほど成田市域を中心とした「地域」との結びつきを深め、「地域」に根を張った学校づくりを目指していかなければならないだろう。家庭と学校との相互理解、連携を今まで以上に強化し、本校の教育の基盤が「地域」や保護者によってしっかりと支えられていくものでなければならないと思う。

創立二十周年を記念して、本校をとりまく地域社会の変遷と本校二十年の歴史を概観してみた。二十年という「時間」が刻まれ、その間に築き上げられたもののほんの一部をなぞっただけであり、不十分なところ、見落としているところなど多々あるかと思う。皆様の率直なご意見・ご批判を賜ることにより、二十一世紀へ向けての本校の学校づくりの一助になれば幸甚である。

（文責　手島和史）

主な参考文献

「千葉県企業庁事業のあゆみ」（平成元年　千葉県企業庁）
「成田ニュータウン開発計画報告書」（昭和五十三年　県企業庁）
「公津原」（昭和五十年　千葉県企業庁）
「公津原Ⅱ」（昭和五十六年　千葉県文化財センター）

「千葉県立房総風土記の丘年報」（千葉県立房総風土記の丘）
「千葉県　地学のガイド」（昭和五十六年　コロナ社刊）
「千葉県の歴史」（平成十二年　山川出版社）
「千葉県のあゆみ」（昭和五十八年　千葉県）
「成田市史（原始・古代編）」（昭和五十五年　成田市）、「同（中世・近世編）」（昭和六十一年）、「同（近・現代編）」（昭和六十一年）
「図説　成田の歴史」（平成六年　成田市）
「成田市統計書　平成十一年版」（成田市）
「成田　寺と町まちの歴史」（昭和六十三年　聚海書林刊）
「創立五周年記念誌」（昭和六十一年　千葉県立成田北高等学校）
創立十周年記念誌「黎明十年」（平成三年　千葉県立成田北高等学校）
「学校日誌」・「学校要覧」・その他関係書類・記録（千葉県立成田北高等学校）

平成12年度第15回読書感想画千葉県コンクールで優秀賞（第1位）となった3年大竹郁さんの「夏の庭—The Friends—」—全国コンクールに出品される

千葉県立成田北高等学校沿革年表

昭和五十四年度（一九七九）

昭和54・9・5　千葉県立成田北高等学校設置に関する千葉県教育委員会議案可決

10・26　千葉県立高等学校設置条例の一部を改正する条例案（改正条案）を県議会において議決　設置場所　成田

11・1　改正条例公布

15　開設準備委員長岩上利男外七名に開設準備事務嘱託

24　千葉県教育委員会告示第一四号により千葉県立成田北高等学校第一学年生徒募集　定員一八〇名

昭和55・2・28～29　入学選抜学力検査実施（会場・千葉県立成田西高等学校）・入学志願者数二四二名

3・29　第一期普通教室棟竣工

昭和五十五年度（一九八〇）

昭和55・4・1　千葉県立成田北高等学校初代岩上利男校長発令、ほか教職員一八名発令

7　第一回職員会議―教育目標、校訓、努力目標、年間行事計画、時間割、職員の勤務について

8　第二回職員会議―生徒指導及び生徒心得について

10　第三回職員会議―開校式・入学式について

11　第四回職員会議―オリエンテーション計画、遠足、清掃分担、クラブ活動について

15　開校式並びに入学式・於成田西高体育館―第一回入学式（男子一一八名、女子七〇名、計一八八名）式典終了後開校祝賀会・於本校社会科教室

5・2　遠足（徒歩で房総風土記の丘へ）

10　ＰＴＡ準備委員会（設立総会までに三回の準備委員会）

13～17　生徒面接週間

29～31　中間テスト

6・14　ＰＴＡ設立総会及び学年懇談会（五六名参加）ＰＴＡ発足なる

16～21　保護者面談週間―各ＨＲにて保護者と担任との個別面談始まる

7・3　生徒会設立総会

9～12　一学期期末テスト

15　生徒会役員立会演説会及び投票

16　映画会、全校集会、歌の練習

17　球技大会

19　終業式、林間学校事前指導

27～29　林間学校（富士緑の休暇村）

8・18　全校登校日

24～25　校内リーダー研修会（於神崎青年の家、参加者二

三名、職員七名）
9・1　始業式
13　ＰＴＡ広報委員会、広報「成北」創刊号の発刊のための編集会議
16～22　生徒面接週間（第二回）
19　生徒総会
10・9　スポーツ大会
18　寄贈された黄楊（ツゲ）一〇一本を校庭に植樹
23～25　中間テスト
11・4～10　保護者面談週間
22　校旗・校歌制定式・於成田市中央公民館
校旗・校歌制定祝賀会（本校応接室）
12・13～17　期末テスト
16　同和教育校内研修会（講師・県教委指導課　岩瀬和博指導主事）
17　土留・階段完成
24　終業式
昭和56・1・8　始業式
19～25　文化月間（開会式・各種展示・閉会式）
2・7　耐寒マラソン大会
3・2～10　入学者選抜学力検査
7　入学許可候補者発表
12～16　期末テスト
18　入学許可候補者召集・指導（於成田西高体育館）
24　終業式

昭和五十六年度（一九八一）

昭和56・4・7　第二回入学式（男子九六名、女子八六名、計一八二名）
28　遠足（一年は房総風土記の丘、二年は上野公園）
5・8　ＰＴＡ総会
6・4　生徒総会（南校舎屋上で青空集会）
7・16　全校野球応援（公式戦初出場）
21～23　一学年林間学校（富士緑の休暇村）
23　第二期工事体育館・格技館竣工
8・6　第二期工事管理・特別教室棟（北校舎）竣工
18～19　校内リーダー研修会
9・18～19　第一回黎明祭―テーマ「新しい高校文化の創造」
バレーボール模範試合
24　読書感想文発表会
27　テニスコート（クレーコート三面）完成
30　生徒総会―新装の体育館で新役員を選出
10・13　スポーツ大会―職員チームも参加
16　第一回芸術鑑賞会（成田国際文化会館でモリエール作「町人貴族」を鑑賞）・午後は成田山新勝寺を見学
25～28　二学年修学旅行（京都・奈良方面、三泊四日）
11・19　合唱コンクール実施
昭和57・1・5　第三期工事管理特別教室棟竣工
2・13　第二回校内マラソン大会
3・1～2　入学者選抜学力検査

昭和五十七年度（一九八二）

昭和57・4・7　第三回入学式（男子一〇五名、女子七三名、計一七八名）―初めて三箇学年が揃う・全校生徒数五四四名

28　遠足（一年は房総風土記の丘へ徒歩遠足、二年は上野公園―ミレーの「晩鐘」鑑賞、三年は川崎製鉄千葉工場見学）

5・13　生徒総会（五十七年度予算額二九五万円）

22　ＰＴＡ総会及び講演会―広浜見名子先生の「少年非行と家庭教育」

6・17　生徒会映画会「クレイマー・クレイマー」

7・18　全校野球応援―流山東高に延長十四回サヨナラ勝ち

28～30　一学年林間学校（磐梯高原）

8・16～17　生徒会リーダー研修会（佐倉草ぶえの丘）

20　全校登校日―岩上校長米欧諸国歴訪講演会

9・17～18　スポーツ大会

10・7　読書感想文発表会

29　校舎落成記念文化祭（第二回黎明祭）―テーマ「開拓」

30　校舎落成記念文化祭（第二回黎明祭）の後夜祭

校舎落成記念式典

11・18　芸術鑑賞会（東京チェンバーブラスクワイヤーの演奏を鑑賞）

校門・前庭・前庭通路完成

22～28　二学年修学旅行（京都・奈良方面）

22　三学年テーブルマナー講習会（於成田ビューホテル）

12・18　体育倉庫竣工

昭和58・2・3　第一回予餞会―職員劇「にぎり飯のうた」好評（作・演出冨山教諭）

12　第三回耐寒マラソン大会

3・1～2　第四期生入学学力検査

9　第一回卒業式（卒業生男子一一二名、女子六九名、計一八一名）

24　生徒会誌「北星」第一巻発行

昭和五十八年度（一九八三）

昭和58・4・1　本年度教職員四三名となる

7　第四回入学式（男子一三七名、女子一三四名、計四七一名）

5・10　全校遠足（一年生筑波山、二年生上野公園、三年生川崎製鉄・歴史民俗博物館見学）

12　生徒総会

25　ＰＴＡ総会

6・2　スポーツテスト

7・14　野球応援（対鎌ヶ谷高戦に全校応援で取り組む）

15～16　球技大会

28～30　一学年林間学校（磐梯高原）

8・18～19　生徒会リーダー研修会

9・21～22　第三回黎明祭―テーマ「存在の証明」

10・7～8　スポーツ大会

11・17～20　二学年修学旅行（京都・奈良方面）

29　第三回芸術鑑賞会（鳩山寛アンサンブルの演奏）

12・24　第一回スキー教室（長野県車山高原）

昭和59・2・2　第二回予餞会
3　テーブルマナー講習会（於ホテル日航）
4　耐寒マラソン大会
3・9　第二回卒業式（卒業生男子八九名、女子八八名、計一七七名）
31　生徒会誌「北星」第二巻発行

昭和五十九年度（一九八四）

昭和59・4・2　第二代石井功校長着任
6　始業式、新任式
7　第五回入学式（男子一六四名、女子一一一名、計二七五名）
5・27～29　一学年林間学校（富士山麓）
30　二年遠足、三年工場見学・歴博の見学
6・10　スポーツテスト（中台陸上競技場）
15　「県民の日」が制定される
23～24　リーダー研修会
8・21　全校登校日
9・12　体育館ステージの緞帳完成
9・23　第四回黎明祭―テーマ「飛躍」（一般公開）
10・12、15　スポーツ大会
11・5～8　第二学年修学旅行（関西方面）
15　第四回芸術鑑賞会（郷土芸能「小見川囃子」鑑賞）
12・20　防災訓練
昭和60・1・13　グラウンド整備完了
1・31　予餞会―職員劇『モンスター・バスターズ』
2・16　耐寒マラソン
3・9　第三回卒業式（卒業生男子一〇六名、女子六九名、計一七五名）

昭和六十年度（一九八五）

昭和60・4・8　第六回入学式（男子一四一名、女子一三五名、計二七六名）
5・7～14　生徒面接週間
5・16　生徒総会
17　ＰＴＡ総会
5・22～24　一学年中間考査
24～27　二・三学年中間考査
25～27　一学年林間学校（蓼科高原）
30　生徒会映画会
6・4　スポーツテスト（於中台陸上競技場）
10～20　保護者面談旬間
14　全校遠足（国際科学技術博覧会）
22～23　生徒会リーダー研修会（於佐倉草ぶえの丘）
27　第五回芸術鑑賞会（狂言―萩大名棒縛り）
7・6～10　一学期期末考査
15　全校野球応援（対四街道高校戦）
16～17　球技大会
7・18　避難訓練・救助袋降下訓練（一年生）
20　終業式・後援会総会
30　一学年登校日
8・2　三学年登校日

4　同窓会役員会・総会
5　二学年登校日
21　全校登校日
9・21～22　第五回黎明祭（テーマ「創造的刺激」）
10・8～9　スポーツ大会
17　生徒総会
24～26　中間考査
11・4～7　二学年修学旅行（広島・姫路・京都方面）
30　学年ＰＴＡ
12・12～16　二学期期末考査
12・17　体育倉庫兼部室竣工
20　防災訓練
25～29　スキー教室（志賀高原高天ヶ原スキー場　四〇名参加）
昭和61・1・18　中庭（昇降口裏）の整備
31～2・4　三学年学年末考査
2・4　予餞会
5　三学年家庭学習・テーブルマナー（於ホリデーイン成田・八七名参加）
17　耐寒マラソン大会
3・9　第四回卒業式（卒業生男子一三四名、女子一三一名、計二六五名）
11～14　一・二学年学年末考査

昭和六十一年度（一九八六）

昭和61・4・8　第七回入学式（男子一七六名、女子一四四名、計三二〇名）
30　全校遠足（一年房総風土記の丘、二年上野公園、三年川崎製鉄見学）
5・7～12　生徒面接週間
15　生徒総会
24～26　一学年林間学校（長野県茅野市蓼科中央高原横谷峡）
29　生徒会映画会「ネバーエンディング・ストーリー」
6・3　スポーツテスト（於中台陸上競技場）
12　第六回芸術鑑賞会（東京演劇アンサンブル「走れメロス」）
21～22　生徒会リーダー研修会（於佐倉草ぶえの丘）
7・14　全校野球応援（対木更津高専、於千葉寺球場）
15　球技大会
18　避難訓練―一年生救助袋降下訓練
19　終業式・後援会総会
8・3　同窓会総会
4　学年登校日（一・二・三学年）
21　全校登校日・ＬＨＲ・除草作業
9・20～21　第六回黎明祭（テーマ「活力・負けるもんか！」）
10・13、15　スポーツ大会
18～21　二学年中間考査
22～25　二学年修学旅行（東北方面―岩手・秋田・青森）
23～25　一・三学年中間考査
11・10～15　保護者面談

15　学年ＰＴＡ
12・12～16　二学期期末考査
12・24～28　スキー教室（志賀高原）
昭和62・1・31～2・4　三学年学年末考査
2・4　予餞会
5　三年生テーブルマナー（於ホテルセントラーザ）
7　第七回耐寒マラソン大会
3・6　同窓会入会式・校歌碑除幕式
9　第五回卒業式（卒業生男子一五六名、女子一一〇名、計二六六名）
10～13　一・二学年学年末考査
25　体育館ピロティ改修（第二体育館）竣工

昭和六十二年度（一九八七）

昭和62・4・1　第三代羽生正允校長着任
7　第八回入学式（男子一八二名、女子一四八名、計三三〇名）
30　全校遠足（一年房総風土記の丘、二年上野公園、三年ディズニーランド）
5・7　生徒会映画会
15　生徒総会
25～27　一学期中間考査
31～6・2　一学年林間学校（富士山麓）
6・4　スポーツテスト（於中台陸上競技場）
8～18　保護者面談旬間
19～20　生徒会リーダー研修会（於佐倉草ぶえの丘）
23～24　球技大会
7・7～10　一学期期末考査
17　避難訓練―一年生救助袋降下訓練
8・2　同窓会総会・後援会総会
3　学年登校日（一・二・三学年）
21　全校登校日・除草作業
9・1　始業式・防災講話
9・19～20　第七回黎明祭（テーマ「静かなる革命―四年目の挑戦」）
10・8～9　スポーツ大会
21～23　二学年中間考査
24～27　二学年修学旅行（広島・倉敷・京都方面）
24～26　一・三学年中間考査
11・7　第七回芸術鑑賞会（ニューフィルハーモニー千葉の演奏）
9～14　保護者面談週間
14　学年ＰＴＡ
12・12～14　二学期期末考査
21　防災訓練―一年生救助袋の降下訓練
昭和63・2・1～4　三学年学年末考査
2・4　予餞会
5　三年生テーブルマナー講習会（一〇四名参加・於成田ビューホテル）
6　第七回耐寒マラソン大会
3・7　同窓会入会式

9　第六回卒業式（卒業生男子一三六名、女子一三二名、計二六八名）
10～14　一・二学年学年末考査
25　野球グランド防球ネット増設竣工

昭和六十三年度（一九八八）

昭和63・4・7　第九回入学式（男子二五一名、女子二一九名、計四七〇名）
28　全校遠足（一年房総風土記の丘、二年上野公園、三年ディズニーランド）
5・12　生徒総会
14　映画会（於成田国際文化会館）
21～23　一学年林間学校（蓼科高原）
30～6・1　一学期中間考査
6・2　スポーツテスト（於台陸上競技場）
6～16　保護者面談旬間
16　第八回芸術鑑賞会（落語・漫談―林家木久蔵一門）
18　生徒会リーダー研修会（於佐倉草ぶえの丘）
23～24　球技大会
29　球技大会（ソフトボール）
7・2　ＰＴＡ・職員親善ソフトボール大会
6～9　一学期期末考査
16　文化講演会（将門と新勝寺）
18　避難訓練―一年生救助袋降下訓練
8・18　全校登校日
9・1　始業式―防災講話
9・10～11　第八回黎明祭（テーマ「日進月歩」）
10・7、11　スポーツ大会
8　ミニ・リーダー研修会
13　生徒総会
17～19　二学年中間考査
20～23　二学年修学旅行（広島・京都方面）
20～22　一・三学年中間考査
11・12　学年ＰＴＡ
12・12～15　二学期期末考査
21　防災訓練
25～28　スキー教室（志賀高原）
平成元・1・20　中国等帰国子女の特別入学選抜
31～2・3　三学年学年末考査
2・3　予餞会
4　第九回耐寒マラソン大会
7　テーブルマナー講習会（一〇五名参加・於成田エアポートレストハウス）
3・9　第七回卒業式（卒業生男子一七六名、女子一四四名、計三二〇名）
10～14　一・二学年学年末考査

平成元年度（一九八九）

平成元・4・7　第十回入学式（男子二一九名、女子二五二名、計四七一名）
5・11　生徒総会
25～27　一学年中間考査

27～30　二・三学年中間考査
28～30　一学年林間学校（長野県茅野市蓼科高原横谷峡）
31　二・三学年遠足（みなと未来・横浜博覧会）
6・1　ＰＴＡ総会・学級懇談会
6・12　スポーツテスト（於中台陸上競技場）
19～30　保護者面談旬間
23～24　リーダー研修会
7・1　ＰＴＡ・職員親善ソフトボール大会
6～10　一学期期末考査
12～14　学年別球技大会（⑫一学年・⑬二学年・⑭三学年）
8・6　同窓会総会・後援会総会
9・1　始業式・防災講話
9・30～10・1　第九回黎明祭（テーマ「新発実結」）
10・5、9　スポーツ大会
21　ミニ・リーダー研修会
24～26　二学年中間考査
27～30　二学年修学旅行（広島・四国・瀬戸大橋・岡山方面）、一・三学年中間考査
31　映画鑑賞会
11・2　防災訓練（全学年避難訓練、一年救助袋降下訓練・二年消火器訓練・三年防災映画と講話）
11・9　生徒総会
15　第九回芸術鑑賞会（「オペラ・メリーウィドー」―二期会―於千葉県文化会館）
18　学年ＰＴＡ
12・11～14　二学期期末考査
23～27　スキー教室

平成2・1・30～2・2　三学年学年末考査
2・9　予餞会
10　第十回耐寒マラソン大会
3・9　第八回卒業式（卒業生男子一七七名、女子一四八名、計三二五名）
10～14　一・二学年学年末考査
13　体育倉庫兼部室竣工

平成二年度（一九九〇）

平成2・4・7　第十一回入学式（男子二六三名、女子一九六名、計四五九名）
5・9　生徒総会
18～19　一学年中間考査
19～22　二・三学年中間考査
20～22　一学年林間学校
28　スポーツテスト（於中台陸上競技場）
29　ＰＴＡ総会
6・18～30　保護者面談旬間
7・6～10　一学期期末考査
12～14　学年別球技大会（⑫三学年・⑬二学年・⑭一学年）
9・1　始業式・防災講話
9・29～30　創立十周年記念第十回黎明祭（テーマ「燃焼・ＳＡＮＫＡ・かんどう」）

10・7　創立十周年記念体育祭（於中台陸上競技場）
20～23　中間考査
31　防災訓練（全学年避難訓練、一年救助袋降下訓練・二年消火器訓練・三年防災映画と講話）
11・1　工芸窯場竣工
11・7　生徒総会
11・14　創立十周年記念第十回芸術鑑賞会（前進座「さんしょう太夫・於成田国際文化会館）
創立十周年記念式典・祝賀会
17　学年ＰＴＡ
12・11～14　期末考査
平成3・1・28～31　三学年学年末考査
31　予餞会
2・6　マラソン大会
14～17　二学年スキー修学旅行（群馬県利根郡水上町藤原スキー場方面、三泊四日）
3・9　第九回卒業式（卒業生男子二四五名、女子二一八名、計四六三名）
11～14　一・二学年学年末考査

平成三年度（一九九一）

平成3・4・1　第四代杉山進校長着任
8　第十二回入学式（男子二三二名、女子二二六名、計四五八名）
5・15　生徒総会
23～24　一学年中間考査
24～28　二・三学年中間考査
25～27　一学年林間学校（長野県蓼科高原）
29　ＰＴＡ総会
30　第一回生徒指導研究会
31　リーダー研修会
6・5　スポーツテスト（中台陸上競技場）
17～29　保護者面談期間
7・6～10　一学期期末考査
8・4　同窓会総会・後援会総会
9・1　始業式・防災講話
9・28～29　第十一回黎明祭（テーマ「殻破り・ドッカーン」）
10・2～3　スポーツ大会
21～23　二学期中間考査
30　第二回生徒指導研究会
11・12　防災訓練（全学年避難訓練、一年救助袋降下訓練・二年消火器訓練・三年防災映画と講話）
16　学年ＰＴＡ
12・11～14　二学期期末考査
24～28　スキー教室（長野県志賀高原）
平成4・1・28～31　三学年学年末考査
31　予餞会
2・5　マラソン大会
11～14　学年スキー修学旅行（田沢湖スキー場・三泊四日）
3・9　第十回卒業式（卒業生男子二一三名、女子二四九名、

計四六二名）
10～13　一・二学年学年末考査
23　南側土堤に植樹
27　グランド全面改修工事完成

平成四年度（一九九二）

平成4・4・7　第十三回入学式（男子二三六名、女子二一九名、計四五五名）
5・13　生徒総会
21～23　一学年中間考査
23～26　二・三学年中間考査
24～26　一学年林間学校（長野県蓼科高原）
26　第十一回芸術鑑賞会（ミラクルパーカッションと金管アンサンブル・於本校体育館）―二・三学年
29　ＰＴＡ総会
6・3　文化祭リーダー研修会
6・9　スポーツテスト（於中台陸上競技場）
16～27　保護者面談期間
7・7～10　一学期期末考査
13～15　学年別球技大会（⑬三年・⑭二年・⑮一年）
8・2　同窓会総会・後援会総会
9・1　始業式・防災講話
スクールバッグの指定が解除され、スクールバックは自由となる
9・19～20　第十二回黎明祭（テーマ「君と僕とで完全燃焼」）
29　スポーツ大会
10・21～23　二学期中間考査
11・7　学年ＰＴＡ
11　防災訓練（全学年避難訓練、一年救助袋降下訓練・二年消火器訓練・三年防災映画と講話）
12・10～15　二学期期末考査
24　ＣＡＩ教室工事完成
24～28　スキー教室（長野県志賀高原）
平成4・1・27～30　三学年学年末考査
30　予餞会
2・3　耐寒マラソン大会
10～13　学年スキー修学旅行（群馬県利根郡水上町藤原スキー場・三泊四日）
3・9　第十一回卒業式（卒業生男子二五五名、女子一九四名、計四四九名）
10～12　一・二学年学年末考査

平成五年度（一九九三）

平成5・4・7　第十四回入学式（男子二四一名、女子一九五名、計四三六名）
5・12　生徒総会
20～22　一学年中間考査
22～26　二・三学年中間考査
23～25　一学年林間学校（長野県蓼科高原）
26　第十二回芸術鑑賞会（林家木久蔵師匠一門による「北高寄席」）―二・三学年
28　ＰＴＡ総会

6・3　映画監督山本晋也氏のエイズ講演会（於本校体育館）
10　スポーツテスト（於中台陸上競技場）
21～26　保護者面談期間
7・6～9　一学期期末考査
7・13～15　学年別球技大会（⑬三年・⑭二年・⑮一年）
8・1　同窓会総会・後援会総会
9・1　始業式・防災講話
18～19　第十三回黎明祭（テーマ「翔けペガサス　熱狂の空を」）
29～30　スポーツ大会
10・27　学検コンピュータ処理検討委員会設置
21～23　二学期中間考査
11・7　学年ＰＴＡ
11・12　防災訓練（全学年避難訓練、一年救助袋降下訓練・二年消火器訓練・三年防災映画と講話）
12・10～15　二学期期末考査
24～28　スキー教室（志賀高原・一の瀬スキー場）

平成6・1・27～31　三学年学年末考査
1・27　マラソン大会
1・31　予餞会
2・2～5　二学年スキー修学旅行（田沢湖高原スキー場）
16　図書室冷房装置設置
3・9　第十二回卒業式（卒業生男子二二八名、女子二二五名、計四五三名）
10～14　一・二学年学年末考査
26　校門改修工事完成

平成六年度（一九九四）

平成6・4・1　第五代井上洋一校長着任
7　第十五回入学式（男子二一三名、女子二一一名、計四二四名）
5・11　生徒総会
19～21　一学年中間考査
22～24　一学年林間学校（長野県蓼科高原）
23～25　二・三学年中間考査
25　第十三回芸術鑑賞会（劇団東演「翔べイカロスの翼」）―二・三学年
27　スポーツテスト（於中台陸上競技場）
6・3　ＰＴＡ総会
20～25　保護者面談期間（午前中授業）
7～11　一学期期末考査
7・13～15　学年別球技大会（⑬三学年・⑭二学年・⑮一学年）
8・7　同窓会総会・後援会総会
9・1　始業式・防災講話
17～18　第十四回黎明祭（テーマ「文化笑撃」）
10・22～25　二学期中間考査
27～28　スポーツ大会
11・9　学年ＰＴＡ
11　防災訓練（全学年避難訓練、一年救助袋降下訓練、二年消火器訓練・三年防災映画と講話）

12・13～15　二学期期末考査
24～28　スキー教室
7・1・27～31　三学年学年末考査
1・31　予餞会
2・1　マラソン大会
12～15　二学年スキー修学旅行（越後中里方面、三泊四日）
3・9　第十三回卒業式（卒業生男子二三一名、女子二一七名、計四四八名）
10～14　一・二学年学年末考査
22　中庭整備工事完成

平成七年度（一九九五）

平成7・4・7　第十六回入学式（男子二〇七名、女子一九六名、計四〇三名）
5・12　生徒総会
18～20　一学年中間考査
21～23　一学年林間学校（長野県蓼科高原）
22～24　二・三学年中間考査
24　第十四回芸術鑑賞会（ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉とソプラノ西野薫・於本校体育館）―二・三学年
26　スポーツテスト（於中台陸上競技場）
6・12　国際理解教育推進委員会発足
この年、オーストラリアのニューサウスウェールズ州にあるワガワガ・テクノロジー・ハイスクール（その後ワガワガ・ハイスクールと改称）と姉妹校提携
6・19～23　保護者面談期間
7・6～10　一学期期末考査
7・12～14　学年別球技大会（⑫三学年・⑬二学年・⑭一学年）
18　全校野球応援（対成田高校・於大谷津球場）
9・1　始業式・防災講話
8・6　同窓会総会・後援会総会
21　ＣＡＩ教室冷暖房装置設置
9・14～15　第十五回黎明祭（テーマ「十五年目の君と僕」―バカルディの公演）
26　スポーツ大会
11・29　防災訓練（全学年避難訓練、一年救助袋降下訓練・二年消火器訓練・三年防災映画と講話）
12・12～14　二学期期末考査
12・19　国際理解教育講演会を本校体育館で実施（講師・朴仲弘（パク・チョンホ）先生、演題・「戦後五十年と私」）
平成8・1・26～31　三学年学年末考査
31　予餞会
2・1　マラソン大会
7～10　二学年スキー修学旅行（田沢湖高原スキー場）
3・8　第十四回卒業式（卒業生男子二三五名、女子一九五名、計四三〇名）
11～13　二・三学年学年末考査

平成八年度（一九九六）

平成8・4・1　第六代花井保校長着任
8　第十七回入学式（男子二二一名、女子一八三名、計四〇四名）
26　一学年校外学習（東京ディズニーランド）
第十五回芸術鑑賞会（「芸能屋台村」鏡味小仙社中・桂南喬、於成田国際文化会館）―二・三学年
5・15　生徒総会
24～31　一学期中間考査
30～31　球技大会
6・5　スポーツテスト（於中台陸上競技場）
6　PTA総会
17～21　保護者面談期間
7・6～10　一学期期末考査
7・23～8・12　オーストラリアの姉妹校ワガワガハイスクールへの海外研修実施（二年生一四名参加）
7・25、26、30―8・2、5　本年度より中学生への学校説明会
8・4　同窓会総会・後援会総会
9・1　始業式・防災講話
9・13～14　第十六回黎明祭（テーマ「Shall we　黎明祭?」）
19　スポーツ大会
10・22～24　二学期中間考査
11・7　学年PTA
13　防災訓練（全学年避難訓練、一年救助袋降下訓練・二年消火器訓練・三年防災映画と講話）
16～12・4　オーストラリアの姉妹校ワガワガ・ハイスクールより生徒諸君七名と引率の先生一名来校
12・10～13　二学期学期末考査
平成9・1・28～31　三学年学年末考査
1・24　推薦による入学者選抜実施（募集定員の二〇％）
1・31　予餞会
2・4　マラソン大会
2・11～14　二学年スキー修学旅行（山形県玉庭スキー場）
3・7　第十五回卒業式（卒業生男子二一一名、女子二〇九名、計四二〇名）
10～12　一・二学年学年末考査
24　体育倉庫兼部室竣工

平成九年度（一九九七）

平成9・4・7　第十八回入学式（男子二二二名、女子一八一名、計四〇三名）
25　一学年校外学習（東京ディズニーランド）
第十六回芸術鑑賞会（『奇跡の人』東京演劇アンサンブル・於成田国際文化会館）―二・三学年
5・7　生徒総会
23～27　一学期中間考査
29～30　球技大会
6・5　PTA総会
12　ゴミの焼却炉の使用を停止し、ゴミを燃えるゴミとペットボトルや弁当のパック・ビニール袋などの燃えな

いゴミ、ビンやカンの三種類に分別して出すことにする

16～21　保護者面談期間

7・7～10　一学期学期末考査

23～8・12　オーストラリアの姉妹校ワガワガハイスクールへの海外研修実施（一年生二名・二年生七名参加）

8・3　同窓会総会・後援会総会

9・1　始業式・防災講話

9・20～21　第十七回黎明祭（テーマ「1202／1202＝1……1202人の可能性」）

25～26　スポーツ大会

10・21～23　二学期中間考査

11・5　学年ＰＴＡ

19　防災訓練（全学年避難訓練、一年救助袋降下訓練・二年消火器訓練・三年防災映画と講話）

12・8～12　二学期期末考査

平成10・1・28～31　三学年学年末考査

2・2　マラソン大会

2・6　予餞会

11～14　二学年スキー修学旅行（岩手県網張スキー場）

3・9　第十六回卒業式（卒業生男子二〇四名、女子一八九名、計三九三名）

10～12　一・二学年学年末考査

平成十年度（一九九八）

平成10・4・1　第七代村田一男校長着任

7　第十九回入学式（男子二一三名、女子一九一名、計四〇四名）

28　一学年校外学習（金田海岸潮干狩り）

第十七回芸術鑑賞会（ジャズ音楽の鑑賞・於成田国際文化会館）―二・三学年

5・13　生徒総会

21～25　一学期中間考査

6・1～2　球技大会

4　スポーツテスト（於中台陸上競技場）

16～22　保護者面談期間

7・6～10　一学期期末考査

7・22～8・11　オーストラリアの姉妹校ワガワガ・ハイスクールへの海外研修実施（一年生六名・二年生二名参加）

8・2　同窓会総会・後援会総会

9・1　始業式・防災講話

本校がインターネットと接続される

9・11～12　第十八回黎明祭（テーマ「夜明けの光を求めて―輝く心」）

25　スポーツ大会

10・21～23　二学期中間考査

11・4　防災訓練（全学年避難訓練、一年救助袋降下訓練・二年消火器訓練・三年防災映画と講話）

11　学年ＰＴＡ

12・9～14　二学期期末考査

平成11・1・27～30　三学年学年末考査
2・1　予餞会
2　マラソン大会
7～10　二学年スキー修学旅行（安比高原スキー場）
3・9　第十七回卒業式（卒業生男子二一九名、女子一八一名、計四〇〇名）
10～12　一・二学年学年末考査

平成十一年度（一九九九）

平成11・4・7　第二十回入学式（男子一九三名、女子二〇八名、計四〇一名）
28　一学年校外学習（ディズニーランド）
第十八回芸術鑑賞会（真夏の夜の夢・於成田国際文化会館）―二・三学年
5・12　生徒総会
15　第一回成田北高創立二十周年記念実行委員会
20　PTA総会
24～26　一学期中間考査
28　球技大会
6・2　PTA総会
10　スポーツテスト
14～19　保護者面談期間
7・5～8　一学期期末考査
21～8・10　オーストラリアの姉妹校ワガワガ・ハイスクールへの海外研修実施（一年生四名、二年生七名参加）
9・1　始業式・防災講話
11～12　第十九回黎明祭（テーマ「花鳥風月―自然との共存」）
20～21　スポーツ大会
20　防球ネット増設工事竣工
10・20～22　二学期中間考査
27　防災訓練（全学年避難訓練、一年救助袋降下訓練・二年消火器訓練・三年防災映画と講話）
11・10　学年PTA
12・9～14　二学期期末考査
平成12・1・26　推薦による入学者選抜（募集定員の二五％とする）
27～31　三学年学年末考査
31　予餞会
2・1　マラソン大会
6～9　二学年スキー修学旅行（山形県玉庭スキー場）
3・9　第十八回卒業式（卒業生男子二一六名、女子一七五名、計三九一名）
10～14　一・二学年学年末考査

平成十二年度（二〇〇〇）

平成12・4・1　第八代越川雄次郎校長着任
7　第二十一回入学式（男子二〇六名、女子一九七名、計四〇三名）
28　創立二十周年記念全校遠足実施（一学年・ディズニーランド、二学年・東京・横浜方面、三学年横浜方面）
5・2　身体測定・スポーツテスト

17　生徒総会
22～24　一学期中間考査
30　球技大会
6・9　ＰＴＡ総会
17～23　保護者面談期間
7・4～7　一学期期末考査
17～8・6　オーストラリア姉妹校のワガワガ・ハイスクールへの海外研修実施（一年生一〇名、二年生五名参加）
8・6　同窓会総会・後援会総会
9・1　始業式・防災講話
9・14～15　創立二十周年記念第二十回黎明祭（テーマ「二十一世紀への飛躍―一二〇〇名の団結―」）
20～21　創立二十周年記念スポーツ大会
10・4　防災訓練（全学年避難訓練、一年救助袋降下訓練・二年消火器訓練・三年防災映画と講話）
17　県教委は来年度の本校の募集定員を三六〇名（九クラス）と発表
10・23～25　二学期中間考査
11・1　本校創立二十周年記念式典を体育館で挙行
記念式典において平成十三年度入学生から着用する新しい制服が披露される
2　創立二十周年記念第十九回芸術鑑賞会（「劇団ふるさときゃらばん」の『噂のファミリー・一億円の花婿』）・於成田国際文化会館
12～12・1　姉妹校ワガワガ・ハイスクールより十年生（一五・一六歳）の女子生徒八名と引率教員一名が来日し、本校を訪問後、日光・京都・広島などを見学
15　学年ＰＴＡ
12・11～14　二学期期末考査
平成13・1・1　生徒用パソコン本体四〇台・教師用パソコン本体二台をはじめＷＥＢサーバー本体など、ＣＡＩ教室の施設・設備が更新され、生徒同士のパソコンもＬＡＮで接続される
25～30　三学年学年末考査
31　推薦による入学者選抜（募集定員の四〇％とする）
2・1　マラソン大会
7～10　二学年スキー修学旅行（長野県志賀高原スキー場）
27～28　学力検査（一日目に五教科の学力検査を実施し、二日目に面接を行う）
3・9　第十九回卒業式
12～14　一・二学年学年末考査
下旬　ＬＬ教室のマスターコンソールシステムや学習者ユニットをはじめ施設・設備が更新され、生徒の効果的な個別学習が可能になる

（文責　堀越恵二・井上泰光・手島和史）

校務分掌の二十年

総務部

一　総務部のあゆみ

本校創立以来教務部内の総務係・渉外係という形であった係が独立し、総務部として活動を始めたのは、昭和六十三年度（創立九年目）であった。発足当時は、総務・会議・儀式・渉外の四種類の係で、担当職員数は五名であった。その後平成に入り、部員数も六名、七名、八名と増え、職務内容も多様化して現在に至っている。中でも、近年の入試制度の変化（推薦入試の導入等）に伴い、平成六年度より、夏季休業中の中学生を対象とした学校説明会を五日間に集中させた計画や、他分掌との協力による実施を始めたことは記憶に新しいところである。

二　掲げる目標……平成十一年度の目標を箇条書きで示しておく。

1　入学式・卒業式等の儀式が円滑に運営できるようにする。
2　職員会議等の準備及び記録をする。
3　ＰＴＡ関係の連絡を密にし、広報委員会等の活動の推進をはかる。
4　同窓会、後援会の事務局としての役割を充実させる。
5　創立二十周年記念事業実行委員会の円滑な運営の補助をする。

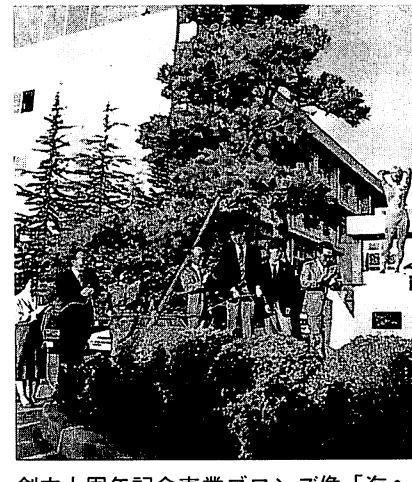
以上の五点である。これらの目標を達成するために、部内に五つの分掌を設け、それぞれの係間で協力しながら職務を実行している。特に渉外係は、内容が豊富であり、目標の中でも多くを占めているところである。

三　各係の職務内容……部内は、総務・会議・儀式・渉外・諸資料等の作成という五つの分掌で仕事を行っている。それぞれの職務内容について記しておく。

1　総務
ア　総務部全般にわたる企画・立案・フロッピー管理
イ　賞状披露
ウ　掲示物の作成・管理
エ　学校行事の記録・写真保存整理
オ　臨時の事務処理

2　会議
ア　朝の職員打ち合わせの記録
イ　職員会議の資料保存
ウ　職員会議の記録・配布書類整理

3　儀式



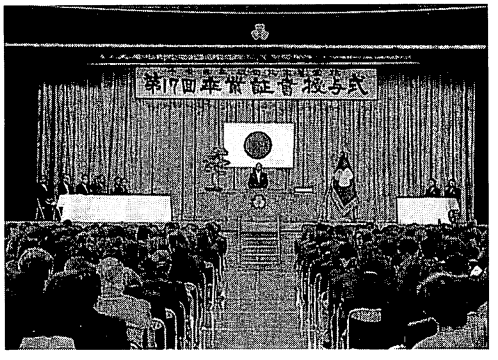
創立十周年記念事業ブロンズ像「海へ」除幕式

ア　入学式・卒業式の企画・運営
イ　離任式の企画・運営
ウ　新任式・始業式・終業式の運営

4　渉外
ア　ＰＴＡ理事会・ＰＴＡ総会・学年ＰＴＡの企画・運営
イ　同窓会・後援会の運営
ウ　学校説明会の見直し及び企画・運営
エ　ＰＴＡ広報委員会の運営及び広報誌「成北」の作成

5　諸資料等の作成
ア　年間行事計画
イ　生徒名簿
ウ　緊急連絡網
エ　学校要覧
オ　学校案内

それぞれの仕事内容の性格により、年間を通して継続されるものと、時期的なものとがあり、作業はさまざまであるが、部内の職員は、それぞれの個性に応じて、これらの五つの分掌の中の係を担当し、お互いに協力しながら活動しており、成果をあげている。また、資料の作成や保存に、校内でもコンピューターの活用が進められているが、



これは部内でも例外ではなく、フロッピーへの保存や管理も重要な職務になってきている。

四　主な年間行事……平成十一年度の総務が係る行事は次表の通り。

平成11年度　総務部主な年間行事

4月	新任式、始業式、入学式、PTA入会式、離任式、生徒名簿作成、緊急連絡網作成
5月	PTA本部役員会、学校要覧作成、学校案内作成
6月	PTA理事会、PTA総会、PTA広報委員会
7月	PTA広報「成北」第57号の発行、賞状披露、終業式 中学生対象の学校説明会（～8月上旬）
8月	同窓会総会、後援会総会
9月	賞状披露、始業式、PTA理事会
10月	PTA広報委員会、PTA研修旅行
11月	学年PTA、PTA広報委員会
12月	PTA理事会、PTA広報「成北」第58号の発行、賞状披露、終業式
1月	始業式、PTA広報委員会
2月	PTA広報委員会
3月	同窓会入会式、卒業式、PTA広報「成北」第59号の発行 年間行事計画の作成、賞状披露、終業式

五　今後のあり方

総務部の現状や課題等を考えるにあたり、その職務内容からも、また年間の行事内容からも、ＰＴＡを中心に、校外とのつながりは、必然的に強いものと考えられる。その連絡や調整、会議等にも更に力を注ぎ、

円滑な運営に心がけなければならないと思われる。その中で、平成十一年度のＰＴＡ総会時に、会員の出席者数を増やしたい目的もあり、初めて授業参観を実施したが、その効果や、今後に向けての検討も必要であろう。また、前述した学校説明会の運営方法についても、現在の形（五日間に限定して中学生に説明、体験を行う）にして五年が経つので、他校の状況等も参考にしながら、検討していく時期でもあると思われる。

このように、現行の行事の中でも年々検討を加え、よりよいものを求めながら、他分掌との連絡をとり、全体を総括していかなければならない立場の総務である。部員個々の努力は元より、全職員の理解と協力を得られなければならないと考える。

（文責　秋葉章二）

教務部

一　教務部の目標

「学校教育とは、知育・徳育・体育の三つである」という古典的な説があるが、いつの時代にあっても、知育、すなわち生徒の学習活動ないしは、学習活動をサポートする教職員の日常的な研修が、最も大事な点であることは、論をまたないであろう。その要の位置にあるのが教務部であり、生徒と教職員の橋渡し的な存在といってもよい。それは具体的には、教育目標の設定や教育課程の編成、教育諸条件の整備・向上などに打ち出されるが、この稿にあっては、目標達成に向けた教務部としての取り組み、及び個人的な雑感を記させていただいたことを最初にお断りしたい。

さて、本校の教育目標及び努力目標（別掲）達成に向け、教務部としては以下のような努力目標（一九九九年度）を掲げ、生徒・教職員、更には保護者のご協力・ご理解の下、活動している。

1　学習指導の充実と基礎学力の向上に努める。

㈠　学習指導の過程や成果について適時、適切な評価を行い、学習効果を高めるとともに生徒の主体的な学習態度を養う。

㈡　行事の精選を進め、授業時間数の確保をする。また、出張や休暇等における授業交換や課題学習の完全実施に努め、授業に集中する体制を作り上げる。

㈢　定期テストや実力テスト等の成績評価を分析し基礎学力向上策を検討する。

㈣　成績不振等による学業不振者の対策を講じ、個々の原因の解消に努め、すべての生徒にとって有意義な学校生活がおくれるようにする。

2　教育過程の円滑な運用に努め、新教育課程の研究・編成を進める。

㈠　教育課程の実施にあたり、成績評価、単位認定等の規程が円滑に運用できるように努めるとともに、その改善を図る。

㈡　教育課程の実施にあたり、各種の表簿および通知文書の見直し、整備を進めるとともに、その改善を図る。

㈢　二〇〇二年度の学校五日制導入にともなう教育課程の手直しと、〇三年度より導入される新教育課程の研究を進め、編成作業に着手する。

3　推薦入試の総括を進め、改善に努める。

㈠　追跡調査等、推薦入試の総括に努め、より有用なものとなる様、改善を図る。

㈡　成田北高校の将来像に沿い、推薦入試の抜本的改善を図る。

4　校内研修体制を確立するとともに、各種の研修活動を充実させる。

㈠　教育実習、校内研修等の成果を平常の学習指導に反映できるよう研修体制を整える。

㈡　生徒の実態に即した学習指導上の課題を設定し、学年・教科間での組織的継続的な研修活動が推進できるよう努める。

㈢　校内ＬＡＮを利用した成績処理を本格導入するとともに、データの多面的利用の研究開発に努める。

二　教育課程の編成

教育目標の達成のため、各学校ごとに教育課程を編成するが、本校の場合には、地域・生徒・学校規模等に応じて教育課程の編成にめまぐるしく迫われていたというのが過去の実態であり、編成に関わってこられた諸先生方のご苦労には並々ならないものがあったと拝察される。すなわち、本校開校の背景の一因である成田空港の開港（一九七八年）に始まり、一九八〇年度の開校時（四学級スタート）教育課程、翌年度の一部手直し、八二年度の指導要領改訂（国語表現、現代社会、理科Ｉなどの登場、英語の細分化等）に伴う全面改訂、翌年度（六学級導入）の一部手直し（社会・理科・英語の変更）、八六年度（七学級導入）、八八年度（現行の一〇学級導入）と学校規模が拡大し、更には本校が所在する成田ニュータウンや隣接する栄町への住宅団地の整備等、それに伴う学齢児童・生徒の増加、上級学校への進学希望者の増加等、様々な要因があった。

そして一九八九年、学習指導要領が告知され、五年後の九四年度導入に向け、教育課程の編成作業が始まった。現行教育課程である。「地域や学校の実態、課程や学科の特色、生徒の心身の発達段階及び特性等を十分考慮して、適切な教育課程を編成……自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図る」（学習指導要領）ことを目的に、社会科を解体して地理歴史科と公民科の設置、家庭科の男女共修、外国語におけるオーラル・コミュニケーションの設置等、従来の教育観を一変させる要素が含まれている（「新学力観」なる言葉が喧伝された）。本校にあっては、教育課程検討委員会を中心に編成作業がなされ、別表のような教育課程が作成・実施されている。本校の特色としては、生徒の進路、興味・関心等に応じて二年次より選択制を導入し、三年次では文系・理系の二類型を設定し、十学級での展開授業（共通選択。普通教科以外に芸術科や商業科の情報処理を開設）や文系類型での展開授業（文系選択。普通教科以外に体育や家庭一般を開設）を実施している。施設面の不備、教員スタッフの不足、安易な選択をする生徒の存在等、問題点も見受けられるが、本来の趣旨を活かした制度として機能させる努力が必要である（九八年度以降入学の一年次の外国語を一部手直し）。

更に、二〇〇二年度より導入される学校五日制に対応した教育課程の一部手直しに九九年度より着手、ほぼ固まりつつあり、現在は、九九年に告示された新学習指導要領に基づいた新教育課程（〇三年度導入）の研究・編成作業に取り組み始めたところである。

三　教務部の取り組み

開校以来、教務部に集中していた各部がそれぞれ分離独立し、現行の教務部の体制ができあがったのは、一九八八年度からである。以後、本校の教育目標達成に向けた教務部の取り組みが本格化するが、ここでは、過去十年間の変化、特に情報教育推進委員会、推薦入試に絞って述べたい。

一九八九年度に教務部内に設けられていた情報処理係が母胎となり、翌年度、教務部とは切り離されてコンピュータ委員会が発足した。その

後、九二年度より情報教育推進委員会と名称を変更し、新たに各教科主任も委員に加わり、コンピュータと教育を結びつける組織に衣替えし、翌年度より教務部の統計・情報管理係（現、電算係）が委員に加わり、教務主体へと発展し、現在に到っている。この間、委員の個人的な労力により、各教科準備室等を校内ＬＡＮで繋がることとなり、試行を経た後、九九年度より成績処理はすべてコンピュータ処理に切り換えられた。今後は、データの多面的利用の研究開発に努めるとともに、教職員のより一層の研修や、学期末行事の見直しなどが求められる。

二点目に、推薦入試への対応である。すでに普通科以外の職業学科においては、先行実施されていたが、九六年度入試より普通科でも推薦入試導入が認められ（推薦枠は、一〇から二〇％）、本校にあっても校長の諮問により、九五年度より推薦入試検討委員会が発足し、推薦入試導入の方向で検討が加えられた。すると九七年度入試より普通科にあっても推薦入試全校実施の通達があり（推薦枠は五から三〇％）、推薦入試検討委員会に代わって、実務は推薦入試委員会に引き継がれた。最終的に、本校の推薦要件、推薦枠、検査内容は以下の通り決定・実施している（二〇〇〇年度入試より、推薦枠は二五％に拡大）。

本校の推薦要件

人物に優れるとともに意欲的な中学校生活をおくり、次のア又はイのいずれかの条件を具備する者。

ア　学習成績全般が特に、優秀であること。

イ　学習成績が優れるとともに、部活動及び生徒会活動などにおいて顕著な実績を有すること。

推薦枠　二〇％

検査等の内容　①面接　②作文

今後、本校における推薦入試の総括、すなわち、要件・枠は無論、受け入れ態勢、本校の将来像を含めた抜本的改善を図ることが求められており、そのためにも、推薦入試に対する教職員全体の共通理解を早急に確立する必要があろう。

四　結びに代えて……教育を取り巻く情勢と本校の教育

この数年、教育関係の各種審議会より矢継ぎ早に答申が出されている。事の是非は措くとして、看過できないのが実態である。すなわち、これらの答申を下にして教育課程審議会の答申となり、学習指導要領の告示となって我々学校現場に覆い被さってくるのである。それは、「生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、……自ら学び自ら考える力の育成を図る……基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り」（新学習指導要領）、教科「情報」の新設、学習内容の「精選化」となって現れた。もっと身近な例としては、推薦入試の全校導入及び枠の拡大、学検の日程変更及び学区の拡大が取り沙汰され、一方で少子化や〝学級崩壊〟などの荒れ、凶悪犯罪の低年齢化などが指摘される（「新学力観」以降に教育を受けた子ども達である）。

翻って、本校を取り巻くこのような外的要因に対し、対応するだけの本校内部での話し合いの場が設定されているか。あるいは本校の将来計画を話し合う機関が存在するか。二学期制、単位制、中高一貫校、総合学科、コース制等々、学校や教育内容に「特色」なるものを打ち出すように様々なものが例示されているが、それらに振り回されることなく、学ぶ主体である生徒や教職員の目で検討する努力が望まれているのではないだろうか。

（文責　諏訪和夫）

生徒指導部
――生徒指導部の活動と現在までの経緯――

本校創立に向けての準備委員会で、どのような生徒を育てていくかが話し合われた際に決定された方針は、教養ある社会人を育てようというものであった。「教養ある社会人」とは、「基礎学力を有し、高校生としての立場をわきまえ、善悪の判断力を備え、ルールを守り、マナーが身についている人間」と定義され、本校教育の目標とした。

しかし、いきなり伝統校並みにと望んでも無理なので、何よりも先ず「地域に信頼される学校づくり」をすることから始めたのが、二十年前であり、このような方針のもとに現在の北高の生徒指導の基本的ルールができたのである。

まず、交通指導に係る「三ない運動」と服装指導の徹底である。「三ない運動」については、今日に至るまで変わりはない。ただ、三年生の普通免許取得のための教習所入所については、昭和五十八年の二月から許可し、さらに十二月の期末考査が終った日から許可になったのは五十九年であった。このことは、当時の近隣の高校では珍しかったとのことである。また、「服装指導」の方法については、現在と大差はないが、創立当初から頻繁に行い、指導の効果を上げ、次第に指導回数を減らしていった。しかし、六十二年頃から変形ズボンが出まわり始め、部分的には気を許せないものもあったようである。服装指導については、即効薬は無く、全職員で根気強く指導を継続することが重要であることは現在でも同じである。最近は、特に女子の服装の乱れ方が気になる。

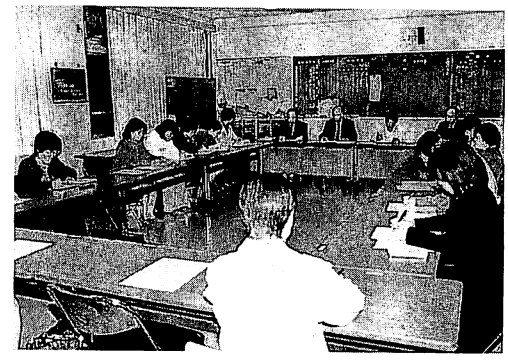
その後、六十三年度から長期休業中のアルバイトを許可し、許可カードの発行を始めた。このカードは現在も引き継いで使用している。その他、色々な部分でのきめ細かな指導のおかげで、創立当初の「地域に信頼される学校づくり」がほぼ完成したと言っても過言ではない。創立準備委員の先生方をはじめ、諸先生方の北高教育にかけた情熱と工夫と努力に心から感謝を申し上げたい。

さて、その後の十年間にはどのような動きがあったのだろうか。発展的に改定された事項などを挙げながら、現在までの生徒指導部の活動に係る内容及び今後の課題について説明したいと思う。

まず、生徒指導部の組織であるが、それまでは「生活指導」と「特別活動」に分離していたものを、平成三年度より「生徒指導」で一本化した。さらに、平成十年度より「生活指導」と言い変えた。また、生徒指導委員会の委員構成についても、平成十一年度より従来の七名の職員から五名に減らし、これに従来どおりクラス担任が加わるようにした。このことで、職員の負担軽減と、事件や事故へのすばやい対応ができるようになった。

さらに、生徒懲戒規定関係についても随時見直しを進め、不備な点については改定をした。また、懲戒指導に該当する項目によっては、謹慎日数の軽減をするなど、明るく楽しい学校づくりのために、一部規制緩和を進めた。

次に、指定通学バックの廃止についてであるが、創立以来十二年間、「北」のイニシャルの入った白いバックは、本校のシンボルのような存在であった。しかし、自転車通学者が増えるにつれ、大きくて籠に入らないとか、部活動の生徒の持ち物が指定バックでは入り切らないという問題が生じてきた。壊れた時に修理に意外と時間がかかる。雨が浸み込みやすく、カビが生えやすいという声もあった。このようなことからH



PTA校外指導委員会の打ちあわせ

R等でも話し合い、全職員で慎重に審議した結果、平成四年十月に指定廃止に踏み切った。ただし、全くの自由化ではなく、紙袋やハンドバック類については認めない等の規制は残した。それ以来、現在に至っているが特に問題となる点は見当たらない。

次に、開校当初から設置を進めてきた校内駐輪場であるが、平成三年に全てが完成した。しかし、約九五〇台が毎日校内に乗り入れている現在、各クラスに割り当てられる駐輪スペースはかなり狭く、利用生徒には窮屈な思いをさせているのが現状である。今後、抜本的な対策を立てる必要があると考えているが、今、利用者に望みたいことは、周囲への気配りを忘れずに、できる限り整頓して置くように心がけてほしいということである。また、校外において、昭和六十一年四月に開設された成田駅西口駐輪場を、現在約六〇〇名の生徒が利用している。開設当初は、特に区分は無かったそうであるが、本校生徒の利用者数が非常に多いので、特別なはからいで現在のように決めていただけたそうである。このような経緯のある駐輪場であるから、利用生徒は細心の注意を払って、他人の迷惑にならないように気配りをしてもらいたい。

次に、交通安全指導及び薬物乱用防止教室の開催についてであるが、まず、交通安全指導では、バイク関係についての指導基準が「三ない運動」であることは現在も変っていない。例年、七月中旬に全校生徒を対象に、成田警察署交通課のご協力をいただいて、交通講話をお願いしている。多くの事故処理を手がけてこられた講師のお話しと、ビデオによる学習は生徒の交通安全意識の高揚に役立っているものと考えている。しかし、誠に残念なことであったが、平成五年に男子生徒を、平成八年に女子生徒を交通事故で亡くすという創立以来初の大事故が発生した。この事故を教訓に、今後も職員による年八回の登校時自転車指導、ＰＴＡ校外指導委員の方々との登校指導と合わせて、交通事故防止の指導を本校での重点項目として取り組まねばならないと考えている。さらに、薬物乱用事件の多発、低年齢化の状況の中で、成田警察署生活安全課のご協力をいただき、平成十年度は全校生徒を対象に、平成十一年度は第一学年生徒を対象に「薬物乱用教室」を開催し、「薬物乱用、絶対だめ!!」という意識の啓蒙をはかっている。

次に、ＰＴＡ校外指導委員会の活動であるが、この委員会は年二回の会議を開き、創立当初から継続している成田祇園祭や宗吾霊堂お待夜祭の巡回指導、年三回の登校時自転車指導、そして、印旛地区高等学校ＰＴＡ連合合同街頭補導（年二回・公立高校のみ）などについての分担を決めて指導にあたっている。校外指導委員の方々にはお忙しい中をご協力いただき、厚くお礼を申し上げます。なお、平成十一年度の第二回校外指導委員会（十月二十五日）において、十二年度より祇園祭の巡回は特に問題点が無いので廃止して、最も必要な登校時の自転車指導を一回増やし、年四回とすることが確認された。ただし、学校警察連絡協議会の祇園祭巡回指導は従来通り実施することも合わせて確認された。

次に、生徒指導用機材の充実について少し触れたいと思う。もちろん

自転車の安全指導と駐輪指導に苦労

問題行動により指導を受ける生徒が出ないようにすることが大切なことは当然であるが、止むを得ず指導を受ける生徒が出てしまった場合、指導の効果を上げるために視聴覚機材の充実を計っているところである。具体的にはビデオ機材やビデオテープ、関係書籍の充実である。できればＨＲでの活用にまで拡げられたらと考えている。

次に、制服検討委員についてであるが、平成十二年二月三日の職員会議で「制服検討委員会」の設置が決まった。男子職員三名（田谷伸治・新村浩章・宮本修）、女子職員二名（鈴木真紀・佐倉範子）の合わせて五名で構成し、今後、制服についての検討を進めていくことになった。創立以来二十年間、特に問題もなく現在まで経過して来たわけだが、これだけ長期に渡って受け継がれてきたことは、北高の制服が本当にすばらしいものであるという証明であろう。ただ、新しい素材が開発された今日、生地や機能面から考えて検討の必要があると考えるのは当然であろう。特に、気候温暖化の進む現在、女子の夏季のジャンバースカートについての問題点が指摘されはじめた。これらを含めて、生徒が着やすく、さらに魅力ある北高の制服となるように検討していく必要があると考えている。

次に、ここ二、三年の間に急速に増えてきた携帯電話のことであるが、以前、ポケベルが発売された頃は、昼休みや放課後に校内の公衆電話の前に生徒の列ができ、せわしくカシャカシャと音をたてている光景が見られたが、今はすっかり影を潜めてしまった。ここまで急速に普及した携帯電話を、今さら禁止というわけにはいかない。そこで、授業中や集会では必ず電源を切って、他人の迷惑にならないことを徹底するように指導している。ただ、気掛りなのは電話機の購入から契約費用、通話料金まで全て親に払ってもらっている生徒が少なからずいることである。

以上、創立後の十年間と比較して、その後の十年間は学校を取り巻く環境が大きく変わって来た。それに伴って多様な問題行動が発生していることも事実である。さらに今後は学校自体が色々と変化していかねばならない時期を迎えるであろう。しかし、何と言っても高校生は未完成である。ひとりひとりを大切にし、常識的で均衡の取れた原則がきちんと守られ、生徒の学習意欲が満たされ、地域に信頼される学校づくりのために、生徒指導部としても努力を惜しまないつもりである。

（文責　田谷伸治）

進路指導部

一　進路指導の現状

今二十一世紀を目前にして、中央教育審議会答申・教育課程審議会答申、さらには学習指導要領の改訂という方向で教育改革が、具現化されてきている。これからの進路指導（進路の援助活動）は、完全学校五日制のもと、ゆとりある教育活動の中で自ら学び自ら考える「生きる力」を育成することになる。一人一人の生徒の個性、能力・適性を充分に理解し伸ばしていくことが大切である。学習指導要領が改訂されたことで、

教科・科目の選択幅も拡大される。将来、自分は何をやりたくて、そのために高等学校で何を学ばなければならないのか考えさせることから始めなくてはならない。さらに、彼等の目標を確かなものにするために進学・就職両面から進路選択を援助しなくてはならない。

本校では年間進路指導計画（資料①）に示すとおりの進路の援助活動を行っている。

(1) 一年次・二年次においては、特にＬＨＲに力を入れる方向で進めている。ＬＨＲでの進路学習に必要な各種ビデオその他の資料を整備しその提供を行う。進路指導部職員による進路別説明会、大学・短大・専門学校職員を招いての説明会を行っている。

(2) 基礎学力の向上を図るために、各教科・学年職員の協力を得て、夏季休業中の進学補習、放課後の補習を行っている。さらに、一学年・二学年については、旺文社による実力テストを行う。三学年については、旺文社・代ゼミによる模擬試験を行い学力向上対策に取り組んでいる。

(3) 就職希望者に対しては、就職模試、公務員模試を行う。また、夏季休業中を利用し職場見学・面接指導・履歴書作成指導を行う。

(4) 生徒が進路選択をする上での個別進路相談を丁寧に行う。三年生になっても自分がどの分野に進んだらよいのかわからない生徒も少なくない。

(5) 学年・保護者と協力して学校職員だけではなく、広く予備校の講師・大学の教員・本校卒業生・地域住民等を講師に招いての講演を行う。

二　生徒の進路状況について

本校は、創立当初四学級からスタートし、昭和六十三年四月に一〇学級となり現在に至っている。生徒の進路状況の推移はグラフに、生徒の進路希望状況の推移は表に示すとおりである。

(1) 就職状況

就職者数は平成元年から平成四年度までは、卒業生の四割弱であったが、その後徐々に減り、平成八年以降は二割程度となってきている。就職希望者の多い時代は、佐倉・野毛平・豊住等の工業団地内で製造を主とする職業を希望する生徒も多く見られた。しかし、現在は製造職を希望する生徒は少なくなり、就職先は成田空港に関連する企業である。ここ数年の不況の影響で就職は大学入試以上に難しいものになってきている。さらに、生徒の就職に対する意識の多様化等により、俗にフリーターと呼ばれる職を希望する生徒も増加している。彼等に、フリーターと正社員との違いをプリントで配布し説明するがいっこうに聞く耳を持たない生徒も少くない。

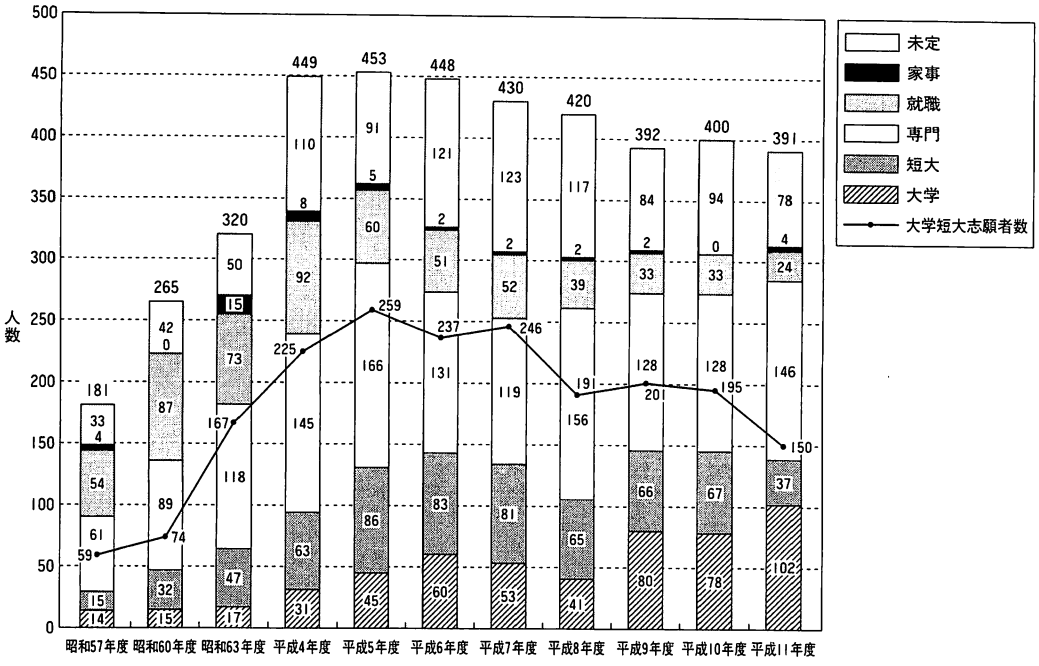
(2) 進学状況

大学・短大に入学を希望する生徒は徐々に増加し、平成四年度以降ほぼ半数の生徒が、大学または短大を希望するようになった。しかし、平成八年から大学・短大希望者が減少しはじめ（大学・短大入学者数は増加している）、専門学校希望者が増加している。また、短大に関しては、平成五年以降減少している。これは、短大卒業後の就職が難しくなったこと、四年制大学が入学し易くなったことなども影響している。（グラフ①を参考に）

ただ、大学・短大を目指すのではなく、「何をしたいからこの学校に進むんだ。」そんな生徒も増えている。一方で、就職もせず、進学もしない者も増えている。就職したくてもできない、進学したくてもできないのとは違う。就職も進学も「する気がないからしない」のである。こ

資料①　年間進路指導計画

進路指導年間指導計画				
学期	月	第　1　学　年	第　2　学　年	第　3　学　年
一学期	4	進路希望調査	進路希望調査 進路適性検査	進路希望調査 基礎力判定模試 進路別一斉指導 第1回就職・公務員模試 就職希望者適性検査
	5	第1回実力テスト	第1回実力テスト	第1回旺文社模試 就職保護者対象説明会 第3回就職・公務員模試
	6	LHRの活用 将来について考える 将来の夢と希望	LHRの活用 職業を調べる 進学先を調べる	推薦希望者保護者対象説明会 第4回就職・公務員模試 就職希望者仮希望調査 国家3種願書一括作成
	7 8	進学補習開始	進学補習開始	求人票公開開始 推薦会議（就職関係） 会社見学開始 進学補習開始 就職書類作成・面接指導 推薦会議（就職関係）
二学期	9	LHRの活用 能力、適性、個性を考える	LHRの活用 適性と進路を考える	就職書類発送開始 第3回旺文社模試 入社試験開始 推薦会議（専修学校）
	10	第2回実力テスト	第2回実力テスト	第4回旺文社模試 推薦会議（大学・短大）
	11		就職・公務員模試 専門学校説明会	第5回旺文社模試 推薦会議（大学・短大）
三学期	1	第3回実力テスト	第3回実力テスト	
	2	LHRの活用 進路計画を検討する	LHRの活用 進路計画を再検討する	進路動向調査
	3		進路別一斉指導 大学短大合格体験談	



進路状況推移

うして自分の人生について未決定のまま、とりあえずフリーターをしているという生徒も増えている。何かを勘違いしている生徒である。

四年制大学について

受験生の減少に伴い、平成八年あたりから多くの大学が入試改革を行うようになった。入試科目の削減・AO入試・自己推薦入試等生徒にとっては受験し易い大学が増えた。大学が広き門となり学力に関係なく入学できるようになってきた。問題なのは、受験という勉強の動機付けが希薄になった結果、学習の量と質が全体的に低下したことである。大学受験に対する生徒の意識も変わってきている。一生懸命努力し希望の大学に入学し勉学に励みたいと考える生徒と、ただ四年間の大学生活を楽しく過ごしたいと考える生徒とに二極化している。

短期大学について

平成元年～平成六年までは、本校の女子生徒にとって最も人気の高い進学先であった。現在は、女子の四年制大学希望者が増加し短大希望者は減少している。短大を第一希望とする生徒は、学校推薦でいち早く決めてしまう。特に、千葉県内の短大を希望する生徒が減少していることも、ここ数年の特徴である。

専門学校について

専門学校の入学者数は、創立以来三～四割の間で安定している。平成元年までは簿記・会計、語学等の分野を希望する生徒が多かった。平成二年から平成五年までは、情報関係・医療関係の分野を希望する生徒が増加した。その後、福祉関係・理容美容関係へと生徒の希望が変わってきている。

以上が本校の進路に関する状況である。

（文責　石橋博道）

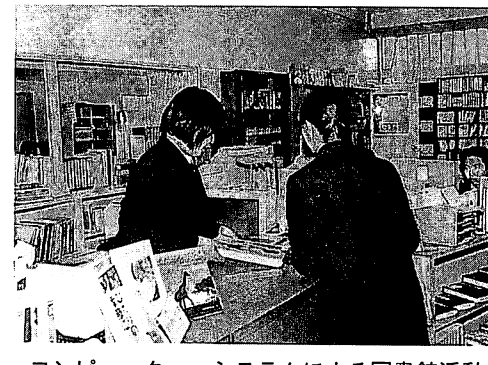
図書部

図書部は、開校当初は職員数の関係で教務部の一係として位置づけられていたが、図書館も南校舎二階の普通教室（現二H教室）が充当され、書棚などもスチール製の暫定的なものであった。活動内容も、購入した図書を分類整理して、生徒諸君への貸し出し業務を細々と行う程度であった。昭和五十六年度には図書館施設も完成され、その翌年からはカード目録の整備に着手して本格的に学校図書館としての体制づくりに入り、成田市立図書館との図書館ネットワーク構想に向けて検討が進められたが、残念ながら実現にいたらなかった。教務部図書係が同視聴覚係とともに図書部として独立したのは、創立五年目の同五十九年度（一九八四）からであり、同時に学校図書館運営委員会も設置された。

図書部としては蔵書の充実を図る一方、昭和六十一年度にはいち早くコンピュータを導入し、コンピュータ・システムによる図書館運営に一歩を踏み出した。平成元年度には千葉県教育委員会の『特色ある学校づくり』の研究指定校となり、パソコン七台による書誌情報検索システムを完成し、館内の四台のコンピュータがパソコンLANで結ばれ、貸し出し、返却、資料検索がコンピュータで行えるようにし、国語科・社会科・理科の準備室でも図書館と同じデータを内蔵したコンピュータ一式を配置して、図書資料の検索や授業資料の作成に活用できるようにした。本校図書館のコンピュータ・システムによる管理・運営は全国的にも注目され、各地の学校関係者が見学に訪れている。

図書部では、図書委員会と協力して開校当初から芸術鑑賞会を実施し、また、国語科とホームルーム担任の全面的な協力をいただいて読書感想文コンクールに取り組んできた。さらに、昭和六十二年度からは、芸術科の協力をいただいて読書感想画コンクールも実施している。平成元年度の読書感想画中央コンクールでは、三年生の岡由美子さんの作品「悲しみの大地」が最優秀賞を獲得した。

さまざまな図書館活動の推進とともに、なんといっても重要なことは蔵書数とその内容の充実である。全くのゼロからのスタートではあったが、近隣の市民の方々や生徒諸君、保護者の方々、本校職員からの寄贈なども数多くあり、平成二年度には蔵書数も一二、〇〇〇冊ほどになり、さらに平成七年度には一五、八〇〇冊余り、同十年度には一八、八〇〇冊余りとなり、翌十一年度には遂に二万冊を超え、同十二年三月末日には二一、二六九冊を数えるところまできた。その内容もきわめて豊富で、ビデオも六八本、カセットブック一一本、CD九〇枚が揃っている。また、書誌情報CDを活用して市販の書籍情報の入手や電子広辞苑、世界大百科事典、世界の美術館、世界地理辞典、毎日新聞の縮小版等のCD―ROMも利用することが出来る。平成九年度からはヘッドホンを使ってCDの視聴が出来るようになり、翌十年度からは、昼休みを中心に、図書館のパソコンを利用してインターネットを利用することも出来るようになっている。平成六年二月には、図書館に冷房施設が整備され、炎熱下の夏



コンピューター・システムによる図書館活動

「黎明祭」で和綴じの展示・講習・販売に取り組む図書委員

にも快適に過ごせる所となり、生徒にとっては読書や学習の場として、憩いと安らぎの場として活用されている。

平成九・十・十一年度の三年間にわたって、図書委員会と協力して本校生徒諸君の読書調査を実施した。「本離れ」「読書離れ」の状況がかなり深刻であることを示した。一方、マンガや雑誌に寄せる思い、時間や経費はきわめて大きな数値を示した。学校図書館や学校教育が、現在の青少年層の興味・関心や価値観、精神構造にどのように関わり、立ち向かっていけるのか、学校図書館の立場から答えを求められているところである。

（文責　手島和史）

保健厚生部

一　保　健　係

生徒の健康・安全についての管理、保健指導、健康相談及び保健室、保健健康行事等の運営を保健主事はじめ養護教諭並びに保健厚生部職員全体で取り組んでいる。

平成六年度から三〇学級対応にともない、養護教諭の複数配置となる。年々増加する保健室来室生徒に対し、質の高いケアが求められている今日、より細やかで迅速かつ確実な保健指導、救急処置が二人制により可能になり、生徒の実態も把握しやすいものとなった。

また、保健委員会は千葉県高等学校保健研究発表会において、平成元年度は発表（便秘について）、平成八年度にはパネルディスカッションへ参加し、文化祭では研究発表等、率せんして参加するなどの活動を行ってきた。

学校管理下発生の傷病に対しては、日本体育・学校健康センターへ医療費請求。出席停止者報告等の事務も係の仕事である。

（文責　坂本眞砂子）

二　教育相談係

従来、教育相談については実質的に該当生徒の状況を把握できる学級担任、そして学年主任が本人や保護者と話し合ったり、家庭を訪問するなどして対処しており、また教科担任や養護教諭が必要に応じて助言してきた。保健室を訪れて悩み事など話す生徒には養護教諭が適切に応対している。

しかし近年、教育上のさまざまな問題が論じられているように、学校では問題をかかえる生徒が増えており、それゆえか教育相談研修会も開催が多くなった。こうした状況のもと、教育相談室（保健室前）は平成十一年に室内が整備され、「学校教育相談の月刊誌」など関連文献をとのえている。該当生徒との話し合いの場、職員同士の研修の場として利用されている。

（文責　猪股康博）

三　育　英　係

近年の奨学生推薦事務は、長引く不況の影響を受けて年々希望者が増

加する傾向が見られる。とくに、大学・短大の予約奨学金においては日本育英会が新たな制度（SY21予約…無利子と、きぼう21プラン予約…有利子）を作ったこともあり希望者は急速に増加して来ている。高校在学中の奨学金制度としては日本育英会をはじめとしていくつもの奨学金があるが、多くは返還の義務のあるもののため敬遠する生徒も多く（返還できる当てがつかみにくいため）、返還の義務のない奨学金の拡充が望まれる。

（文責　荒居哲也）

四　購買係

生徒の福利を目的とする物品の販売・斡旋の運営組織として創設され、体操服、文房具、通学バック、バッジ、ネクタイ等の販売は曜日毎の当番制で行なってきた。当初は始業前、昼休み、放課後と活動していたが、周辺に文房具等を扱う店が増えて利用者が減少し、昭和五十八年度から昼休みと放課後、六十二年度から昼休みのみの活動となった。

平成三年度より扱う品物が学校の規格の校章、クラス章、サンダル等になり、利用者は激減、週二回、昼休みだけの活動となる。また、四月には生徒全員に校章、クラス章、サンダル等を配布するため活動は少なくなり、八年度からは週一回、昼休みのみになり現在にいたる。

このように購買の活動も社会や学校を取り巻く環境の変化により少しずつ形を変えつつある。

（文責　吉川勲生）

管理部

本校は昭和五十五年に第一期普通教室棟を竣工し、翌年七月には第二期体育館・格技場が、八月には第二期管理・特別教室棟が完成し、昭和五十七年に第三期管理・特別教室棟が完成して、一気に三〇学級規模の施設を整えた。そして、学年四学級規模であった初期の頃は日常の清掃活動は、帰りのSHR前に全校生徒で取り組んだが、学年一〇学級規模になる昭和六十三年度から、全員制から当番制に切り替え、帰りのSHR後に変更した。各学期末のワックス掛け、全校生徒による除草作業等、今日まで受け継がれている。又、開校当初は管理部の中に緑化係を置き、花と緑を増やす努力が続けられ、卒業記念や寄贈等も加わり、学校にうるおいがもたらされた。

本校の防災訓練は当初は一学期末に全校の避難訓練と一年生の救助袋の降下訓練、九月一日に防災講話、二学期末に全校の避難訓練と消火器の消火訓練がおこなわれたが、三〇学級規模になってからは、九月一日の防災講話と二学期の総合訓練とした。総合訓練では、全員の避難訓練の後、学年別訓練として一年生は救助袋の降下訓練、二年生は消火器訓練、三年生は防災映画の鑑賞としている。

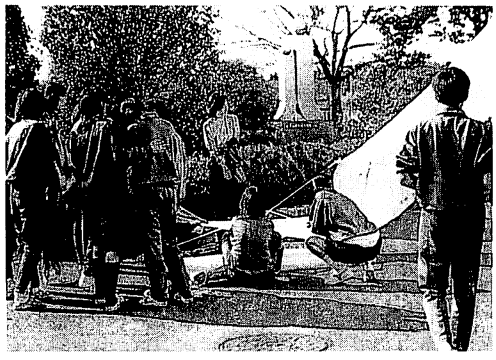
設備・備品等の面では、創立十年以降、グランドの整備、自転車置場の増設、部室の増設、陶芸小屋の設置、中庭の整備、CAI教室の設置、職員休養室の設置等、年を追うごとに充実していった。そして、それにともない長年の使用で、消耗・劣化するものも出てきたが、本校の生徒は、それを丁寧に使用し、通常の耐久年数を超えて維持していた。しかし、徐々に消耗程度が大きくなってきたことから、順次、設備・備品等の交換をおこなった。

平成八年五月に、一学年の机・椅子の交換。
平成九年四月に、三学年の机・椅子の交換。
平成九年七月と十年三月に、二学年の机・椅子の交換。

平成八年五月に、スチールゴミ箱の交換。
平成九年十月に、掃除用ロッカーの交換。
平成十一年三月に、三学年の下足箱の交換。
平成十一年七月に、二学年の下足箱の交換。
そして、平成十二年度に、一学年の下足箱の交換予定となっている。

さて、管理部として近年最大の出来事は、ゴミの問題だろうと思う。発ガン性や毒性のあるダイオキシンが社会問題となり、又、リサイクル法も実施されるようになった。学校現場では、ペットボトルや弁当パック類のゴミが急速に増えてきて、焼却炉で燃やした時の健康面や、作業の安全性や負担等を考える事が必要となった。そこで、平成九年七月一日より「燃やしても良い紙類のゴミ」と、「燃やしてはいけないペットボトル・弁当パック・ビニール袋等のゴミ」とを分別し、燃やせるゴミのみ焼却炉で燃やすことにし、ダイオキシンの発生をできるだけ抑える対策を自主的におこなった。そして、分別という新たな作業をスムーズにおこなう為に、美化委員による焼却炉当番制を導入することになった。

奇しくも、その年に「九月一日より焼却炉でゴミを燃さないように」という指導が県からなされた。本校では、すでに職員の理解の下で、前記のように一部取り組んでいる状況にあったので、「一日も早く実施すべき事柄である」という判断がなされ、平成九年九月一日より全面的に焼却炉を使用しないことに決定した。


防災訓練―避難救助袋の実地訓練―

〔ゴミ分別の経過と焼却炉について〕

○生ゴミ・ダンボール・本・プリントの束は指定の場所へ ……→回収

1　平成九年六月三十日まで
(1)　燃える物（紙類・ビニール類等の可燃物）……→焼却
(2)　ビン・カン ……→焼却炉で分別回収

2　平成九年七月一日より
(1)　燃やせるゴミ（紙類・紙パック）……→焼却
(2)　燃やせないゴミ（ペットボトル・弁当パック・ビニール）→回収
(3)　ビン・カン ……→焼却炉で分別回収
・(2)のゴミ箱増設（各室）
・(2)のゴミ回収場所を設置
・美化委員による焼却炉当番制（一週間毎）を導入する。

3　平成九年九月一日より
・焼却炉使用中止とする。
・2の(1)の燃やせるゴミ（紙類・紙パック）を焼却せずに回収
・2の(1)のゴミ回収コンテナを設置

4　平成九年九月十六日より
・2の(1)のゴミは紙類（学校回収）と紙パック（業者の責任回収）に分別する。
・紙パック専用ゴミ箱を増設（各室に(4)のゴミ箱として）
・紙パック専用の回収コンテナを設置

5　平成十一年四月より
・職員の焼却炉当番（分別回収の指導）を導入する。

以上のような経過を辿って来ているが、雨天時の分別回収の作業場所の確保や、業者が回収に来るまでの保管場所の管理方法等、まだ取り組まなければならない課題が数多く残っている。ただ、本校の生徒は分別回収にも積極的に理解を示し、行動するところがある。今後はゴミその物を減らす努力をしつつ、生徒と職員がいっしょにゴミ問題の理解を深めながら、学校の美化と安全について取り組んでゆき、快適な学校生活が送れるよう努めたいと思っている。

（文責　湯浅　仁）

同和教育推進委員会

同和教育推進委員会は、「特別委員会」の一つとして設けられ、当初「同和教育研究委員会」と称していた。メンバーは社会科主任・各学年副主任・教務部副主任・生徒指導部副主任で構成され、社会科主任がチーフになっている。

本委員会は被差別部落問題を中心に、広く人権問題に関する資料の収集・人権教育の推進に当たり、次のような目標を掲げている。

① 日本国憲法第一四条「法の下の平等」の精神に基づき、基本的人権を尊重し、あらゆる偏見・差別を無くし、民主社会を実現しようとする意欲を涵養し、かつ他者への思いやりのある人間を育成すること。

② 二学期末に、生徒・職員対象に同和教育一斉指導を実施し、同和問題に対する正しい理解を深める。

③ 同和問題に限らず、いじめ、セクシャル・ハラスメント問題等、広く差別を許さない雰囲気を、さらに「思いやりのある」人間関係の育成を学校全体の教育活動の中で展開し、生徒の意識の高揚及び実践をめざす。

特に②について過去五年間の実績をあげると、

平成七年度　手島和史（本校教諭）
講演「差別について考える……差別の歴史」

平成八年度　大平嘉伸（小見川町教育委員会生涯教育課社会教育指導員）
講演「人間らしさを求めて」

平成九年度　映画上映『チェリー・ブラッサム』

平成十年度　映画上映『未来への伝言』

平成十一年度　赤尾和輝（本校教諭）
説明「人権教育のための国連十年」
映画上映『木を植えた男』

を行ってきた。

被差別部落問題は、「同和対策事業特別措置法」・「地域改善対策特別措置法」・「地域改善対策特別措置法に係わる国の財政上の特別措置に関する法律」と制定が続き、その中で小・中・高等学校と連続的に差別解消のために同和教育・人権教育の推進が謳われてきた。本校においても、千葉県教育庁学校指導部同和教育室・千葉県高等学校教育研究会同和教育部会・千葉県社会部厚生課人権啓発室と連携をとりながら、授業・学校行事等に積極的に取組み、成果をあげてきたように思う。

日本国政府は「人権教育のための国連十年」の採択を受けて、「『人権教育のための国連十年』に関する行動計画」（一九九七・七・四）を策定した。その中で九つの重要課題をあげている。「女性」「子ども」「高齢者」「障害者」「同和問題」「アイヌの人々」「外国人」「ＨＩＶ感染

者」「刑を終えて出所した人々」に対する差別問題である。本委員会は、同和問題を含めこれらの重要課題に真っ向から取り組むために、資料収集・授業案の作成等更なる研究・開発に努め、人権教育の一層の充実及び保護者・地域の方々への人権啓発活動にその輪を広げていくことが、今後の課題であると思う。

（文責　赤尾和輝）

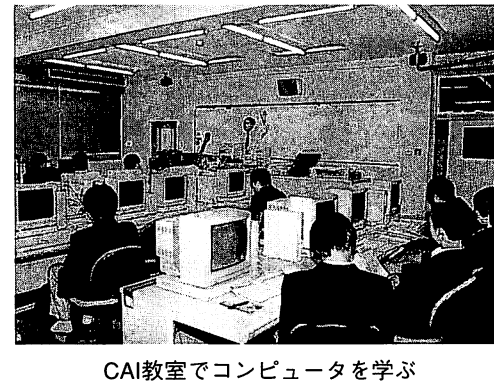
情報教育推進委員会

情報教育推進委員会は、平成四年度末にＣＡＩ教室が整備され、生徒用コンピューター四五台が導入されたのを受け、翌平成五年度より設置され活動してきた。委員は各教科より一名と教務部情報処理係より構成され、当初は導入ソフトの選定、コンピューターの操作研修などを主な活動としていた。

平成五年当時はまだ、コンピューターは現在のように一般的でなく、操作できる人も限られていた。せっかく導入されたコンピューターを、成績処理などの学校業務や、授業に積極的に利用してもらうには職員がコンピューター操作に慣れることがまず必要であると考えて、職員対象にワープロソフト〝一太郎〟と表計算ソフト〝ロータス１２３〟の研修会を何度か開いた。しかし、当時は各教科準備室にコンピューターが配置されているわけでなく、せっかく研修会で覚えてもすぐに忘れてしまい、なかなかコンピューターの扱いに慣れるという状況ではなかった。そこで、活動方針を少し変えて、まず各教科準備室にコンピューターを配置し、いつでもコンピューターを使える環境を整えることにした。はじめは、県の〝特色ある学校づくり〟によって導入されたコンピューターを中心に機器を配置し、その後、歴代事務長のご理解とご協力をいただいて、年に三台づつ新しいコンピューターを導入していただき、各教科準備室に配置することができた。

その後、各教科準備室から成績入力をして成績処理することを目的に各コンピューターをネットワークで結ぶことにした。一年目は二階部分に設置されたコンピューターをネットワークで結び、二年目で校内全体のネットワークがほぼ完成した。さらに、県下全校にインターネット接続が導入されたのを機に、校内の全コンピューターをネットワークで結び、各準備室からインターネットに接続できるようになった。

しかし、ＣＡＩ教室のコンピューターは型が古くインターネットに接続できないので、生徒は図書館の二台のコンピューターでしかインターネットを閲覧できないのは残念なことであった。また、現在では個人所有のものも含め三〇台以上のコンピューターがネットワークに接続されており、インターネットの閲覧に支障がでるほどの状況になっている。県から支給される予算の都合もあり、接続時間の延長や、回線速度を上げることもできずに大変迷惑をかけている状況である。ネットワークを通じての成績処理については、各教科の情報教育推進委員の先生方の協力をいただき、平成十一年より始めたが、多少の入力ミス等はあるもの



CAI教室でコンピュータを学ぶ

の、大きな間違いもなくほぼ順調に進んでいる。しかし、一方ではまだコンピューターは苦手だ、あまりさわりたくないと思っている先生がいることは残念なことと思う。

（文責　嶌田裕美）

国際理解教育推進委員会

当委員会は平成七年（一九九五）四月に発足し、その活動は今年で五年目になる。

発足の経緯

平成六年四月に五代校長井上洋一氏が着任された。氏は生徒数の減少が見込まれる今後のことを考えれば、公立高校とて特色ある学校を目指すべきだという方針であった。そこでその一端を担おうとして当委員会の発足に至った。異文化を知ることは人間を豊かにするという観点から国際交流を意図した。当初は隣国の韓国或いは中国との交流を考えたりもしたが、当時は特にその交流が相互的なものではなく、両国の事情を考慮すれば、当方よりの一方的なものになりがちであった。そこで治安の面や経済的なことなどを考えて、オーストラリアの高校との交流を進めることにした。相手校の選択については、業者に依頼せず、本校独自に探すことになった。井上校長の友人ジョン・ニコル氏を介し、ニューサウスウェールズ州の教育次官を務めていたレッグ・ポロック氏を紹介いただいた。その結果、ポロック氏に提出した本校の交流希望に添った学校として同ＮＳＷ州のワガワガ高校をご推薦いただいた。ワガワガ高校は一九一二年創立の伝統ある州立校である。男女共学で日本の中学・高校に当たる九三〇名ほどの生徒が在籍する。一年次全生徒が日本語を必修科目として学習し、その後も選択科目として継続学習が可能である。尚、「ワガワガ」はアボリジニー（オーストラリア先住民）の言葉で「カラスの集まる所」と言う意味であり、現在でこそ同州の内陸地帯では大きな街（人口約六万）であるが、開拓当時のことが、その名から伺いしれる所である。

平成七年四月に当委員会が発足し、このような経緯で同年秋にワガワガ高校との姉妹校交流が決定した。

委員会活動状況

⑴　短期交流派遣について

平成八年七月に第一回の研修団が初めてワガワガ高校を訪問した。以後、毎年夏に一、二年生を対象に三週間の研修団を派遣し、今年で五回目となる（派遣生徒名や三週間の研修日程などについては、本誌「心に残る行事・学校生活」の項を参照）。

訪問先の人々―ワガワガ校生徒、教職員、ホストファミリーやその周辺の人々、街の人々―との交流は、感受性豊かな生徒にとっては正しく大きな体験であり、今後の人生を歩むに際しての大切な指針の一つになっているようだ。

この研修に参加する生徒の募集は前年度の学年末から新学年度当初に行われ、生徒は直ちに準備に入る。九月の文化祭では研修の報告として展示を行っている。又、感想を中心とした報告集を発行している。

第四回までは夏休みに入ってすぐの出発であったが、今年（平成十二年）より一週間ほど出発を早めることにした。保護者の経済的負担の軽減、生徒、引率教員の夏休みの更なる有効利用が図られると思われる。

⑵　短期交流生徒受入について

これまで平成八年十一月、平成十年六月にそれぞれ三週間の短期研修

団が本校を訪問した。又、今年平成十二年度十一月にも第三回目の訪問団が来校する予定である。研修団は毎回一〇名ほどで、日本語を選択している生徒が中心である。彼等は日本の歴史、文化に肌で触れようと、毎回、京都や広島等への訪問も研修に組み入れている。

(3) 長期研修について

平成九年度より短期交流に加えて一年間の長期研修が始まり、これまでに、本校から二名ワガワガ高から一名の生徒が参加した。

野平茉莉子（平成十年三月～平成十一年二月・二年次）

第二回短期交流派遣に参加後、長期研修を特に希望したため、ワガワガ高との交渉を重ねた上、委員会の了承を得て派遣に至る。

志鎌美香（平成十二年三月～平成十三年二月帰国予定・二年次）

第四回短期交流派遣生の一名でもある。第一学年全員から希望者を募り、委員会と第一学年主任で面接、作文等を実施。成績、人柄、意欲、資質などを考慮して選抜した。

ドミニク・クック　Dominique　Cook（平成十一年二月十九日～十二月十七日）

ワガワガ校を卒業してすぐ本校にやってきた。在学中日本語を選択履修していたようであるが、来日してからの日本語の向上は目覚ましく、日常会話は不自由しない状況であった。勉強熱心で様々なことに積極的に挑戦する姿勢は、本校生徒に良い影響を与えた。滞在中は長短合わせて六家族のお世話になり、日本文化を様々な面で吸収した。帰国後は国立キャンベラ大学アジア文化学科で学んでおり、引き続き日本語も履修している。将来は良き日本理解者になることであろう。

(4) 講演会

これまで次の二つの講演会を催した。

① 平成七年十二月十九日「戦後五十年と私」
朴仲弘氏（大韓航空日本支社長）

② 平成十年十二月二日「伝統と個人」
ドナルド・キーン氏（コロンビア大学名誉教授）本誌別項参照

(5) その他

委員会発足前からの本校の活動を引き継ぎ、地域ロータリークラブやライオンズクラブの依頼により生徒の交流派遣や受け入れの手伝いをしている。

印旛地区の国際化推進セミナーの企画への参加と生徒派遣。平成十二年度は事務局を務めている。

今年度ＰＴＡに国際交流委員会が設けられた。これまでもＰＴＡ役員の方々やホストファミリーを引き受けてくださったご家庭には大変お世話になったが、今後は委員会との連携を密に活動して行きたい。

思い出の人々

当委員会の活動には様々な方のご理解ご協力が必要であるが、ここでは特に、現在本校やワガワガ高を離れてしまっている方々を中心に紹介したい。

＊リンゼイ・モートン氏　Mr. Lindsay Morton

これまでのワガワガ高との連絡、交渉相手は日本語学科のモートン氏

であり、姉妹校交流の礎を築いていただいた。過去二回の訪問団を引率して来日したのも氏であった。氏は今年二月に他校へ転勤されたが、この交流をさらに飛躍させることで、氏への感謝の気持ちに代えたいと考えている。尚、平成十一年度以降は同日本語学科のクリスティーナ・ハリウェルさんMs. Christena Halliwellが後を引き継いで連絡や企画運営をしてくださっている。

ワガワガ・ハイスクールを訪問した本校の生徒諸君

＊ジャッキー・アレンさん　Ms. Jacqueline Allen

＊古林玄一氏

ジャッキーさんは、ワガワガ高で日本語を教えていた平成八年の七月、州政府の奨学金を得て日本語研修に来日、本校に十二月までの六ヶ月間滞在し日本語や日本文化に親しんだ。神宮寺小学校にも通って小学生と一緒に授業を受けたり交流を深めたりした。現在はワガワガ市の隣、ジュニー市の高校で日本語を教えている。

ジャッキーさんの滞在中ホストファミリーとして大変お世話になったのが、当時本校ＰＴＡ副会長であった古林氏である。当委員会発足以来様々な面でご協力をいただいている。

＊ネイサン・ルーク君

アメリカよりロータリーを通じ、高校卒業後来日し、平成八年八月末から翌年六月まで本校で学んだ。将来はアニメーション作家になりたいということで漫画の腕前は素晴らしく、暇を惜しんで創作に励んでいた。帰国後は美術大学に進学した。

＊黒田瞳さん

マレーシア、クアラルンプールより本校へ二週間体験入学した日系中国人高校生。（平成九年七月）

＊五代校長　井上洋一氏

今後の日本の若者のことを考え、国際交流の必要性を説き、当委員会が発足する契機を作り、姉妹校提携にご尽力いただいた。

＊六代校長　花井保氏

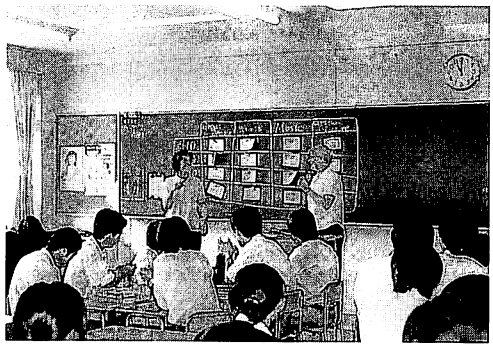
在職時にワガワガ高との実質的な交流が始まり、第一回、二回の研修団を派遣、ワガワガ高より第一回の訪問団受入れを行う。

＊七代校長　村田一男氏

第三回、四回の研修団派遣及び第二回訪問団受入れを行う。また、コロンビア大学名誉教授、日本文学研究者のドナルド・キーン氏の講演を成功させる。

＊七代教頭　中田成气氏

委員会発足時より四年間、積極的にご協力、ご指導いただいた。ワガワガ高の引率教諭のホストファミリーも引き受けていただいた。ドナル



NSW, Australia 2652
16/2/99

Dear Sirs

Thank you so much for all that you have done with Dominique's exchange visit to Narita Kita. We are so glad that your school has accepted her enrolment and much appreciate the efforts you have made to provide her with homestays while she is in Narita. Her father is happy with all the arrangements and also wishes to thank you for your efforts.

Dominique is very excited and is really looking forward to her stay in Japan. She is a lovely young lady with a happy, bright personality. She is a hard-working student who always does her best, and she has a very friendly outlook and gets on well with everyone. I am sure she will work hard and that she will fit into your school very well. I am sure that her host families will like her a lot.

I am looking forward to hearing about her life in Japan and about her progress.

I have included copies of Mariko's school reports from last year and some notes from her teachers about her efforts in her subjects. All her teachers have told me that she has worked hard and that her results and progress have been very pleasing. Her English has improved so much and she participates well in all her classes. She has been a fine ambassador for your school and she will be missed when she returns to Narita next month.

Thank you once again. The bonds between our schools is getting stronger all the time. Please pass on my regards to Mr. Murata and all the staff at your school. I hope we shall meet again soon.

Lindsay Morton

Lindsay Morton

A taste of Australia

Japanese visitors soak up culture

By LINDSAY BALLARD

A VISITING group of Japanese high school students were treated to a good old Aussie barbecue and a practical display of firefighting techniques when they paid a visit to the Wagga Fire Brigade headquarters in The Esplanade yesterday.

The 14 students — 11 girls and 3 boys — from Narita Kita High School, 60 kilometres out of Tokyo, have been in Wagga for the past fortnight as guests of Wagga Technology High School.

Maths and languages teacher Lindsay Morton said the visit was arranged after Wagga Technology High established a sister-school relationship with Narita Kita.

"As far as I'm aware, Wagga Technology High is the first State school to host visiting Japanese students other than where there is a sister-city relationship," Mr Morton said.

"The visitors have been hosted by local families and have had a wonderful time.

"They are basically here to improve their English and their fortnight's stay has certainly done that."

Mr Morton said the students studied English for three hours each school morning during their stay, giving them time to soak up the local culture.

They have visited two local farms and other attractions and participated in an excursion to the Australian Wildlife Sanctuary in Canberra.

"We hope to reciprocate by taking a group of our students to Narita Kita in November," Mr Morton said.

Fire station commander Jim Rhynehart presented the students with a plaque and individual certificates as mementos of their visit.

And what did the students enjoy most about their visit to Wagga?

"I enjoyed the fire station," said a very diplomatic Keiko Watarabe.

Chiharu Takano said her stay with her Wagga host family was the most enjoyable part of her visit, while Yuichiro Ochiai said he enjoyed visiting the district farms.

A practical Yasuhiro Oikawa said she enjoyed "speaking English".

Teacher Takeo Hanaka, who is travelling with the students, praised the hospitality he and the children had been shown during their visit.

"It has been wonderful," he said.

"Wagga is a calm and beautiful place and everyone we have met has been so friendly and sociable.

"The host families all told us their history and where there ancestors came from, it was very interesting.

"It is the first time I have come to Australia and I hope to return again," Mr Hanaka told *The Daily Advertiser.*

The students will leave Wagga today by train and, after a visit to the Blue Mountains tomorrow, will fly out on Monday morning homeward bound to the Land of the Rising Sun.

FIRE DRILL : Visiting Japanese high school students, from left, Keiko Watarabe, Chiharu Takano, Yuichiro Ochiai and Yasuhiro Oikawa donned firefighting protective clothing when they visited the Wagga fire station in The Esplanade yesterday. With the students are fire officers Justin Bentley, back left, and Rodney Krause.

The Daily Advertiser, Saturday. August 10. 1996

第１回訪問団　現地の新聞で紹介される。

ド・キーン氏との講演打ち合わせのため、真夏の炎天下、中田氏と共に氏の自宅を訪ね歩いたことが懐かしい。

＊篠崎昌美氏（現・佐倉西高、英語）

当委員会発足当時の初代委員長。大韓航空日本支社長、朴仲弘氏の講演を中心になって企画、実施する。

＊仲田恵一氏（現・千葉高、数学）

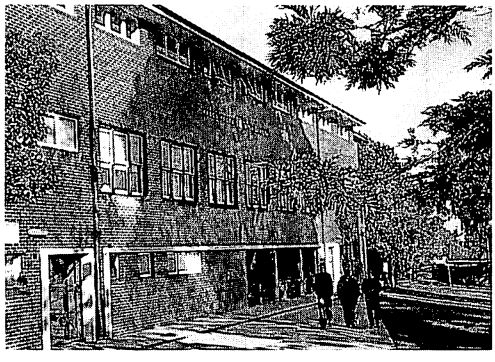
委員会発足当時よりのメンバーで、委員会の諸活動を軌道に乗せるべく、ご尽力いただいた。ワガワガ高への第二回研修団を引率。ワガワガ高の引率者、モートン氏やチャップマンさんのホストファミリーを引き受けていただいた。

＊広瀬直子氏（平成十年四月から平成十一年三月、本校英語科講師）

米国での留学体験を生かし、長期留学生ドミニク・クックに、短期間ではあったが、温かく丁寧なご指導をいただく。特にご家族との京都方面への旅行は、将来外交官志望のドミニクにとって、生涯忘れられない思い出となったようである。

＊宮本初枝氏（本校社会科教諭宮本修氏夫人）

カナダの公立学校でのカウンセラーとしての経験を生かし、ドミニクの良きアドバイザーになっていただく。彼女の滞在中の最初と最後のホストファミリーとして修氏共々格別なご協力をいただく。



ワガワガハイスクールの校舎

以上の方々を初め、これまでお世話になっている全ての方々に感謝申し上げたい。

（文責　花香武男）

事務部
――学校施設・設備状況について――

昭和五十五年に開校してから二十年が経過しようとしている。その間、事務職員もいろいろと人が代わったが、それぞれが成田北高校の歴史の一ページをそれなりに刻んできたと思う。

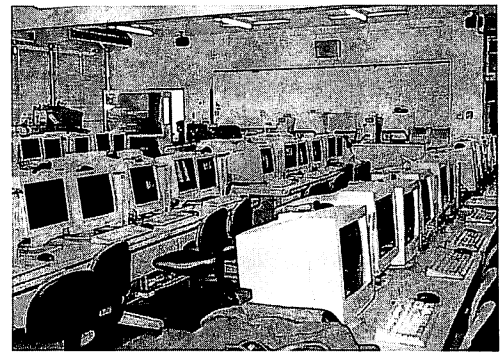
人間で言えば成人式を迎える年だが、施設・設備からすればリフレッシュを必要とする時期にさしかかっている。

本校の施設設備は、創立からの十年間でＣＡＩ教室を除いて主立ったもののほとんどが完成している。

そして今二十年目の区切りの時を迎えるにいたり、これからは補修・小規模の改修が多くなり、早いうちに必要なものの大規模改修を行っていかなければならないと思われる。

これからの課題として、当初はＯＡ機器（コンピューターやワープロ等）がこれだけ急激に浸透しようとは予想できなかったせいか、電気容量が非常に不足するようになっているし、まして、インターネット等の発達に応じ、本格的に学校もＯＡ化が望まれるのであるならば、早急に電気設備の改修が必要とされる。

ともかく、少しでも生徒達がよりよい環境の中で学校生活ができるよ

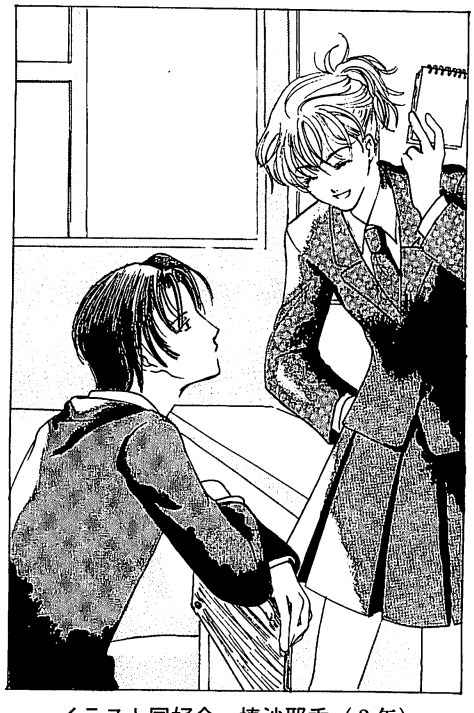


最新のコンピューターが整備されたCAI教室
（工事中）

うにすることが大切であるだろうし、そう心がけたいと思う。

私たちの諸先輩達が作り上げてきた些細かもしれないが伝統を引き継いで、よりよい学校になっていって欲しい。

（文責　水野邦久）



イラスト同好会　椿沙耶香（２年）

生徒会活動の二十年

生徒会本部の二十年

ここでは、『黎明十年』に記載された後の第十二期以降の生徒会について簡単にみていきたいと思う。

第十二期生徒会（会長　馬場　純　平成三年十月～平成四年十一月）

活動方針「皆んなで大胆に新しい北高を造っていこう」

・概　観

アメリカ人生徒会長の馬場純を中心に、積極的な役員達の力により通学カバンの改正など画期的な取り組みを行ってきた。

◎この時期の主な出来事（定例行事は除く）

十一月　通学カバンについて本部で検討が始まる

十二月　「通学カバン」第一回アンケート

一月　「通学カバン」第二回アンケート

・二回のアンケートの結果、

① 毎日、七割の生徒しか通学に北高カバンを使用していない

② 八割の生徒がカバンのデザイン・材質に不満を持っている

③ 九割以上の生徒がカバンの指定に反対

理由・大きすぎる、値段が高い、壊れやすい、堅いという実態がわかり改めてバッグ改正に乗り出す。

一月　予餞会にて本部企画「お世話になった先生からのメッセージ」上映

二月　アンケート結果公表

三月　指導部長にアンケート結果を提出。指導部会でも承認される。

五月　「通学カバン」問題、職員会議で難航。継続審議に。

六月　「カバン問題」活動再開。六月末の評議会、七月始めのＬＨＲでも話し合い

七月　更に評議会を開き、その結果を指導部に報告

八月　会計の渡部隆行君、海外派遣団の一員として東南アジア訪問

九月　職員会議でバックの自由化が認められる

九月　臨時全校集会にて生徒指導部よりバックの自由化が発表される。

十月　「カバン自由化」スタート

十一月　アンケート実施

第十三期生徒会（会長　高田　哲　平成四年十一月～平成五年十月）

活動方針「生徒の意見を反映させていこう」

・概　観

第十二期生徒会で、「通学カバン改正」という大きな問題を扱

生徒会

セイトカイって何だろう。千葉県立成田北高校に、初の米国人生徒会長ジョシュア・ステイブルトン（日本名・馬場純）君（18）が生まれた。日本流の「根回し」を体得しながら、通学カバンの自由化に取り組んでいる。1970年代以降、低迷が言われて久しい生徒会活動のいま、をジョシュア君と考えた。

全校生の声 活動の支え

米国人生徒会長 ジョシュア君と

生徒に不評の北高バック＝千葉県成田市玉造の成田北高で

学問する

「よろしくお願いします」。

四日放課後、成田北高生指導室。生徒会正副会長は、三束のアンケート結果と要望書を指導部長の教諭に手渡した。（学校）指定バッグを変えたいと答えた生徒は約九七％。自由にしたいと答えた生徒は約九九％。要望書は、生徒アンケートでの圧倒的な結果をもとに、通学カバンの自由化を求めている。

生徒会長は「生徒が一番嫌がっているのは流行遅れの北高バッグだった」。流行（りゅうちょう）だが、少しきごちない日本語。陰りの深い顔立ち。ジョシュア君は、米国生まれ、米国籍だ。

父親は宣教師で、六年前一家で来日。地元の小中学校を経て、高校入試を突破した。「政治や法律に興味がある」から、早くから生徒会に関心を持ち、一年生の後期、まずクラスの「ルーム長」となった。

生徒指導部長の小松崇三郎教諭に「生徒会長になりたい」と打ち明けたのは、昨年秋。小松教諭は「『出過ぎたまね』と反発する生徒もいるのでは、と内心少し心配した」。十一月の会長選。いつもは教師が走り回って会長のなり手を探すが、珍しく自分からなりたい生徒が二人もいて選挙に。対立候補は日本人。小松教諭は、ジョシュア君の立会演説を聞いて安心した。

「私は何をするとは約束しない。みんなの希望を聞いていきたい。それが民主主義です」。ジョシュア君が過半数の支持を得て当選した。

考え方は「ほとんど日本人と同じ」。帰宅中に会うアメリカの友人のように「日本の学校は軍隊みたい」と従わない。ただ、中学時代、外出時の注意や夏休み中の生活を事細かく指示したプリントを配られた経験などから、「個人的には、日本の学校は少し生徒の私生活に干渉しすぎる」と思う。

カバン自由化で アンケート 改善に取り組む

会長になって、違和感があったのは、仕事がなくても生徒会役員が早く帰宅しないこと。「だれかが働いていたら、自分も残る。日本の会社みたい」と感じ、午後五時半ごろまでには帰るようにはからった。

カバンの見直しについては当初「すぐアンケートをやろう」と思っていたが、生徒会の仲間の助言で「先生方に相談しながら進めた方がいい」と知った。学校側への「根回し」を優先させ、アンケート実施の許可を取った。学校側の回答は新年度以降になる見込みだが、小松教諭は「教師側は好意的」と言う。

生徒会の仲間はジョシュア君の仕事ぶりを「まだ、周りに少し遠慮しすぎなのではないか」と言う。だが、小松教諭は「外国人であることを意識させないほど溶け込んでいるのは、よほどの努力と思う。スタンドプレーをしたら浮いてしまう、と知っているのでしょう」と見る。

ジョシュア君自身は「私は革命をするために生徒会長になったわけではない。何をするかは、選んでくれた一般生徒が要望して初めて決まる。カバンのように、みんなが本当に望むことが一つでもできればいい」と話している。

1992年（平成４年）３月９日

朝日新聞に報道された米国人生徒会長ジョシュア（馬場純）君―朝日新聞縮刷No. 849より転載

ったため、第十三期生徒会は、目新しいことではなく、既成の活動をより合理的かつわかりやすく展開していった。特に、黎明祭に関しては、金券制など画期的なシステムも考案し、この後の生徒会活動の基盤となる時期であった。

第十四期生徒会（会長　伊能英男　平成五年十月～平成六年十一月）

活動方針「一人一人の意見を活かしてさらに北高を発展させていこう」

・概　観

第十四期生徒会は第十三期より検討してきた規約改正に始まり、予餞会・新入生歓迎行事、文化祭といった生徒会行事の整備など実務面における改革を行った。

◎この時期の主な出来事

十一月　「生徒会会則」一部改正

・定例評議会の廃止

・会計監査委員会の廃止（評議会に機能移行）

・黎明祭実行委員会、応援委員会、北星編集員会の明文化

・部長会代表を二名から一名へ

・予算編成の簡略化

「生徒会役員選挙規程」一部改正

・役員改選を十月に

一月　予餞会にて三年職員バンド・三年有志を出場させないようにしたために、軽音楽同好会の三年生とトラブル。
二月　規律委員会と連携して自転車駐輪場所の指定、クラスステッカーの実施を検討する（四月実施）
三月　入学説明会時に「ようこそ成田北高へ」配付
四月　新入生オリエンテーションに向けて情報誌「Ｅｎｊｏｙ Ｓｃｈｏｏｌ Ｌｉｆｅ」「北高タイムス」発行
四月　部活動廃止について、規程が曖昧だったため、新廃部規程を立案するも職員会議で否決される。
五月　女子サッカー同好会承認
六月　千葉テレビ「あらーむハイスクール」に会長以下三名出演。北高のＰＲ活動を行う。
八月　会計の中村美紀さん、海外派遣団の一員として東南アジア訪問。

第十五期生徒会（会長　菊地恵美　平成六年十一月～平成七年十一月）

活動方針「改革」

・概　観

北高史上、初の女子会長菊地恵美を中心にいろいろな事についてもう一度考え直し、慣例を廃し、より現実的なやり方を追求していった。それ故、教員や一般生徒とのトラブルも決して少なくはなかったが、活動方針である「改革」はかなり実現されていった。

◎この時期の主な出来事

十二月　予餞会に向けて補助スタッフを募り、三名集まった。（小野こずえ、竹下由紀子、富沢淳子）
一月　関西・淡路大震災に対し、社会福祉委員会と連携してＪＲ成田駅前などにおいて募金活動を行う。（十四万円以上もの募金が集まり、日本赤十字社を通じて被災地に送られた。）
一月　予餞会に対してオーディションで参加団体の選抜を実施。前年の軽音楽同好会とのトラブルの反省をうけ、バンドに対しては各バンド単位での募集を行った。
一月　予餞会において、吹奏楽部の伴奏で教員が歌うなど多くの充実した出し物がみられ、北高至上最も落ちついた予餞会となった。また、幕間に有志バンドを出演させるなど積極的な工夫がみられた。
三月　学校生活アンケート実施
四月　それまでの部活動・委員会のオリエンテーションをより発展させた形での新入生歓迎会スタート。第一回は代表質問形式を取り入れた。また新入生オリエンテーション情報誌「鉄則北高」も配付された。
四月　生徒会ポスト新設
七月　高校見学用情報誌「鉄則北高ｖｏｌ．二」発行

第十六期生徒会（会長　端坂佑輔　平成七年十一月～平成八年十一月）

活動方針「生徒が一丸となって北高を向上させていこう」

・概　観

二年次から本校に転入した生徒会長端坂佑輔を中心とする第十六期はやや好戦的（?）であった第十五期とうって変わって、

様々な問題に対して理詰めで対応していくといった印象を受ける役員が集まった。そのためか行事だけでなく一般生活に対しての改革が数多くなされていった。

◎この時期の主な出来事

十一月　前生徒会本部の学校生活アンケートの結果を受けて、校長・事務長と会談

その後、各教室への時計設置、コート置き場の設置、靴箱の取り替え、自転車置き場の証明などが実現した

一月　予餞会において、最後に行われる恒例の全員合唱時、一、二年生の一部があきれて帰るという事件発生。予餞会のあり方が議論されるようになる。

四月　新入生向け生徒会情報誌「Ｅｎｊｏｙ　Ｈｉｇｈ　Ｓｃｈｏｏｌ　Ｌｉｆｅ」発行

四月　新入生歓迎会は以前のパフォーマンス主体型に戻す。

六月　予餞会の是非について評議会で話し合いがもたれる。

七月　全国各地で頻発している「いじめ」問題に対して、「思いやりの心」キャンペーン実施

八月　副会長の遠藤映理子さん、海外派遣団の一員として東南アジア訪問

八月　文化祭実行委員と合同で文化祭準備（門製作、ＶＴＲ製作、企画会議）のための校内合宿実施。

第十七期生徒会（会長　田村綾乃　平成八年十一月～平成九年十二月）

活動方針「ＥＶＯＬＵＴＩＯＮ　ＦＯＲ　ＴＨＥ　ＦＵＴＵＲＥ～より良い学校生活を求める」

◎この時期の主な出来事

三月　千葉ＴＶ「高校すくらんぶる」に生徒会長・役員出演

四月　対面式廃止

四月　文化祭実施に対し、文化祭実行委員中心体制となり、生徒会本部は本部企画、会計業務に携わる形となる。

五月　女子サッカー部設立

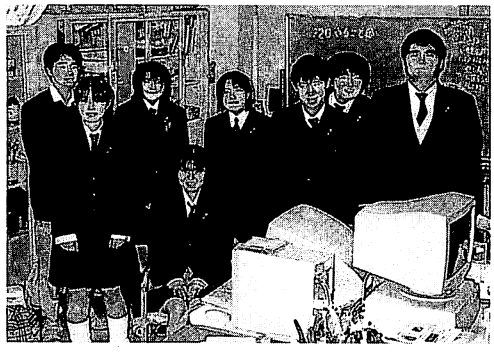
五月　予餞会の実施をめぐるホームルーム・評議会（計六回）での話し合い実施。その結果、開催を決定。ただし、三年生の出演を禁止し、有志バンドについてはオーディションを行うなどを決定する。

第十八期生徒会（会長　木村悦子　平成九年十二月～平成十年十一月）

活動目標「Ｄｅｖｅｌｏｐｍｅｎｔ～一人一人の個性を見つめて～」

・概　観

生徒の学校に対する帰属意識の急速な低下及び顧問の入れ替わりによる混乱の中で、二年生から生徒会長を選出することができず、一年生生徒会長が誕生。今までの生徒会が蓄積してきた伝統を引き継ぐことがで



第20期生徒会本部役員

きず、生徒会活動にとっては困難な時代が本校においても現実のものとなった。

・活動方針

一　具体的方針を設定する。

二　生徒会会計に対する信頼の回復を図る。

a　出金システムの見直しを図る。

b　会計担当役員の責任を明確化する。

c　評議員による監査制度を見直し、常設の監査委員制度を創設する。

三　議決機関と執行機関の明確化を図る。

a　執行機関提出案件の評議会での議決の必要性を周知徹底していく。

b　特別委員会である黎明祭実行委員会を発展改組し、常設委員会として文化委員会を創設する。

四　本部方針及び評議会における審議結果の浸透を図るために、生徒会機関誌を発行する。

・総　括

方針「一」について

具体的方針を設定し、一年間の活動を目的意識を持って行う必要性が認識された点は一歩前進であると思われるが、ここで出された方針はあくまで本部の問題に限定されており、生徒会一般会員の直接的利害に関わるものではない。一般会員の利害に関わる方針を提示し、その実現を図る本来の生徒会活動への道程は、管理教育が常態化した今の学校システムの中ではあまりに険しいものだと認識しておかなければならないだろう。

方針「二」について

「a」に関しては、今までの顧問、校長との直接接触による出金から、学校の決済システムの流れに乗せる出金システムが創られ、顧問の負担軽減につながった。

「b」に関しては、会計担当福地華恵の尽力により極めて迅速かつ正確な会計処理が行われるようになり、本部における会計担当の重要性が認識されるようになった。

「c」に関しては、生徒会会則第四一条の改正が行われ、監査委員制度が創設された。監査委員として二名が選出され、初代委員長今岡千鶴の尽力により監査制度の確立が図られた。

方針「三」について

「a」に関しては、生徒会全体としての自主的活動がなされない中、執行と議決の相違は意味を持たない。しかし、民主的手続きを放棄しないという点においてのみ意味を認めることができる。この方針の前提として、いかに生徒の自主性を喚起するのかが大きな課題として残った。

「b」に関しては、生徒会会則第二六条及び二八条の改正が認められ、文化委員会が誕生し、生徒会行事を担うことになるが、この委員会をどのように発展させていくかが今後の課題となる。

方針「四」について

書記伊藤千恵及び平山千恵の尽力により、評議会終了後速やかに、生徒会機関誌「彫心鏤骨」が発行されるようになった。これが第十八期における最大の功績であろう。

第十九期生徒会（会長　木村悦子　平成十年十一月～平成十一年十二月）

活動目標「桜梅桃李」

・概　観

生徒会長木村悦子をはじめ、昨年の役員六名の内四名が二期目の役員を引き受け、さらに一年生より五名の役員の引き受け手が現れる。本来は競争選挙が行われなければならないところであるが、生徒会会則第八条に臨時措置を適用し、書記・会計を三名とし、役員総数九名でのぞむことになった。この措置は、自立的立候補者が無い現実の中では仕方のない措置であると思われる。

このような中で安定した本部活動が展開されていくが、もう一方では、一般生徒の学校への帰属意識が、役員の想像をはるかに超えて失われていく。生徒会の存在の意味自体が問われ始めた。

・方　針

一　文化委員会の育成を図る。

二　予餞会の発展的解消を図る

・総　括

方針「一」に関して

昨年度発足した文化委員会は、生徒会行事の運営を担当するということで、本部直属の委員会であるといっても過言ではない。この委員会をいかに育てていくかが大きな課題となった。

本部役員の助言のもとに執行部が設立され、執行部のメンバーは本部役員と協力し積極的に動き始める。この点は大いに評価されて良いであろう。だが、文化委員会全体となると約六〇名に及ぶ委員をいかにまとめ束ねていくかにおいて戸惑いは隠せない。

方針「二」に関して

生徒会の懸案事項である予餞会の開催問題に対しては、全校参加の行事から、卒業生を主体とする学年行事への転換を図ろうとしたが、合意を得ることができず、今まで通りの予餞会を実施。

その後、三年生を対象にアンケートを行うが、予餞会への参加希望が五〇％となる。予餞会開催について、本部において何度か話し合いがもたれたが、本部自らが生徒会行事の廃止を提案する不毛性、ひいては生徒会活動が無に帰していく恐れ等を考慮し、予餞会の継続を決定。しかし、開催の合意が得られない中での開催の決定は「最後」を意味し、予餞会は、この三年生を最後に本校から消えることとなる。

（文責　後藤俊一）

平成６年度「黎明祭」の飾りつけ

規律委員会

規律委員会は開校当時から設置され、登校時指導と通学用自転車の点検作業を中心に活動してきたようである。開校時一学年四クラスであったが、現在の一学年一〇クラスの規模になり、登校時に、生徒が生徒の服装等をチェックするという難しさから、登校時の指導は行われなくなってきたようである。そして、現在では自転車点検と、黎明祭の警備全般を行う事が活動の中心になっている。

全校生徒一、二〇〇名のうち、自転車通学者の数が一、〇〇〇名に上ることもあり、近年本校にとって特に大きな問題となっている点について、これからの規律委員会のあり方を考え直し、教員側の再認識を促す一助になればと考える。

一点目は、通学時の自転車の乗り方についてである。自転車の並進走行、傘さし運転、飛び出し、二人乗り、その他の危険な行動など。死亡事故に至らないのが不思議なほどである。とにかく、駅から学校までの道を通りかかる度、冷や汗をかく思いである。交通ルールの徹底はいうまでもなく、ＬＨＲ等での呼びかけ、通学路の見回り等の強化など、規律委員と教員と保護者とが連携しあっての、より厳しい指導が必要であろう。ただ現状では、生徒も教員もまだ意識が低いようで、みんなの協力が得られないと思われる（生徒の協力のことと、教員側の勤務時間のこと、忙しい保護者の協力など）。大きな事故が起こってからでは遅いので、何らかの体制を確立していきたいとは考えている。

二点目は、盗難の件である。本年度四月から七月までで、届け出られた自転車の盗難だけで二〇件以上。現状はもっともっと多いはずである。その大半が、本校生徒による寸借と思われる状況であった。これは、駅駐輪でなくなったはずの自転車が、校内でみつかることがよくあるからである。自転車の寸借とはいえ、立派な窃盗罪であり、本校の生徒の中に少なからずそのような生徒がいるということは、恥ずべきだと思う。

三点目は、……。四点目は、……。とても書き切れない。

とにかく、急を要することであるが、規律委員の意義の再検討と、教員の意識改革が急務であると、最近強く感じている。

（文責　松沢史郎）

体育委員会

体育委員会は開校当初より設置された常置委員会で、現在は各クラスから男女それぞれ二名ずつが選出される、総勢一二〇名の大所帯である。

現在、体育委員会の主な活動は次の通りである。

①授業内容のクラスへの伝達と、その準備・後片付け。
②球技大会の企画・運営。
③スポーツ・テストの運営補助と記録整理。
④スポーツ大会の企画・運営。
⑤マラソン大会の運営補助。

もっとも、この一クラス四名体制となったのは二年ほど前からで、開校時から平成九年までは男女各一名ずつで活動していた。

開校初年度は体育館もなく、体育行事を実施するにも全校生徒の協力を得ながら、まずは散乱する石や貝を拾うことから始まった。各行事の実施時期ともなれば日常業務と相俟って多忙を極め、昼休みや放課後の時間まで費やし行事の成功を支えた。そこには、利害関係に拘わらず、

物事を自分たちの手で成し遂げたという達成感があった。

一学年一〇クラスが定着して久しいが、生徒数が増加すると行事の規模もそれに伴って拡大していく。登録チーム数が増え、どのような競技方法が妥当か、しばし議論になる。丁寧に行事を作っていこうとすれば当たり前のことなのだが、何せ時間が足りない。その様な状況の中で、『委員の負担軽減と委員会の機動力向上』を目的に、平成十年度より体育委員会を『授業担当』と『行事担当』の二種類の組織に分けるようになった。前述の①、③、⑤の業務が授業担当、②と④が行事担当と、業務内容をそれぞれ分担した。

スポーツ大会―体育委員や部員の協力が支える

学校五日制の完全実施を目前に控え、益々時間のない中で、如何に行事を成功させていくか。各行事の存廃を巡り、いろいろな部署で検討されることと思うが、『数多くの生徒が最も楽しみにしている行事』を運営しているという誇りを持ち、今後、更に委員会の活動を充実させていきたい。

（文責　渡邉正巳）

放送委員会

放送委員会の主たる活動は、開校二年目に当委員会が発足して以来、変わらない。各種学校行事における放送サービスや昼休みの放送である。その他、黎明祭では放送と同時に照明も担当したり、希望者があればNHKの放送コンクールへも出場する。

しかし過去の『北星』からうかがわれる放送委員会の活動は、現在よりも活発なようである。昼休みの放送は、以前は前日の放課後に録音しておいて、翌日流すという手続きで行われていたという。そのための台本も書いたようだし、先生紹介などというコーナーもあったり、音楽を流すにしても、DJスタイルで曲紹介をしたり、生徒からリクエストをとったり、と意欲的であったようだ。

それに比べると、現在の昼休みの放送は、静かに音楽を流すだけといったBGM的な放送サービスとなっている（それも、常時放送しているわけでもない）。行事における放送設備のセッティングは、ほとんど生徒の自主的な動きに任されているが、そうした活動もあわせて、現在の放送委員会の活動は、他の「委員会」と同じく、学校生活を成り立たせるために必要となる、義務的、「当番」的な役割と意識されているようだ。放送番組の制作といった、過去の放送委員会が行っていたような活動は、むしろ現在の意識では「部活動」的な色合いが強い。そうした意味では「放送委員会」よりもむしろ「放送部」といった、同好の士を集めた団体を創設しなければ、かつての放送委員会のような活動は望めないのかも知れない。

ともあれ、「当番」的な役割としての放送委員会もまたやはり必要で

ある。以前は時折いたような、音響機器についてマニア的に詳しい生徒がいなくなっていることや、開校以来の放送設備の老朽化など、問題は抱えているが、現在の放送委員会もまた、果たすべき役割を担って活動している。

（文責　小島　昇）

図書委員会

図書委員会は、開校と同時に発足したが、開校時には図書館もなく蔵書もなかったため、活動の仕様もなかった。ようやく半年後に普通教室（現在の二G教室）を図書館として代用し本の貸し出しを開始した。現在の図書館が完成したのは昭和五十八年度の秋であったが、まだ蔵書数は二、〇〇〇冊余りで図書館としての役割は十分とはいえなかった。しかし、図書委員会の委員の自覚と活動ぶりは、きわめて真面目で意欲的であったという。昭和五十八年度には、印旛地区代表として本校の図書委員会としての活動を県で発表し、昭和六十年度には「はだしのげんはピカドンを忘れない」の読書会に取り組み、黎明祭では他校の図書委員との合同読書会を開催し、同時に日中友好協会の協力を得て日本軍の中国侵略のスチール写真を展示した。

本校の図書館活動が質的な変化と飛躍を見せ始めたのが昭和六十一年度で、コンピュータが導入され、翌々年度からコンピュータを中心にした活動が本格化した。平成元年度には、千葉県教育委員会の「特色ある学校づくり」の研究指定を受けて書誌情報検索システムを完成して、本校の図書館活動は全国的にも注目されるコンピュータ・システムよる運営が進められていく。このシステムや活動を維持発展させていく上で、図書委員会の委員諸君の果たしてくれている活動と努力はきわめて大きい。また、教務部や進路指導部と兼務しながら、日常的に図書委員との親交を深め指導しながら、本校図書館活動をしっかり支えてきた司書の先生方の存在も見落とせない。図書館活動が、安定的に発展していく上で、図書館や司書室が図書委員の足を向けたくなる場所であったことは、図書委員の意欲と協力を引き出していく上で大きな役割を果たした。

図書委員会の活動の基本は、なんといっても本校生徒諸君の読書・学習についてのさまざまな要望に応え、読書への関心と意欲を高めていくことである。そのためには、なによりも自らが読書に親しみ、図書館が好きであることが大切であろう。その意味で、本校の図書委員は、図書館を、図書館の仕事を大事にしてくれていると思う。日常の貸し出し・返却業務もほとんどの図書委員は責任を持って取り組んでくれているし、『図書館だより』を発行したり、蔵書整理の際には率先して協力をしてくれている。図書館前の通路を活用した展示、心に残る詩や言葉の紹介など、多くの図書委員が創意をこらした努力を惜しまない。昨年は、成田市在住の写真家田尾敏郎氏の写真展「アジアの子どもたち」を開催し、それを受けて田尾氏を囲む座談会なども実施した。

最近の図書委員会は黎明祭にも積極的に参加し、年度当初から「和綴じ」に取り組んで、販売に備えて作品を準備するとともに、自らの技量を磨いて、黎明祭当日の「和綴じ」づくりの指導に備えている。また、六月には本校生徒諸君の読書調査をかなり大規模に実施し、黎明祭にはその結果をまとめて二階通路の壁面一杯に発表して、「文化祭」としての黎明祭の一角を支えている。

本校の図書館の蔵書も二万五、〇〇〇冊近くなっている。心温まるマンガもあれば、CDなど音楽資料もある。生徒諸君が自由に活用できる

写真家田尾敏郎氏を囲んでの座談会

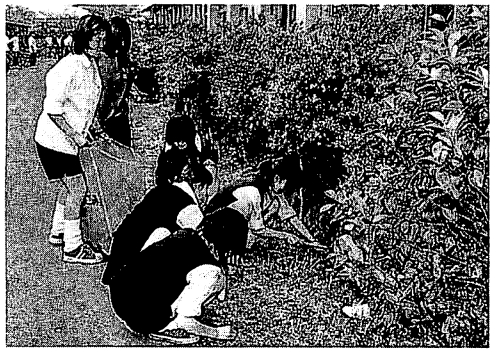
パソコンも五台揃ったし、時間帯の制限はあるがインターネットともつながっている。まさに本校図書館は、本校における情報源であり、情報交流の場であり、それを通して生徒諸君、生徒諸君と職員の交流の場でもあり、そして、静かに読書や思索に耽る場、心の癒しの場でもある。これからの図書委員会が、いままでの豊かな経験を生かして、本校の文化と情報センター、安らぎのスペースとして発展していくために、一層力をあわせ、知恵を発揮していって欲しいと切望している。

（文責　宮本扶佐子・手島和史）

美化委員会

現在、美化委員会は委員会というより、清掃および美化活動担当係という位置づけとなっている。現代の高校生気質を反映しているのか、多くの北高生には自ら進んで清掃及び美化活動をしようという意志が全くみられない。しかし、それではゴミがたまり、教室は汚れていく一方である。そこで担任をはじめとする教員が音頭をとって清掃活動を生徒に強いるわけであるが、それでも一クラス四〇人に対して的確な指導は十分にはできない。そこで美化委員の登場である。美化委員という肩書きによって生徒は

①日常のゴミ分別の補助。（ゴミ置き場の前で各教室から出されたゴミの分別を監視し、それぞれ袋詰めする。）
②清掃用具の補充
③大掃除の運営補助（除草準備、後かたづけ、除草の確認、ワックス配付、回収）
④防災訓練の運営補助（マット準備、消火活動）
⑤黎明祭時のゴミ箱設置、ゴミ処理補助及び清掃活動
⑥ストーブの管理
⑦スポーツテストなど学校外で行われた行事の後かたづけ
⑧入試の準備（教室整備）
⑨修学旅行、林間学校の風呂掃除等



など美化に関わる様々な仕事を任せられているというのが現状である。

なかでも、ゴミの分別は「ダイオキシン問題」による焼却炉の全面使用禁止という「外圧」によって急遽やらざるを得なくなったものであり、これにより美化委員の負担はますます増大した。本来、ゴミの分別は家庭でも行われているはずであるが、学校生活においては誰かがやってくれるだろうという甘えから、なかなかきちんとできない。そういったことから平成十一年度からは、その負

担を減らすために、従来の一クラス二人体制から四人体制になり、何とか与えられた仕事をこなしている現状である。しかし、各委員の自治意識の低さ及び多忙さ故、本来の委員会活動、例えば牛乳パックの散乱の防止やゴミ分別に関する啓蒙活動に対しては全く取り組まれておらず、このあたりが現在の美化委員会の大変深刻な問題であるといえる。

成田北高校は現在でも三学年三〇学級からなる大規模校である。にもかかわらず施設には非常に恵まれていず、生徒達は狭く汚い教室の中に押し込められている現状である。また、気の利く生徒が極端に少なく、逆に廊下や霧よけに唾やガムを吐く生徒がいたり、ジュースのパックを捨てる生徒も後を絶たない。そんな環境の中、美化委員に期待されている役割はとても大きいはずなのだが、現状の清掃担当「便利」係に成り下がっている状況にとても寂しい思いをしながら顧問をしている今日この頃である。

（文責　後藤俊一）

保健委員会

保健委員会は開校当初より設置され、保健活動の運営に大きな力を発揮してきた。各クラス二名の保健委員は、開校時八名から平成二年には六〇名になり、現在までその人数で活動している。

委員会の活動内容は、定期健康診断や身体測定における準備・補助・片付けなど、生徒の健康管理における重要な仕事から、日常のクラス内での傷病者の保健室への付添いなど生徒の安全における仕事。また、修学旅行や文化祭、スポーツ大会における救急処置など、クラスと保健室とのパイプ役を果たしている。

今年二十年を数える保健委員会活動の中で北高保健委員会の発表の場となったのは、黎明祭への参加と千葉県公立高等学校生徒保健研究発表会への参加である。黎明祭では、展示をはじめ生徒へのアンケート調査と結果の発表、各種身体測定のコーナーや保健研究発表の報告などを行った。成長期である高校生にとって関心の多い内容であったため、多くの参加が得られた。千葉県公立高等学校生徒保健研究発表会においては、平成元年度に「便秘とその対策」について発表をし、優秀賞をいただいた。平成八年には千葉県内の保健委員の高校生の代表としてパネルディスカッションに参加し、これからの保健委員会のあり方について討議した。

今後、保健委員のひとりひとりが積極的に委員会活動に参加して、成田北高の生徒が健康で楽しい学校生活を送れることを望む。

（文責　坂本真砂子）

社会福祉委員会

社会福祉委員会は、自主的な活動を重んじているため、希望者で構成されている。クラスによって委員がいない場合もあるが、希望者が多く数名の委員が置かれているクラスもあるため、毎年七〇名を超す大所帯である。

設置は、成田北高開校の年、昭和五十五年である。開設時は募金活動からスタートしており、昭和五十七年頃から施設訪問などの校外活動も加わるようになった。

これまでの活動を調べると、点字や手話の勉強をしたり、拡大写本の製作を行なうなど、積極的な姿勢が見られる年もあった。又、ボランテ

ィアリーダー養成講座で知り合った他校の生徒たちとグループを作り、学校の休日を利用して勉強会を行なったり、委員会の枠を離れ、個人で老人ホームを訪問するなど、活動の範囲がかなり広まっていたことに感心させられる。

残念ながら現在はそこまでの広がりはないが、主な活動は次の二つである。

①募金活動　赤い羽根共同募金、愛のひとしずく運動などの物品購入、書き損じ葉書やテレホンカードの回収、各地の災害救援募金など。

②施設訪問　成田市三里塚にある「不二学園」を訪問して行事を手伝ったり、運動公園で行なわれる障害者ソフトボール大会のプラカード持ちなど。

社会福祉施設での活動

この二つの活動を、委員のみでなく、全校生徒に呼びかけ輪を広げていくために、委員会では校内新聞を発行している。内容は、ボランティア活動のお知らせと、参加した生徒の感想である。不二学園では、運動会、文化祭、マラソン大会などたくさんの行事があり、そのつど北高に協力の依頼がある。参加した生徒の様子を見ていると、文化祭の模擬店でヤキトリ屋やカレー屋をやったり、運動会で子どもたちといっしょになって走ったりダンスをしたり、体をフルに使って活発に動き、生き生きと楽しそうである。

募金活動や施設訪問を通して、ボランティア活動が私たちにとって少しでも身近なもの、あたりまえの事としてとらえられるように、社会福祉委員会は、これからも地道な努力を続けていきたい。

（文責　大山早百合）

購買委員会

1　創設　昭和五十六年十月

2　活動の経過

購買委員会は、昭和五十六年十月から各ＨＲより原則として一名を選出して構成され、創設当時は一・二年生のみＡＳＤ組の合計八名という数であった。

主な活動は、北校舎一階の購買室で、体操服・文房具・通学バッグ・バッジ・ネクタイ等を販売することであった。活動は曜日毎の当番制で行っていた。創設時は月～金の始業前（八時二五分～八時三五分）・昼休み（一二時四五分～一三時一五分）・放課後（一五時～一六時）に活動していたが、昼休み以外の利用者が少ないこと、委員会としての仕事が煩雑であること、学校周辺の開発により文房具等を扱う店が増えたこと等を理由に、昭和五十八年度からは昼休み・放課後のみに、そして昭和六十二年度より、昼休み（一三時～一三時一五分）のみに活動することとなった。平成三年度頃より購買の取り扱う品物が学校規格の校章・クラス章・サンダル・体操服等となり、生徒の利用も少なくなったため購買委員会の活動も週二回に減ることになった。また、学校規格の品物

購買委員会の販売活動

を取り扱う為、必然的に四月に購買の利用が偏り、普段の利用がさらに減少してきたことから平成八年度より週一回、昼休みのみになり現在に至る。このように購買委員会の活動も、社会の変化や学校を取り巻く環境の変化により少しずつ形を変えてきている。このため、「できる活動を確実に行う」を活動目標として活動していきたいと思う。

最後に、購買委員会の得た利益についてであるが、昭和六十一年度までは、在庫品の借入金に充てられていたが、その支払いをおえ昭和六十二年度より、生徒の福利を目的として、生徒全員に還元するという形で利用されている。昭和六十二年度は図書室にコンピューターを導入するために、昭和六十三年度より平成十一年度までは芸術鑑賞会にそれぞれ費用の一部を負担している。

（文責　吉川勲生）

文化委員会

〈文化委員会誕生の背景〉

文化委員会は、平成十年五月十三日の生徒総会で承認され、まだ新しい委員会である。

この委員会誕生の背景にあったものは、なぜ本校には文化的行事を執行する委員会が存在しないのかという疑問からであった。さらに、この疑問が提示された背景には、生徒会本部とはそもそも何なのかという問題提起があった。

第十八期生徒会本部役員は、前年までの本校の伝統を引き継ぐことのできなかった役員であった（本誌『生徒会本部』の稿を参照）。この役員たちが、生徒会本部のあり方を問題にした。

生徒会本部を生徒会会則上どうとらえるかはその解釈が一般化していない以上、極めて難しい問題のように思われる。特に本校のような「戦後民主主義」の中で誕生した新制高校としての伝統を持たない学校においては、なおさらそのあり方を定めることは難しい。

本校においては、文化的な行事を担う常設の委員会を持たなかったにもかかわらず、文化的な行事（予餞会及び新入生歓迎会）がそれなりに執行されてきた。体育的行事については、しっかりとした活動を行っている体育委員会が存在するのにである。

では、誰が文化的な行事を運営してきたのか。それは、生徒会本部役員である。ここには、生徒会本部役員＝行事屋という図式が成立している。逆に言えば、生徒会活動がその自主性を発揮する場が行事以外になくなってしまった、八〇年代に成立した本校の歴史的限界を示す生徒会システムであったのかもしれない（本校生徒会の名誉のために言えば、ここ十年の間には大きな問題に取り組んだこともあった。本誌『生徒会本部』の稿を参照されたし）。

では、膨大なエネルギーを費やす文化祭（黎明祭）には、どのように対処していたか。この行事に関しては、黎明祭実行委員会を組織し、本部の下部組織に位置づけていた（この委員会は、正式には平成五年十一

月十日の生徒総会で誕生したが、実際には、それ以前より生徒会の一組織として黎明祭の開始とともに組織されていたものである)。

つまり、ここからは、生徒会の会則上、生徒会会員の利害の調整並びに、その実現を図るという生徒会本部本来の姿は見えてこない。たとえ、現実がどうあれ、生徒会活動の本分を忘れては、本校における生徒会活動の発展は望めない。

上記のような問題意識の中から、会則二八条の特別委員会であった黎明祭実行委員会を発展的に解消し、二六条の常設委員会へと格上げがおこなわれ、文化委員会が誕生した。

〈黎明祭に取り組む文化委員会の組織〉

ここでは、黎明祭実行委員会及びそれを引き継いだ文化委員会が黎明祭に取り組む際の組織を紹介し、この委員会の活動の紹介としたい。

この委員会が、黎明祭を執行するにあたっては、通常、委員長を中心とするいくつかの班から構成されている。本来、この班編成は毎年変わっていくべきものなのであるが、ここ十年ほとんど変わっていない。

一　実行委員会本部（委員長、副委員長他）

生徒会本部との「力」関係は毎年変わっており、年度によっては企画・生徒会本部、運営・実行委員会本部という年もあるかと思えば、生徒会本部・実行委員会本部で黎明祭実行委員会本部という年もあった。この様に本校においては、生徒会本部の位置づけが不明確であるため、生徒会本部と委員会の実行委員会本部の役割が、年ごとにかわってしまっている。どの形がよいということではないが、要はより積極的に仕事に取り組んでいくものが自然に全体の舵取りをしていくといった様子である。

文化委員会誕生後は、このメンバーが、生徒会本部とともに予餞会及び新入生歓迎会を執行していくことになる。

二　一般発表班

年度によって細かく分業したこともあったが、大まかな形で一般発表を取り仕切っていた。

三　装飾班

年度によっては、門・立て看板を作るなど積極的な活動を行い、各団体の装飾規制まで行っていたが、近年は委員会全体でそうしたものに取り組んでいる。

四　広報班

プログラム・ポスター担当。比較的継続メンバーが多く、また、目標がはっきりしているだけに仕事もしっかりと行っている。

五　会計班

生徒会会計と協力して、会計に関するいっさいを行う。金券制をとって以来、トラブルが減り、精神的苦痛は軽減されたが、チケット作成、

処理等仕事は多く、また、他の委員と仕事をする時期も異なる点など、人数は少ないが大変な業務である。

六　食品衛生班

以前は一般発表の一部門であったが、保健所との連絡、検便の手配、検食の準備、諸団体との交渉等仕事の多さから平成七年から新設された。

七　クラスコンテスト班

クラスコンテストの企画・運営を行う。当初はかなり質も高かった通称「クラコン」であるが年を重ねるとともに質が下がり、ついには職員から非難の声が相次ぐまでになってしまった。結局、平成五年を最後に体育館でのパフォーマンスという形でのクラスコンテストは開催されなくなり、全クラス参加、クラス表彰（平成六年のみ）という形に移行していった。

〈総　括〉

それなりの理念を持った黎明祭実行委員会の発展的改組による文化委員会の誕生であったが、文化委員会の誕生で何が変わったのであろうか。

黎明祭実行委員会の時代は、予餞会及び新入生歓迎会の執行には本部役員のみがかかわっていたが、そこに文化委員会の執行部がかかわることによって、本部役員の負担は大幅に軽減した。

しかし、生徒会本部として、生徒会会員の全般的利益の実現を図るという「崇高な」理念にもかかわらず、生徒会一般会員の意識は、すでにそこになく、行事の成立もままならないような状況を呈し始めている。

まず、生徒会本部が直面した課題は、いかに文化委員会の執行部を立ち上げることができるのかという相も変わらぬ原点的課題であった。文化委員会が学校行事を遂行していくという当初の目的からはほど遠く、学校行事を担っていこうという生徒の存在すら見出すことができない状況もあった。

結果とすれば、文化委員会を創設してみたものの生徒会本部役員＝行事屋の図式からは抜け出ることができず、本部役員は行事の執行に追われる毎日を送っていく。

つまり、現在の生徒会の問題はそのシステムにあるのではなく、生徒会の存在の意味自体にあるのであろう。この意味論を検証しなければ、おそらく生徒会機構をいくらいじくり回しても結果は同じとなるであろう。

文化委員会が創設され学校行事を担う主体が誕生したにもかかわらず、生徒会の大きな行事の一つであった予餞会は生徒の参加率の低下によって終了する。生徒会活動自体が無に帰す時代を迎えてしまったような予感を覚えるが、何とか生徒の自主的な活動を保証していきたいと考えている。

（文責　後藤俊一）

北星編集委員会

生徒会誌「北星」の編集を主な活動内容とする「北星編集委員会」の活動経過について、「北星」の発刊から遡って記してみたい。

昭和五十五年七月から発足した生徒会は、昭和五十八年一月に生徒会機関紙の発行等を担当する「編集委員会」を創設、生徒会役員の手により、創立以来の生徒会活動の記録をまとめた手刷りの生徒会誌「北星第一巻」を作成した。内容は生徒会本部から全校生徒へ発信されたメッセージで、新しい学校を生徒達の手で作ろうという熱い期待感にあふれている。この会誌は第二巻で中断し、その後、生徒会役員間で編集方針、

内容について議論が重ねられた結果、「北星編集委員会」が新たに組織され、昭和六十一年三月、活字印刷による「北星」第一号として復刊した。以来平成十二年三月発行の「北星」は第十五号を数えることになる。

さて、この十年間の生徒会誌「北星」の変遷について述べてみたい。「北星」編集の基本的性格は《生徒会活動に皆が参加できる場を設け、生徒会本部と委員会やクラスの結びつきをより充実させる》という点では変わっていない。

《表紙》一号から九号までは白黒ないし一色刷りで、主として個人やイラストレイション同好会の会員によって描かれている。十号からはカラー印刷になり、表、裏表紙ともに呼応するデザインで描かれている。カラー最初の十号の表紙（濱中真紀子描）は、羽ばたきながら花の蜜を啄む鳥の絵で、夢のある斬新な印象を与えた。十一号は写真部員の精巧な眼で家鴨の羽ばたきの瞬間をとらえた作。十二号から十五号の現在までは、数々の全国的な賞をいただいている本校美術部生徒の描くファンタジックな油絵シリーズが表紙の表裏を飾っている。

《内容》生徒会がかかわる活動の記録が中心であった七号までから、高校生活全般にわたる記事が掲載され、内容が豊富になってきた。校外学習（遠足）、芸術鑑賞会、スキー修学旅行、ボランティア活動、スピーチコンテスト等々。さらに、九号からは豪州との交換留学生の体験記が、十二号からは、オーストラリアのワガワガ高等学校との交流体験記へと広がった。その他陸上部インターハイ出場記（十五号）、美術部全国総合文化祭参加記（十五号）等本校生の活躍が掲載されている。

特集を組んだ十号「一行詩・父よ！母よ！友よ！先生よ！生徒よ！」では、北高生の生の声、つぶやきの中から本音が聞こえる。また十五号では、「あなたにとって大切なもの・こと&不快なもの・腹の立つこと」というテーマで全校生徒と教職員の感性を問うている。ちなみに「大切なもの・こと」の《人間篇》で、生徒は「友達」、教職員では「家族」、《もの篇》では生徒は「お金」、教職員は「健康」、《精神篇》では、ともに「おもいやり」とあった。また、「不快なもの」では生徒、教職員いずれも「自分勝手（自己中心）」というのがダントツであった。

部・同好会・委員会活動、クラス紹介、三年生の寄せ書き、一言集、先生方の贈る言葉は創刊号より変わっていない。

その他では、十五号のグラビアはカラー印刷で仕上げ、学校生活の一端がより鮮明にされた。

北星編集委員は、各クラス二名ずつ選出され委員会が構成されているが、実際の企画、編集等の実務は編集委員の中の五、六名で動いている。手がけた生徒の大半は仕事の大変さを経験すると同時に、作り出す喜び、充実感を体得するようである。今後も生徒の自主的な活動を拡大し、豊かな高校生活が送れるための指針となるような生徒会誌を創造していく必要がある。

（文責　纐纈康世）

応援委員会

応援委員会は、生徒会会則第五章第二八条によって、評議会が必要に

応じて設ける特別委員会である。昭和五十六年、野球部の公式戦初参加により、その応援活動が始まった。応援委員会は希望制で、各クラスから何名という強制ではなく、応援活動を通じて高校生活を充実させたいと考えている生徒が中心となっている。年によっては委員がなかなか集まらなくて、委員会を結成するのに苦労した年もあった。（以上、「黎明十年」より引用。）

その後、ユニフォーム・旗・太鼓等の備品が揃い、短期間の活動ではあるが、充実した委員会になってきた。平成二年には、夏に応援委員として活躍した生徒が核となり、各組に応援団が結成され、十月に中台陸上競技場で行われた「創立十周年記念体育祭」を一層盛り上げた。

平成三年から五年まで、成田市大谷津球場や千葉市青葉の森球場での全校野球応援の際に、整然とした応援を繰りひろげた。平成六年からは一回戦が大谷津球場で行われる場合のみ全校応援ということになった。平成六年は青葉の森球場、同七年は国府台球場、同八年は八千代市営球場、同九年は船橋市民球場。従って、応援は希望者だけということで、応援委員会としては少々物足りない感があったが、吹奏楽部と共に元気あふれる応援をおこなった。平成十年は一回戦が成田市大谷津球場ということで、久し振りに全校応援となり、応援委員会としても熱がはいり、試合後の委員の顔は、無事にやり遂げた満足感で輝いて見えた。なお、この年にはユニフォームの補充購入をした。ただ、残念なことに最近は男子の応援委員の希望者が少なくなってきたことである。十一年になって全校応援についての議論が交わされ、諸般の状況を考慮して、今後、全校応援については原則として実施せず、上位進出の場合は別に検討することになった。なお、この年は一回戦、八千代球場、二回戦、成田市大谷津球場、三回戦、八千代球場と、大型バスをチャーターして応援委員会の活動の場は充分にあった。

最後になったが、雨の中でも力強く演奏をしてくれた吹奏楽部の皆さんに心からお礼を申し上げる。

（文責　田谷伸治）

年	顧問	委員長	副委員長
平成三	小松・嶋崎・金塚	稲坂	岩城
四	小松・後藤俊	松原	奥山
五	青柳・三橋	八木	関
六	青柳・三橋	山室	佐々木
七	青柳・三橋	山口	相沢
八	青柳・三橋	渡辺	飯田
九	青柳・三橋	大場	太田
十	田谷・松沢	浅野	諸井
十一	田谷・松沢	斉藤	石渡

選挙管理委員会

選挙管理委員会は、生徒会規則で定められている臨時委員会の一つで、主な仕事は、毎年十月に行われる生徒会役員選挙の準備・管理を行うことである。

臨時委員会であるがゆえ、各クラスから二名ずつ選出された委員同士の交流はほとんど無く、毎年、例年通りの同じ内容で全て進められている。また、選挙管理委員会という性格上、本来は生徒会顧問と別の顧問がみるというのが本筋であろうが、臨時委員会であるということから生徒会顧問と兼ねており、そのあたりも今後の課題といえよう。

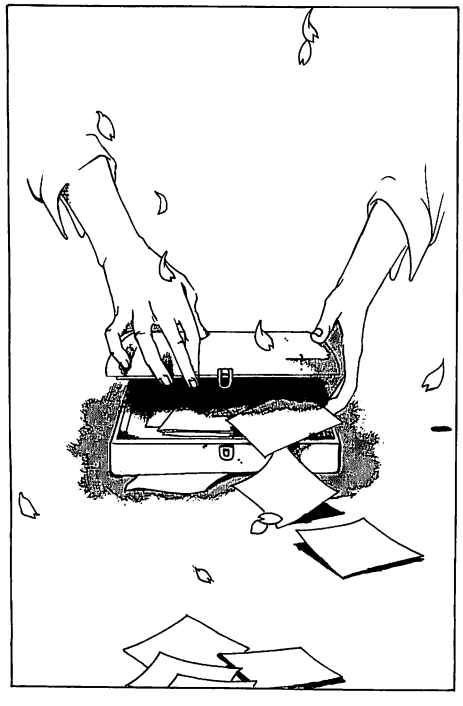
選挙管理委員会の仕事

① 立候補者の募集・受付
② 選挙の公示
③ 選挙公報の作成
④ 選挙・立会演説会の準備・進行
⑤ 開票・結果の発表
⑥ 認証式の進行

実際の選挙であるが、昭和六十一年に四名で副会長のポストを巡って行われた第七回役員選挙以来、現在まで競争選挙はなく、全て信任投票という形となっている。また、信任投票において不信任となったことはなく、多くの候補者が八割以上の信任票を受けて当選している。

平成十年より、役員の過員が認められるようになり、今後は立候補者が殺到しない限り、競争選挙は行われない現状となっている。役員の過員を認めるようになった理由としては、自発的な立候補者が少なく、毎年役員候補選びには悩まされていることがあげられる。これには本校は各学年一〇クラスの大規模校であるがゆえ学校全体をみることのできる生徒が少ないこと、少子化の影響か交友範囲が著しく小さくなっていったことなど様々な原因が考えられるが、今までのところ十月に選挙ができたことはほとんどない、というのが北高役員選挙の現状である。

（文責　後藤俊一）



イラスト同好会　椿沙耶香（２年）

文化部

吹奏楽部

1　起源

昭和五十五年、平野優子が中心となり創部。顧問は斉藤教諭で、以後五十八年まで続ける。

2　始動

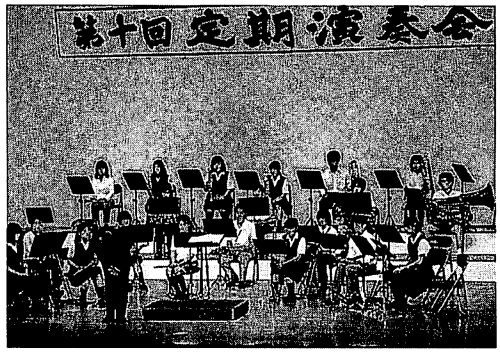
昭和五十七年から六十年まで、千葉県吹奏楽コンクールに出場。校内行事はもとより、野球応援、ニュータウン祭りなどにも参加するようになる。五十九年から顧問が小松教諭に変わる。翌年からはさらに山野井教諭も加わり、指導も充実したものとなる。

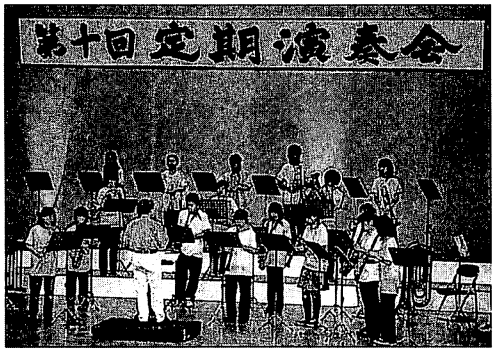
3　停滞

昭和六十一年から六十三年までの間、部員数の減少によりコンクールに出場することができなくなる。六十三年からは、小松教諭から梶本教諭に変わる。

4　興隆

平成元年度から、再びコンクールに出場するようになる。アンサンブル・コンテストや個人コンクールにも出場するようになり、印旛地区の代表として県大会に行くようにもなる。平成二年六月十七日には第一回の定期演奏会が行われた。以後、平成五年まで、梶本教諭のすぐれた指導により、技術面でも音楽性の面でも、著しい進歩を遂げた。その集大成となったのが、平成六年四月に行われた第五回定期演奏会である。





5　凋落

平成六年に梶本教諭が去り、以後部員数は少しずつ減少していく。定期演奏会も第十回までかろうじて続いたが、そこで中断となった。ニュータウン祭りにも参加できなくなり、卒業式や入学式にも演奏できなくなった。平成十二年三月に卒業した部員は遂に一人となってしまった。平成八年から十年にかけて、外部から板垣氏を招き、コンクールを指揮してもらった。三回のうち二回までも本選大会に出場することができたのは望外の喜びであった。

6　再興

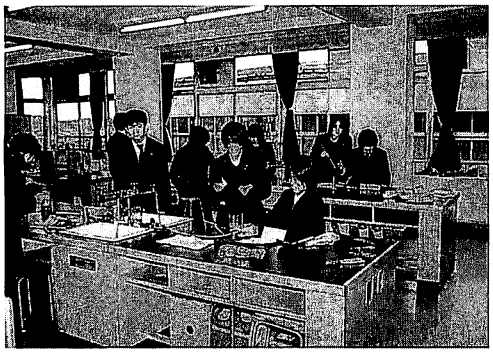
平成十二年から加藤教諭が顧問となり、吹奏楽部の立て直しが図られる。今後、部員数の増加や技術面のアップを図り、定期演奏会の再開を期待したい。

（文責　西原千晴）

科学部

――科学部は、ほそぼそと続いています――

一九九一年には一〇名を超える部員で、化学全般の実験・天体観測・夏の合宿（天津小湊）と活動していた科学部も、その後は部員が漸減している。それでも一九九五年頃までは、夏の合宿で海辺の生物採集やら天体観測を行うというイベントも続いていたが、それも途切れている。また、少人数ながら、九四・五年には、市内を流れる根木名川の水質検査を定期的に行う活動が行われた。しかし、九六年になると、それらも途絶え、化学実験一本やり、石けん・スライムづくり等を行った。九七年には、市原にあるリサイクルセンターの見学にも取り組んだ。

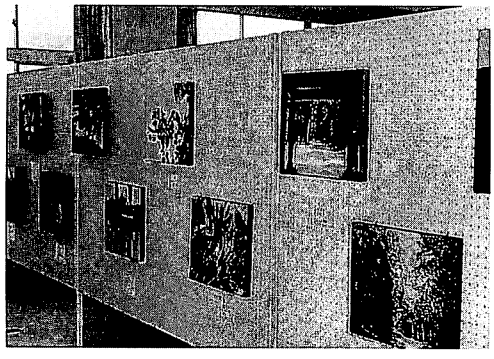


九八年から、顧問の藤井先生の転勤に伴い、金塚・後藤が担当となり、現在に至っている。はっきりいって少人数。三年生が抜けたあと、一年生部員一人だけという時もあった。今は天体観測を中心に、文化祭でも少数精鋭でがんばり、九八年には表彰されたりした。部員数も、最少期に比べ六倍にもなり、ほっとしているところである。

（文責　金塚省吾・後藤重峰）

写真部

写真部は、昭和五十五年、生徒会発足と同時に創部された。当時暗室も整備されておらず、写真の好きな一回生が中心となって設立された。翌昭和五十六年、物理準備室内に暗室が整備され、この暗室を使用して本格的な活動が始まった。この後、成田市広報「コミュニティ成田」に二回生の鈴木君の作品「成田暮色」が掲載されたのをはじめ、高校生合同写真展に毎年入賞するなど実績を積み重ねていった。また、黎明祭での写真展をはじめ、中央廊下での月例写真展や、入学式の模様を撮影し、次の日に登校した一年生向けに写真展を催したり、学校行事の撮影など活動も多方面にわたった。昭和五十九年にはその活動を認められ、県外への合宿をかねた撮影旅行が実施されるようになった。



黎明祭で作品を発表

その後も、合同写真展での毎年の入賞や学校行事の撮影、中央廊下での学期ごとの写真展開催などの活動を展開してきたが、平成八年度三年生中島君の合同写真展審査員特別賞受賞、関東大会出展を最後に部員が途絶えてしまった。この二年ほどは四月に新入部員が入るものの、薬品を作ってフィルム現像が終わる頃になると姿を見せなくなるという状態だった。し

かし平成十一年度の新入部員は何とか一年間細々とながらも活動をしてきた。彼女らの活躍に期待する今日この頃である。

（文責　嶌田裕美）

英会話部

――英語による真のコミュニケーションを求めて――

英語を使って、本当に自分が言いたい事を相手に伝え、又相手の思いを理解することができる喜びを一人でも多くの生徒たちに体験してほしいというのが、私の心からの願いであり、部の活動方針でもある。生活の中で、生きている英語のことばの持つ肌触りの様なものを生徒が感じとる事のできるチャンスが与えられる場としての英会話部でありたい。

英語を母国語としない者が、英語の達人になるためには二つの観点からの活動を必要とする。一、あらゆる機会をとらえて英語に接し、使ってみること。二、テープやCDを用いての英語的な発想法を身につけるための基礎的な訓練。現在、部員数が、三年生一名のみになってしまった事の原因の一つとして、二つ目の点に関しての生徒の理解不足が考えられる。

さて、ここ数年間の活動状況を振り返ってみることにしたい。平成八年度は、部員がいなかったので、休部状態であった。平成九年度に一名入部した。文化祭にはニュージーランド人のレックスさんを招いて「ミニ・スピーチコンテスト」を行った。南半球の国々（オーストラリア・ニュージーランド）の動植物について調査し、それに関しての展示も行った。英語の映画も上映した。普段は、ALTのニコル先生やケイト先生と放課後、会話の練習をした。ケイト先生とは、アフタヌーンティーを楽しみながら、イギリスの家族や友達の写真を見せていただき、イギリスの教育や言語に関しての理解を深めさせることができた。平成十年度は部員が二名になった。そのうち一人は、夏休みオーストラリア短期派遣プログラムに参加しワガワガ高校で英語を上達させた。この生徒は秋の印旛郡英語スピーチコンテスト・リーディング部門（一年の部）で優勝し、県大会に出場した。文化祭は、フォークソング部と合同発表であった。富里高校のALTのミッシェル先生（アメリカ人）とお茶を飲みながら、会話の実践力を強化させたこともある。この時は、生徒の一人がピアノを弾いてみんなで一緒に英語の歌を歌って楽しくすごした。成田市内の小学校で英語を教えているルカ先生（フィージー人）と会って、会話力のブラッシュ・アップをはからせたこともある。これを通して、生徒は、世界の公用語としての英語の大切さを実感できた様だった。

平成十一年度は、七月まではケイト先生に、九月からはALTのローリー先生に放課後会話の練習を見ていただいた。文化祭の頃は、部員は六名いて、布佐高校のALTのメリッサ先生（アメリカ人）や、本校にいらっしゃっているローリー先生に手伝っていただき、「英語によるビンゴゲーム大会」をすることができた。又、話す力や聴く力を伸ばすために、時折学校近くに住むアメリカ人宅を訪れて、英語による様々な質

問をさせてみた。

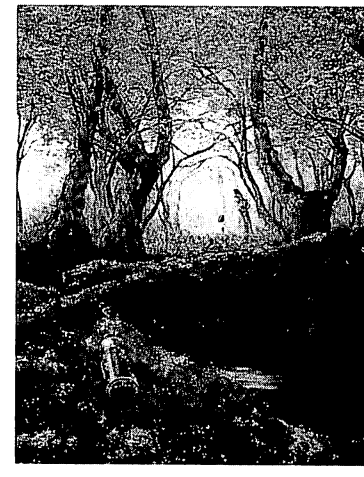
現在、三年生の部員一名を残して、すべて退部してしまったので、先に述べた様な主旨を理解し、忍耐力があり、やる気の継続する生徒が入部し、英語によるコミュニケーションを心から楽しめるようになってくれる事を心から期待している。

（文責　金子佐知子）

美術部

美術部は開校三年目を迎えた昭和五十七年に創部され、その後三年間の間に、その活動の骨組みが形づくられた。主な活動としては、学展出品、全日本学生美術展出品、全国高校生デザインコンクール出品、読書感想画コンクール出品、全国高校生ポスター・油絵・写真・映画コンクール出品等があるが、最近は夏の学展、冬の全日本学生美術展、秋の千葉県高等学校総合芸術祭美術工芸作品展を中心に創作活動を続けており、その成果が学校内外に知られるところとなった。それは成田北高美術部の伝統にもなっている。

古くは昭和六十一年の学展油絵部門で照めぐみ、デザイン部門で加藤功が入賞。昭和六十二年には、学展油絵部門で森洋一の「変化のある空」が、デザイン部門で加瀬大介の「自由キネマＩＳＭ」が学展大賞に輝いた。又、加瀬大介は読書感想画コンクールでも二年連続優秀賞になり、これらの実績により、森洋一と共に年度末に教育奨励賞、千葉県議会児童生徒表彰を受けた。昭和六十三年は、学展で丸山かおるの「坂」が高校の部優秀賞になる。平成元年度には、印象に残る作品として、岡由美子の「悲しみの大陸」があり、この作品は千葉県読書感想画コンクールで最優秀賞、更に読書感想画中央コンクールにおいて高校の部最優秀賞を受賞。これにより、教育奨励賞、千葉県議会児童生徒表彰も受賞することになった。



平山千恵　全国高等学校総合文化祭山形大会出品作品（油画）

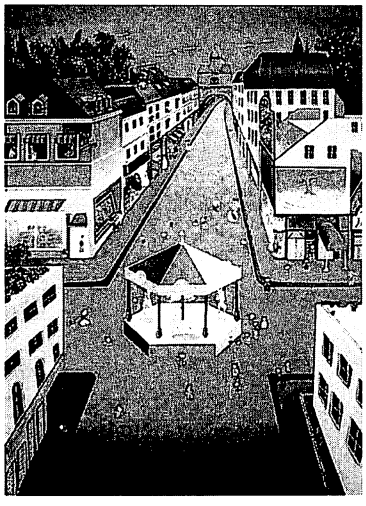
近年では、平成五年度全日本学生美術展で肝付真奈美が推奨、武市智恵・阿部江津子が佳作となる。平成六年度に木川恵美の「ＫＡＢＵＴＯＧＡＮＩ～風太郎」が第四四回学展デザイン部門で大賞、村上智子の「青い鳥」が油絵部門で優秀賞を受賞する。新聞誌上で「大賞と優秀賞を同じ高校で占めるのは一〇年に一度あるかないか。全体のレベルが高いことを実証した（西田委員長）」と紹介され、最優秀学校賞にも選ばれ、トリプル受賞となる。この事により、木川恵美・村上智子・成田北高美術部が、成田市表彰、千葉県議会児童生徒表彰、教育奨励賞を受賞する。又、この年は全日本学生美術展で佐藤純也、肝付真奈美が佳作を受賞している。平成七年度は全日本学生美術展で野尻幸が佳作、平成八年度には、同展で岸田綾が推奨を受賞している。

そして平成九年度には篠原芽衣の「時の声」が第四七回学展デザイン部門で大賞を受賞、この事により、成田市表彰、千葉県議会児童生徒表彰、教育奨励賞を受賞する。同年、全日本学生美術展では伊藤千恵が特選、佐藤雅子が佳作を受賞する。平成十年度学展では平山千恵が入賞、

同年、全日本学生美術展では、篠原芽衣、佐野裕子が特選、石原美映が佳作を受賞する。平成十一年度学展では、武田あかねが入賞、同年、全日本学生美術展では、小野由加利が特選、近藤薫が佳作を受賞する。更にこの年は、前年度の千葉県高等学校総合芸術祭や、それまでの実績により、第二三回全国高等学校総合文化祭山形大会に、千葉県代表として、平山千恵、篠原芽衣が参加出品して、全国の高校生と親睦を深めた。

美術部員は自主性を持って活動し、自分の感性を自由に発揮しながら創作活動をする事を伝統として、代々、後輩に受け継がれており、その自由な気風は、生徒会役員としての活躍や、学習への意欲等にも向けられている。そのような中で、卒業時に贈られる本校最高の栄誉である「学校賞」を美術部員として、平成七年度に木川恵美、村上智子が受賞し、平成十一年度には篠原芽衣が「学校賞」、平山千恵が「功労賞」を受賞している。

今後の課題としては、創部以来美術部員が描き溜めた作品を、どのように保管、或いは展示して、それらを生かしてゆくかということだが、



篠原芽衣　全国高等学校総合文化祭山形大会出品作品（デザイン）

将来的には、学校美術館なるものを設置して、より良い環境の下で美術活動ができるようになることが望まれる。

（文責　湯浅　仁）

書道部

〈創設〉昭和五十七年

（年度）	（部長）	（顧問）
昭和五十七年	赤間　賢二	津本　英昭
五十八年	小寺ゆう子	津本　英昭
五十九年	小寺ゆう子	津本　英昭
六十　年	高橋　恵子	津本　英昭
六十一年	寺川久美子	津本　英昭
六十二年	岡田　紀子	津本　英昭
六十三年	大木由美子	津本　英昭・米山　茂
平成　元年	高橋　典子	山内　美和
二年	斉藤　容子	山内　美和
三年	三枝　光広	山内　美和
四年	星川　真弓	山内　美和・鵜之澤　健
五年	木村　昌代	山内　美和・鵜之澤　健
六年	下重　利美	山内　美和・榊原　通子
七年	伊藤　美緒	山内　美和・榊原　通子
八年	高野　綾香	山内　美和・佐藤　全代
九年	紫海　早苗	山内　美和・岡里　茂
十年	熊田　麗美	山内　美和・岡里　茂・榊原　通子

十一年　山田　瑞恵　・山内　美和・岡里　茂・榊原　通子

〈活動内容〉

○千葉県高等学校総合芸術祭、高文連（千葉県立美術館）への参加

○黎明祭書道展

○成田地区高等学校書道展（成田市役所一階ロビーホール）に、第一回展（平成三年）より参加

○千葉県小中高校席書大会出品

○千葉県小中高校書初大会出品（千葉市）

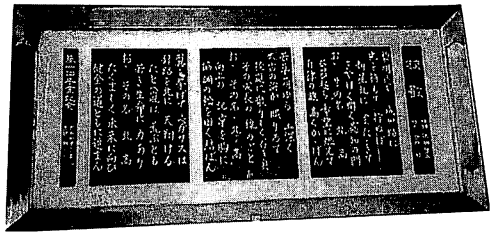
○毎日新聞競書（月一回）への出品

○成田山全国競書大会への出品

○「書芸大観」（月一回）への出品

○文部省認定書道検定試験受験

平成12年１月書初



校　　歌

毎月の競書出品、古典の臨書を軸にしながら、書道展、文化祭の作品作りをしている。文化祭では、毎年開放講座修了生の作品も展示、平成十年には山内が担当十周年記念書道展を開催、書道部員の協力大であった。昭和六十三年度第七期卒業生記念品としての校歌レリーフの校歌揮毫は、当時部長の大木由美子さん、刻字は三学年生徒全員及び職員。平成三年書初大会で県教育長賞を受賞した部員杉本由紀（現姓木内）さんは卒業後、成田北高を会場とする書道サークル「蘭書会」に入会、東京都美術館で開催の国書展にて大作を発表し佳作受賞、平成九年読売書法展で入選を果した。この他色々な所で書道に親しみ、活躍している卒業生の話を耳にしうれしく思う。これからも更にこの北高書道部から書を愛する者が生まれ育ってくれることを願っている。

（文責　山内美和）

電　気　部

――「社会・時代の流れと共に！」――

電気部は、開校二年目の昭和五十七年四月に、アマチュア無線技士（通称ハム）の免許を持つ生徒が集まり結成された。アマチュア無線局としては、JI―ZFNのコールサインを取得し開局した。当初は、無線が活動そのものであり、必要な無線機、アンテナ等は、部員などの私物を持ち寄り、周波数もHF帯からVHF帯と幅広く、交信を楽しんでいたらしい。交信相手も、近隣の高校、モービルなど、国内全域から海外まで活発に行なわれた。そのことが部室に残されているQSLカードからも窺われる。

しかし、やがて部員にアマチュア無線技士の免許を持つ者がいなくな

り、又、無線に関心の強い生徒もいなくなり部員が減少するなどして、アマチュア無線の活動は、その後から現在までゼロになった。無線機、アンテナ等は、かつての活動を忍ばせる遺物となっている。電気部という名称から、電気に関連すれば何でも受け入れようとの方針で部員獲得に励み、活動もオーディオ、パソコン、ラジコン、電気工作と様々になって、部としての活動が回復したらしいが、放課後、部室はゲーム、雑談に明け暮れる場になったのも事実らしい。

私も、顧問二年目で、今後どうなっていくかわからないが、現在は、部員は生徒一人であり、電気部、つまり電気に興味のある生徒は、時代・社会の流れとともに、本校では皆無に等しくなっている。つまり、現在も危機的状況は続いており（他の部活動も含めて）、生徒の文化的活動・研究が盛り上がることを望みたい。生徒が、活発に活動、研究しようという姿は良いものであり、流行だけに流されず創造的活動に励んでもらいたいと思う。

（文責　根本　巌・荒居哲也）

演劇部

本校創立五年目の昭和五十九年四月、二年生の女子四名で同好会として発足した。平成元年に部に昇格するまでは文化祭での発表を中心に、決して多いとはいえない部員数で活動してきた。当時の顧問の熱意ある指導の下で肉体訓練や基礎トレーニングから始め、慢性的な役者不足による制限のある中で、裏方を募集し自作の照明を使っての校内公演が中心だった。部昇格後は千葉県高等学校演劇連盟に加盟し、ブロック大会への参加もできるようになった。また平成元年には、第二四回関東大会の実行委員としての活動も行った。

部員数は平均一〇名前後で活動を続けてきたが、平成六年度には部員が一年生の女子一名になってしまい、地区発表会への参加もおぼつかない状態になってしまった。翌年度に女子二名が加わり、裏方は「臨時部員」にお願いし、平成七年度の春期発表会に、在間ジロ作「悪魔のいるクリスマス」で復帰できた。

その後は部員が順調に増え、地区内でも珍しく男子部員が多くなり、この時期の部長だった香取君を中心に活発な活動が始まった。一時は部員が三〇名近くまで増えたが、今度は深刻な女子不足に陥り、地区大会は顧問や部員達の創作台本が中心になっていった。以下に平成七年度以降の発表会参加作品を載せておく。

（○生徒　△顧問）

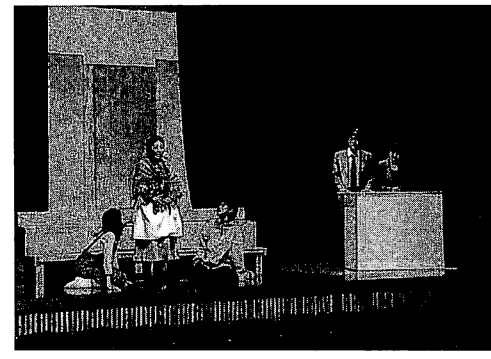
平成七年度	春季発表会	「悪魔のいるクリスマス」	在間ジロ　作
	秋期　〃	「はじまりは今」	○稲葉友子　作
八年度	春季　〃	「N高校の花子さん」	△椎名　泉　作
	秋期　〃	「霊列車で行こう」	△椎名　泉　作
九年度	春季　〃	「戦争にて」	○椎名美行　作
	秋期　〃	「Ｒｉｎｇｏ」	△椎名　泉　作
十年度	春季　〃	「Ｌｉｍｉｔ」	○山口雅司　作
	秋期　〃	「正しい終末の過ごし方」	○山口雅司　作
十一年度	春季　〃	「エリゼのために」	山村　想　作
	秋期　〃	「悪魔のいるクリスマス」	在間ジロ　作
十二年度	春季　〃	「一瞬はガラス細工のように」	西沢美佳　作

この他にも成田市の国際文化会館が主催しての「高校演劇フェスティバル」と名付けられた催しが平成十一年にスタートし、本校もＯＢと現

役部員が共同で作り上げた作品で参加した。

一時期創作台本が続いたときは、中身はともかく他校演劇部員からは「創作の成北」との評判もあったが、ともすると狭い枠の中で終始しがちなところが難点でもあった。今後は既成の作品にも積極的に取り組み、総合芸術である演劇活動を通じて、部員たちも自分たちの新たな創造性を発見していこうと取り組んでいる。

（文責　椎名　泉）



映画研究部

日本映画界の「斜陽」が囁かれて久しいが、数々の名作を世に問うた松竹大船撮影所が、決算対策のため「リストラ」売却に決し閉鎖された。「寅さん」シリーズの完全消滅である。

そもそも映像文化とは何なのか。語る資格も能力も持ち合わせていない小生ではあるが、文化とは民衆の営みであり、民衆の喜怒哀楽を記録として残し、あるいは脚本や監督によって民衆の姿が映し出されるのが映像文化ではないかと思考する。小生の力不足か、顧問在任中は部員に恵まれず、実質的な活動は皆無に等しかったが、本稿にあっては、後の『記念誌』編集の一助ともなればと思い、異例ながら年表風に記し、文化創造力に溢れた生徒の再来を祈念しつつ、筆を執った次第である。

一九八四年　映画研究同好会設立
「宇宙研究同好会」制作・上映（脚本・監督：橋本満）
一九八五年　「NIGHT AND DAY」制作・上映（脚本・監督：橋本満）
一九八六年　「CRISIS POINT」制作・上映（脚本・山田浩・加藤功、監督：加藤功）
一九八七年　部員不足のため、短編の制作・上映
一九八八年　「夏色の風」制作・上映（脚本・監督：不明）
一九八九年　「点と線」制作・上映（脚本・監督：中山宗徳）
同好会から部に昇格
一九九〇年　「私のコンテ」制作・上映（脚本・監督：中山宗徳）
一九九一年　「夏紀」制作・上映（脚本・嶋田康治、監督：不明）
一九九二年　「あの空を見上げて」制作・上映（脚本・監督：篠崎秀和）
一九九三年　「爆進！推理愛好会」制作・上映（脚本・戸嶋明生、監督：小松功治）
一九九四年　活動部員卒業
一九九五～一九九八年　部員がいないため、休眠
一九九九年　三年女子六名が、黎明祭直前に入部を希望。黎明祭の様子をホームビデオに収録。

※一九八九年までは、『十周年記念誌』を要約。一九九〇年以降は、映画研究部保存資料「シナリオ（仮題）」に依った。

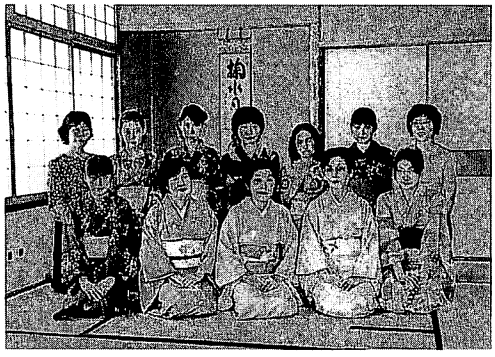
（文責　諏訪和夫）

茶道部

講師　岡嶋ふじ子
顧問　纐纈康世・戸村玲子

茶道部は、創立二十周年を迎えた昨年（平成十一年度）に同好会から部へ昇格した。同好会が発足したのは平成二年のことで、他の多くの同好会同様、学校創立以来一〇年間は必修クラブとして教育課程に組み込まれていたものが、部活振興策の一環として同好会になったのである。

必修クラブとして活動を始めた当初より二〇年に渡り、表千家茶道の岡嶋ふじ子先生にご教授いただいている。先生をお迎えしてのお稽古は平均すると月に三回ほどで、茶道の基本の所作やお点前の手順、心構えなどを学んでいる。毎年秋の黎明祭の折りには、お茶席を設け、日頃の練習の発表の場としてお点前を披露し、お茶とお菓子を召し上がってもらっている。また、校内の練習の他に、岡嶋先生のご好意で、文化の日のお茶席や、成田山公園の梅祭りの頃の野点などのお茶席を体験させていただいている。



一服のお茶を通して、亭主と客が心を通わせ、心豊かなひとときを過ごす。茶道の根本にあるこの精神を大事にし、生徒が一服でも多く、心のこもったお茶を点てられるよう、卒業後もお茶を通じて心豊かな時間を楽しんでくれるよう願っている。

（文責　戸村玲子）

イラスト同好会　椿沙耶香（２年）

運動部

野球部

野球部は昭和五十五年学校創立と同時に設立された。設立当初は、グランドがただあるだけで、キャッチ・ボールが精一杯だったが、皆様の御尽力のおかげでグランドが整備されはじめ、昭和五十七年頃には、本格的に練習ができるようになった。現在では、全日制高校では珍しく照明施設が配備され、公立高等学校の中では比較的恵まれた環境で活動をしている。

野球部のモットーは、文武両道！毎日の地道な野球技術の習得・錬磨と、勉学においても集中力をもって取り組むことである。「何事にも真摯たれ」である。その甲斐あってか、本校野球部卒業生は、就職・大学進学と進路状況も芳しく、それぞれの世界で好評を博している。ある大学の入学式では、何千人という入学生の代表者として、本校野球部卒業生が入学者代表宣誓挨拶を勤めた。野球関係では、本校野球部の卒業生には、ＮＴＴ関東で活躍し、オリンピック・アジア予選で四番を打ったキーナン君をはじめ、中央学院大学で野球部副主将を務めた鈴木君等がいる。

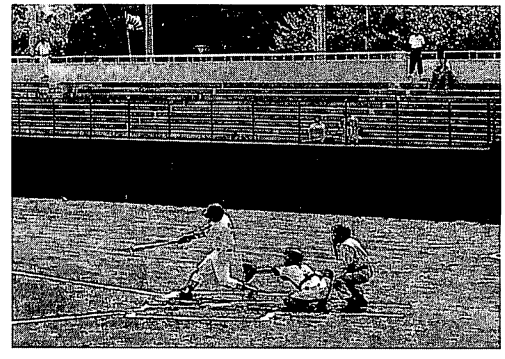
その活動方針を父母会、ＯＢ会等の方々も理解してくださり、全面的にバック・アップしていただいている。また、近隣の方々からも応援を頂き、川崎貞夫前会長・櫻井笑子現会長のもと、後援会組織を整備・充実させて下さり、選手も何不自由なく野球部活動に専念することができている。

本校野球部は、私立高校のように野球技術のある生徒が集まって成立している部活ではない。技術は未熟でも、野球が好きで集まった情熱に溢れた生徒達で成り立っている。一生懸命練習に取り組み、県外では日本航空高校、県内では千葉商業高校・成田高校・市立銚子高校等との練習試合を通じて、一歩一歩技術の上達に努めている。

練習は、基礎体力トレーニングを基礎に、投・守・打・走の技術の習得を毎日地道に練習している。野球の技術指導コーチとして、元ＮＴＴ関東野球部監督の藤巻健三氏を招き、監督と二人三脚で指導に当たっている。

ここ数年間は、毎年のように三回戦まで進出できるようになった。平成九年度では、あの大須賀投手を有する検見川高校（成田高校を破って準決勝に進出）に三回戦で２対１と惜敗したが、その健闘ぶりと爽やかな戦いぶりが千葉日報で大きくとりあげられた。あと一歩で、四回戦進出のところまで成長していると思う。マリン・スタジアム進出、甲子園を目指して、地道に練習に励もうと決意している。

高校野球は多くの方々のバック・アップがあって成り立つスポーツである。温かい皆様の御支援・御声援を基に、顧問・部員一同勝利をめざして鍛錬を続ける決意でいる。



年度	顧問	主将
平成三年度	渡邉範夫・加瀬政一	桑原貴志
平成四年度	渡邉範夫・金子幸雄・慈幸正治	石川祐一
平成五年度	渡邉範夫・金子幸雄・岡里　茂	平山貴士
平成六年度	渡邉範夫・岡里　茂	椚原庸介
平成七年度	渡邉範夫・岡里　茂	長谷川正人
平成八年度	赤尾和輝・岡里　茂	中島規行
平成九年度	赤尾和輝・小島　昇	佐藤雅昭
平成十年度	赤尾和輝・松沢史郎	櫻井竜也
平成十一年度	赤尾和輝・佐藤敏之	森山貴宏
平成十二年度	赤尾和輝・佐藤敏之	田島丈史

（文責　赤尾和輝）

卓球部

昭和五十五年開校と同時に発足した卓球部は、当初は空き教室に卓球台を置いてという劣悪な条件のもとで練習をしていた。

そのようななかで、男子は昭和五十七年にシングルス・ダブルスで、昭和五十九年秋の新人戦に学校対抗で、県大会への初出場を果たした。昭和六十一年の第一高揚期を前後して、片貝、村岡、本間、大木、木内、石井、山内がシングルスで県大会に出場している。

女子は昭和五十八年に学校対抗で、その年の新人戦で女子シングルスで、昭和五十九年にダブルスで県大会初出場を果たした。小山、片山、根本らが活躍した。

昭和六十二年には体育館一階に第二体育館ができ、卓球場にふさわしい立派な施設が完成した。平成元年からは空手部と共用している。

男子の第二高揚期は平成二、三年である。三学年にわたる山田、川崎（九回生）、萩原、鈴木、田島（十回生）、飯塚（十一回生）の活躍で、連続して学校対抗で県大会に出場した。第三高揚期は平成六、七年で、光山、須藤（十四回生）、田中（十五回生）、山口、斉藤、鈴木（十六回生）の活躍で、連続して学校対抗で県大会に出場した。

女子は平成四年の新人戦に斉藤、宮崎（十二回生）、平成六年の新人戦に長谷川、斉藤（十四回生）、平成八年の新人戦に三橋（十六回生）、山口（十七回生）の活躍で、学校対抗で県大会出場を果たした。しかし、平成十年の夏から女子部員がいなくなり、活動が停止している。早い復活が望まれている。

北高卓球部員は代々まじめに練習にとりくんできている。卓球はサー

ビス技術にみられるように、職人芸的な面もみられ、高校入学以前の卓球経験の有る無しが、技術面・精神面の差にあらわれる。しかし、高校生であれば、男女を問わず、ボールの回転方向などを中心とする卓球理論を理解し、表現できれば、めきめき上達するものである。そういう意味から、初心者で入部し、こつこつ練習を重ねて、技術を獲得し、活躍した部員を二人紹介する。

男子では、十四回生の須藤成夫。彼はカットマンを選び、地味ながらよく練習した。平成七年新人戦の第七ブロック予選の学校対抗戦ではポイントをあげ、県大会出場に貢献し、他校の顧問の先生方からも賞賛された。

女子では、十二回生の宮崎美江、彼女は小柄ながらシェークハンドの攻撃型の選手。台上でのツッツキやスマッシュを覚え、平成四年新人戦の女子シングルスで県大会に出場し、一回戦を勝ちぬいた。

現在、卓球部の指導は、『スポーツと健康』の意味や役割を考えること、高校で卓球部にいたということに相応しい技術と精神を身につけることを中心においている。他人に卓球の技術と楽しさを教えられるようになれば、人生のなかでスポーツと親しめる人間になれると考える。

（文責　香取正巳）

平成二年度	関東予選・総体	男子学校対抗
		男子S　鈴木
	総体	男子S　山田、山崎
	関東予選・総体	女子W　宍戸・佐々木
		女子S　宍戸
	新人戦	男子学校対抗
		男子S　鈴木
平成三年度	関東予選・総体	男子学校対抗（二勝）
		男子W　田島・飯塚
		男子S　飯塚
	新人戦	女子W　佐久間・前林
		女子S　佐久間
平成四年度	総体	男子S　飯塚（二勝）
	新人戦	女子学校対抗
		男子S　萩原
		女子W　斉藤・椎塚
		女子S　宮崎（一勝）
		椎塚
平成五年度	関東予選	女子S　石塚
	総体	男子S　萩原
		女子S　宮崎、石塚
平成六年度	関東予選・総体	男子学校対抗
		男子W　光山・田中
	新人戦	男子学校対抗
		女子学校対抗
		女子W　斉藤・長谷川
平成七年度	新人戦	男子学校対抗
		男子S　田中
平成八年度	関東予選・総体	男子S　田中

	総体	男子W　田中・斉藤
	新人戦	女子学校対抗
		男子W　山口・鈴木
		男子S　山口
平成九年度	総体	女子W　三橋・山口
		女子S　山口
		男子S　斉藤
		女子W　三橋・山口
		女子S　山口
平成十年度	新人戦	女子S　山口
	総体	女子S　山口
平成十一年度	関東予選・総体	男子S　吉田
	新人戦	男子S　吉田

年度	顧問	部長
平成二	赤井・多田・香取	萩原・前林
三	香取・佐藤	飯塚・前林
四	香取・佐藤	浜詰・木内
五	香取・堀越	小川・石塚
六	香取	光山・長谷川
七	香取・八木	田中・高木
八	香取・八木	斉藤・三橋
九	香取・栗山	小林・山口
十	香取・栗山	小川
十一	香取・栗山	吉田

ソフトテニス部

軟式庭球は平成四年度からその競技種目名をソフトテニスと変え、平成五年度の新人大会より、大幅なルール改正も行われた。本校軟式庭球部は昭和五十七年度に男子部が、翌五十八年度に女子部ができたが、以来十一年間江波戸好文教諭の厳しい指導の下、総体ベスト八など輝かしい実績を残してきた。また、平成元年度からは男子顧問として成田西高校より青柳佳親教諭を迎えますます力を付けていった。ところが平成五年度、その江波戸教諭が富里高校に転勤となり、戦力面、戦術面で大きなマイナスを強いられることとなった。平成四年度より女子顧問となった後藤がその跡を継いだわけであるが、スタートは決して順調とはいえなかった。何とか生徒達の努力でそこそこの活躍はできたが、部員がまとまって勝利をねらう体制になるまでにはかなり時間がかかった。それでは、平成四年度からの足跡を簡単に振り返ってみよう。

男　子

かつては部員も多く、県大会でも上位で活躍していた男子であるが、青柳教諭転出後のしばらくは低迷していた。しかし、平成十二年度に、栄中出身の平野のよびかけのもとに再スタートを切り、日々練習を重ねて順調に成長しつつある。

主な戦績

平成六年度県新人戦　徳永・岡野組出場
平成七年度関東大会予選　徳永・郡司組、岡野・片岡組出場
県新人戦　徳永・長谷川組出場
平成八年度関東大会県予選　徳永・錦古里組出場

平成十二年度県新人戦　団体戦出場

女子

平成四年度―中心選手であった西宮の故障で関東大会県予選の出場を逃してしまう。しかし、西宮が故障から復帰し一年生の青木を加えたメンバーで臨んだ総体予選では見事団体ベスト八となる。また、秋の新人戦では団体ベスト十六、個人でも青木・長谷川組がベスト十六に入り、国体選考対象選手となった。

平成六年度―春、夏は県大会に進むが、秋の新人戦では個人戦三組県大会出場ながらよもやの予選敗退。練習試合では、ほとんど負け知らずだっただけに部員にも顧問にも大きな衝撃であった。なお、この年から毎年恒例となった大網白里町での合宿がスタートする。

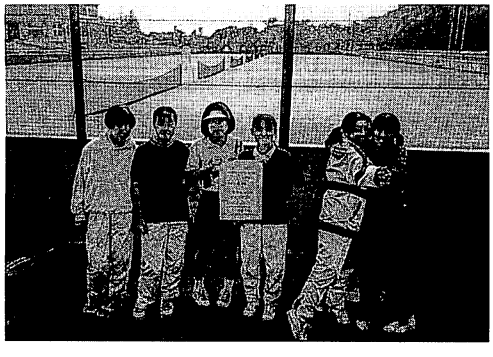
平成七年度―前年秋の悔しさを胸に練習に励む。その結果、三月に行われた「カワサキ杯争奪全国選抜大会」では部員すらも想像できなかったベスト八。特に主力の沢田が退院直後だっただけに喜びもひとしおであった。しかし、良いことは長続きしないもので、春、夏の県大会ではベスト十六を目指したが、その夏の準優勝校である千葉敬愛にいずれも僅差で破れ、涙を飲む結果となった。秋の新人戦は、そこまでチームを支えてきた太田、根本ら三年生が抜けてしまい、団体戦未経験者の二年生、一年生で臨まなければならなかった。また、このときの二年生は、キャプテンの日東寺を始めほとんどが高校からテニスを始めた生徒であり、非常に厳しい大会となった。しかし、暑い夏を乗り切った彼女らは、その力を出し切り県大会団体戦出場を勝ち取った。この年は、上への希望と初心者を育て上げていく楽しみを両方味わえた一年であった。

平成八年度―春の大会の団体戦では、新一年生中心で編成された佐倉南によもやの敗戦。また、オープン大会となって二回目の夏の県大会では、主力の中村が熱を出すなどのアクシデントもあって一回戦敗退。周囲ではもう北高は……という声も上がる中、この夏も精力的に練習を行った。その結果、秋の新人戦県大会では、シード校の松尾を接戦の末下し、ベスト十六に入ることができた。

平成十年度―春の団体戦県大会。今まで実力がありながらなかなかその力を出せなかったチームが、逆にそれをバネとして一気に花開いた。三番手の大木・伊藤組が絶好調で、一回戦市川南、二回戦敬愛学園、三回戦一宮商と、どれも苦戦ではあったが、強豪といわれるチームを三番勝負（うち二試合はファイナル勝負）で撃破し、ベスト八に入ることができたのである。準々決勝では優勝校昭和学院と当たってしまい涙を飲むこととなったが、このときの勢いは、別の学校と当たっていればもっと上位もというほどであった。

現在も人数は少なくなってきたものの依然として中身の濃い充実した練習を続けている。本校は、かつて全国制覇も果たした「成田高」に近いため、中学時代から優秀な成績を上げてきた者はほとんど入部して来ない。従って今まであげてきた実績は、日々の練習によってのみ得られたものである。この事実に部員達はもっと誇りを持って欲しい。

最後に、わがままかつ頼りない顧問の下でチームをまとめてくれた歴代主将（稲田有紀、江口加奈絵、青



木奈々、太田綾乃、日東寺生恵、佐野かおり、遊佐尚実、菊地亮子、杉本美佳、石井亜弥）に感謝しつつペンを置きたいと思う。

（文責　後藤俊一）

ソフトテニス部（女子）県大会成績

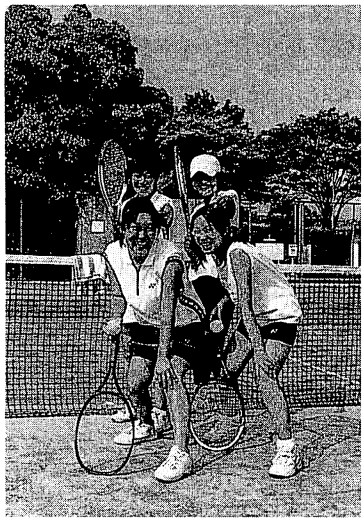
大会		団体戦	個人戦
平成４年	春（関東予選）	予選敗退	稲田・小川組
	夏（千葉県総体）	ベスト８	
	秋（新人戦）	ベスト16	青木・長谷川組ベスト16
平成５年	春（関東予選）	２回戦敗退	青木・長谷川組　64
			堀井・椎名組
	夏（千葉県総体）	２回戦敗退	青木・長谷川組　64
	秋（新人戦）	２回戦敗退	青木・椎名組
平成６年	春（関東予選）	１回戦敗退	青木・椎名組　64
	夏（千葉県総体）	２回戦敗退	青木・椎名組　64
	秋（新人戦）	予選敗退	太田・根本組
			山崎・吉場組
			沢田・大出組
平成７年	春（関東予選）	２回戦敗退	太田・根本組　64
			山崎・吉場組
	夏（千葉県総体）	３回戦敗退	太田・根本組　64
	秋（新人戦）	１回戦敗退	
平成８年	春（関東予選）	予選敗退	中村・澁谷組
			佐藤・多田組
	夏（千葉県総体）	１回戦敗退	
	秋（新人戦）	ベスト16	千葉・多田組
			林・下南組
平成９年	春（関東予選）	２回戦敗退	千葉・多田組
			林・下南組
	夏（千葉県総体）	３回戦敗退	
	秋（新人戦）	１回戦敗退	石間・下南組　64
平成10年	春（関東予選）	ベスト８	石間・下南組
			保坂・添田組
	夏（千葉県総体）	３回戦敗退	石間・下南組
			保坂・添田組
			芦野・菊地組
	秋（新人戦）	２回戦敗退	保坂・菊地組
平成11年	春（関東予選）	１回戦敗退	保坂・杉本組
			飯塚・石井組
	夏（千葉県総体）	３回戦敗退	
	秋（新人戦）	１回戦敗退	黒田・杉本組　64
平成12年	春（関東予選）	２回戦敗退	黒田・新組
			石井・杉本組
	夏（千葉県総体）	２回戦敗退	
	秋（新人戦）	予選敗退	

＊千葉県総体（団体）は平成７年よりオープン大会（予選なし）
他（団体）は予選を勝ち抜いた48校によるトーナメント戦

硬式テニス部

硬式テニス部は、本校開校と同時に初代顧問の津本英昭教諭のもとで男女合同の部として創設された。当初から活発な活動が行われ、何度か県大会に出場する戦績を上げている。やがて女子部員の加入がなくなり、男子のみの活動が続くようになった。昭和六十一年度には初めて団体戦で県大会出場を果し、その後、常に県大会出場が出来る層の厚い安定した力を持つ部員がそろうようになっていった。特に、昭和六十二年度の新人大会において、ベスト十六に入ったことは特筆すべきことである。しかし近年、硬式テニスのブームから、県全体のレベルが上がり、私立高校の台頭もあって、県大会に出場しても初戦を突破するのが難しい状況になって来た。県大会で二回戦まで行ったのは、平成七年度の総体大会の男子団体と平成二年度の新人戦大会の男子団体のわずか二回のみである。

本校テニス部は自主性と責任感をモットーに練習しているが、今後この壁を乗り越えるには、今までにない効果的なトレーニングの実施と専門的な技術指導に負わなければならない。加入してくる部員の潜在能力は年々向上しており、現在の自主性を重んじた練習法を見直す時期に入って来たとも言える。女子に関しては四年前に部員が集まり、部活動が再開され、三年目に県大会出場を果したと同時に部員が大幅に増え、現在では三〇名近い大所帯となっている。特に今年、女子は二十周年にふさわしい飛躍を見せ、二年生の西の活躍もあって、団体、個人（シングル、ダブルス）共に県大会出場を果し、ブロック優勝も現実のものとなって来ている。



（文責　木内賢次郎）

サッカー部

サッカー部は、平成六年度より猪股が顧問となり、前顧問の鈴木博之教諭（現京葉工業高校）の指導を受け継ぎ、金塚教諭とともに県ベスト十六を目標に日々練習に打ち込んでいる。施設・用具の整備はこの十年間でより一層充実した。公立高校としては珍しくサッカーコート半面にナイター施設が完備され、冬場の練習、特にボールを使用しての練習やゲームに費やす時間を増やすことが可能となった。また、緑道側に防球ネットが取り付けられ、ボールが校外に出てしまうことがなくなるとともに、部員がネットに向けてのキック練習を行うことが可能になるなど、練習や試合をする上での環境は整った。ピッチ（サッカーコート）についても、国際試合やJリーグと同じ大きさをとることが出来、岩瀬砂も完備され、水はけも良くとても素晴らしいものになっている。これも偏に学校の協力の賜物である。サッカー部の活動にご理解いただき、感謝を申し上げたい。

大会等の成績はというと、平成四年度に県ベスト三十二が一回、七年

度にベスト三十二が二回、八年度にベスト三十二が一回と目標のベスト十六に後一歩の所で涙をのんでいる（八年度はベスト八の東京学館高校を相手に延長ＰＫ戦で敗退）。ここ一・二年も県大会出場がやっとというところで停滞している。しかし、千葉県の高校サッカーのレベルは、全国でもトップクラスであり、特に平成十一年度は、総体（インターハイ）・国体・選手権大会と高校生のタイトルを全て千葉県のチームが独占したのである。そのような中で、県大会の上位に入ることはとても難しいことになってきている。

また、公立高校でもスポーツ推薦（部活動推薦）が広がり、学力推薦のみの我校との選手レベルの差が広がる一方である。しかし、サッカー部ではそのような状況を打ち破るべく、充実した施設・設備・用具を生かした豊富な練習量と選手一人一人のやる気・集中力・努力で多くの困難を乗り越えてきた。たとえ初心者であっても三年生の時にはレギュラーになれるよう継続して努力しており、結果を残している者も多い。部員数も他校に比べ多いので、ゲーム形式の練習に強みを発揮している。このような選手の頑張りに加え、保護者の方々の温かいご支援に支えられ、我部は目標に向って進むことができるのである。多くの練習試合で、経済的に大きな負担がかかる中、ご理解とご協力いただき心より感謝申し上げたい。

最後になるが、大会などで好成績を上げることも大事なことではあるが、もう一つ重要なことがある。それは、卒業しても何らかの形でサッカーに関わって生きていって欲しいということである。部活動に三年間打ち込んでそれでもう終わりというのでは指導者としてとても悲しい。この素晴らしいサッカーというスポーツをどんな形でもいいから、死ぬ

創設　昭和五十五年四月

年度	顧問	主将	部員
昭和五十五年度	高岡	野村	二〇名
五十六	高岡	野村	二五名
五十七	永藤	安藤	二六名
五十八	永藤	桜井	三〇名
五十九	永藤	松崎	三二名
六十	永藤・池田	鹿島	四〇名
六十一	永藤・池田	大木	四八名
六十二	永藤・池田	岩城	四一名
六十三	永藤・池田	石井	四六名
平成元	永藤・池田	大熊	五六名
二	鈴木・池田	川谷	六四名
三	鈴木・池田	畠山	六〇名
四	鈴木・金塚	相楽	五五名
五	鈴木・金塚	杉本	五〇名
六	猪股・金塚	大澤	五四名
七	猪股・金塚	入岡	五六名
八	猪股・金塚	及川	六五名
九	猪股・金塚	吉田	七〇名
十	猪股・池畑	山田	五五名
十一	猪股	石橋	四五名

まで自分の中で発展させて欲しい。社会人でプレーを続けるのも良し、少年達のコーチになるのも良し、サッカー関係の仕事に就くのも良し、サッカーに関わった人間としての誇りを持って部員達には今後の人生を生きていって欲しい。これが成田北高校サッカー部のモットーである。

今後ともサッカー部に対して皆様方の暖かいご支援ご理解をお願いいたしたい。

（文責　猪股康博）

陸上競技部

成田北高校陸上競技部は、学校創設と同時に高岡誠次先生ご指導のもとに活動し、平成元年初の南関東大会出場を果たした。

平成二年度、長年ご指導いただいた高岡先生が陸上の指導を退かれ、代わって坂本欣人先生（現小見川高校）と鈴木が顧問となった。活動場所を学校から中台陸上競技場に移したこと、ユニホームがこの年から今の形になったこと、用具も学校・生徒会から予算が支給され、かなり充実させることが出来た。春の大会こそ十分な成果が上がらなかったが、秋には多くの県大会出場者を出すことができた。

平成三年度になると、二年生の男子が活躍した。県高校新人大会では四×一〇〇ｍＲ・四×四〇〇ｍＲの両リレーで入賞するというすばらしい成績を収めることが出来た。この年の生徒たちが今の陸上部の基礎を築きあげたと思う。しかし、残念ながら翌年念願の関東大会出場は果たせなかった。

平成四年度には一年生の津田春菜が活躍し、走高跳で千葉県選手権三位、県高校新人大会では八位に入賞し女子にも光が見えてきた。

平成五年度の県高校総体では、初日の一〇〇ｍＨで森田奈緒子が六位に入賞すると、翌日、津田が走高跳で二位に入り女子初の関東大会（山梨）には二人が出場した。また、津田はその後も順調で、インターハイにはいけなかったが、夏の関東選手権（神奈川）では六位に入賞した。

平成六年度になると、坂本先生が小見川高校に異動になり、新たに荒居哲也先生を顧問に迎え投擲の指導が強化された。一年から活躍していた津田も三年生になり、「今年はインターハイに」と頑張ったが、県総体こそ三位に入賞したものの、関東大会（栃木）では入賞できなかった。

平成八年度になると、夏の合宿をすぎてから二年生の女子が力をつけてきた。特に陸上初心者の篠田千晶は抜群の運動神経と集中力の持ち主で、その年の関東選手権（栃木）で六位（一〇〇ｍＨ）に入賞すると、県高校新人大会では一〇〇ｍＨ三位、走幅跳二位。県選手権では走幅跳で五ｍ七三の記録を出して優勝するなどの好成績をあげた。

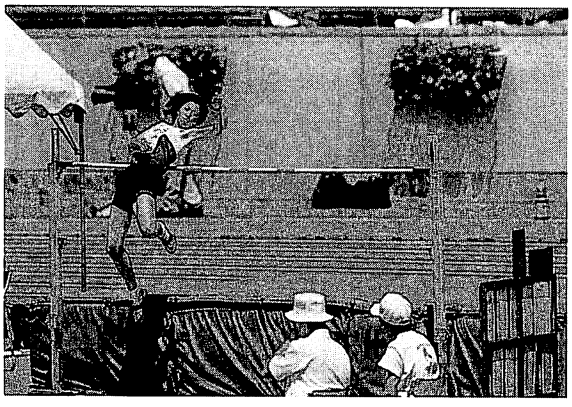
平成九年度には、三年生（男子一名、女子七名）全員が県レベルの大会で入賞した。この年篠田は走幅跳でインターハイを目指したが、残念ながらその夢は叶わなかった。しかし、県大会後に四〇〇ｍＨに転向し見事全国大会（京都）への出場を果たした。

平成十年度には競歩の佐藤瑞紀が全国大会（香川）に出場した。たった一

人で厳しい練習に耐え頑張り抜いた成果である。この年の冬季練習は補強や走り込みを十分にやり、翌年に向けての手応えを多少は感じていた。きつい練習なのに生徒は楽しそうだったからである。

平成十一年の春休みには佐倉で合宿し確実に力をつけていった。この年、新村浩章先生を迎え、投擲の練習が充実した。

県総体では、冬にあれだけやったのだからと部員を励まし、部員全体が最後まで「諦めるものか」という気持ちで頑張った。初日に一五〇〇mの野口昭彦が四位に入賞すると一気に波に乗り、続いて一一〇mHで鬼形翼が五位に、翌日鬼形が四〇〇mHでも五位に、走高跳では二年生の小長谷麻美が健闘して五位に入賞し最終日を迎えた。野口は八〇〇mでも入賞の可能性があったが、リレー（一六〇〇m）の為に棄権すると申し出た。一六〇〇mRの決勝の少し前に女子二〇〇mで北浦奈央が七位で涙をのんだので、北浦の分まで頑張らねばと、四人も必死に頑張り、応援にも力が入った。第一走者の加納威は小柄ながら元気な走りを見せ、上位三位チームと少し離された状態で四～八位が大接戦であった。三走の佐々木芳秀が四位にあがると、後は無我夢中で声を張り上げ応援した。第四走者の野口が五位でゴールした時、長年の夢がやっと叶ったのである。キャプテンの鬼形が三種目で入賞したことも立派であったが、みんなで力を合わせた総体であった。



平成12年度インターハイ走高跳出場の小長谷麻美

その後の関東大会は小長谷が三位に入賞し、念願だった陸上部創部以来初めてのインターハイ（岩手）出場を成し遂げた。

平成十二年度、小長谷を中心にみんな頑張った。県大会では市村純一が二〇〇mで四位に入り短距離で初めて関東大会に出場した。小長谷は足の痛みがありずっと本調子ではなかったが、精神力で乗り越え二年連続インターハイ（岐阜）出場というすばらしい成績を残してくれた。小長谷の頑張りには大きな感動と勇気をもらった。また、「一生懸命やれば必ず願いは叶うという事がわかった。」といってくれたキャプテンの言葉が心に浸みた。

県高校新人大会では、インターハイの次に目標だった県大会優勝を勝政秀がやってくれた。八種競技は今大会からの新種目で、来年度からインターハイ種目になる。来年度はぜひとも勝に頑張ってもらいたいと思う。

「部活動なんてやってもやらなくてもいいものかもしれない。でも、それを一生懸命やるのだから普段の生活態度もきちんとしよう」といつもいっている。練習では厳しく指導するけれど、試合では怒らない。また、試合も練習も絶対最後まで諦めないことをモットーに努力している。

まだまだ勉強しなくてはいけないことは沢山あるが、これからも大切な生徒と共に力を合わせ、頑張っていきたいと思う。

生徒には、いろいろな人達との関わりを大切に、常に感謝する気持ちを忘れずこれからも精進してもらいたいと願っている。

（文責　鈴木小枝子）

平成二年度以降の陸上競技部の主な成績一覧

年度	顧問	部長	主な成績				部員数
平二年	坂本・鈴木・高岡	木内　正俊	県高校新人大会出場				四二
三年	坂本・鈴木	萱田　昌典	県選手権大会	一六〇〇mR	六位		四四
			県高校新人大会	四〇〇mR	五位		
			〃	一六〇〇mR	五位		
四年	坂本・鈴木	斉藤新太朗	県高校総体	やり投げ	七位	松谷　信一	四九
			県選手権大会	走高跳	三位	津田　春菜	
			県高校新人大会	〃	八位	〃	
五年	坂本・鈴木	佐藤清一朗	県高校総体	一〇〇mH	二位	津田　春菜	三九
			〃	走高跳	六位	森田　奈緒子	
			関東選手権予選		（関東大会出場）		
			関東選手権（神奈川）	走高跳	五位	津田　春菜	
			県選手権大会	〃	六位	〃	
			県高校新人大会	〃	二位	〃	
			〃	やり投げ	七位	青柳　史織	
六年	鈴木・荒居	宇野　裕紀	県高校総体	走高跳	三位	津田　春菜	四二
			関東選手権予選		（関東大会出場）		
			関東選手権（茨城）	〃	二位	津田　栃木県）	
			千葉県選手権	〃	六位	〃	
			県高校新人大会	やり投げ	一位	〃	
					七位	青柳　史織	
七年	荒居	中田　光則	県総体出場				四〇
			県高校駅伝シード権獲得（男子）				
			県高校新人大会出場				
八年	鈴木・荒居	堀越浩文	関東選手権予選	一〇〇mH	五位	篠田　千晶	三九
			関東選手権（栃木）	走高跳	六位	〃	
			県選手権大会	〃	三位	大竹　みゆき	
			〃	走幅跳	一位	篠田　千晶	
			県新人大会	一〇〇mH	三位	〃	
			〃	走幅跳	二位	〃	
九年	鈴木・荒居	江名貴史	県高校駅伝シード権獲得（男女）				
			県高校総体	一〇〇mH	三位	篠田　千晶	

			県高校総体	一〇〇m H	七位	高橋	恵
			〃	走高跳	六位	大竹	みゆき
			〃	走幅跳	七位	篠田	千晶
			全国大会（京都）	四〇〇m H準決勝進出	六位まで関東大会出場	篠田（埼玉県）	千晶
			関東選手権予選	一〇〇〇m	五位	鈴木利恵子	千晶
			〃	走幅跳	三位	篠田	千晶
			〃	ハンマー投げ	四位	唐川	寛子
			〃	〃	五位	野口	昭彦
			県選手権大会	一〇〇m	八位	江名真由美	貴
			〃	一五〇〇m	五位	野口	昭彦
			〃	〃	一位	鈴木利恵子	佐藤瑞紀
			〃	五〇〇〇m競歩	一位大会新	佐藤	瑞紀
			〃	四〇〇m R	八位	大竹	みゆき
			〃	走高跳	一一位	篠田	千晶
			〃	走幅跳	一一位	篠田	千晶
			〃	三〇〇〇m競歩	一一位	佐藤	瑞紀
			県高校新人オープン	〃	〃	〃	〃
			県高校駅伝シード権獲得（女子）	〃	〃	〃	〃
			全国大会（香川）	三〇〇〇m競歩出場	五位	北浦	瑞紀
			関東選手権予選	四〇〇m H	七位	小倉	光恵
			〃	二〇〇m	二位	小倉	光恵
			〃	ハンマー投げ	三位	唐川	寛子
			〃	四〇〇m H	五位	鬼形	翼
			県選手権大会	一〇〇〇m	二位	北浦	奈央
			〃	二〇〇m H	二位	小倉	光恵
			〃	一六〇〇m R	三位	唐川	寛子
			〃	ハンマー投げ	三位	唐川	寛子
			〃	〃	八位	鬼形	翼
			〃	〃	六位	〃	〃
			〃	四〇〇m H	四位	〃	〃
			〃	〃	八位	鬼形	翼
			〃	四〇〇〇m R	四位	北浦	奈央
			〃	二〇〇〇m H	二位	北浦	奈央
			県高校新人大会	〃	〃	〃	〃
			〃

			関東大会（山梨） インターハイ（岩手） 関東選手権予選 〃 関東選手権（山梨） 〃 県高校新人大会 〃 〃 関東新人大会（群馬）	走高跳 〃 四〇〇mH 走高跳 四〇〇mH 走高跳 二〇〇m 走高跳 円盤投 走高跳	三位 三位 二位 六位 五位 六位 二位 五位 三位	小長谷麻美 小長谷麻美 鬼形翼 小長谷麻美 鬼形翼 小長谷麻美 市村純一 小長谷麻美 蛭田倫永 小長谷麻美	三四
十二年	鈴木・新村・荒居	川村智洋	県高校総体 〃 〃 〃 南関東大会（東京） インターハイ（岐阜） 関東選手権予選 〃 県高校新人大会 〃	二〇〇m やり投げ 走高跳 円盤投げ 走高跳 〃 一六〇〇mR 走高跳 八種競技 一〇〇m	四位 七位 二位 七位 五位 八位 五位 一位 七位	市村純一 山倉俊平 小長谷麻美 蛭田倫永 小長谷麻美 小長谷麻美 小長谷麻美 勝政秀 立野友美	三九

ゴルフ部

創立二十周年にふさわしい快挙が達成された。平成十二年度全国高等学校ゴルフ選手権全国大会に三年松崎一等が出場した。東関東予選（千葉県・茨城県）、関東予選のレベルが高く、勝ち上がるのは困難な状況であったが、最後まで諦めずに競技する姿勢と自分が積み上げてきた努力・体力の裏付けがあったからに他ならない。祝福したい。高校生にしてはハードな二日間にわたる競技の連続で、本人は疲れ切ったようであるが、競技が進むにつれ、技術的にも精神的にも大きく成長していったようである。今後も、ゴルフを続けるようなので、自分の将来のために良いステップにしてもらいたい。

さて本校ゴルフ部は創立当時から二十年の歴史を持ち、県下県立高校の中で二校だけという珍しい部である。ただ最近ゴルフを楽しむ父兄も多く、広く行われているスポーツであるにもかかわらず、部員不足が深刻な問題である。今年の人数構成は三年一名、二年一名、一年五名であり、団体戦の参加も危ぶまれた（一年はクラブを握ったこともない生徒であったため）。とにかく、部員が一人でもいる以上、関東大会、全国大会出場をめざし頑張らせて

いきたいと考えている。

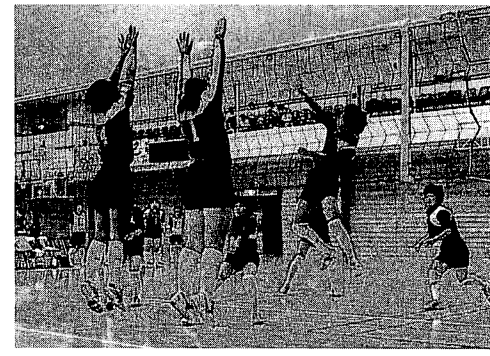
（文責　松沢史郎）

バレーボール部（男女）

女子バレー部の創設は、本校開校と同時であったが、昭和五十七年十二月の体育館竣工までは、土のコートでのレシーブ練習など色々な苦労があったようだ。そのような諸先輩のおかげで、平成に変ったあたりから次第に実力を発揮してきた。特に、平成二年度からは県大会出場の常連校となった。四年度の総合体育大会では三回戦まで進出しベスト三十二。新人大会でも二回戦進出。五年度の総体では二回戦。新人戦では一回戦で習志野高校と対戦し敗退。六年度の総体では三回戦進出。新人戦では三回戦進出のベスト十六。七年度の関東県予選会ならびに総体でもベスト十六となった。しかし、新人戦では一回戦で敬愛学園と対戦し、惜しくも敗退。八年度の関東県予選会ではベスト十六。総体はベスト三十二。新人戦は二回戦。九年度は総体でベスト三十二。関東県予選会と新人戦は共に一回戦敗退。十・十一年度は目立った長身選手がいなくなり苦しい時期にはいった。この年、関東予選、新人戦ともにブロック予選の代表決定戦で惜しくも敗退し、県大会への出場はできなかった。なお、総体については、十年度が一回戦。十一年度は二回戦までであった。現在は、十二年度の関東予選に向けて、ベスト八を目標に低身長のチームながら、切れの良い攻撃と気力あふれるレシーブのチームとなるよう

平成７年度千葉県高校総体男女バレーボール大会（平成７年６月23日～25日）

年度	男子顧問	主将	部員(人)	女子顧問	主将	部員(人)
二	梅木範夫	小林	一六	向秀男・石渡眞	野平	三一
三	熊坂典雄	吉野	二六	向秀男・石渡眞	色川	二一
四	秋葉章二	八木	二六	熊坂典雄	藤本	二七
五	秋葉章二	紀之国	二五	熊坂典雄・田谷伸治	椎名	三四
六	秋葉章二	本間	二三	熊坂典雄・田谷伸治	宮本	三五
七	秋葉章二	元安	一七	熊坂典雄・田谷伸治	久納	三五
八	秋葉章二	小島	一六	田谷伸治・平山久春	竹中	三二
九	秋葉章二	山田	一二	田谷伸治・平山久春	菅澤	二六
十	秋葉章二・池畑羊一	菅原	一五	田谷伸治・平山久春	山中	二二
十一	秋葉章二・池畑羊一	堺	一〇	田谷伸治・平山久春	長崎	一七



平成12年度千葉県高校総体バレーボール競技
（平成12年６月23日～24日）

頑張っている。

男子バレー部は、平成五年、六年の総体では共に二回戦進出。七年、九年及び十年の総体は一回戦であった。最近は部員数の確保、特に中学時代の経験者の確保がむずかしく、初心者を育て上げてのチームづくりといったところで苦労している。

（文責　田谷伸治・秋葉章二）

バスケットボール部

本校に赴任して三年目の今年、二十周年記念誌の寄稿を依頼され、私のような者がおこがましいと思いつつも、迫りくる原稿締め切り期日に半ば追い立てられながら、まずは草創期の諸先輩方の足跡を辿ってみた。

バスケットボール部は開校当初から創設を熱望する生徒の声が高かったが、諸般の事情により一年遅れて昭和五十六年四月の創部となった。しかし、当時はまだ体育館がなく、同年七月の体育館完成を待って本格的活動が始まった。本格的に練習が始まると、熱心な顧問の先生方にも恵まれて、男子部は創部五年目くらいから徐々にチーム力がアップし、県大会出場を目指して常に地区の代表権を争う程度の力を備えるようになった。一方、女子部もその様な男子部の頑張りに触発され、平成元年には初の新人戦県大会出場を果たした。このように、創部後十年はチーム構築から、一気に飛躍の時代であったと言える。

さて、その後の十年の事となると、顧問の先生方の移動のサイクルが、昔とは比べものにならないくらい早くなり、私のような新参者では関係する人脈もなく、とてもこの十年の沿革を正確に語る時代考証は不可能であると思った。しかし、その様な状況の私を嘲笑うかのように、容赦なく時は過ぎていくばかり。『何とかしなければ』、『何か書けるものはないだろうか』と思い倦ねた末、私自身が経験し、感じたこの十年間の高校バスケットボール界の変遷と昨今の部活動事情を、本校の現役部員達をオーバーラップさせ紹介することでご容赦いただければと思った。

本校バスケットボール部が創設された昭和五十六年当時、千葉県内の高等学校で運動部に所属していた生徒は約五一、〇〇〇人。そのうちバスケットボール部に所属していた生徒は約六、二〇〇人。つまり、運動部加入者全体の約一二％がバスケットボール部員だったわけである。バレーボール、サッカー、テニスといった他の人気球技スポーツを抑えて、バスケットボールが初めて競技人口の上でトップになった記念すべき年である。その後、十年ほどバレーボールと一進一退の首位争いを演じてきたが、平成三年に再びトップに返り咲くと、サッカーの激しい追い上げはあるものの、現在までその座を他の競技に譲っていない。バスケットボールに限らず、競技人口の拡大、言い換えれば競技の普及・振興は競技力の向上に大きく影響する。では、何故ここまで競技人口が拡大してきたのか。それは、平成四年にスペインで開催されたバルセロナ・オリンピックを抜きには考えられない。

このオリンピックでのバスケットボール競技には、五輪史上初めてプ

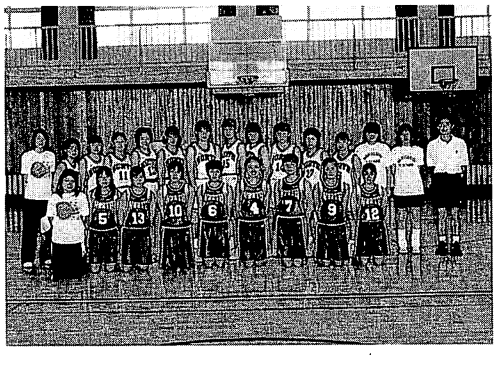
ロ選手の出場が認められた。バスケットボール発祥の地であるアメリカが、NBAのスター選手達で固めた。所謂『初代ドリーム・チーム』を送り込み、その圧倒的な破壊力で金メダルを獲得したことは先輩諸氏も含め、我々『ケイジャー』の記憶に新しい。実は、このオリンピックの前年くらいから県内高校生の競技人口の急増が始まり、オリンピックの翌年には何と一一、〇〇〇人に上った。実に運動部加入者全体の約一六%である。

このような時代背景のもと、かつてないほどトップ・プレーヤーの技術を映像で目にすることが可能になった子供達は、憧れの選手の技をまねて、休み時間ともなれば体育館で仲間達とバスケットボールを楽しむようになった。こうした環境の変化が、部員達の個人技のレベルを飛躍的に向上させていった。

しかし、個人技の充実とは逆に、疎かになっていったものがある。『組織力』である。トップ選手には並はずれた『資質』がある。もちろん『努力』も『情熱』も資質の一つだと思うのだが、体格、運動能力、創造性と、そのどれをとっても遠く及ばないにも拘わらず、映像で目にしたものを強くイメージに焼き付けてしまい、『組織力』で重要な『間』とか『呼吸』とかを見逃してしまうのである。スポーツ・ニュースのダイジェスト版的発想のバスケットボールでは、四〇分間のゲームを制することは不可能である。調子の良い時もあれば、何をやっても裏目に出てしまい、上手くいかない時もある。四〇分間のゲーム中はこの波の繰り返しである。『駄目な時は、駄目な時なりにしのがなければ…』。ここ数年、高校生にバスケットボールを指導していて一番強調するのはここの部分である。

『嫌なことはなるべく簡単に済ませたい』。『辛くて自信のないことは、なるべく避けて通りたい』。人情である。しかしながら、勝負の世界で対峙した相手にこんな弱みを握られたら、それこそ一巻の終わりである。『辛く苦しい現実から目を背けるな!』。『困難なことに立ち向かえ!』バスケットボールも人生も同じである。

本校に転勤して最初にバスケットボールを教えた生徒達がまもなく社会に巣立っていく。一年目…『意識・心構え』。二年目…『技術・体力』。三年目…『戦術・戦略』。三年目にして結果を出してくれた。男子部も女子部も。男子は関東予選で強豪東京学館高校を敗り、女子は総体予選で佐原高校を破った。正確に把握はしていないが、共に久々の県大会出場である。体育コースがあるわけでもない。勿論、スポーツ推薦を実施しているわけでもない。極めて普通の高校生が困難な状況から逃げ出さずに、立派に立ち向かった結果である。『未来は自分で切り開く』、『夢は自分でつかみ取る』、僅かながら、



しかし着実に自律の芽が育った気がする。

この原稿が書き上がる頃には四年目のシーズンが目前に迫っている。これからも、時々刻々と変化するであろうバスケットボールを取り巻く環境に、敏感かつ柔軟に対応しつつ、部員共々、先輩諸氏の築かれた輝かしい伝統を継承していきたい。静かな誇りと勇気を持って。

（文責　渡邉正巳）

柔道部

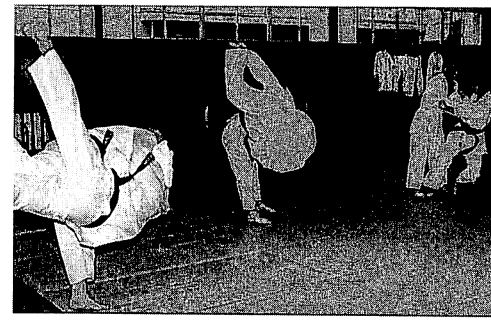
開校当初に創設された柔道部は、例年、男女あわせて一〇名前後の部員数を上下しつつ、個人・団体ともに、時折県大会出場を果たす、といった、いってみれば安定した部活動であった。しかし平成七年度には部員が絶えていったん休部状態となり、平成八年度、一年生が入部して活動を再開してからは毎年五名前後の部員での活動が続いている。新入部員二、三名のうち、中学校での柔道経験者は毎年一名程度で、平成九年度以降の女子部員の入部はない。

中・高校の柔道部の部員減少は、柔道界にとって全国的に共通する課題である。千葉県においても、オープン出場となる県大会団体戦への出場校は年々減りつつあるし、平成十一年度現在、本校が属する千葉県第七ブロック内には、一・二年生の女子選手は一人もいない。

しかし在籍する柔道部員の日頃の練習は熱心である。練習を休む者もなく、数少ない新入部員の中に、在学途中で部活を辞める者もいない。高校へ入学してから柔道を始めた者も、二年生になるまでには充分力をつけて黒帯をとる。ブロック内では圧倒的な力を持つ成田高校を除けば、同じく部員減少に悩んでいる他のブロック内高校の柔道部との力の差はわずかである。新年度に入部する一年生一、二名の力次第で、どこの高校も県大会進出の可能性がある。本校も例外ではない。ここ三年はブロック内の合同練習や合宿にも積極的に参加し、とりわけ成田西陵高校と富里高校の柔道部とはしばしば合同で練習している。お互い、少なくなりつつある部員同士、競い合いながらも親交を深めている。

無論この先、多くの新入部員があることを期待しつつ、少人数ながらも活気を失わない現在の柔道部の活動もまた良しとしたい。

（文責　小島　昇）



剣道部

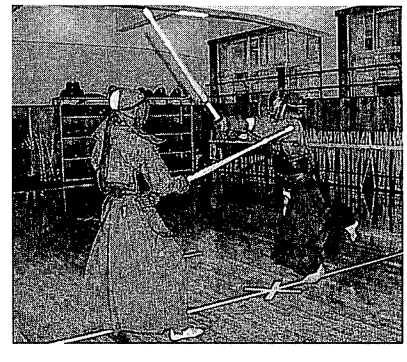
剣道部は、学校創立と同時に設立され、本校の歴史とともに二十年を迎えている。

当初は体育館も剣道場もなく、素振りやトレーニングなどの基礎練習しかできなかったそうである。翌年七月に体育館と格技場が完成し、念願の稽古や試合練習ができるようになった。この年は講師として飯田正雄氏の指導を仰ぎ、技術はもとより精神面や礼儀作法など本校剣道部の基礎を築いていただいた。昭和五十七年度、顧問に國本教諭、翌年より香取良和教諭が加わり熱心な指導が行われるようになった。その年の新

人戦では、ブロック大会において男子二位、女子一位で予選を通過し県大会に出場している。五十九年度は、総体で男子団体がベスト三十二に入り、優秀校として表彰された。その後も連続してベスト三十二に入るなど安定した好成績を収めている。平成四年度から國本教諭の後任として沼尻教諭、三橋が加わり、香取教諭と合わせて三人体制となり、より充実した指導ができるようになった。この年はブロック大会において、団体戦で男女そろって予選通過し、個人戦においても、男子の宮本が二位、女子の行木がベスト四に入るという好成績を収めることができた。翌年香取教諭が転勤され二人体制となったが、生徒達の努力と頑張りに支えられ、その年は女子団体でブロック二位、個人でも女子の鈴木がベスト八に入るなどの成績を残すことができた。翌七年度は、男子団体が新人戦三位、総体予選三位、女子団体も総体予選四位で県大会に出場することができた。この年は男女とも部員数も多く、例年にもまして活気ある部活動が展開できたことを記憶している。九年度は、新人戦ブロック男子団体三位、女子団体四位でそろって県大会出場、翌十年度総体予選では、男子個人戦で平間修がベスト八に入賞した。本年度は総体ブロック予選を女子団体が三位、新人戦ブロックでは男子団体が三位でそれぞれ県大会に出場することができた。

年度	顧問	主将(男子・女子)
平成二年度	國本・香取	宮本・岡澤
三年度	國本・香取	宮本・加藤
四年度	香取・沼尻・三橋	大谷・鈴木
五年度	沼尻・三橋	高橋智・安藤
六年度	沼尻・三橋	尾形・松木
七年度	沼尻・三橋	村田・望月
八年度	沼尻・三橋	澤田・長谷川
九年度	沼尻・三橋	高橋善・内田
十年度	沼尻・三橋	吉永・多田
十一年度	沼尻・三橋	加藤・半澤

剣道人口が減少し、部員不足で団体戦に出場できない学校も増えてきている現状で、本校では常に男女そろって試合に臨むことができたことは、生徒達はもとより我々顧問にとっても幸せなことであり感謝すべきことである。二〇年間このように充実した活動が継続できたことは、偏に、開校当初から様々な面において関わってこられた先生方のご尽力、そして何よりも、それを支えて頑張り続けた歴代の部員達の努力に他ならない。これからも毎日の練習を大切に、各大会において好成績が収められるよう部員一同力を合わせ、また、本校剣道部の更なる発展に向けて一層の精進に努めたいと思う。



（文責　三橋啓重）

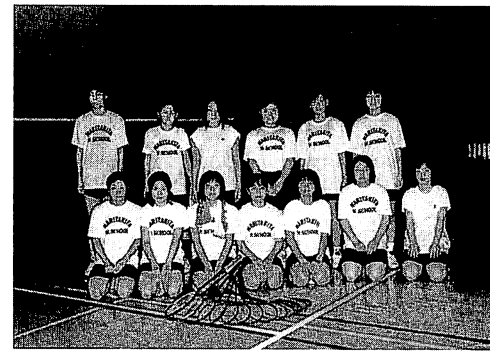
バドミントン部

昭和六十一年度に活動が始まったバドミントン部であるが、昭和六十二年度に女子のみとなってから男子の活動は行われていなかった。しかし、平成四年度入学したての一年生の強い要望により、男子部が復活となった。活力ある部員の活動の結果、翌五年には夏の北総大会で二年生

の近藤・黒田組が複式で四位、秋の東部地区大会、冬の福村杯で団体準優勝を勝ち取った。さらに、創設メンバーが三年生になった、平成六年の関東大会ブロック予選で団体優勝、総体ブロック予選で個人単式で三年生の近藤と二年の石井がそれぞれ準優勝、四位で県大会出場を決めた。初の県大会で団体と近藤の単式で、それぞれ一勝をあげた。三年生の引退後も、二年生の石井・横田を中心に、秋の新人戦、翌年の関東、総体で団体、複式（横田石井組）、単式（石井・横田）で県大会進出を果たした。しかしその後部員がそろわず、団体戦は不参加の時代が続く。そして、平成十二年秋、新人戦ブロック予選に五年ぶりに復帰した。まだまだ、最盛期には及ばないが、これからの飛躍に期待したい。

一方女子は、部員の人数が少なくなった時期もあったが、熱心に活動してきた。団体では、平成三年に関東予選で、ブロック準優勝をし、県大会に出場して以来八年間県大会出場はないが、後一歩、後一勝で県大会という惜しい試合が何度もあった。個人では平成五年の新人戦において二年生の佐久間・當間組が複式でブロック準優勝、佐久間が単式でブロック四位で、県大会に出場した。その後ブロック突破の壁は厚かったが、平成九年の総体で三年の佐保田が、ブロック三位で女子の総体での単式としては初の県大会出場を果たした。また平成十一年の新人戦では、山本（二年）・長谷部（一年）組が複式でブロック四位に入り、六年ぶりに県大会出場を果たした。来春に行われる、関東予選、総体予選に大いに期待されるところである。しかし、結果には現れなかったがどの年の部員もバドミントンに対して熱心に一生懸命取り組んでいたことを最後に付け加えておきたい。

（文責　丸山大作）



年度	顧問	
平成三	根本直美	男子主将・女子主将・鈴木香世
四	根本直美	近藤好仁・當間康代
五	川澄成生・中尾嘉夫	近藤好仁・佐久間晴美
六	諏訪和夫・木村謙一郎	安永光伸・宮内理香
七	丸山大作・平山久春	・近藤綾美
八	丸山大作	・川端裕佳
九	丸山大作・横須賀恵子	・本田理恵
十	丸山大作	小島洋雄・香取洋美
十一	丸山大作	小島洋雄・山本貴代

空手道部

昭和六十三年の春、本校空手道部は、ほんの数人の生徒が集まって、「空手道愛好会」としてスターとした。道場として使える場所もなく、ジャージ姿の初心者達が、中庭の芝生の上で練習したそうである。しかし、屋外での練習には多くの困難があった。雨や雪はもちろんのこと、小さな石ころ一つでも裸足で練習する空手道にとっては大きな障害である。ましてや冬場の凍った地面の上での練習は、地獄の苦しみであったに違いない。

こんな状態は同好会に昇格（昭和六十三年九月二十九日）してからも全く変わらなかった。そのため、平成元年二月からは、空いている早朝の第二体育館での朝練が始まった。夜が明けたばかりの床は冷たかったが、天候に左右されず練習できるのはどんなに嬉しかったことであろう。そしてこの年の夏には初めての合宿も行い、秋には女子も加わり、平成二年には、めでたく部に昇格した。

現在、空手道部には三〇名以上の部員が在籍し、毎日第二体育館を使って練習できるという、とても恵まれた環境にあるが、それまでには活動場所以外に、空手道部員にしかわからない大きな問題があった。それは流派の変更である。空手道には様々な流派が存在し、その技術にはかなりの違いがある。そのため、一つの流派を修行した者が他流に転向するのは、とても難しいことなのである。ましてや、基本もろくに身についていない高校生が流派を変えるのは不可能である。このような理由で、顧問の異動により流派が変わってからの二年間は、一つの部の中に二つの流派が存在することになってしまうのである。

昭和六十三年度から平成三年度の新入生までは、安藤清先生が修行される「沖縄少林流」であった。この流派は、琉球王朝時代の武士達の間に伝えられた技術をもとに創られた流派で、空手がまだ「唐手」と呼ばれていた頃の武術性を強く残した流派である。

平成四年度から平成九年度の新入生までは、磯貝智先生の修行される「和道会」であった。この流派は、古流柔術と空手の技術を合わせて創られた流派で、空手道諸流派の中で最も日本本土的色彩の強い流派である。

平成十年度の新入生からは、私（酒井）の修行する「賢友流」である。この流派は、空手に中国拳法の形意拳の技術を合わせた流派で、他流に比べ力を用いず、柔らかい動きをする流派である。

以上のように、本校の空手道部は二度も流派が変わったため、組手の練習はともかく、形の練習の時には、狭い道場の中で二つの流派が別々に練習しなければならなかったのである。そして平成九年度には、空手を指導できる顧問自体がいなくなってしまったため、和道会関東地区本部長の佐藤弘毅先生に来ていただいていた。

このように、空手道部には一般の運動部にはない特殊な悩みもあるが、これから先も工夫をこらして頑張って行きたい。

〈歴代顧問〉

安藤　清（昭和六十三～平成二）

兼坂　仁（昭和六十三～平成三）　石川恵子（平成九）
磯貝　智（平成四～平成八）　石原　守（平成九）
高城幸雄（平成四～現在）　酒井滝雄（平成十～現在）
（本年度顧問　酒井滝雄・高城幸雄）
（文責　酒井滝雄）

女子サッカー部

一九九二年九月より愛好会として活動開始、週六日放課後二時間程練習、他チームとの練習試合及び市サッカー協会、県サッカー協会等の主催による各種大会に出場。

その後、県協会に登録し、県リーグ等に参加。以来、全国女子高校選手権千葉県予選に出場、関東大会出場五回、うち一回ベスト八位に入賞。

現在、部員数は少ないが、小規模単位の大会では優勝もしている。今後、更に練習研鑽を積み、飛躍をめざしたい。

（文責　山口志津子）

同好会・愛好会

軽音楽同好会

軽音楽同好会は、この平成十二年度で創立十九年目を迎えたことになる。創立十周年記念誌によると、創立の頃は南校舎一階の空き教室を使用して練習していた様である。平成十二年度よりそこが使えなくなり、私が平成九年度に前顧問の佐瀬先生から引き継いだ時には、既に南校舎一階西側階段脇の倉庫を器材置き場兼練習場所として使用していた。

狭くて、薄暗く、とても長居出来る場所ではないが、同好会員は、矢張り軽音楽が好きなのであろう、そういう場所でも熱心に練習している。特に文化祭が近くなると、同好会員の数が増え、各バンドで練習場所の取り合いになる。演奏発表は主として、九月の文化祭と二月の予餞会である。以前は各学期に一回位の割合で、視聴覚教室等で、ミニコンサートを開いていたようであるが、現在は主として文化祭の時だけである。

同好会長が中心となり、レンタル器材の手配や交渉、発表する各バンドの曲数や順番、時間配分等の打ち合わせや調整を行っている。以上、色々な制約もありながらの活動であるが、すべて同好会員の手によって活動している。

（文責　高橋義巳）

イラストレーション同好会

イラストレーション同好会（通称イラ同）の創立は聞くところによると昭和五十八年ということである。数えてみると今年で十八年の長きにわたり活動してきたことになる。

初期の活動は、主に美術的な要素を重視した「グラフィックデザイン」的なものが多かったが、平成元年頃から劇画、漫画の制作を中心に活発な活動を行い、現在に至っている。活発な活動といってもそのかなりの部分はサロン活動に重きがおかれ、実際の制作はその数分の一の時間が割り当てられるだけではあるが、それでも文化祭が近づくとみんな必死の形相で機関紙「ダスト・BOX」の制作に取り組むのである。

先日、活動場所である工芸室の書棚（同好会員は四次元ボックスと呼んでいる）を調べたところ、ごく初期の二・三号を除き、昭和

黎明祭で作品発表

五十八年の創刊号から平成十一年の十七号までの「ダスト・BOX」、が揃っていることが判明した。漫画で時代の流れを感じることのできる第一級資料発見と顧問、部員で喜んでいる。今後も二十号あるいは三十号の発刊をめざして頑張っていく予定である。

（文責　多田　敏）

将棋同好会

将棋同好会の活動は、私が赴任した九年前当時は、あまり活発には動いていなかったようである。同好会員もいなければ、将棋盤すら何処にあるのかわからない状態であった。そんな中で一年の担任になったのを機会に、新入生に呼びかけ、四月も終わり頃になってようやく数名の生徒が集まってきた。只、純粋な同好会員は一人も居なくて、全てが他の部活との掛け持ちといった状態であった。

活動内容は、昔の縁台将棋的なもので、一応活動日を水曜日の放課後と決めてはあったが、暇な時間に声を掛け合って活動すると言った、全くもって自由奔放な活動状況であった。

活動場所も、今日の一〇学級という状況下で、一定の場所を確保するのがなかなか難しく、地学室・LL教室を借りる形で対応していた。

文化祭においても、毎年発表について話は出たのであるが、同好会員が他の部活との掛け持ちやクラスの方の発表などで忙しく、とてもまとまった発表を準備することができず、毎年残念な思いをしてきている。もっとしっかりした体制が整っていれば立派な発表ができたのにと思うのだが、残念なことである。

いろいろと難しい条件の下、将棋が好きな者同志が、指せる折りを見つけて指している状況であるが、今後ますます多くの会員が集まって、賑やかに楽しく活動することを期待している。

（文責　山崎　昭、川澄成生、嶋崎泰樹）

華道同好会

華道同好会は必修クラブの一つとしてスタートしたが、平成二年度から必修クラブの改変により自由参加となった。

部員数がそれまでは四〇余名いたが、半減して、花を生けることの好きな同好の士の集まりとなった。生け花を通じて会員相互の親睦を深め、日常生活において、住空間に、自由自在に花を生ける技術を習得し、あわせて伝統的な日本文化の継承と発展を図ることを趣旨として活動を開始した。

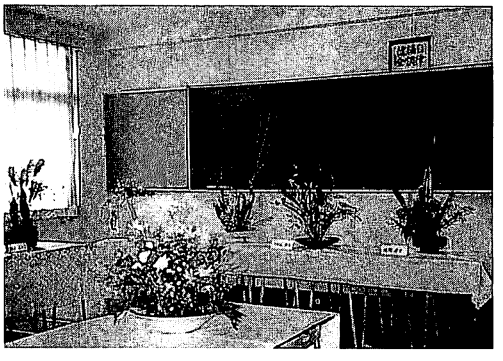
顧問には、池の坊の中野孝子先生をお招きして、週一回、生物地学教室を活動場所に、生花と自由花の生け方の基本から懇切丁寧にご指導いただいた。花材は一杯七百円、フラワーショップ「サクマ」より取り寄せ、先生が見本として生けてくださったのを参考にしながら、同じように生けるが、それぞれ個性が表れるもので、互いに鑑賞しながら和気あいあいと活動を展開してきた。

さらに、平成五年度からは、アレンジフラワーも取り入れて、形式にこだわらない生け花の世界を楽しんだ。三年間活動を続けた生徒の多くは池の坊へ免状を申請していただき、取得していった。

黎明祭には、毎年「くらしに花を」をテーマに各自の作品を展示し、参加者に見ていただいた。展示だけではなく、アレンジフラワーの展示即売や、ハーブを使ったリースや花籠を作成し即売した。喧噪の文化祭

会場にあって、華道同好会は静謐を保つ空間を演出してきた。

会員は平成九年度までは毎年一〇名前後いたが、彼らが卒業してからは、花より団子ではないと思うが、花材費に躊躇する生徒が増えてきたためか、生徒の要望がないためか会員不在となり、平成十年度より活動は休眠状態になった。しかし、本校教職員で文化祭には作品を展示し、会員獲得のために奮闘した結果、平成十一年度末に二名の生徒が入部を希望し、今後の活動に期待をつなぐことができた。



形式、花材にとらわれる事なく、生活空間に潤いのもてるよう、創意工夫を凝らした同好会活動をこれからは展開していきたい。さらに、国際交流の叫ばれる今日、今後とも初期の目的に沿った活動の再開されるよう一層の努力が必要である。

（文責　纐纈康世）

フォークソング同好会

『黎明十年』の記述によれば、フォークソング同好会の発足は、開校三年目の昭和五十八年のことである。空き教室を利用しての練習や、黎明祭、予餞会などでの発表を主な活動などとしていたが、会員数は決して多くはなく、昭和六十三年度にいったん会員が絶え、平成元年度に二年生の入会をもって再スタートしたという。この年は黎明祭での発表もあったが、この翌年、平成二年度から平成九年度までは『北星』の部活動紹介にも、黎明祭のパンフレットにも「フォークソング同好会」の名はない。

フォークソング同好会の活動が活発であり続けないのは、はっきりと故のあることである。「フォークソング」の名を冠して活動することの独自の意義が、ほぼ存在しないと言っていいからである。平成元年度の黎明祭の発表もほぼ「ロック」であったという。

一方、本校には、発足以来絶えることなく黎明祭にも参加し、部員も在籍し続けているらしい、軽音楽同好会なるものがある。言葉の本来の意味ではなく、現在のいわゆる「フォークソング」とは、音楽のジャンル上からいえばまぎれもなく「軽音楽」の一ジャンルであるから、何も「軽音楽」と分けて、別に「フォークソング」の同好会を作る意味はないのである。「軽音楽」同好会に、いわゆる「ロック」バンドが多いからといって、「ロック」でない「フォーク」の同好会を作る必要が生ずるわけでもない。そもそも「フォーク」と「ロック」でさえ、対立する概念でなどない。すっかり定着した「アンプラグド」という様式や、それこそ「フォーク・ロック」と呼ばれるスタイルの音楽さえあることを考えれば、いわゆる「ロック」と「フォーク」といった対立は意味をなさないし、それすらも「パンク」「テクノ」「ヒップホップ」「ポップス」「R&B」といったジャンルが並立するなかで相対化されてしまうしかない。

にもかかわらず、名前だけは存在し続けた「フォークソング同好会」は、平成十一年度には二〇数名が在籍している。

平成九年度に入会した数名の会員は、平成十年度黎明祭で合唱同好会主催の「瑠璃色コンサート」の一部で演奏し、その後、安定した活動を続けていくことになる。平成十一年度には、新入生歓迎会での演奏などを通して二〇名以上の新入会員を迎えることができた。平成十一年度黎明祭では開祭式冒頭を飾るステージで、黎明祭の部門賞も受賞し、予餞会でも全校生徒の前でステージに立った。練習も恒常的に行っているし、成田文化会館の小ホールを借りての演奏会も平成十年度から数えて三回目を迎える。現在のところ、活動は安定していて、来年度以降に引き継がれそうに見える。

が、やはり演奏している音楽に、軽音楽同好会との差異はない。「ロック」あり「ポップス」あり、現在はやりの「ビジュアル系」も人気だ。要は人間関係である。軽音で活動するか、フォークで活動するかは、たまたまどちらの人脈に触れたかということに過ぎない。

活動内容に違いがないのなら、同好会をひとつにまとめてしまってもいいようなものだが、たぶん、団体を一つにするよりも、このまま差異の曖昧なまま二つの団体を存続させていく方が、「音楽がやりたい」という共通項だけでくくられる、様々なタイプの生徒を、なるべく多く許容することが可能なのだろう。

（文責　小島　昇）

合唱同好会

合唱は楽しい。高い声も低い声も美声もダミ声も、皆一緒になって歌う楽しさはとてもいいものだ。けれど合唱部というのは、高校の部活動の中でもあまり人気のある部ではない。成田北高の合唱同好会もそうである。部にも満たない小さな集団で、絶えず存続の危機にさらされている状態だ。

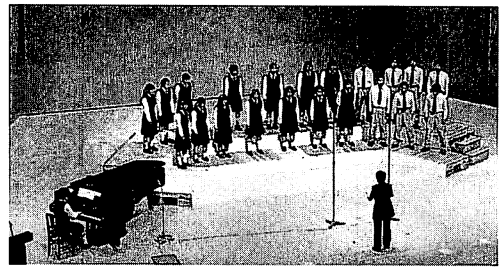
創設は昭和五十九年、まだピアノのない音楽練習室で活動を始めた。楽器なしでの練習はとても難かしく、大変苦労した様子がしのばれるが、やがてピアノが入ることによって、音取りが速く正確になり、ピアノ伴奏による熱の入った練習の成果を様々な形で発表できるようになった。文化祭、予餞会などの参加も、はじめは独唱重唱中心であったが、昭和六十一年には混声合唱を、さらに翌年からは、オリジナルのミュージカルや、林光作曲のオペラ「あまんじゃくとうりこひめ」を上演できるまでになる。

しかし、人数集めは、なかなか思うようにいかない。会員が一人もいない年が続いた時代もあれば、多い時は二〇数名に増えたりする。平成九年度、同好会としては初めての試みで、校外の催しにも参加してみようということになり、佐倉市民音楽ホールで開催される『印旛地区高等学校連合音楽会』に出演した。曲目は、武満徹作曲の「さくら」と、黒人霊歌の「スーン　ア　ウィル　ビー　ダン」、二四名の混声四部合唱であった。二曲ともかなりの難曲でありアカペラで歌うため、満足なできばえとは言えないが、充実感はあった。他校の高校生たちと互いの演奏を聴き合うこの音楽会は、貴重なステージであり、練習をしていく上

での大きな刺激となるので、コンクールには、たった一回出場して、挫折してしまった現在でも、この地区音楽会には、毎年出演している。

校内の文化祭では『瑠璃色コンサート』と名づけたミニコンサートを催している。これは、選曲から、指揮、伴奏までを、なるべく生徒自身でやってみようということで、苦労はするが楽しい企画である。メンバーの中には、他の部活動とかけもちという生徒もいて、いつも全員ぴたりとそろって練習を、というのは無理である。が、少しの時間でも集まれば楽しく歌い合い、ステキな時を過ごしましょう、という気持で、きょうも、これからも、北高合唱同好会は、細々と活動を続けていくことだろう。

（文責　大山早百合）



平成10年度・第65回NHK全国学校音楽コンクール

工芸同好会

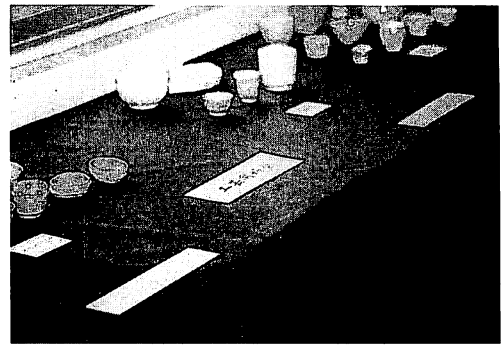
工芸同好会は、平成元年度の必修クラブ「バードカービングクラブ」を母体としている。

この「バードカービングクラブ」が平成二年度に必修クラブの改変に伴い発展的に解散、新たに「工芸同好会」としてスタートを切ることとなった。従来の木工を主体とする多田敏教諭の指導によるバードカービングに加え、新たに迎えた篠崎昌美教諭の指導による陶芸活動が始まった。その後の活動は陶芸が中心となり戸村博之教諭に引き継がれていった。

その間、高仲君のようなひたむきな情熱を持ってやきもの創りに取り組む生徒もみられた。彼らは、その時その時の自分の心を形にし、作品を創りだしてきた。

いままた、佐野祐子、松崎穣、林田厚志、藤崎藍子四名の生徒が、やきもの創りに情熱を燃やし始めている。

（文責　畑瀬康博）



ペン字同好会

平成二年四月に創設され、十年の月日が流れた。会員数の増減はあるものの、地道に活動を続けてきている。普段の活動の中心は毎月の競書雑誌への出品である。練習を重ねて昇級昇段を目指す。また特別な活動としては、年一回の黎明祭への参加があげられる。展示作品を作り発表したり、あて名書きなど文化委員の手伝いを行ってきた。活動は週一回から二回。創立当初は書道室をお借りし、またこの数年は普通教室で練習している。ペン一本、紙一枚あればできる手軽さも手伝ってか、他の

部・同好会と掛け持ちする生徒も増えている。運動部の生徒も練習に加わったりしている。必然的に、学校での活動は回数少なく、中味濃く、ということになる。自宅で練習を重ねていた生徒もいるようだ。「ペンを持って紙に向かうと、精神集中ができ、後で心安らぎすがすがしい気持ちになる。書くことは本当に楽しい。また級が上がると嬉しい。それで字が上手になるのだからこんないいことはない。」ある生徒が述べていた感想である。コンピュータやワープロを上手に使いこなす生徒達が同時にペン字に親しむのは、手書きの文字に、文字を書くことに、彼女達なりに魅力を発見したからであろう。色とりどりのペンではちきれんばかりのペンケースを持ち歩く生徒達。文字を書くことの楽しさをどんどんふくらまし広めていってほしいと期待している。

（文責　内海曜子）

パソコン同好会

パソコン同好会は、平成元年の一学期より、図書委員会コンピュータ班の有志によって同好会設立の準備が進められた。

活動内容はＢＡＳＩＣのプログラミングや、ワープロ（一太郎）の操作の練習をしている。三年生はセンター入試に備えてＢＡＳＩＣの学習をしていた。活動場所は、南校舎三階ＣＡＩ教室で放課後行っている。機械は十年近くたつ古い機械で、ＷＩＮＤＯＷＳが動かないため活動に困っている。

平成十一年度は同好会員が三年生のみで、今後の活動が続くか心配である。

（文責　堀越恵二・石原　守）

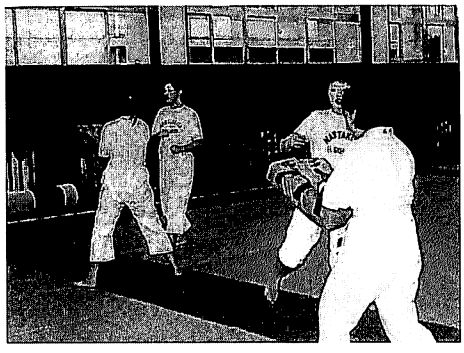
少林寺拳法同好会

成田北高校少林寺拳法同好会は、平成二年当時の顧問大木卓教諭によって創設された。少林寺拳法は、護身練鍛、精神修養、健康増進を合わせ持った武道で、「半ばは自己のために半ばは他人のために」という他者尊重の精神をモットーとするものである。成田北高校でも、その精神のもと大木教諭を中心として活動していたが、顧問が不在になり、その後活動がストップしていた。

平成十二年からその活動を再開し、現在二年生部員九名によって練習に励んでいる。

「正義なき力は暴力なり、力なき正義は無力なり。」――いざというときに正義を守ることのできる人間の育成のために活動している。

（文責　佐藤敏之）



郷土研究同好会

昭和六十三年度（一九八八）に必修クラブの一つとして「郷土研究クラブ」として発足したが、週一回（五〇分）の活動ではなかなか思うような活動は出来なかった。しかも、学校行事などの都合で週一回の活動

さえ確保できないことが少なくなかった。平成元年に、こうした反省と部活動の発展を期して必修クラブを部活動に連動させたが、その一つとして成立した。しかし、今度は生徒諸君の確保に頭を痛める状況に陥っていった。

平成二年度から同好会としての活動が始まったが、会員はわずかに四名であった。研究テーマは「現代の年中行事について」で、生徒諸君の家庭で年中行事がどのように扱われているかを調べた。多くの年中行事が消滅しつつある中で、逆に、「ヴァレンタインデー」や「クリスマスイヴ」のように、日本人の信仰や習俗とは関係のないイベント的な「行事」が定着しつつある状況が読みとれた。

平成三年度の研究テーマは「現代における迷信並びに民間信仰の調査」で、まず本校の生徒諸君の意識調査を実施した。予想したとおり、いままで地域や日常生活の中で語り継がれ、「信じられてきた」迷信・俗信の多くが消滅しつつあったが、一方、科学的根拠を持たない「占い」などを、意外に多くの生徒諸君が「信じている」状況があった。このテーマは翌年度も引き継いだ。

平成五年度以降四年間ほどは、会員が一名という状況が続き、活動らしい活動が出来なかったが、平成九年度にようやく六名の会員を迎えて「成田市における石仏・石像の分布状況と習俗の調査」というテーマで活動した。分布状況の調査活動に意外に時間をとられ、三年がかりの研究テーマとなった。各地に実に多様な石仏・石像・石祠があり、それぞれの集落や各家庭の信仰・習俗との関わり合いがどうなっているかが非常に興味があったが、まだそこまで深められていない。今後の高校生活の中で、郷土研究同好会のような地味で継続的な活動を求められている部や同好会が発展することを切望してやまない。（文責　手島和史）

ハンドボール同好会

平成十一年六月、一年生一〇人の生徒が集まって、私の所に来て「ハンドボール部」をつくりましょうと相談に来た。

私はこの年に本校に赴任した。およそハンドボール部をつくるのは無理だと思っていたので、この話があった時は非常にうれしく思って、さっそく生徒会への手続きをした。

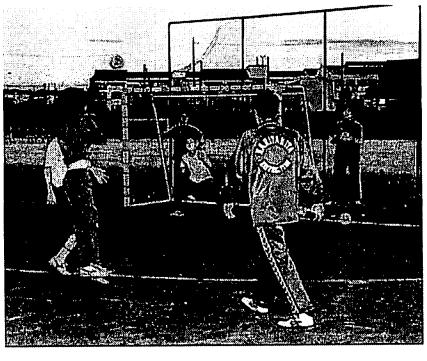
顧問会議、評議会、そして職員会議で七月に承認された。

さっそく夏休み一〇日くらい練習したが、なかなか全員が揃うことはなかった。

二学期に入って、いつも三～四名でコツコツと練習して、明日の栄光とスポーツの喜びを求めて練習に励んでいるが、早く一度練習試合をしたいと、そして公式試合に出場出来ることを夢見てみんな活動している。

これからも皆さんの協力と努力をお願いします。

（文責　稲生　茂）



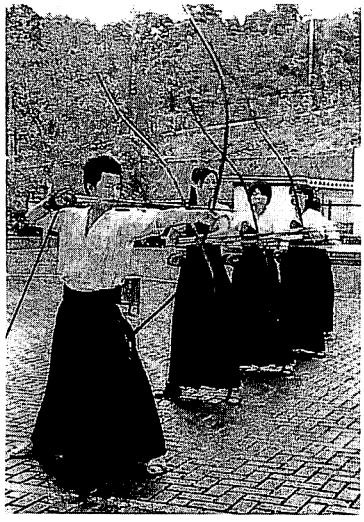
弓道愛好会

――「正しい弓道」を目指して――

「弓道」は日本の世界に誇ることのできる文化である。日本の弓は長弓（二m二一cm程度）を使用し、さらに、上端から三対二の分ける点の付近で矢を番えるものであり、世界に比類のない特殊性をもっている。

長弓で矢尺をとるため、発射の形も美しく芸術的でもある。上代には弓箭を天表と仰ぎ、尊崇していた。日本人の弓矢に対する精神的態度は、日本人の性格さえ造り出すようになっていった。道具に美的価値を具現させ、そこに人間の心的価値を認めさせるとともに、この長大な美しい弓で行射するなかに、形而上的価値（真善美）を求めるという、世界に例のない「弓道」という「道」を開いたのである。

「礼に始まり、礼に終わる」という言葉通り、「弓」によって「生き方」を学ぶことを眼目としているのが「弓道」である。一本の弓を引くことの中に、一つの人生を体験すること（尽己不求、一期一会、一射絶命、知足等）、いわば、「いかにして己の人生を正しく生きるか」をその中に凝縮して体験する行為が「弓を引く」こと、即ち「弓道」である。



「弓道」とは正射正中の努力である。中たりには当的・貫的・在的の三種類がある。当的とは、偶然に当ること。貫的とは、狙って中てること。在的とは、中たるべくして中たること。在的には①正しい道具　②正しい基本　③正しい練習　④正しい心の四条件が必要である。

成田北高等学校弓道愛好会は、「正しい弓道」を目指して二〇〇〇年六月二十九日に、顧問一名、部員八名でスタート（設立）された。

（文責　上野精一）

ＰＴＡ・同窓会・後援会の二十年

ＰＴＡのあゆみ

昭和五十五年六月、谷ＰＴＡ設立準備委員長の下、ＰＴＡ設立総会が開催され、各委員会活動のスタートがきられたＰＴＡも、一〇年・二〇年の年月を経て、諸先輩方の熱心な取組みとご努力により、現ＰＴＡの確かな基盤が築かれてまいりました。ここに改めて関係各位に感謝を申し上げるとともに敬意を表したいと思います。

平成二年　谷照雄会長の下、各委員会活動が進められる。そしてこの年は創立十周年記念事業が行われた年であり、鬼澤実行委員長の下、記念行事が行われた。綿貫ひろ子先生製作による少女のブロンズ像「海へ」が完成し、歴代ＰＴＡ会長のご厚志により寄贈された台座と共に除幕式が行われた。又、この年より校外指導委員会による登校時の自転車通学指導が実施される。広報委員会では広報「成北（セイホク）」（初代谷会長の案が採用された）の名称が、ひらがなで「なりきた」に変更され、さらに親しみ安くなり、二十九号が発行された。

平成三年　岩澤会長の下、昨年に続きＰＴＡも黎明祭に参加した。手作りアクセサリー、花、さつま芋等、バラエティに富んだ品物の展示即売を行い、この売上の一部と募金箱の浄財は普賢岳被災地に寄付された。又研修委員会は、二日間に渡り研修旅行を実施し天城峠を訪れた。

平成四年　高仲会長の下、各委員会活動が活発に行われる。総会に於てＰＴＡ規約の一部、役員の項で副会長四名が、若干名と変更改正が行われた。又、黎明祭に参加したＰＴＡより、収益金が成田市の社会福祉協議会に寄付された。

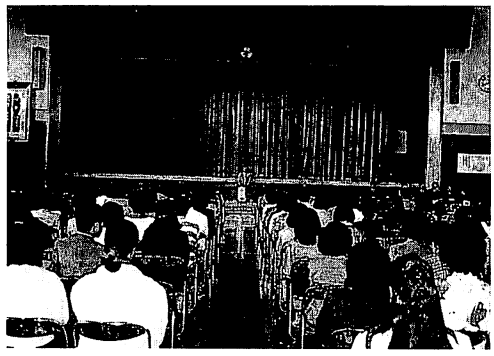
平成五年　大久保会長の下、活発な活動が行われた。この年の全国高Ｐ連大会は北海道札幌市にて開催されている。広報「なりきた」では成田北高について入学時アンケート結果が掲載された。回収率九七％、入学の目的は三七・六％が大学進学の為であった。子供の人生はどうあってほしいかの親の気持ちは、社会の為に尽してほしいが三六・九％、学校への子供達の希望は、多様な進路指導が二七・七％、生徒同志の交流が盛んで人間味ある学校であってほしいが二七・七％の結果が出ている。

平成六年　木内会長の下、校外指導委員会の自転車通学指導が強化され、又研修委員会は研修視察に城西国際大学への学校訪問を組み込み、好評を博した。恒例となってきた黎明祭参加のバザー収益金が、社会福祉協議会とともに、生徒会へも活動費として渡された。広報「なりきた」は今年度は四回発行。本年より杉山校長先生に変わり、井上洋一校長先生が着任された。

平成七年　片野会長の下、ＰＴＡ活動も順調に進められ、広報「なりきた」には、子から親への「ひと言」が掲載されたが、親として耳の痛いひと言が多い。又、いじめ問題が世間で深刻化し、広報誌にはいじめについての「緊急アピール」が文部大臣の出された文より抜粋し掲載された。

平成八年　篠崎会長の下、活動が進められ黎明祭では雨の中、バザーと共に焼鳥の店を出し好評を得た。この年、井上校長に替わり花井保先生が着任された。又、転出された井上校長先生の前年よりのご努力が実り、翌年より豪州ワガワガ高校との姉妹校としての交流が始まり、一四名の生徒が渡豪し、三週間に渡りホームスティをしながら生の英語の研修と人々との交流を深めた。更に十一月にはワガワガ高校より七名の生徒が来日、ＰＴＡもウェルカムパーティ開催やホストファミリーとして協力した。

平成九年　大場会長の下、活発に活動が進められる。本年より広報「なりきた」が、Ｂ５版よりＡ４版となり大変見やすくなる。又五十二号ではカラー印刷が取り入れられ、その表紙を飾ったのは「学展」デザイン部門大賞受賞作品、篠原芽衣作「時の声」である。又、大場会長より、創立二十周年記念事業についての発案がなされ、準備委員会設立の準備が行われた。



PTA総会（全体会議）

平成十年　相川会長の下、各委員会の活発な活動が進められる。十二月二日に「千葉県夢を育む教育推進事業」として、日本研究の世界的な学者として知られるドナルド・キーン氏の講演会が開催され、広く保護者にも参加を呼びかけた。又、本年初めてＰＴＡの授業参観を行い好評を博す。前年に引き続き、二十周年記念事業について準備委員会の設置がＰＴＡ総会にて承認され、同窓会、後援会の承認を経て準備委員会が開催された。準備委員長に相川ＰＴＡ会長が選出された。この年より花井校長先生に替わり、村田一男校長先生が着任された。

平成十一年　小川会長の下、各委員会活動が進められる中、二十周年記念事業実行委員会が発足し、規約等が制定され、小川ＰＴＡ会長が実行委員長に着任した。五月十五日第一回実行委員会が開催され、平成十二年の記念事業に向けスタートが切られた。

（文責　第十八代会長　小川和夫）

同窓会のあゆみ

昭和五十五年四月十五日に千葉県立成田北高等学校が開校して以来、今年で早二十年という歳月が経った。開校の三年後、第一期卒業生が巣立った。その卒業式目前の昭和五十八年一月に、各ＨＲの正・副ルーム長を準備委員として同窓会の役員が選ばれた。これからの成田北高の発展に資することを目的に、近隣の高校を参考にしながら会則の草案作成をし、同窓会設立総会を経て、五十八年三月八日に発足したのである。

本会は、千葉県立成田北高等学校同窓会と称し、事務所を千葉県立成田北高等学校内（成田市玉造五の一　ＴＥＬ〇四七六―二七―三四一一）に置く。本会は、会員相互の親睦を図り、母校の発展に資することを目的とし、会報の発行、会員名簿の作成、その他本会の目的を果たすために必要な事業を行う。このようなことを理解の上、卒業と同時に同窓会へ会員として入会していただくのである。

歴代同窓会役員一覧表

年度	顧問	会長	副会長	書記	会計	監査	学年幹事長	学年幹事A	学年幹事B	学年幹事C	学年幹事D	学年幹事E	学年幹事F	学年幹事G	学年幹事H	学年幹事I	学年幹事J
平成二年度		大橋 光夫	安部 志朗 白塚 朋子 赤間 賢二	三浦 賢一 諸岡 明美	益田 幸一郎 森田 早苗	木口 政章 渡邉 裕子	荒井 利尚	内田 幸男 野口恵美子	小倉 正寿 泉水 秀代	堀越 雅史 五木田君代	日暮 匡人 駒ヶ峰美奈子	松田 卓也 山村 里佳	颯佐 豊和 佐藤 貴子	川谷 真也 片山 牧	武田 直哉 仲山 恵美	赤羽 利幸 岡本 律子	篠田 周一 伊藤 理枝
平成三年度		同右	同右	同右	同右	同右	松﨑 吉洋	横田 貴久 北川 熱子	稲阪 明 大須賀郁子	澤田 順行 田中 直子	鵜澤 恵一 野平 幸子	桑原 貴志 帯金 和美	池亀 康彦 香取 悦子	櫻井 順一 亀田 順子	池上 雄人 染谷 優子	多田 茂行 岡澤 充子	小宮 伸介 竹川 雅子
平成四年度		同右	赤間 賢二 白塚 朋子 安部 志朗	同右	同右	倉並 政章 渡邉 裕子	西村 安代	伊藤 憲一 西村 安代	佐藤 友紀 田中久美子	相場 真吾 色川 睦美	伊藤 正則 藤崎まゆみ	花田 俊一 飯田 恭子	関 俊明 古田土美紀	田中浩一郎 竹尾 裕紀	松本 雅人 名川絵里子	根本 隆太 森 えり子	穐山 久栄 山田久美子
平成五年度		同右	同右	同右	同右	同右	濱詰 大介	並木 雅彦 藤江 恭子	神﨑 裕一 土戸恵美子	杉田 辰生 佐幸 明実	中島 学 宮崎 正恵	濱詰 大介 高村 春奈	高橋 雅史 内田 淳子	丸山 優 藤本真夕実	阿部 徳彦 清水 知子	飯嶋 茂人 井上 雅江	橋本 昌彦 有賀 淳子
平成六年度	大橋 光夫	安部 志朗	赤間 賢二 白塚 朋子	同右	同右	同右	伊能 英男	福島 拓児 小関 和恵	伊藤 正徳 並木 綾子	須藤 清 福田ちひろ	山室 祐司 安間 麗	小林 孝光 木内 麻子	高久 幸一 吾津 智代	宮本 宗一 山下 真琴	黒田 陽一 武市 智恵	飯嶋 茂人 新居 郁子	小倉 喜一 鴇崎 英明
平成七年度	同右	同右	同右	同右	同右	同右	萩原 丈博	八木 秀和 松村登茂美	萩原 丈博 小別當由記子	多田 和正 石井 裕子	田澤 利貴 小松美智代	藤本 雄太 山口 千絵	早野 誠 伊藤 一枝	飯嶋 重行 青柳 史織	鈴木 宏明 宮本 幸子	渡邉 大 川内麻寿美	石川 賀大 御園 貴子
平成八年度	同右	同右	同右	同右	益田幸一郎 倉並 政章	久家 裕子 森田 早苗	安孫子昇平	高木晋一郎 石井 友恵	朴 泰慶 門脇 美和	加瀬 健史 長谷川直子	畠山 直樹 青山 真澄	柴 弘二 山田美智子	岩澤 信之 鶴間 恵子	安孫子昇平 瀧原 輝美	渡邉 崇行 都丸 知子	中島 規行 斉木 千鶴	鎌形 道孝 諸岡 美奈
平成九年度	同右	同右	同右	同右	同右	同右	若林 邦明	若林 邦明 高柳 陽子	瀬尾 恵之 小川 祥枝	五喜田 智 高野 千春	青柳 敏明 新盛 千晴	前嶋 高広 前林加奈子	菅澤 哲也 山本 美雪	青野 善一 根本 朱実	大場 治人 荒野真由美	中村 豊 三嶋 若菜	松崎 玲雄 隈本 優子
平成十年度	同右	同右	同右	同右	同右	同右	小川 隆史	椎名 美行 惠畑 早月	本宮 隆志 山老絵理奈	中村 昭 久野麿衣子	諏訪 啓太 臼井 志織	遠藤 和生 石井 理恵	小畑 徹夫 濱田 恵美	北川 景介 三ツ木優里	須本 洋介 片岡 彩子	大木 崇将 中村 友美	小川 隆史 加瀬 陽子
平成十一年度	同右	同右	同右	同右	同右	久家 裕子 森田 早苗	伊藤 良太	福島 可児 福島 純子	篠田 鳥羽 篠田 綾子	高安 若林 高安 玲香	丸田 伊藤 丸田 季美	香取 鬼形 香取 洋美	渡邉 飯田 渡邉 亜紀	浅野 森山 浅野 美幸	渡辺 石井 渡辺 千秋	齊藤 八木 齊藤 祐子	高橋 鈴木 高橋 由

毎年行っている行事は、八月第一日曜日午前十時より、成田北高内において、同窓会の予算、決算、会則の変更及び重要事項を議決する総会である。毎年の卒業式には、新会員の方へ卒業証書用筒の贈呈を行っている。また、創立五周年記念には、成田北高初めての記念誌の発行に協力し、校舎脇へ大校章の設置をした。また、創立十周年には創立十周年記念誌の発行、そして十周年記念行事への協力をした。

そして最近では創立二十周年記念の一環として同窓会名簿を発行し今日に至る。

（文責　安部志朗）

後援会

開校初年度（昭和五十五年）より、ＰＴＡ会長はじめ、役員の中で、「部活動助成募金」を目的とした後援会設立の機運が高まり、ＰＴＡ会員の協力も得て、早くも昭和五十六年九月十八日に、後援会設立総会が開催され、後援会の活動が始まる。設立当時は、ＰＴＡ会長であった谷重吉氏が初代の後援会長を兼任し、歴代のＰＴＡ会長・副会長を中心に理事としての任務を担当し、成田北高校が創立二十周年を迎える現在に至った。ＰＴＡ会長・副会長であった人が理事を務めるということもあり、ＰＴＡ活動ともタイアップした活動ができ、成田北高の発展に寄与しているものと考えている。

後援会総会は、毎年八月第一日曜日に開催され、決算報告、部活動報告、会計監査報告、予算案、役員選出等が話し合われている。

部活動の助成を目的とした後援会活動であるが、その予算の使途の主な内容は次の通りである。

(1)部活動の備品・消耗品補助
(2)合宿手当補助
(3)夏季補習手当
(4)野球応援費用補助
(5)屋外照明灯の電気代
(6)関東大会以上出場部の旅費等補助

以上であるが、平成十一年度においては、陸上競技部の全国高校総体出場と、美術部の全国高校総合文化祭出展があり、校舎西側壁面に垂幕の設置をできたことは記憶に新しいところであり、喜ばしいことであります。今後もこのような事業を行えるよう、さらなる発展を望んでいる。

ここで平成十一年度の役員表を示しておく。

平成十一年度役員

No.	役職名	氏名	備考（ＰＴＡ）
1	会長	飯塚　信一	昭和六十二年度会長
2	副会長	鬼澤　和夫	平成元年度会長
3	副会長	谷　照雄	平成二年度会長
4	顧問	谷　重吉	昭和五十五―五十七年度会長
5	監事	海保　博資	昭和六十二年度副会長
6	監事	木内　信次	平成六年度会長
7	理事	石畑　邁	昭和五十五―五十七年度副会長
8	理事	岡野　広	昭和五十五―五十七年度副会長
9	理事	岩館　三郎	昭和五十五―五十七年度理事
10	理事	小野田和弘	昭和五十九年度会長

11	理事	小川　精一	昭和五十九年度副会長
12	理事	丸山　成孝	昭和六十年度会長
13	理事	村木　宣夫	昭和六十一年度会長
14	理事	清宮　昭男	昭和六十一年度副会長
15	理事	石原　正一	昭和六十三年度会長
16	理事	石橋　行与	昭和六十三年度副会長
17	理事	並木　治雄	平成元年度副会長
18	理事	篠田　安之	平成二年度副会長
19	理事	関　謙次郎	平成三年度副会長
20	理事	高仲　昭雄	平成四年度会長
21	理事	市川　一夫	平成四年度副会長
22	理事	相良くに子	平成四年度副会長
23	理事	椿　義盛	平成四年度副会長
24	理事	大久保靖夫	平成五年度会長
25	理事	大嶋　勇	平成五年度副会長
26	理事	瀧澤　武彦	平成五年度副会長
27	理事	藤江　栄子	平成五年度副会長
28	理事	浅倉　純夫	平成六年度副会長
29	理事	佐藤　芳明	平成六年度副会長
30	理事	安永　順子	平成六年度副会長
31	理事	片野　壽夫	平成七年度会長
32	理事	古林　玄一	平成七年度副会長
33	理事	中根　実千	平成七年度副会長
34	理事	岡野貴美江	平成七年度副会長
35	理事	篠崎美津男	平成八年度会長
36	理事	横山　武博	平成八年度副会長
37	理事	堀越さち子	平成八年度副会長
38	理事	塙　美代子	平成八年度副会長
39	理事	大場　正治	平成九年度会長
40	理事	山倉　信雄	平成九年度副会長
41	理事	岡田万里子	平成九年度副会長
42	理事	土方　節子	平成九年度副会長
43	理事	相川　光規	平成十年度会長
44	理事	矢部　進	平成十年度副会長
45	理事	新倉　光政	平成十年度副会長
46	理事	櫻井　笑子	平成十年度副会長
47	理事	小川　和夫	平成十一年度副会長
48	理事	野口　國昭	平成十一年度副会長
49	理事	片寄　照文	平成十一年度副会長
50	理事	大川　正芳	平成十一年度副会長
51	理事	小幡　敏雄	平成十一年度副会長
52	理事	岩本美津子	平成十一年度副会長

近年、生徒数の減少に伴い、会員数の減少・会費の減少傾向は見られるものの、役員はじめ会員は、成田北高校のますますの発展を期待して

今後も活動していくので、卒業生はじめ関係諸氏には、温かく見守ってもらいたいと考える次第である。

（文責　飯塚信一）

広報委員会

――子供達の生活環境を知る為に――

二〇年間という歳月の中で「なりきた」という広報部による広報紙を五七号まで発行してまいりました。

一学期に一回、一年間に三回発行して、各学期の行事内容や先生方からの言葉、子供達による行事に参加しての感想、役員が拘わって行なわれた時の内容など、さまざまな文章でつづられております。でも、この広報紙を子供達はきちんと保護者の元へ届けてくれているのだろうかという役員の不安もあります。

読んでいただきたい。それほどに思いをこめて、役員一人一人が字数を数えながら、作業して作り上げております。

各学年を学期ごとの三つに分け、一学年が二頁、二学年が三頁、三学年が三頁、出来上がり八頁という構成で作成されています。一学期に二回出席して一回目がレイアウトと、文章依頼と字数の確認、二回目が、レイアウトと印刷依頼。一回ごとに三時間位の短い限られた時間内で、広報部担当の顧問の先生には大変御迷惑掛けて申し訳なく思っております。二回の作業で出来上がると、子供達がもち帰ってくる終業式の日が待ち望まれます。カラーでつづられ、色鮮やかな表紙。「うん、きれい」という満足感……次の広報紙も、こんな色使いで、こんな形でという次回への望みを託しながら、一字一字に目を通す毎回でした。その広報紙も残す所、あと一号で私達三学年の広報部役員としての務めも終わります。

この一年間、広報紙の作業をしながらも、役員同志の親睦の為にと三〇分位で、休憩という楽しい時を持つ事が出来ました。日頃話す事が少ない親同志の会話に時が過ぎるのも忘れ、あわてる事もしばしば。役員になって良かったと思える瞬間です。

話題は子供中心…新入生の親としての悩み、二学年は子供達の変化に驚くばかりという家庭、進学か就職かと親子で悩むという三学年。親同志で同じ北高の親としての会話も楽しい時間でした。

でも役員全員が思う事は、せっかく作った広報紙は、成田北高全員の御家庭に届けられ、目をむけてほしいという事です。

親として、自分の子どもたちが

広報紙「なりきた」の編集会議

学校生活の中でどういう一日を迎えて、送っているのか、又、学校行事などでどういう事が学校で行なわれているのかという事に、もう少し関心を示して下さい。

毎学期発行されている広報紙の内容によって、少しでも親子の会話が多く出来ればと、役員一同頑張ってきました。

今までも、そしてこれからも、多くの先生方や生徒、保護者の方々によって作り上げられていく、そんな広報紙です。皆様方の意見や感想などを、広報部役員としてお手伝いをし、出来上がるものです。今後の成田北高発行の「なりきた」に期待して。

また、この三年間「なりきた」発行に携わり、原稿依頼などで御協力いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

（文責　岩本美津子）

心に残る学校行事・学校生活

心に残る行事―黎明祭―

黎明祭の準備は、毎年四月より始まる。テーマが決まり、大まかな内容が決まり、文化系各部、各クラスなどに参加団体を募集する。

文化祭とは何か？毎年、いろいろなところで議論されている。前年の反省に基づき、文化委員、生徒会本部役員らの手によって、毎年少しずつではあるが変更がなされ今に続いている。

平成三年度（平成三年九月二十八～二十九日）

テーマ「殻やぶり　ドッカーン」

・全クラスが「仮装」で競い合うクラスコンテストが前年に引き続きステージで開催された。このクラスコンテストは初日全クラスが発表。審査員の審査により、上位一〇クラスが一般公開日にも発表を行うという形式であった。

・一般発表団体二日間発表。

平成四年度（平成四年九月十九～二十日）

テーマ「君と僕とで完全燃焼」――実行委員長　花島俊一

・クラスの一般発表（模擬店など）を書類審査で厳しく制限し、一四クラスのみ参加となった。

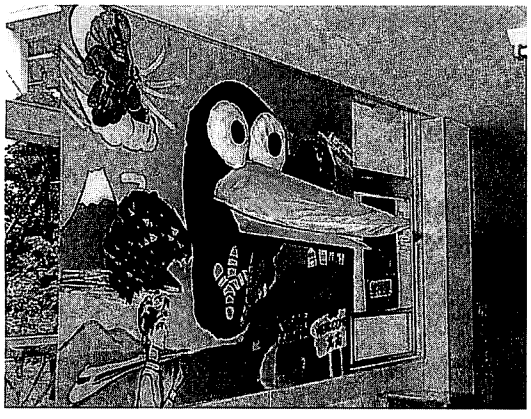
・佐原の祭り愛好会、生徒会長馬場純率いるＬＯＬＬＩＰＯＰなどのユニークな発表があった。

・クラスコンテストは五分間のパフォーマンスとなり、コント、影絵などがみられた。

平成五年度（平成五年九月十八～十九日）

テーマ「翔け　ペガサス熱狂の空を！！」――実行委員長　武雄鎮衛

・金券制スタート。初年度は手作りチケットで試行的に始める。金券の種類が多かったこと（おつり券・校内券など）、不正防止の印押しが非常に大変であった等、いろいろと支障もあったが、会計処理は楽になり、一ヶ月以上もスピードアップされ、また、収入も三〇万円以上増えるなど効果も絶大であった。



・クラスコンテストは「仮装・劇・コント・物まねなど」と発表範囲を広げる。しかし、この形でのクラスコンテストは年々質が低下し、この年が最後となった。

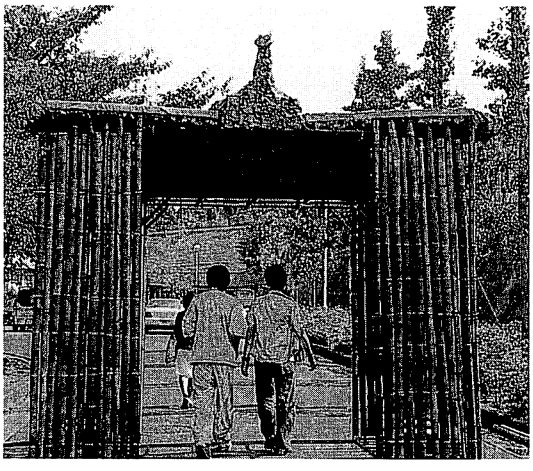
・また四年前に廃止された後夜祭についても検討がなされたが、六割程度の実施希望しかなく、実施しないこ

とが決定された。
・ビデオ・大型テレビなどを使って映像づくりにもこだわった。
・閉祭式において、クラッカーを一斉にならしていたが、一部の生徒の暴走により失敗。以後、クラッカーを含め生徒の暴走が問題となっていった。
・じゃがバター販売など一般発表団体も多数参加した。

平成六年度（平成六年九月十七～十八日）
テーマ「文化笑撃　カルチャーショック」――実行委員長　和泉幸代
・全クラス一般発表参加実施
・全クラス参加にあたり、発表を「飲食」「軽食」「商品販売」「イベント」「舞台発表」に分類。以後、この分類が五年以上も続けられている。
・重複した企画に関しては、抽選で団体を選抜するようになった。
・団体表彰をもうけ、三Dの「たまや」が最優秀賞
・前年の反省をふまえ五〇円均一金券（業者発注）制とする。
・コントグループのストリートコント、影絵等がみられた。
・この年から、パンフレットが冊子形式となった。

平成七年度（平成七年九月十四～十五日）
テーマ「十五年目の君と僕」――実行委員長　萩原丈博
・十五回記念として、初日にバカルティー、Uターンらを呼んだ。
・一般発表は一日とした（全クラス参加を踏襲）。
・クラスの一般発表に関しては、企画審査後抽選とした。
・チケットは二〇円均一とし、以後これが踏襲されている。
・プラネタリウム、少林寺デモンストレーションなどがあった。

平成八年度（平成八年九月十三～十四日）
テーマ「Shall　we　黎明祭？」――実行委員長　武田友紀
・夏、病原性大腸菌O―157が猛威をふるい、調理・食品団体の大幅な変更が余儀なくされる（原則として調理ができなくなる）。
・カップヌードルやドーナツ屋、中華まん屋など、食品をそのまま売る模擬店のみとなった。
・パンフレットがカラーとなる。
・O―157関係でパンフ等も大幅訂正となるなど大混乱となった。
・一日目に各一般発表のPRビデオ上映を行った。



・一日目の一般発表復活
・一般発表では、ステージでの制服ファッションショーなどがみられた。

平成九年度（平成九年九月二十～二十一日）
テーマ「1202／1202＝1～1202人の可能性」
——実行委員長　土方祐二
・一日目生徒会本部企画「のどじまん大会in成北」開催
・神社などユニークな参加もあった。

平成十年度（平成十年九月十一～十二日）
テーマ「〝夜明けの光を求めて〟—輝く心—」
——実行委員長　堀井貴弘
・文化委員設立後はじめての黎明祭
・以前の二日間開催にもどる（一日目校内発表、二日目一般公開）。
・前日の準備日の授業がなくなる。
・各クラスに下絵を分割し、ちぎり絵により壁画作成
図案—東洲斎写楽「大谷鬼次の奴江戸兵衛」
寸法—六・三m×八・七m

平成十一年度
テーマ「花鳥風月」（テーマ曲「チェリー」）
——実行委員長　升元　淳
・一日目オープニングセレモニー実施
フォークソング同好会
吹奏楽部
未成年の主張
下総栄太鼓（外部団体）による和太鼓の演奏
軽音楽同好会
・二日目一般公開
・牛乳パック及びぼろ布を集め、入場門の上に「火の鳥」を作成

〈以上十年間の総括〉

文化祭は、文化部の日頃の活動の成果を発表する場としてスタートしたことは疑いのない事実であろう。

しかし、一九七〇年代以降、この文化祭を支える文化部が急速に衰退し、文化祭は、大人の「教養」を満足させるものではなくなっていく（大学における学園祭においても同じ傾向を読みとることができる）。

一九八〇年に創立された本校においては、それ以前の伝統を何も持たないため、なおさらこの問題が顕著に表面化してくる。

さて、文化部の衰退という中で、文化祭を維持していくために考え出されたのが、クラス参加による文化祭の維持であった。本校では、現在三〇学級を半ば強制的に参加させることにより文化祭を維持している。

しかし、この方式は、生徒の学校への帰属意識と、クラスの「連帯」の意識を前提として成立する。そのため文化祭を期に、生徒に対して、これらの意識を持たせようという試みも行われるようになる。その代表的なものが、クラスの核となるリーダーを育成しようというリーダー研

修会であった。これらの試みに支えられ、文化祭は、一九八〇年代以降、生徒会活動の最大の行事として、その命脈を保ち続けていくのである。

この様な中で、文化祭に対し、生徒会は、その持つエネルギーを全てここにそそぎ込んでいく。その成功こそが本部役員に課せられた唯一絶対の課題となったのである。本部役員はあたかも「行事屋」の様相を呈し、民主主義の実践の場としての生徒会活動は、その本来の意味を失っていく。

しかし、一九九〇年代以降、これらの試みにも関わらず、この文化祭を維持するために必要な生徒の学校に対する意識は、急速に失われていく。「正当な」リーダーたろうとする者は、クラスから浮き出し、インフォーマルな関係性がクラスを支配するようになる。この様な状況の進展により、リーダー研修会もその姿を徐々に消していく。

この結果、文化祭は見るも無残な様相を呈しはじめ、文化祭が終わると、『文化的な発表がない』とか、『生徒の馬鹿騒ぎにすぎない』と言った批判も恒常化してくる。

本校もこの流れの中にあり、徐々に衰退化の道を歩んでいるように感じられる。

一番多い文化祭への批判としては、生徒批判説。その裏返しとしての教員批判説をあげることができるが、これらに立脚する方法論では文化祭の再生はおぼつかないと思われる。

今の時代は、文化祭云々の時代はとうに過ぎ去り、生徒にとって学校とは何なのかと言うことを議論しなければならなくなってしまった時代のような気がする。その議論の中から、生徒を主人公とする新たな文化祭が生まれてくるのかもしれない。

一〇年後の文章には新たな生徒を主人公とする文化祭が紹介されることを期待し筆を置くことにする。

（文責　後藤俊一）

高校生活最高の思い出〝修学旅行〟

本校の修学旅行の歴史は下表の通りで、今年度で二〇回目となる。第一回～第四回は京都・奈良を中心とした関西方面で、歴史学習が主要なテーマであった。第五回～第九回の修学旅行は第六回の東北方面を除いて、広島の原爆ドーム・記念館の見学と事前指導を実施することによって、古都の歴史中心だけでなく、平和学習も柱の一つに位置づけることになった。第十回から第十九回までの修学旅行はスキー体験学習となり、今年度、実施予定の第二十回修学旅行もスキー体験学習が中心となっている。ここでは、スキー修学旅行を中心にその歴史を振り返ってみようと思う。

各年度の修学旅行

水上藤原スキー場（群馬県）――平成二年度

平成二年度の修学旅行は今までの見学中心の修学旅行から大きく変わり、スキー修学旅行の第一歩となった。スキー修学旅行への変更は当該学年の主導のもとに行われ、平成元年の五月八日の職員会議にて、その方向性が決定し、それ以後十年間、スキー修学旅行が継続されることになった。

この記念すべき第一回目の修学旅行で、今だに話題にのぼるのは、交通渋滞にまきこまれ、帰宅が大幅に遅れ、深夜になってしまったことである。携帯電話などない時代。家庭への連絡、迎えの車の駐車場の設定等、残留職員の努力で全員の生徒を無事に帰宅させることができた。

本校の修学旅行の歴史

	昭和55	(1980) 年度	県立成田北高校開校
第1回	昭和56	(1981) 年度	京都・奈良方面……以後、3泊4日で実施
第2回	昭和57	(1982) 年度	京都・奈良方面
第3回	昭和58	(1983) 年度	京都・奈良方面
第4回	昭和59	(1984) 年度	関西方面
第5回	昭和60	(1985) 年度	広島・姫路・京都方面……平和学習位置づけ始まる
第6回	昭和61	(1986) 年度	岩手・秋田・青森方面
第7回	昭和62	(1987) 年度	広島・倉敷・京都方面
第8回	昭和63	(1988) 年度	広島・京都方面
第9回	平成元	(1989) 年度	広島・四国・岡山方面
第10回	平成2	(1990) 年度	水上藤原スキー場（群馬県）……スキー修学旅行へ
第11回	平成3	(1991) 年度	田沢湖ミナミスキー場（岩手県）
第12回	平成4	(1992) 年度	水上藤原スキー場（群馬県）
第13回	平成5	(1993) 年度	田沢湖高原スキー場（岩手県）
第14回	平成6	(1994) 年度	越後中里スキー場（新潟県）……1回目見直し
第15回	平成7	(1995) 年度	田沢湖スノーワールドタザワ（岩手県）
第16回	平成8	(1996) 年度	玉庭スキー場（山形県）……2回目見直し
第17回	平成9	(1997) 年度	網張スキー場（岩手県）
第18回	平成10	(1998) 年度	安比高原スキー場（岩手県）
第19回	平成11	(1999) 年度	玉庭スキー場（山形県）……3回目見直し
第20回	平成12	(2000) 年度	志賀高原スキー場（長野県）

このことは、今となっては忘れがたい思い出であると同時に、バスを利用してのスキー修学旅行を実施する場合の大きな教訓を残したといえる。

スキー修学旅行を終えて

（第三代校長）　羽生正允

本校も創立以来一〇年を経過して、学校の状況又社会の変化に対応すべく行事等についていろいろな面から見直しを図ってきた。その一つが従来の見学中心の修学旅行を体験型のそれに切りかえてみようということであった。

本学年ではこれを受けて、スキー修学旅行を実施することに決定し、スタート当初から二年間にわたり準備に準備を重ねた。

三泊四日の旅行を振り返ると、生徒諸君の協力もあって所期の目標はおおむね達成できたと考えている。四日間学校を離れて雪に囲まれた中で生活し、スキーの技術を修得した以外にも学ぶことが多かったであろう。滞在中は晴れの日、曇りの日、雨の日、吹雪の日と天候の変化も目まぐるしかったが、厳しい自然の一面に触れたのも貴重な体験であった。友達や先生方さらにインストラクターとの交流も楽しい思い出となろう。互いに助け合う心、きまりを守ることの大切さが集団生活を営む上で欠かせないものであること、さらに努力して物事を成し遂げた時の満足感、喜びを実感できたことなどは今後学校生活を送る中でぜひ生かしてほしい。

本文集には諸君の率直な感想、意見などがいろいろな形で記されている。楽しみに読ませていただき、来年度以降の実施の参考にしていきたい。尚私自身も今回生まれてはじめてスキー靴を履き、リフトに乗り、スキーの醍醐味を味わえたのは幸せであった。

初スキーわが身の思ふままならず
白雪に卍を描く最終日

田沢湖ミナミスキー場（岩手県）——平成三年度
スキー天国

三年J組　山田貴照

スキー修学旅行。それは、高校生活の中でも最も楽しみにしていたイベントだ。スキーは初めてだったので、初日は、お尻で滑っていたような感じだったけど、インストラクターの熱心な指導のおかげで、三日目には、どうにかスキーを楽しむ程度に滑れるようになった。

大自然に囲まれての修学旅行は、笑いあり、感動あり、何でもありで本当に楽しかった。目の前には見たこともない、真っ白な雄大なゲレンデが広がり、真っ白な雪に反射した太陽の光は、とても眩しく、自然のすばらしさに感動させられた。また、インストラクターの方言やイントネーションがおかしく、いかにも風情があってよかった。スキーの方も、何回も転んでいると、転ぶのも楽しくなっていき、だんだん転ぶ回数も少なくなって、上達していくのがわかった。ちょっと調子にのると、ボーゲンが直滑降になっていて、止まれなく大転倒、全身雪まみれ。スキーを滑っていると勉強のことも、嫌なことも全部忘れてしまう。スキーは本当にすばらしい!!

今、修学旅行を振り返ると、なんかあっという間に始まり、気づいたら終わっていた、そんな気がする。でも、この「あっという間に始まり、気づいたら終わっていた」三泊四日の修学旅行での思い出は、いつまで

田沢湖ミナミスキー場にて

も心の中に残り続けると思う。

（北星八号より）

スキー修学旅行

二年C組　小林良昌

まだ外は暗い。親父の車の中で始発を待っている時、僕は期待七割、不安三割だった。なぜなら、実は今回がスキー初体験なのである。しかもスキーの実習班は中級にしてしまった。みんなに遅れをとらないか、ケガはしないか、そんな事を考えながらスキー修学旅行ははじまった。

上野から新幹線に乗り、盛岡からバスに乗って、とうとう田沢湖ミナミスキー場に到着した。あまりの雪の多さに驚きながら、ホテルに向かう僕の胸は期待でいっぱいになっていた。それはすぐに不安へと変わってゆくのも知らずに。

すぐにウェアに着替え、実習ははじまった。インストラクターは長沼さんというそうだ。なまりがあるがおもしろそうな人だった。まずプルークやボーゲンをやらされた。その時すでに初めてのことがばれてしまった。その日、友達の冷ややかな目と笑い声をかみしめながら、ボーゲンをマスターしようとがんばったのだが、こつはなかなかのみこめなかった。

二日目、「まだうまく曲がれないんだけど…。」という気持ちをよそにリフトにのりコースを滑ってゆく。案の定ころびまくっていた。しかし緩やかなところにきた時、力のいれ方での曲がり方に気付いた。僕は叫びそうになった。「簡単じゃん!!」と。

それからはもう楽しくてしょうがなかった。転び方は派手になっても、どんどん上手くなっていくようで。

スピードにも慣れ、転ぶ回数も減ってきたころにはもうスキー実習は終わろうとしていた。そして次の日、まだすべりたいと思いながら、僕達は帰路についた。

（修学旅行文集より）

水上藤原スキー場（群馬県）——平成四年度
スキー修学旅行を契機に

教頭　中尾嘉夫

休業土曜日の夜九時半過ぎ、煌々と灯りのついた校舎と出迎えに来ていただいた保護者の方々、そして休日の夜にもかかわらず出校して校門周辺の交通整理や家庭との電話連絡にあたってくださった先生方に迎えられ、全員無事に帰校することができました。

二年前にも同じ藤原スキー場からの帰りのバスが交通渋滞に巻き込まれ、午後十一時過ぎの帰着になったと聞いておりましたが、今年もまた同じ轍を踏んでしまい、多くの方々に大変ご迷惑をおかけしました。にもかかわらず、我々を暖かく出迎えてくださいました皆様方に心から感謝申し上げます。

今回の修学旅行はこの一件と、病気や怪我で一時ホテルでの休養を余儀なくされた十数人の人達の無念さを除けば、まさに満点に近い成果をあげた充実した旅行であったと思います。先生方の綿密な計画と事前準備、現地でのきめの細かい指導、その指導にしっかりと応えて規律ある集団生活とスキー実習への熱心な取り組みをしてくれた生徒諸君の行動など、どれを取っても「素晴らしい」の一語に尽きると思います。お陰さまで、私は昔を懐かしみながら、久しぶりのスキーの感触を存分に楽しま

せていただきました。引率の先生方、生徒の皆さん、ありがとうございました。

ところで、私が初めてスキーを履いたのは、昭和三十五年の冬のこと。当時はまだスキー人口も少なく、スキーを担いで列車に乗ると周囲の人にじろじろ見られて恥ずかしい思いをしたものです。狂乱的ともいえるスキーブームに火がついたのは、それから七・八年経ってからのことでしょうか。昭和四十九年二月、建国記念日の連休に殺到したスキー客の雑踏ぶりを報じた新聞記事が、写真入りで次のように掲載されています。

「連休のすべり出しは、スキー場を目指す若者たちのラッシュで始まった。東京・上野駅は、九日昼過ぎから、上信越方面を目指すアノラックスタイルがあふれ出した。午後二時、ホームは満員。……

夕方には、国電の客が乗り換えて上信越方面行きのホームにたどりつくのに、一時間以上かかるほどになった。……」（朝日新聞）

「ゲレンデはいっぱい、帰りの列車も立ちん坊。十、十一日の連休をあてこんで冬山スキーに出かけた人たちは「レジャー地獄」の混雑にもまれながら、ほうほうの体で東京に帰り着いた。……上信越越後中里駅では午後三時ごろ、列車に乗れないスキー客二千人がホームにあふれた。……」

（毎日新聞）

我々日本人はスキーに限らず、ゴルフやカラオケ等々何事につけ「狂騒」という状態にとかくなりがちな特徴を持っているようで、そのようなものの考え方や生き方が現在の若者達にも引き継がれているんだなあということを、帰りのバスを待つホテルのロビーで、関越道大渋滞の情報を聞きながらつくづく思い知らされました。そして、レジャーとは一体何だろう、ゆとりとは?遊びとは?ということを、あらためて考えてみる必要があるとも感じていました。

「レジャー」は一般的に「余暇」と訳されていますが、この原義に一番ぴったりの日本語は「ゆとり」あるいは「遊び」であり、それは心の平静から生まれ、また心の平静を生み出すと言われます。また、かって哲学者ホイジンガは『人間こそ遊びによって進化した唯一の存在であり、人間文化に不可欠なもの』と主張しました。

急激な社会の変化や世界一の速度で高齢化する社会を迎え「ゆとり」や「遊び」が、今後の私達の人生にとって極めて重要な意味を持ってくることは確かであり、このような観点から、自らの将来のライフスタイルを考えることも大切なことの一つだと思います。

（修学旅行文集より）

修学旅行の思い出

三年D組　小林裕里

朝早く、集合時間に遅れることもなく、水上高原藤原スキー場へ行きました。今回のスキー修学旅行は、スキーを今までに一度も経験したことのない私を、とても不安にさせました。ただでさえ運動神経が悪いのに、あんな難しそうなスポーツが私にできるのだろうかと、スキーをやる直前まで考えていました。

開講式も終わり、とうとうスキーをやることに……。最初は、歩くことなどでスキーをしているという実感がありませんでした。でも、そのうちにボーゲンなど基本的なことをやり始め、私を含め、班のみんなも転び始めました。しかし、転ぶと同時に、スキーのコツを覚えてきた私です。班のみんなよりも上達するのが少し遅れたけど、スキー最終日まではなんとか滑れるようになれました。ブロンズにも合格でき、その時の感動は、今でもはっきりと覚えています。

今回、スキー修学旅行で、私は多くのことを学びました。どんなことでもあきらめずに挑戦してみること、これが大切だと思います。旅行を通して、友達とも交流を深め、多くのことを学んだ私。これからも、修学旅行で得たことを生かしていこうと思っています。

（北星九号より）

スキー修学旅行

三年B組　神崎　裕一

平成五年、二月十～十三日、私達成田北高生は、群馬県藤原スキー場へ、修学旅行に行った。

僕達の班は、みんな初心者だった。スキーの板をつけた時、こんなので本当に滑れるのかと不安もあったが、インストラクターに一つ一つ教えてもらううちにどうにか形になってきた。でも初めてのスキーは全然うまくいかず、近くを通りすぎるスキー少年を見て、僕達は、小さな子供でもできているのにこれくらいできなくてはと身にしみて感じさせられた。

ところが、二日目の午後あたりから最初はよく転んでいた僕やみんなは、あまり転ばなくなり、スキーに熱中していた。

小岩井農場の「雪まつり」を見学

リフトに乗って山に上り、下を見た時の一面の雪景色はとてもすばらしかったが、山を滑り降りる時には景色を見ているどころではなかった。

三日目、この日にはもう全員滑れるようになり、最後にはインストラクターに注文をつけるようになってしまった。

最終日、検定が終わってからは少ししか滑ることができなかったことがみんな残念そうだった。まだ滑りたいと思いながら、僕達は帰路についた。

このスキー修学旅行は、僕にとって意義深いものであったと思う。

その訳はまず、日常、学校で自分の周囲にいる人たちの新しい一面を発見したからです。例えば、同じクラスのよく知っている人達の意外な一面を何回も発見することができたり、また、同じスキー班で一緒になった、他のクラスの今まで顔や名前しか知らなかった人達とも友達になることができたからです。

高校生活の中でもメイン行事といえる修学旅行。

名所旧跡を巡り歩くという、もう一つの修学旅行のイメージとは違った修学旅行でしたが、総合的にみて楽しい行事だったという実感と、そして、困難で無理だと思われることでも、くじけずにやっていくうちに、いつの間にか力が備わって、楽しく充実感を味わえるようになるということを、身をもって体験できたという意味で、有意義だったと言えるような気がした。

三泊四日、あっという間に終わってしまった修学旅行でした。

（修学旅行文集より）

越後中里スキー場（新潟県）――平成六年度

修学旅行の思い出

三年E組　大三川　勝人

忘れもしない、一九九五年二月十二日、僕らは新潟の越後中里スキー場へ修学旅行へ行った。

一面の銀世界、冷たい風、澄みきった青空、それらのすばらしい景色はいつまでも僕の心に残っている。

さて、肝心のスキーの方は、七、八人の少数指導だったので、皆の上達はかなり早かったと思う。それはインストラクターの熱心な指導のせいもあるが、やはり皆心からスキーを楽しんでいたということだと思う。

僕自身も、最初は曲がるのがやっとだったのだが、滑れば滑るほど自分の上達が手に取るようにわかるようになった。スキーはやってみれば誰にでも

できるスポーツなのだ。
当然スキー以外にも楽しいことはたくさんあった。このいつもの学校生活とは違う修学旅行の雰囲気のせいか普段言えない様な事を言っている人がいたり、いつもとはちがう雰囲気を出して意外な一面をみせつける人物も数多くいたのが何ともいえず、修学旅行に来たんだなあと改めて実感し、とても愉快な気持ちになった。
この修学旅行は一生忘れないだろう。

（北星十一号より）

田沢湖スノーワールドタザワ（岩手県）――平成七年度

修学旅行

三年D組　青山真澄

私達は二月の七日から十日まで三泊四日で秋田県にある田沢湖みなみスキー場へ修学旅行に行きました。スキーの経験は、まだ二回しかなくあまり滑れる方ではなかったので、「三日間のうちで少しでも上手になればいいなあ。」と、思っていました。インストラクターの人からやさしく丁寧に教えてもらい、少しずつ滑れるようになってくると、とても楽しくなりました。なだらかな斜面だと前よりもスイスイと滑れるようになり、急な斜面だと転ぶ回数が多いけどなんとか滑れるようになりました。三日間も長いなあと思っていたのが、全然足りないくらいでした。三日目の最後には、松明滑走をやりました。とても気持ちよく滑れたし、きれいでした。本当に楽しかったです。
最終日は、小岩井農場へ行きました。雪まつりをやっていて、雪でできたキャラクターなどがありました。
本当にあっという間の四日間でした。無事けがもなく充実していて、いい思い出ができました。

（北星十二号より）

玉庭スキー場（山形県）――平成八年度

私の修学旅行日記

三年H組　林　直美

修学旅行一日目。着いてから間もなく一回目のスキー練習。馴れない手つきで準備をしてみんなで滑る練習をする。私の場合、他の班のインストラクターに突っ込んだり、坂道で後ろ向きに転んだりしながら、初めてのスキー練習を終えた。あまりにもできなくて、明日の練習に出るのが嫌だった。
二日目。吹雪の中での練習だった。前の日より少し滑れるようになった。急斜面では転がりつつも最後まで滑れた。少しだけスキーが好きになった気がした。
三日目。天気は雪だったが、昼に少しだけ晴れた。その時に見た景色は、とても素晴らしく、感動した。スキーの方も、だいぶ滑れるようになり、転ぶ回数も減ってきた。出来なかったことが出来る様になって、とてもうれしかった。夜の花火大会も、幻想的な感じがした。
最終日。最後の練習をする。初めて、転ばないで滑れてとてもうれしかった。同時に最後と思うと、悲しかった。練習を終え、ホテルを出発する時、インストラクター全員と従業員の方々が見送ってくれた。
この旅行で、たくさんのものを得たような気がする。楽しかった思い出と共に、得た物を大切にしたい。

（北星第十三号より）

網張スキー場（岩手県）――平成九年度

網張スキー修学旅行

教諭　纐纈康世

ふるさとの山に向かひし啄木の
そのふるさとに我ら来にけり

みちのくの昔語りを耳底に
　スキーバスの列雪原をゆく
　網張スキー場にて
紺碧の空よりシュプールゆるやかに
　降りてくる生徒ら横顔まぶし
　小岩井農場にて
足うらの雪きしきしと踏みしめて
　賢治の立ちし大地確かむ
　橋本美術館にて
みぞれ降り訪ふ人もなき曲家の
　内に燃え立つ岩手山見つ

（修学旅行文集より）

修学旅行について

教諭　丸山大作

教員生活五年目にして初めて修学旅行を引率することになった私は、初めてということで不安半分、その修学旅行が大好きなスキーということで期待半分で、出発した。

しかし、一番の不安要素は出発の一週間前になってインフルエンザにかかったことである。ついては、いろいろな先生、クラスのみんなにいろいろ迷惑をかけたことをこの場をかりておわびしたい。

そんな修学旅行だが、その間にさまざまなことがあった。そんな中で、いつも教室では見られない生徒の意外な一面や、またいつもとは少しちがった活き活きとした笑顔が見られたのは印象深かった。

この楽しい思い出を胸にあと一年間の高校生活を充実させ、しっかり送ってほしいと思う今日このごろである。

ただ、一つ心残りだったのは、自信のあったスキーで、なぜかクラスの生徒の前では転びまくったことである。

〝好事魔多し〟皆さんも気をつけましょう！

（修学旅行文集より）

夜、地元のお年寄りに手工芸品の作り方を学ぶ

成長を実感したスキー

三年J組　長濱達典

スキーは一度もやったことがなかったので、修学旅行の予習にザウスで何回か訓練したものの、やはり本場は違った。天候や雪の状態を自在に調節できない山は厳しかった。

実習では、プルークボーゲンやシュテムターンなどの技を完璧にマスターした。というよりしたつもりの方が正解かな?転ぶ数も少なくはなかった。それでも最終的にはあまり転ばなくなり安心、と思いきやリフトで行き着いた先は頂上!?横はガケ、急な坂など今までにない状況、僕には全く考えられなかったコースをなんとかクリア。

でも、なんだかんだといっても最高。頂上でびびりながら見た景色、自分で滑る感じ、ザウスとは全く違う自然環境、そして何よりもスキーという趣味ができ、チームメイトとも仲良くできて嬉しかった。

それと、宿での夜、ルームメイトとカードゲームやヒソヒソ話、人とうまくコミュニケーションができない僕にとってうれしいことで、しかもまた少し人間ができてきて、今まで無理矢理脱がされた皮も、自分の力で脱げたと思う。

PS・食べ物も好き嫌い少しなくなったよ。

（修学旅行文集より）

安比高原スキー場（岩手県）――平成十年度
素敵すぎた修学旅行

三年H組　坪井由佳

私達が行った安比高原スキー場はパウダースノーで有名。スキー経験のある私は、楽しみだった。本格的に滑り始めたのは二日目からのはずが大荒れ。パウダースノーに悪夢を見た。降ってくる雪よりも、下から巻き上げられる雪がすごかった。ホテルからゲレンデまでは意外と遠くて、足も痛い。たまらーん！って感じ。案の定リフトは全て停止。本日終了、のはずだった。が、インストラクターの姉ちゃん（うさぎの様な、かわいい姉ちゃんだった）は、かなりヤル気！スキー板を担いで、ひたすら昇る羽目に…。それはもうつらくて、何度遭難しようと思ったことか（涙）。私達のグループは男子と一緒だったため、姉ちゃんと男子はとっとと行って、置いてきぼりをくらった。オニ、オニー！しかし…それだけでは終わらなかった。何とかゲレンデまで戻ってこれた。んっ？何なのあの人だかりは…？そう。リフトが復活していたのだ。なにィ!?死にそうになってまで歩いた私達の努力は一体なんだったんだ!?許さーん！姉ちゃんはまだまだ元気だったが、もはや私達に体力は残ってない。動くリフトを横目に、ホテルに帰った。コノヤロウ。そんな訳で二日目は最悪だった。因みに三日目は晴天で、最高でした。景色が美しかった。ビューティフォー。ま、つらい事も時が経てば良い思い出になるのです！いい思いばっかした奴、覚えてろよー！（涙）。以上、素敵な修学旅行でした。

（北星十五号より）

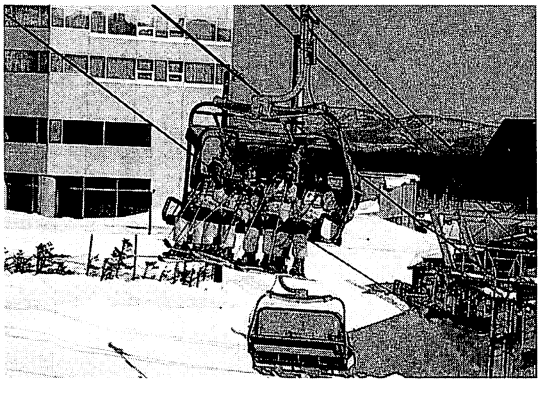
玉庭スキー場（山形県）――平成十一年度
宝物の詰まった三泊四日

二学年主任　香取正巳

二月六日、山形県の玉庭スキー場の四方は見渡すかぎりの雪山でした。スキーウェアに着替え、スキー帽の生徒達が開会式に集まってきます。インストラクターは一人一人にスキー靴を履かせてくれました。スキーを楽しみにしていた生徒も、不安で一杯だった生徒も、三九の班に分かれて滑りだしました。基本を大事にしながらも、教え方は皆違っています。

「いざやってみると楽しくてしょうがなかった」「上達していくのが嬉しく感じました」と感想が出ています。みるみる上達していく生徒達は、若者の可能性を見事に証明しました。

「露天風呂に初めて入りました」「普段見慣れない友達の意外な一面が見れたこと。優しかったり、面白かったり、いい意味で見る目が変わりました」も修学旅行ならではの経験でした。



玉庭スキー場にて

七日夜の民謡一家のご主人佐藤仁さんの「最上川舟唄」の張りのある声には圧倒されました。「太鼓はすごい楽器だと思いました」の声も。極めつけは「九日の夜、修学旅行の夢をみました」の感想。宝物の詰まった三泊四日でした。

（なりきた五十九号より）

修学旅行の見直しと検討について

スキー修学旅行の実施から一回目の見直しと検討について

スキー修学旅行が実施されてから四年目の平成六年、学年主任会を中心として、第一回目の見直しが行われた。平成六年十二月七日に、職員アンケートが実施されたが、表①のようにスキー修学旅行の継続を望む声が多かった。その理由として、目的意識が明確であるということ、充実感・満足感を体験できることがあげられた。その結果、職員会議を経て、スキー修学旅行の継続が決定され、同時に三年を目途にして見直し、検討を行うことも決まった。

二回目の見直しと検討について

平成八年～平成九年にかけて、修学旅行の見直しと検討が行われた。職員アンケートの結果は表②・③の通りであるが、平成六年実施の結果（表④）と比較してみると、スキー修学旅行の見直しを求める声が増えてきた。

ただ、依然としてスキー修学旅行の継続を求める数が多数なので、三年毎に見直す条件でスキー修学旅行の継続が決定した。

三回目の見直しと検討について

平成十一年、修学旅行に関して三度目の見直しと検討が行われた。職員アンケート結果は表④の通りで、スキー修学旅行を見直す声が多数となった。アンケート結果をもとにして、表⑤の様に学年主任会から提案し職員会議にて決定した。その結果、平成十二年度新入生から、実施時期は二年次二学期となり、事実上、スキー修学旅行は変更された。

スキー修学旅行が十一年も続いた最大の理由は、表⑥のアンケートにあるように、スキー修学旅行の満足度が生徒アンケートの結果からみると圧倒的に高く、ほとんどの年度で80％を超えていることである。

見学中心の修学旅行の最後となった平成元年度実施の広島・四国への修学旅行に関しての生徒の反応は、スキー修学旅行に比して満足度が低いという結果が表⑦に表われている。スキー修学旅行における目的意識の明確さ、達成感、身体を動かしたあとの充実感はスキー修学旅行支持の最大の根拠となっている。しかし、一方では修学旅行の原点を考え、スキー修学旅行への疑問の声が増えてきた。〝学ぶ〟という視点から、事前指導。事後指導の充実も含めて、平成十二年度新入生から本校の修学旅行はまた大きく変わることになる。

（文責　高城幸雄）

表①修学旅行に関する職員アンケート結果

平成６年12月７日実施　回収数65人（100%）

質　問　項　目	人数(人)	割合(%)
1　修学旅行は、現在スキー体験学習を行っておりますが、どうお考えですか		
ア　スキー体験学習を続けた方がよい。	31	47.7
イ　どちらかといえば、スキー体験学習を続けた方がよい。	12	18.5
ウ　見学を主にした修学旅行の方がよい。	6	9.2
エ　どちらかといえば見学を主にした修学旅行の方がよい。	4	6.2
オ　スキー以外の体験学習の方がよい。	1	1.5
カ　どちらかといえばスキー以外の体験学習の方がよい。	2	3.1
キ　どちらともいえない。	9	13.8
ク　その他（　　）	0	0
無　答	0	0

2　修学旅行のあり方について「1」で選択した項目の理由を下から選んでください（2項目まで選択）	修学旅行のスキー体験学習をどう考えるか									
	ア　続けた方がよい	イ　どちらかといえば続ける	ウ　見学を主にしたもの	エ　どちらかといえば見学	オ　スキー以外の体験学習	カ　どちらかといえばスキー以外	キ　どちらともいえない	ク　その他	人数(人)	割合(%)
ア　スキー技術の習得と向上という目的意識が明確に自覚できる。	人 21	4							人 25	38.5
イ　目的を達成したという充実感・満足感を体験できる。	13	6					1		20	30.8
ウ　新しい生活体験を通して、視野を広げ、将来にわたって生活をうるおす糧となる。	6	5							11	16.9
エ　千葉では経験できない生活環境を体験することにより、視野を広げ、風土と生活の仕方や生活意識のかかわりなどを実感できる。	4	1	1	1		1	1		9	13.8
オ　文化財や博物館・資料館などを見学することにより、学習内容の深化を期待できる。	1		5	3	1				10	15.4
カ　事前学習・事後指導の充実化によって、主体的・自主的に学習する力を養うことができる。			3	2					5	7.7
キ　グループ行動などを盛り込むことによって、主体的・自主的な学習体験とともに、生徒間の人間関係の深化、社会性の陶冶に寄与できる。	1	2	2	1	1	1	3		11	16.9
ク　現地の人びととのふれあいにより、自然・生活・文化を全体的に体験し学ぶことができる。	1			1					2	3.1
ケ　1学年10学級という規模では、最善の方式である。	10	4							14	21.5
コ　その他 無　答	1							4	5	7.7
人　数	人 58	22	11	8	2	2	5	4		
割合（%）	% 89.2	33.8	16.9	12.3	3.1	3.1	7.7	6.2		

表④修学旅行に関するアンケート結果

（1999.7.17　学年主任会）

回答数55（単位　人）

1　本校として、修学旅行を実施することについて

賛成…39　　反対…14

2　従来通り、スキーか、見学中心かを全体で決める。…18

実施時期、内容とも当該学年で決定する。…36

その他…1

3　今後もスキー中心の修学旅行を継続する。…17

見学中心の修学旅行に変える。…29

4　実施学年

1年…2　　2年…49　　3年…1

実施学期

1学期…0　　2学期…27　　3学期…18

5　飛行機利用について

可能にした方がよい。…44

反対である。…4

その他…5

表②修学旅行に関する職員アンケート

（平成8年度）

（単位　人）

○スキー修学旅行を継続する	29
○見学中心の修学旅行に変える	21
○その他	11

表③修学旅行に関する職員アンケート

（平成9年度）

（単位　人）

○修学旅行の実施について	
賛成	50
反対	9
無答	1
○修学旅行の内容について	
スキー中心の修学旅行の継続	33
見学中心の修学旅行の実施	25
無答	2

表⑤修学旅行、遠足に関して

（1999.10.4　学年主任会）

1　修学旅行に関して

①　アンケートの結果報告（別紙）

②　今後の修学旅行の提案

ア　今後も修学旅行を実施する。

イ　実施時期のみ、2年次2学期として、行き先、内容等は当該学年で検討する。

ウ　飛行機利用については、当該学年で検討する。

③　提案理由

アについて

Ⅰ　個人旅行の増加等によって、修学旅行の意義が失われつつあるが、生徒にとって、やはり大きな楽しみであり、重要な行事の位置づけは変わらない。

Ⅱ　団体旅行でしか学べないものを、指導の中で組み立てることによって、新しい意義を創造することができるのではないだろうか。

Ⅲ　修学旅行を実施していない学校はないというのが現状である。

イについて

Ⅰ　実施学年はアンケートの結果から圧倒的に2年が多い。

Ⅱ　3学期は推薦入試の導入等によって、日程的に厳しくなっている。

Ⅲ　スキー修学旅行の生徒の満足度は比較的高いが、一方では、団体旅行の意義が薄れてしまう傾向にある。

Ⅳ　実施時期を、当該学年で決めることになると、毎年、行事の時期が動くことになり、他分掌への影響も大きい。

ウについて

Ⅰ　いろいろな地域の文化に触れるということになると、九州、沖縄、北海道も範囲になり、飛行機利用を否定することはできない。

Ⅱ　県の解禁によって、他校の飛行機利用も急増しており、特別なことではなくなっている。

※従来３年毎に検討しているので、平成12年度入学生から３年間はこの形で実施する。
外国は行き先の中に含めない。

表⑥平成４年度修学旅行アンケート集計結果

1　今回の修学旅行は、全体的にみて

ア　楽しかった　　イ　楽しくなかった　　ウ　どちらともいえない

87.8%　　1.6%　　10.6%

平成９年度　２学年修学旅行　アンケート結果

1　全体的にみて、修学旅行は楽しかったですか。	全体376名	女子173名	男子203名
ア　はい	88.3%	90.2%	86.7%
イ　いいえ	1.1%	0　%	2.0%
ウ　どちらとも言えない	10.7%	9.8%	11.3%

平成10年度　２学年修学旅行　アンケート結果

1　全体的にみて、修学旅行は楽しかったですか。

ア　はい	88.4%
イ　いいえ	1.1%
ウ　どちらとも言えない	10.5%

平成11年度　第２学年修学旅行　生徒アンケート結果

有効回答数　366人

1　全体的に見て、修学旅行は楽しかったですか。

ア　はい	81.7%
イ　いいえ	5.2%
ウ　どちらともいえない	13.1%

表⑦平成元年度　修学旅行アンケート集計より（広島・四国見学コース）

1　今回の修学旅行は、全体的にみて

ア　楽しかった　　イ　楽しくなかった　　ウ　どちらともいえない

56.5%　　9.2%　　34.3%

校外学習（遠足）のあゆみ

校外学習（遠足）のあゆみを別表のようにまとめてみた。歴史的には林間学校や修学旅行との関わりをもちながら、各学年で特色ある校外学習（遠足）を実施してきている。

一学年では昭和の時代までは、林間学校の事前指導を兼ね、本校からほど近い、房総風土記の丘へ徒歩遠足が多い。平成に入ると七年までは中間考査直後の林間学校実施のため、遠足は行われなかった。平成八年からはクラス親睦を目的にして東京ディズニーランドへのバス遠足を実施している。

二学年では平成四年まで、修学旅行の事前指導を兼ね、現地集合現地解散の形で、電車で上野公園へ行っているのが圧倒的に多い。

三学年では、卒業後の進路や生徒相互の親睦を深めることを考えて、千葉市内の企業や東京ディズニーランドへバスで行っている。

なお、平成五年からは一学年林間学校の翌日に、二、三年生対象に芸術鑑賞会を実施しているため、二、三学年は遠足は実施していない。

平成十二年は、創立二十周年記念全校遠足を実施した。十二年振りの全校揃っての遠足であった。晴天に恵まれた四月二十八日、一学年はバスで東京ディズニーランドへ、二学年は東京駅集合後、東京・横浜方面のクラス別遠足、三学年は横浜現地集合現地解散のクラス別遠足を実施した。

（文責　香取正巳）

上野遠足の思い出
とにかく、足がくたくた

2年G組　室井克友

二年の遠足は、予定通り始まった。全生徒の八割強は、動物園に足を運んだと思う。

しかし、パンダだの豹だの小さい子供に混じって見る姿は、少々情けないものがあった。しかし全生徒の半分以上は既に一、二度動物園に来たことがあるらしく、迷子になる人は、ほとんどいなかったと思う。

動物園の外に出ると、美術館や博物館があるのだが、ほとんどが他校生や御老人が散歩しているだけで、北高生はほとんど見かけることは出来なかった。

「下町風俗博物館」に行くと、戦前の下町の住宅や昔の映画、おもちゃ等、所狭しと展示されていた。なかでも注目出来たのは「モスラ」の映画であった。足がくたくただったので一時間以上時間をつぶした者もいた。（僕の事であるが……）

とにかく、足は疲れたが、学校生活の中では思い出になるだろうと思った。

「二学年だより」（一九九一・七・四）より

校外学習（遠足）のあゆみ

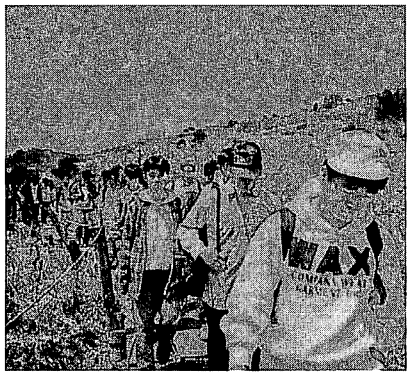
実施日	行き先		
	1年	2年	3年
昭和55. 5. 2（金）	房総風土記の丘		
昭和56. 4. 28（火）	房総風土記の丘	上野公園	
昭和57. 4. 28（水）	房総風土記の丘	上野公園	川崎製鉄千葉工場
昭和58. 5. 10（火）	筑波山	上野公園	川崎製鉄千葉工場 国立歴史民俗博物館
昭和59. 5. 30（水）		上野公園	千葉市内の各企業 国立歴史民俗博物館
昭和60. 6. 14（金）	国際科学技術博覧会	国際科学技術博覧会	国際科学技術博覧会
昭和61. 4. 30（水）	房総風土記の丘	上野公園	川崎製鉄千葉工場 国立歴史民俗博物館
昭和62. 4. 30（木）	房総風土記の丘	上野公園	東京ディズニーランド
昭和63. 4. 28（木）	房総風土記の丘	上野公園	東京ディズニーランド
平成元. 5. 31（水）		横浜博覧会	横浜博覧会
平成2. 5. 23（水）		上野公園	東京ディズニーランド
平成3. 5. 28（火）		上野公園	東京ディズニーランド
平成4. 5. 27（水）		上野公園	東京ディズニーランド
平成5. 5. 26（水）		（芸術鑑賞会）	
平成6. 5. 25（水）		（芸術鑑賞会）	
平成7. 5. 24（水）		（芸術鑑賞会）	
平成8. 4. 26（金）	東京ディズニーランド	（芸術鑑賞会）	
平成9. 4. 25（金）	東京ディズニーランド	（芸術鑑賞会）	
平成10. 4. 28（火）	海ボタル・潮干狩り	（芸術鑑賞会）	
平成11. 4. 28（水）	東京ディズニーランド	（芸術鑑賞会）	
平成12. 4. 28（金）	東京ディズニーランド	東京・横浜方面	横浜方面

林間学校について

本校の林間学校は、創立の昭和五十五年度から平成七年度まで、一年生を対象に一六年間実施された（別表参照）。

その歴史は、ひとつは四学級の時代（昭和五十五～五十七年度）、六学級の時代（昭和五十八～六十年度）、七学級の時代（昭和六十一～六十二年度）、十学級の時代（昭和六十三年度～平成七年度）に区分される。もうひとつは夏休み中の七月に実施した時代（昭和五十五年～五十八年度）と中間考査直後の五月（但し、十学級最初の年の昭和六十三年度は中間考査前に実施している）に実施した時代（昭和五十九～平成七年度）に区分される。

林間学校の内容は、ハイキング・登山、キャンプファイヤー、飯盒炊さん（七学級規模の昭和六十二年度まで実施）が目玉となっていた。



ハイキングを楽しむ

毎年、四月当初から一学年職員は、林間学校準備の学年会議を何度となく持ち、中身をつくりあげていった。また、生徒たちもキャンプファイヤーの出し物の練習にとりくみ、クラスづくりをすすめていった。

昭和六十年度から、五月下旬に長野県蓼科高原で実施ということに落ちついてくるなかで、昭和六十三年度から『より実りある林間学校を』を目標に、学年主任・教務主任・生徒指導部長の五名の委員が検討をして、①自然環境に恵まれていること、②施設が整っていること、③雨天時の対応が可能であること、等の基準があげられた。

また、はじめて十学級規模となった昭和六十三年度は、学年会議で十学級の林間学校をどう運営し、充実させるかの議論を重ねて、①車山ハイキングを五学級毎の登山コースと下山コースに分けること、②キャンプファイヤーの準備や施設との兼ね合いで、飯盒炊さんは中止すること、③食事は五学級ずつ二ヶ所に分かれてとること、という形態に変えた。これがその後の林間学校の形態の基礎となっていった。

やがて、十学級規模になって七年目の平成六年度には、学年主任会が中心となって、職員対象の『年間行事についてのアンケート』を実施し、林間学校・遠足・芸術鑑賞会・修学旅行の見直しをおこなった。

林間学校については、現行の林間学校の問題点は「学校生活の落着きと学習意欲をそぐ」三八・五％、「他の行事や指導と重なり、きわめて多忙、煩瑣となる」三四・六％、の意見を背景に、「中止した方がよい」の声が四〇・四％を占め、来年度の林間学校については「来年度から中止」三八・五％、「実施するが、再来年度以降は中止を含め大幅な見直し」二六・九％が多数を占めた。このアンケート結果をもとに、職員会議で討論をし、平成八年度からの林間学校の中止が決定した。

（文責　香取正巳）

平成七年度最後の林間学校の感想より

一年A組　木村真輝

林間学校は、高校に入学して初めての大行事でとても楽しかったです。だから、思い出もたくさんできました。

例えば、一日目のキャンプファイヤーでは、寒い中で……。

二日目は、雨に降られてしまいハイキングに行くことができなくなってしまいちょっと残念でしたが、その代わりにプラネタリウムに行けてよかったです。その夜、とてもきれいな星空を見ることができ感動してしまいました。

三日目の昇仙峡散策は、川がきれいだったけどすごく疲れました。友達もでき、その人の性格などもわかり、貴重な体験ができて良かったと思います。

一年D組　鷲尾洋子

林間学校では、自然の雄大さ、星の美しさなど、多くのものに驚かされたが、中でも一番驚いたのは、キャンプファイヤーの場所の狭さだ。なにしろフォークダンスがまともに踊れず、手をつないでつったているだけのような感じで、音楽だけが空しく流れてゆく。蓼科のこんなに広大な敷地の中でなぜ窮屈な思いをしているのかちょっと疑問だった。それでも先生方は満足気でいたし、みんなもそれなりにやっていたので、これでいいのかなと思ったりもした。

この狭さは、北高生が代々味わってきた「伝統」とも言えるだろう。しかし来年度から林間学校はなくなるので、とても残念に思う。

一年G組　外塚麻由美

前日から旅行委員として、何度も何度も打ち合わせをしてまだ仕上がらないうちに、五月二十一日を迎えキャンプファイヤーを行いました。

最初はフォークダンスもみんなはずかしかったのか、男女が手をつながず係の人も先生方も困っていたけれど、時間がたつにつれて慣れていくのが伝わってきました。

いろいろな面で、林間学校は大成功だったと思います。

三日間は短かったけれど、クラスの全員が一年間一緒に頑張っていく自信をもてたと思います。

一年担任　大河内和代

雨まじりで始まった今年の林間学校。しかし、生徒達のパワーはすごい。最終日には鉛色の雲を吹き飛ばしてしまった。睡眠不足をものともせず、生き生きと行動する彼らの底力。頼もしい限りだ。

日頃の学校生活ではやや遠慮がちだった彼ら。それもこの林間で変わってきた。主体的に考え、行動するようになってきた。また、それを支えるような人間関係もできてきた。彼ら自身も言うように「寝食を共にすることで親近感や連帯感がわいた。」からであろうか。

高校生になって物の考え方にも個性が表れてきた生徒達。中学とは違う自由さの中で、戸惑っている生徒達。彼らにとって三日間を同年輩の友人と過ごすことは、またとない良い経験となった様だ。

ここで得た貴重な体験を学校生活の中で生かしていきたい。

林間学校の経過

年　月　日	学級数	方面・行事など
昭和55年７．27～７．29	４学級	山梨県富士緑の休暇村、紅葉台ハイキング
昭和56年７．21～７．23	４学級	山梨県富士緑の休暇村、紅葉台ハイキング
昭和57年７．28～７．30	４学級	福島県裏磐梯高原白雲荘、登山中止で会津若松見学
昭和58年７．28～７．30	６学級	福島県裏磐梯高原白雲荘、磐梯登山、五色沼ハイキング
昭和59年５．27～５．29	６学級	山梨県富士スバルランドロッジ、三ツ峠ハイキング
昭和60年５．25～５．27	６学級	長野県蓼科パークホテル、車山高原ハイキング、諏訪大社見学
昭和61年５．24～５．26	７学級	長野県蓼科パークホテル、雨でハイキング中止、松本方面見学
昭和62年５．31～６．２	７学級	山梨県富士スバルランドロッジ、三ツ峠ハイキング
昭和63年５．21～５．23	10学級	長野県蓼科パークホテル、雨でハイキング中止、松本方面見学
平成元年５．28～５．30	10学級	長野県蓼科パークホテル、車山高原ハイキング、キャンプファイヤー中止
平成２年５．20～５．22	10学級	長野県蓼科パークホテル、車山高原ハイキング、恵林寺見学
平成３年５．25～５．27	10学級	長野県蓼科パークホテル、車山高原ハイキング
平成４年５．24～５．26	10学級	長野県蓼科パークホテル、車山高原ハイキング、昇仙峡散策
平成５年５．23～５．25	10学級	長野県蓼科パークホテル、車山高原ハイキング
平成６年５．22～５．24	10学級	長野県蓼科パークホテル、車山高原ハイキング、恵林寺見学
平成７年５．21～５．23	10学級	長野県蓼科パークホテル、ハイキング中止、清里小淵沢方面見学

球技大会・スポーツ大会

開校年度より実施されたスポーツ大会。当時はまだグラウンドも整備されていない中、男子がソフトボール・卓球、女子がバレーボール・卓球という種目で実施された。その後、生徒数の増加と共に規模も拡大し、球技大会・スポーツ大会という二本立ての実施となったが、二十周年を迎える今日に至っても生徒にとって楽しみな行事であることに違いないであろう。

球技大会・スポーツ大会の形式の変化を見ていくと、前述のように開校当時は、ソフトボール・バレーボール・卓球という種目でスポーツ大会が行われたが、三学年の生徒が揃い、グラウンドの整備が進み、体育館の完成に伴い種目も増加していった。

また、この頃からフォークダンス、クラス対抗リレー、相撲なども行われるようになり、やがてサッカー、バスケットボール、テニスなどの種目も加えられ、二日間日程で実施されるようになった。平成にはいると、球技大会・スポーツ大会を別々の日程で実施するようになる。球技大会は一学期期末考査後の日程の中で、各学年ごとに一日ずつ割り当てられ実施されていった。従って、全学年合同で行うスポーツ大会は二学期の実施となる。スポーツ大会では、球技に加えてクラス対抗リレーや、綱引き、大縄跳び等が実施された。平成二年には創立十周年記念行事として位置づけられた体育祭をはさみ、球技大会は学年毎に、スポーツ大会は全校一斉実施による、全種目での総合得点でクラス優勝を目指すようになる。

平成八年度からは、新入生歓迎の意味を含め、球技大会も三学年一斉実施となり、五月に二日間の日程で開催されるようになる。また、スポーツ大会は同様にして九月に一日の日程で行われるようになった。特に、球技大会では種目もバラエティーに富み、女子のソフトボールなども実施されるようになり、大会を大いに盛り上げた。反面、合わせて三日間という日程の中で、天候を考慮に入れた日程の調整や全員参加を求める登録方法に、工夫を要する行事となった。

平成十一年度は、行事日程の都合上、球技大会を一日で実施し、スポーツ大会を二日間の日程に変更して実施した。両大会での実施種目は次の通りである。

ア、球技大会

【男子】 サッカー・バスケットボール・卓球

【女子】 ソフトボール・バレーボール・テニス

イ、スポーツ大会

【一日目男子】 サッカー・バスケットボール・卓球

【一日目女子】 ソフトボール・バレーボール・テニス

【二日目男子】 ソフトボール・バレーボール・卓球

【二日目女子】 ドッヂボール・バスケットボール・テニス

【二日目共通】 クラス対抗リレー

（十一年度は降雨のためクラス対抗リレーを実施せず）

どちらの大会も種目毎の勝ち抜き点と、上位入賞クラスへのボーナス

点の合計により総合優勝クラスを決定した。

このように、年々競技方法や実施種目を改善しながら今日に至っている両大会であるが、近年、人気種目のサッカーやバスケットボールに出場する生徒達の技術レベルが向上し、クラスメートの熱い声援を集め、大いに会場を盛り上げている。間違いなく、生徒の心に残る行事の一つであると、確信するところである。

しかし、当然のことではあるが、全校生徒がこのように楽しむためには、大会を陰で支える生徒達の存在を忘れてはならない。実施種目の検討から組み合わせ・プログラム作成と昼休みや放課後も作業に追われる体育委員。彼らと共に前日・当日の会場準備や各競技の審判を快く引き受けてくれる各部活動の部員達。これらの人々の存在なくしては、大会が運営できないことを決して忘れてはならない。

最後に、学校完全五日制を目前にして行事の見直しが進む中、今後のスポーツ大会や球技大会がどのような位置づけになるかは未定であろう。しかし、逆に厳しい条件の中でこそ心に残る行事を存続させることに意義があり、そのことを生徒諸君には十分理解してもらいたい。体育行事が実施できることに感謝しつつ、思う存分楽しんで青春の一ページにしてもらいたいと願っている。

（文責　秋葉章二）

耐寒マラソン大会

マラソン大会は、創設時より行われ、今年で二十回目となりました。毎年二月に一、二年生が健脚を競い合い、職員もコースの指定場所に行き、生徒を応援しながら指導にあたり、コースの安全と生徒の健康状態に気を配りました。第七回大会から第十四回大会まで、ニュータウンの緑道を走る中台往復コースで実施されましたが、コースの中に一部歩道を走ることと、正門前に信号ができたこともあって、第十五回大会から、男子は、ニュータウン緑道から中台のトリムコースをまわる一〇㎞コースと、女子はニュータウン緑道から赤坂公園折り返しの六㎞コースになりました。毎年この時期は風も強く、走る生徒も運営する職員も大変なものがありましたが、記録的には、第十六回大会の島村健一君の出した三四分〇九秒と、同じく第十六回大会の鈴木利恵子さんの二六分五九秒はすばらしい記録であると思います。

第十八回大会まで、コース確認とペース配分の指導ということで、同コースの試走を行っていましたが、運営上やその他の観点からやめることになり、その為、大会前の授業も緑道の中に二㎞、三㎞、四㎞のコースを設定し、校内のコースだけでなく外に出ることも多くなりました。

また、今年第二十回大会では、コースを短かくし、男女とも、赤坂公園から緑道を走り学校に戻るコースとなり、約一㎞程短かくなりました。風の影響も少なく、コース内のアップダウンもゆるやかになり、生徒にとっては走りやすくなりました。今年は天候にも恵まれ、ゴールに戻る生徒の走り終えたすがすがしい顔が印象的でした。とくに大きな事故もなく、第二十回大会までこれたのも、職員と生徒の協力があってのものだと思います。今後も生徒の安全に努め、大会を運営していきたいと思います。

（文責　鈴木小枝子）

マラソン大会歴代優勝者

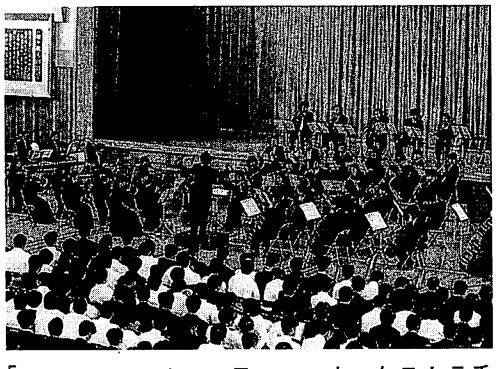
回	年月日	クラス	氏名	記録	備考
11	平成3．2．5	2J	佐藤正教	38′48	
		2D	野平幸子	26′57	
12	平成4．2．5	2D	宮城悟志	37′34	
		1J	無津呂尚子	25′09	
13	平成5．2．1	2B	鈴木一茂	37′40	
		2A	無津呂尚子	24′37	
14	平成6．1．27	1I	肥後圭太	37′10	
		2F	菅澤昭子	26′10	
15	平成7．2．1	2A	肥後圭太	36′41	コース変更
		1H	我妻綾香	29′11	
16	平成8．2．1	2F	島村健一	34′09	
		1D	鈴木利恵子	26′59	
17	平成9．2．4	2I	江名貴史	36′57	
		2J	鈴木利恵子	27′03	
18	平成10．2．2	1G	鬼形翼	39′15	
		2C	佐藤瑞紀	27′26	
19	平成11．2．1	2I	野口昭彦	36′24	
		1I	小長谷麻美	28′00	
20	平成12．2．1	2C	佐々木芳秀	33′33	コース変更
		1J	笠井美利	22′45	

芸術鑑賞会の取り組み

成田には実に豊かな文化と歴史が息づき、それぞれの地域で引き継がれている。昭和五十年に成田国際文化会館が開設されたが、成田の文化と歴史に応える施設としては決して十分とはいえない。残念ながら常設の芸術劇場や映画館はまだ実現されていない。

高校時代は、人生の中で最も純粋で多感であり、その感性と情操、多様な能力は、鍛え上げ、磨き上げることにより大きく花開く可能性を秘めている。この時期に、どのような人と出会い、どのような感動を経験するかは、生徒諸君の人間形成に大きな意味合いを持っているといえる。

本校では、開校時から生徒諸君が本物の芸術や文化に直にふれる機会の必要性と重要性を考えてきた。その一つの試み、具体策として、開校二年目から芸術鑑賞会を開催し、すぐれた芸術・文化を提供してきたが、そ



「ニュー・フィルハーモニー・オーケストラ千葉」の演奏

の際、卒業までの三年間に可能な限り幅広く、さまざまな分野の芸術や文化にふれることが出来るようにとの配慮から、演劇・音楽・古典芸能を交互に鑑賞するようにしてきた。その実施にあたっては、図書委員会が全面的に協力してくれている。

本年度、芸術鑑賞会は十九回目を迎えたが、本校創立二十周年を記念して、いままでの芸術鑑賞会の公演内容を概観してみよう。

第一回　演劇鑑賞会（昭和五十六年十月十六日）於成田国際文化会館

成田国際文化会館を会場にして、モリエール原作の『町人貴族』を鑑賞した。この公演は、本校が開校二年目で全校で八学級という規模であったため、成田園芸高等学校（現成田西陵高等学校）との共催で実現できた。

第二回　音楽鑑賞会（昭和五十七年十一月十八日）於本校体育館

東京芸術大学出身者を中心にした金管アンサンブル『東京チェンバーブラスクワイヤー』によるクラシックや映画音楽などを鑑賞した。

第三回　音楽鑑賞会（昭和五十八年十一月二十九日）於本校体育館

東京交響楽団のヴァイオリニストである鳩山寛氏を中心に結成されている『鳩山寛アンサンブル』によるクラシック音楽を鑑賞した。

第四回　郷土芸能鑑賞会（昭和五十九年十一月十五日）於本校体育館

伝統芸能として天保年間から引き継がれ、無形文化財となっている小見川町野田下座連による祭り囃子『小見川囃子』を鑑賞した。

第五回　古典芸能鑑賞会（昭和六十年六月二十七日）於本校体育館

今回は古典芸能を鑑賞した。公演内容は、日本伝統芸能を守る会による『狂言　萩大名・棒縛り』である。

第六回　演劇鑑賞会（昭和六十一年六月十二日）於本校体育館

体育館のステージとフロアーを一杯に周回する舞台を演出して、東京演劇アンサンブルによる太宰治原作『走れメロス』を鑑賞した。観客席の間を全力で走り、演技する迫力に、生徒諸君は圧倒されたようであった。

第七回　音楽鑑賞会（昭和六十二年十一月七日）於本校体育館

千葉県を基盤にした本格的な交響楽団「ニュー・フィルハーモニー・オーケストラ千葉」によるクラシックや映画音楽の鑑賞をした。五〇名編成の交響楽団の作り出す「音」の美しさと力強さに大きな感銘を受けた。

第八回　古典芸能鑑賞会（昭和六十三年六月十六日）於本校体育館

林家木久蔵一門（五名）を招いて、落語・漫才・マジックを楽しんだ。「成田」を笑いの中に巧みに取り込み、人と人とをつなぎ、人を和ませる話術の「力」を知らされた。

第九回　オペラ鑑賞会（平成元年十一月十一日）於千葉県文化会館大ホール

千葉県教育委員会主催による高校生を対象にしたオペラ鑑賞教室が県芸術祭特別公演関連事業として催され、本年度芸術鑑賞会として鑑賞した。公演内容は、F・レハール作曲『メリー・ウィドウ』で、合唱は二期会合唱団、演奏は東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、舞踊はB・M・Cという本格的なオペラ公演であった。すばらしい演技力と歌唱力、演奏に生徒諸君はふだん味わえない感動に浸った。

第十回　演劇鑑賞会（平成二年十一月十四日）於成田国際文化会館

本校創立十周年記念行事として、前進座の『さんしょう太夫』を、生徒諸君とともにPTA役員をはじめ保護者の方々、同窓会関係者、後援会関係者の方々と鑑賞した。この年、本校は三〇学級規模（三学年合計一三八八名）となり、成田国際文化会館の収容人員が一二〇〇

名のために、午前・午後の二回公演とした。『さんしょう太夫』は良く知られた作品ではあるが、鍛えられた演技の舞台に大きな感動を覚え、十周年を記念するに相応しい催しとなった。

第十一回　音楽鑑賞会（平成四年五月二十六日）於本校体育館

後述するが、三〇学級規模となった本校にとって、芸術鑑賞会を行う施設の確保が非常に難しくなった。本校体育館も一四〇〇名近くの生徒諸君が芸術鑑賞する場としてはとても無理であり、本年度から一年生の林間学校にあわせて、一学期の中間考査直後に実施することにした。

公演内容は、いとうきよしプラスアンサンブルと岡田打楽器合奏団共演による『ミラクルパーカッションと金管アンサンブル』。折にふれて親しんでいる曲を、時には和太鼓もまじえて体育館を揺さぶる「音」を楽しんだ。

第十二回　古典芸能鑑賞会（平成五年五月二十六日）於本校体育館

古典芸能鑑賞会として、五年前に一度お招きした林家木久蔵一門の『北高寄席』の公演を楽しんだ。改めて「寄席」や寄席で使用する音楽（囃子方・囃子物）について説明を受けた。

第十三回　演劇鑑賞会（平成六年五月二十五日）於本校体育館

本校体育館のステージを倍近くに広げてスケールの大きな舞台を作り上げて、劇団「東演」の『翔べイカロスの翼』の熱演を鑑賞した。

第十四回　音楽鑑賞会（平成七年五月二十四日）於本校体育館

「ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉」の二度目の公演を鑑賞した。七年ぶりのクラシック音楽鑑賞の機会であったが、体育館での鑑賞の難しさを考えさせられることになった。

第十五回　古典芸能鑑賞会（平成八年四月二十六日）於成田国際文化会館

鏡味小仙社中と桂南喬師匠による『芸能屋台村―江戸の「祭りごころ」を現代に』を鑑賞した。日本の伝統芸能を代表する江戸太神楽として獅子舞、傘の曲、バチの曲を鑑賞し、桂南喬師匠の滑稽話と江戸の物売り、曲芸などを楽しんだ。伝統芸能の重みと素朴で軽妙な庶民文化を味わった。

第十六回　演劇鑑賞会（平成九年四月二十五日）於成田国際文化会館

教材などにも取り上げられ、生徒諸君にもよく知られている『奇跡の人』を東京演劇アンサンブルが上演した。三重苦のヘレンケラーとサリバン先生との人間愛にあふれた葛藤を見事に演じ、感銘あふれる舞台を作り上げてくれた。

第十七回　音楽鑑賞会（平成十年四月二十八日）於成田国際文化会館

宮間利之&ニューハードを招いて、初めて本格的なジャズ演奏を楽しんだ。ジャズの持つ歴史やクラシックとの違い、ジャズの楽しみ方などを説明してもらいながら、迫力ある演奏に聴き入った。

ミュージカル「真夏の夜の夢」

第十八回　ミュージカル鑑賞会（平成十一年四月二十八日）於成田国際文化会館

劇団「笑う猫」によるW・シェークスピアの『真夏の夜の夢』を原作とするミュージカル

・コメディ『真夏の夜の夢』を公演した。シェークスピア文学の一端にふれながら、ミュージカルの持つ楽しさ、すばらしさを堪能した。

第十九回　ミュージカル鑑賞会（平成十二年十一月二日）於成田国際文化会館

本校創立二十周年を記念して、劇団「ふるさときゃらばん」の『噂のファミリー・一億円の花婿』の公演を行った。日本農業や農村の厳しい現実、その中での後継者問題を正面から、しかもコミカルに描いたミュージカル。午前・午後の二回公演で、全校の生徒諸君と保護者の皆様、同窓会、後援会や市の関係者の皆様に深い感銘を持って鑑賞していただいた。

心身ともに、人生の中で最も大切な成長期にある高校生諸君にとって、現代はきわめて厳しい環境にあるといえる。あふれるほどの情報と「物」に囲まれて、精神的な拠り所と方向性を見失う若者も少なくない。その意味で、平成三年度に実施できないことがあったが、開校二年目から続けてきた芸術鑑賞会が、すばらしい芸術・文化を生徒諸君に提供し続けてきた意義は計り知れない。

二〇年に及ぶ芸術鑑賞会の足跡を振り返った時、前述したように、本校が三〇学級の規模になった時に、一三〇〇名を超える生徒諸君が一堂に会して鑑賞できる会場が無く、平成二年度末から同三年度にかけて「中止」を含めて、芸術鑑賞会のあり方について検討を重ねた。最善策とはいえなかったとは思うが、その打開策が一年生の林間学校と組み合わせ、二・三年生を対象に実施するという方策であった。この方策も林間学校が中止されることになり、芸術鑑賞会が宙に浮きかけたが、平成八年度からは一年生の遠足行事と組み合わせることでどうにか中止を免れてきた。一年生の遠足行事と組み合わせるために、芸術鑑賞会も年度の早い時期に実施せざるを得ないという問題を抱えている。また、平成八年度からは成田国際文化会館を会場として利用してきたが、芸術鑑賞会の会場としてはどこが適当なのか。いずれにしても、本校の生徒数との関係で考えていかなければならない事柄であろう。

（文責　手島和史）

読書感想文・画コンクール

読書感想文コンクール

本校では開校以来、国語科を中心にして「読書感想文コンクール」を実施してきたが、図書部が独立してまもなく、コンクールは国語科と図書部の共催で取り組まれている。昭和六十二年度からは、「読書感想画コンクール」も実施してきたが、それは、昭和六十一年度の「読書感想画千葉県コンクール」に、当時二年生であった五十嵐扶由子さんや一年生であった加瀬大介君ら四名の生徒諸君が、個人的に応募したところ、五十嵐さんが優秀賞に、加瀬君が優良賞を獲得し、さらに関東地区コンクールでも加瀬君が優秀賞、五十嵐さんが優良賞を得たことが契機となった。翌年度からは学校としても「読書感想画コンクール」への取り組みを行うことにしたのである。「読書感想文コンクール」とともに「読書感想画コンクール」が行われるようになってから、夏休みの課題として全生徒に感想文か感想画のいずれかを選択して提出させることにした。

「読書感想文コンクール」の選考方法は、夏休み明けに提出された作品を、まずホームルーム担任が優秀な作品を五・六編選出し（第一次審査）、国語科と図書部で構成する学年審査委員会で第二次選考を行い、各学年ごとに一〇編程度の作品を最終の第三次選考会議に推薦する。最

終選考会議は、各学年の審査委員全員で構成し、校内コンクールとしての最優秀作品一点、優秀作品三点、優良作品六点程度、佳作一〇点程度を決定し、校内表彰を行うとともに、千葉県コンクールの三分野（第Ⅰ類・第Ⅱ類・第Ⅲ類）に一編ずつ推薦する。最近では、平成九年度の千葉県コンクールにおいて、一年生の井上正俊君の「『ヴァン・ゴッホの生涯』を読んで」が第Ⅱ類優秀賞を獲得したが、なかなか思うような成果を上げられないでいる。その要因の一つとして、最近の「本離れ」「読書離れ」といった状況や文章を書くことを厭う風潮に対して、本校の図書館活動が十分に立ち向かえていないということは否めない。

ここ数年来の生徒諸君の取り組み状況を見ていて思うことの一つは、本の選び方の偏りと狭さである。ベストセラーとなった話題の本か、現在の中・高校生に人気のある作家の本か、古典的な評価を受けている作品でも教科書などに取り上げられるような作品などに限られている。高校時代は、豊かな感性が輝き、思考力も深められ、精神的にもあくなき飛躍の可能性を秘めている時期である。この時期の読書は、人間形成にとって、自らの人生の一歩を踏み出すための力を蓄え、変化に満ちた多様な人生に備える準備として、他のいかなる時期の読書にも勝るものである。もっと意欲的に、もっと積極的に、自分の心の世界、精神生活を大きく広げてみて欲しいと思う。高校時代は、体も心も育ち盛り。精神的な「背伸び」、限りない挑戦が許され、求められる時期である。生徒諸君の「本の世界」「読書の世界」をもっと広げてみて欲しいと切に念願している。

平成九・十・十一年度の三年間にわたって、図書部と図書委員会が協力して本校の生徒諸君の読書調査を実施した。その結果は、本校の場合も「読書離れ」「本離れ」の状況がかなり深刻であることを示した。マンガや雑誌を除いてしまうと、「本をよく読む」「どちらかといえばよく読む」の回答が、平成九年度で二五・一％、同十年度で二七・〇％、同十一年度で二七・一％と、極端に低い数値となっている。それに対して、マンガや雑誌に対する回答状況を見てみると、マンガでは、「よく読む」「どちらかといえばよく読む」の回答が、平成九年度で七五・三％、同十年度で七八・三％、同十一年度で七六・八％であり、雑誌では、「よく読む」「どちらかといえばよく読む」の回答が、平成九年度で七〇・四％、同十年度で七〇・一％、同十一年度で六七・八％と、きわめて高い数値となっている。ところが、マンガ・雑誌以外の読書の目的や意義については、「自分の考えの幅を広げ、思考力を養う」が一番多く（三八・二％）、「知識や情報を得る」（三二・四％）・「感性や心を養う」（三〇・二％）と続き、「人間形成にとって重要」も一〇・七％の回答があった。そして、マンガ・雑誌は、「流行やファッションの情報を得る」、「知識や情報を得る」が四五％前後の数字を示し、「ひまな時間の活用」が三〇％余り、「楽しい（おもしろい）ひとときを過ごせる」が二〇％余りであった。生徒諸君は、読書の持つ本質的な意義を十分に承知しているのではないかと思われてくる。この生徒諸君の「本」や「読書」への思いを、生徒諸君の生活、人生を支える精神的な基盤として意識化できない要因は何であろうか。

また、生徒諸君の読書感想文の文章の稚拙さも年毎に進んでいるように思われる。これは、読書生活の貧しさやその努力不足と深く関わっているだけでなく、日常的にも「書く」習慣が大幅に減少し、あわせて「話す」ことへのこだわりの後退と無関係ではないであろう。

本校の読書感想文コンクールは、開校以来の本校のあゆみと軌を一にしている。現在の高校生諸君を含む青少年の抱えている課題に迫る一つ

の方策が「本」「読書」の再生・復活にあると思われるのだが、それは言い過ぎであろうか。創立二十周年を機に、改めて読書感想文コンクールの持つ意義と課題を問い直してみる必要があるのではないかと思われるのである。

（文責　山口志津子・手島和史）

読書感想画コンクール

読書感想画コンクールは、校内読書感想画コンクールとして昭和六十二年から始まったものである。その前年、関東地区の第一回読書感想画コンクールが開催され、本校より四名の生徒が千葉県コンクールへ応募し、更に前項で記述されているように関東地区コンクールに応募し、高等学校の部で優秀賞、優良賞を受賞したことが契機となっている。当時の校内読書感想画コンクールでは、応募点数が六〇点前後であったが、現在では二〇〇点前後となっている。それでも全校生徒の一六％余りにすぎない。平成元年度には、関東地区読書感想画コンクールは廃止され、全国規模の読書感想画中央コンクールが始まった。

そして、平成二年度読書感想画中央コンクール高等学校の部で岡由美子（三年）さんの作品「悲しみの大陸」が最優秀賞を受賞した。また、指導にあたった斎藤（旧姓富山）教諭は、平成二年八月、島根県松江市で行われた全国学校図書館研究大会の講師として感想画の指導について研究発表をした。そうした指導の成果が今日まで浸透し、千葉県大会や中央大会において毎年優秀な成績を修めており、感想画の北高と言われるようになった。

「読書感想画コンクール」の選考方法は、感想文と同じく夏休みに出された課題の内、感想画を選択した作品を対象に、まず校内審査を行う。審査は、芸術科職員四名と図書部関係職員三名、計七名で構成し、最優秀賞作品一点、優秀賞作品三点、優良賞作品六点、佳作一〇点程度を選考し、校内表彰を行う。そして、その作品を読書感想画千葉県コンクールに送り、そこで各部（高等学校の部）上位入賞作品四点が、千葉県代表として読書感想画中央コンクールに送られ、審査される。

提出作品の内容を見てみると本の説明画になったり、既成観念で、その場の情景だけを表現している場合が多く見受けられる。本を読んで感じた事を、唯そのまま表現するのではなく、そこから一歩進んで、感じた事を自分の感性を通じて理解し、更に内容を膨らませて独自のイメージの世界を創り出し、それを絵画的な構成によって表現する事を試みるような、そんな可能性を期待させるような作品が、受賞作品だけでなく多くの作品に出てくると、良いと思っている。

できるだけ良い本をできるだけ多く読むことによって、創造性も又、大きく膨らむのではないかと思います。感想画のための感想画ではなく、一枚の絵としての感想画を望んでいます。

（文責　湯浅　仁）

「現代学生百人一首」入選作

『サラダ記念日』刊行の一九八七年、東洋大学主催「現代学生百人一首」の募集が始まった。北高生も国語表現の一貫として歌を詠み、毎年応募してきた。時は流れ、作者達もそれなりの年を重ねているだろうが、歌の思いは永遠の命を保っている。次に入選作を掲げる。

○気がつくと君の姿をさがしてる笑顔が似合う君がまぶしい

三年　糸賀　光代　（一九八八年入選）

○あの頃の思い出だけがあったかいたった一人のクリスマスイブ

三年　清宮　敦子　（同）

○いつからか増え始めてた幾つもの君の知らない時間の私

三年　芝山　由貴子　（同）

○一人飲むイチゴフロートその中に数えきれない思い出溶かす

三年　大巻　フレーダ　（一九八九年入選）

○あの日からわざと明るく過ごすのは哀しみおさえるわたしの手段

一年　村上　陽子　（同）

○小野川の川面にうつる提灯の揺れる灯りが心なごます

三年　宮本　国博　（同）

○タンポポに失恋話してみても黄色頭はうなずくばかり

一年　新田　俊広　（一九九〇年入選）

○漆黒の空に満月ひんやりと真冬の空気きんと張りつめ

一年　矢吹　ゆかり　（同）

○向きあいて無言の二人砂浜に線香花火ぽとりと落ちる

三年　沢田　加代子　（同）

○砂時計ひっくり返して三分間逆立ちして見る不思議な世界

二年　石井　充衛　（一九九一年入選）

○道端のかやつりぐさが揺れている夏が忘れた線香花火

二年　矢吹　ゆかり　（同）

○教室でノートに書き取る中也の詩彼も見たのか秋の青空

一年　高橋　昭憲　（同）

この年、応募への熱意・継続性・質の高さで、北高は学校賞を受賞した。

○学校の窓から見える屋根屋根が寄せくる波に見えた夏の日

一年　三輪　智子　（一九九四年入選）

○熟るる実は風にゆられてさながらに落ちんばかりぞ庭の柿の木

一年　平山　裕美　（同）

○この秋は我が家の裏山分け入って父とふたりで山芋を掘る

三年　齋藤　隆文　（一九九六年入選）

一時はＮＨＫの取材を受け、テレビでも紹介された本校であるが、全校的取組みから担当者の任意応募となったこと、また全国各地からの応募総数が当初の二五倍（六万首）になったことなどで、入選することが難しくなってきている。㈱九二・九三年資料なし

（文責　榊原通子）

成田北高等学校開放講座

成田市内四校の、高等学校の学校開放を目的に、成田市民及び近隣の方々を対象に開かれた開放講座は、昨年度より高校だけでなく専門学校でも始められたということであるが、本校においては昭和五十九年に開始されている。今までの流れを追ってみると次のようになる。

年度	講座数	回数	時間	内容	担当者
昭和五十九	一	一〇	三〇	「書道」	津本　英昭
〃六十	一	一〇	三〇	「書道」	〃
〃六十一	一	一五	三〇	「自然観察―植物生態学―」	大里　晃之
〃六十二	一	一五	三〇	〃	〃
〃六十三	一	一〇	三〇	「書道」	津本　英昭
平成元	一	一〇	三〇	「初心者のための書道入門」	山内　美和

平成二	一	一〇	三〇	「初心者のための書道入門」	山内　美和
〃三	一	一〇	三〇	〃	〃
〃四	一	一〇	三〇	〃	〃
〃五	二	五	一五	「日本の歴史と成田」	手島　和史
		五	一五	「初心者のための書道入門」	山内　美和
〃六	二	五	一五	「日本の歴史と成田」	手島　和史
		五	一五	「初心者のための書道入門」	山内　美和
〃七	二	五	一五	「日本の歴史と成田」	手島　和史
		五	一五	「初心者のための書道入門」	山内　美和
〃八	二	五	一五	「成田の歴史と日本」	手島　和史
		五	一五	「初心者のための書道入門」	山内　美和
〃九	二	五	一五	「成田の歴史と日本」	手島　和史
		五	一五	「初心者のための書道入門」	山内　美和
平成十	二	五	一五	「成田の歴史と日本」	手島　和史
		五	一五	「初心者のための書道入門」	山内　美和
〃十一	二	五	一五	「成田と日本の歴史を学ぶ」	手島　和史
		五	一五	「初心者のための書道入門 —仮名—」	山内　美和
〃十二	二	五	一五	「初めての籐工芸・基礎基本 —生活に役立つ籐かごの制作—」	密本ゆかり
		五	一五	「超初心者のための書道入門 —基礎基本と実用書—」	山内　美和

初めて開放講座を担当された書道の津本英昭先生は、若輩の自分が一般の方を教えると思うととても緊張したことを思い出すと話されていた。又、昭和六十一、二年と自然観察—植物生態学—を担当された理科の大里晃之先生は、初めの年は養老渓谷に、次の年は筑波山へと受講者の希望も取り入れ自然と直接触れ合いながら共に学ばれた御様子、とても充実した講座であったようだ。平成元年から平成四年までは書道初心者を対象に山内が担当した。一学期末から二学期初めにかけての猛暑の中であったが、受講生の熱心さに後押しされながら勤めさせていただいた。熱心な受講生は講座終了後、平成二年からサークルを結成（蘭書会と命名）、月一回の活動を続け現在に至っている。平成十年には山内の書道講座担当十周年を記念し黎明祭の折に記念書道展を開催、活動の成果を見せていた。初心者であった人達の中から凌雲会師範になった者、讀賣書法展入選者が出たことを担当者として大変喜ばしく思っている。平成五年からは二講座を開講。書道の外、社会科手島和史先生が「成田と日本の歴史を学ぶ」をテーマに開講、厖大な資料を準備して熱心に講義をして下さり、開講以来、毎年受講される根強い手島ファンを集められている。その手島和史先生も平成十二年三月で御退職、十二年度は工芸科の密本ゆかり先生と共に三十時間を担当した。

成田市教育長、市役所社会教育課の先生方、代々の学校長、教頭先生、事務室の先生方、そして受講生、多くの方々に支えられて何とか役目を果すことが出来ました。改めて誌上をお借りしお礼申し上げます。

（文責　山内美和）

交換留学・国際理解教育活動

日豪交流派遣

本校は平成七年度にワガワガ高校と姉妹校提携を結び、平成八年度から三週間の短期交流派遣、平成九年度からは一年間の長期交流派遣が始まりました。詳しい経緯については「国際理解教育推進委員会の沿革」の頁を参照していただくことにして、ここでは交流派遣の様子を参加生徒の感想等を基に紹介します。感想は主に報告集「オーストラリア研修記」からの抜粋です。また、ワガワガ高校のドミニク・クックさん、ステファニー・レオナルドさんには、この二十周年誌のために特別に文を寄せていただきました。

このプログラムは多くの方の熱意と御尽力で年々充実したものになってきました。今後も末永く継続発展し、益々多くの生徒、御家庭と職員ひいては地域の方々の交流、相互理解、自己啓発の場となるよう祈っています。

（文責　戸村玲子）

短期交流派遣生徒

平成8年度　14名 7．24～8．12	平成9年度　9名 7．23～8．12	平成10年度　8名 7．22～8．11	平成11年度　11名 7．21～8．10	平成12年度　15名 7．17～8．6
引率・花香武男（英語）	引率・仲田恵一（数学）	引率・金子佐知子（英語）	引率・戸村玲子（英語）	引率・花香武男（英語） 金子佐知子（英語）
2A　高安由香	2C　鈴木陽子	2G　福地華恵	2A　松崎　穣	2A　小森麻美
2A　綿貫香苗	2E　小川智子	2J　長谷部友子	2C　金子南菜子	2E　諏訪ちえみ
2B　松島綾子	2F　矢部景子	1E　蛭田倫永	2C　紀川精子	2F　西亜希子
2D　渡邉佳子	2F　宮内美穂	1F　田中良子	2E　大木悟史	2H　新　友美
2E　及川泰宏	2G　小貫恵美子	1C　渡邊裕輝代	2F　林田厚志	2H　飯澤香菜子
2E　落合雄一郎	2F　山田友紀	1B　増井久美子	2G　遠藤美穂	1A　伊藤優樹
2E　根本多香美	2I　山老絵理奈	1I　土屋紀子	2I　高岡雅美	1C　片野亜矢子
2F　紀川明美	1A　野平茉莉子	1J　神山直恵	1B　深田　舞	1C　五喜田絵里
2F　佐保田貴子	1F　濱口　愛		1F　志鎌美香	1C　中野千里
2F　高野千春			1F　丸岡美花子	1F　進　千裕
2G　山口典子			1J　村田裕美	1G　飯野沙織
2I　新盛千晴				1G　今野貴絵
2J　石綿　明				1I　岩谷幸恵
2J　宮村久美子				1I　根本沙保利
				1J　寺門由美子

短期交流受入生徒

平成8年度　7名 1996．11．16(土)～12．4(水)		平成10年度　5名 1998．6．20(土)～7．12(日)		平成12年度　9名 2000．11．12(日)～12．1(金)
Mr. Lindsay Morton (Tour Leader) Mrs. Jennifer Morton		Mr. Lindsay Morton (T.L.) Mrs. Carolyn Chapman		Mrs. Christena Halliwell (T.L.)
Kathy Hibbard	16	Stephanie Leonard	15	Renee Antill
Meredith Hoy	14	Chantal Richardson	15	CaitlinTunstall
Stephanie Leonard	14	Louise Wilson	15	Natalie Smith
Renee Mark	13	Fionna Massey	14	Penny White
Kate Sharkey	15	Hendrika Hatfield	14	Loren Smith
Melinda Steel	19			Fiona White
(of Charles Stuart University)				Sarah Smith
Yvette Terry	17			Melissa Morris

長期交換留学生徒

派遣	受入
平成10年度　野平　茉莉子　1998．3～1999．2	平成11年度　Dominique Cook　1999．3～1999．12
平成12年度　志鎌　美香　2000．3～2001．2	

ありがとう成北

第一回長期交換留学生　ドミニク・クック

ドムはワガワガ高校で五年間日本語を学んだこと、本校からの短期派遣生徒のホストファミリーとなったことなどから留学を志したそうです。留学期間中、日本語の上達ぶりはもちろん、日本語での生物や地理等の授業も大変よく理解し私達を感心させました。文化祭「未成年の主張」ではマイク無しで全校生徒に熱いメッセージを叫んだり、印旛地区の高校生のセミナーではオーストラリアについて紹介したり、市内の書道展に出品したり、様々なことに積極的にチャレンジしました。現在は王立キャンベラ大学アジア文化学科の学生です。

尚、この原稿は帰国前に日本語で寄せて下さいました。漢字遣いは原文のままです。

成田北高校の皆さん、二十周年おめでとうございます。

日本に来て成田北高等学校の生とになってうれしかったです。一年間はとても早かったと思います。日本のおもいでがいっぱいあります。学校の最しょの日、ちょっとどきどきしました。学校はとても大きいと思いました。そして日本語あんまり話せませんでした。でも生とたちはとてもしんせつでした。私は皆さんにたすけてもらいました。ありがとうございました。

学校のげいじゅつかんしょうや文化さいはおもしろかったです。文化さいでいろいろな店やたいこ、バンド見ました。とても良かったです。だれでもすごいがんばれました。スポーツさいもたのしかったです。皆さんとたのしくいろいろなスポーツができて良かったです。

私は日本の文化もいっぱいおしえてもらいました。京都とか富士山とか箱根の温泉とか上高地につれていってもらいました。日本の山が大好きです。けしきを見るのも好きです。のうやかぶきも見に行きました。日本のかぶきはすごいと思います。私は大好きです。ぼうそうの村、成田山お祭り、お茶会も良かったです。ホストファミリーの皆さんありがとうございました。

また、わかい人たちの文化もおしえてもらいました。日本人のわかい人たちは、とてもたのしくて元気です。日本のえいがＪＰＯＰが好きです。皆さんこの一年ありがとうございました。一年Ａ組と二年Ｃ組の皆さんありがとうございました。皆さんはとてもやさしいです。そして皆さんのゆうじょうにかんしゃします。毎日たのしくておもしろかった。先生たちはいっぱい日本語をおしえてくれました。ありがとうございます。

私は二月からオーストラリアで大学に入ります。大学で日本語をべんきょうしつづけます。日本語でがんばれます。もう一回日本に来たいです。この一年どうもありがとうございました。

Dear Narita Kita High School

Stephanie Leonard

＊ステファニーさんは第１回、第２回の短期交流派遣団に加わって本校を訪れました。
また、ご家庭はこの交流プログラム開始当初より毎年、本校の短期、長期派遣生を受け入れて下さっています。

I have had the pleasure of coming to Japan twice through the Wagga Wagga High School–Narita Kita High School exchange programs. The first time was in year 8 in 1996 and again in year 10 in 1998, both times I was extremely impressed and eager to return.

First of all I would like to congratulate Narita Kita High School on its 20th anniversary and I hope that you enjoy your celebrations.

I think the exchange program between Wagga High and Narita Kita has been a great way of learning and interacting with each others customs and culture. Through these exchange programs many have made valuable friendships that will definitely last a lifetime. The friendliness and generosity of all the Japanese people involved——Host Families, Teachers, Students and PTA officers was incredible, we were all made to feel so welcome that it was as if we were at home.

The very first exchange trip to Japan consisted of Mr. L. Morton, Mrs. J. Morton, Yvette Terrey, Kate Sharkey, Kathey Hibbard, Meredith Hoy, Renee Mark, Stephanie Leonard and Melinda Steel (from Charles Stuart University). While the second exchange consisted of Mr. L. Morton, Mrs. C. Chapman, Chantal Richardson, Danielle Wilson, Louise Wilson, Stephanie Leonard, Finonna Massey and Hendrika Hatfield. It was exciting for everyone involved as it was the first time some of our students had travelled overseas.

During our trips to Hiroshima, Kyoto and Tokyo we were very impressed by the beautiful countryside, the history, the culture and the temples. Australia is such a new country that we don't have such history. The Japanese children were always good fun wherever we went and we were always made to feel very welcome by the Japanese people while travelling.

I found that although our cultures are very different, when it comes to everyday things we are not that different. Australian students and Japanese students enjoy the same activities——listening to music, going to the movies, buying clothes, playing sport and so on. We speak a different language yet we are the same.

We all loved lunchtime at Narita Kita High School, the exchanging of lunches and particularly the diverse range of vending machines.

We all look forward to Narita Kita students coming to Wagga each year and we wish that it was for a longer period of time. I also enjoy practicing my Japanese with the students because they are always very helpful. I was surprised at how good their English was, they must study very hard before they come and this obviously pays off. My parents really enjoy having the students stay with us, they say the Japanese students are always very polite and good fun. We love showing them around Wagga and teaching them about our way of life.

I think the exchange program between Wagga High and Narita Kita is a great opportunity for teachers, students and even parents from these schools to experience a different culture and language. I know the teachers, parents and students at Wagga High look forward to the trips each year. Mr Lindsay Morton and Mrs Christena Halliwell spend many hours planning each year so that students from both countries can enjoy the visits and I'm sure that the teachers and PTA members from Narita are doing so as well.

The Japanese students were always worried that their houses/homes were very small compared to Australian houses, however we did not think so. The majority of houses in Japan appeared to be two storey where as in Australia the majority are single storey so the only difference there was style NOT SIZE. Everyone would agree that the shopping in Japan is definitely better than the shopping in Australia, although I'm sure the Japanese students would probably disagree. One particular favorite was the Bon-Belta department store.

I am continuing with my Japanese studies in my final year of high school after which I am hoping to come to Japan for one year so I can become fluent in Japanese, as I would like to use those skills in the future.

All the students at Wagga High who have been to Japan continually speak of the trip as they remember the great times they had at Narita Kita High School and with their Host families.

I hope that the exchange program continues into the future and that more and more students are able to experience a different culture and way of life.

おせわになりました。

受入日程例（平成10年度）

月日(曜)	行　事　予　定
6/20(土)	ANA NH914便　8：45
21(日)	ホストファミリー宅　歓迎会
22(月)	全校集会挨拶 午前　日本語授業 午後　授業参加
23(火)	午前　日本語授業 午後　授業参加
24(水)	東京　ディズニーランド
25(木)	午前　日本語授業 午後　授業参加
26(金)	風土記の丘
27(土)	ホストファミリー宅
28(日)	ワガワガ校生徒見学旅行へ (東京)
29(月)	(日光)
30(火)	(京都)
1(水)	(姫路・広島)
2(木)	(京都)
3(金)	(東京)
4(土)	ホストファミリー宅
5(日)	ホストファミリー宅
6(月)	午前　日本語授業
7(火)	午前　日本語授業 成田祇園祭
8(水)	午前　日本語授業
9(木)	午前　日本語授業
10(金)	放課後　さよならパーティー 午前　日本語授業
11(土)	ホストファミリー宅
12(日)	バスで羽田へ15：45発ANA NH115便で大阪経由シドニーへ

私は1996年、1998年の２度ワガワガ高校と成田北高校の交流プログラムに参加して日本を訪れました。２度とも大変感動し、また来たいと思いました。

成田北高校の創立20周年おめでとうございます。皆さん祝賀行事を楽しんでくださいね。

ワガワガ高校と成田北高校の交流プログラムは、お互いの文化や習慣を学べる素晴らしいものだと思います。このプログラムを通じて、生涯にわたる友情が数多く育まれてきました。私達の日本滞在中はホストファミリー、先生、生徒、PTA役員を初め、すべての方がとても親切に暖かく受け入れてくださり、本当の我が家のようにくつろいで楽しく過ごすことができました。

第１回目の訪問にはモートン先生ご夫妻と生徒７名（氏名は英文及び別表参照）、第２回目はモートン先生、チャップマン先生と生徒５名が参加しました。海外へ行くこと自体が初めての生徒も多く皆とてもワクワクしていました。

広島、京都、東京などの観光では、美しい景観や、歴史、文化、寺院等に感激しました。オーストラリアは日本ほど歴史が古くないのです。どこででも日本の子はかわいらしくて楽しかったし、どこででも私達は温かい歓迎を受けました。

日本とオーストラリアの文化は違います。でも、日々の暮らしぶりなどの面ではそれほど大きく違わないと思いました。高校生は、音楽を聞いたり、映画を見たり、洋服を買ったり、スポーツをしたりと、楽しみ方は同じです。話す言葉は違っても私達は同じなんですね。

成北ではお弁当の時間も楽しみでした。特に皆とお弁当の交換をしたり、自動販売機の種類が豊富で、いろいろな飲み物を試すのが楽しみでした。

私の家では成北の皆さんが来るのを毎年楽しみにしています。３週間ではなくもっといてくれればよいのにと思います。成北の子が来ると私は日本語を練習させて貰っています。皆さんの英語はとても上手でびっくりします。きっと一生懸命勉強しているんでしょうね。両親も成北の皆さんの受入をとても楽しんでいます。日本の高校生はお行儀が良く楽しいと言っています。家族皆、ワガワガを案内して回ったり、こちらの生活様式を紹介するのがとても楽しみになっています。

このプログラムは先生と生徒や家族にとっても異文化、言語に接するまたとない機会です。ワガワガ校の先生、生徒、家族はこの交流を楽しみにしています。モートン先生やハリウェル先生はこの交流が日豪どちらの生徒にとっても楽しいものとなるよう、長い時間をかけて交流プログラムを作っています。成田北でもきっと先生方やPTAの方が同じように苦労されていることでしょう。

成北の子達は、日本の家は狭いからと心配しますが、私は１度もそんな風に思ったことはありません。日本の家は２階建てが普通、オーストラリアは平屋建てというだけで、大きさではなくスタイルが違うだけ。買い物をするのも日本の方が良いと思います。日本の子達はそうは思わないかも知れませんが。ボンベルタは気に入りました。

私は今年高校生活最後の年を迎えますが、日本語を続けて勉強して行くつもりです。卒業したら、日本に１年留学したいです。日本語が上手になり、将来に生かせるとよいと思っています。

私と共に日本に来た友達は皆、今でも成北やステイ先での楽しい思い出を口にします。

この交流プログラムがいつまでも続き、より一層多くの生徒が異文化や生活様式を体験できることを願っています。

ワガワガでの一年間

第一回長期交換留学生　野平茉利子

覚悟はしていたものの、英語圏での生活は、予想以上に厳しかった。最初の二ヶ月は、生活に慣れるのが精一杯で、授業の内容を理解するどころか友人の輪に入っていく勇気さえ持てず、英会話力の乏しさにくじけそうな毎日だった。日本にいる時は、大好きな英語だった。机の上での勉強は、常にベストを尽くしてきたつもりだった。現在完了、比較、関係代名詞…頭の中には、学んだ文型がたくさん入っている。しかし、いざとなると、次から次へと流れるように出てこないのである。オージーイングリッシュと言われる特有の発音に加えて、スピードもあり、聞き取れない、意味を理解し、やっと答えようとすると、矢継ぎ早に、質問が飛んでくる。

正直言って、あせった。与えられた、たった一年のこのチャンスに、どれだけ英会話力をつけられるか…。私にとって、今回の留学は、大きな賭けのつもりだった。なのに、友達も出来ず、つらい日々だった。そんな時思い出すのは、どんな時にも私の意志を尊重し、応援してくれた、あたたかい家族。体にだけは気をつけろと、気持ちよく送り出してくれた家族だった。一日足りとも無駄には出来ない!!心の底から、そう思った。この留学のために、ご苦労いただいた諸先生方、そして、あとに続く後輩のためにも、一日一日を一生懸命生きよう、この一年という時を、とにかく大切にしようと心に決めた。まず、一日も休むことなく登校し、たくさんの友達を作ることからはじめようと自分に言い聞かせた。どんなにささいな事でも、日々の生活の全てを、貴重な人生経験と受けとめようと考えた。サッカー、ネットボール、バスケット…と、スポーツにも参加した。気がつくと、たくさんの友達が出来ていた。学校生活も楽しくて仕方がない。二日の休みを終え、週明けに登校するのが待ちどおしかった。そして、気負わずにマイペースでやってみようと思うようになって二、三ヶ月。気がつくと、そこには会話に困らなくなっている自分がいた。学校生活、たくさんの友人、四軒のホストファミリー。どれも、生涯の思い出である。

ワガワガの高校生の生活は、日本の高校生に比べると、楽で良さそうに見えるかもしれない。一六歳になれば車の免許も取れ、学期間の休みも多い。堅苦しい制服もなく、ファッションなどにも、細かな規制はない。卒業式後のパーティーといえば、ドレスアップした女生徒が、BFにエスコートされる…。まるで華やかな社交界デビューのようである。しかし、一般的に生活は質素であり、皆アルバイトをしてコツコツと貯金をする。そして、何よりも家族との時間を大切にすることを知った。

また、Yr.10（高校一年）を終了すると、学校をやめて働く子も少なくない。向こうでは、Yr.10が一つの区切りになっていて、大学進学を希望しない者は、学校の勉強はここまでで良いと判断し、働くのだという。学ぶ意志がない者が、親に学費を出させて遊んでいるなどということはあり得ないという、厳しい現実があった。

自分の人生をしっかりと見つめ、自分で選択し、歩んでいく。そういう生き方が、私も身に沁みて勉強になった。

今回の留学に際し、深い御理解をいただいた、両校の諸先生方に、心より御礼申しあげたい。本当に、素晴らしい一年だった。よく勉強し、よく遊んだ。帰国後は、いよいよ自分の大きな夢のために、いろいろな事に挑戦していこうと思う。

（北星より抜粋）

ホームステイを体験して

平成八年度短期交流派遣生徒　渡辺佳子

三週間のホームステイは素晴らしかった。言葉にするのは難しいが私がどんな体験をしたか、ここで紹介しようと思う。

ワガワガへ着くまで、私はとても不安だった。自分の話したいことが相手に伝わるだろうか、周りの人々とは仲良くなれるだろうかと。でも実際、オーストラリアで過ごし始めればそんな心配はいらなかった。行ってみれば気持ちの面では日本人と少しも変わらないし、みんな親切で思いやりのある人ばかりだった。でも、それまで学習していた英語は大いに役に立った。もっといろいろな単語を知っていれば、とつくづく思った。初めの頃は聞きとれないことが多かったけれど、少しづつ聞きとれるようになっていたように思う。私は話すことよりも聞きとる方が苦手なことがわかった。話す時、少し難しいことを聞きたい時は、少しの間、頭の中で作文して話しかけた。相手からの質問でも、少しの間、考える時間を与えられれば話しかけられた文を訳して、正しい応答を返せるのだけれども、そうはいかないので後で思い返してみて、こう言えば良かった、と思うことが何度もあった。私はもっと長くオーストラリアへ滞在したかった。英語を修得するには三週間じゃ短すぎる。耳慣れ程度だ。でも英語以外でオーストラリアに学んだことは多かった。まず、人々は自分の意志をしっかり持っている。小さな子供でも、自分の将来について熱く語る。私達は一五歳の一人の少女と仲良くなった。彼女は見た目は私達と同じか歳上に見える。とても口が悪くてみんなを困らせていた。彼女は日本人の十代と同じように遊ぶのが大好きだ。それでも将来をすでに決めて、休日は軍事学校へ通い、そこのチームリーダーでもある。その彼女がある日、学校へ軍事学校のユニフォームを持ってきて、新しいワッペンを丁寧に縫いつけて大切に扱っていたところを見た時、とても心をうたれて、将来について真剣に考えていない自分が恥ずかしくなった。私の見た限りでは、みんな学習を大切にしていた。特にステイ先の一つ年上の少女はとても勉強家で、彼女もまた、学習について、将来について熱く語った。私は学生である間に勉強しないのはもったいないと思った。

そしてもう一つ、こうありたいと思ったことは、どの家庭も家族の一人一人を愛していることだ。日本でもそれは変わらないことだと思うけれども、オーストラリア人は日本人に比べて、より家族への関心が高い。何より家族が優先だ。例えば、家族だからといって〝sorry〟〝thank you〟はかかさない。挨拶はもちろん、学校へ行く時は〝よい一日を〟帰れば〝今日はどうだった？〟これを毎日かかさない。眠る前と出掛ける時にキスをかかさない。そして家族でもそうでなくても相手の好意には笑顔で、必ずお礼を言う。社交辞令は全くない。私はオーストラリア人が好きだ。明るく温かく、さばさばしている。言いたいことをはっきり言う。しかし人の気持ちをよく考えている。私は本当にオーストラリアに住みたくなった。大好きな友人や家族を、オーストラリアへ連れて行きたいと思った。そして彼らとそこで過ごせば、私の言いたいことがわかってもら

えると思う。行かなければ私も一生わからなかっただろう。本当に良い体験をしたと思う。ホームステイさせてくれた両親に心からお礼を言いたいと思う。そして近いうちにまた、オーストラリアで暮らそうと決めた。必ず戻りたい場所だ。

僕らの勇気

平成九年度短期交流派遣生　小川智子

オーストラリアでのホームステイ。本当に行くとなると期待より不安の方が多かった。シドニーからの電車の中、ワガワガに近づくに連れて、だんだん緊張してきて何かしていないと落ちつけなかった。

初めて会った髪のきれいな女の子と彼女のお母さん。その時その瞬間までは全くの他人だったのに。

ホームステイ一日目は、〝何をしたらいいのか。何を話したらいいのか。〟そんなことばかり考えていた。でもいつからだろう。そんな不安が消え、自然と自分から話しかけていた。

真っ暗の中出かけたサイクリング、いっしょに作ったアップルパイ、二人でつまい食いしたチョコケーキ、二人でいっしょの部屋、日本料理を作ったあの日、貸してくれたコート、初めてのブーメラン、多くの動物に囲まれた毎日、初めて見たコアラとカンガルー、大人気のバーベキューパーティー、学校で仲良くなった友達、気軽に声をかけてくれたワガハイのみんな、いつも笑顔のラブ先生、いつでも私達の力になってくれたモートン先生。まだまだたくさんの思い出ができた。バースデイパーティーに呼んでくれたこと、みんなでやったトランポリン、花火。どこまでも続く広い空、今まで見たこともないような天の川、ハネリカファームの乗馬やみんなで熱い熱いといいながら焼いた変ったパン、ファイヤーステイションでの出動ハプニング、市長さんに会いに行ってTVに出てしまったこと、パブリックスクールで学校の案内をしてくれたかわいい三人の女の子、キャンベラの国会議事堂の正面にあった木ぼりのカンガルー、そしてKEEP・FOREVERの約束をかわしたシルバーのネックレス。一つ一つに言葉では簡単に表わせない深い思い出ができた。次から次へと書ききれないほどあふれてくる。

別れの瞬間が来た時、今まで我慢していた涙がこぼれてしまった。Motherが優しく頭をなでてくれた。涙はなかなか止まらなかった。私は、海の向こうにもう一つの家族ができたような気がする。夜遅くまでいろいろ話し、たくさんの写真をみせてくれたFather。いつも心配してくれた優しいMother。おもしろいビデオやきれいな鳥を教えてくれたマイケル。いつもいっしょで姉妹みたいになれたアンジェラ。いつも元気をくれた犬のモンティー、スヌーピー、エマ、トニー。猫のマロウ。本当にありがとう。

思い出は言葉だけでは語ることはできない。実際に自分が経験しなければわからないことは数多くあると思った。待っていないでチャレンジすることがとても大切だと実感することができた。たくさんの人との出会いのなかで、気づかない間に何か本当に大切なものを見つけだすことが、少しでもできたと思う。そしてこれからも広い視野を持ち続けたい。そしてまた、いつかみん

なに会いたい。勇気をだしてオーストラリアで一人でホームステイをして本当に良かったと思う。一つの勇気が、たくさんの出会いを呼んでくれた。思い出だけじゃ終らない。そんな経験ができた。

ホームステイを終えて感じること

平成十年度短期交流派遣生　田中良子

私は入学する前からこの交流プログラムを知っていた。行きたいけれど親は行かせてくれないだろうと思っていた。だが、一言「行ってみたい」と言ったら両親共にあっさり賛成してくれたので驚いた。痛い出費になるはずなのに。両親にはとても感謝している。

出発当日。ワクワクドキドキして飛び立った。シドニーで一泊して次ぎの日やっとホストファミリーと対面である。あんなに会いたかったはずなのに、どこかに会いたくないとの変な気持ちもわいてくる。対面の時は緊張していたことしか思い出せない。挨拶もできていたのかどうか。

ホームステイが始まった。私が心がけたのは、時間を守ること、自分の意見はきちんと伝えることの二つである。だからイエス、ノー、ソーリー、サンキューの四つの単語はとてもよく使った。何か聞かれる度、してもらう度、やってしまった度ごとに、はっきり、相手の目を見ながら言うようにした。

なんだかんだいって結構過ごせるものである。私がよく話したのはホストシスターとマザーだ。本当に日本に興味があったらしく、日本や成田についていろいろ聞かれた。持っていって一番喜ばれたのは、日本の土産はもちろん、防寒具として持っていった使い捨てカイロだった。日本のものは何でもいいから見せてみると面白がられる。私は広告や英語で書かれた街のパンフレットを持っていったが話の種になり役だった。

しかし、英語で話すには無理がある。どうしても通じなかったり、一度通じたはずの単語が次に使ったとき通じなかったりもした。きちんと発音している筈でも、やはり英語の発音は難しい。私は対策として、どうしても聞き取れないときは書いてもらい、それでも解らないときは私の英和辞典を貸して辞書をひいてもらった。

帰国前日、ホストファミリーがさよならパーティーをしてくれた。沢山のプレゼントをもらい、楽しい会話で盛り上がり本当に嬉しかった。寝る前にプレゼントと、一緒に入っていた手紙を開けてみた。英文の脇に「さようなら」と平仮名で書いてあった。本当に本当に嬉しかった。私のためにと思い、涙が出てきてしまった。

いよいよお別れの日、案の定わんわん泣いた。ホストマザーがずっと私を抱いてくれた。ホストシスターやブラザーが笑顔でありながら一緒に泣いてくれた。人の温かさに触れたときだった。

楽しくいろいろあった三週間。長いようで短かった。その中には私だけが味わった沢山の思い出が詰まっている。今回行って本当に良かった。費用はかかるけれど、是非もっと沢山の人に同じ経験をして欲しいと思う。私は将来、何になるかわからないけれど、この経験はきっと役立つだろう。いや、役立たせていきたいと思う。

派遣日程例（平成11年度）

月日(曜)	行　事　予　定
7/21(水)	20：15発ケアンズ経由シドニーへ
22(木)	8：40シドニー着　終日シドニー市内観光 ボンダイビーチ/ダドリーページ/ギャップパーク オペラハウス/ミセスマコリーズポイント/ロック
23(金)	列車でワガワガへ
24(土)	ホストファミリー宅
25(日)	ウエルカムバーベキュー　動植物園散策
26(月)	午前　英会話　午後　授業参加
27(火)	午前　英会話　午後　授業参加 歓迎式典
28(水)	午前　英会話　午後　ショッピングセンター見学
29(木)	首都キャンベラへバス旅行
30(金)	午前　英会話 午後　ハネリカファーム
31(土)	午前　ハネリカファーム 午後　ホストファミリー宅
8/1(日)	ホストファミリー宅
2(月)	午前　英会話 午後　TAFE見学
3(火)	午前　英会話　午後　授業参加
4(水)	午前　英会話　午後　大学見学
5(木)	午前　英会話　午後　スポーツ送別式典
6(金)	午前　英会話 午後　パーティー準備 夕方　サヨナラパーティー
7(土)	ホストファミリー宅
8(日)	昼、列車でシドニーへ
9(月)	ブルーマウンテン観光　市内観光 22：15発　空路成田へ
10(火)	6：40到着

HOMESTAY

平成11年度短期交流派遣生徒　2A　松崎　穣

Now, looking back, I think this trip meant a great lot to me.

While I was with my host family for three weeks, I didn't feel anyting too special, but now I miss them very much. Why? I cannot know what they thought about me, but they were always nice and kind. I felt something warm toward them. I believe there is something between my host family and me now.

I think I'm really a lucky boy because I could go to a new world I'd never known before, and I could meet a lot of people from different cultural background. I want to understand their culture more some day.

During this three week trip I had many new experiences. Some of them were happy, some were frustrating. I was happy when we went driving, played sports and watched stars. When I went to "The Rock" with my host family and Mr. Roger's family, I felt I could understand where their big hearts come from. Their hearts are like the great land of Australia. Australia is very big and flat with a lot of beautiful nature. We can always feel it. Australia is a really wonderful country. I love Australia and my host family. This time I couldn't do much things with and for them. I was frustrated because my English was not good enough to express my mind. I wanted to speak more.

I keep writing letters to my host family. My family was Wright family. Dad and Mom cared me very much, and David helped me on all occasions. I want to do something for them. I also want to know much more about Australia.

Besides my family, I met more and more wonderful people ……Amanda, people on Hanericka farm, Ms. Halliwell, Mr. Wood, a PE teacher and many friends. Eating, talking, laughing and playing with friends were a real fun. I think meeting people was a special present for me. I will go there again some day.

クリスティーナ先生の言われたこと

平成十年度引率教諭　金子佐知子

海外旅行（研修）の目的は、何なのでしょうか？「なぜ、山に登るのか？」と尋ねられた登山家が「そこに山があるから」と答えたというのと同じように、わけもなく、ただ行きたいから行くのだ、という答えもあるでしょう。しかし、私は海外生活を体験することによって〝自分探し〟をする事、又、自己の人格や品性を高めることがある、と思う。自分の良い点も悪い点も、日本人の中だけで生活していたときよりも、海外で生活してみたときに、もっとよく見えてくるように感じます。自分探しがしやすいのです。

私は、日本人の中にいても、自分と全く異なった面白い発想をして物事を考えたり、感じたりする人たちと友達になることがとても好きです。同様に、オーストラリア人やアメリカ人の中に、物事や人に対して自分と全く異なった考え方を発見するとき、しみじみと、英語を学んできてよかったと感じます。

今度のオーストラリア訪問でお世話になったクリスティーナ先生と話したことで、最も印象的だったことを紹介したいと思います。彼女はワガワガ高校の、若くてとても美しい先生で、私は彼女の家にホームステイしました。オーストラリアを去る日、リビングルームにあった新聞を見ていたら、日本のひどい不況のことが書かれていました。クリスティーナ先生は以前、日本で英会話を教えていた経験がありました。その時、日本の子供たちはオーストラリアの子供に比べて経済的にとても豊かであって、時には子供には不適切と思われるブランド物を身につけて甘やかされている者も多かった、と語っていました。そして、今、問題なのは、そのように経済的に豊か、甘やかされた生活に慣れて育ってきた日本の若者たちは、このような不況に耐え、乗り越えていくことができるだろうか、ということでした。このとき、日本人よりも日本のことを鋭く見つめている目が海外にあることを強く感じました。

幕末の頃、咸臨丸に乗ってアメリカに渡った日本人たちは、その人格の圧倒的な素晴らしさ、たたずまいをもって、アメリカ人たちに非常に感銘を与えた、という話を、以前、聞いたことがあります。その時にアメリカに渡った日本人は、アメリカの文化や礼儀作法には不慣れであったにも拘わらず、"He is a real gentleman!"と、ホイットマン始め、アメリカの教養ある人たちが賞賛した、と聞きます。今回、オーストラリアを訪問した私たちは、どのような印象を持たれたのでしょうか？

ロータリー交換留学

本校では昭和五十七年（開校三年目）から地域のロータリークラブと連携し、交換留学生（一年間）の受け入れと派遣を行っている。平成元年度までに受け入れた七名の外国人留学生と本校から派遣された六名の生徒については「黎明十年」に詳しく紹介されているので、ここではそれ以降の生徒達を紹介したい。

・受け入れ

平成四年一月～　レイチェル・グリーニー
　ニュージーランド　印旛中央ロータリー

平成八年九月～　ネイサン・ルーク
　アメリカ　成田ロータリー

・派遣

平成四年三月～　青山　典央
　オーストラリアへ　印旛中央ロータリー

平成五年三月～　古谷　知香
　ニュージーランドへ　印旛中央ロータリー

平成九年七月～　平野　良治
　メキシコへ　成田ロータリー

レイチェル・グリーニーさんは、ロータリー交換留学生として平成４年１月から１年間、本校で学びました。下の記事は、生徒会誌「北星第９号」からの転載です。

What I've found in Japan

Being an exchange student is a wonderful experience. You get the opportunity to live in a foreign country and experience a totally different life style. My year in Japan has taught me a lot about the Japanese way of life.

Although this year has sometimes been difficult, it has been worthwhile. Being away from home has changed my views and opinions on a lot of issues. Living in Japan for one year has given me first hand experience of a unique culture.

For such a small country with a large population I admire the Japanese way of dealing with one another; seeking an alternative rather than forcing their opinions and causing a conflict.

But we should all remember that everyone has their own unique personality. We should encourage each other to express ourselves more openly and not be confined by what others think is the "correct way".

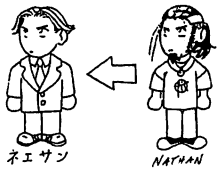
Often I felt very confused and sometimes angry. It was hard for me to understand why some Japanese would not say exactly what they meant. Because of this difference in our cultures I may have come across as being rude. But I think you have to live in Japan for longer than a year or be brought up here to fully understand this certain part of Japanese culture.

Especially in the beginning of my year I found it very difficult to adjust to the Japanese way of doing things. But now I try to accept things for what they are not criticize but just experience a slightly different way of doing things. One thing I have learned since I've been here is to become more patient. As they say "Patience is a virtue", I believe if you want to truly understand a country's culture and language you must go there and experience it for yourself.

I am grateful for the opportunity I've had to come to Japan for this year. It has been an excellent experience and I will return home with many wonderful memories of Japan.

December 24, 1993

Rechel Greaney
An exchange student from New Zealand



ネーサン・ルーク君は、平成８年９月から１年間日本に滞在しました。
漫画が大変上手で、日本の漫画についても詳しく、自分でも様々な作品を描いていました。
将来は世界的なアニメーションクリエーターになるかもしれませんね。

STEREOTYPES

Nathan Rouke

Humans are strange creatures. For some reason we give much thought to things we know little about and little thought to things we know much about. This is probably why so many people carry around the stereotypes they do. So much time is spent imagining what other people or places are like that we decide what we think of them before we even see them. And such was the case with myself in my senior year of high school before going to Japan. I spent the rest of the year and all of the summer imagining what it would be like "over there" and listening to the rumors of what "they" and "their" culture are like. So it is not very surprising that when I arrived here nothing was as I expected it to be.

The grass looked the same as American grass, the airport looked the same, the buildings and cars——Heck, I might as well be in America by the looks of it. No oriental castles in sight, no ninjas hiding in bushes, and no, sushi certainly was not the only food they ate. Narita was a lot like my hometown of Erie, actually. But the biggest surprise came one day in Art class while talking to some of my newer friends.

Naturally curious about my home country, they were asking me a number of questions. I liked answering them, actually, but was rather surprised at some of the later ones. They were mostly about violence and sex. And then I realized something. All these people know of Americans and all I kow of the Japanese is from what we've seen on television and movies. Then I thought of the exchange students that went to McDowell, my high school. If any of us even talked to them, we talked as if they were children. We always unconsciously saw them as less intelligent. Only now, being an exchange student myself, do I realize how little we knew or tried to know about these people. I think we had already made up our minds……

So I'd like to suggest to anyone reading this that they not keep their stereotypes when meeting a new person. Instead, approach that person with the knowledge that you know nothing about them. If you have a question, ask it, but don't assume you already know the answer. And show that person who you are so they won't have any doubt. Remember that you can't judge on appearance alone. After all, look at what I used to look like……

ドナルド・キーン氏の講演会

国際理解教育推進委員会

平成十年十二月二日に著名な日本文学研究者である、ドナルド・キーン氏（米国コロンビア大学名誉教授）が本校で講演を行った。これは本校が千葉県教育委員会による「夢を育む教育推進事業」の指定を受け、本委員会が国際理解教育推進のための講演を氏に依頼したところ、快諾が得られて実現したものである。

実現することが決定した後は、事前指導への取り組みが始まった。図書委員会では図書館にキーン氏のコーナーを設け、その著作を紹介するための活動がスタートした。国語科では氏の著作が教材として使用された。またその演題が「伝統と個人」になることが判明してからは、国語科だけでなく、他の教科でも関連する内容を扱うなどの取り組みがなされ、生徒も事前学習に熱心に取り組んだ。

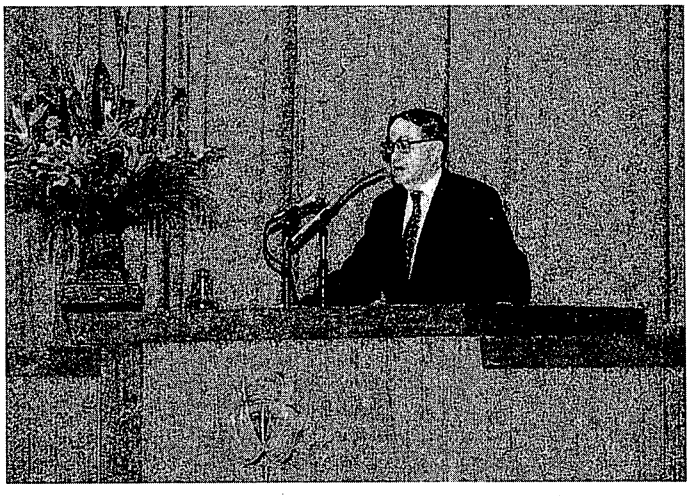
当日は全校生徒に加え、近隣の教育関係者や現旧職員、ＰＴＡ役員をはじめ保護者も数多く来校し、静かな緊張感を伴った熱気の中で氏の講演が始まった。一言一句聞き逃すまいと集中する聴衆を前に、氏は穏やかな口調で淡々と語りだした。氏はその長い経験と、豊富な学識を元に具体的なエピソードにユーモアを交えて、分かりやすく話された。

講演後、記録に残す作業として「伝統と個人」と題された小冊子が作成された。全講演の内容をテープから原稿におこす作業は図書委員の生徒の手で行われ、生徒・職員の文章を加えて出来上がった冊子は、全校生徒・関係者に配布され、貴重な記録として残された。

（文責　椎名　泉）

伝統の大切さ訴え

成田北高校　キーン博士が講演



県立成田北高校（村田一男校長、生徒千二百人）はこのほど、日本文学研究者でコロンビア大学名誉教授のドナルド・キーン博士を招いて国際理解教育推進講演会を同校体育館で開き、在校生、教職員、ＰＴＡ、近隣の教育関係者約千五百人が出席した。

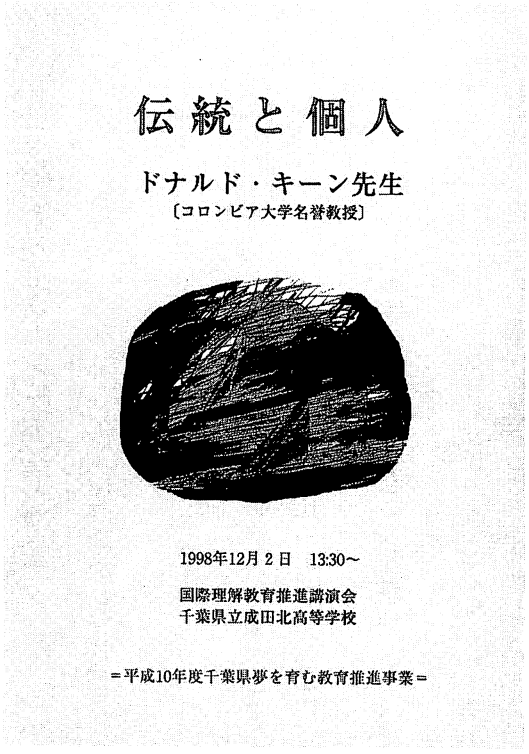
演題は「伝統と個人」。三島由紀夫、川端康成など多くの日本文学作品を英訳し、世界的に有名なキーン博士は、伝統の大切さ、これからの日本の青年の生き方などについて、具体例を挙げ、分かりやすく日本語で話した＝写真。

博士の話の要点は、明治時代に文部大臣森有礼は、国語を英語に変えようとしたエピソード、作家志賀直哉も国語をフランス語にした方がよいとの考えだったことなど。最後に、ますます国際化が進む日本では、若い人たちが日本の伝統を踏まえて正しい国際関係を築いていってほしいと話し、万雷の拍手を受けた。

同校は「夢をはぐくむ教育推進事業」の県指定校である。

（成田市・塚本倫正）

（新聞記事）



伝統と個人

ドナルド・キーン先生

〔コロンビア大学名誉教授〕

1998年12月2日　13:30～

国際理解教育推進講演会
千葉県立成田北高等学校

＝平成10年度千葉県夢を育む教育推進事業＝

（冊子「伝統と個人」表紙）

（1998.12.2　千葉県立成田北高等学校　体育館にて）

冊子「伝統と個人」目次

ドナルド・キーン先生の紹介……校長　村田　一男
ドナルド・キーン先生の講演を聞いて……教頭　中田　成气
ドナルド・キーン先生承諾の手紙……資料
ドナルド・キーン先生略歴・主な著書……資料
ドナルド・キーン先生にインタビュー……教諭　花香　武男
伝統と個人……講演
講演の後……教諭　椎名　泉
現代文授業の取り組みについて……教諭　纐纈　康世
ドナルド・キーンにふれて……3A　藤田　有香
有名人が持っている力……3A　小川　智子
ドナルド・キーン氏の感想……3D　高嶋　利恵
このひとすじにつながりて――雑感――……3D　山田　和弘
ありがとうドナルド・キーンさん……3G　藤崎　三枝
日本の伝統……生徒会長　木村　悦子
ドナルド・キーン氏の話を聞いて……生徒会　大平真之介
図書館だより……図書委員会
新聞記事……資料
ドナルド・キーン先生より（手紙）……資料
ドナルド・キーン先生をお迎えするまで……教諭　花香　武男
あとがき……教諭　湯浅　仁
表紙画……〃

図書館だより

1998.11.10.
成田北高校
図書委員会
図書部

委員長としての抱負

二G　内田陽子

私はまず、「図書委員全員で協力して、もっと気軽に入館できて利用しやすい雰囲気を作っていきたい」という抱負を持って、委員長という仕事を一年間頑張りたいと思います。

そのためには、みなさん全体の協力が是非とも必要です。図書委員だけでは気づかないところもたくさんあります。どんなに小さなことでも結構ですから教えてもらいたいと思います。

そもそも図書館は、私たち生徒が利用する施設です。有効に活用すべきですよね？だから、「勉強の場」としてだけでなく、「くつろげる場」としても利用できるよう、どんどんリクエストしてほしいし、イベントなどにも積極的に参加してください！

最後に、まだ委員長としての自覚も自信もない私ですが、一年間一生懸命頑張っていきます。きっと失敗も多く、みなさんにいろいろとご迷惑をかけてしまうかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

なお、十二月二日（水）に、ドナルド＝キーン先生の講演が行なわれます。図書館では、キーン先生の著書を入手できる限り取りそろえましたので、ぜひ、読んでみてください。

「日本文学の歴史」（十八巻）
「日本人」・「私と源氏物語」
「日本人の西洋発見」・「日本についての三〇章」・「このひとすじにつながりて」・「日本語の美」・「日本との出会い」
「日本人の美意識」・「日本文学散歩」・「日本人の質問」・
「日本の文学」・「古典を楽しむ」・「二つの祖国に生きて」
「日本人と日本文化」・「世界のなかの日本」

コロンビア大学名誉教授
ドナルド＝キーン先生本校で講演
十二月二日（水）十三時三十分

日本文化のすぐれた研究者
日本文化を愛し
精力的に世界に紹介

本校の国際理解教育推進委員会が、「千葉県夢を育む教育推進事業」の一環として、米国ニューヨーク州コロンビア大学名誉教授であり、世界的な日本文学の研究者であるドナルド＝キーン先生の講演会を開催することになった。演題は「伝統と個人」。

先生は、日本文化をこよなく愛し、その研究に生涯をかけられた方である。特に、日本文学については、日本人の研究者に勝るとも劣らない研究をされてきた。また、コロンビア大学内に「ドナルド＝キーン日本文化センター」を設立され、日本文学の研究と海外への紹介を精力的に進められている。

私たち日本人は、最近、ややもすれば、アメリカ・ヨーロッパ文化に憧れ、日本文化の優れた面を見落としたり、過小評価したりする傾向がなくはない。アメリカ・ヨーロッパ文化を正当に評価し、学ぶことは絶対に必要である。しかし、同時に、自国の文化のすばらしさをきちんと評価し継承していくことは、国民としての文化と歴史に対する責務であろう。

私自身も、キーン先生から、日本文化についてずいぶん教えられた。今度の先生の講演で、「伝統」をどのようにとらえられ、伝統の中に「個人」・「個性」をどのように位置づけられるのか、大変興味がある。新しい視点をきっと学べるのではないかと期待している。

日本文化は、決して海外で十分理解されているとはいえない。日本の経済力のカゲに隠れて、かなり誤解されていることが少なくない。その意味でも、キーン先生の存在と活動はとても大きい。

二日のご講演をしっかり受けとめたいと思う。（手島和史記）

ドナルド＝キーン著

「日本文学の歴史」考

一G　本橋達範

題名からすると、とても偉そうに聞こえるが、私は、試しに「日本の文学の歴史」という一八冊のシリーズのうちの二冊読みかじりさせていただいた。いわば、ドナルド・キーン先生の大著のつまみ食いのようなものであるとお断りしておく。

私が読んだのは「日本の文学の歴史」近代編の第一二巻と第一四巻。私の好きな谷崎潤一郎と泉鏡花について論じられていたので、思わず手にとってみたのである。思い付き的に手にしたもので、下手をすると自分の本棚に置いたまま返却ということが、私の場合往々にしてあるので、ともかく、教室で早速読み始めてみた。少し読み進めてみると、これがひどく興味深いもので、たちまち引き込まれていったのである。

それは第一に、とても表現力が豊かで文章が巧みだということである。興味のありそうなちょっとした事柄から一気に本論へ導いていくという、意外性を持った的確さがある。司馬遼太郎や海音寺潮五郎の文章に通じる味わい深さがある。

第二には、日本文学に対するキーン先生の深い研究と広い知識によって支えられ、彩られているということである。

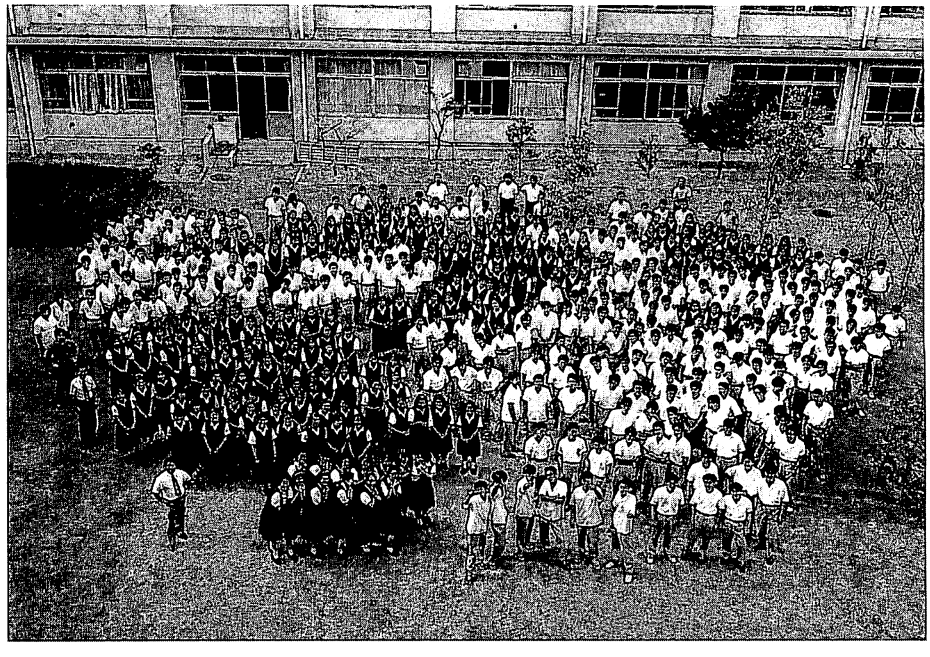
さらに、ここが一番重要なところであるが、キーン先生ご自身が独創的に考察し、その見解を自由に率直に述べられていることである。日本の批評家は、ややもすれば、すぐに輸入物の蘊蓄等を持ち出したり、深みがある、ないなどと、簡単に論評してしまうことが少なくないが、キーン先生は、そのことによって傷つけられている作家などがいることを指摘され、ご自身の見解を述べられている。

私もこのご意見に同感で、谷崎潤一郎や泉鏡花などの評にしてもあまりに「文学とはこうだ」という鋳型にはめすぎて、もともとそうした鋳型を求めていない者までをその鋳型で評してしまい、結果として排斥してしまうということがよくあるように思う。推理小説の審査にしても、「乱歩賞」の最近の風潮のように、中世西欧の異端狩りの如く型に押し込めて、その型に合わなければ排除してしまっているように思えるのである。

キーン先生にはそうしたところが感じられない。私は、ぜひ、好きな作家、読んでみたい作家についていろいろ知りたい方は、キーン先生の文学論・作家論を楽しみながら一読してほしいと思っている。

（講演前の「図書館だより」）

創立二十周年記念に寄せてII



創立二十周年記念に寄せて

――「二〇分の三」という生活の一部として――

創立二十周年記念事業実行委員会委員　岩　本　美津子

開校二十周年おめでとうございます。

ミレニアム二〇〇〇年という、区切りの年からの始まりを表わす記念式が計画され、その式典の催しに参加出来る事は喜ばしい事と思っております。

今から三年前、我が娘の高校進学を控えた中学三年という時期、どの御家庭でも頭を抱え悩んでいた進学問題に対して、「成田北高」一本だけにしぼって入試をしたいという希望を持つ娘の意見で成北高校受験を望む日々を送った事、昨日のようです。三月合格発表・無事関門を通り抜ける事が出来、喜びの四月入学式を迎える日となりました。

入学式も終わりホッとしたのもつかの間、新学期による生活環境の変化と子供達への変貌には、目をみはるばかりの毎日……親として時代の流れによるものだと痛感しつつも、子供達同士の吸収力というか、仲間意識の中で競争心の表われ方に、父親側・母親側の違いの受け止め方に少々時間をかけながらも、どうにか三年間という、長くもあり短くもありという期間を過ごす事が出来ました。その時にも、役員という立場を与えてくださった先生方のおかげで、知り合う事が出来た他の役員方保護者・先輩方のアドバイスによるものだったと感謝しております。

成田北高での子供を近くで見られる最初の機会は九月にある文化祭の「黎明祭」でしょうか?解放的なのか、アメリカンスタイルなのか、色とりどりに作られた教室、子供達が子供達自身で楽しんで、計画して実行に移して形となる催しですね。中学を卒業して半年という期間で子供達はこんなに個性豊かになるものなのでしょうか?又、親として参加出来る唯一の場所でもあるバザー。色々な方面より通学している生徒さん方も多い為か、役員の方々による新鮮な取りたての野菜・米など豊富に販売され、協力的な先生方や父兄のみなさんのおかげで多額の収益金が集まり、一部生徒会の運営資金となり、残りも社会福祉へと……。色々な方々による協力で成り立たされている環境で育てられている子供達の生活に感謝の気持ちでいっぱいです。

色々な行事に参加出来るのも、役員という特権でしょうか。子供の学校生活の場所をのぞく事も出来、先生方によって知らされる身近かな話題、不安な子供達への悩みも解消され、三年間を無事に終る事が出来たのも、先生方のお陰だと感謝にたえません。

子供達にとっても、そういう環境の中で学校生活を過ごせた事、また何事も無く楽しくて早い三年間だったという言葉を聞いた時の、充実した生活だったんだと感じられた時の、親の喜びも有りました。子供達が過ごしやすい学校生活の場を二〇年間という月日をかけて続けられる先生方の努力、大変な御苦労だと思います。そんな学校で有り続けられる為にも、親として、私達の子供達の、この成田北高校の為にやれる事が有ったら、協力は惜しむ事なく尽くしていきたいと思っております。

今から先、三〇年・四〇年……という継続していく役員の一員として、この二〇年間を見守り続けて戴いた御父兄の方々と共に歩んでいけたらと考えております。

野球部への思い

創立二十周年記念事業実行委員会監事　櫻　井　笑　子

子供が北高に入学し、ただの保護者の一人でしかなかった私でしたが、ＰＴＡの役員を引き受け、おまけに野球部の父母会の役員まで引き受けてしまいました。自分の中で仕事より子供という思いが強かったせいかも知れませんが、三年間仕事をしながらの二つの掛け持ち役員生活、腹の立つ事、頭にくる事、一〇年前に手術をしている自分の体の心配など大変だと思う事も多々ありました。

でも、その三年間はそれ以上のものを私に与えてもくれ、とても楽しい三年間だったように思います。

野球部と出合えた事もその一つ。私がずっと持っていた夢を叶えてくれるかも「?」というとても嬉しい出合いでした。

笑われるかも知れませんが、私の夢は「甲子園」。甲子園のスタンドで野球の応援をする事。子供にも無理と軽くあしらわれてしまいましたが、春の大会、夏の大会と何度か甲子園に行きましたが、何度行ってもやっぱり甲子園はいいなと思いますし、胸がときめきます。

子供と一緒の甲子園は無くなってしまいましたが、私には北高野球があります。野球部がある限り私も夢を見続けられる、そんな今の自分を幸せに思い、野球部にはとても感謝しています。

今年二〇〇〇年は、学校も子供と同じ二〇歳。これからも子供同様いつまでも大切に思い、私に出来る限りの協力、応援をして行きたいと思っています。

草創期の思い出

旧職員　高　岡　誠　次

千葉県立成田北高等学校の創立二十周年、まことにおめでとうございます。

私は昭和五十五年四月の開校より平成五年まで十三年間勤務させて頂きました。開校式・入学式と同時に、担任、各分掌も決まり、新しい学校づくりがスタートしました。当時を思い起こすと、最初の一・二年間は施設、用具等無い無いづくしの状況で、生徒には不平不満は云わない、全てに創意工夫が大切であることを指導すると共に、指導者自身の戒めとしても受けとめておりました。その後ＰＴＡ・後援会の設立にともない、物心両面に渡りご援助を頂きまして部活動も大変充実してまいりました。

第二校舎・体育館・格技場・部室等がつぎつぎと落成し、グランドやテニスコートも完成し、生徒数の増加にともない、部員数も多くなり部活動は一層活溌になりました。分掌では三年目より学年主任を仰せつかり、林間学校・修学旅行・進路指導等、諸先輩と学年の先生方のご指導とご助力により大きな失敗も無く六年間つとめさせていただいたことを

今でも深く感謝しています。

その後教務部より独立した総務の部長として、入学式・卒業式等の儀式の円滑な運営、ＰＴＡ・同窓会・後援会の事務局としての役割、ＰＴＡ広報委員会活動の推進、創立十周年記念事業等、係の先生方のご努力で総務の仕事が円滑に遂行されたことを感謝しています。最後に成田北高校の一層の発展を祈念いたします。

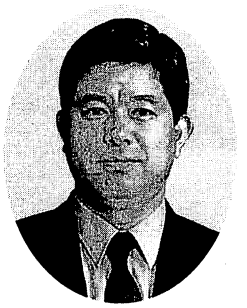
言えばうそですが、生徒諸君と真正面から向き合うことができたことは私の宝です。「手をつないだらおしまいだ。」とよく全校集会で言ったものです。ブレーキのきいた男女交際の在り方として今でも通用すると思っています。

思い出が尽きない成田北高です。

（現千葉県立松戸国際高等学校教頭）

いつまでも目標としたい学校

旧職員　小松　栄三郎



成田北高には、昭和五十七年度から平成四年度まで一一年間お世話になりました。私は第一期生三年Ｂ組の担任をやれたことを嬉しく思い、また誇りにも思いました。生徒たちも大人びて魅力に富んだ生徒たちでした。卒業式の最後のＨＲで、生徒たちからハーモニカをプレゼントされ、「これで『高校三年生』を吹いて下さい。」と言われたときは、感激のあまり途中で吹けなくなってしまいました。今でもあの感動は忘れません。

また、スキー修学旅行の帰りが遅くなるとの連絡を受け、たくさんの職員で、厳寒の中、深夜迎えに来られた保護者の車の交通整理をやったことも忘れられない思い出です。そして学校のすべての教室のあかりをつけて生徒たちを迎えました。

九年間生徒指導主事として生徒指導に当りました。苦労がなかったと

思い出すままに

旧職員　赤井　正男

創立二十周年、おめでとうございます。

私は昭和五十八年四月から平成四年三月の一〇年間お世話になりました。この間、担任、学年主任、教務主任を努めさせていただきました。このころ、成田北高校は開校以来の先生方の努力によって、地域からは生活面を主とした高い評価が定着し落ち着いた雰囲気でした。

一方、石井校長先生より「特色ある学校づくり」をとの指示を受け、これからの成田北高校の将来の在り方を真剣に話し合っていました。昭和五十九年から卒業時に進路希望の夢が叶えられることを指針として新教育課程を検討した記録が残っています。「学力による学級編成について・進級時における学級固定について・英語教育の充実について」等の項目をみて、伊豆大島三原山の噴火のテレビ報道を気にしながら八時こ

ろまで連日話し合ったことが懐かしく思い出されます。特に、このころは大学進学が厳しい時代でした。

また、若い先生方が多く、活気がみなぎっておりました。事務部から「電気料がかかるので学校に遅くまでいないでください。」と言われたことや、初めて担任をする先生が多く「担任研修」を実施したことなどは隔世の感がします。

昭和六十一年には教員海外派遣研修に参加させていただきました。スペイン、スイス、フランスと訪問し、初めての海外体験で視野が広がるとともに貴重な勉強になりました。

昭和五十九年、蓼科林間学校の次の日、経験者研修Ⅰの助言者センター出張に遅刻したのが苦い思い出となっています。

私は成田北高校で多くのことを学ばせていただきました。皆さんに感謝し、成田北高校のますますのご発展をお祈り申し上げます。

成田北高校の思い出

旧職員　青柳佳親

私は、平成元年から九年間ほど成田北高校にお世話になりました。赴任当時は創立一〇年目を迎え、学校規模も一学年一〇学級となり、これからさらなる飛躍をめざしている時期でありました。

このような状況のなかで私は、クラス担任や生徒指導を通じて、様々な体験をさせていただきましたが、特に成田北高の先生方と保護者との連携・協力のある感動的な体験が今でも強く印象に残っています。

それは、北高初めてのスキー修学旅行での最終日の北高でのできごとです。この年は悪天候のため、バスの学校到着が深夜になってしまうということになり生徒の帰宅のことなど不安でいっぱいでした。ところが、バスが学校に近づくにつれ、校舎の灯りはこうこうとしており、学校で多数の先生方や保護者に出迎えていただきました。このときの生徒達の安堵感と喜び、そして成田北高校が、何と美しく見えたことか。当時のすべての生徒は、このときの光景と感動を忘れることはないと思います。

これは、到着が遅れることを知った先生方や保護者が連携協力し、すべての家庭へ連絡してくれて、混乱を防ぎ、温かく迎えてくれたことによるものです。おかげさまで感動的な修学旅行が経験できたわけです。

いま、学校・家庭・地域が連携して、子供を育てることの重要性が言われていますが、この修学旅行は、人とのつながり、心の暖かさを教えてくれた、まさにそのものであったと思います。

このすばらしい体験を与えてくれた北高に感謝するとともに、創立二十周年を迎えた成田北高校の今後ますますの発展を心からお祈り申し上げます。

思い出

旧職員　小早志　剛　規

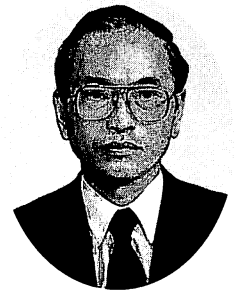
創立二十周年、おめでとうございます。満開の桜を見ながらの初出勤、それから一一年間（平成十一年三月まで）勤務させていただきました。桜の花が散り始めると花びらが風のいたずらでワルツのように踊り出す様に時を忘れて見入ったことを思い出します。私の仕事で思い出すのは推薦入試検討委員会に属したことです。会議をくりかえし要項を作成したことを思い出します。ようやく出来あがった要項を持って当時の校長花井保先生と通学区内の中学校を廻らせていただきました。お陰様で入学して来た生徒に出身中学校を聞くと、「そうか君の中学校は貫録のある木造の校舎だね」とか、「田圃の中の豪華なホテルのようだね」など会話が弾み、又、多くの中学の先生方を知る事ができました。そして推薦入試要項どおりの生徒が入学してホットしたことを思い出します。途中少しまわり道をして、交通事故で亡くなった生徒の事故現場へ行きました。花井校長先生は、道路に手を置き、頭を下げ何か囁やいている様子が今も思い出されます。

最後に十周年記念誌、二十周年記念誌と地歴科の手島和史先生が中心となられ編纂されていることに心から感謝申し上げます。

今後のご発展を心から祈念いたします。

生徒会の思い出

旧職員　小　倉　晶　文



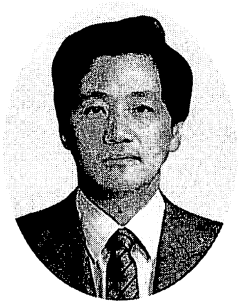
創立二十周年、誠におめでとうございます。

私が成田北高校に赴任したのは、創立四年目の一九八三年のことです。その翌年から五年間、生徒会の顧問をさせていただきましたが、このころの北高生徒会は、役員の諸君も顧問の教員も、創立以来の生徒会活動を受け継ぎながらも、何か新しいものを作っていこうという気分が溢れていたように思います。生徒会最大の行事といえば黎明祭ですが、当時は、春にリーダー研修会があり、ここから黎明祭への取り組みがスタートしたものです。また、学級数も今より少なかったため、文化祭の第一日目には、全校生徒の参加によるイベントを行ったりしました。クイズが大好きという生徒会長（四期生の安部志朗・現同窓会長）がいて、全校生徒によるクイズ大会を企画し、毎日夜遅くまで準備をしたことなども今ではなつかしい思い出です。クイズ大会はその後数年続きましたが学級増により、全校生徒参加による特別企画も実施できなくなってしまったのはとても残念です。このころ（八五年）に内容も一新して再出発し、今も受け継がれているものは、生徒会誌「北星」の発行です。生徒会の活動をより多くの生徒に理解してもらい、記録としてきちんと残しておきたいという趣旨から現在の形の「北星」が生まれました。

北高生徒会の自由で創造的な発想や行動力は、きっと現在も受け継がれていることと思います。今後の成田北高及び北高生徒会のますますの発展と活躍を心から期待しています。

思いだすこと

旧職員　真鍋憲雄



思い出すと一九年前、創立二年目の北高にきました。新任者の紹介はいまのLL教室で二年生四クラス一八〇名の生徒に話をしたことを覚えています。体育館は建設を始めるところで、グランドは雨が降るとぬかるみ状態が何日も続き、授業にも支障をきたしていました。しかし、先生も生徒も創立の意欲に燃えていて、部活動の創設に、生徒会活動の育成に努力していました。まだ周りはなにもなかったので下校時間にあわせてバスがきてくれましたが、部活の生徒はバスに乗るために吾妻まで歩くしかありませんでした。こんな先輩達の努力がいまの北高を築いてきたと思います。

印象に残っていることは、体育館の校歌です。生徒が書いて、先生と生徒が彫り金箔を貼った卒業記念品です。こんな記念品の残し方もあるのかと感心して手伝ったことを覚えています。

私は北高にやり残したことがあります。それは、蓼科高原の林間学校に病気で参加できなかったことです。富士山麓の林間学校は参加したのですが、蓼科は写真を見ただけの参加でした。生徒といっしょにはいけなかったことが残念で、ぜひ一度は行きたいと思っています。そして卒業生と語り合いたいと思います。

一四年間お世話になり、いろいろな思い出をくれた北高に感謝します。

二〇年前のこと

旧職員　齋藤公美子

「ここが美術室になります。」初代校長の岩上利男先生に見せていただいたのは、がらんとした普通教室だった。開校の年の校舎は、教室棟だけだった。雨の日は校門から昇降口まではドロドロにぬかるんで長靴がとられそうだった。ニュータウンの北のはずれの学校の周辺は、宅地造成中で土の色ばかり。ぽつり、ぽつりと家が見えた。しかし先生方の心の中には、期待と緊張がみなぎっていたと思う。新設の二年間、私は非常勤講師として、週に数回北高に行っていたが、当時の先生方は、四クラスの生徒全員の氏名を自然に覚えてしまっていた。これは今考えるとすごいこと……。私が北高の正規の教員になった初めの年は、第一回卒業生の出た年度でもあり、予餞会には小松栄三郎先生、林真一先生、丸山直樹先生他多数で職員劇「にぎりめしのうた」（自作）を演じ、これが大ウケ。以後毎年演出、脚本をやることになる。アイデアにつまると生徒がああしたら、こうしたらとヒントをくれた。またご多忙のなか、季節的には

寒い中私のへぼ演出に、特に卒業学年の先生方はつきあってくださった。これは、北高だからできた事。今更ながら、ありがとうございました。北高の卒業生は、二〇～一〇年前に会っていただけなのに、今でも年賀状をくれたり、偶然会うと声を掛けてくれる。二十周年の節目に思い巡らせてみると、北高にとって初めての事は、教員にとっての私に初めての事だった。校歌、校旗制定式、黎明祭（文化祭）他、どんな事も教師と生徒が共につくりあげていくしかなく、その過程と時間に居合わせたのだと思う。美術の教師として初めて教壇にたった北高で、放課後に版画の彫刻刀を一心に動かす生徒の指先を見ながら、感動とともに自分の美術教育への夢もふくらんだ。「うまくできた。うれしい！」「今度の授業なにやるの？」その一言に励まされ、教材研究ができた。美術部の生徒は、美術室向かいの多目的教室の恵まれた広い空間で、油絵の大作制作ができた。搬入日ぎりぎりまで、夏は学展、冬は全日本学生美術展のために描いていた。初めて全日本学生美術展に出品した北川公子さんの静物画「凛」が特選になり、それ以後、全国展に出品するのが活動の年中行事として定着していった気がする。昭和六十二年に学展で森洋一君の油絵が学展大賞（全日本学生油絵会買い上げ作品）、加瀬大介君がデザイン部門学展大賞受賞し、両君のおかげで、私も最優秀指導者賞をいただいて、いい思い出になった。翌年の丸山かおるさんの優秀賞受賞、読書感想画で岡由美子さんが最優秀賞を受賞したのも忘れることができない。

二十周年おめでとうございます。ますますのご発展お祈りいたします。

メタセコイヤの木の如く……

旧職員　根本直美

私が成田北高に赴任したのは、創立六年目の昭和六十一年四月、校舎や体育館などの施設も完成し、充実期を迎えた頃であった。

赴任した年、一学年の校外学習として、五月に蓼科高原への林間学校に参加した。ハイキングや飯盒炊飯、夜にはキャンプファイヤーなどが計画されていた。残念ながら、その年は天候不順のためハイキングは出来なかったが、飯盒炊爨で生徒達と共に作ったカレーライスの味は格別であった。一人の生徒が沢山の生野菜を家から持って来てくれ、大きなボールに山盛り一杯できたサラダは、今も忘れられない思い出である。

その後一二年、北高に勤務させていただいた。その中でも、バドミントン部の創部に関わることができたことを大変光栄に思っている。数名の有志の同好会からスタートし、何とか部活動に昇格した。全くの素人の私であったが、生徒達に恵まれ、また、学校内外の先生方の御協力を得て、三年後にはブロック優勝し、県大会にも出場することが出来るほどとなった。生徒達と共にシャトルに夢中になった日々、本当に充実した時を過ごさせてもらったことを感謝している。

北高を離れ、早二年が過ぎようとしている。時折、学校の近くを通り

かかることがあるが、部活動に励む生徒の姿を見ると、一緒に過ごした生徒達の輝いた笑顔を思い出す。英語科準備室の窓からいつも見ていたメタセコイヤの木のように、北高がこれからも高く伸びやかに成長し、発展されることを心から祈念している。

学校図書館のこと

旧職員　大木　実

「黎明二十年」の発刊に寄せて、県立成田北高等学校の図書館を振り返ってみたいと思います。

私は、昭和五十八年から平成六年まで一二年間に渡り北高に勤務しました。一貫して学校図書館を担当し、その間、教務部図書係から図書部に分掌が独立しました。昭和六十三年からは、羽生校長のもと「県高等学校教育研究会学校図書館部会事務局」を引き受けさせていただきました。この間、学校図書館に関わる様々なことを勉強させていただきました。

北高の図書館については、自習時間における図書館学習や教科学習を支援できる図書館運営に努力してきました。かねてから計画を進めていた図書館のシステム化には、昭和六十一年から着手しました。平成元年には、県教育委員会から「特色ある学校作り」の指定を受け「図書館資料検索システム」を構築することができました。当時、これだけのシステムを備えた公立の学校図書館はありませんでした。全国から、多くの先生方が視察に来られました。平成六年に私が異動した後も、手島主任や多田先生の尽力によりシステムが維持され発展し、毎年全国から沢山の学校が視察に訪れていると聞きました。

二十一世紀、学校図書館の役割は、ますます重要性が増してきます。担当されるみなさんの努力で、これからも全国の先導役として活躍されることを祈念いたしております。

（現千葉県立富里高等学校）

司書室雑考

旧職員　工藤　眞由美

一九八七年、千葉のことすらなにも知らない私が、空き地の中に立つ成田北高に赴任しました。それからの一〇年、通勤路では、田植えや四季折々の草花など、季節の移ろいを感じ、学校では、司書室から生徒たちの変化を見て、感じてきました。

赴任当時、北高の図書館には七〇〇〇冊ほどの書籍しかなく、その少なさに唖然としたことを今でもはっきりと覚えています。コンピュータ化のためのデータ入力が始まっており、日々モニターに向かいました。その日から、コンピュータをカウンターに出した日、パソコンが二台に増えた日、見学者も増え、やがて、図書館のコンピュータシステムが充実していった日々。

図書部としての機能も、私が赴任した時には、それまでの図書部の活

動がいかに計画的、機能的に整備され、図書部の担当の先生方の努力を窺わせるものでした。また、蔵書数は少ないものの、考えられ、計画された蔵書・資料構成。図書館としての機能をきちんと持っておりました。初期段階で、当時まだ高価だったパソコン購入に（二年分割だったが）図書購入費を喰われたりもしましたが、その分、なんと図書委員が頑張ってくれました。

「本がない。予算もない」が口癖だった私に、「卒業までに何とか蔵書を一万冊にしたい」と、当時の委員長だった加瀬君が発起人となり、全校に呼びかけ目標を達成しました。その活動の意志は、ずっと残っており、その後も、生徒や地域の方々がずいぶんとご賛同くださいました。また、受け入れに、カウンター作業に、図書館の地味な活動に、歴代の図書委員さんたちが本当に頑張って協力してくれました。一人一人名前を挙げたいのですが、それもできませんので、せめて、心から感謝を述べたいと思います。そうやって培われた図書館が、北高の「生徒のための図書館」となったのだと思います。

今、転勤して新たに「生徒のための図書館」を模索しています。それこそ、初期の北高のように予算も、パソコンもありませんが、北高で私の信念となった「学校図書館は、あなたたち（生徒）のためにあるんだよ」という言葉を胸に、これからも一歩一歩図書館の学校間格差がなくなるよう頑張りたいと思います。

最後になりましたが、創立二十周年、誠におめでとうございます。

第一回スキー修学旅行の思い出

旧職員　纐纈康世

二〇〇〇年二月、今年のスキー修学旅行は山形県西置賜郡の玉庭スキー場で実施された。みな同じカラフルなスキーウエアーに身を包み、インストラクターに、靴の履き方からストックの持ち方、滑り方と一つ一つ丁寧に教えられ、やがて殆どの生徒がリフトに乗り、頂上から一気に滑り降りてくるようになる様は変わらないけれど、思えば転ぶ生徒も随分少なくなったなぁと言う実感が、回を重ねるごとにしてきた。在校中、藤原、越後中里、網張、玉庭スキー場と五回も参加してきたが、当の私は、一向に上達しないのも実感である。この間、二回ほどスキー修学旅行の見直しが行われたが、いずれもスキー体験による達成感・充実感が、生徒にとっては大きく、また、一〇学級規模からスキーもやむなしと結論づけられて一〇回と回を重ねてきた。

降りやまぬ雪に走行止められて修学旅行のバス沈黙す

不夜城のごとき校舎の迎えあり深夜帰校のバス歓声をあぐ

これは、第一回の水上藤原スキー修学旅行の帰途が、予定より大幅に遅れて夜中の一二時近くに無事到着したときの拙歌である。初めてのスキー修学旅行に満足し帰途についたバスの一行は、いつ到着するか分からない不安にだんだんに駆られていった。しかし、我々を待ち受けてい

たものは、煌々と明かりを灯した闇の中の校舎であった。保護者にはすべて連絡済みで、グランドは出迎えの車で一杯になっていた。歓声と涙があふれた。手配と気くばりをしてくれた本校職員のあたたかさが、スキー修学旅行を成功させ、以後の修学旅行に大きく生かされてきたのではなかろうか。本校の古き良き時代の象徴とも思っている。

創立二十周年記念によせて

――成田北高校、平成のはじめ――

旧職員　多田　敏

在職一一年になる私は、現在（平成十二年二月）の職員のなかではかなり古くからを知る世代になってしまった。一一年間も同じ学校にいるのでだんだんどの年がなんだったか分からなくなり、あんなことがあったなぁ、でもいつ頃だったか……ということだらけになってきている。

「若い頃のことはよく覚えている」……と同じあんばいで、転勤したてのことはよく覚えているので、平成元年の頃を回想してみる。

当時はまだ若い人が多く、先生たちの結婚のお祝い事も珍しくなかったこと、一クラス四八人という大所帯、日本中が浮かれていたバブル景気、離任式ではステージ上で自分専用マイクを取り出しブラスバンド部の演奏をバックに歌う先生、宙返りを披露する先生、そして生徒を叱りつける小松生徒指導部長の声が校舎内にとどろきわたっていたことなど、良くも悪くも活気があったなぁという気がする。最初のスキー修学旅行実施が決定されたのもこの年である。当時のリゾートブームもこのスキー修学旅行を後押ししたのかもしれない。

そして平成十一年度、スキー修学旅行の見直しが決定された。成田北高校の修学旅行は先生たちの年齢層や時代を映す鏡だったなぁと思うこの頃である。

私の成田北高校

旧職員　内海　曜子

今はもうない「成田北高校行」の千葉交通バス。それに乗り込む目新しい紺のブレザー。自転車を引きながら歩く男子生徒とその隣を歩く女生徒。ネクタイをきりりと締めた制服姿で談笑しながら歩いて行く様に好感を覚え、足を止めてしばらくの間視線を送ったこともあった。

創立間もない頃だったろう。ずっと成田に暮らしている私の最も古い北高の記憶である。

時が流れ、何かのご縁で北高に勤務して一〇年。振り返ってみれば本当に平和な一〇年だった。前任校の先輩に「北高は生徒も素直だし、職員も仲のいい、いい学校ですよ」と送り出されて赴任。待っていたのは「先生、〇高の〇〇ちゃんから先生のこと聞いています」と親しく声を

かけてくる人なつこい笑顔。新しい生活の場に飛び込む前に手を差し伸べられ、気がつけばすんなりと引き入れてもらっていた。月日が流れ、人が代わっても、その印象は今も変わらない。

時代とともに高校生の気質も変化し、何かというと槍玉にあげられる昨今だが、北高生の気質は基本的にはあまり変わらないような気がする。素直で親しみやすく、おっとりしている。某職員が言ったことがある。「うちの生徒は本当に気立てがいいんですよね。息子の結婚相手がここの卒業生だといいんですけどね。」今後も変わらないでいてほしい。心優しい生徒達のそろった成田北高校が、私は大好きなのである。

創立二十周年を迎えて

地歴科　川　澄　成　生

私は、諸施設が整備され、全日制普通科の高等学校としての評価も、ある程度評価されているという状態の創立一四年目に、本校に赴任しました。新設当初からそれまでの間、数多くの方々の御努力により、周辺のニュータウンと共に、本校も発展してきたことと思います。私が赴任してからも、大学・短大への合格者数は年々向上しているように思います。これらは、今までの本校の卒業生の人たちの努力によるものだと思います。私は本校の卒業生の人たちの三分の一しか面識がありませんが、皆さんそれぞれの方面で活躍されていることと思います。在校生の人たちは、このような先輩方の努力により築かれた成田北高の伝統を、さらに発展させるように頑張って欲しいと思います。本校の一層の発展を祈念致します。

創立二〇年を迎えて（平成三年頃）

数学科　吉　川　勲　生

私は平成三年に赴任してから、九年になります。時のたつのは早いものです。創立から一〇年たっていましたので、周りの環境も整備され何か落ち着いた雰囲気の学校に感じられ、生徒は明朗でおとなしい生徒が多かった印象を持っています。この学校にきてしばらく持ったことのないクラス担任をもち、張りつめた心で生徒に接したことを思い出します。五月に林間学校があり霧ヶ峰の湿原と車山高原を縦走し、又、夜はキャンプファイヤーで過ごし、生徒は新しい高校生活を満喫していたようでした。九月黎明祭、十月スポーツ大会、一月予餞会、二月耐寒マラソンと立て続けに行事が進んだ様に思われ、気がつくと一年間の終わりがきていました。この頃世の中は景気が良く、二十一世紀は日本の時代と持てはやされ、毎日のようにメディアーはアメリカの産業、特に自動車産業の崩壊を放映していたことを思い出します。本校の生徒も進学する生徒が多くなり就職するのがすくなくなっていき、それに増して求人票が進路室前の廊下に所狭しと張り出されていたことを思い出します。

世界は東西両陣営の緊張も緩和しまさにバラ色に思われたが、民族主義の火種によって新しい問題が持ち上がり騒然としてきました。又日本もバブルがはじけ経済も右上がりから右下がりになり、社会も少年犯罪が多くなり、暖衣飽食になれ、先の見えない暗雲が立ちこめているようです。学校も例外に漏れず影響され、就職する生徒の求人も少なくなり、段々進学する生徒が多くなり、希望をかなえる為にも頑張っていきたいと思います。

終わりに本校が益々飛躍、発展するように今後も努力していきたいと思います。

創立二十周年を迎えて……今後の期待

理科　金塚省吾

私は平成三年四月に成田北高校に赴任し、一〇年間この学校に勤務いたしました。この間、さまざまな先生方や生徒達と出会い、たくさんの刺激を受けながら、多くの勉強をさせていただいた事は、私にとって非常に有意義な一〇年間でありました。残念ながら、自分自身の力不足のため、それをうまくフィードバックできなかった事を反省しています。

さて、この一〇年の間に社会の情勢は大きく変化し、それに伴い北高の生徒の状況もかなり変わって来ました。バブル崩壊による就職難によって、高学歴指向や資格指向が高まり、一〇年前には一〇〇名あまりいた就職者の数が、ここ数年は三〇名前後にまで減少し、それと対照的に大学進学者の数は一〇〇名をこえるほどに増加してきています。

しかし、この変化はいわば「外圧」による変化と言えるのではないかと考えています。今後は北高として、主体的な方向性を持った上での変化が望まれていると私は思います。学校が主体的な変化をしていくには多くの障害や制限がありますが、先生方や生徒達の力を合わせて、今後一〇年間に北高がどの様な変化を遂げていくのか、楽しみにしています。

二十周年記念に向けて

保健体育科　三橋啓重

本校に赴任して早くも九年目を迎えました。周辺のニュータウンの変化と共に、本校も著しい成長を遂げ、各方面で活躍している卒業生の噂も聞こえてくるようになりました。交換留学生も毎年訪れ、国際空港都市にふさわしい学校へと発展しています。

今年度は、私自身も一年間、留学生の担任として、日常の会話や学校行事などを通じ、大変貴重な経験をさせていただきました。生徒達は、お互いに慣れるのも早く、あっという間に友達になり、楽しそうに会話したり、一緒に出かけたりと、とても仲良くしていました。留学生も「良い思い出と沢山の友達ができ、とても有意義に過ごすことができました。成田北高校に来て本当によかった。」と喜んでいました。なかに

は、帰国後もメールの交換をしている生徒もおり、これも国際交流の成果のひとつとして喜ばしいことと思います。

これらもすべて、創立以来、本校に携わってこられた多くの方々の御尽力の賜であり、感謝するところであります。我々現職員も一致団結し、この伝統をまもると共に、本校の更なる発展を目指し努力していかねばならないと思います。創立二十周年という節目の二〇〇〇年が、本校にとって飛躍の年になりますことを祈念しております。

一〇年を振り返り

保健体育科　鈴　木　小枝子

私が本校に着任した平成二年、創立十周年を迎えた若い成田北高でした。学校のまわりには家もすくなく、同じような街並が、成田ははじめてだった私にとっては迷路のような地でした。マラソン大会の頃は、地図をみせられてもまったくわからず、どのように緑道が走っているか、さっぱりわかりませんでした。あれから一〇年、すっかりこのニュータウンにも慣れ、方向もわかるようになりました。生徒の明るさと素直な面は前と変っていないように思います。一番の想い出は、平成三年の修学旅行です。はじめてのスキー修学旅行は、群馬県の藤原スキー場でした。天候が悪く吹雪で、風邪で発熱する者、病院に運ばれ点滴をうける者など、私は保健室をまかされていたのでとても大変な修学旅行となってしまいました。帰りになると大雪のため、バスは遅れてきて、のろのろ運転、大渋滞でなかなか学校にたどり着けません。やっと成田に着いたのは夜中の十二時頃でした。疲労でグッタリして最後の信号を右折した瞬間、校舎内の電気が全部ついていて、みんな拍手喝采でした。あのときほど、北高の先生がたの心のあたたかさを感じたことはありませんでした。あれから一〇年、スキー修学旅行も今度で最後になりますが、冬を迎えるといつも思い出す一コマです。

二十周年にあたって
――思い出と希望――

第一期卒業生（同窓会副会長）　赤　間　賢　二

私が中学三年の時、進学する高校を決めるのに悩んでいると、担任の先生が「成田に新設校ができるよ。自分の手で学校づくりに参加してみたら……」と助言してくださいました。今になって考えてみると、あの言葉が北高との出会いのきっかけをつくってくれたのだと思います。

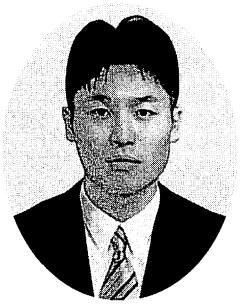
昭和五十五年、成田西高校（現在の成田国際高校）を借りての入学式や中央公民館での校旗・校歌制定式を始めとして、新設校ならではの多くの貴重な経験をさせていただきました。中でも特に思い出深く残っているのが卒業式です。卒業年次にA組だったという幸運もあり、卒業証書の番号で〝第一号〟をいただくことができました。この卒業証書は、

高校生活の集大成、そして宝としてこれからも大切にしたいと思います。

第一号の卒業生という縁とともに、北高との縁を強く感じるもう一つの理由は、妻を含めて何と兄弟四人が北高出身だからです。弟（二期生）妻（四期生）妻の弟（九期生）。ですから北高に関しての共通の話題も多く、今でも当時の恩師や友人の話しで盛り上がることがあります。

今、私には三才の娘がおります。北高の前を車で通ることがよくあり、その度に「あれがパパとママの学校だよ。」と教えています。最近では北高の前を通ると、「リーちゃん（娘の自称）もパパとママのがっこうにいきたい！」と言っています。一二年後、娘がママと同じ制服を着る日を楽しみにしています。最後になりましたが、北高のますますの発展を心からお祈りいたします。

一〇年前を振り返って



第十一期生徒会長　松　﨑　吉　洋

私は平成元年四月、第十期生として千葉県立成田北高等学校に入学しました。その北高が、創立二〇年目を迎えるということで、本当に月日がたつのは早いものだと思いました。

北高で過ごした三年間は、一〇年ちかくたった今でも大切な思い出で一杯です。その中でも、生徒会役員として黎明祭の企画、運営に参加したことが印象深く思い出されます。

その頃の北高は、一〇年目という節目を迎えて、学校をより発展させていこうとする活気で一杯でした。そのような雰囲気も反映して、黎明祭でも、クラスの出し物として「仮装大会」といった、みんなで一つのものを作り上げる企画を立てたりしました。そこでは普段はおとなしい北高生も、先生方と一緒になって盛り上がって取り組んでいました。そのようなアットホームな雰囲気が北高らしさだったと思い、懐かしく感じられます。

北高も成人式を迎え、これからも益々発展していくことでしょう。その中でも、今までの二〇年という歴史や北高らしさといったものを、忘れずに残して欲しいと思っています。

北高生活の思い出

第十三期生徒会長　髙　田　　哲

この度は、創立二十周年おめでとうございます。

私の三年間の北高生活のうち、十二期と十三期の生徒会役員を勤めるという貴重な経験をしました。十二期は書記をしました。その時の生徒会長が、日本語ペラペラの外人でした。この生徒会長のおかげで大変楽しい生徒会活動をおくることができました。その中で一番印象に残っていることは、通学カバンを自由にしたことです。当時通学カバンは指定のものでした。自由化が決まった次の日からいろいろなカ

バンで通学してきたなぁというのが今でも思い出されます。風の噂で聞いたのですがそのカバンがまた流行っているらしいですね。

十三期は生徒会長を勤めました。前会長の印象が強かったため自分が会長をするということに大変プレッシャーを受けました。そのプレッシャーをはねのけようといろいろな企画を実施しました。中でも一番記憶に残っていることといえば、文化祭（黎明祭）の商品販売での現金使用をやめて、専用の商品券を買ってもらってそれを使うことを実施したことです。

デザインから印刷まですべて手作りでしました。夏休みに登校して蒸し暑い生徒会室で一生懸命作ったことが思い出されます。

学校では、勉強したなというよりも生徒会活動の思い出が強いです。三年間通学した成田に仕事の関係でまた通うことになり、学校の前を通るたびにいろいろなことをしたなぁと思い出します。

最後になりましたが、成田北高校の益々の発展をお祈りいたします。

北高と私

第十四期生徒会長　伊　能　英　男

この度は、創立二十周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。私が北高を卒業したのは一九九五年のことですからもう五年近く経つわけですが、いまだに高校時代の出来事が鮮明に蘇るほど、北高との出会いは人生の中で大きかった、と感じています。

最初の出会いは入学当初、受験活動に途方に暮れていた私を救っていただいた事がはじまりでした。その後、部活動や生徒会、委員会活動に参加したこと、そして何より活動を通じて多くの友人や素晴らしい先生方と知り会えた事は、とても貴重な思い出となっています。

卒業後は、教育実習生として再び北高にお世話になりました。久しぶりに高校生活を体験し、中でも私の学生時代とかわらない生徒たちののびのびとした生活風景を見ていると、なんだか懐しく、ホッとひと息つくことができました。あいにく教師にはなりませんでしたが、今の職業についても、高校時代の委員会活動があったからかな?と思っております。どれも自分の中でよい思い出となっています。

私も就職して忙しくなり、文化祭などに足を運ぶ機会もなくなりましたが、今でも自分の母校として誇りに思っています。皆さんも部活動や委員会活動、クラスの活動に真剣に取り組み、うちとけあえる仲間を沢山作り、貴重な高校生活を悔いの無いように過ごしてほしいと思っています。いつまでも北高が皆様の誇りに思えるような、そんな高校であってほしいと私は願います。

生徒会活動と私

第十五期生徒会長　菊　地　恵　美

何を書いたらいいのか…。そう考えていたら、あっというまに、明日が締切り！どうやっても、世の中の日付は変わらないらしい。原稿用紙一枚、五五〇字なんて、今の私にとっては、富士山の頂上に行くより困

難なことだ。しかし、だ。よくよく思い出してみると、この期限ギリギリであわてふためくのは、今に始まった事でもない。生徒会活動の中でも、結構、なんでもギリギリでやっていた。中学生に向けた北高の案内のパンフを作ったが、期日ギリギリに仕上がった。総会の資料なんかも、前日に仕上げていた記憶がある。…そんな自分が、生徒会長だったのである。今になってみれば、なんであんなに頑張っていたのだろう?と思うほど、生徒会活動に没頭していた。それに付け加え、物事の考え方に柔軟性の無い私は融通がきかない。…何をやるにもギリギリで、意見を言えばわがままで…（文章化すると最悪だ）。そんな会長の元には、まるで神が授けたかのように、優秀な役員が集まるものである。そう、本部役員のメンバーには、通常の仕事以外に、会長をフォローしなければいけないという大役を自動的に任されることとなった。気の毒にも。しかし、本部役員がその役割をきちんと果たしてくれたからこそ、第十五期生徒会本部は、成り立っていたのだ。（本当に良く皆、逃げ出さなかったよな。）

副会長の男二人組。生徒会室のパソコンを自由に操る。書類という書類は安心して任せておけた。役員二年目の彼は、年間の生徒会の流れがわかっているからこそ、的が絞られたフォローをしてくれ、一年目の彼は、一年目だからこそ出てくる奇抜なアイディアで客観的に意見してくれた。そして、一つ学年下の、書記・会計。文・実出身の書記は、とにかく場の輪を乱さず、細かい作業もきちんとこなしてくれていた。同じ文・実出身の会計は理解しがたい!?独特の雰囲気で、先輩会計と学校中を走り回って、会計業務をこなしてくれていた。そして、やる気ひとつで役員になってくれたもう一人の書記。度胸の良さはダントツだった。忘れてはいけない、二年目の会計。実際、彼女がいなければ、私は会長なんて勤まらなかった。そう言っても過言ではないくらい、彼女の存在は大きかった。何でもフォローしてくれていた、もう一人の生徒会長だったのかもしれない。

確かに、何をこの原稿に書くべきか迷った。自分が参加した生徒会活動での思い出ならいくらでも語れる。けど実際、そんな事はどうでもいいのだ。公の場で、自分を支えてくれた役員の事を、どうしても紹介したかった。だからこそ、二十周年記念誌に記せる事を、とても嬉しく思う。第十五期生徒会本部を知っている人には、特に忘れてほしくない。あの副会長、会計、書記の六人は、出来の悪い会長を支えていた凄いメンバーだったんだと！

これからの高校生へ

第十八・十九期生徒会長　木　村　悦　子

まず初めに思い出したのは、高校は何かにつけて自由な場所だった、という事です。自分が「こうしたい」と望んで努力さえすれば大体を思う通りに運ぶ事ができました。ですが、「自由」を良い言い訳にしてズルをしてしまった人が急増しているようです。今、高校生や親、先

生方に取り組んでもらいたい点はそこです。自由というのはわがままとは少し違います。全体的に、「このままではいけない」という焦りが足りない気もします。もっと危機感を持ってもらいたいです。

次に思い出したのは、私の高校生活です。勉強したり、部活をしたり、生徒会に入ってみたり楽しい高校生活でした。そして、三年間の中でたくさんの事を学びました。その中でも大切にしていきたいのは、以下の二つの事です。一つは自信を持つこと。もう一つは、人間関係を大切にすることです。

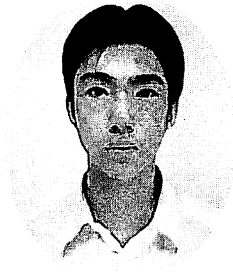
自信を持つのはすごく良い事です。自信を持った人は、力にあふれていて何だか輝いているようです。私が大切だと感じるのは自信を持った結果だけでなく、持つまでの道程です。障害をクリアする為に、様々な方法を考え、行動に移し、失敗したとしてもあきらめずにまた良い方法を考える。その繰り返しで人間の中身は大きく成長していくはずです。そこが重要なのです。高校生のうちは時間も余裕もたっぷりあります。このチャンスを活用し、自信を身に付け強い自分になって下さい。

そして、もう一つ。自分を滅ぼすのも、助けるのも人間関係一つだと思っておいてください。これは、人と接していくうちに自然とわかってくるはずです。

高校で何を見つけるか、見つけたかでその人の人生が決まると言っても過言ではないと思います。今、高校生の人は、やるべき事を考え、すぐにでも行動を起こして下さい。ぼやぼやしている暇はありません。

第二十期生徒会長として

第二十期生徒会長　五十嵐　慶　彦



一言で二〇年と表すのは簡単だが、実際にはとても長い年月だと思う。現在、北高に通っている生徒の人生よりも長い年月なんだから。

今年、千葉県立成田北高等学校は創立二十周年を迎えた。それと同時に、成田北高校生徒会も第二十期生徒会が発足した。この二十周年という節目の年は、それまで二〇年間に行われていた生徒会の運営方法や行事を見直す好機だと考えている。加えて、これから先に向けて、新しい試みをするのにも適した時期とも考えている。

第二十期生徒会本部が発足してから半年余りが経過した。前述の事がどれだけ達成できたかというと、残念な事にあまり達成できていないのが現状だ。もちろん、第二十期の一期だけではできる事に限りがある。けれども、その限界にどこまで近づけたかというと、自己評価で三割程度しかないと思っている。目標はたくさんあったのだが、現段階で達成できているのは、文化祭の運営方法の見直しと改善策ぐらいしかないからだ。残りの任期はできる限りの事、全てをしたい。

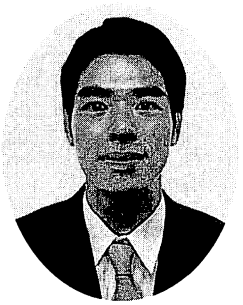
話は変わるが、各学校には各学校の色が存在する。それは、普段から目に見えている色とは少し違ったものだ。言い表すなら、その学校の雰囲気や特徴や伝統の事だ。そして、当然、北高には北高の色がある。そ

の色は決して単調な色ではなく、過去二〇年間の北高の先輩たちが塗り重ねて出来た、とても深みのある濃い色だと思う。これから先、北高生には、この色を大切にしつつ、さらに自分たちの色を塗り加えて、世界で唯一の北高色を立派に作り上げて欲しい。

二十周年記念誌に拙い文章ではあるが、自分の思いを掲載できた事を光栄に思う。そして、今後の成田北高校の発展を祈っている。一〇年後、三十周年記念誌に掲載される後輩たちの文章が今から楽しみだ。

私が一年間の旅行で感じた事

第十期卒業生　佐藤　正教



私は大学在学中に一年間休学し、タイ・インド・アメリカ・メキシコ・台湾を旅行してきました。理由は正直に言いますと、全てがつまらなくなってしまったからです。毎日朝起きて学校へ行き、家族や友人達と話したり、そういう事の全てが色あせて見えてしまいました。そして海外に行けば、何か新鮮で、素晴しい事が待っている様な気がして、私は旅行に出ました。お金は半年間新聞配達をして、一〇〇万円貯めました。

旅行に出て私が感じたのは、その土地で長く生活し、その土地、そこの人達が好きになればなる程、そこにあるのは、ごく当り前の日常生活でした。例えば半年間滞在したインドでは、宿の近くの屋台のおじさんと仲良くなりました。数ヵ月も毎日顔を合わせ、カタコトながら話しをしていると、そこには私がうとましいと感じていた日常生活がありました。おじさんとの静かだけれど温かい関係、私には生きているという実感がありました。その他の土地でも同じです。毎日繰り返される生活がありました。朝起きて、一日の始まりを喜び、夜寝る前に、一日に感謝する。そんな生活を一年間して私は日本に帰ってきました。

そして今、私は無事学校を卒業し、社会人として生活しています。毎日が忙しく、楽しい事もたくさんありますが、つらい事も嫌な事も同じくらいたくさんあります。しかし私は、今の生活の中で、タイやインドやアメリカで感じた事を感じられたらと思っています。例えば、朝家を出て、きれいな花が咲いていたら、素直に〝きれいだな〟と思える様なそんな当り前の事を大切にしてゆきたい。

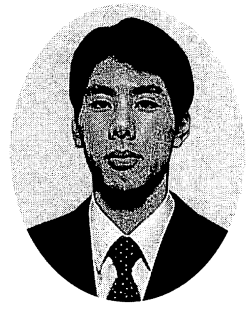
最後に、私の夢は、いつか年をとり、時間にゆとりが出来た時に、もう一度、インドの屋台のおじさんやタイの宿のおばさんと会い、自分が今まで、どんなふうに一生懸命生きて、どんな楽しい事があったかを話し合えたら、どんなに良いだろうと夢見ています。

母校北高の創立二十周年を心からお祝い申し上げます。

個性を磨け

第十四期卒業生　石川　賀大

創立二十周年おめでとうございます。北高二〇年の歴史の中で私が見てきたのは、たったの三年。大袈裟かもしれないけど、確実にその三年



間は私たちの作った歴史であり、また自分自身の歴史でもあり、共に歩めたことを嬉しく思います。

現在、私は新潟大学工学部で勉強している。私の場合、勉強というより好奇心を満たしているだけかもしれないが、最近はそれでいいと思っている。そんな私が就職活動をしていて感じるのは、いまだに学歴社会であるということ。しかし一方で企業や現代社会は個性も求めている。その個性とは、ファッションや髪型のような外見的なものではなく、興味や好奇心を持ちバイタリティ溢れる行動力である。社会に出る準備期間である学生時代に知識や教養を身につけ、個性を磨く。私は後者に重点をおいて欲しいと思う（こんな事を言っては先生方に叱られてしまうかもしれない）。社会に出て必要な勉強というのは、その時になって初めてわかる。「あの時、やっておけば良かった」と思うことはあるけれど、必死で勉強すれば一日でも結果は出せる。しかし、個性というのは頑張ってどうにかなるものではない。だから私は社会に出る前に個性を磨いて欲しいと思う。現代社会のしがらみの中で難しいかもしれないが、自分の個性を知り、それを活かせる人になってほしい。

陸上を通して得たもの

第十六期卒業生　篠　田　千　晶

陸上部での三年間をふり返ってみると、あまりにもたくさんの事があ

りすぎて何から書いていいのか分かりません。しかし、一番に言える事は、三年間陸上をやり続けて本当によかったと思うし、そんな自分に誇りを持っているという事です。そして何よりも、たくさんの人達に出会えたという事です。私が三年間陸上を続けることができたのも、自分に誇りを持てるのも、私を周りで支えてくれた人達のおかげです。

陸上部の毎日の練習は本当に厳しく、肉体的にも精神的にも並大抵なものではありませんでした。部活を辞めようと思い、数カ月間休んだ事もあります。プレッシャーから記録がなかなか伸びず悩んだ事もありました。でも、どんな時も常に、私をはげまし、勇気づけ、がんばろうと思う気持ちを与えてくれる先生方、先輩、後輩、仲間がいました。そんな大好きな仲間と一緒にがんばることで、陸上を楽しんでできるようになり、楽しみながらやることで目標を持つことができ、予想もしなかった記録を残すことができました。

三年間の陸上部での活動を通して、陸上についてのたくさんの知識を得ました。全国でもトップレベルの人達と一緒に練習した国体強化合宿への参加や大きな大会への出場など、貴重な体験をすることもできました。しかし、たくさんの大切な人達に出会えたという事が、私にとって一番の喜びです。本当にお世話になった一人一人に感謝の気持ちでいっぱいです。

心に残る部活動

第十七期卒業生　佐藤瑞紀

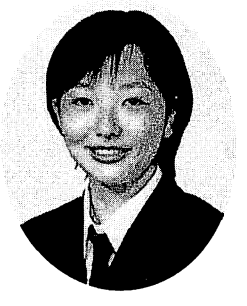
北高を卒業して早一年、思いおこすと部活一色の毎日でした。その中で、いい仲間に恵まれ様々な経験をしました。それゆえ、私は北高を卒業することができて本当に良かったと思います。

部活の中でも印象深く残っているのは、競歩をはじめたこと、駅伝で走ることができたことです。競歩を教えていただく先生との出会いはとても大きいもので、競歩で悩み落ちこんだりして相談したり、私の心を常に刺激してくれ、ついには念願だった全国大会へ出場することもできました。駅伝では、競歩もあって練習へきちんと参加できなかったりして悔しいこともありましたが仲間と一つになって頑張ったかいあって良い結果を残すことができました。私の何よりの思い出です。

今思うと、まわりの多くの人の支えがあったからこそ、私は自分の意志を保ち続けていられたのだろうと思います。悩み落ち込んだとき、相談できる先生や仲間がそばにいたことは私の心の支えでした。笑ったり泣いたり悔やんだり、長いようで短い三年間……思い出すと心がもとても穏やかになります。この、北高での三年間は私に自信を与えてくれこれが今の私になっているのだと思います。今北高にいる方々に、北高での思い出をより良いものにつくってもらいたいと願います。

卒業して気づく事

第十八期卒業生　平山千恵



成田北高校創立二十周年おめでとうございます。北高の特徴であるのびのびとした校風を生かして、さらに発展していく事を望んでいます。特に北高は勉強にとらわれることなく、自分を見つめ直すゆとりのある高校なので、生徒一人一人の個性を生かし、それぞれの道へと導いてくれる高校だと思います。

私が北高に入学した一つの目的は、美術部に入り絵を描くことでした。美術部に入部することで、何枚もの大きな絵を自分の好きな様に描き上げ、また、全国総合文化祭にも自分の絵を出展し、参加することが出来ました。高校生活としては、自分の好きな事を目一杯やり、生徒会役員にも挑戦し、とても充実していたと思います。しかし、一番肝心な勉強をおろそかにしてしまい、のんびりし過ぎて進路の決定までも遅くなってしまった事が大きな後悔となって残っています。

現在、私は、悔いを埋めるべく、自分の目標に向かって勉強しています。そして北高の卒業生として誇りが持てるよう、精進して行きたいと思います。

思い出はいつまでも

第十八期卒業生　篠　原　芽　衣

「卒業式で泣く？」
「どうでしょう。」
突然友人から尋ねられた質問に対してあいまいな返事を返した私。この手の会話は卒業式が近づくと必ずといってよいほど現われる。ふと高校三年間はどうであったかと思い出してみる。一番印象に残っているのは部活動で大賞に選ばれたこと。美術は得意な科目分野でもあり、認められたことは大変嬉しかった。その他に文化祭や修学旅行など色々な事があった。どれも友人達がいたからこそ作れた思い出である。普段の学校生活では、クラスや先生方にも恵まれ、充実していた。確かに良い事ばかりでなく、後悔した出来事もあった。乗り越えられたのは、私の周囲の人間が支えとなってくれていたからでもあるだろう。感謝してもしきれない。「ありがとう」と大声で叫んでも満足しきれないだろう。それほど長い様で短かったこの三年間は大事な思い出が敷き詰まっていたのだ。
「ああ…。」
そうか、だから人は思い出があふれ過ぎた時泣いてしまうのか。涙がこぼれてしまうのはそういう理由なのかもしれない。だから私は改めて友人に言い返した。
「私は泣くかもしれないな。」
と。

どうやってすごそうか？

一年A組　三ノ宮　茜

北高に入学したばかりのころは、何もかもに緊張していて不安でいっぱいでたまらなかった。中学校よりもはるかに多い人数の中で、どんな人間関係ができていくのだろうか、勉強は難しいのだろうか、ついていけるのだろうか…など頭から離れなかった。
でも実際なれてきてみると、部活動も楽しいし、自分に似たような考えをもつ友達も、まったくちがった新しい考えを持つ友達もいっぱいで気がつけば、緊張なんてしていない新しい毎日を送っていた。
北高にかよい始めて数ヶ月間がたつけれど、正直いってこの北高にどんな歴史があるかというのは分からない。実際に北高卒業生に聞くと、「北高は進路のことに関することも積極的だし、部活動も活発で楽しいし、先生方もおもしろいから勉強も楽しくて学びやすい。」という。そして「何より、明るくて楽しい友達がたくさんできる。」と答えてくれる。私も今、通ってみて、そう感じることはたくさんある。だからこれからも、その「楽しい学校」をいつまでもまもっていきたいと思う。
これから私はここで三年間をすごす。学習に対しても、生活面に対しても、自分を見失なわずに、有意義にすごせるようがんばっていこうと思う。この二十周年というものをきっかけにまた新しいものを見つけられるようみんなですごしていきたい。

過去を見つめ直して

一年B組　江　澤　正　哲

創立二十周年、これを文字で表せばたったの六字ですが中身を見ると、多くのことが詰まっています。

開校時には二〇〇名に満たない数の生徒が、今では一〇〇〇名を越え、グラウンドは整備され、部活で使う道具や設備は二〇年前とは比べものにならないくらい充実しています。このように、すばらしい環境で入学して来た私には、二十年前など想像もできません。しかし、私にもわかるのは、ここまで築きあげるのには、先輩や先生方の何事にもかえがたい努力があったからこそです。

この二〇年間、先輩や先生方が築きあげてきた伝統、部活、勉強をさらに発展させ、よりよい成田北高等学校を築きたいと思っています。これを実現させるためには、行事などで交友関係を深め、部活、勉強を共に協力し合っていくことが大切だと思います。そして将来、私達が二〇年間の基盤をもとにスタートしたように、三〇年、四〇年後もよい北高をイメージしていくことが大切だと思います。また、これからどういう北高にしていくかを皆が考えてほしいと思います。

私は、創立二十周年という節目の年に入学して、とても誇りに思っています。そしてこの北高で、勉強、部活などに励んでいこうと思います。

希望あふれる学校に

二年B組　米　元　麻実子

成田北高校にはたくさんの可能性があると思います。

私たちは毎年夏休みには海外に短期留学ができ、異文化を肌で感じることができます。もし、短期ではもの足りないという人には、長期留学のチャンスもあります。

いろんな種類の部・同好会もあります。中には部員数が少ないところもあるけど、今も新しい同好会が増えています。部活をしている人は、私から見ると毎日生き生きとしていました。それがとてもうらやましくなって、私は二年の初めに吹奏学部に入りました。入部したての時は、部活に行くのも緊張で楽しむどころじゃありませんでした。今では忙しい毎日がうれしいです。

高校生活の中で、将来の夢を一つにするのはかなり難しいと思います。私たちがいろいろと体験でき、その中から自分の可能性を見つけられるような機会があればいいと思います。今の北高にも私たちにチャンスはたくさんあります。これから先も、生徒に希望を与えられるような学校にしてもらいたいです。

学校はタイムカプセル

二年H組　宮　本　豪　誠

今回成田北高等学校が創立二十周年を迎えたということで、まぁ僕と三つしか歳は変わらないのだが、一応「congratulation」とでも言うべきなのだろうか。

僕が成田北高の生徒になってからもう一年と半分程を過ごしてきた。ちょうどいい機会なので自分にとって学校とは何か考えてみた。「耳にタコができる」というのが実感できる位言われてきた「学校は勉強する場所。遊びにくるところではない」という言葉。その言葉が思いやりなのかマニュアルなのかはさておき、勉強するためだけの学校なら僕はとっくにやめていただろう。

しかしその場所には友達という存在がある。「初めまして」で始まった「他人」が、「また明日」の「友達」になり「さよなら」の「永遠」になる。コンプレックスだったことが認められた日のことはきっと忘れない。

新鮮だった登下校路や学校生活でさえ、すでに何も感じなくなっていることに気づく。人は散り、それぞれの場所へ帰り、そしてまた成北へ帰ってくる。そしていつか旅立つ日が訪れる。電話やメールじゃ届かない思いを胸に僕はただ成北へ赴く。そこは人生という長いレールの通過点。この前まで使っていた教室や下駄箱はすでに別の奴が使っている。机の傷や使い古したボールは先輩からのメッセージ。僕がつける傷は後輩へのメッセージ。…みんな同じ時を生きている。明日は今日へ、今日は昨日へと変わり忘れられない日は無常にも思い出となり、静寂のみが残る。

一瞬一瞬があらわれてはきえてゆく。

そして全てを見てきている成田北高等学校。もはやそれはタイムカプセル。

いつか僕もここを旅立つ日が訪れる。そして何年か後、再びここへ帰ってきた時、今と何ら変らない成北の〔雰囲気〕にであたえたら最高だと思う。

剣道部と私の高校生活

三年D組　高　橋　成　美

六月二日に行われた三年生にとって最後の大会で、私たち三年生は、剣道部を引退しました。そして今、走馬灯のように、たくさんのことが思い出されます。夏合宿の時、とてもつらくて倒れそうになった日のことや、自分の打突がうまく入らなくて悔しい思いをしたことも今では、いい思い出となっています。しかし、このようなつらかった思い出以上に、成田北高校剣道部は、部員みんな仲がよく、笑いの耐えない楽しい部活でした。私が、剣道部員として過ごしてきた日々は、毎日が充実していたと思います。顧問の先生は、私たちに、剣道の技術はもちろんのこと、剣道以外の相談ごとや悩みごとにものってくれ、その際には、いつも親身になって聞いてくれて、適切なアドバイスを頂き、とても心が楽になったことを今でも覚えています。そして私は、最後の大会を終え、仲間の大切さを学び、顧問の先生方のやさしさを知り、信頼関係の重要

さを実感することができ、成田北高校の剣道部に入部して本当に良かったと思いました。

さて、成田北高校は、創立二十周年を迎えました。この二〇年間で、多くの先輩方が、かけがえのない大切な高校生活を送っていたと思います。私も、一言では言い表せられないくらい、大切な思い出がたくさんあります。これも、二〇年間という時間の中で、先生方や先輩方が築き上げた、成田北高校の伸び伸びとした環境の中だからこそ、充実した高校生活を送れたと思います。そしてこれからも、成田北高校の更なる発展を願っています。

これまでの結果

――そしてこれからすべてが必要――

三年E組　松　﨑　一　等

平成十年に、この成田北高校に入学してからもう二年もたちました。この二年間とてもよい経験になりました。この二年間の主な成績は、日神カップ高校生チャレンジの部「準優勝」、関東高等学校ゴルフ選手権出場の二つです。この二つのうちでも一番うれしかったのは関東大会に出場できたことです。平成十一年、二年生になって、出る試合すべて予選落ちが続いていました。このようなことがあったために、初めて出場できた時はうれしかったです。結局、関東大会では、良い結果を残すことはできませんでしたが、とても良い経験になったことと、このくやしさを高校生活最後の今年にぶつけて行きたいと思います。最後に、僕は何事も『努力』が必要だと思います。プロゴルファーの尾崎将司プロが言うには、『天才は努力によって作られる』とのことです。自分はまだぜんぜん努力しているうちに入りません。これからどんどん努力して、日本一、世界一のプロゴルファーを目指して行きたいです。

活気が出てきた部活動

三年G組　田　島　丈　史

今年で成田北高校は創立二十周年という記念の年を迎えることになりました。「二十周年」と口では簡単に言えますが、すごく長い年月だと思います。

創立当時のグラウンドは、昔は池だったせいか、大雨が降るとまるで池みたいになり、水はけも悪く、一週間は使えなかったそうです。それがだんだんと整備されてきて、今では雨が降っても、一日か二日で使えるほど水はけが良くなりました。そして、僕は今、野球部員としてそのグラウンドの上で毎日汗を流しています。

僕が入部した時、先輩は一六人しかいませんでした。これでは少ないと思い、いろいろな人に声をかけましたが、結局、自分たち一年生も八人しか入りませんでした。その時、僕は残念に思いました。しかし、翌年、一年生が一九人も入ってきました。部員数は倍になり、グラウンドが狭く感じるくらい活気づきました。この頃から部活に入る人も増えてきて、すごくうれしくなりました。

このごろは、サッカー部、バスケットボール部、バレーボール部などの運動部が頻繁に県大会に出場し、陸上部は関東大会、全国大会に出場しています。野球部も過去最高を狙えるくらいになり、学校全体の部活

が盛んになってきました。それでも、もっとたくさんの生徒に部活に参加してもらいたい。そのためにも、学校がもっと部活に力を入れてくれることを望みたいです。

成田北高を見つめる・語る

卒業生座談会

母校への思いと期待

出席者　高田　　哲（第12回生）・伊能　英男（第13回生）・宮本夕香里（第16回生）
　　鈴木利恵子（第16回生）・福地　華恵（第18回生）・木村　悦子（第18回生）
職　員　手島　和史（司会）・井上　泰光（記録）・宮本扶佐子（記録）
日　時　平成12年１月14日（土）　　場　所　本校応接室

司会　お忙しい中、ご都合をつけてくださってありがとうございます。今日はいろいろな思いを込めて、人間で言っても二〇歳という区切りを迎えた北高について、大いに語っていただきたいと思います。まず、在校生の目と卒業してからの目というのはずいぶん違うと思うのですが、客観的に見て北高はどんな学校でしたか。

手島　和史

心安まる人間関係

高田　そうですね。外部の学校とのもめ事もなく、平和だったかな。先生との関係も、友達じゃないですが、そんな感じで過ごしていたなって印象が自分にはあるんですが……。生徒会やっていたんで、いろんな先生と面識もあって、卒業後来ても「あ、よく来たな」なんて、お茶を入れていただいたり……（笑）

司会　なるほど。他にどうですか。

伊能　そうですね。自分は教育実習生として、教える立場で北高に来たことがあるのですが、卒業後も今もずっと一緒かな、と。のびのびと学校生活を楽しんでいる。高田君も言っていたけど、生徒と先生方の触れ合いがあって、仲良くといっては何ですが、僕は好きです。

宮本　私は特に目的もなく、受かればいいかな位に思っていたんですが、滑り止めの方に行かなくて良かったな、と。田舎に住んでいるので、成田のはずれの北高の環境が、自分には合っていたようです。それに、部活に入っていて、一度やめたりしたけれど、とにかく打ち込めたし、今大学でも部活を続けているし、充実した高校生活でしたね。あの時、尊敬できる先生に会えたことも大きかったな。

鈴木　今振り返っても、在校中からいろんな意味で自由だったというか、そんな感じ。私にとっては部活があったので、印象深い。でも、今は部活に入っている人少ないじゃないですか。心に残るものが無いという気がするんですよね。そういえば妹も北高なんですよ。

鈴木利恵子

司会　今いるのかな。

鈴木　先生のお噂をよく聞きます。（笑）

司会　さて、在校中の印象はいかがですか。

福地　生徒と教師も仲がいいけれど、生徒同士の関係もすごく良いんじゃないかなと思っています。

木村　そう、この学校にいると、自分が楽なんですよ。人間多いから、知り合える人も多いし、クラスにも友達とか多いし。貴重な三年間ですよ。就職するに当たって、うちの学校の甘さも見えて、離れたいような、離れたくないような……

「厳しさ」がほしい

司会　本校について甘さみたいなものを感じるって言うのは、先輩方の意見で一部出てきたのと関係してくる可能性があると思うのですけれど、具体的に甘さってどんな感じかな。

木村　良いところでもあると思うんですが、やりたいことをやりたいように、本能のままに動いているって感じがするんです。良いことでも、悪いことでも、授業でも、遅刻でも、これくらいやっても大丈夫とか。融通が利きすぎる。会社はそれが通用しない。

伊能　確かに。自由であることは良いことなのだけれど、ちょっとわがままというか、自由すぎる。縛られるものが無さ過ぎるのも、どうなんでしょうかね。

司会　やっぱりね。私も一〇年ちょっと本校に勤めていて、いろいろ変わってきてるな、と思います。伊能君はいつ頃からそれを感じ始めたのかな。

伊能　教育実習に来た時かな。自分は大学進学のためにがんばった。実習では物理を教えて、一人でも物理を好きになるようにって願いを込めて、いろいろやってみた。でもやらないし、自分の進路についてあまり考えていない。偉そうなことは言えないけど。

司会　もっとはっきり言ってみると…。

伊能　周りのS高校の生徒はもっと大変ですよ、勉強が。でも、部活や生徒会に熱中できるのも、北高だからかもしれない。のびのびした中だからこそ、何かを見つけられるかもしれないし、見つけたらすごい。

高田　そう。普通、就職校とか、進学校とかに分かれるじゃないですか。自分の年は、就職と進学半々ぐらい。あんまりそういう学校無いよねって、他校の友達からも言われる。それと、今ふっと思い出したんですが、会社に入ったら好きなことはできない。偉くなれば別ですけど。だから、高校で好きなことやってよかったな、というか、やらせてもらってうれしかったなって言うか。そう思います。

司会　そうだね。進学なら進学校、部活で売り出せば部活。北高は進学校でもなく、部活でもない。いろんな意味でオーソドックスな学校なんだよね。これから高校はどうあったらいいのか、大きなテーマなんだ。本校みたいな学校は、このままで良いのか、それとも改革が必要なのか。みんなの視点はかなり重要なんだよね。今のところ、良かったと思う一方で、不安や物足りなさを感じるって意見が出ているけど、他にどうかな。卒業生ならではの視点で、母校を振りかえって、どう。

宮本　自分は陸上部内のきまりがあって、スカート丈や言葉遣いや、注意されていたから、あまり緩すぎるって印象がないんです。もっとも、中学に比べれば、すごく楽で過ごしやすかったんですが。今、後輩たちを見ると少し緩くなったかな、とは感じますね。

司会　先輩方の話を聞いて、どうですか、木村さん。

木村　変わったという感じはあまりしないんですよね。ただこれから、個人がやりたいことをやっていく中で、団結力が無くなって

木村　悦子

いくことが心配でしょうか。今も、協力してくれる人もいっぱいいるけど、反対の人もいっぱいいる。

鈴木　私の実感だと、私が一年の時と二年の時と大きく変わった気がします。服装検査なんかで、そう感じたんです。卒業生からすれば、自分の母校は良い学校であってほしいと思うので、不安です。

司会　率直に言ってどんなところが不安なのかな。

校則（きまり）をどう考える？

福地　服装検査にしろ、その場だけ。先生方は通しているけど、後でなおしてること、たぶん知っているんですよ。意味無いな。授業中、携帯がなることもあるし、携帯今もって当たり前。「自由」の悪い雰囲気が、今の北高にはありますよね。北高に限らず、社会全体の問題ですが。

高田　まあ、そんなに無いんですが、北高生が問題を起こしたなんて聞くと、母校ですから、「あ、残念」って思うことはあります。そういえば、小松先生、思い出しますね。厳しくて、廊下を歩いている生徒を捕まえて、スカート丈短い、髪赤いとか、けんかしちゃう。そういうのがあったな。結構恐くて、違反じゃないからこれくらい大丈夫とか、びくびくしないがらいた様な気がする。

司会　「校則」ってどう思う？必要？

高田　うーん。難しいところですね。会社に入れば、服装規定とか、何だとか、嫌になるくらいつきまとってきますから、少し慣らす感じで、あった方が良いんじゃないでしょうか。細かい校則は忘れちゃったんですが。

伊能　規則がないと下が無いくらい落ち込むじゃないですか。社会にも憲法とかいろいろある。でも、人って社会に出ると変わるから、どうしようもないヤツも社会に適応して普通の社会人になっていく。キツキツはいらないけど、ちょっとは校則も必要だろうね。

司会　伊能君が在籍していた頃の北高の状況って、まずまずの感じだったですか。

伊能　あまり厳しくはなかったと思う。僕はそんなすごい格好して来ていた訳じゃないから、よくわかんないですけど。まあ、北高なりの雰囲気を持ってたんじゃないでしょうか。

福地　あのコーソクのことなんですが……

司会　ひょっとして、みんな使ってる意味のコーソクって、縛られるって意味の拘束？

福地　違います。学校の校則の方です。（笑）私は校則って本来いらないと思うんです。生徒手帳に具体的に、スカート丈とか髪の毛とか、「高校生らしく」って書かれているけど、その高校生らしさってなんだかわからない。時代によっても変わってくると思うし、本来、校則はいらない。その時代、その年齢にあった常識ってものがあると思うんで、その中で自分たちが考えて行動すればいいと思うんです。まだ社会に出ていないから、よくわかんないんですが、社会に出たら社会の決まりに沿って自分たちで考えて、行動するんでしょ。制服のブレザーあって、スカートあって、それだけでいいと思うんです。後、厳しく注意する先生のことですが、私の中学校時代を思い出します。私たちの代はすごく厳しくて、それは先生の影響で、別にその先生を嫌うって事じゃなくて、尊敬していたし。でも私たちの卒業と同時に転勤して、今学校帰りの母校の中学生とか見るとすごいんです。格好が。自殺とか起きちゃったりしてショック受けたり。やっぱり母校って大事ですよね。

学校って生徒のもの、生徒がつくるものだけど、先生たちの影響が大きいですね。

司会　なるほどね。あの中学生が自殺した事件はショックでしたね、新聞にも出たし。さて、かなり本質論になっているけど、具体的に今北高では、茶髪が増え、ピアスが増えている。君たちの時はどうだったかな。

高田　ピアスは、せいぜい一人か二人。目立ったから、すぐ先生に捕まって、生徒指導室行きだったかな。

司会　そうだね。私も取り上げて、今も保管してる。（笑）今、君たち先輩が北高を歩いたらショックを受けるかな？

鈴木　ピアスも茶髪も、五年前とでは、やりやすさが全然違いますよ。どこでも買える。自分でも穴あけられるし、抵抗もあまりない。

伊能　僕もちょっと茶髪にしていた時期があって、会社に行ったら、先輩に「俺たちの時はそんな茶髪で社会人なんかいなかったよ」って。でも、今茶髪で会社に行ってもなにも言われないし、「オ、ナウイな」なんてね。社会がそういうのを受け入れるようになって、それが高校まで降りてきている。

高田　僕らの時と変わってきてますからね。携帯電話は一〇万くらいして、せいぜいポケベルくらい。自分の給料とボーナスでやっと携帯が買えた。社会の変わり目ですよね。

司会　なるほどね。社会の変わり目ね。さて、それでは先輩として、どういう北高であってほしいのかな。これから学区制が拡大されて、千葉県の半分くらいから北高に来られるようになる。大きな転機を迎えています。高校時代の一番の思い出って何だろう？

高校時代の一番の思い出は？

宮本　部活です。土日も練習と試合だったけど、充実してた。ずっと腰が悪かったから、三年の時は椅子に座れなくて、立って授業を受けたり大変な時もあった。一年の頃だったら、やめちゃったかもしれないけど、みんなが励ましてくれた。同じケガした子も先生もみんな。ケガをしたなら、したなりに練習すれば成果が出る。努力すれば成績も含めてそれなりに成果が出るって、わかるようになってたから。

宮本夕香里

司会　苦しかったけど、打ち込んでそれなりの結果を実感できた、と。それから、挫折の中でも、自分を支えてくれる友や先生がいる。そういう場が部活だったと。

宮本　そう。自分が思っている以上の記録も出せるって事もわかったし。

鈴木　私も部活だな。部活で出会った人はかけがえのないものだし、自分のいる場所であって、輝ける場所。大変な故障もあったけど。

司会　部活ね。それ以外はどうかな。

福地　私にとっては生徒会が部活みたいなものかな。やっていく内にかけがえのない友達ができたし、一つ一つの行事をこなすたびに、人を動かす難しさを感じて、終わった後の充実感を感じて。

司会　みんなをまとめることの大変さってどんなこと？

福地　文化祭の「写楽の絵」。クラスに配って分担したんですが、折り紙の貼り具合が、貼り絵じゃない。色の出てない方を貼ってきたり。ずれたり、大きさの違いもあって、大変。それ全部補修して。いろんな先生方に手伝っていただいたり、できあがった時は、うれしかったです。でも、アンケートで「私たちの貼った切り絵はどこ？」って。正面玄関

から入った人は見たけど、裏からの人は知らなかったんです。ピーアール不足でした。

司会　一つの行事、一つの仕事を仕上げていく苦労と充実感。後輩の意見ですが、大御所の伊能君、（笑）君の場合はどうでしたか。

伊能　いや、全くその通り。僕の前の会長の時に、指定バッグが廃止されたので、僕も何か……っていう押される様な気持ち、ありましたね。常に新しい事やろうかな、と。中学の頃までは生徒会なんて、なんでやるのか、内申点か、なんて思ってましたけど、やった時の達成感ってすばらしい。この時間勉強してたら、偏差値五くらい上がったなって思ったりするんですけど、逆に忙しいけど勉強がんばるって、勉強に打ち込めたかもしれない。

伊能　英男

司会　今振り返ってみても？

伊能　はい。人生の励みになってます。

高田　僕も、今、高校三年間なにをやっていたかなって考えていたんですが、生徒会しかないんです。あまり勉強好きじゃなかったし、部活やってなかったし。二年間の生徒会生活の中で、一年目は会長が外国人で、パッと派手なことやってたんで、その後の会長としては、プレッシャーがありまして、お前が会長になってから何もやらないのかって言われるとやだなあとか。いろいろ考えてやってましたね。金券制を始めたのも僕たちの代です。今は文化祭を仕切ってるのは文化委員だなって、この間来た時思ったんですが、僕らの頃は生徒会主体。クラスコンテストでも盛り上がってました。三〇クラス全参加で、一般公開日に一〇クラスで決勝やって盛り上がっていました。

司会　その金券制、今も続いてますよ。

高田　えっ、続いているんですか。一年間で流れるかなって思いました。利益は募金とかにしてたんですが、使途不明金がいっぱい。利益ゼロとかね。そんなわけないってんで、急遽導入したんです。

伊能　僕も買いましたよ。今も記念にとってあります。多めに買ってね。

高田　それが思い出。今のその仲間とは良い関係で、いまだに会長って呼ぶんで、もうその呼び方やめようよってのはあるんですが。後、自分の代は行事好きが多かったせいか、人を指示するのに苦労した思い出が、あんまりないんです。

……この後、金券を巡る話題に花が咲く（略）

「文化祭」を考える

伊能　文化祭はね、やる気のあるクラスだともものすごくお金かかるし、その分売り上げもすごいけど、やる気がないと金魚を買ってきて水張って、自分たちで楽しんで売り上げゼロ。指導者がいるかどうかで差がついちゃう。全員参加って、無駄も出ますね。

福地　学年の差も大きいですね。三年は積極的。企画の書き方から違う。一年生はただやりたいだけって感じ。

司会　なるほどね。文化祭の苦労はいろいろありますね。じゃ文化祭について何か。

福地　今、文化的じゃないって先生方に言われてます。模擬店ばっかり。「クラスコンテスト」の話聞いて、おもしろそうって思ったけど、やる気があるクラスばかりじゃない。どうしても休憩所とかね。（「休憩所」の声と笑）自分たちとして

福地　華恵

はいろいろやりたいこと、あるんです。どかんと花火を打ち上げたいとか。案はいくらでも出るんですけど、お金がね…今年は音楽系すごかったから、特設ステージを体育館に作って、飾りいっぱいつけて、スモーク炊いてとか。でもできなかった。

司会　でも、今年は和太鼓の「下総栄太鼓」を呼んだじゃない。

福地　あれは、メンバーがいたから。

司会　民俗芸能を文化祭に取り入れる。地域と学校が関わるという点で画期的なことだったよ。あの和太鼓の響き、地響き、すごい迫力だったよね。先生方にも好評だった。

福地　生徒にも好評でした。一日目のオープニングセレモニーを文化的にしたかった。

司会　さて、やはり文化祭ってあった方が良いのかな。

……「あったほうがいい」の声多数……

宮本　ただ最後までちゃんとやってほしいですね。後片づけもしないで、打ち上げの話に夢中とか、いらいらすることがある。でも、買い出しとか結構楽しい。

鈴木　そう。文化祭をきっかけに、男子と女子が話すようになる。だから文化祭が終わった後、みんなで集まる機会が増えたりとか。しゃべらなくちゃいけないですから、文化祭の準備のためには。

宮本　結構協力的でなさそうなクラスの男子が、一生懸命組み立てたりして。見る目変わりますよ。みんなで拍手したり。

高田　看板作ったりするじゃないですか。そうすると普段クラスの端の方で本読んでる無口なヤツが、ワー、すごいのつくったよ、なんてね。

福地　文化祭は友達の輪が広がるものとして、あった方が良いんです。販売ばっかりって先生方は言うけど、生徒会でもちゃんと考えてる。今も良いけど、なお文化的なものがいいって。

司会　と言う事は、日常ではそれがない？

宮本　中学校では、合唱コンクールや体育祭などクラス対抗の行事があって、クラス全員がまとまって練習することがありました。でも、高校はそれがないですね。球技大会だって、その場限りの団結ですむし。

司会　すると現在の高校では、日常的には友達とふれあう機会がない、と。

鈴木　別に話しなくてもすんじゃう。

福地　一定の人とある程度喋れちゃうと、それで一日過ごせちゃう。男子と女子で話す必要もない。でも、文化祭になると、力仕事は男子、細かい仕事が女子と、頼み頼まれる関係が出来て、自然に話をするようになる。

司会　私たちの目から見ると、今の高校生は男女仲良く廊下なんかで喋ってて。多少心配しながら見てるって感じがするけど。

福地　いつも同じ人ばっかりですよ、それ。

鈴木　そうじゃない人も一杯いるんです。

司会　なるほどね。他に何かあるかな。

高田　文化部の元気がないですね。今年は人数不足で出ませんとか、ゲームを企画しても、自分たちだけで楽しんでるとか。もっと、

高田　哲

文化部のメインの発表の場が文化祭だって、意識を持ってほしいですね。春の部活紹介でも、文化部は元気ないんですよね。

司会　いい意見をたくさん聞かせてもらったね。では、北高生の短所と長所を一人ずつ言ってくれませんか。

宮本　いい意味で優しいっていうかゆとりがあるのが良いところ。短所は、仕方ないのかもしれないけど、流行に流されている。自

分を持ってないみたい。コピー人間みたいに、自分が弱いから仲間で動いてる。

鈴木　いいところは、穏やかというか、朗らかなところ。短所は、自信を持って無いというか、踏ん張りが利かないところ。

司会　ゆったりのんびりとか、短所のようにも聞こえるけど……

福地　細かいことにこだわらない。人間関係が穏やかってことです。長所だと思ってます。短所はけじめがなくなっちゃうところ。ま、気持ちの問題なんですけど。

伊能　みなさんと同じ。ゆったりしすぎて、楽な方へいってしまうのが欠点ですね。生徒と教師は仲良くていいんだけど、ちゃん付けはちょっとね。（笑）けじめは必要です。

高田　短所からいうと、対外的にあまり気を遣っていない。一応学校の看板しょってるんですから、自転車の乗り方とかもっとね。長所はみんなと同じだな。癒しの雰囲気がある。

成田北高への思いは？

司会　では最後に、卒業生の目から見た将来の北高像をお願いします。今高校のあり方が、厳しく問われている時代ですが…。

福地　あまり今と変わらなくっていいかな。もっとも、いい加減さがこれ以上進むと、外から見たときいい感じしないだろうけど。

鈴木　成田近辺からの進学率が悪くなってるって話、聞いたことがあります。学校の雰囲気悪くなっているのかな。来たくなるような雰囲気であってほしい。

宮本　自分もやっぱり今の感じで良いんじゃないかと思う。ただ、何か自分で打ち込めるものがあって、一人の存在がちゃんと周りに伝わるような張り合いを持ってほしいですね。

伊能　北高はやっぱりこういう雰囲気でいつまでも。強制されずにのびのびと自分の道を探して、ま、悪いことはしない、と。その中でもけじめを持って生活できれば、それで良いと思います。いわゆる進学校みたいに、補習や補講で縛らないで……

司会　今補習とか補講の話が出ましたけど、どう思いますか。

伊能　やった方がいいかなとも思うんですが、自分のカラーが出なくなっちゃう。勉強だけが進路じゃないし、いろんな面で北高はマルチな高校になってほしい。でも自転車の乗り方とか、周りの住民のイメージ悪いんです。

鈴木　私、北高の自転車置き場で盗難にあったときは、駅で盗られたよりずっとショックでしたね。

司会　そうですよね。みんなを疑ってしまう。悲しくなるよね。

高田　一番言えるのは、成田北高出身ですって、胸を張って言えるような学校であってほしいよね。自分は今もこのあたり回って、北高出身ですって言ってるんだけど。お客さんが「わー成北なんですか」っていうような高校になってほしいですね。それに、「○○先生というのがいて、いいのよ」なんて噂が流れるようになってくれるといいですね。逆に卒業生に要望とかありますか。

司会　北高生は卒業してから伸びるんですよ。高校時代までに疲れ切ってないんだね。自分の持っている可能性を温めて生きていき、伸びていくような北高生・卒業生であってほしいですね。今日はいろいろ勉強になりました。ありがとうございました。

在校生座談会

北高生北高を語る

出席者　3年　篠田　綾子・宮本　彩・海上　隆・大竹　将司
　　2年　根本　清美・本橋　達範・増井久美子・内山　誠
　　1年　荒井　盛嗣・岡　陽平・秋山香奈恵・窪木　重信・柳瀬　夕紀
職　員　堀越　恵二（司会）　榊原　通子（記録）・戸村　玲子（記録）
日　時　平成11年11月10日（水）　場　所　本校図書館

司会　今日は二十周年を迎えた成田北高について、生徒代表として皆さんに語っていただきたいと思います。皆さんは部活や生徒会、委員会、その他で積極的に高校生活を送っているようですが、今の北高について思うこと、将来像など、率直に話して下さい。まず、北高に入ろうと考えた理由から伺います。中学生からは北高はどのように見えるのでしょう。

堀越　恵二

入学前のイメージは？　自由な校風

海上　保（たもつ）先生に惹かれました。中学の学校説明会で話をされたときの人柄です。（「私も」の声）

根本　普通科の方が、興味関心も色々な人が集まっていると思ったからです。

増井　自分の実力にあっていたし、自由な校風だと聞いていました。（「賛成」の声、多数）

司会　自由な校風というのは、どの辺で判断しましたか。

大竹　先輩の話を聞いてそう思いました。

篠田　姉の話です。皆がのびのびできる場所なんだな、と好感を持ちました。

窪木　僕も姉に楽しい学校と聞きました。校風に惹かれたと言うことです。

秋山　私は学校見学に来て、部活の熱心さを見たり、先輩の話を聞いて決めました。

宮本　私は推薦で入りましたが（推薦入試一期生）女子サッカーができるのは県内で三校だけなんです。

入ってみたら……

司会　入学してからの感想はどうですか。

本橋　もっと普通かなと思っていました。僕は図書委員なのですが、僕もヘン、マニアックと言われるが、類は友を呼ぶで、ちょっと行き過ぎかなと言う位、マニアックな人が沢山います。（笑）

本橋　達範

内山　入学前は情報が無くて、わからなかったのですが、入ったら先生方の接し方が優しくて嬉しかった。

荒井　中学より高校の先生の方が、自立させるという面で、もっと突き放す感じかなと

思っていましたが、担任の先生はじめ、ユニークで話しやすい先生が多いです。

岡　中学では何をするにも、きっかけは先生が作ってくれた。高校ではきっかけも目標も自分で作ってやっていかなくちゃ、と思う。

（一同感心。どよめく）

司会　耳の痛い話です。そう言う意味では、三年生になってもあまり考えていない子もいるようですが、どう思いますか。

篠田　確かに受験生らしくないと言われても仕方ないですが、一人一人はちゃんと考えていると思います。

宮本　そうです。言いにくいけれど、結果的に受かれば良いんですよね、そのための勉強はしています。

海上　隆

海上　僕も含めて、ウチのクラスは就職が多いけれど、夏休みも学校に来て、自分なりにやっていると思います。

大竹　大学受験と言いながら、ちっとも勉強に集中していない。進路希望が専門学校でも就職でも、やはり授業は大切にすべきだし、授業中は先生達も厳しくして欲しい。

司会　そうですね。でも、座って黒板を写すだけでは足りないと思うのですが、家庭学習などについてはどうですか。

増井　やる人とやらない人の差が激しいと思います。自分もやろうと思うが、あまりやっていない。でも、やっている人を見ると良い刺激になります。

柳瀬　高校の授業はスピードが速く、ついていくのが大変。やらなきゃいけないと思うんですが、だんだん量が少なくなってきたりして……。

北高の人間関係は？フレンドリー

司会　さて、話題を変えましょう、皆さんには色々な悩みがあると思いますが、学校の中に相談相手がいますか。

内山　根本的に悩みはありません。（笑）普段から友達に発散してしまうタイプなので

根本　学校の中に相談する人はいるし、担任の先生もよく話を聞いてくれます。

岡　僕は部活の友人に相談します。

大竹　北高の中の、中学から一緒の友達。

宮本　部活の悩みは部活の仲間、勉強なら勉強のできる人に相談します。

篠田　私も。一、二年の時は部活の先輩も力になってくれたので、部活に入っていて良かったと思っています。

司会　部活の話が出たところで、部活の人間関係はどうですか。

篠田　私はバスケですが、中学は上下関係がとても厳しかった。高校では、同じプレーヤーとして同じ目の高さで話すことができました。

宮本　左に同じ。（篠田さんの左隣から）

海上　男子バスケも同じ。フレンドリー。

根本　硬式テニスも。仲が良すぎるくらい。

行事は？　熱くなりたい

司会　学校行事に話題を移しましょう。文化祭の取り組みはどうでしょう。

増井　私は生徒会役員をしています。中学の文化祭は合唱コンクールだけでした。練習の課程でクラスの協力が生まれました。文化祭は協力性を高めるための方法だとも私は思います。高校はやる人とやらない人の差が大きいです。もう少し考

増井久美子

えた方がいい。

荒井　僕は中学では副会長でした。小規模校だったせいか、何でも学校単位の行事という感じでした。高校はクラス単位で、協力性の発揮の場というような気がします。僕のクラスは賞には入りませんでしたが、良くやったと思います。その過程が大事です。

岡　僕は中学で生徒会長でしたが、中学は合唱祭だけでした。練習していく内に皆で熱くなれた。高校の文化祭は、それほど熱くなれないだろうと思っていたけど、やってみたら皆一生懸命で良かった。成功でした。

大竹　僕は中学時代から熱かった。（笑）行事ではいつも熱かった。（笑）協力はうまく行かなくても熱かった。（笑）高校は難しいですね。大人になったって言うか、個人個人。皆で熱くなろうと思っても、そう思わない人もいるわけで、見えない壁ができていて、強制はできない。

柳瀬　夕紀

海上　僕は上手に手を抜きながら……。（笑）楽しかったですよ。

柳瀬　茶道部で先輩の姿を見て良い勉強になりました。クラスの方も、私達のクラスは黎明大賞をもらいました。初め、進みが遅くて心配しましたが、皆がんばり、ちゃんとできて良かった。

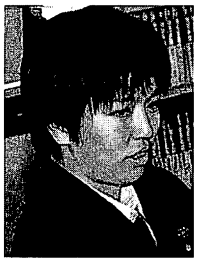
窪木　僕も同じクラスです。最初はどうしたら良いかとまどったけれど、やり始めたら、皆で結構楽しくやれました。

司会　修学旅行はどうでしたか。

大竹　僕は去年のスキー修学旅行の旅行委員長を務めました。地震のせいで突然行き先が変わり、部屋割りや班決めなど、皆やり直しになり苦労しました。でも、各代表の人が頑張ってくれたので、まとめるのにはあまり苦労しなかった。旅行自体は楽しかったし、充実していました。

海上　スキーは天候に左右されます。一日吹雪いたけど、全部晴れて欲しかった。

宮本　最終的には楽しかったけれど、やっている時は波瀾万丈。中級で始めたけれど途中で墜落。でもインストラクターは面倒見が良くてとてもいい人でした。



宮本　彩

篠田　私も楽しかった。

司会　実は、修学旅行がスキー体験学習になって七、八年が経ち、見直す声もありますが……。

篠田　運動が苦手な人にとってはチョット可哀想かなという感じがする。皆と何日間か一緒にいられることが大切なので、スキーに限らなくても良いです。

根本　私達二年生はこれからですが、楽しみです。

本橋　クラスでもスキーのスキイな人はその話をしています……いや、洒落じゃなくて。

（「俺も言えば良かった」の声と笑い）

内山　行く場所が決まっていてチョット残念。中学の時と同じ場所なんです。ホテルが楽しみとかっていうのが無くてチョットね。

内山　誠

自分たちの将来は？

司会　将来について、皆さんの夢や希望、卒業後にやってみたいことなどありますか。

篠田　今が精一杯で遠い先のことは考えて

いません。やりたいことはいっぱいあります。若い内じゃなければできないこと。卒業後は体育系の専門学校に行ってインストラクターになりたいです。

宮本　私も体育系の大学に進み、これからも運動を続けていきたい。スポーツの指導をしたいです。

海上　僕は自営業。とりあえずは修行に出て、ゆくゆくは父の後を継いで店を持ちたい。

大竹　僕は専門学校。本当は公務員の消防士になりたいけど、採用がないので、将来より求められる人材になるために、救急救命士の資格などを取っておきたい。

根本　看護婦になりたいと思っていたのですが、血が苦手だとわかったので、介護福祉士、医療事務なども考えています。

本橋　心理学が好きで、色々と本を読んだり、調べているのですが、特に犯罪心理学、中でも従来の日本の心理学ではあまり取り上げられなかった分野の勉強をしたい。（一同感嘆のどよめき）

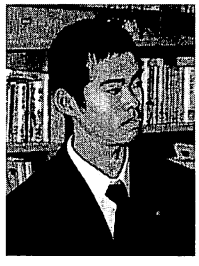
根本　清美

増井　大学に行きたいです。人の役に立てる、心の大きな、人の良いところを見つけられる人になりたい。

内山　色々な仕事が魅力的に思えて、まだ決まっていません。これから研究したい。

荒井　現実的、具体的には考えていません。学校でやっている事は、どんな分野にも通用すると思うから、ちゃんとやろうと思う。どんな進路に進むにも、全国から来る人と競わなければならないから、広く目を向けていきたいです。（感嘆の声）

岡　卒業してからのことは全然考えていません。卒業するまでに、まず何かやってやろうと思っています。僕にとっては、それは野球。野球頑張るのが本当に好きなんっすよ。野球で得るものは感動が違う。くさくなっちゃうけど。（笑いながらも「わかるよ」の拍手）今怪我して三ヶ月練習できず、審判やってるんだけど練習したくて仕方ない。ライバルを見返したい。


岡　陽平

秋山　私も卒業してからのことはまだ考えていません、陸上部のマネージャーとして頑張りたい。

窪木　まだ先のことは全然。中学の頃は、大学に行かなきゃダメかなと思っていたのですが、大学に入ってどうしたいかわからないので、これから考えていきたい。

窪木　重信

柳瀬　小さい頃から幼稚園の先生に憧れていたので、そういう仕事に就きたいです。

北高の将来像

司会　それぞれの将来を聞きましたので、北高の将来像を。北高も創立して二〇年経ちました。これからの北高はこうなっているんじゃないか、こうなって欲しいなという所があれば、どうぞ。

（「難しいな」と一同しばし考える）

大竹　北高は自由なところが売りだけれど、授業に関してはもっときちんとやった方がいい。先生方も頭に来て

大竹　将司

も、めげずに注意して欲しい。逆に、厳しすぎること、アルバイトや制服などについてはもっと考えて欲しい。アルバイトは社会勉強になる。服装だけで人の価値は決まらない。

司会　アルバイトは是非やった方がいいと思う人。一三人中九人ですか。

篠田　部活やってバイトして勉強もと三つ全部頑張るのは確かに難しいだろうけど、アルバイトも必要だと思う。お金のありがたさ、お金を得るための苦労を知らないと、使いたい放題。

秋山　何でも親に負担をかけるよりは、自分で得たお金で出かけたりしたい。

宮本　やりたい人はやればいいと思う。自分にとって高校生活は、まず部活が先。

荒井　反対って思っているわけじゃないし、親に負担かけるのは嫌だけど、アルバイトをやらなくても、高校生の時にしかできないことをいろいろやればいい。

本橋　バイトして得るものもある。僕は冬、バイトをして、八月に京都へ一人旅をした。下手に禁止しないで自由にしてしまえば良いと思う。後は個人個人が何とかすべき問題。

司会　服装の話も出ました。学校の方は、制服を定めてある以上きちんと着ましょうという姿勢ですが、制服はない方がいい？

海上　いや！制服はなくっちゃ。

司会　無くていい人。ひとりだけ？

大竹　あった方がいいけどもう少し楽にしてもいい。ラフな着こなしの方が気分的に楽。

海上　僕はあまり着崩さないけど、どっちでもいいと思う。

宮本　制服を見て、成田北高だと思われるのは事実。変な学校だと思われたくはない。

篠田　制服をきちんと着ないと気持ちまでだらけるという叱り方はチョットおかしい。先生に言われるからちゃんと着るというのもおかしいし、反抗してわざとヘンに着るというのもダメ。大切なのは服装よりも気持ちの問題だと思う。

篠田　綾子

根本　私服を選ぶのは面倒くさい。制服をきちっと着るべきとは思わない。セーターなどはよいと思う。

本橋　趣味悪いと言われるのは嫌だから制服でよいと思いますが……。よく、「外見だけで人を判断するな」というようなことを言う人もいますが、それはやはり自意識の問題で、他方では、人生行きずりの人の方が多いわけですから、大半は外見で判断されることが多いと思います。だから、ラフで個性ある着こなしも、ＴＰＯを考慮に入れてすれば、無理に制服制服と言わなくても良いと思います。「勝手に個性」ではなく、「思慮ある個性」が必要。

増井　制服は必要ないと思います。小学校はないのに、中学になるとあるのが不思議。髪の毛もまっ茶っ茶でも別に構わない。やることきちんとやっていて、人に迷惑かけなければ……。

内山　僕は制服をビシッと着こなすのが高校生と思ってきたから。

荒井　個性を出すつもりでいろいろやっているのかも知れないけれど、ちょっと違う気がする。茶髪とかピアスとか、それ自体は悪いと思わないけど、そういう部分で自己主張しなくても他でできる。

荒井　盛嗣

岡　人を見ても別にどうも思わないけれど、自分はきちっと着るのが好き。サッカーの中田みたいにちゃんとやってる人の、茶髪、ピ

アスはカッコイイ。ただだらしないだけなのはチョットね。

秋山　流行を何でもすぐまねしちゃうのもね。似合ってない時もあるし。そういうのは他の人から見るとちょっとね。親には、「人を外見で判断しちゃいけないけど、社会は外見で決めるよ。」といつも言われている。

秋山香奈恵

窪木　自分はきちんと着る方だけれど、どちらでもいい。行き過ぎは指導されても仕方ないかなと思います。

柳瀬　中学は標準服だけだったので、高校で制服があるのは嬉しかった。各自、もう少しよく考えて着ればよいと思います。

司会　話が脇にそれたので戻しますが、将来の北高像はどうでしょう。

大竹　ココ（頭を指す）。進路実績を上げる。優秀な高校に行っていたんですねと言われた方がやっぱりいい。

宮本　部活が活躍して欲しい。野球部、甲子園に行ってね（岡君に向かって。周りからも「行って！」）。

増井　人を助けてあげられるような、優しい人が多いと良い。私の壮大な夢は自分の学校を作ることなんですが、勉強も大事だけど、ハートが大切。人を育てる学校が理想。

秋山　スポーツ推薦などがあると良いと思います。部活の強い学校を見るとそう思う。

本橋　学力だけではなく、技能を伸ばす場や機会があると良いと思います。それぞれ好きな道がある人たちが、それを伸ばせるような。

司会　北高を悪く言われたくはないよね。今日は皆さんに色々なことを話していただきました。良い面も悪い面もいろいろ挙げられました。今日の話の内容は、皆さん一人一人の今後の生活にも生かして頑張って下さい。ありがとうございました。

高校生活への抱負・成田北高への期待

——平成二年度・同十二年度の新入生諸君と保護者の方々のアンケート結果を中心にして一〇年間の変遷を考える——

一　はじめに

本校創立十周年を記念して、平成二年度の入学生諸君と保護者の方々を対象にして「千葉県立成田北高等学校についてのアンケート」をお願いした。それは、本校入学にあたって、新入生諸君が、本校をどのように見ているのか、本校に何を期待されているのか、また、保護者の皆様が、新入生諸君の学校生活に対してどのようなお考えを持っているのか、お子さまの高校生活に何を期待されているのかなどについてお聞きし、本校職員が新入生諸君や保護者の方々を理解して、本校の教育実践の参考にさせていただくものであった。以後今日まで、実施できない年もあったが、入学時に可能な限り新入生諸君と保護者の皆様にアンケート調査へのご協力をお願いしてきた。

創立二十周年記念誌の発刊を機に、平成二年度・同七年度・本年度のアンケート結果を中心に、この一〇年間の移り変わりを比較検討して、今後の本校教育の課題と方向を探る一助になることを願いつつ考察を試みてみたいと思う。

なお、文中で新入生諸君のアンケートについては「アンケートⅠ」、保護者の皆様のアンケートについては「アンケートⅡ」と略記させていただいた。また、「アンケートⅠ」の設問のうち「二〇」「二六」「二八」「二九」は、総務庁青少年対策本部が五年ごとに、日本・アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・スウェーデン・韓国・フィリピン・タイ・ブラジル・ロシアの一一カ国の青年を対象に実施している『世界の青年との比較から見た日本の青年』の調査項目を利用させていただき、本校の新入生諸君と日本・アメリカ・イギリス・韓国などの青年との比較検討をしてみた。「世界青年意識調査」は、昭和四十七年以来五年ごとに実施しており、本稿で比較する調査の結果は主に昭和六十三年、平成五年、平成十年に行われたものである。調査の対象となる青年は一八歳から二四歳の青年であり、本校の新入生諸君（一五歳）との比較には無理なところもあるが、あくまでも参考資料として見ていただければと思う。

二　高校進学の目的と本校志望の理由

アンケートの冒頭で高校進学の目的を尋ねたところ、「大学に進学するため」が、平成二年度新入生諸君が四一・三%、同保護者の方が三七・六%であったが、新入生諸君の場合はその後漸減傾向をたどり、平成十二年度には三四・八%となる。保護者も三七・六%から三三・〇%に減少傾向を見せる。逆に、「専修学校（専門学校）に進学するため」は四・九%（十二年度）から漸増し一三・五%と三倍近くになり、保護者

も四・二%から八・一%とほぼ倍加している。【アンケートⅠ「一」・同Ⅱ「一」】

この傾向は、「高校卒業後の進路」についての質問項目とも共通している。「四年制大学への進学」を考えている新入生諸君は、平成二年度と平成十二年度を比較すると一〇%近く減少している（四八・〇%から三九・六%へ）。「短大への進学」は三分の一近くに激減している（平成二年度一八・一%、同十二年度六・八%）。逆に、「専修学校への進学」は、平成二年度の一三・二%から同十二年度の一八・五%へと増加している。「民間会社」「公務員関係」などの就職希望者は、あわせて五%前後でほとんど変化ないが、「まだわからない」という回答は増加傾向である（平成二年度一四・七%、同十二年度二一・六%）。保護者の場合についても似たような傾向を見せている。「四年制大学への進学」は四〇%前後で変動し、「短大への進学」は平成二年度の一六・六%から同十二年度の一〇・九%に減少し、「専修学校への進学」は一一・二%から一五・七%へと漸増している。就職希望、「まだわからない」は、新入生諸君とほとんど同じ傾向である。数年前からの「氷河期」とか「超氷河期」といわれる大学生の就職活動の厳しさや「学歴志向」の風潮の後退、大学生の学力低下など、大学進学に対する熱意が弱まり、専門学校で技術・資格を身につけたいという希望が強まっているのかもしれない。【アンケートⅠ「三十」・同Ⅱ「十一」】

本校を志望した理由としては、中学校の先生や塾・予備校の先生、親、きょうだい、先輩・友人に勧められたという回答は、平成二年度以降毎年きわめて少ない。一方、「自分自身が本校の教育方針や校風にひかれた」「本校で勉強や部活動に期するものがある」といった前向きな回答も、平成二年度にそれぞれ一八・五%、七・四%と、それほど高い数字ではなかったが、昨年度前者の回答が二九・九%と例外的に多かった以外は、毎年二〇%前後で決して高い数字ではない（本年度は前者が一九・五%、後者が八・八%）。また、「自分の学力に見合っていると考えた」という回答は、平成二年度の五四・五%という高い数字から大きく減り始めて、同十二年度は三八・八%となっている。逆に、かなりの増加を見せているのは、「通学に便利だから」という回答であった（平成二年度は八・〇%、同十二年度は一六・〇%）が、保護者の方の回答状況は微妙に異なっている。「子ども自身が本校の教育方針や校風にひかれた」という回答は、昨年度は三一・五%と高かったが、例年二〇%前後で大きな変化はないが、「子ども自身が本校での勉強や部活動に期待して」という回答は平成二年度の一八・四%から漸増して同十二年度は二八・九%となっている。これは、進学事情と中学校の進学指導の変化を反映しているのかもしれない。【アンケートⅠ「二」・同Ⅱ「二」】

三　本校に対する印象と本校教育への期待

新入生諸君、保護者の方双方に対して、「本校にどのような印象を持っていたか」を質問したところ、新入生諸君のほぼ四人に一人が「生徒の人間関係がよく、安心して過ごせる学校」と答え（平成二年度二四・八%、同十二年度二五・六%）、「まじめな生徒が多く、明るく生き生きした雰囲気」と答えた新入生は、平成二年度の一六・七%から微増して同十二年度には二〇・六%となっている。しかし、保護者の方の見る目は、「生徒の人間関係がよく、安心して過ごせる学校」という点では、毎年二〇%前後の回答を得ているが、「まじめな生徒が多く、明るく生き生きした雰囲気」という受けとめ方は、平成二年度の三五・〇%を最高に減少し続け、同十二年度は二四・一%となっている。学習面・部活

動面とともに生活面での本校の生徒諸君の状況に対する厳しい批判が反映していると考えなくてはならないだろう。同時に、新入生諸君、保護者の方の半数近くの回答が、「生徒の人間関係がよく、安心して過ごせる学校」「まじめな生徒が多く、明るく生き生きした雰囲気」であったということは、新入生諸君や保護者の方の本校に対する評価であり、熱い期待として今後とも大切にしていかなければならないところであると思う。【アンケートⅠ「三」・同Ⅱ「三」】

この思いは、入学後の本校の教育に対する「希望」にも深くつながっている。新入生諸君の学習面についての希望として「わかりやすく充実した授業が受けられること」という声が、毎回の調査で二〇％前後を占めているが（平成二年度一八・五％、同十二年度二二・一％）、なんといっても多いのが「生徒同士の交流が活発に行われ、豊かな人間性が育まれること」で、平成二年度が三五・七％であったが、毎回漸増し続けて同十二年度には四二・四％という高い数値となっている。保護者の方もほぼ同様で、「わかりやすく充実した授業が受けられること」は毎回一五％前後であるのに対し、「生徒同士の交流が活発に行われ、豊かな人間性が育まれること」が一番多く、年毎に漸増し、昨年度から三〇％を超えている（平成二年度二三・二％、同十二年度三二・二％）。

唯、「先生と生徒のふれあいが盛んで、人間味ある学校であること」という希望が、新入生諸君の場合には平成二年度には一四・一％であったが、その後漸減し同十二年度には七・三％にまで落ちているのに対して、保護者の方は、平成二年度に三五・〇％と高い数値を示し、その後二〇％台に下がったが、同十二年度の数字では二七・九％と大きな期待が寄せられている。全国的に広がっている学校教育における人間関係の深刻な歪みに対する不安とその克服への切実な期待が込められていると いえるであろう。【アンケートⅠ「三十二」・同Ⅱ「十二」】

四　中学校時代をふり返る

新入生諸君に、中学校時代をどのように受けとめているかを尋ねたところ、「とても充実していてすばらしい三年間」「どちらかといえば充実したすばらしい三年間」という高い評価をする回答が、平成二年度には六九・四％、同十二年度には七八・七％ときわめて高い数字を見せた。その理由としては、例年「友人とのこと」「部活動のこと」が圧倒的に多い。唯、昨年度、本年度とも「勉強のこと」を理由にあげた新入生諸君が一四・七％、一五・〇％とかなりの増加傾向を見せている。しかし、本年度も「つらいことや後悔することばかりである」「どちらかといえば、つらいことや後悔することの方が多い」という回答が一一・〇％あり、「どちらともいえない」という回答も一〇・三％あり、その理由として「勉強のこと」（五六・八％）「部活動のこと」（五九・一％）とともに、「友人とのこと」が五〇・〇％ほどあったことは軽視するわけにはいかない。【アンケートⅠ「四」「五」「六」】

学習に対する反省としては、「人間にとって大切であり、やりがいを感じてとりくんだ」はさすがに低く、平成二年度には四・五％しかいなかった。その後漸増傾向を見せたものの同十二年度も九・〇％であった。「どちらかといえば大切さ、やりがいを感じてとりくんだ方だと思う」にしても、平成二年度で二七・二％、同十二年度で三二・八％であった。「とても苦痛であり、嫌であった」「どちらかといえば苦痛であり、嫌であった」の回答は、あわせて平成二年度が四五・五％、同十二年度が三八・九％であった。中学生にとっては自然で、当然な数字なのか、多少問題なのか、悩ましいところである。【アンケートⅠ「七」】

部活動については、「学校生活にとって大切であり、やりがいを感じてとりくんだ」「どちらかといえば大切さ、やりがいを感じてとりくんだ方だと思う」という回答が、あわせて毎回七〇％前後から八〇％近くに及んでいる（平成二年度六九・〇％、同十二年度七七・四％）。【アンケートⅠ「八」】

小・中学校時代に「尊敬する先生、又は心に残る先生」がいたかという問に対しては、「小学校の時にも中学校の時にもいた」「小学校の時にいた」「中学校の時にいた」をあわせると、平成二年度には八四・九％、同十二年度には七七・二％という高率であったが、同時に、「どちらの時にもいない」生徒諸君が同十二年度に一三・五％いた。青少年期に一人でも「心の師」を持つことの大切さは言をまたない。全ての新入生諸君が、高校時代に、そうした「心の師」にふれることが出来ることを期待したいところである。【アンケートⅠ「九」】

中学時代の「得意な科目、又は好きな科目」を聞いたところ、平成二年度も同十二年度も社会科が一番多く（平成二年度三三・七％、同十二年度二七・三％）、同十二年度で見ると二〇％台の数値を見せたのが社会をはじめ数学、理科、英語、保体であった。男女別に見ると国語、音楽、美術については圧倒的に女子が多いが、社会、数学、理科については全くその逆になっている。「不得意な科目、又は嫌いな科目」については、平成二年度以来、毎回四〇％前後の高率でトップになっているのが数学で、次が四〇％近くの英語である（数学は平成二年度四三・三％、同十二年度四一・六％、英語は、平成二年度三八・四％、同十二年度三八・六％）。国語、社会、理科についても二〇％前後の数値を見せている。男女別では、国語、英語、音楽、美術で男子が女子を大きく上回り（平成十二年度の英語でいえば、男子が四七・五％、女子二九・四％）、社会、数学、理科、保体では女子が男子を上回っている（平成十二年度の数学でいえば、男子が三一・七％であるのに対して、女子は五一・八％である）。大学生の数学・理科離れや学力低下が問題視されて久しいが、本校生徒諸君のこうした状況も無関係ではないかもしれない。【アンケートⅠ「十」「十一」】

五　悩みやトラブルの相談相手・現在の悩みについて

進路の悩みや友人とのトラブル、異性との交際、性の問題などの相談相手について聞いてみた。平成二年度の調査の時にも注目させられたが、「進路などの問題でとても困ったり、悩んだりした時」の一番の相談相手は、毎回「母」（平成二年度は五二・七％、同十二年度は四七・九％）であり、次が平成四年度を除いて（この年は、学校の先生が三八・九％、友人が三七・三％）、毎回友人であった（平成二年度四四・〇％、同十二年度三三・六％）。進路という人生設計の基本に関わる問題で「父」という回答は、毎回二〇％に満たない（平成二年度一九・二％、同十二年度一六・八％）。いま、父親の「影」の薄さ、「存在感」の無さが社会問題となっているが、本校のアンケート調査の結果からもそのことがうかがえると思う。また、意外だったのは、「塾や予備校の先生」という回答も比較的少なかったということである（平成二年度六・五％、同十二年度一〇・三％）。【アンケートⅠ「十二」】

「イジメやケンカなど友人とのトラブルでとても困ったり、悩んだりした時」の相談相手は、一貫して「友人」と答えた新入生諸君が多く、毎回五〇％前後であった（平成二年度四八・四％、同十一年度五二・九％、同十二年度四六・一％）。現在の子どもたちの世界を考えると意外

表① 悩みや心配ごとの相談相手について

	日本		アメリカ		イギリス		韓国	
	昭63	平10	昭63	平10	昭63	平10	昭63	平10
	%	%	%	%	%	%	%	%
1父	17.4	21.9	28.5	32.9	23.2	39.4	15.4	16.8
2母	35.7	45.9	55.8	56.2	47.8	64.3	34.7	38.4
3きょうだい	18.9	19.3	32.4	30.2	21.8	33.8	29.3	29.5
(略)								
6先生	3.5	5.1	3.9	6.5	0.7	4.9	7.7	2.8
7近所や学校の友だち	48.2	52.4	24.7	27.3	20.8	25.4	61.0	68.2
(略)								
16だれとも相談しない	11.1	7.2	3.9	3.7	8.9	3.6	8.5	7.0
(略)								

「世界の青年との比較からみた日本の青年」(総務庁青少年対策本部編)

ともとれるが、高校入学時の年齢的なことからは当然だし、必要なことだとも思われる。それにしても、「学校の先生」「母」「父」に相談するという回答は毎回微増したが、平成十二年度でそれぞれ一〇・〇%、一八・〇%、五・〇%であり、「ひとには相談しない」が微減傾向を見せながらも一一・〇%(平成十二年度)もあった。【アンケートI「十三」】

「異性との交際」「性の問題」でとても困ったり、悩んだりした時の相談相手も「友人」が最も多く、前者は五四・六%(平成十二年度)、後者は二九・一%(同)であった。「母」がそれに次ぐが前者が五・五%(平成十二年度)、後者が一一・五%(同)という低い数値であり、「学校の先生」「父」はさらに低い数値であった。そして、「ひとには相談しない」が双方とも一〇%近くもあったことは軽視できないだろう。【アンケートI「十四」「十五」】

総務庁青少年対策本部が五年ごとに実施している「世界の青年との比較から見た日本の青年」(「世界青年意識調査報告書」)の第四回調査報告書(昭和六十三年度)、同第五回調査報告書(平成五年度)、同第六回調査報告書(平成十年度)における「悩みや心配ごとがあった場合、だれに相談」するかの回答状況と比較検討してみると、相談相手として「近所や学校の友だち」を一番多く上げたのは、日本の青年(昭和六十三年度四八・二%、平成五年度五一・九%、同十年度五二・四%)と韓国の青年(平成十年度六八・二%)であった。本校の新入生諸君と際だった違いを見せたのは、他の九ヵ国の青年が相談相手として一番多く上げたのが、なんといっても「母」であったということである。アメリカは昭和六十三年度五五・八%、平成五年度五四・九%、同十年度五六・二%であり、イギリスはそれぞれ四七・八%、五三・五%、六四・三%であった。因みに、日本の青年は、三五・七%、三七・七%、四五・九%であり、本校の新入生諸君ほど低くはなかったが、韓国と同様他の国々よりはきわめて低い数値であった。また、本校の新入生諸君は相談相手として「父」をほとんど上げていないが、各国の青年は、「母」ほどではないが「父」の存在も相談相手として高く意識している(日本は、昭和六十三年度一七・四%、平成五年度一八・八%、同十年度二一・九%、アメリカは、それぞれ二八・五%、三〇・一%、三二・九%、イギリスは、それぞれ二三・二%、二七・九%、三九・四%)。「先生」はど

この国も低く、一〇％未満であった。（表①参照）

では、新入生諸君が、現在どのような「悩み」を抱えているのかを聞いたところ、一番多かったのが「勉強のこと」であった（平成二年度三五・五％、同十二年度三四・六％）。次に上げられたのが「進学のこと」（平成二年度三四・四％、同十二年度二七・三％）であり、続いて「友人や仲間のこと」（平成二年度二二・一％、同十二年度一六・〇％）であったが、平成七年度については「進学のこと」と「友人や仲間のこと」が逆転していた（それぞれ一五・九％、二二・八％）。男女差はそれほど目立たなかったが、男子が女子をかなり上回った項目は「進路のこと」（男子三一・七％、女子二二・八％）「就職のこと」（同一五・三％、八・六％）「異性との交際のこと」（男子一六・三％、女子八・六％）「部活動のこと」（男子一三・四％、女子七・六％）などで、女子が男子を上回ったのが「性格のこと」（男子七・九％、女子一三・二％）「容姿のこと」（男子六・九％、女子一五・七％）などであった。

【アンケートI「二十九」】

「世界青年意識調査報告書」では、フランスを除いて、ほとんど毎回、各国とも「お金のこと」がトップであった。日本の青年は、昭和六十三年度三五・〇％、平成五年度三四・九％、同十年度二八・六％とそれほど高い数値ではないが、アメリカ（平成十年度五六・七％）、イギリス（同五八・六％）、ロシア（同五八・三％）などは五〇％を大きく上回る数値であった。年齢構成が大きく作用していると思われるが、各国とも「就職のこと」「仕事のこと」が二〇％から四〇％と、比較的高い数値であった。「勉強のこと」が突出していたのはフランス（平成十年度四〇・四％）で、次いでスウェーデン（三四・四％）、韓国（二九・〇％）、フィリピン（二七・五％）、アメリカ（二六・五％）と続き、日本

表②　悩みや心配ごとについて

	日本		アメリカ		イギリス		韓国	
	昭63	平10	昭63	平10	昭63	平10	昭63	平10
	%	%	%	%	%	%	%	%
1 勉強のこと	15.4	9.9	16.8	26.5	3.9	21.1	37.2	29.0
2 進学のこと	9.9	8.2	10.2	15.2	1.9	9.9	31.1	22.0
3 就職のこと	25.5	26.8	24.9	25.8	23.6	30.3	35.4	40.8
4 仕事のこと	32.3	24.9	16.9	25.2	12.9	19.1	14.0	18.4
5 家族のこと	16.4	11.2	17.0	24.2	11.3	21.9	23.5	17.7
6 友人や仲間のこと	15.3	7.8	8.9	12.1	4.1	8.7	18.7	12.3
7 異性との交際のこと	24.0	10.7	17.2	22.4	9.0	15.9	23.7	20.4
セックスに関すること	4.4		6.7		2.5		4.6	
8 お金のこと	35.0	28.6	53.1	56.7	45.8	58.6	34.3	44.3
9 政治や社会のこと	6.9	7.3	22.3	16.9	13.7	12.6	15.8	10.5
10性格のこと	20.6	9.7	7.6	6.1	4.2	5.9	30.4	16.3
11健康のこと	21.0	11.4	15.1	17.0	13.4	20.2	23.1	13.6
12容姿のこと	16.2	6.7	14.0	14.1	8.6	12.6	11.8	13.0
13その他	7.3	0.7	5.3	2.6	3.8	4.1	0.9	1.2
14悩みや心配ごとはない	12.8	28.2	17.0	13.4	26.2	15.4	3.7	6.3
15無回答・わからない	5.0	1.1	0.2	1.2	2.1	0.5	0.6	0.3

「世界の青年との比較からみた日本の青年」（総務庁青少年対策本部編）

は漸減傾向を示して一〇％を切ってしまった（昭和六十三年度一五・四％、平成五年度一〇・四％、同十年度九・九％）。（表②参照）

六　家庭での生活の様子

現在、子どもたちをめぐって家庭生活のあり方が問われている。両親との対話がどうなっているかを聞いたところ、「両親とよく話しあう」という回答が平成二年度三四・四％、同十二年度三九・六％、「母とはよく話しあう」が同二年度二五・七％、同十二年度二三・八％で、あわせると毎回六〇％前後となる。決して低い数値ではないが、「父とはよく話しあう」が皆無に近いこと（平成十二年度〇・五％）、「両親とはほとんど話しあわない」が毎回五％前後、「必要に応じて、又はその時の気分で」が三〇％前後という状況は留意したいところであろう。保護者の方の回答も、「ほとんど話しあわない」が若干低く、「必要に応じて、又はその時の気分で」が若干高いが、新入生諸君とほとんど変わらない傾向を見せている。【アンケートⅠ「十六」・同Ⅱ「四」】

「家の仕事の手伝いについて」は、「必要に応じて」が新入生諸君も保護者の方も毎回一番多く、平成十二年度はそれぞれ五二・九％、四三・七％であり、「毎日分担して」いるという回答は、毎回それぞれ一五％強、一五％弱と決して高いものではなかった。「家でどのような仕事をして」いるかを聞いたところ、新入生諸君が四八・一％、保護者の方が五五・一％と最も多かったのが「自分の部屋の掃除」であり、毎回変わらない。家族のために（みんなのために）やっている仕事で多かったのは、新入生諸君・保護者の方とも「風呂の水替え」（平成十二年度新入生諸君三七・八％、保護者の方三七・八％）と「買い物」（同三五・三％、同三四・三％）であった。【アンケートⅠ「十七」「十八」・同Ⅱ「五」「六」】

「自分の親をどのように感じて」いるかを尋ねたところ、「両親共敬愛している」「両親とも好きである」が、毎回五五％前後であった。唯、「なんともいえない」が毎回三〇％前後あったが、いわゆる反抗期（自立期）の年頃であることを考えれば、親子関係は決して悪いとはいえないかもしれない。要は、肝心な時、大事な時に、この親子関係がどのように機能するかであろう。【アンケートⅠ「十九」】

七　友人関係について

「親しい友人」の存在を尋ねたところ、平成七年度の「同性の親しい友人」が四八・六％と他の年度より二〇％ほど低かったが、他の年度は七〇％前後で、「両方（同性・異性）ともいる」をあわせると九五％前後という高い数値を見せた。【アンケートⅠ「二十」】

しかし、「世界青年意識調査報告書」によると、「両方ともいる」という回答は、日本の場合、昭和六十三年度四八・五％、平成五年度四六・九％、同十年度五二・九％と五〇％前後であり、「同性の親しい友人がいる」は昭和六十三年度四四・五％、平成五年度四八・九％、同十年度四四・七％であった。韓国、フィリピン、タイなどのアジア諸国では日本と似たような傾向を見せ、「両方ともいる」は、それぞれ五七・三％、三三・二％、三九・七％（いずれも平成十年度）にとどまった。それに対し、欧米諸国では、ドイツの八五・九％（平成十年度）をはじめとしてどの国も七〇％を超えている。（表③参照）

「親しい友人」とはどんな人間関係かを尋ねたところ、「悩みごとを相談しあったり、考え方や生き方、進路のことなどを話しあえる友人」が毎回最高で三〇％前後。「自分のことと同様に相手のことを考えあい、

表③　親しい友人の有無について

	日本		アメリカ		イギリス		韓国	
	昭63	平10	昭63	平10	昭63	平10	昭63	平10
	%	%	%	%	%	%	%	%
1 同性の親しい友人がいる	44.5	44.7	12.0	13.9	13.5	15.9	55.3	39.0
2 異性の親しい友人がいる	2.7	1.1	4.2	4.8	2.6	1.6	2.4	2.2
3 両方ともいる	48.5	52.9	81.8	76.9	78.3	79.6	40.3	57.3
4 いない	3.0	1.1	1.9	3.7	5.3	3.0	1.8	1.3
5 わからない・無回答	1.4	0.2	0.1	0.7	0.3		0.2	0.2

「世界の青年との比較からみた日本の青年」（総務庁青少年対策本部編）

時には相手のために、相手から嫌われるようなことでも言いあえる友人」も大体二〇％近くの回答であった。「趣味や悩みが一致し、楽しく話しあえる友人」は、平成七年度が四〇・九％と高かったが、他の年度ではいずれも二〇％台前半であった。新入生諸君の「親友」への思い、「親友」を見る目の健康さ、真剣さを感じないわけにはいかなかった。

保護者の方も、毎回五〇％前後の高率で一番多かったのは「悩みごとを相談しあったり、考え方や生き方、進路のことなどを話しあえる友人」（平成二年度四六・八％、同十二年度四九・七％）で、「自分のことと同様に相手のことを考えあい、時には相手のために、相手から嫌われるようなことでも言いあえる友人」が二〇％前後で続いている（平成二年度一九・九％、同十二年度二〇・六％）。保護者の方々が自分の子どもの世界に寄せる切なる思いを感じさせられた。【アンケートⅠ「二十一」・同Ⅱ「七」】

八　テレビ・音楽・読書・こづかいについて

「一日平均、何時間位テレビを見」るかとの問には、「二時間以上三時間未満」が毎回多かったが、二時間以上見るを合算すると実に八〇％前後という高い数字になる（平成十二年度八六・七％）。逆に、「レコードやラジオ」は「一時間未満」が毎回五〇％近く、「二時間未満」として合算すると七〇％以上となる。【アンケートⅠ「二十二」「二十三」】

読書の内容では、常に「マンガ」が群を抜いている（平成二年度五三・八％、同十二年度五四・四％）。次が「週刊誌など」で平成二年度二九・二％、同十二年度三一・三％であった。三年間にわたって図書部・図書委員会が実施した本校生徒の読書調査の結果とも符合し、「本離れ」「読書離れ」の状況の深刻さを改めて感じさせられた。【アンケートⅠ「二十四」】

一ヶ月に使うこづかいについては、平成七年度（三四・五％）を除いて毎回「三、〇〇〇円以上五、〇〇〇円未満」が一番多く、いずれも四〇％前後であった。「三、〇〇〇円未満」を含めると、平成七年度を除いて六〇％前後の数値となる。【アンケートⅠ「二十五」・同Ⅱ「八」】

九　人生観や生きがいについて

人生にどのような目標を持つかを聞いたところ、一貫して多かったのは「自分の好きなように暮す」で（平成二年度四二・四％、同十二年度四六・六％）、「経済的に豊かになる」が続いた（平成二年度三九・七％、同十二年度三〇・一％）。「社会的な地位」「社会のために尽くす」はい

ずれも一〇%に満たないことが多かった。一方、保護者の方は、「社会のために尽くす」「経済的に豊かになる」「自分の好きなように暮す」がほぼ三分する形であった（平成十二年度は、それぞれ二九・九%、二五・六%、二二・八%であった）。保護者の方々の方が、若い新入生諸君よりも、理想の人生を思い描いているようにも思えるがどうなのだろうか。【アンケートⅠ「二十六」・同Ⅱ「九」】

この項目は、平成十年度の第六回「世界青年意識調査報告書」からは削除されているが、昭和六十三年度、平成五年度の回答では、どの国の青年も「自分の好きなように暮らす」が圧倒的に多かった（平成五年度の結果では、日本五六・三%、アメリカ六五・二%、イギリス六七・七%、ドイツ六四・五%、フランス五二・六%、韓国五七・五%など）。「経済的に豊かになる」という回答で一番多かったのは、日本（昭和六十三年度三八・七%、平成五年度二八・三%）で、他のほとんどの国々は日本の数値の半分以下であった。「社会のために尽くす」は、日本六・五%、アメリカ九・六%（いずれも平成五年度）をはじめ、どの国の数値もきわめて低かった。（表④参照）

「人生にとって一番大切なもの」を質問したところ、平成四年度に最多であった「健康」（二六・〇%）を除いて、毎回「人間性」が一番多かった（平成二年度三三・〇%、同七年度三一・二%、同十二年度二四・八%）。次が「考え方や生き方」と「健康」、そして「家庭の幸せ」と続いた。意外だったのは、「経済力」「社会的地位」「学歴」「仕事」「学習」「趣味」などがきわめて低かったことである。男女差は「人間性」「考え方や生き方」とも、男子の方が女子より五%ほど高かった。

保護者の方々は、「人間性」（平成十二年度三二・二%）、「健康」（同二九・四%）、「考え方や生き方」（同二六・一%）に三分されていたが、数値こそ多少のズレはあるが、毎回これらの三項目に集中している。【アンケートⅠ「二十七」・同Ⅱ「十」】

「どんな時に生きがいを感じ」るかを問う質問に対しては、「スポーツや趣味に打ち込んでいる時」が毎回一番多く（平成二年度四二・九%、同十二年度三三・六%）、次が「友人や仲間といる時」（平成二年度三四・四%、同十二年度三二・三%）で、「社会のために役立つことをしている時」などは毎回一〇%以下であった。男女差はほとんどなかったが、「スポーツや趣味に打ち込んでいる時」という回答は、男子三七・六%に対し女子は二九・四%と若干低かった。逆に、「家族といる時」という回答は、男子が一人もいなかったのに対し、女子は一一・二%ほどいた（平成十二年度）。【アンケートⅠ「二十八」】

表④　最も重視する人の暮らし方について

	日本		アメリカ		イギリス		韓国	
	昭63	平5	昭63	平5	昭63	平5	昭63	平5
	%	%	%	%	%	%	%	%
1 経済的に豊かになる	38.7	28.3	15.2	14.1	18.6	14.6	16.1	24.3
2 社会的な地位を得る	5.1	4.5	7.3	7.4	16.6	8.9	7.2	6.4
3 自分の好きなように暮らす	46.6	58.3	66.3	65.2	56.4	67.7	59.4	57.5
4 社会のために尽くす	2.8	6.5	10.2	9.6	6.7	7.2	16.3	11.8
5 無回答	6.8	4.5	1.1	3.8	1.7	1.7	1.1	—

「世界の青年との比較からみた日本の青年」（総務庁青少年対策本部編）

表⑤　どんなときに充実していると感じるかについて

	日本		アメリカ		イギリス		韓国	
	昭63	平10	昭63	平10	昭63	平10	昭63	平10
	%	%	%	%	%	%	%	%
1 社会のために役立つことをしているとき	9.7	10.9	33.9	38.6	22.0	28.9	46.3	28.7
2 仕事に打ち込んでいるとき	27.6	30.4	40.4	43.8	38.9	33.2	59.1	51.2
3 勉強に打ち込んでいるとき	10.5	14.9	23.4	38.0	15.0	20.7	33.4	28.4
4 スポーツや趣味に打ち込んでいるとき	58.3	50.6	39.6	27.9	36.7	43.0	31.0	35.0
5 家族といるとき	21.3	26.2	77.8	70.5	61.6	75.3	42.5	33.3
6 友人や仲間といるとき	62.0	74.0	81.2	66.8	75.3	79.6	42.9	53.7
7 親しい異性といるとき		30.0		39.2		60.9		26.5
8 他人にわずらわされず、一人でいるとき	13.7	17.1	22.1	23.3	15.5	22.6	28.0	24.7
9 充実していると感じるときはない		1.6		1.2		0.2		1.2
10無回答・わからない	6.9	0.8	—	2.2	1.2	0.2	1.5	0.7

「世界の青年との比較からみた日本の青年」（総務庁青少年対策本部編）

「世界青年意識調査報告書」によれば、日本の青年の回答で毎回トップを占めていたのは「友人や仲間といる時」（昭和六十三年度六二・〇%、平成五年度七〇・八%、平成十年度七四・〇%）で、次いで「スポーツや趣味に打ち込んでいる時」（昭和六十三年度五八・三%、平成五年度五九・五%、同十年度五〇・六%）であったが、他の国々では、アメリカのトップは「家族といる時」（平成十年度七〇・五%）、次が「友人や仲間といる時」（同六六・八%）、イギリスは、トップが「友人や仲間といる時」（同七九・六%）、次が「家族といる時」（同七五・三%）、フランスはトップが「友人や仲間といる時」（同六八・六%）、次が「家族といる時」（同五九・八%）であり、欧米諸国が「家族といる時」の大切さを極めて強く意識しているのに対し、日本・韓国などは意外に低いのが注目された（日本は、昭和六十三年度二一・三%、平成五年度二三・五%、同十年度二六・二%）。また、日本の青年は「社会のために役立つことをしている時」（平成十年度一〇・九%）、「勉強に打ち込んでいる時」（平成十年度一四・九%）が他国に比べて際だって低かった。（表⑤参照）

十　おわりに

激しい社会の変化、強くめまぐるしい刺激、社会全体を覆う不安・動揺の中で、高校生を含めて子どもたちの世界は安らぎや希望を実感しにくい状況にある。おとなをとりまく世界もきわめて厳しい環境にあるが、豊かな経験と広く深い思考力・判断力を身につけている立場から、子どもたちとの多様なふれあい、的確な対応が求められている。そのためには、日常的な子どもたちへの働きかけと子どもたちの理解が欠かせない。

前述した通り、本校では、平成二年度以来、新入生諸君と保護者の皆様を対象にアンケート調査を実施してきた。アンケート結果を機械的・短絡的に評価することは戒めなければならないが、それは、本校の教育に対する提言であり、期待であるとともに、なによりも新入生諸君と保護者の皆様を理解する一助になってきた。二十周年を記念してアンケート結果について概観してみたが、決して十分な考察は出来ていないと思う。皆様のご意見・ご批判を賜り、アンケートに寄せられた新入生諸君

・保護者の皆様の「声」が今後の本校の教育に生かされることを願ってやまない。

年度始めというお忙しい時期に、快くアンケートにご協力いただいた新入生諸君、保護者の皆様に心からお礼を申し上げるとともに、アンケートの集計作業にあたって、当該学年の生徒諸君のご協力にも改めてお礼を申し上げます。

（文責　手島和史）

イラスト同好会　森真弓（2年）

千葉県立成田北高等学校についての

新入生諸君のアンケート集計結果(I)

アンケートの目的　本校の教育状況並びに学校生活に対する意見や希望・抱負を集約する

アンケート対象者及び実施時期

平成２年度入学生　対象者数　459名(男子263名・女子196名)
回収状況　448名(97.6%)(男子254名・女子194名)
実施時期　平成２年４月上旬

平成７年度入学生　対象者数　404名(男子207名・女子197名)
回収状況　391名(96.8%)(男子197名・女子194名)
実施時期　平成７年４月上旬

平成12年度入学生　対象者数　402名(男子205名・女子197名)
回収状況　399名(99.3%)(男子202名・女子197名)
実施時期　平成12年４月上旬

質　問　項　目	平成２年度 割合(%)	平成７年度 割合(%)	平成12年度 割合(%)
1　あなたの高校進学の主な目的は何ですか。次の項目から一つを選んで下さい。			
ア　大学に進学するため	41.3	35.8	34.8
イ　専修学校（専門学校）に進学するため	4.9	8.2	13.5
ウ　資格をとるために、高卒の学歴が必要なため	0.9	1.0	1.0
エ　高卒の学歴がないと就職に不利なため	4.9	6.6	6.0
オ　高校位出ていないといろいろと困ると思ったため	18.5	15.6	14.8
カ　高校卒業後の進路というより、高校で勉強したかったため	4.2	4.1	7.3
キ　高校での部活動をやりたかったため	3.8	6.9	7.0
ク　高校生という立場で３年間を過したかったため	17.4	15.1	15.3
ケ　中学卒業で実社会に出たくなかったため	3.8	2.3	1.3
コ　唯なんとなく（まわりの人が行くので）	1.3	2.8	2.0
サ　その他	0.2	0.8	1.8
無　答	0	0.8	0
2　あなたが本校への志望を決めた主な理由を一つ選んで下さい。			
ア　中学校の先生に勧められたから	5.1	3.3	6.5
イ　塾や予備校の先生に勧められたから	0.2	1.3	2.8
ウ　親に勧められたから	2.2	1.5	2.8
エ　兄姉に勧められたから	0.4	2.3	1.8
オ　先輩や友人に勧められたから	1.1	3.3	3.5
カ　自分自身が本校の教育方針や校風にひかれたから	18.5	16.9	19.5
キ　本校で勉強や部活動などに期するものがあったから	7.4	8.4	8.8
ク　通学に便利だから	8.0	10.2	16.0
ケ　自分の学力に見合っていると考えたから	54.5	45.0	38.8
コ　親しい友人と一緒だから	0.9	1.3	1.5
サ　唯なんとなく	1.8	4.3	1.0
シ　その他	0.2	1.5	0.5
無　答	0.2	1.5	0.5

質　問　項　目	平成２年度 割　合 (%)	平成７年度 割　合 (%)	平成12年度 割　合 (%)
3　あなたは本校にどのような印象を持っていましたか。主なものを一つ選んで下さい。			
ア　まじめな生徒が多く、明るく生き生きした雰囲気	16.7	11.8	20.6
イ　勉強に意欲的で、よい緊張感がある学校	3.3	0.8	4.3
ウ　生徒会活動や部活動が活発で個性のある学校	10.9	17.4	9.8
エ　生徒の人間関係がよく、安心してすごせる学校	24.8	26.6	25.6
オ　おとなしい生徒が多いが、勉強や部活動などに意欲が欠ける感じ	1.6	0.5	1.5
カ　落着きはあるが、これという特徴がない学校	5.6	7.7	5.3
キ　校則などが厳しそうで、きゅうくつな感じ	3.8	1.5	0.8
ク　生活態度やマナーがだらしなく、いい加減な感じ	0.9	1.0	3.3
ケ　特に考えたことがない	17.9	22.5	20.6
コ　よくわからない	14.5	9.2	10.3
サ　その他	0.7	4.6	2.8
無　答	0	0.3	0.5
4　あなたは、中学時代をふり返ってどのような感じを持っていますか。一つ選んで下さい。			
ア　とても充実していてすばらしい３年間だった	21.0	31.5	40.9
イ　どちらかといえば、充実したすばらしい３年間だったといえる	48.4	41.2	37.8
ウ　どちらかといえば、つらいことや後悔することの方が多い	15.6	10.7	9.5
エ　つらいことや後悔することばかりである	2.7	2.6	1.5
オ　どちらともいえない	13.8	13.8	10.3
カ　その他	0.4	0.8	1.5
無　答	0	0	1.3
5　（「４」で「ア」又は「イ」と答えた人） そのようにふり返ることの出来る主な理由を、下から二つまで選んで下さい。			
ア　勉強のこと	9.0	7.7	15.0
イ　部活動のこと	56.3	59.5	59.2
ウ　生徒会や委員会活動のこと	8.0	7.0	11.1
エ　先生とのこと	13.5	11.2	9.9
オ　友人とのこと	85.2	78.8	80.6
カ　親とのこと	1.0	1.4	1.9
キ　きょうだいとのこと	1.0	0	0.3
ク　趣味のこと	5.8	6.7	8.9
ケ　学校や家庭外でのこと	6.8	7.7	7.3
コ　よくわからない	0.3	1.0	1.3
サ　その他	0.6	1.0	4.5
無　答	0	0	0
6　（「４」で「ウ」又は「エ」と答えた人） そのようにふり返らざるを得ない主な理由を、下から二つまで選んで下さい。			
ア　勉強のこと	47.6	44.2	56.8
イ　部活動のこと	50.0	55.8	59.1
ウ　生徒会や委員会活動のこと	7.3	7.7	6.8
エ　先生とのこと	12.2	13.5	20.5

質　　問　　項　　目	平成２年度 割　合　(%)	平成７年度 割　合　(%)	平成12年度 割　合　(%)
オ　友人とのこと	30.5	69.2	50.0
カ　親とのこと	2.4	1.9	6.8
キ　きょうだいとのこと	0	0	2.3
ク　趣味のこと	7.3	3.8	2.3
ケ　学校や家庭外でのこと	12.2	9.6	18.2
コ　よくわからない	3.7	0	0
サ　その他	0	1.9	4.5
無　答	0	0	0
7　中学時代をふり返って、勉強に対してどのような感じを持っていますか。一つ選んで下さい。			
ア　人間にとって大切なことであり、やりがいを感じてとりくんだ	4.5	5.9	9.0
イ　どちらかといえば、大切さ、やりがいを感じてとりくんだ方だと思う	27.2	26.6	32.8
ウ　どちらかといえば、苦痛であり、嫌であった	40.4	36.6	32.6
エ　とても苦痛であり、嫌であった	5.1	5.4	6.3
オ　どちらともいえない	23.0	24.0	18.3
カ　その他	0	1.0	1.5
無　答	0	0.5	0.5
8　中学校をふり返って、部活動に対してどのような感じを持っていますか。一つ選んで下さい。			
ア　学校生活にとって大切なことであり、やりがいを感じてとりくんだ	31.9	37.1	44.1
イ　どらちかといえば、大切さ、やりがいを感じてとりくんだ方だと思う	37.1	37.6	33.3
ウ　どらかといえば、苦痛であり、嫌であった	16.1	12.0	10.5
エ　とても苦痛であり、嫌であった	2.9	3.6	0.8
オ　部活動には参加していなかった	1.8	2.6	2.3
カ　部活動は途中でやめてしまった	9.2	5.9	8.0
キ　その他	1.1	3.8	1.0
無　答	0	2.0	1.5
9　あなたは、小学校や中学校に、尊敬する先生、又は心に残る先生がおりましたか。			
ア　小学校の時にも、中学校の時にもいた	46.7	41.4	43.6
イ　小学校の時にいた	13.2	11.3	10.8
ウ　中学校の時にいた	20.5	28.1	22.8
エ　どちらの時にもいない	6.0	10.0	13.5
オ　よくわからない	13.4	10.0	9.0
カ　その他	0.9	0.3	1.3
無　答	0	0.8	0.3
10　中学校時代、得意な科目、又は好きな科目を二つまで選んで下さい。			
ア　国　語	18.3	15.9	14.3
イ　社　会	33.7	25.8	27.3
ウ　数　学	20.8	24.0	20.6
エ　理　科	19.4	17.4	21.3
オ　英　語	23.0	24.3	25.3

質　問　項　目	平成2年度 割合(%)	平成7年度 割合(%)	平成12年度 割合(%)
カ　音　楽	12.5	14.1	15.8
キ　美　術	13.8	17.6	17.0
ク　保　体	23.2	28.1	25.3
ケ　技・家	15.4	10.0	9.5
コ　特になし	3.1	3.3	3.3
無　答	0	0	0.5
11　中学校時代、不得意な科目、又は嫌いな科目を二つまで選んで下さい。			
ア　国　語	19.9	23.3	21.6
イ　社　会	17.9	19.9	22.6
ウ　数　学	43.3	37.3	41.6
エ　理　科	22.5	23.8	18.3
オ　英　語	38.4	35.0	38.6
カ　音　楽	14.1	8.7	10.0
キ　美　術	13.8	11.5	11.3
ク　保　体	9.8	7.2	9.0
ケ　技・家	5.8	5.6	7.0
コ　特になし	1.3	3.3	1.3
無　答	0	0	0
12　あなたは、進路などの問題でとても困ったり、悩んだりした時、誰に相談しましたか（相談しますか）。二つまで選んで下さい。			
ア　父			
イ　母	19.2	16.1	16.8
ウ　兄弟姉妹	52.7	42.7	47.9
エ　祖父母	6.7	18.7	5.5
オ　親戚の人	0.2	0.5	0.3
カ　学校の先生	1.1	3.3	3.5
キ　友　人	31.0	30.7	27.3
ク　知　人	44.0	38.9	33.6
ケ　塾や予備校の先生	2.2	1.8	5.3
コ　電話相談など外部の専門機関	6.5	11.0	10.3
サ　ひとには相談しない	0	0.3	0.8
シ　困ったり悩んだりしたことがないのでわからない	6.9	6.6	7.3
ス　その他	7.4	4.6	6.8
無　答	0.2	0.3	0.8
	0	0	0
13　あなたは、イジメやケンカなど、友人とのトラブルでとても困ったり悩んだりした時、誰に相談しましたか（相談しますか）。二つまで選んで下さい。			
ア　父	3.1	4.1	5.0
イ　母	11.8	10.2	18.0
ウ　兄弟姉妹	3.8	4.1	4.0
エ　祖父母	0.4	0.5	0.5
オ　親戚の人	0	0.3	0.3
カ　学校の先生	7.4	11.0	10.0
キ　友　人	48.4	46.8	46.1
ク　知　人	6.9	5.6	6.8

質　問　項　目	平成2年度 割合(%)	平成7年度 割合(%)	平成12年度 割合(%)
ケ　塾や予備校の先生	0.4	0.8	1.8
コ　電話相談など外部の専門機関	0.2	0.5	0.5
サ　ひとには相談しない	15.8	13.6	11.0
シ　困ったり悩んだりしたことがないのでわからない	31.3	24.3	26.8
ス　その他	0	0.3	1.0
無　答	0.2	0	0.5
14　あなたは、異性の友人との交際について、とても困ったり、悩んだりした時、誰に相談しましたか（相談しますか)。二つまで選んで下さい。			
ア　父	0.7	0.8	0.8
イ　母	4.9	3.3	5.5
ウ　兄弟姉妹	4.5	4.6	4.3
エ　祖父母	0.2	0	0
オ　親戚の人	0.4	1.0	0.3
カ　学校の先生	1.1	2.3	0.8
キ　友　人	59.8	49.9	54.6
ク　知　人	6.0	6.1	5.5
ケ　塾や予備校の先生	0.9	0.8	1.8
コ　電話相談など外部の専門機関	0.4	0.5	0.3
サ　ひとには相談しない	14.7	16.4	9.8
シ　困ったり悩んだりしたことがないのでわからない	29.5	26.6	31.8
ス　その他	0.4	0.3	0.3
無　答	0	7.9	0.3
15　あなたは、性の問題でとても困ったり、悩んだりした時、誰に相談しましたか（相談しますか)。二つまで選んで下さい。			
ア　父	2.0	1.5	4.5
イ　母	12.3	9.5	11.5
ウ　兄弟姉妹	2.0	3.3	2.3
エ　祖父母	0	0	0.8
オ　親戚の人	0.4	0.3	1.8
カ　学校の先生	0.7	1.5	3.3
キ　友　人	34.6	33.8	29.1
ク　知　人	4.2	3.1	4.8
ケ　塾や予備校の先生	0.7	0.3	0.3
コ　電話相談など外部の専門機関	0	1.3	1.0
サ　ひとには相談しない	15.2	18.2	9.0
シ　困ったり悩んだりしたことがないのでわからない	48.7	43.0	44.6
ス　その他	0.2	0	0.8
無　答	0	6.1	3.8
16　あなたは、両親とよく話しあいますか。			
ア　両親とよく話しあう	34.4	35.0	39.6
イ　父とはよく話しあう	2.5	1.3	0.5
ウ　母とはよく話しあう	25.7	22.3	23.8
エ　両親とほとんど話しあわない	3.8	7.9	4.8
オ　必要に応じて、又はその時の気分で話しあう程度である	31.3	35.3	28.1
カ　その他	1.8	0.3	0.3
無　答	0.7	0	0.5

質　問　項　目	平成2年度 割合(%)	平成7年度 割合(%)	平成12年度 割合(%)
17　あなたは、家の仕事の手伝いをどのようにやっていますか。一つ選んで下さい。			
ア　毎日、自分のやる仕事が決められていて、その仕事に責任を持たされている	20.6	16.9	16.5
イ　一週間に何日か（何回か）、自分のやる仕事が決められていて、その仕事に責任を持たされている	5.4	27.4	10.5
ウ　日曜日など、学校の休みの日に、自分のやる仕事が決められている	3.3	2.0	4.0
エ　必要に応じて手伝う程度である	63.4	63.7	52.9
オ　ほとんど手伝わない	6.9	6.4	7.8
カ　全く手伝わない	1.6	3.3	3.0
キ　その他	0.2	1.5	1.5
無　答	0.2	0.5	0
18　あなたは家でどのような仕事をしていますか。よくやっているものを幾つでも選んで下さい。			
ア　ふとんを敷いたり片付けること（ベッドメーキング）	34.4	25.8	24.3
イ　炊事の手伝い	23.7	18.7	26.1
ウ　食事の後片付け	31.7	35.5	35.3
エ　買　物	18.5	19.4	14.0
オ　洗　濯	10.7	12.5	12.3
カ　部屋の清掃	28.8	23.5	20.1
キ　庭の清掃	2.9	6.1	2.3
ク　自分の部屋の清掃	58.0	63.2	48.1
ケ　雨戸などの開け閉め	29.9	27.9	27.1
コ　病気の家族の世話	1.6	3.1	2.8
サ　弟妹の世話	6.0	8.7	7.5
シ　風呂の水替え（風呂洗い）	34.2	36.3	38.8
ス　家の修理など	2.2	3.6	1.8
セ　針仕事	1.6	1.0	1.5
ソ　家業の手伝い	6.7	4.3	5.8
タ　犬などのペットの世話	19.2	14.1	20.8
チ　その他	1.6	0	1.5
無　答	1.1	1.0	0.5
19　あなたは、自分の親をどのように感じていますか。一つ選んで下さい。			
ア　両親共敬愛している	21.9	22.0	21.8
イ　両親共好きである	35.3	26.3	35.1
ウ　父を敬愛している	3.1	1.0	1.3
エ　父が好きである	1.1	1.0	1.5
オ　母を敬愛している	2.5	2.0	2.5
カ　母が好きである	3.6	4.1	6.8
キ　両親共敬愛していない	1.1	2.3	0.8
ク　両親共好きでない	1.8	2.6	2.8
ケ　なんともいえない	30.4	36.6	29.1
コ　両親共いない	0	0	0
サ　その他	0.4	1.3	0.5
無　答	0	0.8	0.5

質　問　項　目	平成２年度 割　合 (%)	平成７年度 割　合 (%)	平成12年度 割　合 (%)
20　あなたは、親しい友人がいますか。一つ選んで下さい。			
ア　同性の親しい友人がいる	75.4	48.6	68.2
イ　異性の親しい友人がいる	1.3	3.6	0.3
ウ　両方ともいる	24.6	24.0	26.8
エ　いない	1.1	3.8	2.5
オ　その他	1.3	10.0	1.3
無　答	0	10.0	1.3
21　あなたにとって「親しい友人」とはどのような友人ですか。一つ選んで下さい。			
ア　趣味や好みが一致し、楽しく話しあえる友人	25.2	40.9	22.3
イ　おたがいに誘いあって、遊びや買物に一緒に出かける友人	12.3	18.4	9.3
ウ　悩みごとを相談しあったり、考え方や生き方、進路のことなどを話しあえる友人	31.9	34.3	32.3
エ　自分のことと同様に相手のことを考えあい、時には相手のために、相手から嫌われるようなことでも言いあえる友人	16.3	16.1	19.8
オ　一緒に趣味やスポーツ、レジャーなどを楽しみあうが、おたがいのプライバシーには干渉しない友人	2.2	1.3	0.3
カ　相手の人格を尊重しあうが、おたがいに切磋琢磨して、不断に努力しあう友人	0.4	0.5	1.3
キ　気が向いた時に一緒に過したり遊んだりして、なんとなく気持の安らぎを覚える友人	4.2	2.0	4.8
ク　おたがいにイジワルしたりしないで、ふだん、普通に話しあえる友人	3.6	2.3	2.8
ケ　特に考えたことはない	3.1	4.9	6.3
コ　その他	0.7	0.5	2.0
無　答	0	2.6	0
22　あなたは、一日平均、何時間位テレビを見ますか。一つ選んで下さい。			
ア　１時間未満	4.9	17.1	3.5
イ　１時間以上２時間未満	21.7	23.3	10.8
ウ　２時間以上３時間未満	36.2	26.6	30.8
エ　３時間以上４時間未満	21.4	24.6	25.6
オ　４時間以上５時間未満	10.3	10.2	16.0
カ　５時間以上	6.3	7.2	13.8
無　答	0.2	3.1	0.5
23　あなたは、一日平均、何時間位レコードやラジオを聴いていますか。一つ選んで下さい。			
ア　１時間未満	42.2	47.4	47.1
イ　１時間以上２時間未満	31.0	23.5	31.1
ウ　２時間以上３時間未満	17.0	13.8	11.8
エ　３時間以上４時間未満	5.1	8.7	4.8
オ　４時間以上５時間未満	2.3	2.0	2.5
カ　５時間以上	3.1	1.8	3.5
無　答	0	2.8	0.5
24　あなたは、ふだんどんな本をよく読みますか。二つまで選んで下さい。			
ア　普通の小説（夏目漱石の作品など）	12.5	24.8	11.3

質　問　項　目	平成2年度 割合(%)	平成7年度 割合(%)	平成12年度 割合(%)
イ　SF小説	7.1	21.2	5.0
ウ　推理小説	16.7	11.5	11.5
エ　学園ものなど（コバルトブックなど）	15.8	7.2	4.5
オ　週刊誌など	29.2	33.5	31.3
カ　エッセイ	1.6	3.8	6.8
キ　マンガ	53.8	61.4	54.4
ク　社会科学関係など	0.7	0.8	1.3
ケ　自然科学関係など	1.3	0.5	1.5
コ　特に決まっていない	16.3	22.0	15.8
サ　本はほとんど読まない	3.8	5.9	8.0
シ　その他	2.9	4.6	4.5
無　答	0	1.5	0.3
25　あなたのおこづかいは、平均して一ヵ月いくら位ですか。一つ選んで下さい。（学用品、昼食代などは除く）			
ア　3,000円未満	17.0	7.9	19.8
イ　3,000円以上5,000円未満	42.2	24.6	43.9
ウ　5,000円以上10,000円未満	31.3	34.5	21.3
エ　10,000円以上15,000円未満	3.1	6.4	4.8
オ　15,000円以上20,000円未満	2.0	2.0	0.3
カ　20,000円以上	0.2	0.5	0.3
キ　その他	4.0	20.0	7.5
無　答	0.2	4.1	2.3
26　あなたは、人のくらし方について、どのような考えを持っていますか。一つ選んで下さい。			
ア　経済的に豊かになる	39.7	16.9	30.1
イ　社会的な地位を得る	4.2	11.8	8.5
ウ　自分の好きなように暮す	42.4	51.4	46.6
エ　社会のために尽くす	12.3	11.3	8.5
オ　その他	1.6	3.3	4.5
無　答	0	5.3	2.3
27　あなたは、あなたの人生にとって一番大切なものは何であると考えていますか。一つ選んで下さい。			
ア　人間性	33.0	31.2	24.8
イ　考え方や生き方	15.2	12.5	22.3
ウ　自由や権利	5.8	10.0	7.5
エ　経済力	4.7	2.3	6.5
オ　社会的地位	0.9	2.8	0.8
カ　学　歴	2.9	0.3	2.3
キ　家庭の幸せ	11.6	11.3	14.8
ク　仕　事	0.4	0	0.3
ケ　学　習	1.1	0	2.0
コ　健　康	19.9	20.2	14.8
サ　趣　味	2.0	3.3	4.8
シ　レジャーや遊び	2.2	0.8	1.8
ス　その他	0.7	2.0	2.8
無　答	0	3.3	0.5

質　問　項　目	平成2年度 割合(%)	平成7年度 割合(%)	平成12年度 割合(%)
28　あなたは、どんな時に生きがいを感じますか。一つ選んで下さい。			
ア　社会のために役立つことをしている時	9.2	6.6	10.8
イ　仕事に打ち込んでいる時	2.7	19.2	2.5
ウ　勉強に打ち込んでいる時	2.9	1.0	3.0
エ　スポーツや趣味に打ち込んでいる時	42.9	44.8	33.6
オ　家族といる時	2.0	5.4	5.5
カ　友人や仲間といる時	34.4	29.7	32.3
キ　他人にわずらわされず、一人である時	2.7	3.8	4.5
ク　その他	2.9	3.8	4.0
無　答	0.4	1.8	3.8
29　現在、あなたは悩みや心配ごとを持っていますか。持っている場合は、該当するものを幾つでも選んで下さい。			
ア　勉強のこと	35.5	36.3	34.6
イ　進学のこと	34.4	15.9	27.3
ウ　就職のこと	7.6	11.8	12.0
エ　仕事のこと	2.5	2.3	2.5
オ　家族のこと	4.7	3.8	5.3
カ　友人や仲間のこと	22.1	22.8	16.0
キ　異性との交際のこと	8.9	10.0	12.5
ク　セックスに関すること	1.6	1.8	3.8
ケ　お金のこと	11.4	14.1	14.0
コ　政治や社会のこと	1.6	2.0	6.3
サ　性格のこと	6.7	12.3	10.5
シ　健康のこと	4.7	7.2	4.8
ス　容姿のこと	6.5	14.1	11.3
セ　部活動のこと	13.4	7.9	10.5
ソ　学校や先生のこと	4.5	6.4	6.5
タ　悩みや心配ごとはない	19.6	8.4	24.1
チ　その他	0	0	2.8
無　答	1.1	4.3	2.5
30　あなたは、高校卒業後の進路をどのように考えていますか。一つ選んで下さい。			
ア　民間会社への就職	3.6	0.8	2.8
イ　公務員関係	1.3	2.3	3.3
ウ　家業に従事	0.7	0.5	2.5
エ　四年制大学への進学	48.0	43.5	39.6
オ　短大への進学	18.1	13.0	6.8
カ　専修学校への進学	13.2	15.9	18.5
キ　まだわからない	14.7	34.6	21.6
ク　その他	0.7	0.8	0.8
無　答	0.4	0.3	4.3
31　あなたは、将来、どのような職業につきたいと考えていますか。一つ選んで下さい。			
ア　事務職	16.3	5.6	8.8
イ　販　売	3.3	3.8	2.5
ウ　技　術	11.8	11.3	11.0

質　問　項　目	平成２年度 割　合 (%)	平成７年度 割　合 (%)	平成12年度 割　合 (%)
エ　専門職（保母・看護婦・教員など）	18.8	22.5	31.3
オ　自営（商店などの経営）	5.6	3.1	1.5
カ　農　業	0.2	0.8	0.8
キ　自由業（芸能人・弁護士など）	5.6	5.4	6.8
ク　家事従事	1.8	0.8	0.5
ケ　わからない	33.0	32.5	30.3
コ　その他	3.6	6.1	4.8
無　答	0.2	8.1	1.8
32　あなたは、学校への希望としてどのようなものを考えていますか。一つ選んで下さい。			
ア　わかりやすく充実した授業が受けられること	18.5	24.6	22.1
イ　生活指導が徹底され、きちんとした学校生活が送られること	4.2	2.6	5.0
ウ　部活動などが活発で、個性的で特徴のある学校であること	13.6	13.0	8.3
エ　進路指導が徹底され、多様な進路希望が実現されること	5.1	6.4	5.3
オ　生徒同士の交流が活発に行なわれ、豊かな人間性が育くまれること	35.7	36.6	42.4
カ　先生と生徒のふれあいが盛んで、人間味ある学校であること	14.1	9.0	7.3
キ　施設・設備が整っていて、快適な学校生活が送れること	4.0	4.3	5.3
ク　特に希望はない	4.9	4.6	3.8
無　答	0.2	0.5	1.0

千葉県立成田北高等学校についての

新入生の保護者の皆様のアンケート集計結果(Ⅱ)

アンケートの目的　本校の教育状況並びに学校生活に対する意見や希望・抱負を集約する

アンケート対象者及び実施時期

平成２年度入学生保護者　対象者数　459名
回収状況　457名（99.6%）
実施時期　平成２年４月上旬

平成７年度入学生保護者　対象者数　404名
回収状況　391名（96.8%）
実施時期　平成７年４月上旬

平成12年度入学生保護者　対象者数　402名
回収状況　394名（98.0%）
実施時期　平成12年４月上旬

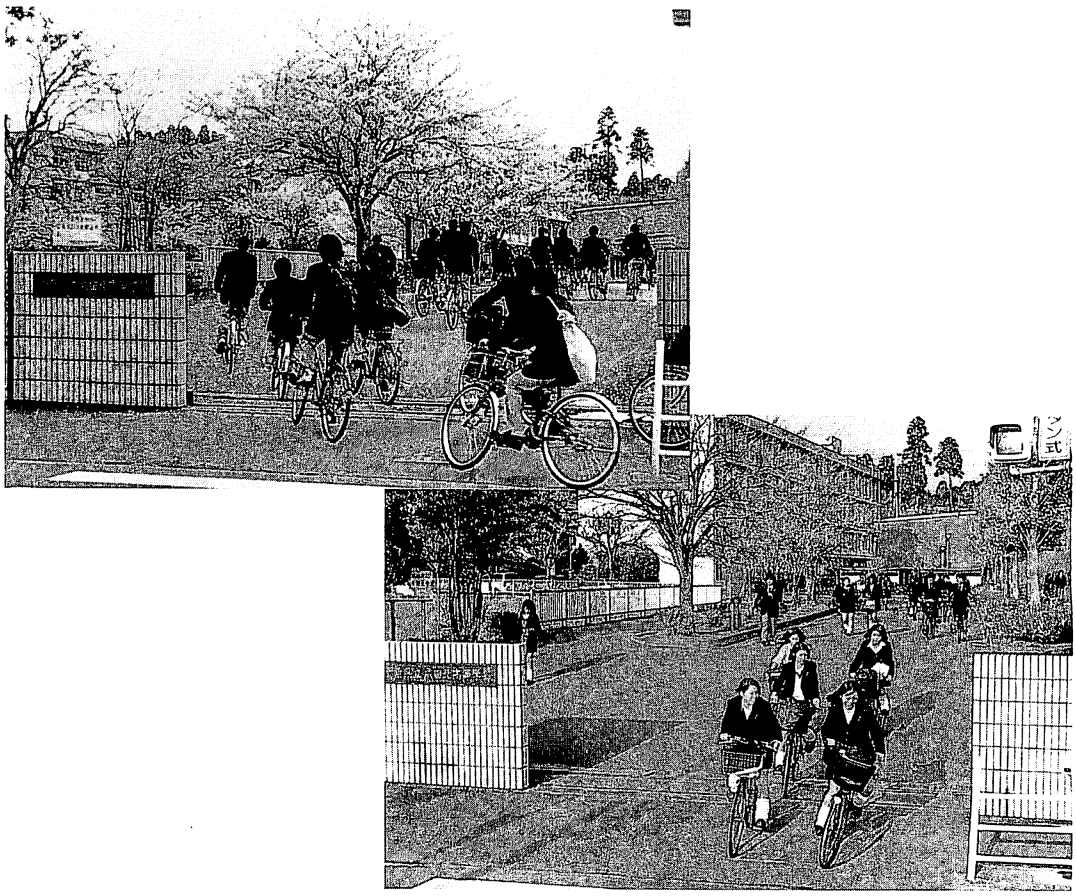
質　問　項　目	平成２年度 割　合 (%)	平成７年度 割　合 (%)	平成12年度 割　合 (%)
1　お子さまの高校進学の主な目的は何ですか。次の中から一つ選んで下さい。			
ア　大学に進学させるため（４年制大学・短大）	37.6	38.6	33.0
イ　専修学校（専門学校）に進学させるため	4.2	6.1	8.1
ウ　資格をとるためには高卒の学歴が必要なため	2.6	2.3	4.8
エ　高卒の学歴がないと就職に不利なため	4.2	4.9	2.3
オ　高校位出ていないといろいろと困ると思ったため	11.4	12.5	10.4
カ　高校卒業後の進路というより、高校で勉強させたかったため	21.2	15.9	16.5
キ　高校で部活動をやらせたかったため	0.7	2.8	2.5
ク　高校生という立場で３年間を過させたかったため	16.8	17.1	21.6
ケ　中学卒業で実社会に出させたくなかったため	1.1	1.3	0.5
コ　唯なんとなく（まわりのお子さんたちが行くので）	0.2	0	0.3
サ　その他	0	0.8	0.8
無　答	0	1.3	0.3
2　お子さまを本校へ進ませた主な理由を一つ選んで下さい。			
ア　中学校の先生に勧められたから	9.6	5.6	2.5
イ　塾や予備校の先生に勧められたから	0.2	0.5	1.8
ウ　私たち（父母）が勧めたから	4.2	2.3	3.3
エ　子どもの兄姉が勧めたから	0.2	0.8	0.8
オ　子どもの先輩や友人が勧めたから	0.7	0.5	0.3
カ　親戚や知人が勧めたから	1.1	0.3	0.3
キ　子ども自身が本校の教育方針や校風にひかれたから	22.5	22.3	21.3
ク　子ども自身が本校での勉強や部活動などに期待して	18.4	26.1	28.9
ケ　通学に便利だから	4.8	5.6	7.1
コ　子どもの学力を考えて	35.2	32.0	32.5
サ　子どもの親しい友人と一緒だったので	1.3	0.5	0.5
シ　唯なんとなく	0	0	0
ス　その他	0	1.8	1.3
無　答	2.0	1.8	0

質　問　項　目	平成2年度 割合(%)	平成7年度 割合(%)	平成12年度 割合(%)
3　あなたは本校にどのような印象を持っていましたか。主なものを一つ選んで下さい。			
ア　まじめな生徒が多く、明るく生き生きした雰囲気	35.0	22.0	24.1
イ　勉強に意欲的で、よい緊張感がある学校	6.8	3.3	3.3
ウ　生徒会活動や部活動が活発で個性のある学校	2.8	6.9	4.8
エ　生徒の人間関係がよく、安心してすごせる学校	19.0	21.0	21.3
オ　おとなしい生徒が多いが、勉強や部活動などに意欲が欠ける感じ	4.4	2.8	2.3
カ　落着きはあるが、これという特徴がない学校	4.6	9.0	7.1
キ　校則などが厳しそうで、きゅうくつな感じ	1.1	1.3	0
ク　生活態度やマナーがだらしなく、いい加減な感じ	0.7	1.0	1.3
ケ　特に考えたことがない	12.0	12.3	16.2
コ　よくわからない	13.6	19.4	19.0
サ　その他	1.5	3.1	1.8
無　答	0	2.0	0.3
4　お子さまは、ご両親とよく話しあいますか。			
ア　よく話しあう	45.3	41.9	43.9
イ　父とはよく話しあう	0.9	2.0	0.8
ウ　母とはよく話しあう	15.8	18.2	17.3
エ　ほとんど話しあわない	2.2	6.1	1.8
オ　必要に応じて、又はその時の気分で話しあう程度である	36.3	38.1	36.3
カ　その他	0.4	2.0	0
無　答	0	0.8	0
5　お子さまの家の仕事の手伝いについてどうされていますか。一つ選んで下さい。			
ア　家の仕事を毎日分担させている	14.0	11.8	14.5
イ　毎日ではないが、定期的に仕事を分担させている	5.5	8.7	11.4
ウ　日曜日ごとに仕事を手伝わせている	1.8	2.0	0.3
エ　必要に応じて仕事を手伝わせている	43.8	41.7	43.7
オ　自分の部屋の清掃や身のまわりのことをさせている	26.0	24.6	20.6
カ　ほとんど手伝わない	7.4	6.6	7.4
キ　全く手伝わない	0.4	1.8	0.5
ク　その他	0.9	0.8	0
無　答	0.9	1.0	0.3
6　お子さまは、家でどのような仕事をしていますか。よくやっているものを幾つでも選んで下さい。			
ア　ふとんを敷いたり片付けること（ベッドメーキング）	33.5	24.0	22.3
イ　炊事の手伝い	23.0	23.8	28.2
ウ　食事の後片付け	28.7	28.1	34.3
エ　買　物	19.0	13.8	14.7
オ　洗　濯	10.9	8.2	10.4
カ　部屋の清掃	23.0	21.0	21.8
キ　庭の清掃	3.5	1.0	2.3
ク　自分の部屋の清掃	62.6	54.7	55.1
ケ　雨戸などの開け閉め	28.9	19.4	25.1
コ　病気の家族の世話	1.1	1.8	2.8
サ　弟妹の世話	7.7	8.7	10.4

質　問　項　目	平成２年度 割　合　(%)	平成７年度 割　合　(%)	平成12年度 割　合　(%)
シ　風呂の水替え（風呂洗い）	32.2	25.3	37.8
ス　家の修理など	3.9	0.5	0.5
セ　針仕事	2.0	0.8	0.8
ソ　家業の手伝い	7.9	6.1	7.1
タ　犬などのペットの世話	21.9	20.2	19.5
チ　その他	1.8	2.6	1.3
無　答	0.2	0.8	1.0
7　お子さまが一番親しくしている友人は、どんな友人であってほしいですか。一つ選んで下さい。			
ア　趣味や好みが一致し、楽しく話しあえる友人	12.3	13.3	10.9
イ　おたがいに誘いあって、遊びや買物に一緒に出かける友人	2.8	3.1	2.0
ウ　悩みごとを相談しあったり、考え方や生き方、進路のことなどを話しあえる友人	46.8	47.3	49.7
エ　自分のことと同様に相手のことを考えあい、時には相手のために、相手から嫌われるようなことでも言いあえる友人	19.9	17.1	20.6
オ　一緒に趣味やスポーツ、レジャーなどを楽しみあうが、おたがいのプライバシーには干渉しない友人	1.3	1.0	1.8
カ　相手の人格を尊重しあうが、おたがいに切磋琢磨して、不断に努力しあう友人	9.2	9.5	7.4
キ　気が向いた時に一緒に過したり遊んだりして、なんとなく気持のやすらぎを覚える友人	2.6	2.3	3.8
ク　おたがいにイジワルしたりしないで、ふだん、普通に話しあえる友人	2.6	3.8	2.5
ケ　特に考えたことはない	1.3	1.8	0.8
コ　その他	0.2	1.0	0.3
無　答	0.9	1.6	0.3
8　お子さまのこづかいは、平均して一ヵ月いくら位ですか。一つ選んで下さい。（学用品、昼食代などは除く）			
ア　3,000円未満	18.4	10.5	19.3
イ　3,000円以上5,000円未満	53.8	45.8	48.5
ウ　5,000円以上10,000円未満	21.0	33.5	24.4
エ　10,000円以上15,000円未満	1.8	5.9	2.8
オ　15,000円以上20,000円未満	0.9	1.0	0.3
カ　20,000円以上	0	0.3	0
キ　その他	1.8	2.8	3.3
無　答	2.4	0.3	1.5
9　あなたは、お子さまの人生がどうあってほしいとお考えですか。一つ選んで下さい。			
ア　経済的に豊かになる	28.7	25.8	25.6
イ　社会的な地位を得る	6.3	3.8	4.3
ウ　自分の好きなように暮す	23.4	23.5	22.8
エ　社会のために尽くす	29.3	33.0	29.9
オ　その他	10.5	11.3	14.0
無　答	1.8	2.8	3.3

質　問　項　目	平成2年度 割合(%)	平成7年度 割合(%)	平成12年度 割合(%)
10　あなたはお子さんの人生にとって一番大切なものは何であると考えていますか。一つ選んで下さい。			
ア　人間性	44.2	38.9	32.2
イ　考え方や生き方	14.9	23.3	26.1
ウ　自由や権利	0.4	1.3	0.3
エ　経済力	1.8	1.0	1.8
オ　社会的地位	0.4	0	0
カ　学　歴	0.2	0	0.3
キ　家庭の幸せ	10.1	5.6	8.6
ク　仕　事	0	0	0.3
ケ　学　習	0.2	0.3	0
コ　健　康	26.0	28.9	29.4
サ　趣　味	0	0	0
シ　レジャーや遊び	0.2	0	0
ス　その他	0.2	0.5	0.3
無　答	1.3	1.0	0.8
11　お子さまの高校卒業後の進路をどのように考えていますか。一つ選んで下さい。			
ア　民間会社への就職	4.4	2.8	3.0
イ　公務員関係	5.3	5.6	7.6
ウ　家業に従事	0.7	0.5	0.8
エ　四年制大学への進学	42.9	45.0	40.6
オ　短大への進学	16.6	11.5	10.9
カ　専修学校への進学	11.2	13.8	15.7
キ　まだわからない	15.5	16.6	22.3
ク　その他	1.8	2.8	1.8
無　答	1.8	1.4	0.3
12　あなたは、学校への希望としてどのようなものを考えていますか。一つ選んで下さい。			
ア　わかりやすく充実した授業が受けられること	17.3	17.6	14.7
イ　生活指導が徹底され、きちんとした学校生活が送られること	10.3	7.7	6.9
ウ　部活動などが活発で、個性的で特徴のある学校であること	3.1	4.1	3.3
エ　進路指導が徹底され、多様な進路希望が実現されること	9.6	14.8	12.7
オ　生徒同士の交流が活発に行なわれ、豊かな人間性が育くまれること	23.2	28.6	32.2
カ　先生と生徒のふれあいが盛んで、人間味ある学校であること	35.0	24.6	27.9
キ　施設・設備が整っていて、快適な学校生活が送れること	0.9	0	2.0
ク　特に希望はない	0.4	0.5	0.8
無　答	0.7	1.6	0

現況並びに資料



教育課程の変遷

平成２年度

教科	科目	標準単位数	1年	2年	3年 文科系	3年 理科系	単位数合計 文科系	単位数合計 理科系	合計
国語	国語Ⅰ	4	5				5	5	文—16〜18 理—12〜14
	国語Ⅱ	4		4			4	4	
	国語表現	2			〔2〕	〔2〕	0〜2	0〜2	
	現代文	3			3	3	3	3	
	古典	4			4		4		
社会	現代社会	4	4				4	4	文—16 理—12
	日本史	4			5	4	5	4	
	世界史	4		(4)┐ 4			0〜4	0〜4	
	地理	4		(4)┘			0〜4	0〜4	
	倫理	2			(3)┐ 3		0〜3		
	政治・経済	2			(3)┘		0〜3		
数学	数学Ⅰ	4	5				5	5	文—11〜13 理—17
	代数・幾何	3		3			3	3	
	基礎解析	3		3			3	3	
	微分・積分	3				3		3	
	確率・統計	3			〔2〕	3	0〜2	3	
理科	理科Ⅰ	4	4				4	4	文—12 理—14
	物理	4		(4)┐	(4)┐	(6)┐	0〜4	0〜6	
	化学	4		(4)┼ 4	(4)┼ 4	(6)┼ 6	0〜4	0〜6	
	生物	4		(4)┘	(4)┼	(6)┘	0〜4	0〜6	
	地学	4			(4)┘		0〜4		
保健体育	体育	7〜9	男4・女2	男4・女2	3	3	男11・女7	男11・女7	男—13 女—9
	保健	2	1	1			2	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	(2)┐				0〜2	0〜2	4〜6
	音楽Ⅱ	2	│	(2)┐			0〜2	0〜2	
	音楽Ⅲ	2	│	│	(2)┐	(2)┐	0〜2	0〜2	
	美術Ⅰ	2	(2)┼	│	│	│	0〜2	0〜2	
	美術Ⅱ	2	│ 2	(2)┼	│	│	0〜2	0〜2	
	美術Ⅲ	2	│	│ 2	(2)┼	(2)┼	0〜2	0〜2	
	工芸Ⅰ	2	(2)┼	│	│ 〔2〕	│ 〔2〕	0〜2	0〜2	
	工芸Ⅱ	2	│	(2)┼	│	│	0〜2	0〜2	
	工芸Ⅲ	2	│	│	(2)┼	(2)┼	0〜2	0〜2	
	書道Ⅰ	2	(2)┘	│	│	│	0〜2	0〜2	
	書道Ⅱ	2		(2)┘	│	│	0〜2	0〜2	
	書道Ⅲ	2			(2)┘	(2)┘	0〜2	0〜2	
外国語	英語Ⅰ	4	5				5	5	16〜18
	英語Ⅱ	5		5			5	5	
	英語ⅡA	3			〔2〕	〔2〕	0〜2	0〜2	
	英語ⅡB	3			3	3	3	3	
	英語ⅡC	3			3	3	3	3	
家庭	家庭一般	4	女2	女2			女4	女4	女—4
特別活動	ホームルーム	3	1	1	1	1	3		6
	クラブ活動	3	1	1	1	1	3		
合計			32	32	32	32	96		96

注１．各学年とも（　）および〔　〕の組より１科目選択
注２．３年文科系は、国語表現、確率・統計、芸術、英語ⅡAより１科目選択
　　３年理科系は、国語表現、芸術、英語ⅡAより１科目選択

平成７年度

教科	科目	標準単位数	1年	2年	3年 文科系	3年 理科系	文科系	理科系	合計
国語	国語Ⅰ	4	4				4	4	文— 14〜20 理— 11〜15
	国語Ⅱ	4		4			4	4	
	国語表現	2			▲2	▲2	0〜2	0〜2	
	現代文	4			3	3	3	3	
	現代語	2							
	古典Ⅰ	3		△2			0〜2	0〜2	
	古典Ⅱ	3			3		3		
	古典講読	2			△2		0〜2		
地理歴史	世界史A	2							文— 10 理— 8
	世界史B	4			4(2)	4	4〜6	4	
	日本史A	2							
	日本史B	4		(4)	(2)		0〜6	0〜4	
	地理A	2							
	地理B	4		(4)	(2)		0〜6	0〜4	
公民	現代社会	4	4				4	4	文— 6 理— 4
	倫理	2			(2)		0〜2		
	政治経済	2			(2)		0〜2		
数学	数学Ⅰ	4	4				4	4	文— 7〜13 理— 12〜16
	数学Ⅱ	3		3			3	3	
	数学Ⅲ	3				3		3	
	数学A	2		△2	▲2	▲2	0〜2	0〜2	
	数学B	2			△2	2	0〜2	2	
	数学C	2			▲2	▲2	0〜2	0〜2	
理科	総合理科	4							文— 10〜12 理— 14
	物理ⅠA	2			△2		0〜2		
	物理ⅠB	4		(4)			0〜4	0〜4	
	物理Ⅱ	2			(2)	(3)	0〜2	0〜3	
	化学ⅠA	2							
	化学ⅠB	4	4				4	4	
	化学Ⅱ	2			(2)	3	0〜2	3	
	生物ⅠA	2			△2		0〜2		
	生物ⅠB	4		(4)			0〜4	0〜4	
	生物Ⅱ	2			(2)	(3)	0〜2	0〜3	
	地学ⅠA	2			△2		0〜2		
	地学ⅠB	4		(4)			0〜4		
	地学Ⅱ	2			(2)		0〜2		
保体	体育	7〜9	3	3	3 △2	3	9〜11	9	文—11〜13
	保健	2	1	1			2	2	理— 11
芸術	音楽Ⅰ	2	(2)				0〜2	0〜2	文— 4〜6 理— 4〜6
	音楽Ⅱ	2		(2)			0〜2	0〜2	
	音楽Ⅲ	2			▲2	▲2	0〜2	0〜2	
	美術Ⅰ	2	(2)				0〜2	0〜2	
	美術Ⅱ	2		(2)			0〜2	0〜2	
	美術Ⅲ	2			▲2	▲2	0〜2	0〜2	
	工芸Ⅰ	2	(2)				0〜2	0〜2	
	工芸Ⅱ	2		(2)			0〜2	0〜2	
	工芸Ⅲ	2			▲2	▲2	0〜2	0〜2	
	書道Ⅰ	2	(2)				0〜2	0〜2	
	書道Ⅱ	2		(2)			0〜2	0〜2	
	書道Ⅲ	2			▲2	▲2	0〜2	0〜2	
外国語	英語Ⅰ	4	4				4	4	文— 17〜19 理— 17〜19
	英語Ⅱ	4		5			5	5	
	OC・A	2	2				2	2	
	OC・B	2			▲2	▲2	0〜2	0〜2	
	OC・C	2							
	リーディング	4			3	3	3	3	
	ライディング	4			3	3	3	3	
家庭	家庭一般	4	2	2	△2		4〜6	4	文— 4〜6 理— 4
	生活技術	4							
	生活一般	4							
商業	情報処理	2〜5			▲2	▲2	0〜2	0〜2	文理0〜2
教科単位数合計		30	30		29	29	89		
特活	ホームルーム活動	1	1		1	1	3		6
	クラブ活動	1	1		1	1	3		
合計		32	32		31	31	95		

文科系
・（　）は教科内から１科目を、△▲は自由選択群でそれぞれ１科目ずつ選択する。
・３年の地理・歴史の必修選択２単位分は、２・３年で履修した科目とする。
・数学Aは重複して履修できない。
・３年理科Ⅱは、１・２年で履修した科目とする。また理科1Aは、１・２年で履修しなかった科目とする。

理科系
・（　）は教科内から１科目を、▲は自由選択群で１科目を選択する。
・数学Aは重複して履修できない。
・３年の理科Ⅱは、２年で履修した科目とする。

平成12年度

教科	科目	標準単位数	1年	2年	3年 文科系	3年 理科系	文科系	理科系	合計
国語	国語Ⅰ	4	4				4	4	文14～20 理11～15
	国語Ⅱ	4		4			4	4	
	国語表現	2			▲2	▲2	0～2	0～2	
	現代文	4			3	3	3	3	
	古典Ⅰ	3		(2)			0～2	0～2	
	古典Ⅱ	3			3		3	0	
	古典講読	2			△2		0～2	0	
地理歴史	世界史B	4			4(2)	4	4～6	4	文10 理8
	日本史B	4		(4)	(2)		0～6	0～4	
	地理B	4		(4)	(2)		0～6	0～4	
公民	現代社会	4	4				4	4	文6 理4
	倫理	2			(2)		0～2	0	
	政治経済	2			(2)		0～2	0	
数学	数学Ⅰ	4	4				4	4	文7～13 理12～16
	数学Ⅱ	3		3			3	3	
	数学Ⅲ	3				3	0	3	
	数学A	2		(2)	▲2	▲2	0～2	0～2	
	数学B	2			△2	2	0～2	2	
	数学C	2			▲2	▲2	0～2	0～2	
理科	物理ⅠA	2			△2		0～2	0	文10～12 理14
	物理ⅠB	4		(4)			0～4	0～4	
	物理Ⅱ	2			(2)	(3)	0～2	0～3	
	化学ⅠB	4	4				4	4	
	化学Ⅱ	2			(2)	3	0～2	3	
	生物ⅠA	2			△2		0～2	0	
	生物ⅠB	4		(4)			0～4	0～4	
	生物Ⅱ	2			(2)	(3)	0～2	0～3	
	地学ⅠA	2			△2		0～2	0	
	地学ⅠB	4		(4)			0～4	0	
	地学Ⅱ	2			(2)		0～2	0	
保体	体育	9	3	3	3 △2	3	9～11	9	文11～13 理11
	保健	2	1	1			2	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	(2)				0～2	0～2	文4～6 理4～6
	音楽Ⅱ	2		(2)			0～2	0～2	
	音楽Ⅲ	2			▲2	▲2	0～2	0～2	
	美術Ⅰ	2	(2)				0～2	0～2	
	美術Ⅱ	2		(2)			0～2	0～2	
	美術Ⅲ	2			▲2	▲2	0～2	0～2	
	工芸Ⅰ	2	(2)				0～2	0～2	
	工芸Ⅱ	2		(2)			0～2	0～2	
	工芸Ⅲ	2			▲2	▲2	0～2	0～2	
	書道Ⅰ	2	(2)				0～2	0～2	
	書道Ⅱ	2		(2)			0～2	0～2	
	書道Ⅲ	2			▲2	▲2	0～2	0～2	
外国語	英語Ⅰ	4	4				4	4	文17～19 理17～19
	英語Ⅱ	4		5			5	5	
	OC・B	2	2		▲2	▲2	2～4	2～4	
	リーディング	4			3		3	3	
	ライディング	4			3		3	3	
家庭	家庭一般	4	2	2	△2	3	4～6	4	文4～6 理4
商業	情報処理	2～5			▲2	3 ▲2	0～2	0～2	文理0～2
教科単位数合計			30	30	29	29	89		
総合的な学習の時間									
特活	ホームルーム活動		1	1	1	1	3		
合計			31	31	30	30	92		

文科系
・（　）は教科内から1科目を、▲△は自由選択群でそれぞれ1科目ずつ選択する。
・3年の地理・歴史の必修選択2単位分は、2・3年で履修した科目とする。
・数学Aは重複して履修できない。
・3年理科Ⅱは、1・2年で履修した科目とする。また理科ⅠAは、1・2年で履修しなかった科目とする。

理科系
・（　）は教科内から1科目を、▲は自由選択群で1科目を選択する。
・数学Aは重複して履修できない。
・3年の理科Ⅱは、2年で履修した科目とする。

学校運営組織・分掌の変遷

平成２年度

- 校長
  - 職員会議
    - 教　頭
      - 総務部（高岡）
        - 総　務　高岡、山内、田口、坂元
        - 会　議　山内、湯浅、田口、国本、多田
        - 儀　式　高岡、国本、坂元
        - 渉　外　高岡、山内、湯浅、田口、国本、坂元、多田
      - 教務部（鵜之沢）
        - 企　画　鵜之沢、大沼、香取(正)
        - 時間割　池田、大沼、渡邊(潔)
        - 教科・学習　渡邉(範)、佐藤、岡野
        - 研　修　大沼、香取(正)
        - 庶　務　岡野、谷ヶ崎
      - 生徒指導部（小松）
        - 企　画　小松、青柳
        - 渉　外　小松、青柳
        - 庶　務　纐纈、内海、鈴木(博)
        - 生活指導　小松、纐纈、嶌田、加瀬、坂本(欣)、内海、鈴木(博)、熊坂
        - 特別活動　青柳、安藤
        - 生徒会　安藤、沼尻、梶本、嶌田
      - 進路指導部（鬼沢）
        - 企　画　鬼沢、真鍋
        - 進　学　真鍋、仲田、向、石橋、藤井、梅木
        - 就　職　鬼沢、香取(良)、大木(卓)
        - 進路相談　鬼沢、真鍋、仲田、向
        - 模　試　向、梅木、香取(良)、藤井、石橋、大木(卓)
        - 庶　務　香取(良)、梅木、夏目
      - 図書部（尾形）
        - 庶　務　尾形、大木(実)、佐瀬、工藤、谷ヶ崎
        - 資料整備　大木(実)、佐瀬、山根、小倉、工藤、谷ヶ崎、根本(浩)
        - 指　導　山根、尾形、大木(実)、小倉、工藤、谷ヶ崎、根本(浩)
        - 広　報　山根、工藤、根本(浩)、谷ヶ崎
        - 視聴覚　小倉、石田、藤田
      - 保健厚生部（香取（一））
        - 保　健　坂本(眞)、小早志、鈴木(小)、根本(直)、矢野、武田
        - 教育相談　小早志、根本(直)坂本(眞)、鈴木(小)、武田、各学年１名
        - 育英・厚生　鈴木(小)、矢野
        - 購　買　根本(直)、小早志、矢野、香取(一)、武田
      - 管理部（手島）
        - 美　化　加藤、兼坂、郡司、伊藤
        - 設備・防災　石渡、磯貝
    - 事務長
      - 事務部
        - 庶　務　堀井、髙橋、小髙
        - 会　計　堀井、鈴木、髙橋
        - 管　理　鈴木、日暮、三澤
  - 企画運営委員会
    - ・各部主任・部長、学年主任
  - 学習指導委員会（教育課程検討委員会）
    - ・教務主任、教科係、各教科主任、進路指導主事
  - 生徒指導委員会
    - ・小松、青柳、江波戸、篠崎、赤井、纐纈、加瀬
  - 同和教育研究委員会
    - ・赤井、鬼沢、尾形、小松、大沼、池田
  - 体力向上推進委員会
    - ・高岡、鵜之沢、小松、赤井、篠崎、江波戸、小早志、坂本(眞)、生徒会係、体育科
  - 図書館運営委員会
    - ・尾形、大木(実)、小倉、鵜之沢、小松、各教科主任
  - 創立10周年記念事業校内実行委員会
    - ・高岡、鬼沢、手島、香取(一)、尾形、小早志、鵜之沢、赤井、小松、仲田、江波戸、篠崎、大沼、坂元
  - 学年主任会
    - ・学年主任、教務主任、生徒指導主事
  - コンピュータ委員会
    - ・仲田、藤田、石田

平成７年度

- 校長
  - 職員会議
  - 教　頭
    - 総　務　部　◎小早志　○湯浅
      - 総　務　小早志、湯浅、岡里、花香、西原、畑瀬、山内
      - 会　議　小早志、湯浅、岡里、花香、西原、畑瀬、山内
      - 儀　式　小早志、湯浅、花香、畑瀬
      - 渉　外　小早志、湯浅、岡里、花香、西原、畑瀬、山内
    - 教　務　部　◎鈴木(文)　○加藤
      - 企　画　鈴木(文)、加藤、嶌田、諏訪、渡邉
      - 日課・時間割　渡邉、諏訪、加藤、内海、堀越
      - 教科・学習　加藤、石原、渡邉、堀越
      - 研　修　諏訪、佐藤(茂)　根本(巌)
      - 電　算　嶌田、石原、堀越、根本(巌)
      - 表　簿　佐藤(茂)、内海、根本(巌)
      - 庶　務　内海、佐藤(茂)、川上
    - 生徒指導部　◎青柳　○戸村(博)
      - 企　画　青柳、戸村(博)
      - 渉　外　青柳、三槁
      - 庶　務　平山、猪股
      - 生活指導　秋葉、三槁、猪股、大木(卓)、大木(亜)、戸村(玲)、佐藤(全)、平山、戸村(博)、後藤(俊)、荒居
      - 生徒会　戸村(博)、後藤(俊)、荒居、大木(亜)
    - 進路指導部　◎高城　○石橋
      - 企　画　高城、石橋、佐瀬
      - 進　学　(大)佐瀬、藤井、(短)石橋、根本直、(専)金塚、川澄
      - 就　職　高城、石橋、川澄、赤尾、工藤、
      - 進路相談　高城、佐瀬、藤井
      - 模　試　①石橋、熊坂②金塚、磯貝③佐瀬、川澄、赤尾
      - 庶　務　工藤
    - 図　書　部　◎手島　○慈幸
      - 庶　務　手島、田口、多田、工藤
      - 資料整理　多田、手島、田口、工藤
      - 指　導　慈幸、手島、山口、田口、多田、大河内、纐纈、工藤
      - 広　報　山口、田口、大河内、工藤
      - 視聴覚　多田、大河内、慈幸、手島
    - 保健厚生部　◎篠崎(昌)　○吉川
      - 保　健　篠崎(昌)、坂本、八木
      - 教育相談　武田、小谷、八木
      - 育英・厚生　榊原
      - 購　買　武田、吉川、榊原、丸山
        【保健主事・小谷】
    - 管　理　部　◎仲田　○嶋崎
      - 企　画　仲田、嶋崎
      - 美化・清掃　後藤(重)、篠崎(ひ)、椎名
      - 防　災　仲田、山崎
      - 施設・設備・用具　嶋崎、沼尻
  - 企画運営委員会
    - ・各部主任・主事・部長、学年主任
  - 学習指導委員会（教育課程検討委員会）
    - ・教務主任、同副部長、同教科係、教科主任、進路指導部長
  - 生徒会指導委員会
    - ・生徒指導部長、同副部長、同庶務係主任、同生徒会係主任、各学年主任
  - 同和教育推進委員会
    - ・社会科主任、学年副主任、教務副部長、生徒指導副部長
  - 部活動推進委員会（体力向上推進委員会）
    - ・体育科主任、体育科職員２名、生徒指導部長、生徒指導部生徒会係（教務部長、各学年主任体育科職員全員、養護教諭）
    - ※（　）内は体力向上推進委員会のみ
  - 図書館運営委員会
    - ・図書部長、同副部長、同視聴覚係主任、教務部長、生徒指導部長、教科主任
  - 学年主任会
    - ・学年主任、教務主任、生徒指導部長、進路指導部長
  - 情報教育推進委員会
    - ・教務部電算係、各教科代表１名
  - 推薦入試検討委員会
  - 国際理解教育推進委員会
  - 衛生委員会
  - 事　務　長
    - 事　務　部
      - 庶　務　玉井、佐藤、嶋田
      - 会　計　玉井、櫻井、佐藤、嶋田
      - 管　理　櫻井、日暮、三澤

平成12年度

- 校長
  - 職員会議
    - 教頭
      - 総務部（◎秋葉 ○渡邉）
        - 総務　秋葉、諏訪、山崎弘、渡邉、山内、花香、金子、寺内
        - 会議　秋葉、諏訪、山崎弘、渡邉、山内、花香、金子、寺内
        - 儀式　秋葉、渡邉、花香、諏訪
        - 渉外　秋葉、渡邉、花香、諏訪、金子、寺内
      - 教務部（◎石原 ○畑瀬）
        - 企画　石原、畑瀬、平山、小島、鈴木真
        - 日課・時間割　平山、山口剛、密本、小島、三浦
        - 教科・学習　鈴木真、高柳、山口剛、平山、小島、佐々木
        - 研修　小島、高柳
        - 電算　佐々木、高柳、小島、石原
        - 表簿　畑瀬、鈴木眞、三浦
        - 庶務　三浦、密本、畑瀬、川野邉
      - 生徒指導部（◎稲生 ○新村）
        - 企画　稲生、新村、田谷
        - 渉外　稲生、新村、田谷
        - 庶務　坂本と、加藤、赤尾
        - 生活指導　新村、田谷、赤尾、三橋、鈴木小、松沢、坂本と、篠崎、佐藤、加藤
        - 生徒会　宮本修、篠崎、佐藤、鈴木小
      - 進路指導部（◎木内 ○西原）
        - 企画　木内、池畑
        - 進学　池畑、木内、荒居、岡野、大山、金塚、佐倉
        - 就職　木内、西原、岡野、池畑、佐倉、後藤重、金塚、荒居、大山、野口
        - 進路相談　木内、池畑、岡野、金塚、佐倉、荒居、大山
        - 模試　金塚、西原、池畑
        - 庶務　木内、西原、岡野、池畑、佐倉、後藤重、金塚、荒居、大山、野口
      - 図書部（◎井上 ○椎名）
        - 総務　井上、椎名、宮本扶、戸村、山口
        - 資料整理　宮本扶、椎名、及川
        - 指導　山口、及川、宮本扶、岡里、川澄、椎名、井上
        - 広報　宮本扶、椎名、井上
        - 視聴覚　川澄、戸村
      - 保健厚生部（◎水野 ○猪股）
        - 保健　猪股、水野、坂本眞、島崎
        - 教育相談　榊原、猪股、坂本眞、島崎
        - 育英・厚生　酒井、榊原
        - 購買　吉川、酒井
          【保健主事・猪股】
      - 管理部（◎湯浅 ○上野）
        - 企画　湯浅、上野
        - 美化・清掃　後藤俊、上野、根本
        - 施設・設備・用具　高城、沼尻
        - 防災　湯浅、山崎昭
    - 企画運営委員会
      - ・各部主任・主事・部長、各学年主任
    - 学習指導委員会（教育課程検討委員会）
      - ・教務主任、同副部長、同教科係、教科主任、進路指導部長
    - 生徒指導委員会
      - ・生徒指導部長、同副部長、生活指導係、各学年主任
    - 同和教育推進委員会
      - ・社会科主任、学年副主任、教務副部長、生徒指導副部長
    - 部活動推進委員会（体力向上推進委員会）
      - ・体育科主任、体育科職員２名、生徒指導部長、生徒指導部生徒会係（教務部長、各学年主任、体育科職員全員、養護教諭）
      - ※（　）内は体力向上推進委員会のみ
    - 図書館運営委員会
      - ・図書部長、同副部長、同視聴覚係主任、教務部長、生徒指導部長、教科主任
    - 学年主任会
      - ・学年主任、教務主任、生徒指導部長
        進路指導部長
    - 情報教育推進委員会
      - ・教務部電算係、各教科代表１名
    - 教育相談委員会
    - 国際理解教育推進委員会
    - 推薦入試委員会
  - 衛生委員会
  - セクシャルハラスメント委員会
  - 創立20周年記念事業実行委員会
  - 事務長
    - 事務部
      - 庶務　鈴木、岡田、横山、山崎
      - 会計　岡田、横山、山崎
      - 管理　横山、岡田、日暮、三沢

歴代校長

初代校長	岩上利男	昭55. 4. 1～昭59. 3. 31
第2代校長	石井功	昭59. 4. 1～昭62. 3. 31
第3代校長	羽生正允	昭62. 4. 1～平3. 3. 31
第4代校長	杉山進	平3. 4. 1～平6. 3. 31
第5代校長	井上洋一	平6. 4. 1～平8. 3. 31
第6代校長	花井保	平8. 4. 1～平10. 3. 31
第7代校長	村田一男	平10. 4. 1～平12. 3. 31
第8代校長	越川雄次郎	平12. 4. 1～

歴代教頭

初代教頭	石井寛	昭55. 4. 1～昭59. 3. 31
第2代教頭	菅谷泰夫	昭59. 4. 1～平元. 3. 31
第3代教頭	香取秀紀	平元. 4. 1～平3. 3. 31
第4代教頭	中尾嘉夫	平3. 4. 1～平6. 12. 31
第5代教頭	中田成气	平7. 1. 1～平11. 3. 31
第6代教頭	松井立夫	平11. 4. 1～

歴代事務長

初代事務長	渡辺和男	昭55. 4. 1～昭58. 3. 31
第2代事務長	今井万峯	昭58. 4. 1～昭61. 3. 31
第3代事務長	椎名悦史	昭61. 4. 1～平元. 3. 31
第4代事務長	大又一雄	平元. 4. 1～平4. 3. 31
第5代事務長	小林澄江	平4. 4. 1～平7. 3. 31
第6代事務長	多田要三	平7. 4. 1～平10. 3. 31
第7代事務長	水野邦久	平10. 4. 1～平12. 3. 31
第8代事務長	佐々木勲	平12. 4. 1～

校務分掌歴代責任者（主事・部長・主任・委員長）一覧（Ⅰ）

分掌／年度	総務部	教務部	生徒指導	進路指導	図書部	保健厚生	管理部	学年			学習指導委員会	生徒指導委員会	同和教育研究委員会	部活動推進委員会
								1学年	2学年	3学年				
昭和55		富沢　浩	伊藤竜芳			高岡誠次	高橋安雄	富田金秋			富沢　浩	伊藤竜芳	越川雄次郎	
56		富沢　浩	伊藤竜芳			高岡誠次	高橋安雄	越川雄次郎	富田金秋		富沢　浩	伊藤竜芳	伊藤竜芳	
57		富沢　浩	伊藤竜芳	有美　譲		高岡誠次	高橋安雄	高岡誠次	越川雄次郎	富田金秋	富沢　浩	伊藤竜芳	伊藤竜芳	
58		富田金秋	伊藤竜芳	有美　譲		高岡誠次	高橋安雄	鬼沢三郎	高岡誠次	越川雄次郎	富田金秋	伊藤竜芳	富田金秋	高岡誠次
59		富田金秋	小松栄三郎	鬼沢三郎	高橋安雄	高岡誠次	香取一成	越川雄次郎	赤井正男	高岡誠次	富田金秋	小松栄三郎	富田金秋	高岡誠次
60		富田金秋	小松栄三郎	鬼沢三郎	高橋安雄	尾形　肇	香取一成	高岡誠次	越川雄次郎	赤井正男	富田金秋	小松栄三郎	富田金秋	高岡誠次
61		越川雄次郎	小松栄三郎	鬼沢三郎	高橋安雄	尾形　肇	江波戸好文	赤井正男	高岡誠次	香取一成	越川雄次郎	小松栄三郎	越川雄次郎	高岡誠次
62		赤井正男	小松栄三郎	鬼沢三郎	尾形　肇	郡司美枝	江波戸好文	香取一成	篠崎昌美	高岡誠次	赤井正男	小松栄三郎	赤井正男	高岡誠次
63	高岡誠次	赤井正男	小松栄三郎	鬼沢三郎	尾形　肇	郡司美枝	手島和史	江波戸好文	香取一成	篠崎昌美	赤井正男	小松栄三郎	赤井正男	高岡誠次
平成元	高岡誠次	赤井正男	小松栄三郎	鬼沢三郎	尾形　肇	小早志剛規	手島和史	鵜之沢健	江波戸好文	香取一成	赤井正男	小松栄三郎	鵜之沢健	高岡誠次
2	高岡誠次	鵜之沢健	小松栄三郎	鬼沢三郎	尾形　肇	香取一成	手島和史	赤井正男	篠崎昌美	江波戸好文	鵜之沢健	小松栄三郎	赤井正男	高岡誠次
3	高岡誠次	鵜之沢健	小松栄三郎	鬼沢三郎	尾形　肇	小早志剛規	手島和史	江波戸好文	赤井正男	篠崎昌美	鵜之沢健	小松栄三郎	赤井正男	高岡誠次
4	高岡誠次	鵜之沢健	小松栄三郎	真鍋憲雄	尾形　肇	小早志剛規	吉川勲生	手島和史	江波戸好文	赤井正男	鵜之沢健	小松栄三郎	小倉晶文	戸村博之
5	小早志剛規	鵜之沢健	青柳佳親	真鍋憲雄	小倉晶文	篠崎昌美	吉川勲生	角田光敏	手島和史	尾形　肇	鵜之沢健	青柳佳親	香取正巳	戸村博之
6	小早志剛規	鈴木文夫	青柳佳親	真鍋憲雄	小倉晶文	篠崎昌美	仲田恵一	香取正巳	角田光敏	手島和史	鈴木文夫	青柳佳親	高城幸雄	田谷伸治
7	小早志剛規	鈴木文夫	青柳佳親	高城幸雄	手島和史	篠崎昌美	仲田恵一	田谷伸治	香取正巳	纐纈康世	鈴木文夫	青柳佳親	永長茂子	小谷幹夫
8	小早志剛規	鈴木文夫	青柳佳親	石橋博道	手島和史	仲田恵一	湯浅　仁	纐纈康世	田谷伸治	香取正巳	鈴木文夫	青柳佳親	川澄成生	戸村博之
9	小早志剛規	鈴木文夫	青柳佳親	石橋博道	手島和史	仲田恵一	湯浅　仁	高城幸雄	纐纈康世	田谷伸治	鈴木文夫	青柳佳親	諏訪和夫	秋葉章二
10	小早志剛規	諏訪和夫	田谷伸治	石橋博道	手島和史	仲田恵一	湯浅　仁	香取正巳	高城幸雄	纐纈康世	諏訪和夫	田谷伸治	平山久春	秋葉章二
11	秋葉章二	諏訪和夫	田谷伸治	石橋博道	手島和史	山崎　昭	湯浅　仁	高橋義巳	香取正巳	高城幸雄	諏訪和夫	田谷伸治	赤尾和輝	渡邉正巳
12	秋葉章二	石原　守	稲生　茂	木内賢次郎	井上泰光	水野秋穂	湯浅　仁	栗山克明	高橋義巳	香取正巳	石原　守	稲生　茂	宮本　修	渡邉正巳

企画運営委員会……校長・教頭・事務長・総務部長・教務主任・生徒指導部主事・進路指導部主事・図書部長・保健厚生部長・管理部長・学年主任で構成
体力向上推進委員会は平成5年度から部活動推進委員会と改称される

校務分掌歴代責任者（主事・部長・主任・委員長）一覧（Ⅱ）

	図書部運営委員会	情報教育推進委員会	国際理解教育推進委員会	教育相談委員会	推薦入試（検討）委員会	HR運営委員会	教科主任							
							国語	社会	数学	理科	保健体育	芸術	英語	家庭
昭和55							越川雄次郎	伊藤竜芳	有美　譲	富田金秋	高岡誠次	上原令子	高橋安雄	長谷川康子
56							越川雄次郎	伊藤竜芳	富沢　浩	富田金秋	高岡誠次	上原令子	高橋安雄	郡司美枝
57							越川雄次郎	伊藤竜芳	富沢　浩	富田金秋	高岡誠次	上原令子	高橋安雄	郡司美枝
58							越川雄次郎	伊藤竜芳	真鍋憲雄	富田金秋	高岡誠次	斉藤令子	高橋安雄	郡司美枝
59	高橋安雄					尾形　肇	越川雄次郎	尾形　肇	真鍋憲雄	富田金秋	高岡誠次	津本英昭	高橋安雄	郡司美枝
60	高橋安雄					尾形　肇	越川雄次郎	尾形　肇	香取一成	富田金秋	高岡誠次	津本英昭	高橋安雄	郡司美枝
61	高橋安雄					尾形　肇	越川雄次郎	尾形　肇	香取一成	大木　実	高岡誠次	津本英昭	高橋安雄	郡司美枝
62	尾形　肇					尾形　肇	加藤祐司	尾形　肇	香取一成	大木　実	高岡誠次	津本英昭	小松栄三郎	郡司美枝
63	尾形　肇					尾形　肇	大沼　功	尾形　肇	香取一成	大木　実	高岡誠次	津本英昭	小松栄三郎	郡司美枝
平成元	尾形　肇						大沼　功	尾形　肇	香取一成	鵜之沢健	高岡誠次	山内美和	小松栄三郎	郡司美枝
2	尾形　肇	仲田恵一					大沼　功	尾形　肇	仲田恵一	鵜之沢健	高岡誠次	山内美和	小松栄三郎	郡司美枝
3	尾形　肇	仲田恵一					大沼　功	尾形　肇	仲田恵一	角田光敏	高岡誠次	山内美和	江波戸好文	篠崎ひで子
4	尾形　肇	仲田恵一					田口富男	小倉晶文	青柳佳親	角田光敏	戸村博之	湯浅　仁	篠崎昌美	篠崎ひで子
5	小倉晶文	仲田恵一					加藤祐司	香取正巳	仲田恵一	嶌田裕美	戸村博之	慈幸正治	嶋崎泰樹	篠崎ひで子

	図書部運営委員会	情報教育推進委員会	国際理解教育推進委員会	教育相談委員会	推薦入試（検討）委員会	HR運営委員会	教科主任							
							国語	社会	数学	理科	保健体育	芸術	英語	家庭
平成6	小倉晶文	嶌田裕美					纐纈康世	高城幸雄	石橋博道	嶌田裕美	田谷伸治	慈幸正治	沼尻俊次	篠崎ひで子
7	手島和史	嶌田裕美	篠崎昌美		(手島和史)		西原千晴	永長茂子	吉川勲生	嶌田裕美	小谷幹夫	慈幸正治	根本直美	篠崎ひで子
8	手島和史	嶌田裕美	花香武男	戸村博之	(手島和史)		川崎　昭	川澄成生	石原　守	嶌田裕美	戸村博之	多田　敏	佐瀬郁夫	篠崎ひで子
9	手島和史	嶌田裕美	花香武男	戸村博之	鈴木文夫		山口志津子	諏訪和夫	高橋義巳	嶌田裕美	秋葉章二	湯浅　仁	内海曜子	篠崎ひで子
10	手島和史	嶌田裕美	花香武男	戸村博之	諏訪和夫		岡里　茂	平山久春	堀越恵二	嶌田裕美	秋葉章二	多田　敏	畑瀬慶博	篠崎ひで子
11	手島和史	嶌田裕美	花香武男	猪俣康博	諏訪和夫		榊原通子	赤尾和輝	吉川勲生	嶌田裕美	渡邉正巳	多田　敏	戸村玲子	篠崎ひで子
12	井上泰光	佐々木輝彦	花香武男	榊原通子	石原　守		及川全代	宮本　修	松沢史郎	後藤重峰	渡邉正巳	山内美和	椎名　泉	篠崎ひで子

歴代学年主任並びにHR担任一覧（Ⅰ）

（　）内は学年副主任・学年副担任

	学年	学年主任	A組担任	B組担任	C組担任	D組担任	E組担任	F組担任	G組担任	H組担任	I組担任	J組担任
昭和55	1学年	富田金秋	越川雄次郎	川合俊夫	高岡誠次	有美　譲						
			(平山啓子・林　真一)									
56	1学年	越川雄次郎	尾形　肇	真鍋憲雄	津本英昭	林　真一						
			(高岡誠次・石井恵美子)									
	2学年	富田金秋	石渡　真	川合俊夫	畔蒜　正	有美　譲						
			(平山啓子・泉しのぶ)									
57	1学年	高岡誠次	津本英昭	大木　実	江波戸好文	尾形　肇						
		(尾形　肇)	(郡司美枝・永藤孝一・丸山直樹)									
	2学年	越川雄次郎	國本正美	真鍋憲雄	小関光比古	林　真一						
		(真鍋憲雄)	(齊藤令子・香取良和・齋藤公美子)									
	3学年	富田金秋	石渡　真	小松栄三郎	鬼沢三郎	畔蒜　正						
		(鬼沢三郎)	(平山啓子・泉しのぶ)									
58	1学年	鬼沢三郎	小松栄三郎	齋藤公美子	畔蒜　正	赤井正男	永藤孝一	香取良和				
		(小松栄三郎)	(石井恵美子・泉しのぶ・志田妙子)									
	2学年	高岡誠次	津本英昭	大木　実	江波戸好文	尾形　肇						
		(尾形　肇)	(郡司美枝・丸山直樹・藤田昭子)									
	3学年	越川雄次郎	國本正美	真鍋憲雄	小関光比古	林　真一						
		(真鍋憲雄)	(斉藤令子・大野冬彦・柴恵美子)									
59	1学年	越川雄次郎	真鍋憲雄	土戸富子	斉藤伸之	林　真一	丸山直樹	小関光比古				
		(真鍋憲雄)	(大野冬彦・椎名克明・山野井晃・柴田倫代)									
	2学年	赤井正男	小倉晶文	齋藤公美子	畔蒜　正	篠崎昌美	永藤孝一	香取良和				
		(篠崎昌美)	(石井恵美子・志田妙子・柴恵美子)									
	3学年	高岡誠次	津本英昭	尾形　肇	江波戸好文	大木　実						
		(尾形　肇)	(郡司美枝・藤田昭子・中川真伸)									
60	1学年	高岡誠次	大木　実	藤田昭子	大野冬彦	加瀬政一	志田妙子	江波戸好文				
		(江波戸好文)	(石渡　真・國本正美・椎名克明・中川真伸)									
	2学年	越川雄次郎	丸山直樹	斉藤伸之	土戸富子	津本英昭	坂元義典	真鍋憲雄				
		(真鍋憲雄)	(山野井晃・柴田倫代・大里晃之・梅木範夫)									
	3学年	赤井正男	小倉晶文	齋藤公美子	香取良和	篠崎昌美	永藤孝一	畔蒜　正				
		(篠崎昌美)	(郡司美枝・石井恵美子・柴恵美子・宇井三男)									
61	1学年	赤井正男 (篠崎昌美)	小倉晶文 (根本直美)	香取良和 (根本直美)	藤井章裕 (齋藤公美子)	中川真伸 (石井恵美子)	永藤孝一 (梅木範夫)	山野井晃 (宇井三男)	篠崎昌美 (宇井三男)			
	2学年	高岡誠次 (大木　実)	大木　実 (伊東明宏)	藤田昭子 (伊東明宏)	大野冬彦 (山根昌子)	加瀬政一 (山根昌子)	志田妙子 (石渡　真)	國本正美 (椎名克明)				
	3学年	香取一成 (真鍋憲雄)	津本英昭 (大里晃之)	土戸富子 (大里晃之)	坂元義典 (郡司美枝)	丸山直樹 (根本直美)	斉藤伸之 (柴田倫代)	真鍋憲雄 (柴田倫代)				

	学年	学年主任	A組担任	B組担任	C組担任	D組担任	E組担任	F組担任	G組担任	H組担任	I組担任	J組担任
昭和62	1学年	香取一成 (土戸富子)	斉藤伸之 (柴田倫代)	梅木範夫 (柴田倫代)	宇井三男 (大八木正明)	坂元義典 (渡辺範夫)	大里晃之 (渡辺範夫)	石渡　真 (津本英昭 尾形　肇)	土戸富子 (津本英昭 尾形　肇)			
	2学年	篠崎昌美 (小倉晶文)	小倉晶文 (梶本一之)	山野井晃 (梶本一之)	藤井章裕 (齋藤公美子)	中川真伸 (齋藤公美子)	加藤祐司 (石井恵美子)	永藤孝一 (根本直美)	香取良和 (宮部智哉)			
	3学年	髙岡誠次 (大木　実)	伊東明宏 (真鍋憲雄)	藤田昭子 (真鍋憲雄)	國本正美 (米山　茂)	大野冬彦 (加瀬政一)	志田妙子 (椎名克明)	大木　実 (山根昌子 江波戸好文				
63	1学年	江波戸好文 (仲田恵一)	仲田恵一 (國本正美)	津本英昭 (國本正美)	渡辺範夫 (山根昌子)	藤田利夫 (山根昌子)	伊東明宏 (藤田昭子)	安藤　清 (藤田昭子)	梶本一之 (加瀬政一)	兼坂　仁 (加瀬政一)	齋藤公美子 (宮部智哉)	大沼　功 (宮部智哉)
	2学年	香取一成 (土戸富子)	宇井三男 (佐瀬郁夫)	大里晃之 (佐瀬郁夫)	土戸富子 (今村和彦)	斉藤伸之 (柴田倫代)	坂元義典 (柴田倫代)	石渡　真 (米山　茂)	梅木範夫 (米山　茂)			
	3学年	篠崎昌美 (小倉晶文)	小倉晶文 (根本直美)	香取良和 (石井恵美子)	永藤孝一 (石井恵美子)	中川真伸 (田口富男)	藤井章裕 (田口富男)	加藤祐司 (真鍋憲雄)	山野井晃 (真鍋憲雄)			
平成元	1学年	篠崎昌美 (鵜之沢健)	鵜之沢健 (多田　敏)	小倉晶文 (多田　敏)	山根昌子 (中川真伸)	藤井章裕 (石井恵美子)	青柳佳親 (石井恵美子)	加藤祐司 (嶌田裕美)	根本直美 (香取良和)	田口富男 (香取良和)	纐纈康世 (永藤孝一)	真鍋憲雄 (永藤孝一)
	2学年	江波戸好文 (仲田恵一)	兼坂　仁 (宮部智哉)	梶本一之 (加瀬政一)	仲田恵一 (山内美和)	安藤　清 (山内美和)	伊東明宏 (矢野耕平)	藤田利夫 (矢野耕平)	齋藤公美子 (國本正美)	大沼　功 (國本正美)	大木　卓 (郡司美枝)	渡辺範夫 (宮部智哉)
	3学年	香取一成 (石渡　真)	大里晃之 (向　秀男)	梅木範夫 (櫻井裕子)	佐瀬郁夫 (櫻井裕子)	石渡　真 (中嶋洋美)	宇井三男 (中嶋洋美)	坂元義典 (柴田倫代)	斉藤伸之 (柴田倫代)			
2	1学年	赤井正男 (湯浅　仁)	湯浅　仁 (坂元義典)	佐瀬郁夫 (根本浩美)	坂本欣人 (坂元義典)	梅木範夫 (小早志剛規)	沼尻俊次 (小早志剛規)	宇井三男 (柴田倫代)	向　秀男 (磯貝　智)	香取正巳 (磯貝　智)	渡邊　潔 (熊坂典雄)	石渡　真 (熊坂典雄)
	2学年	篠崎昌美 (青柳佳親)	青柳佳親 (多田　敏)	鈴木博之 (多田　敏)	藤井章裕 (伊藤千恵子)	香取良和 (根本直美)	真鍋憲雄 (鈴木小枝子)	小倉晶文 (鈴木小枝子)	纐纈康世 (嶌田裕美)	山根昌子 (嶌田裕美)	田口富男 (永長茂子)	加藤祐司 (永長茂子)
	3学年	江波戸好文 (仲田恵一)	仲田恵一 (矢野耕平)	大木　卓 (矢野耕平)	安藤　清 (武田浩二)	國本正美 (武田浩二)	渡辺範夫 (郡司美枝)	藤田利夫 (内海曜子)	大沼　功 (石橋博道)	梶本一之 (石橋博道)	兼坂　仁 (山内美和)	石田明宏 (山内美和)
3	1学年	江波戸好文 (大沼　功)	大沼　功 (篠崎ひで子)	渡辺範夫 (仲田恵一)	戸村博之 (石橋博道)	武田浩二 (石橋博道)	角田光敏 (國本正美)	大木　卓 (大木　実)	高城幸雄 (國本正美)	兼坂　仁 (仲田恵一)	梶本一之 (山内美和)	吉川勲生 (山内美和)
	2学年	赤井正男 (湯浅　仁)	湯浅　仁 (坂元義典)	金塚省吾 (大河内和代)	沼尻俊次 (熊坂典雄)	香取正巳 (熊坂典雄)	石渡　真 (柴田倫代)	磯貝　智 (柴田倫代)	佐瀬郁夫 (根本浩美)	坂本欣人 (根本浩美)	古川慎一郎 (向　秀男)	早田正純 (向　秀男)
	3学年	篠崎昌美 (青柳佳親)	纐纈康世 (多田　敏)	香取良和 (多田　敏)	青柳佳親 (鈴木小枝子)	加藤祐司 (鈴木小枝子)	真鍋憲雄 (永長茂子)	田口富男 (永長茂子)	鈴木博之 (内海曜子)	山根昌子 (嶋崎泰樹)	小倉晶文 (嶋崎泰樹)	藤井章裕 (嶌田裕美)
4	1学年	手島和史 (青柳佳親)	青柳佳親 (金子幸雄)	大河内和代 (金子幸雄)	三橋啓重 (田口富男)	後藤俊一 (田口富男)	熊坂典雄 (鈴木博之)	嶋崎泰樹 (鈴木博之)	藤井章裕 (根本直美)	多田　敏 (慈幸正治)	篠崎ひで子 (慈幸正治)	加藤祐司 (永長茂子)
	2学年	江波戸好文 (仲田恵一)	榊原通子 (仲田恵一)	梶本一之 (香取良和)	高城幸雄 (山内美和)	石橋博道 (山内美和)	大木　卓 (大木　実)	戸村博之 (武田浩二)	山口志津子 (武田浩二)	渡辺範夫 (纐纈康世)	秋葉章二 (香取良和)	角田光敏 (仲田恵一)
	3学年	赤井正男 (早田正純)	内海曜子 (早田正純)	坂本欣人 (山崎　昭)	鈴木小枝子 (湯浅　仁)	金塚省吾 (鈴木文夫)	沼尻俊次 (嶌田裕美)	畑瀬慶博 (小倉晶文)	磯貝　智 (小倉晶文)	香取正巳 (嶌田裕美)	佐瀬郁夫 (根本浩美)	古川慎一郎 (根本浩美)
5	1学年	角田光敏 (纐纈康世)	纐纈康世 (大木　実)	川澄成生 (早田正純)	武田浩二 (磯貝　智)	鈴木博之 (佐瀬郁夫)	岡里　茂 (鈴木文夫)	坂本欣人 (鈴木文夫)	鈴木小枝子 (磯貝　智)	堀越恵二 (佐瀬郁夫)	内海曜子 (香取正巳)	田口富男 (香取正巳)
	2学年	手島和史 (湯浅　仁)	永長茂子 (加藤祐司)	嶋崎泰樹 (加藤祐司)	戸村玲子 (金塚省吾 山崎　昭)	三橋啓重 (金塚省吾 山崎　昭)	大河内和代 (山崎　昭)	湯浅　仁 (藤井章裕 金子幸雄)	多田　敏 (金子幸雄)	熊坂典雄 (金子幸雄)	後藤俊一 (花香武男)	篠崎ひで子 (花香武男)
	3学年	尾形　肇 (仲田恵一)	梶本一之 (畑瀬慶博)	渡辺範夫 (仲田恵一)	山内美和 (畑瀬慶博)	榊原通子 (田谷伸治)	秋葉章二 (仲田恵一)	大木　卓 (沼尻俊次)	戸村博之 (沼尻俊次)	山口志津子 (慈幸正治)	高城幸雄 (田谷伸治)	石橋博道 (嶌田裕美)
6	1学年	香取正巳 (戸村博之)	金塚省吾 (戸村博之)	畑瀬慶博 (戸村博之)	榊原通子 (石橋博道)	磯貝　智 (石橋博道)	荒居哲也 (山崎　昭)	沼尻俊次 (山崎　昭)	秋葉章二 (慈幸正治)	加藤祐司 (坂野博美)	山口志津子 (諏訪和夫)	渡邊範夫 (諏訪和夫)
	2学年	角田光敏 (纐纈康世)	佐瀬郁夫 (後藤重峰)	内海曜子 (吉川勲生)	根本　巌 (高城幸雄)	田口富男 (山内美和)	川澄成生 (岡里　茂)	鈴木小枝子 (高城幸雄)	猪俣康博 (岡里　茂)	武田浩二 (山内美和)	堀越恵二 (後藤重峰)	纐纈康世 (吉川勲生 戸村玲子)
	3学年	手島和史 (湯浅　仁)	三橋啓重 (嶌田裕美)	多田　敏 (嶌田裕美 木村謙一郎)	永長茂子 (田谷伸治)	後藤俊一 (田谷伸治)	大河内和代 (大木　卓 根本直美)	湯浅　仁 (大木　卓)	嶋崎泰樹 (西原千晴)	藤井章裕 (西原千晴)	篠崎ひで子 (花香武男)	熊坂典雄 (花香武男)

	学年	学年主任	A組担任	B組担任	C組担任	D組担任	E組担任	F組担任	G組担任	H組担任	I組担任	J組担任
平成7	1学年	田谷伸治 (石橋博道)	三橋啓重 (多田　敏)	根本直美 (多田　敏)	椎名　泉 (大木亜希子)	後藤俊一 (大木亜希子)	石原　守 (藤井章裕)	熊坂典雄 (西原千晴)	大河内和代 (西原千晴)	平山久春 (湯浅　仁)	石橋博道 (永長茂子)	大木　卓 (永長茂子)
	2学年	香取正巳 (戸村博之)	山口志津子 (諏訪和夫)	秋葉章二 (諏訪和夫)	荒居哲也 (山崎　昭)	加藤祐司 (戸村博之)	榊原通子 (戸村博之)	金塚省吾 (及川全代)	畑瀬慶博 (及川全代)	磯貝　智 (吉川勲生)	沼尻俊次 (篠崎ひで子)	渡邉範夫 (篠崎ひで子)
	3学年	纐纈康世 (田口富男)	内海曜子 (小谷幹夫)	佐瀬郁夫 (岡里　茂)	嶋崎泰樹 (丸山大作)	川澄成生 (岡里　茂)	猪俣康博 (戸村玲子)	後藤重峰 (戸村玲子)	山内美和 (丸山大作 武田浩二)	田口富男 (赤尾和輝)	根本　巌 (赤尾和輝)	堀越恵二 (篤田裕美)
8	1学年	纐纈康世 (川澄成生)	佐瀬郁夫 (鈴木小枝子)	根本　巌 (山内美和)	嶋崎泰樹 (及川全代)	丸山大作 (岡里　茂)	西原千晴 (吉川勲生)	後藤重峰 (及川全代)	戸村玲子 (岡里　茂)	藤井章裕 (吉川勲生)	高橋義巳 (山内美和)	猪俣康博 (川澄成生)
	2学年	田谷伸治 (平山久春)	三橋啓重 (大河内和代 香川悦子)	佐藤陽一 (大河内和代 香川悦子)	椎名　泉 (篤田裕美)	大木　卓 (篤田裕美)	平山久春 (坂本とし子)	宮本　修 (坂本とし子)	後藤俊一 (永長茂子)	根本直美 (永長茂子)	多田　敏 (武田浩二)	石原　守 (武田浩二)
	3学年	香取正巳 (戸村博之)	沼尻俊次 (高城幸雄)	畑瀬慶博 (高城幸雄)	諏訪和夫 (戸村博之)	秋葉章二 (戸村博之)	山口志津子 (篠崎ひで子)	磯貝　智 (篠崎ひで子)	加藤祐司 (金塚省吾)	赤尾和輝 (山崎　昭)	堀越恵二 (内海曜子)	荒居哲也 (内海曜子)
9	1学年	高城幸雄 (戸村博之)	堀越恵二 (鈴木小枝子)	栗山克明 (鈴木小枝子)	内海曜子 (吉川勲生)	小島　昇 (吉川勲生)	秋葉章二 (畑瀬慶博)	金塚省吾 (畑瀬慶博)	川澄成生 (戸村博之)	山口志津子 (戸村博之)	井上泰光 (山崎　昭)	篠崎ひで子 (金子佐知子)
	2学年	纐纈康世 (高橋義巳)	西原千晴 (赤尾和輝)	猪俣康博 (赤尾和輝)	藤井章裕 (岡里　茂)	戸村玲子 (岡里　茂)	嶋崎泰樹 (山内美和)	佐瀬郁夫 (山内美和)	高橋義巳 (及川全代)	丸山大作 (諏訪和夫)	根本　巌 (渡邉正巳)	後藤重峰 (渡邉正巳)
	3学年	田谷伸治 (平山久春)	佐藤陽一 (香取正巳)	根本直美 (香取正巳)	大木　卓 (沼尻俊次)	宮本　修 (沼尻俊次 永長茂子)	三橋啓重 (椎名　泉)	多田　敏 (椎名　泉)	荒居哲也 (坂本とし子)	後藤俊一 (大山小百合)	平山久春 (篤田裕美)	石原　守 (篤田裕美)
10	1学年	香取正巳 (赤尾和輝)	三橋啓重 (多田　敏)	荒居哲也 (広瀬直子)	岡野正博 (多田　敏)	後藤俊一 (及川全代)	大山小百合 (赤尾和輝)	酒井滝雄 (赤尾和輝)	渡邉正巳 (鈴木真紀)	沼尻俊次 (山崎　昭)	池畑羊一 (石原　守)	坂本とし子 (石原　守)
	2学年	高城幸雄 (戸村博之)	小島　昇 (井上泰光)	栗山克明 (吉川勲生)	内海曜子 (戸村博之)	堀越恵二 (井上泰光)	金塚省吾 (永長茂子)	金子佐知子 (篤田裕美)	篠崎ひで子 (篤田裕美)	秋葉章二 (永長茂子)	山口志津子 (松沢史郎)	畑瀬慶博 (水野秋穂)
	3学年	纐纈康世 (川澄成生)	川澄成生 (岡里　茂)	後藤重峰 (佐瀬郁夫)	西原千晴 (佐瀬郁夫)	戸村玲子 (平山久春)	丸山大作 (平山久春)	嶋崎泰樹 (榊原通子)	猪俣康博 (山内美和)	宮本　修 (鈴木小枝子)	高橋義巳 (椎名　泉)	根本　巌 (椎名　泉)
11	1学年	高橋義巳 (水野秋穂)	川澄成生 (水野秋穂)	新村浩章 (岡里　茂)	嶋崎泰樹 (水野秋穂)	丸山大作 (多田　敏)	山崎弘康 (戸村玲子)	根本　巌 (戸村玲子)	後藤重峰 (榊原通子)	鈴木小枝子 (佐倉範子)	佐藤敏之 (榊原通子)	猪俣康博 (西原千晴)
	2学年	香取正巳 (赤尾和輝)	大山小百合 (赤尾和輝)	後藤俊一 (赤尾和輝)	三橋啓重 (石原　守)	坂本とし子 (石原　守)	渡邉正巳 (鈴木真紀)	酒井滝雄 (鈴木真紀)	沼尻俊次 (纐纈康世)	岡野正博 (吉川勲生)	池畑羊一 (木内賢次郎)	荒居哲也 (及川全代)
	3学年	高城幸雄 (平山久春)	金子佐知子 (井上泰光)	栗山克明 (金塚省吾)	内海曜子 (平山久春)	山口志津子 (椎名　泉)	小島　昇 (稲生　茂)	篠崎ひで子 (椎名　泉)	畑瀬慶博 (山内美和)	宮本　修 (金塚省吾)	松沢史郎 (篤田裕美)	堀越恵二 (篤田裕美)
12	1学年	栗山克明 (松沢史郎)	金子佐知子 (平山久春)	高柳良訓 (田谷伸治)	高城幸雄 (赤尾和輝)	小島　昇 (赤尾和輝)	松沢史郎 (山崎　昭)	金塚省吾 (野口久美子)	椎名　泉 (上野精一)	山口志津子 (平山久春)	鈴木真紀 (野口久美子)	佐倉範子 (山内美和)
	2学年	高橋義巳 (川澄成生)	新村浩章 (岡里　茂)	戸村玲子 (寺内温穂)	山口　剛 (篠崎ひで子)	鈴木小枝子 (諏訪和夫)	西原千晴 (佐々木輝彦)	山崎弘康 (佐々木輝彦)	榊原通子 (猪俣康博)	川澄成生 (猪俣康博)	佐藤敏之 (寺内温穂)	後藤重峰 (畑瀬慶博)
	3学年	香取正巳 (三橋啓重)	岡野正博 (宮本　修)	渡邉正巳 (宮本　修)	酒井滝雄 (根本　巌)	沼尻俊次 (密本ゆかり)	坂本とし子 (加藤健一)	池畑羊一 (三浦一泰)	後藤俊一 (及川全代)	大山小百合 (及川全代)	荒居哲也 (吉川勲生)	三橋啓重 (根本　巌)

主要年間行事

平成２年度

4　月	始業式、入学式、新入生オリエンテーション、対面式、部活紹介、写真撮影、尿検査、身体測定、新入生テスト、胸部X線撮影、貧血検査、３年基礎力水準テスト、眼科検診、耳鼻科検診
5　月	心電図検査、生徒総会、内科検診、第１回公務員・就職模試、大清掃、中間テスト、１年林間学校、３年進学講演会・進路別一斉指導、２・３年遠足、第１回短大模試、第１回大学模試、スポーツテスト、PTA総会
6　月	リーダー研修会、第２回公務員・就職模試、第１回高１・高２実力テスト、３年保護者進路説明会、歯科検診、大清掃、３年就職生徒一斉指導、保護者面談期間、第３回公務員・就職模試
7　月	期末テスト、生徒指導講話、球技大会、２年進学講演会、就職生徒面接指導、第２回短大模試、第２回大学模試、野球応援、大清掃、終業式、夏季進学補習、就職指導週間
8　月	同窓会総会、後援会総会
9　月	大清掃、始業式、防災講話、１・２年実力テスト、就職生徒面接個別指導、第３回短大模試、第３回大学模試、進学生徒一斉指導、文化祭（黎明祭）
10　月	大清掃、体育祭（10周年記念）、第４回短大模試、第４回大学模試、第２回高１・高２実力テスト、生徒会役員選挙、中間テスト、献血、第５回大学模試、防災訓練
11　月	生徒総会、大清掃、２年第１回公務員・就職模試、創立10周年記念行事、３年センター試験模試、私大直前模試、２年専門学校説明会、学年PTA
12　月	期末テスト、生徒指導講話、大清掃、終業式、スキー教室
1　月	始業式、大清掃、１年実力テスト、２年第２回公務員・就職模試、３年期末テスト、予餞会
2　月	第３回高１・高２実力テスト、マラソン大会、２年修学旅行、大清掃、創立10周年記念誌刊行、学検
3　月	３年進路動向調査、大清掃、卒業式、１・２年期末テスト、生徒指導講話、終業式

平成７年度

4　月	始業式、入学式、新入生オリエンテーション、対面式、部活紹介、写真撮影、尿検査、身体測定、新入生テスト、胸部X線撮影、貧血検査、２・３年基礎力水準テスト、心電図検査
5　月	生徒総会、内科検診、第１回公務員・就職模試、大掃除、中間テスト、１年林間学校、３年進路別一斉指導、耳鼻科検診
6　月	スポーツテスト、第２回公務員・就職模試、第１回高１・高２実力テスト、３年保護者進路説明会、歯科検診、大掃除、３年就職生徒一斉指導、保護者面談期間、第３回公務員・就職模試、第１回短大模試、第１回大学模試、眼科検診、PTA総会
7　月	期末テスト、生徒指導講話、球技大会、２年進学講演会、就職生徒面接指導、第２回短大模試、第２回大学模試、野球応援、大掃除、終業式、夏季進学補習、就職指導期間
8　月	同窓会総会、後援会総会
9　月	大掃除、始業式、防災講話、１・２年実力テスト、第３回短大模試、第３回大学模試、スポーツ大会、進学生徒一斉指導、文化祭（黎明祭）
10　月	大掃除、第４回短大模試、第４回大学模試、第２回高１・高２実力テスト、生徒会役員選挙、中間テスト、献血、第５回大学模試
11　月	生徒総会、大掃除、２年第１回公務員・就職模試、防災訓練、３年センター試験模試、３年私立大模試、２年専門学校説明会、学年PTA
12　月	期末テスト、生徒指導講話、大掃除、終業式
1　月	始業式、大掃除、１・２年実力テスト、２年第２回公務員・就職模試、３年学年末テスト、予餞会
2　月	第３回高１・高２実力テスト、マラソン大会、２年修学旅行、大掃除
3　月	入学者選抜学力検査等、３年進路動向調査、大掃除、卒業式、１・２年学年末テスト、生徒指導講話、終業式

平成12年度

4　月	始業式、入学式、新入生オリエンテーション、部活紹介、写真撮影、尿検査、新入生テスト、胸部X線撮影、心電図、耳鼻科検診、３年進路別一斉指導、創立20周年記念全校遠足、眼科検診
5　月	身体測定、スポーツテスト、生徒総会、内科検診、中間テスト、貧血検査、球技大会、歯科検診、就職保護者説明会
6　月	高１・２実力テスト、高３全国模試、３年進学保護者説明会、３年就職生徒説明会、保護者面談期間、公務員・就職模試、PTA総会、豪州研修生徒・保護者説明会
7　月	期末テスト、生徒指導講話、大掃除、終業式、夏期進学補習、就職指導期間、生徒派遣国際交流事業（オーストラリア）、高３全国模試、中学生対象学校説明会
8　月	同窓会総会、後援会総会
9　月	始業式、防災講話、１・２年実力テスト、第３回全国模試、就職生徒面接指導、スポーツ大会、文化祭（黎明祭）
10　月	高３センタートライアル模試、２年就職模試、高１・高２実力テスト、２年専門学校説明会、中間テスト、防災訓練
11　月	生徒総会、創立20周年記念式典・芸術鑑賞会、高３記述ファイナル模試、第５回旺文社模試、３年代ゼミ模試、２年専門学校説明会、学年PTA、生徒会役員選挙
12　月	同和教育一斉指導、期末テスト、生徒指導講話、大掃除、終業式
1　月	始業式、３年学年末テスト、推薦入学者選抜、高１・高２実力テスト、２年第２回公務員・就職模試
2　月	マラソン大会、２年修学旅行、大掃除、入学者選抜学力検査等
3　月	大掃除、卒業式、１・２年学年末テスト、生徒指導講話、２年進路別一斉指導、終業式

日課表の変遷

昭和55・56年度

(月～金)		清掃	15：10～15：25
職員打合せ	8：30～8：35		
ＳＨＲ	8：40～8：45	(土)	
1	8：45～9：35	職員打合せ	8：30～8：35
2	9：45～10：35	ＳＨＲ	8：40～8：45
3	10：45～11：35	1	8：45～9：35
4	11：45～12：35	2	9：45～10：35
昼休み	12：35～13：20	3	10：45～11：35
5	13：20～14：10	4	11：45～12：35
6	14：15～15：05	ＳＨＲ	12：35～12：40
ＳＨＲ	15：05～15：10	清掃	12：40～12：55

昭和57年度

(月～金)		ＳＨＲ	15：25～15：30
職員打合せ	8：30～8：35		
ＳＨＲ	8：40～8：45	(土)	
1	8：45～9：35	職員打合せ	8：30～8：35
2	9：45～10：35	ＳＨＲ	8：40～8：45
3	10：45～11：35	1	8：45～9：35
4	11：45～12：35	2	9：45～10：35
昼休み	12：35～13：20	3	10：45～11：35
5	13：20～14：10	4	11：45～12：35
6	14：20～15：10	清掃	12：35～12：50
清掃	15：10～15：25	ＳＨＲ	12：50～12：55

昭和58・59年度

(月～金)		ＳＨＲ	15：25～15：30
職員打合せ	8：25～8：30		
ＳＨＲ	8：35～8：40	(土)	
1	8：45～9：35	職員打合せ	8：25～8：30
2	9：45～10：35	ＳＨＲ	8：35～8：40
3	10：45～11：35	1	8：45～9：35
4	11：45～12：35	2	9：45～10：35
昼休み	12：35～13：20	3	10：45～11：35
5	13：20～14：10	清掃	11：35～11：50
6	14：20～15：10	ＳＨＲ	11：50～11：55
清掃	15：10～15：25		

昭和60・61年度

(月～金)		(土)	
職員打合せ	8：25～8：30	職員打合せ	8：25～8：30
ＳＨＲ	8：35～8：40	ＳＨＲ	8：35～8：40
1	8：45～9：35	1	8：45～9：35
2	9：45～10：35	2	9：45～10：35
3	10：45～11：35	3	10：45～11：35
4	11：45～12：35	清掃	11：35～11：50
昼休み	12：35～13：20	ＳＨＲ	11：50～11：55
5	13：20～14：10	4	11：45～12：35
6	14：20～15：10	清掃	12：35～12：50
清掃	15：10～15：25	ＳＨＲ	12：50～12：55
ＳＨＲ	15：25～15：30		

昭和62年度

(月～金)			
職員打合せ	8：20～8：25	ＳＨＲ	15：25～15：30
ＳＨＲ	8：35～8：40	(土)	
1	8：45～9：35	職員打合せ	8：20～8：25
2	9：45～10：35	ＳＨＲ	8：35～8：40
3	10：45～11：35	1	8：45～9：35
4	11：45～12：35	2	9：45～10：35
昼休み	12：35～13：20	3	10：45～11：35
5	13：20～14：10	清掃	11：35～11：50
6	14：20～15：10	ＳＨＲ	11：50～11：55
清掃	15：10～15：25		

昭和63年度、平成元～９年度

(月～金)			
職員打合せ	8：20～8：25	清掃	15：20～15：35
ＳＨＲ	8：35～8：40	(土)	
1	8：45～9：35	職員打合せ	8：20～8：25
2	9：45～10：35	ＳＨＲ	8：35～8：40
3	10：45～11：35	1	8：45～9：35
4	11：45～12：35	2	9：45～10：35
昼休み	12：35～13：20	3	10：45～11：35
5	13：20～14：10	ＳＨＲ	11：35～11：45
6	14：20～15：10	清掃	11：45～12：00
ＳＨＲ	15：10～15：20		

平成10～12年度

(月～金)			
職員打合せ	8：20～8：30	勤務終了	17：05
ＳＨＲ	8：35～8：40	(土)	
1	8：45～9：35	職員打合せ	8：20～8：30
2	9：45～10：35	ＳＨＲ	8：35～8：40
3	10：45～11：35	1	8：45～9：35
4	11：45～12：35	2	9：45～10：35
昼休み	12：35～13：20	3	10：45～11：35
5	13：20～14：10	ＳＨＲ	11：35～11：45
6	14：20～15：10	清掃	11：45～12：00
ＳＨＲ	15：10～15：20	下校	12：00
清掃	15：20～15：35	勤務終了	12：20
下校	16：30		

在籍生徒数の推移

年度	1学年			2学年			3学年			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
昭和55	118	70	188	−	−	−	−	−	−	118	70	188
56	96	86	182	117	69	186	−	−	−	213	155	368
57	107	73	180	93	89	182	113	69	182	313	231	544
58	137	134	271	105	72	177	91	88	179	333	294	627
59	164	111	275	137	134	271	106	69	175	407	314	721
60	140	134	274	159	111	270	134	132	266	433	377	810
61	176	144	320	140	132	272	156	112	268	472	388	860
62	182	148	330	176	143	319	138	134	272	496	425	921
63	251	219	470	181	147	328	177	145	322	609	511	1,120
平成元	220	252	472	248	219	467	178	149	327	646	620	1,266
2	263	196	459	213	251	464	247	218	465	723	665	1,388
3	232	226	458	261	196	457	213	251	464	706	673	1,379
4	236	219	455	232	226	458	257	195	452	725	640	1,365
5	241	195	436	236	220	456	230	226	456	707	641	1,348
6	213	211	424	241	196	437	233	218	451	687	625	1,312
7	207	197	404	211	212	423	235	195	430	653	604	1,257
8	221	183	404	207	194	401	212	210	422	640	587	1,227
9	222	181	403	221	183	404	206	189	395	649	553	1,202
10	213	191	404	219	182	401	219	182	401	651	555	1,206
11	193	208	401	209	192	401	216	178	394	618	578	1,196
12	206	197	403	191	208	399	205	188	393	602	593	1,195

入学志願者数・入学者数および卒業者数の推移

年度	募集定員(学級数)	志願者数			入学者数			卒業者数			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	累計
昭和55	180 (4)	153	89	242	118	70	188	—	—	—	—
56	180 (4)	126	100	226	96	86	182	—	—	—	—
57	180 (4)	150	90	240	105	73	178	112	69	181	181
58	270 (6)	144	138	282	137	134	271	89	88	177	358
59	270 (6)	185	123	308	164	111	275	106	69	175	533
60	270 (6)				140	134	274	134	131	265	798
61	315 (7)				176	144	320	156	110	266	1,064
62	329 (7)				182	148	330	136	132	268	1,332
63	470 (10)				251	219	470	176	144	320	1,652
平成元	470 (10)				220	252	472	177	148	325	1,977
2	450 (10)				263	196	459	245	218	463	2,440
3	450 (10)				232	226	458	213	249	462	2,902
4	450 (10)				236	219	455	255	194	449	3,351
5	430 (10)				241	195	436	228	225	453	3,804
6	420 (10)				213	211	424	231	217	448	4,252
7	400 (10)				207	197	404	235	195	430	4,682
8	400 (10)				221	183	404	211	209	420	5,102
9	400 (10)				222	181	403	204	189	393	5,495
10	400 (10)				213	191	404	219	181	400	5,895
11	400 (10)				193	208	401	216	175	391	6,286
12	400 (10)				206	197	403				

出身中学校別入学者数の推移

地区	出身中学校	年																					度	累計
		昭55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
成田市	成田	17	15	9	36	19	40	31	27	42	39	31	26	21	26	28	16	21	22	24	15	17		522
	遠山	13	10	10	23	12	8	9	12	9	21	17	23	17	12	10	7	12	11	19	8	15		278
	久住	10	3	2	9	8	5	10	2	5	3	5	7	9	8	5	5	5	2	5	4	4		121
	豊住	3	4	4	3	6	5	10	6	10	4	4	5	7	8	2	5	6	3	6	4	4		109
	西	29	22	22	43	51	40	28	29	52	56	48	21	24	24	23	14	21	12	19	18	27		623
	中台	15	18	21	14	31	31	41	33	42	27	31	35	38	31	28	26	25	25	22	16	31		581
	吾妻	5	15	8	27	35	33	36	31	33	46	35	26	26	29	23	9	23	28	15	20	14		517
	玉造							18	23	31	24	23	32	32	31	26	25	18	26	25	21	19		374
佐倉市	井野																		1			1		2
	臼井	3	6	4	1				2	2			1		1				1					21
	臼井西										1	1		1				1	1					5
	臼井南																				1			1
	上志津	3	9	3	2																1			18
	佐倉	2			1		1	3	5									1			4			17
	佐倉東										2	1		2		1			1	2				9
	志津	14	7							1					1									23
	南部	1							1			1		1										4
	西志津																	1						1
四街道市	四街道		1	4		2	1		1	1					1									11
	四街道西	2	3	1												1			1					8
	四街道北											1												1
	千代田	2	1	3		3																		9
	旭	1		6										1	1									9
印旛郡	富里	21	26	23	42	27	33	13	14	20	28	26	13	20	12	19	24	26	31	18	26	31		493
	富里北					6	6	8	14	28	14	16	23	16	16	16	15	16	8	23	20	19		264
	富里南								3	5	8	8	10	6	6	7	4	6	11	16	10	13		113
	酒々井	14	12	11	5	3	3	4	2	6	6	5	18	22	21	13	20	8	15	9	10	17		224

地区	出身中学校	年																				度	累計
		昭55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
印旛郡	栄	4	3	5	13	16	20	41	42	59	49	50	32	32	27	32	33	28	23	20	25	24	578
	栄東										8	9	8	9	16	12	7	20	2	21	23	17	152
	印旛					1	2			2	4	8	9	9	6	13	2		3	3	3	3	68
	本埜				1	4		3	7	7	1	5	11	8	4	4	1	2	1		3	1	63
印西市	印西	1			7	2	7	6	5	10	4	8	6	4	1	1	3	5	6	7	5	6	94
	原山												2			2							4
	小林												8	2	4	1	6	3	5	6	4	13	52
	船穂							1		1													2
八街市	八街				2	1								1								1	5
	八街中央		2					1												2			5
我孫子市	我孫子							1	1								1						3
	湖北							1	1		1		1	1			1		1		1	1	9
	布佐							1	3	4	1	3	2	1				1		2	3		21
八千代市	村上東	3	3	1	2													2					11
	阿蘇	1	2										1	1						1			6
	大和田	1		8										1				1		1			12
	八千代		1	1										1									3
	八千代松陰																		1				1
	勝田台		1	4												2							7
	八千代台西			3																			3
	高津			1													1			1			3
	東高津															1							1
香取郡	下総	10	5	2	4	3	5	7	4	7	21	12	10	14	17	11	20	20	19	11	11	11	224
	神崎	1			5	7	3	5	11	20	15	15	10	11	9	16	13	6	8	12	13	5	185
	昭栄	1	2	7	9																		19
	大栄					17	11	10	21	26	12	24	23	25	25	21	28	19	20	26	23	14	345
	大須賀				9																		9
	多古		1			1		1		2	17	7	10	4	12	11	8	14	16	11	22	11	148
	栗源											3	4	2	3	2	7	4	6	3	3	1	38

地区	出身中学校	年															度						累計
		昭55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
香取郡	山田												1					1					2
	小見川							1						1		1	1	1	2	1		1	9
佐原市	佐原	9	1		2	3	6	12	5	12	20	19	27	33	26	27	37	28	16	14	19	21	337
	佐原二								1			1	6	3	3	6	7	7	11	3	3	4	55
	佐原三									1		2	3	1	5	6	4	1	3	5	7	4	42
	佐原四													3	2	6	9	3	2	4	4	3	36
	佐原五						4	8	9	5	13	13	19	12	20	17	12	20	13	21	17	18	221
	新島										3		1	1	2	6	6		4	4	3	4	34
山武郡	芝山		1	2	5	9	3	4	6	5	8	6	3	7	4	7	3	6	4	8	8	4	103
	横芝								1														1
	光																	1					1
千葉市	朝日ケ丘														1								1
	天戸																		1				1
	草野			1																			1
	犢橋			3		1								1									5
	小仲台															1							1
	幸町		1																				1
	幸町二													1									1
	さつきが丘										1								1				2
	山王													1									1
	新宿									1													1
	高浜					1								1									2
	千城台南										1				1								2
	椿森			1																			1
	花園									1													1
	花見川一		2	2	1							1		2					1				9
	花見川二			5																			5
	幕張西																			1			1
	幕張本郷													1									1

地区	出身中学校	年															度						累計
		昭55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
千葉市	若　　松						1																1
東葛飾郡	風　　早											1											1
鎌ケ谷市	鎌　ケ　谷										1												1
	鎌ケ谷二											1											1
船橋市	海　　神														1								1
	小　　室													1									1
	古　和　釜					1						1											2
茨城県	金　江　津		1	2		5	4	4	6	15	6	9	10	3	10	4	8	6	11	6	9	9	128
	東	1								1	1	4	8	12	4	11	11	15	21	6	10	11	116
	江　戸　崎																1						1
	桜　　川																1		1		1		3
	新　利　根								1														1
	新　　館						1																1
柏　市	柏　　三											1											1
	富　　勢										1	1											2
流山市	東　深　井															1							1
松戸市	牧　野　原		1																				1
	六　　実																			1		1	2
市川市	福　　栄				1																		1
習志野市	習 志 野 四							1															1
市原市	姉　崎　東														1								1
	八　幡　東			1																			1
八日市場市	八日市場二											1											1
銚子市	銚　子　一													1									1
	九 十 九 里																					1	1
	そ　の　他	1	3		4		1	1	1	4		2	3	1	4		3		2		3	2	35
		188	182	180	271	275	274	320	330	470	472	460	458	455	436	424	404	404	403	404	401	403	7,614

卒業生の進路状況

(1) 卒業生進路状況

進路分野＼卒業年度		平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
進学	大学			31	45	60	53		80	78	102
	短期大学			63	86	83	81		66	67	38
	専修・各種学校			145	166	131	119		128	128	147
就職				92	60	51	52		33	33	28
その他				118	96	122	125		86	94	76
合計				449	453	447	430		393	400	391

(2) 進学・就職先（順不同・実数・過年度卒を含む）

大学進学状況

大学＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
北海道大					1					
山形大				1						
高崎経済大					1					
茨城大				1						
東京芸術大					1					
新潟大							1			
山口大				1						
北海道拓殖大								1		
札幌大		1								
札幌学院大				1						
酪農学園大										1
北海学園北見大		1								
青森大								1		
八戸工業大		1	1		1					
八戸大				1						
奥羽大						1				
東北工業大		1								
東北薬科大	1				1	1				1
いわき明星大		1								
長岡造形大						1				
常磐大		2								
東京家政学院筑波女子大								2		
流通経済大		3	4	5	3	5	6	9	2	

大学＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
足利工業大		2	1	4						
白鴎大						1				
関東学園大							1			
埼玉工業大					2		1			1
駿河台大						1	1	1		
城西大		1		1	1		1	2	2	
東京国際大							1	1		1
平成国際大						1			1	
文教大										1
文京大				1						
明海大		2	2		7	4	8	6	2	4
江戸川大				3	1	1	1	1	1	2
川村学園女子大		4	1	2	1	1	2	3	1	2
神田外語大				1	1	2		1	1	
敬愛大		1	5	3	2	1	3	2	6	2
国際武道大		1						1	1	1
秀明大（八千代国際大）		3	4	3	6	2	1	4	1	
城西国際大					3	6	5	3	2	3
淑徳大		1	1			1		2	2	2
聖徳大		1				1		1	4	
清和大					1			1		
千葉工業大	1	1	2		8	4	3	4	9	4
千葉経済大				2	1	2	1	5	2	5
千葉商科大	2	1	1	3	5	4	5	9	8	15
中央学院大	3	4	2	3	5	6	2	5	6	6
帝京平成大（帝京技術科学）	3	1	1	5	6	2	3	2	5	3
帝京科学大										1
東京情報大		3	2	3	3	3	3	3	6	2
東京成徳大					1		1		3	
東洋学園大		1		2	4	1	2			
麗澤大		1	1		1		1	1	2	3
和洋女子大		1		1	2					2
青山学院大				1	1		1		1	1
亜細亜大				1				1	2	2
上野学園大								1		
北里大										1
大妻女子大						1				
桜美林大								1		

大学＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
学習院大						1				
杏林大		2	2	1		1		2		
工学院大						1		1		
國學院大	2	2		1			1	2	1	2
国士舘大				1	3	1	3	2	5	5
駒澤大	2				2	2	4	1	2	1
駒澤女子大				1						
実践女子大						1				
芝浦工大								1		1
順天堂大					1					
上智大								1		
成蹊大							1			
専修大	1	1			1	1	1	5	1	
創価大	1				4		1		2	
大正大	1				1			1		
大東文化大	1	2	1	2		2	1			1
高千穂商科大	3			1		2				1
拓殖大		3			1	1				1
多摩美術大		1				1				
中央大			1				1			
帝京大		2	1	6	5	7	6	4	5	10
東海大			2		2	2	1	2	1	3
東京家政大						1				
東京経済大							2			
東京工芸大					1		1		1	
東京女子体育大			1				1	1	1	
東京電機大				1	1		1		1	2
東京農業大				1	1		1	3		1
東京理科大					1				1	
獨協大			1					3		
東邦大							1			2
東洋大	1	3					1	1		3
二松学舎大								1		
日本大	1		1	2	1	4	6	6	2	4
日本女子体育大学			1	1						2
日本体育大学			2							
日本文化大		1	1	1						
文化女子大										1

大学＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
法政大		1		2	3			2		1
武蔵大										1
武蔵野女子大										1
武蔵工大								1		
明治大		1	1			2		2		2
明治学院大	2				1			1		
明星大		1							1	1
立教大							1			
立正大			1	2		4	4	2	1	3
早稲田大						1	1			
神奈川大	1	1			1		1			1
神奈川工科大				1		2				4
関東学院大		1			2		3			
湘南工科大				2				1		1
洗足学園大		1								
山梨学院大			1							
西東京科学大	1				1					
和光大									1	
静岡理工大										1
近畿大			2						1	
北陸大								1		
京都女子大						1				
立命館大				1						
大阪学院大						1				
松坂大							1	1		
中部学院大								1		
大阪工大								1		
阪南大						1				
梅花女子大							1			
神戸学院大							1			
姫路獨協大								1		
東亜大		1								
徳島文理大		1								
第一経済大	1									
第一工業大	2	1			1					
防衛大		1								
帝京ロレッタハイツ大				1						
カリフォルニア州立大			1							

短大進学状況

短大＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
専修大北海道短大						1				
文化女子大室蘭短大			1							
群馬パース短大								1		
つくば国際短大					1	1	1			
國學院大栃木短大部					1					
国際学院埼玉短大						1				
文京大女子短大部							1			
茨城女子短大	1							1		
清真学園女子短大		1	1					1		
土浦短大	1	4	4	2						
秋草学園短大			1							
上野学園大短大部			1							
川口短大	3									
千葉県立衛生短大	1		1	1	1		1	2	1	1
千葉職業能力開発短大	1	2	3	1	2	2	5	4	3	3
植草学園短大									1	1
江戸川女子短大	1	4	4	7	7		3	6	2	2
順天堂医療短大		1								
昭和学院短大	2	3	3	6	4			1		
聖徳大短大部	5	5	4	10	11	6	5	8	5	
清和女子短大		1			1	1				
千葉敬愛短大	6	8	6	8	6	4		1	2	
千葉経済大短大部	4	5	1	1	3	4	9	5	1	4
千葉明徳短大	1	5	1	2		4	1	4	3	5
帝京平成短大	3	1	3	1			2		1	
東京経営短大			1	1	2		1		3	1
日本基督教短大	12	17	15	8	1	2	1			
日本橋女学館短大		7	4	9	9	13	3			
和洋女子大短大部	2	1	2	4	5	2	8	5	7	4
東京職業能力開発短大							1			
青山学園短大										1
愛国学園短大			2	3	3	2				
青葉学園短大					1					
跡見学園女子短大								1	1	
大妻女子短大部	1				1		2	1	1	
嘉悦女子短大	1								1	
川村女子短大	1					1	2		2	

短大＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
共立女子短大								5		3
国際短大			1		1					
国士舘短大	1	1								2
駒澤短大	1					1				
駒澤女子短大						2				
産能短大								2	1	
実践女子短大										1
淑徳短大				1		2				
順天堂医療短大										1
正眼短大									1	
尚美学園短大							1			
昭和音楽短大										1
昭和女子大短大部							1			
昭和大医療短大										1
女子栄養短大					1					
女子美術短大				1		1				
杉野女子大短大部	2			1		3		1		
聖徳栄養短大	1	2	3	5	2	1			1	1
星美学園短大										1
聖母女子短大							1			
創価女子短大		1								
拓殖短大					1					
田中千代学園短大			1							
帝京短大			1			1				
帝京女子短大					5					
戸板女子短大					1	1		3	1	
東海大短大							1		1	
東京家政大短大部							1	1	1	
東京家政学院短大	1	1	1							
東京工芸女子短大									1	
東京成徳短大				1		2	3			
東京農大短大部								1	3	1
東京文化短大						1				
東京立正女子短大					1	1				
東邦音楽短大		1		3						
東洋大短大								2	5	1
東洋女子短大		2	1	2	3	6	3	2	6	1
東横学園女子短大					2		1	2		

短大＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
日本女子体育短大						2				
日本体育大女子短大	1	1	1						1	1
日本大短大部							1			
富士短大						2	1		2	
文化女子短大部	1	3		1		2			2	
文京女子短大				2	1	3	2	2	5	1
武蔵野女子大短大部						1				
明治短大										1
目白学園女子短大		2			2	5	1	2	2	
山野美容芸術短大								1		
山脇学園短大										
立教女学院短大							1			
神奈川県立衛生短大								1		
相模女子大短大部					1					
調布学園女子短大				1						
トキワ松横浜美術短大							1			
金襴短大								1		
鶴川女子短大					1	1				
羽衣学園短大							1			
松本短大				1						
中京短大				1						
中日本自動車短大		1								
奈良芸術短大		1								

専修・各種学校進学状況

学校＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
茨城県立農業大学校			1							
茨城職業訓練短期大学校			1							
茨城県立土浦産業技術学院										1
千葉県立旭高等技専		1	1	2	1					1
千葉県立我孫子高等技専	2		3	1	2	1			1	2
千葉県立芝山高等技専	1									
千葉県立千葉高等技専	1	2	1		1	2	1	3		
千葉県立長生高等技専							1			
千葉県立船橋高等技専			1	7	3	1		3	1	1
千葉県立東金高等技専								1	2	
千葉県立養護教員養成所		1								

学校＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
千葉県医療技術大学校		2	1							
千葉県農業大学校	1			1	1		1			1
千葉県立宝石美術専		1								
千葉県自動車技術専	5	5		3				1	5	2
中央自動車整備専		1								
三菱自動車技術専						1				
成田航空専					1					
ニホンオートモービル・ハイテクニカル	3	1	6	5	5	5	4	6	5	4
日産自動車整備専		1				1				
日本自動車整備専			1	1						1
ホンダインターナショナルテクニカルスクール			1							
建設実務専			2							
工学院大学専			1							
国際理工専	1	3	2		2		1	5	2	5
千葉日建工学専										1
千代田工科芸術専	8	2	2	2	1	2	2	2	2	2
東京科学芸術専			1							
東京科学電子工業専		2	2			2				
東京航空工業専			1							
東京工学院専		1	1							
東京測量専			1							
国土建設学院				3						
東京製図専						2		1		
東京電子専		3	1			2				
東京工業専				1	1	2				1
日本工学院専	3			9	3		5	2	3	3
日本工学院八王子専							1	2	1	1
日本電子専		1	1				2	4		6
中央工学校	3	4	1	6	2	2	12	3	1	
東京テクニカルカレッジ									1	
読売東京理工専			1	4	1				1	2
読売高等理工専						2				
早稲田電子専										1
ヒューマンアカデミー							1			
バンタン電脳情報学校							1	1		
千葉県医療技術大学校								2		
千葉県立野田看護専									1	
旭中央病院看護専			1		1		1			

学校＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
国保松戸市立病院付属看護専		1		1						1
国立下総療養所付属看護学校					1					
亀田看護専	1									
山王病院看護専				1		1	1	2	1	1
湘南平塚看護専					1					
東邦大学佐倉看護専				1	3		2			
日本医科大学千葉看護専				2	1			3	1	
慈恵青戸看護専					1					
慈恵柏看護専		1		2	3			1		1
成田赤十字看護専	2	1			1	1	1	2	1	2
成田看護高等専修学校					1		1			
白十字看護専				1						
双葉看護学院	1	2	1			1	2		1	
宮本看護専		2		2		1		1		
千葉県立鶴舞看護専						1				1
船橋市立看護専						2				1
浦安市川市民病院付属葛南看護									1	
東京警察病院看護専									1	
土浦協同病院看護専		1						1		
北原学院歯科衛生士専		2		1	2			4	1	1
帝京大付属放射線学校									1	
東京医学技術専									1	1
東京歯科大歯科衛生士専									4	
東京歯科技工専									1	
東京清瀬医学技工専							1			
ナショナル整体専門学院		1								
日体柔整専		1								
日本柔道整復専			1							
藤リハビリテーション学院					1					
お茶の水医療秘書専				1	1				1	
共立医療秘書専					1					
千葉お茶の水医療秘書専					1	1			1	
国際医療管理専						1				
国際医療福祉専								3		2
城西医療技術専								1		
新東京歯科技工士学校			1							
大東医学技術専				2						
東京衛生学園				1						

学校＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
日大歯学部付属歯科技工専		2								
日本歯科大付属歯科専		1						1	1	
日本医歯薬専						1				
日本歯科助手専								1		
東京医薬専		1				1	1	1		2
東京医療秘書福祉専		3	1		1		2		3	
大阪あべの辻調理師専										1
昭和学院栄養専		1			1	1				1
エコールキュウリネール国立					1	2		1		
香川栄養専				2			1	1		
武蔵野栄養専					1					1
新宿調理師専			1	1		1				
聖徳調理師専		1		1		1				
服部栄養専			1							1
華学園栄養専		1		2	1	2	1			
華調理師専	2	2		3	1	2	5	6	2	
武蔵野調理師専			1	2				2	1	2
千葉調理師専				1	2	2	1	1	3	2
東京誠心調理師専				1						
東京調理師専				1						
日本菓子専							1			1
辻製菓専					1			1		
辻調理師専					1					
双葉製菓学校								1		
萌愛調理師専					1					
日本美容専							2	2		
カネボウ総合美容学校					1					
窪田理容美容専			1				1			
国際文化理容美容専			1				2	1		
国際理容美容専		1	3	1	2	1	2		1	
千葉美容専	1	2		3	1	3	4	1	2	4
中央理容美容専									1	
東京美容専			1							
東京総合理容美容専			1							
東洋理容美容専		5	5	1	1	1	2		3	2
真野美容専										1
山野美容専	2	1		1	1	1	1			3
高山美容専						1		3		

学校＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
パリー美容専						2		2	1	
メーザハウス						1			1	
セピア・ペットケアスクール		1								
ちば愛犬動物学園										1
東京愛犬高等美容学校					1					
植草文化服装専			1							
織田デザイン専										1
織田きもの専					1					
東京田中千代服飾専			1							
東京デザイナー学院	4	2		3		1				2
目白デザイン専							2			
東京デザイン専					1	1	1			
東京文化デザイン専		2				1				
東京モード学院						1				
日本デザイナー学院					1			2	1	
日本デザイン専							2			
バンタンデザイン研究所							1	1		
町田デザイン専		1								
武蔵野服飾美術専			1					2		
華服飾専		2		1	2		6	6	1	3
モビリアジインテリアカレッジ		1								
文化服装学院		1		1			3	3		2
村田簿記専							1			1
大原簿記専	7	10	4	1				2		
日商簿記専							1			
大原法律専					2	1		2		
アクト情報ビジネス専										1
CIB国際ビジネス専							2			
大原簿記専津田沼校			12	13	8	7	5	3	15	
大原簿記法律専柏校						1			2	4
千葉情報経理専	14	11	8	3	2	2	1	2	5	6
千葉スクールオブビジネス			1		1					
帝京情報技術専		1				1	1			
千代田ビジネス専					3				1	
東京健康科学専							1			
東京会計専	5	9	7	11	1		1			1
東京国際専			1	1	1		1			
国際情報ビジネス専						2				

学校＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
東京国際情報ビジネス専					1					
東京商科学院専	6	4	6	3	1	3	2			
東京スクールオブビジネス	7	3		1	1	1				
東京パシフィックビジネスカレッジ			1							
公務員専			1							
東京法科学院専	2	4		3	2	1	1			
東京法律専		2	5	5	2	6			2	
日本ジャーナリスト専			1				1	1	1	
日本スクールオブビジネス						2				1
日本情報ビジネス専						2				
日本ビジネス専		1								
東京コンピュータ専			1			1				1
富士コンピュータ専	6	15	8	1	1					
船橋情報ビジネス専	4	5	3	6	1		8		3	2
明生情報ビジネス専	4	2	1		3	1	7			1
早稲田速記秘書専		1		1	1		1			
成田外語学院									1	2
お茶の水外語学院		2	1		1	1				
神田外語学院	2	3	1	3	3	2	4		2	2
駿台ＥＬＳ外語学院	1	1	1	2						
東京外語専	1	1		2	1	1	1			
South Australia College of English							1			
日本外国語専		1					2		1	2
ＹＭＣＡ外国語専		3	1	2						
国際観光専	1	1				1				
日本ホテルスクール						1			1	
国際トラベル＆ホテル専	4	1	2	1	6	2	7	4	6	4
駿台トラベル専	2	4		5	2			1	1	2
東京観光専	1	1			1	2			1	1
東京スチュワーデス専			1			1				
東京スチュワーデス学院							1			
東京ＹＭＣＡ国際ホテル専		1		1			1	1		
国際観光文化学院							2			
トラベルジャーナル旅行専			1		3		1	1		
ジャパンアカデミー						1				
東京アカデミー						1				
アンミュージックスクール										1
江原音楽療法専										1

学校＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
国立音楽専				1						
中部楽器技術専						1				
日本音楽学校		1					1			
日本ピアノ調律技術学院							1			
ＥＳＰミュージカルアカデミー	1	1					2	3	1	2
専門学校東京メディアアカデミー										1
東京ゲームデザイナー専										1
東京ミュージック＆メディアアーツ尚美					2		3	1	6	3
東京アナウンス学院				1		1				
東京コミュニケーションアート専	1	3		1	1	2		1	3	2
東放音響専				1						
東京コンセルバトワール尚美専				1						
ミューズ音楽院									2	
アミューズメントメディア総合学院							1			
東京アニメーター学院								2		
代々木アニメーション学院		1				1				
東京ビジュアルアーツ						1				
東邦アナウンス学院									1	
ＭＩジャパン									1	
東放学園専			1							
東京演劇学園		1								
桑沢デザイン研究所										1
東洋美術学校					1		2		1	
創形美術学校								1		
山脇美術専門学院								1		
植草幼児教育専	1	4		4	4		4	2	1	1
江戸川大学総合福祉専	2	1	2	1	1		5	1	1	2
竹早教員養成所				1						
中央介護福祉専										1
東京教育福祉専										1
東京福祉専			2	1	2				2	2
千葉福祉専						1				1
成田国際福祉専									2	2
日本福祉教育専									1	2
早稲田速記医療福祉専										1
千葉県保育専		1								
千葉女子専		1	1							
ワタナベ学園津田沼専			1							

学校＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
道灌山学園保育専		1				1				
東京YMCA社会体育専		1		1	1				1	1
東京YMCA専			1							
東京テクノホルティ園芸専										1
日本動物学院							1			
東京動物専					1			2		1
日本動植物専					1	1				
早稲田大学専						1				
アップルスポーツカレッジ								1		
スポーツエデュケーションアカデミー						1				
東京スポーツレクリエーション専						1		1		
日本社会体育専						1				
シアトル国際短大		1								
CICカナダ国際大		1			1					
テンプル大学ジャパン								2		
帝京ウエストマー大		1								

就職状況

事業所＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
青野工業					1					
岩井金属工業		2	1							
川崎製鉄千葉			1					1	1	
協和加工		1			1					
近藤建設						1				
積和建設										1
さくらや					1					
カーセールスリード										1
白岩工業					1					
ソニー小見川		1								
高木測量		2		1						
タツノ化学			1	1						
TDK成田工場	6	4					1	1		
TDKサービス			1							
東邦シートフレーム		1				1				
並木産業						1				
日商グラビア			1							
日本鉄鋼建材リリース					1					

事業所＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
日本ユニーズ						1				
ネッスル日本					1				1	
ハセックギア			1							
パンテック			1							
日立千葉エレクトロニクス		2						1		
日立ツール成田	1	2	1	1		1			1	
フジクラ	3	3	1	1		1	1	1		
正幸産業									1	
メロス化学		1								
和田化学工業		1		1		1	1			1
タクトサービス開発							1			
ティーエフケー		1	2	1						
東京めいらく	1					2				
よつば乳業						1	1			1
コープ果汁							1			
米屋						1				
高田印刷							1			
凸版印刷					1					
京葉銀行		2	1	1				1		
千葉銀行	1									
成田信用金庫	1	2	3			1		1		
エンパイア・エアポートサービス	2	1								
カネボウ		1	1							
コーセー化粧品販売			2							
資生堂東関東販売			1							
マックスファクター販売			1							
イズミヤ					1	1				1
イトーヨーカ堂			1	1		1	1	2	3	
Olympic									1	
カトー電機販売							1			
かねたや			2							
京都さがの苑							1			
クラビス		1								
小泉東関東			1							
コクヨ						1				
コジマ				2	2		1		1	
コトブキゴルフ			1							
コナカ			1							

事業所＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ジャペル									1	
十字屋千葉店		1								
スルヤ					1					
ダイエー					1					
ダイナック				1						
多田屋		1								
千葉そごう	2	2	1	1			1	1		
千葉三越	2	1								
ドラッグストア アオモリ				1						
ビクトリーアンドアソシエイツ					1					
ボンベルタ	1	1			2					
マツモトキヨシ				1						
マルエツ									1	1
三越			1							
ユアマートすずこう							1			
ヨークマート							1			
ライトオン販売				1						
千葉ダイハツ販売	1	1								
千葉トヨペット		1								
千葉日野自動車		1								
千葉三菱自動車販売							1			
トヨタカローラ	1	1								
トヨタレンタリース千葉			1							
エヌデーシー				1		1				
エポック				1						
東京三菱石油							1			
長島石油		1					1			
日拓エンタープライズ							1			
オリエンタルランド		1								
グリーンポートエージェンシー		1								
新都市サービスセンタ		1								
スカイウェイ・カントリークラブ		2								
総武カントリークラブ					1					
総成カントリー倶楽部							1			
富士カントリークラブ		1	1							
AGS	1									
カマタキ運輸						2				
キング観光自動車		1								

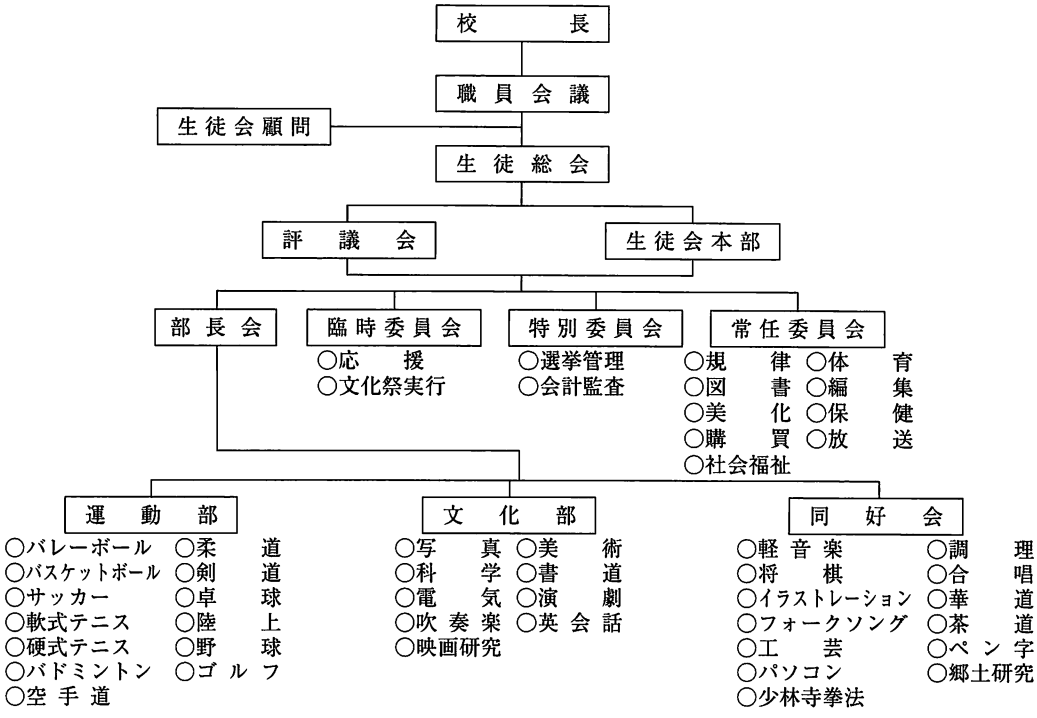
事業所＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
近鉄コスモス東京						1	1			
京成電鉄	4	1		1				1		
空港アビエーションサービス					1	1	1	1	1	1
航空手荷物サービス		1	1							
国際ビルサービス			1	2					1	1
エアカーゴターミナルサービス				2	1	1	1		1	1
国際空港上屋	1	2			1	2				
国際倉庫		2						1		3
国際ビルサービス					1	1		1		
ジャルロイヤルケータリング					2	2	2	1		1
新東京空港事業			1							
そごう商事								1		
大永航業							2			
つるや航業					1					
成田空港警備							1			
日航貨物ターミナル								1		1
JR東日本			2	1						
東日本旅客鉄道					1	1	1			
白岩工業			2							
西濃運輸		1		1	1					
千葉交通		1			1					
帝都高速道交通営団		1								
東都自動車						1				
勝浦ホテル三日月					1	1	1			1
ケイヨーリゾート開発			1							
長五楼			1							
椿山荘			1							
成田東急イン			2							
成田ビューホテル							1			
成田ホテルフジタ		2								
成田Uーシティーホテル	1									
日航ホテル		1								
ニュー小湊ホテル						1				
ホテルセントラーザ		2	1							
ホテル日航成田							1		2	
ホテルレッツ成田						1				
都ホテル東京		1								
リーガロイヤルホテル						1	1	2		1

事業所＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ロイヤルホテル		3	2							
日本空港給油	1	1		1	1					
日本空港動力	1	1								
日本運輸東京航空支店		1	4							
はとバス		1	1							
エヌアイディインフォメイションシステムズ			1			1	2			
シービーエス		1								
千葉電子計算機センター		1								
ディーエスイー		1								
プラムシックス			1							
リコーテクノネット		1								
キッコーマンスイミングスクール			1		1					
セガエンタープライゼズ			1		1					
ユニマックス			1							
日本発色			1							
羽生室内織物				1						
山崎眼科				1	1	1				
きたみ歯科医院				1						
コスモス歯科					1				1	1
成田市農業協同組合			1	1		2				
茨城農業協同組合				1						
ヤンマー農機茨城									1	
印旛教育会館	1	1								
印旛村役場	1				1					
神崎町役場						1				
国家行政事務	4	2								
栄町役場	1		3	1						
栄町消防署					1					
佐倉市役所			1	1						
佐原市外五町消防						2		1		
自治省			1							
大栄町役場	2			1	1					
多古町役場										1
千葉県一般行政		3				1				
千葉県警察	3	2	1	2					1	
千葉県交通巡視員			1							
千葉県市町村学校事務	5	2		1						
千葉県婦人警察官			1							

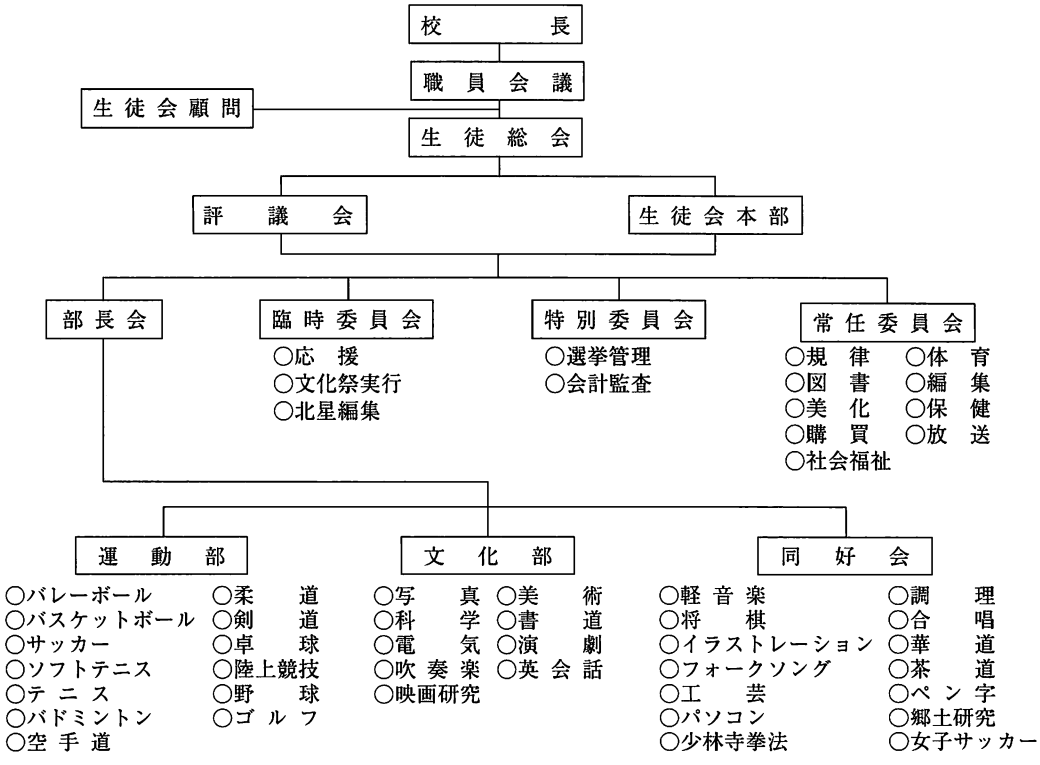
事業所＼年度卒	平成2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
富里町一般行政		2								
富里町消防署		1						1		
習志野市役所			1							
成田市役所	1	1	1							
成田市消防署					2					
本埜村役場					1					
新東京国際空港郵便局					1					
国家郵政事務	3	1	7	1		1	2	1	1	
国家郵政外務				1	1					
東京税関				2						
千葉県警察事務				1						
航空自衛隊									2	
陸上自衛隊					1	2		1	1	1

生徒会組織図

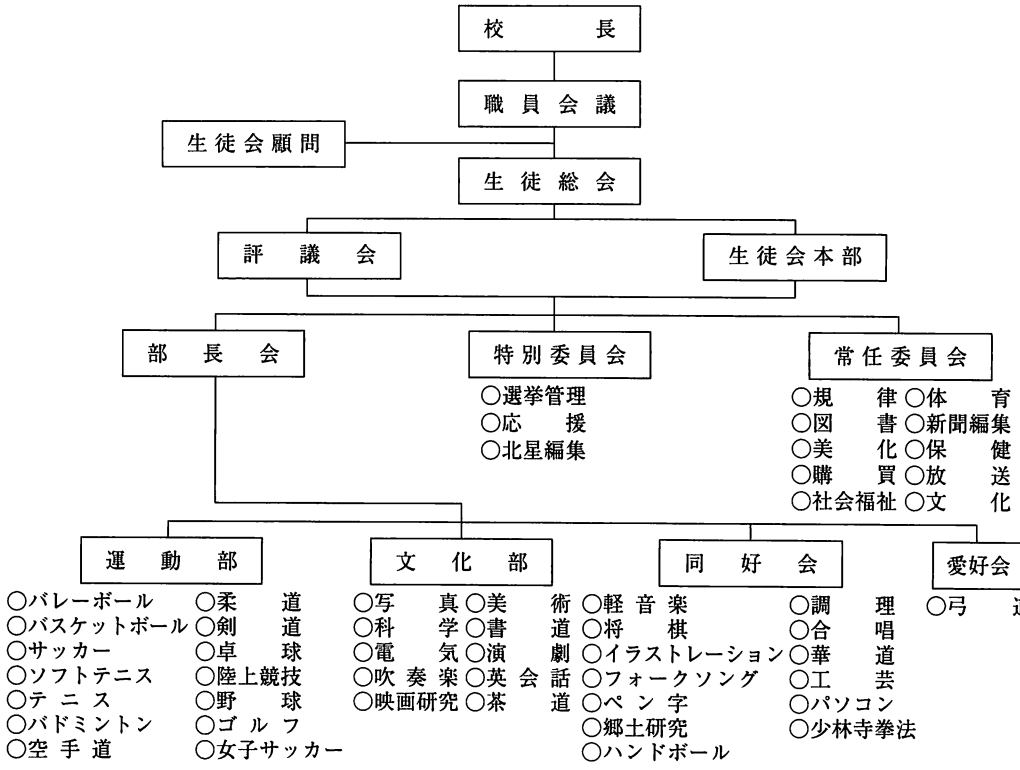
平成２年度



平成７年度



平成12年度


校　長
職員会議
生徒会顧問
生徒総会
評議会
生徒会本部
部長会
特別委員会
○選挙管理
○応援
○北星編集
常任委員会
○規律 ○体育
○図書 ○新聞編集
○美化 ○保健
○購買 ○放送
○社会福祉 ○文化
運動部
○バレーボール
○バスケットボール
○サッカー
○ソフトテニス
○テニス
○バドミントン
○空手道
○柔道
○剣道
○卓球
○陸上競技
○野球
○ゴルフ
○女子サッカー
文化部
○写真 ○美術
○科学 ○書道
○電気 ○演劇
○吹奏楽 ○英会話
○映画研究 ○茶道
同好会
○軽音楽
○将棋
○イラストレーション
○フォークソング
○ペン字
○郷土研究
○ハンドボール
○調理
○合唱
○華道
○工芸
○パソコン
○少林寺拳法
愛好会
○弓道

図書館利用状況統計一覧

分類別利用冊数（貸出）　　対象：全員（生徒・職員）

年　月	0 総　記	1 哲　学	2 歴　史	3 社会科学	4 自然科学	5 技　術	6 産　業	7 芸　術	8 言　語	9 文　学	合　計
平成9年度	40	49	154	132	108	60	13	393	42	1,148	2,139
10年度	74	100	148	206	145	62	20	294	62	1,766	2,877
11年度	38	53	114	214	192	99	10	587	86	1,473	2,866

分類別蔵書集計表

年　度	総　記	哲　学	歴　史 地　誌	社　会 科　学	自　然 科　学	技　術	産　業	芸　術	言　語	文　学	総　計
昭和63年度	660	220	797	827	1,205	309	112	828	514	3,498	8,970
平成元年度	781	309	998	1,035	1,289	410	123	990	685	3,688	10,308
平成2年度	865	316	1,052	1,114	1,336	436	180	1,071	720	4,312	11,402
	総　記	哲　学	歴　史 地　誌	社　会 科　学	自　然 科　学	技術工学産業		芸　術 スポーツ	言　語 語　学	文　学	総　計
平成4年度	997	349	1,240	1,338	1,452	698		1,292	765	4,771	12,902
平成5年度	1,046	420	1,349	1,472	1,536	763		1,391	779	5,329	14,085
平成6年度	1,100	436	1,456	1,685	1,585	919		1,515	792	5,574	14,962
平成7年度	1,123	446	1,507	1,724	1,598	933		1,588	806	6,113	15,838
平成8年度	1,175	466	1,613	1,947	1,703	944		1,742	819	6,677	17,086
平成9年度	1,179	477	1,694	2,021	1,793	988		1,839	862	6,914	17,767
平成10年度	1,239	511	1,759	2,102	1,881	783	275	2,019	885	7,375	18,829
平成11年度	1,277	535	1,819	2,254	1,974	798	281	2,163	938	8,165	20,207
平成12年度	1,337	547	1,915	2,454	2,083	837	286	2,315	992	8,505	21,269

（各年度の蔵書数はいずれも年度始めの冊数である）

平成10年度曜日別入館者数一覧　（期間：1998.04.01～1999.03.31）

	月	火	水	木	金	土	日	合　計
入館者数	4,526	4,319	4,524	3,962	4,512	1,801	0	23,644
開館日数	39	39	39	38	39	23	0	217
入館平均	116	110	116	104	115	78	0	108

平成11年度曜日別入館者数一覧　（期間：1999.04.01～2000.03.31）

	月	火	水	木	金	土	日	合　計
入館者数	5,165	5,226	4,109	4,589	5,639	1,414	0	26,142
開館日数	38	40	38	41	44	24	1	226
入館平均	135	130	108	111	128	58	0	115

平成12年度曜日別入館者数一覧　（期間：2000.04.01～2000.09.30）

	月	火	水	木	金	土	日	合　計
入館者数	2,779	2,406	2,432	1,878	2,284	539	0	12,318
開館日数	22	21	17	18	22	8	0	108
入館平均	126	114	143	104	103	67	0	114

図書館施設の概要（平成12年度）

閲覧室　232㎡……閲覧室スペース・学習スペース・カウンタースペース・書庫スペース・ブラウジングコーナー・コンピュータ検索コーナー

司書室　35㎡

書　庫　35㎡

パーソナルコンピュータ　6台（コンピュータは図書カウンターと検索用端末としての2台のコンピュータ並びに各教科の準備室のコンピュータとが図書館LANで接続されている。また、図書カウンターと検索用端末としての2台のコンピュータはインターネットに接続され、生徒が活用している。）

テレビ　1台・ラジオカセット　1台

その他の図書資料（平成12年度現在）

ビデオ　68本　カセットブック　11本　CD　152枚

新聞　4紙　雑誌　23種類

視聴覚室の概要（平成12年度）

南校舎4階に配置されている（視聴覚室　137.8㎡　視聴覚準備室　33.75㎡）

テレビ　4台・VHSビデオ　2台・8㎜ビデオ　1台・レーザーディスク　1台

カセットデッキ　1台・スライド映写機　2台・16㎜映写機　2台・ビデオプロジェクター　1台

CAI教室の施設・設備の概要（平成12年12月に更新）

品　　目	数量
1．サーバー関係	
ファイルサーバー本体	1
大容量HDD525GB	1
WEBサーバー本体	1
内臓DATユニット	1
ディスプレイ15	1
無停電電源装置	2
WINNTクライアントライセンス	34
ES@スクール	1
メールサーバー用ソフト	1
HDD SHERI FF	42
小　　計	85
2．教師用関係	
パソコン本体	2
カラーCRTディスプレイ—22	3
メモリ変更　64MB～256MB	2
HDD変更　10GB～30GB	2
内臓MOディスク	2
インターフェースボード	2
サウンドキット	2
CD-R/RW&DVD-ROMドライブ	2
イメージスキャナー	1
ネットワークキャニングボックス	1
デジタルカメラ	1
パーソナルコンピュータ接続キット	1
インクジェットプリンタ	1
同ネットワークサーバー	1
カラーレーザープリンター	1
同ネットワークサーバー	1
500枚増設トレイユニットタイプ	1
小　　計	26
3．生徒用関係	
パソコン本体	40
カラーCRTディスプレイ—17	40
メモリ変更　64MB～128MB	40

品　　目	数量
白黒レーザープリンター	6
ネットワーク接続ボード	6
イメージスキャナー	4
小　　計	136
4．CAIシステム関係	
EZスクール・クライアント40	1
ビデオキャプチャーボード	2
マルチモニターカード	1
カラーCRTディスプレイ—15	22
ヘッドセット	45
教材提示装置（OHC）	1
デジタルビデオカメラ	1
アクセサリーキット	1
VTR	1
RGB分配器	4
プロジェクター	1
プロジェクター用スクリーン	1
メディアサイト	1
メディアサイト制御用PC	1
小　　計	83
5．ネットワーク関係	
スイッチングHUB	4
スイッチングHUB	1
端末用ツイストペアケーブル	1
提示モニター用RGBケーブル	1
小　　計	7
6．ソフト関係	
サーバープロテクトエデュケーション	5
ウイルスバスターコーポレートエディションエデュケーション	5
ペイントツール	42
英語ソフト	42
英語ソフト	42
総合型ソフト	1
総合型ソフト	41

LL教室の施設・設備の概要（平成12年度末に更新）

品　　名	仕　　様	数量
（教師用機器）		
マスターコンソールシステム	コントロールコンソール(1)・人数拡張ボード(2) メモリー拡張ボード(4)・ストレージユニット(1) プログレスユニット(1)・AVコントロールユニット(1) MOディスクユニット(1)	1式
コンソール卓・サイドラック	マスターコンソール収納／各機器収納	1式
ヘッドセット	両耳用・マイクッドセット	2個
参照用カラーモニター	学習進行表示／映像モニター用	1台
ダブルカセットデッキ	カセットテープ教材の録音・送出用	1台
ミニディスク	ミニディスク教材の送出用	1台
ビデオレコーダー	ビデオ録画・再生用	1台
DVDプレーヤー	DVD再生用	1台
ビデオキャプション	キャプション字幕出力用	1台
資料提示装置	教材・各種資料実物提示用	1台
資料提示装置用カラーモニター	資料提示装置チェックモニター用	1台
映像分配器	1入力・5分配	1台
パワーディストリビューター	システムの電源オン／オフを集中コントロール可	2台
パワーアンプ	教室スピーカーの拡声用	1台
スピーカー／取付金具	教室内拡声用	2台
カセットプリンター	カセットテープの高速コピー用	1台
椅子	布製・背もたれ・肘掛け・キャスター付	2脚
（生徒用機器）		
学習用ユニット	学習者側録音・送出用	42台
ブースアッセンブリー／アダプター	ブースデスク（学習者ユニット収納）	21台
参照用カラーモニター	学習者映像モニター用	21台
ブースナンバープレート	ブースナンバー表示用	1式
ヘッドセット	両耳用・マイクッドセット	42台
椅子	布製・背もたれ・肘掛け・キャスター付	42脚

修学旅行の行程

平成２年度　水上高原藤原スキー場（1991．２．14～17）

１．目的

(1) 大自然の中で、スキー技術を修得することにより、体力の錬成と精神力を養い、スキー技術向上の充実感を体験する。

(2) 平素と異なる生活環境の中で、教師と生徒、および生徒相互の人間的なふれ合いを経験すると共に、生涯の楽しい思い出をつくる。

(3) 整然とした集団行動を通して、健康や安全、集団生活の決まりを体験し、今後の学校生活に生かす。

３．職員分担

係り分担	職　員
団　長	校長
総　務	篠崎・青柳 真鍋・小倉
旅　行	小倉・香取・嶌田 佐藤・伊藤
生　活	青柳・纐纈 藤井・鈴木（博）
記　録	田口・加藤
保　健	坂本・鈴木（小） 多田
会　計	山根・真鍋

２．日程表

2月14日(木)		2月15日(金)		2月16日(土)		2月17日(日)	
						6:00	起床
6:30	学校集合	6:30	起床	6:30	起床		
7:00	出発					7:00	朝食
		7:30	朝食	7:30	朝食		
						8:20	ゲレンデ集合
						8:30	スキー検定
		8:50	ゲレンデ集合	8:50	ゲレンデ集合		
		9:00	レッスン	9:00	レッスン		
						10:30	帰館
	昼食	11:00	昼食	11:00	昼食		着替ウェア返却
	(12:30～					11:30	昼食
	13:15)					12:30	宿舎発
		12:50	ゲレンデ集合	12:50	ゲレンデ集合		
		13:00	レッスン	13:00	レッスン		
14:00	宿舎着						
	着替用具受取り						
15:00	ゲレンデ集合						
	開講式	15:30	帰館	15:30	帰館		
	レッスン						
17:00	帰館		入浴		入浴		
	入浴	17:40		17:40			
17:50							
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食		
						18:30	学校着
	入浴	19:00	インストラクターとのミーティング	19:00	松明滑走		解散
		20:00	入浴	20:00	入浴		
21:00	室長会議	21:00	室長会議	21:00	室長会議		
22:00	点呼消灯	22:00	点呼消灯	22:00	点呼消灯		

平成３年度　田沢湖高原スキー場（1992.　2．11～14）

１．目的

(1) 大自然の中でのスキー体験をとおして、体力の錬成と精神力を養い、併せて技術向上の充実感を体験する。

(2) 寝食を共にしながら、親睦・交流を深め、陶冶性のかん養とともに、高校生活の楽しい思い出を作る。

(3) 集団生活をとおして、自主的・実践的な態度を育て、自律・協調・健全の精神を養う。

３．職員分担

係り分担	職　　員
団　　長	教頭
総　　務	赤井・早田・湯浅 石渡
生活指導	香取・沼尻・金塚 佐瀬・磯貝
集団指導	坂本・向
保　　健	石渡・古川・根本 小川
会　　計	柴田・根本
記　　録	坂元・熊坂

２．日程表

２月11日(火)		２月12日(水)		２月13日(木)		２月14日(金)	
						6：00	起床
		6：30	起床	6：30	起床		
						7：00	朝食
		7：30	朝食	7：30	朝食		
8：18	上野発					8：30	ホテル発
		9：30	スキー実習	9：30	スキー実習	9：30	手づくり村
						10：20	
						11：00	岩鋳鉄器会館東屋（わんこそば）
11：35	盛岡着	11：30	昼食				
						12：00	
						12：20	盛岡着
						13：00	盛岡発
13：20	田沢湖ホテル	13：30	スキー実習				
14：00	開校式・レッスン						
		15：30		15：30	閉校式		
			入浴	16：00	用具返却		
		18：00	夕食			16：18	上野着
				18：30	夕食		
		19：00	体験学習				
22：00	消灯	22：00	消灯	22：00	消灯		

平成４年度　水上高原藤原スキー場（1993．２．10～13）

１．目的

(1) 大自然の中で、スキー体験をとおして、体力の錬成と精神力を養い、あわせてスキー技術を向上する。

(2) 平素と異なる生活環境の中で、教師と生徒、および生徒相互の親睦・交流を深める。

(3) 集団生活をとおして自主的・実践的な態度を育成し、自律・協調・健全の精神を養う。

３．職員分担

係り分担	職　員
団　長	中尾教頭
総　務	江波戸・戸村 高城・仲田
集団指導	秋葉・高城 渡邊
生活指導	戸村・大木卓 纐纈・山口・榊原 石橋・香取
編集記録	大木実・梶本 渡邊・榊原
保　健	角田・武田 山内・纐纈
会　計	山内

２．日程表

２月10日(水)		２月11日(木)		２月12日(金)		２月13日(土)	
						6:00	起床
6:30	学校集合	6:30	起床	6:30	起床		私物の整理
							部屋の清掃
7:00	出発					7:00	朝食
		7:30	朝食	7:30	朝食		私物の整理
							部屋の清掃
						8:20	ゲレンデ集合
		8:50	ゲレンデ集合	8:50	ゲレンデ集合		スキー検定
			レッスン		レッスン		閉講式
						10:30	帰館
		11:00		11:00			着替・ウェア返却
			昼食		昼食	11:30	昼食
12:30						12:30	宿舎発
	昼食	12:50	ゲレンデ集合	12:50	ゲレンデ集合		
13:15			レッスン		レッスン		
14:00	宿舎着						
	着替用具受取						
15:00	ゲレンデ集合						
	開講式	15:30	帰館	15:30	帰館		
	レッスン						
17:00	帰館						
	入浴		入浴		入浴		
17:50							
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食		
						18:30	学校着
		19:00	インストラクターとミーティング	19:00			解散
	入浴				松明滑走		
		20:00		20:00			
			入浴		入浴		
21:00	室長会議	21:00	室長会議	21:00	室長会議		
22:00	点呼消灯	22:00	点呼消灯	22:00	点呼消灯		

平成５年度　田沢湖高原スキー場（1994．２．２～５）

１．目的

(1) スキー体験学習を通して、ウインタースポーツとしての技術の習得に努めるとともに、体力の増進や精神力の養成を図る。

(2) 小岩井農場の見学やイタヤ細工の体験をはじめ、東北地方の厳しく美しい自然や豊かな文化、風俗にふれることにより、視野を広げるとともに情操の涵養に努める。

(3) 集団生活、集団行動を通して、自主性・自律性を育むとともに、生徒同士並びに生徒と教師間の相互理解を深め、協調性を養う。

(4) 高校生活の一層の充実化と深化に努めるとともに、青年期の貴重な思い出をつくる。

３．職員分担

係り分担	職　　員
団　　長	杉山校長
総　　務	手島・湯浅 篠崎ひ・加藤
旅　　行	加藤・湯浅・三橋 小川・金塚・後藤
生活指導	三橋・金子・後藤 篠崎ひ・花香
集団指導	三橋・金子・花香 藤井・山崎
学習指導	佐藤・熊坂・嶋崎 藤井・手島
編集・記録	山崎・多田・湯浅 嶋崎・手島
保　　健	鈴木・佐藤・小川 熊坂・金子
会　　計	小川・佐藤

２．日程表

２月２日(水)		２月３日(木)		２月４日(金)		２月５日(土)	
						6:00	起床
		6:30	起床	6:30	起床		
7:10	東京駅集合					7:00	朝食
		7:30	朝食	7:30	朝食		
8:00	東京発					8:00	ホテル発
8:06	やまびこ１号						
	やまびこ35号	9:30	スキー実習開始	9:30	スキー実習開始	9:30	小岩井農場着
10:36 11:30	盛岡着					10:30	小岩井農場発
						11:00	昼食 (わんこそば)
11:00 11:50	盛岡発	11:30	スキー実習終了	11:30	スキー実習終了		
	岩手県北バス		昼食		昼食	12:20	盛岡駅着
12:40 13:20	田沢湖町宿舎着					13:05	盛岡駅発
		13:30	スキー実習開始	13:30	スキー実習開始		やまびこ44号
14:15	開校式						
	スキー実習開始	15:30	スキー実習終了	15:30	スキー実習終了		
			入浴		閉講式		
16:15	スキー実習終了				用具返却	16:27	上野駅着
	入浴	17:00	室長会議		入浴		
17:30	室長会議			17:30	室長会議		
		18:00	夕食				
18:30	夕食			18:30	夕食		
		19:00	体験学習		宅配便		
21:30	点呼	21:30	点呼	21:30	点呼		
22:00	消灯	22:00	消灯	22:00	消灯		

平成６年度　越後中里ルーデンス昭和スキー場（1995．２．12～15）

１．目的

(1) 大自然の中で、スキー体験をとおして、体力の増進と精神力を養い、あわせてスキー技術の向上を図る。

(2) 集団生活、集団行動をとおして自主性・自律性を育むとともに、生徒同士並びに生徒と教師の相互理解を深め、協調性を養う。

(3) 高校生活の一層の充実化と深化に努めるとともに、青年期の貴重な思い出をつくる。

３．職員分担

係り分担	職　員
団　長	教頭
総　務	角田・纐纈・岡里 猪股
集団指導	猪股・根本・堀越
生活指導	纐纈・川澄・吉川 佐瀬・山内
編集記録	岡里・後藤・田口 戸村
保　健	小早志・高城 内海・石川
会　計	内海・山内

２．日程表

２月12日(日)		２月13日(月)		２月14日(火)		２月15日(水)	
						6:00	起床
		6:30	起床	6:30	起床		部屋の清掃
							荷物の整理
						7:00	朝食
		7:30	朝食				部屋の移動
				8:00	朝食		
						8:30	スキー検定
		9:30	スキー講習開始	9:30	スキー講習開始		
9:45	JR東京駅集合						
10:33	東京発(H～J)					10:00	閉校式
11:08	(A～G)					10:30	レンタル用品返却
12:02	湯沢着(H～J)					11:00	昼食
12:29	(A～G)	11:30	スキー講習終了	11:30	スキー講習終了	12:00	ホテル発(A～G)
	昼食(湯沢町錦		昼食		昼食	12:30	(H～J)
	鯉センター)	13:00	スキー講習開始	13:00	スキー講習開始	13:18	湯沢発(A～G)
13:40	ホテル着(H～J)					13:59	(H～J)
14:10	(A～G)					14:39	東京着(A～G)
	到着後ウェア合わせ					15:28	(H～J)
14:40	室長会議						解散
15:00	開校式						
15:20	スキー講習開始	15:30	スキー講習終了	15:30	スキー講習終了		
		16:00	入浴	16:00	入浴		
17:00	スキー講習終了						
		17:50	入浴終了	17:50	入浴終了		
	入浴	18:00	夕食	18:00	夕食		
18:20	入浴終了						
18:30	夕食						
		19:00	インストラクターとのミーティング	19:00	松明滑走		
	入浴						
		20:00	入浴	20:00	入浴		
21:00	室長会議	21:00	室長会議	21:00	室長会議		
21:30	点呼	21:30	点呼	21:30	点呼		
22:00	消灯	22:00	消灯	22:00	消灯		

平成７年度　田沢湖高原スキー場（1996．２．７～10）

１．目的

(1) スキー体験学習を通して、スキー技術の習得に努めるとともに、体力増進と精神力養成を図る。

(2) 東北地方の厳しく美しい自然や豊かな文化・風俗にふれることにより、視野を広げ、情操の涵養に努める。

(3) 集団生活・集団行動を通して、自主性・自律性を育むとともに、生徒同士ならびに生徒と教師間の相互理解・交流を深める。

３．職員分担

係り分担	職　　員
団　　長	中田
総　　務	香取・戸村・秋葉 磯貝
集団指導	秋葉・磯貝・荒居
生活指導	戸村・山口・篠崎 沼尻・金塚
編集記録	山口・畑瀬・山﨑 吉川・加藤
保　　健	八木・渡辺・佐藤
会　　計	諏訪・佐藤

２．日程表

２月７日(水)		２月８日(木)		２月９日(金)		２月10日(土)	
		6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
			清掃		清掃		清掃・荷物整理
		7:00	健康チェック並びに本部に報告	7:00	健康チェック並びに本部に報告	7:00	健康チェック並びに報告
		7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:00	JR東京駅集合						
8:52	新幹線にて出発 Maxやまびこ11号	9:00	スキー講習開始	9:00	スキー講習開始	9:00	バスにてホテル出発
						9:50	小岩井農場到着
						11:00	〃　出発
		11:30	スキー講習終了	11:30	スキー講習終了	11:30	盛岡市内"鋳鉄会館"にて「わんこそば」の昼食
11:44	JR盛岡駅着		昼食（スキー班別）		昼食（スキー班別）		
12:10	バス乗車						
						13:00	〃　出発
13:20	ホテル到着	13:30	スキー講習開始				
14:10	スキースクール開校式			14:00	スキー講習開始	14:00	JR盛岡駅新幹線にて出発 やまびこ46号
14:30	スキー実習開始						
16:00	スキー実習終了						
	入浴	16:30	スキー講習終了	16:30	スキー講習終了		
			入浴		松明滑走		
					スキースクール閉校式		
				17:30	〃閉校式終了	17:28	JR東京駅着
18:00	入浴終了	18:00	入浴終了		入浴	17:40	解散式
18:30	夕食	18:30	夕食	18:30	入浴終了		
19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	夕食		
				19:30	入浴		
20:30	入浴終了	20:30	入浴終了		宅急便		
	風呂場の清掃（20:30～21:00）		風呂場の清掃（20:30～21:00）				
21:00	室長会議	21:00	室長会議	21:00	入浴終了		
					風呂場の清掃（20:30～21:00）		
21:30	点呼	21:30	点呼	21:30	室長会議		
22:00	消灯	22:00	消灯	22:00	点呼		
				22:30	消灯		

平成８年度　サンマリーナ玉庭スキー場（1997．２．11～14）

１．目的

(1) スキー体験学習を通して、スキー技術の習得に努めるとともに、体力増進と精神力の育成を図る。

(2) 東北地方の厳しく美しい自然や豊かな文化・風俗にふれることにより、視野を広げ、情操の涵養に努める。

(3) 集団生活・集団行動を通して、自主性・自律性を育むとともに、生徒同士ならびに生徒と教師間の相互理解・交流を深める。

３．職員分担

係り分担	職　員
団　長	中田
総　務	田谷・平山・武田 多田・後藤
生活指導	平山・三橋・大木 坂本(と)・根本 佐藤・宮本
記　録	嶌田・石原・後藤
保　健	坂本(ま)・大河内 椎名・坂本(と) 香川
会　計	大河内・香川
実習班	後藤・三橋
部屋割り	大木・宮本
入浴清掃指導	佐藤・石原・嶌田 坂本(と)・根本 香川
実施細案	多田・武田
渉　外	武田・田谷
しおり	椎名・佐藤・宮本 嶌田

２．日程表

２月11日(火)		２月12日(水)		２月13日(木)		２月14日(金)	
		6:30	起床・清掃	6:30	起床・清掃	6:30	起床・清掃
		6:50	健康調査 各クラス保健委員	6:50	健康調査 各クラス保健委員	6:50	健康調査 各クラス保健委員
7:10	成田北高校・バス内点呼	7:00	前半朝食 (A～E組)	7:00	前半朝食 (F～J組)	※	各自の食事と前後し、用具返却の準備と荷物整理完了
7:30	バス出発	7:50	後半朝食 (F～J組)	7:50	後半朝食 (A～E組)	7:00	前半朝食 (F～J組)
8:50 ～ 9:10	常磐道友部SA (到着車ごとに20分間休憩をとる)	8:30	前半クラス記念写真撮影 於・ゲレンデ(A～E組)			7:50	後半朝食 (A～E組)
		9:00	スキー実習開始 レッスンNo.2	9:00	スキー実習開始 レッスンNo.4	※	全ての荷物を持って所定の場所へ移動→ゲレンデへ
11:10 ～ 12:00	安達太良SA (持参した昼食をとり休憩 全車そろって出発)	11:00	昼食（実習班ごとにインストラクターと共に）	11:00	昼食（実習班ごとにインストラクターと共に）	9:00	スキー実習開始 レッスンNo.6
		12:30	後半クラス記念写真撮影(F～J組)			10:30	スキー実習終了
13:40	ホテル到着 (生徒は直ちに各部屋へ行き、更衣してゲレンデに集合)	13:00	スキー実習開始 レッスンNo.3	13:00	スキー実習開始 レッスンNo.5	10:40	スキースクール閉校式(学年集会の隊形で整列)
						11:00	用具返却・忘れ物注意
14:40	スキースクール開校式(学年集会の隊形で整列)	～				11:50	バス乗車・点呼
						12:00	ホテル出発
15:00 ～ 16:40	スキー実習開始 レッスンNo.1 スキー実習終了	15:15	スキー実習終了	15:15	スキー実習終了	12:45	喜多方市着・昼食
※入浴	実習終了後、各自の食事と前後して20:30まで自由に	※入浴	(A～E組) →16:30～17:30 (F～J組) →17:30～18:30	※入浴	実習終了後、各自の食事と前後して20:30まで自由に	14:10	バス乗車・点呼・出発
					適宜クラス裁量時間	15:20 ～	阿武隈高原SA (到着車ごとに20分間休憩)
18:00	前半夕食 (A～E組)	18:00	前半夕食 (A～E組)	18:00	前半昼食 (F～J組)	15:40	
18:50	後半夕食 (F～J組)	18:50	後半夕食 (F～J組)	18:50	後半昼食 (A～E組)	17:15 ～	友部SA (到着車ごとに20分間休憩)
	適宜クラス裁量時間	19:30	インストラクターとの実習班別ミーティング		適宜クラス裁量時間	17:35	
		20:30	花火打ち上げ	18:50 ～ 20:30	宅配便受付 2階ロビーにて	19:00	成田北高校着
21:00	風呂清掃 美化委員 (A～C組)	21:00	風呂清掃 美化委員 (D～F組)	21:00	風呂清掃 美化委員 (G～J組)		
〃	室長会議 (101号室)	〃	室長会議 (101号室)	〃	室長会議 (101号室)		
21:30	点呼（健康調査も兼ねる）	21:30	点呼(健康調査も兼ねる)	21:30	点呼(健康調査も兼ねる)		
22:00	消灯	22:00	消灯	22:00	消灯		

平成９年度　網張スキー場（1998. 2. 11～14）

１．目的

(1) スキー体験学習を通して、スキー技術の習得に努めるとともに、体力増進と精神力養成を図る。

(2) 東北地方の風土や伝統にふれることにより自然の厳しさや豊かさを理解するとともに、視野を広げ情操の涵養に努める。

(3) 集団生活・集団行動を通して、自主性・自律性を育むとともに、生徒同士ならびに生徒と教師間の相互理解・交流を深める。

３．職員分担

係り分担	職　員
団　長	中田
総　務	纐纈・高橋・諏訪 猪股
生活指導	丸山・赤尾・嶋﨑 山内・根本・戸村
集団指導	渡辺・西原・佐瀬 藤井
実　習	猪股・後藤・根本 丸山
保　健	及川・諏訪・石川
しおり	後藤・岡里・藤井
記　録	嶋﨑・佐瀬・岡里 西原
会　計	高橋・山内

２．日程表

2月11日(木)		2月12日(木)		2月13日(金)		2月14日(土)	
						6:00	起床 部屋の清掃 荷物の整理
		6:30	起床	6:30	起床		
		7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:15	JR東京駅集合					8:30	宿舎出発
9:00	東京発						クラス別見学 (小岩井農場他)
		9:30	スキー講習開始	9:30	スキー講習開始		
		11:30	スキー講習終了	11:30	スキー講習終了	11:40	盛岡駅集合
12:43	盛岡着		昼食		昼食	12:17	盛岡発
13:10	バス発	13:00	スキー講習開始	13:00	スキー講習開始		
14:00	宿舎着						
	到着後ウェア合わせ						
14:40	開講式						
15:00	スキー講習開始						
		15:30	スキー講習終了	15:30	スキー講習終了		
			入浴	15:40	閉講式	15:48	東京着
16:00	スキー講習終了				入浴		解団式
	入浴	17:30	夕食				解散
18:00	夕食			18:00	夕食		
				19:00	宅急便・入浴		
		19:30	わらび座公演				
20:00	クラス裁量時間						
21:15	室長会議	21:00	室長会議	21:00	室長会議		
21:30	点呼	21:30	点呼	21:30	点呼		
22:00	消灯	22:00	消灯	22:00	消灯		

平成10年度　安比高原スキー場（1999．２．７～10）

１．目的

(1) スキーの体験学習を通して、スキー技術の習得に努めるとともに、体力増進と精神力養成を図る。

(2) 東北地方の風土や伝統的な民族芸能にふれることにより自然の厳しさや豊かさを理解するとともに、視野を広げ情操の涵養に努める。

(3) 集団生活・集団行動を通して、自主性・自律性を育むとともに、生徒同士ならびに生徒と教師間の相互理解・交流を深める。

３．職員分担

係り分担	職　　員
団　　長	中田
総　　務	高城・戸村・秋葉 小島
生活指導	戸村・松沢・山口 水野・篠崎・堀越 金塚
集団指導	戸村・松沢・秋葉
保　　健	石川・内海・栗山 水野
しおり	嶌田・栗山・小島 佐藤
記　　録	畑瀬・嶌田・水野
会　　計	井上・佐藤
旅行委員 指　　導	秋葉・小島・金子 井上
実　　習	小島・秋葉

２．日程表

２月７日(日)		２月８日(月)		２月９日(火)		２月10日(水)	
						6:00	起床 部屋の清掃 荷物の整理
		6:30	起床	6:30	起床		
		6:45	DEF朝食	6:45	ABC朝食	6:45	GHIJ朝食
		7:15	GHIJ朝食	7:15	DEF朝食	7:15	ABC朝食
		7:45	ABC朝食	7:45	GHIJ朝食	7:45	DEF朝食
8:15	JR東京駅集合					8:30	宿舎出発
9:00	東京発						
		9:30	スキー講習開始	9:30	スキー講習開始		
						10:10	小岩井農場
		11:30	スキー講習終了	11:30	スキー講習終了	11:30	わんこそば
12:23	盛岡着		昼食		昼食		
13:10	バス発	13:00	スキー講習開始	13:00	スキー講習開始		
						13:30	盛岡駅集合
14:10	宿舎着					14:14	盛岡発
	到着後ウェア合わせ						
14:50	開講式						
15:10	スキー講習開始	15:30	スキー講習終了	15:30	スキー講習終了		
16:10	スキー講習終了			15:40	閉講式		
17:20	ABC夕食	17:20	GHIJ夕食	17:20	DEF夕食	17:32	上野着
	GHIJ入浴		DEF入浴		ABC入浴		東京着
18:00	DEF夕食	18:00	ABC夕食	18:00	GHIJ夕食		
	ABC入浴		GHIJ入浴		DEF入浴		
18:40	GHIJ夕食	18:40	DEF夕食	18:40	ABC夕食		解散
	DEF入浴		ABC入浴		GHIJ入浴		
				19:00	宅急便		
		19:40	体験学習				
21:30	室長会議	21:30	室長会議	21:30	室長会議		
22:00	点呼	22:00	点呼	22:00	点呼		
22:30	消灯	22:30	消灯	22:30	消灯		

平成11年度　サンマリーナ玉庭スキー場（2000．２．６～９）

１．目的

スキーの体験学習を通して、スキー技術の習得につとめるとともに、集団生活・集団行動を通して自主性・自立性を育み、生徒同士ならびに生徒と教師間の相互理解・交流を深める。

３．職員分担

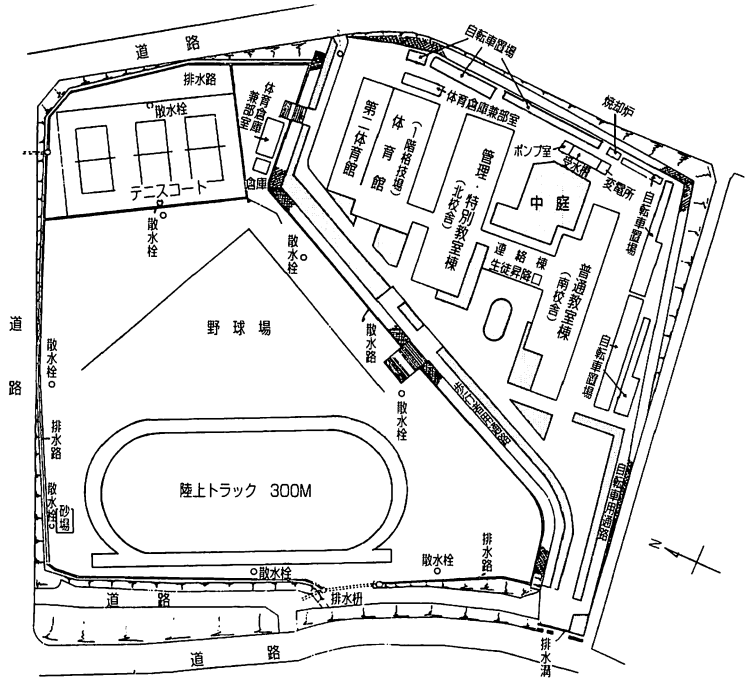
係り分担	職　員
団　長	村田
総　務	香取・赤尾・渡辺 荒居
生活指導	三橋・纐纈 坂本(と)・沼尻 岡野・後藤
集団指導	三橋・池畑・酒井
保　健	坂本(真)・大山 後藤
記　録	石原・荒居
会　計	鈴木・木内
旅行委員	赤尾・渡辺・荒居

２．日程表

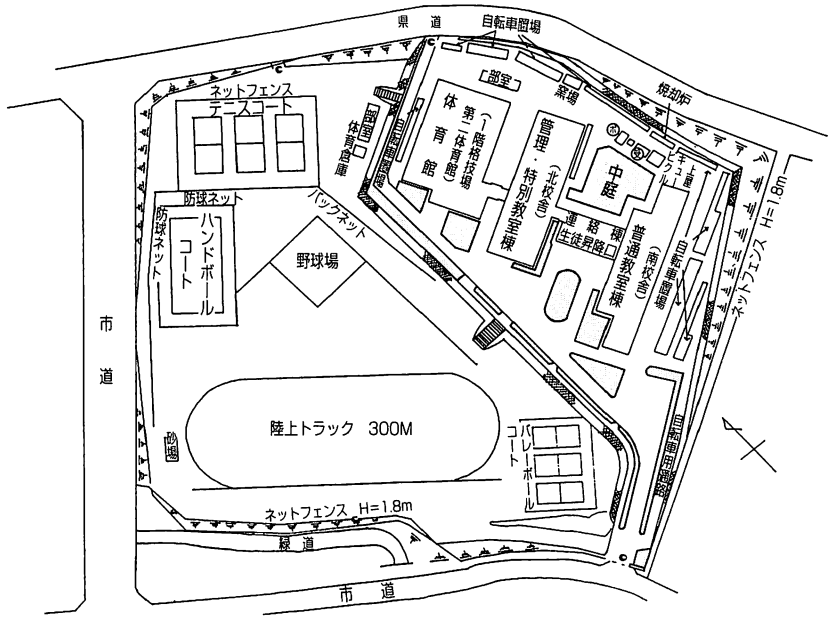
２月６日(日)		２月７日(月)		２月８日(火)		２月９日(水)	
		6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:00	学校集合	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
7:30	学校発						
		9:30	スキー講習開始	9:30	スキー講習開始	9:00	スキー講習開始
			～		～	10:35	スキー講習終了
						10:45	閉講式
11:50	昼食	11:30	スキー講習終了	11:30	スキー講習終了	11:45	昼食
		12:00	昼食	12:00	昼食		
						12:30	ホテル出発
		13:30	スキー講習開始	13:30	スキー講習開始		
14:00	ホテル着						
14:40	開講式		～		～		
15:00	スキー講習開始						
	～	15:30	スキー講習終了	15:30	スキー講習終了		
17:10	スキー講習終了	17:30	夕食				
				18:00	宅急便受付	18:00	学校着
18:30	夕食	18:30	移動・学年企画行事		夕食		解散
19:30	クラスレク		郷土芸能鑑賞「民謡一家」	19:00	クラスレク		
	～	～			～		
21:00	クラスレク			21:00	クラスレク		
21:30	室長会議	21:30	室長会議	21:30	室長会議		
22:00	点呼	22:00	点呼	22:00	点呼		
22:30	消灯	22:30	消灯	22:30	消灯		

校舎配置図

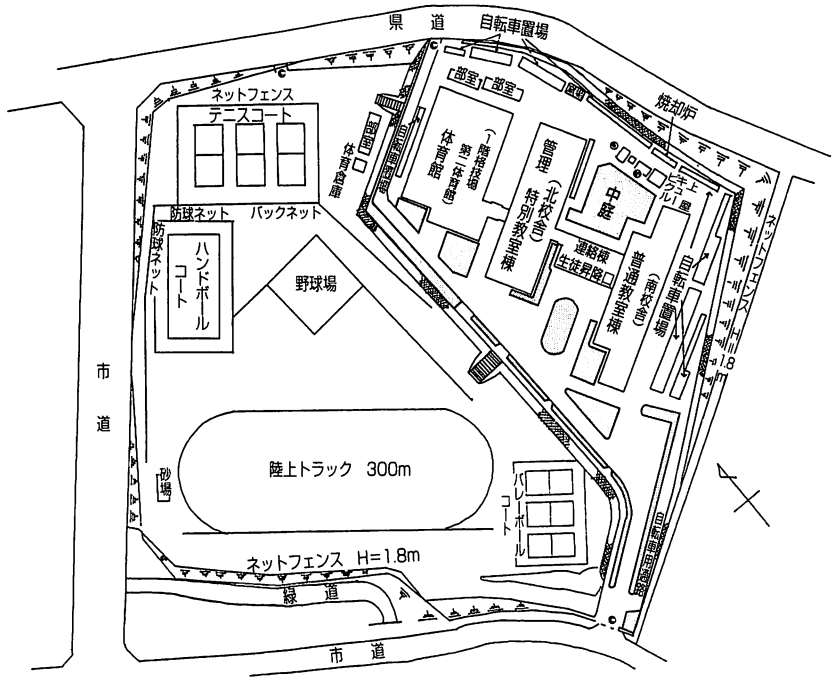
平成２年度



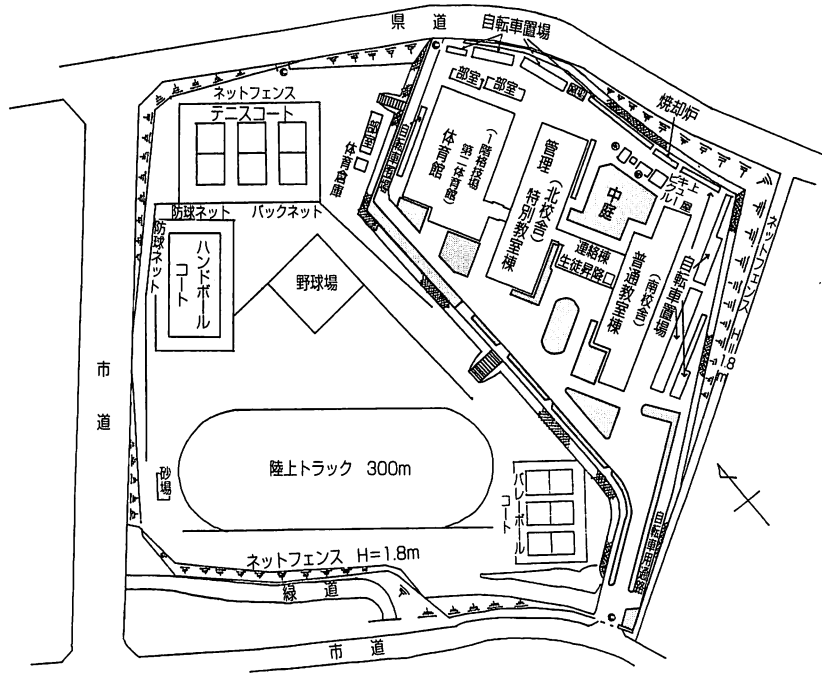
平成４年度



平成９年度

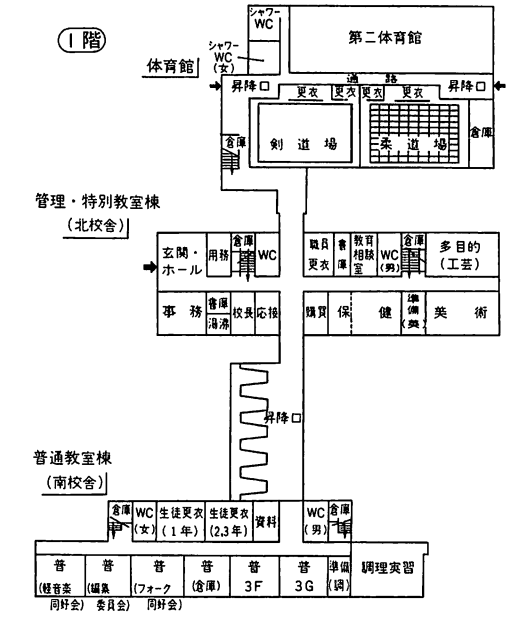


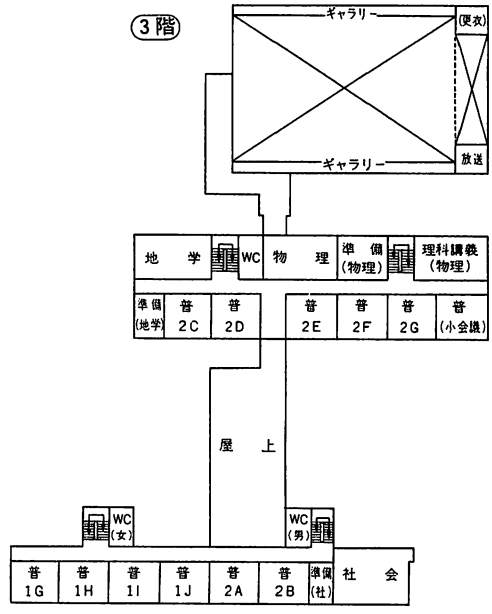
平成12年度

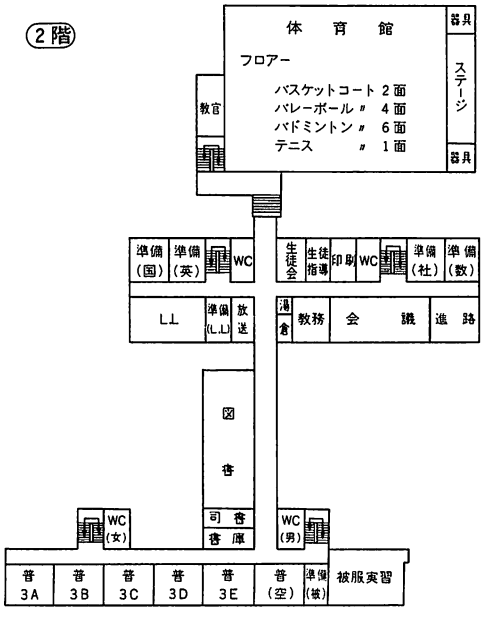


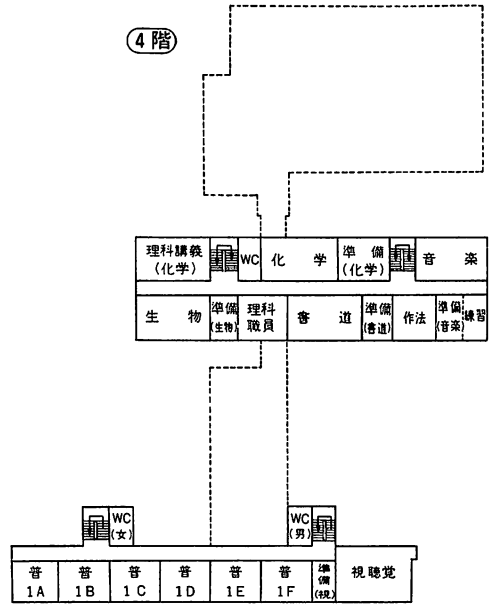
教室配置図

昭和63年度

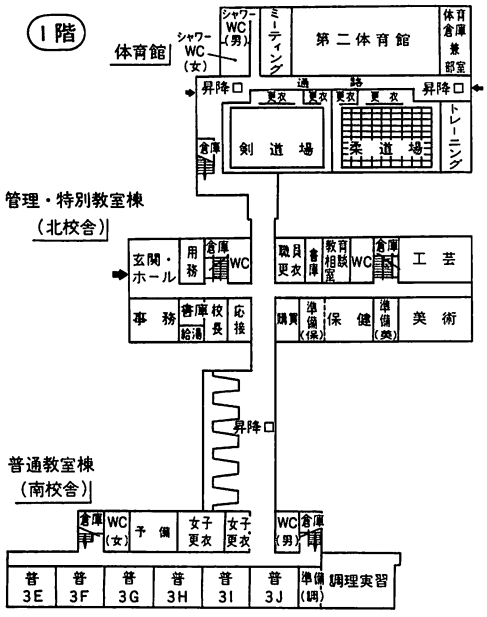


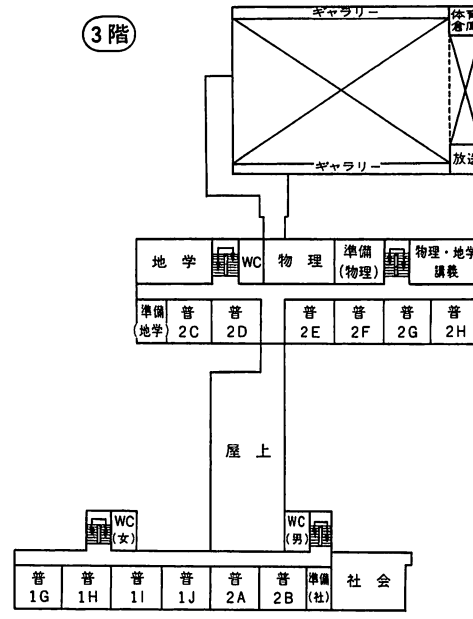


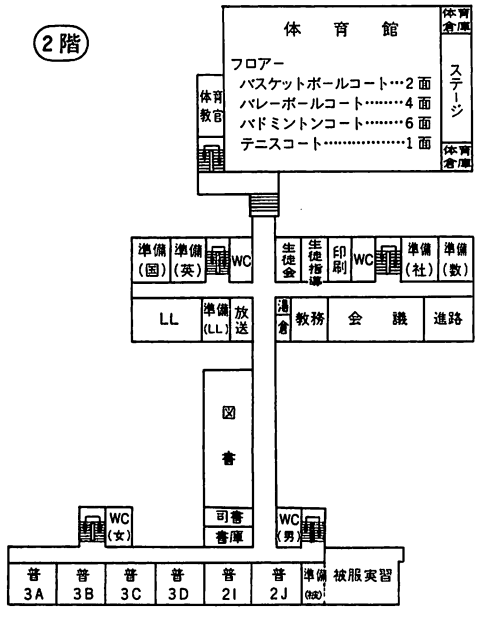


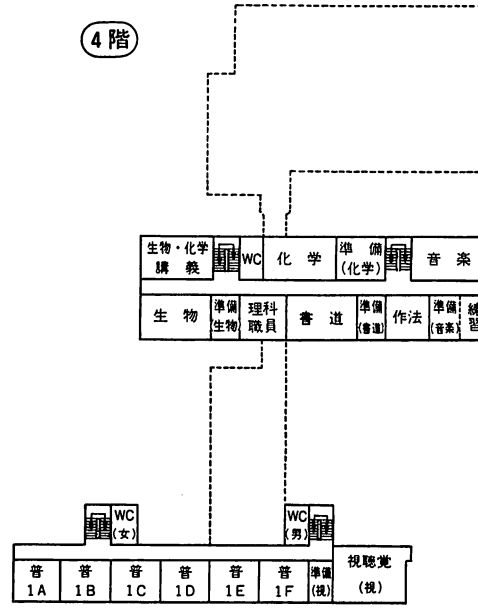


平成２年度

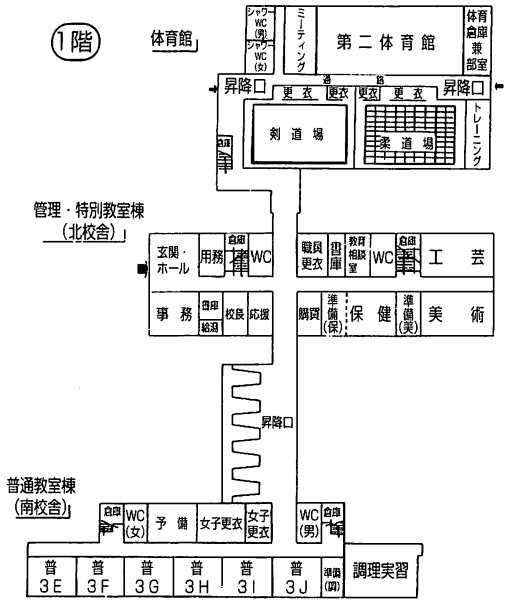

１階
体育館
シャワー WC（男）
シャワー WC（女）
ミーティング
第二体育館
体育倉庫兼部室
昇降口
通路
更衣
剣道場
柔道場
トレーニング
倉庫
管理・特別教室棟
（北校舎）
玄関・ホール
用務
倉庫
WC
職員更衣
倉庫
教育相談室
WC
倉庫
工芸
事務
書庫給湯
校長
応接
購買
準備（保）
保健
準備（美）
美術
昇降口
普通教室棟
（南校舎）
倉庫
WC（女）
予備
女子更衣
女子更衣
WC（男）
倉庫
普3E
普3F
普3G
普3H
普3I
普3J
準備（調）
調理実習

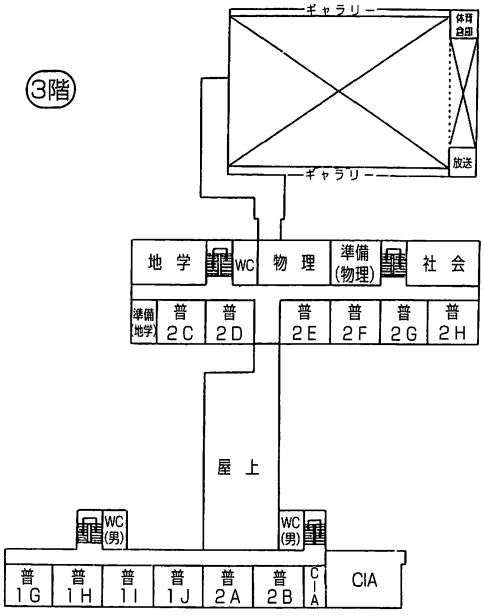

３階
ギャラリー
体育倉庫
放送
ギャラリー
地学
WC
物理
準備（物理）
物理・地学講義
準備（地学）
普2C
普2D
普2E
普2F
普2G
普2H
屋上
WC（女）
WC（男）
普1G
普1H
普1I
普1J
普2A
普2B
準備（社）
社会

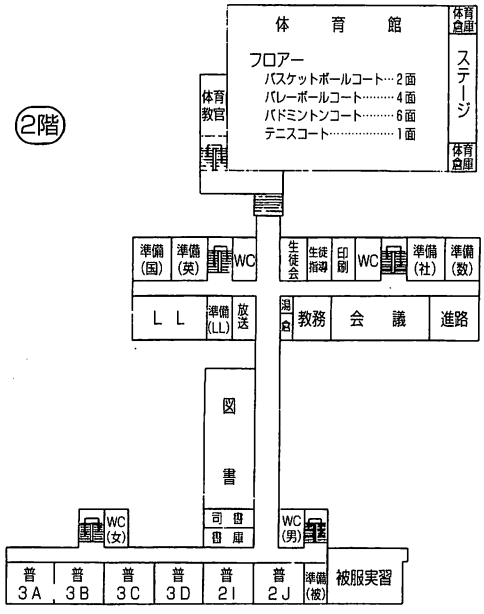

２階
体育館
体育倉庫
フロアー
バスケットボールコート…2面
バレーボールコート……4面
バドミントンコート……6面
テニスコート……1面
ステージ
体育教官
体育倉庫
準備（国）
準備（英）
WC
生徒会
生徒指導
印刷
WC
準備（社）
準備（数）
LL
準備（LL）
放送
通倉
教務
会議
進路
図書
WC（女）
司書
書庫
WC（男）
普3A
普3B
普3C
普3D
普2I
普2J
準備（被）
被服実習

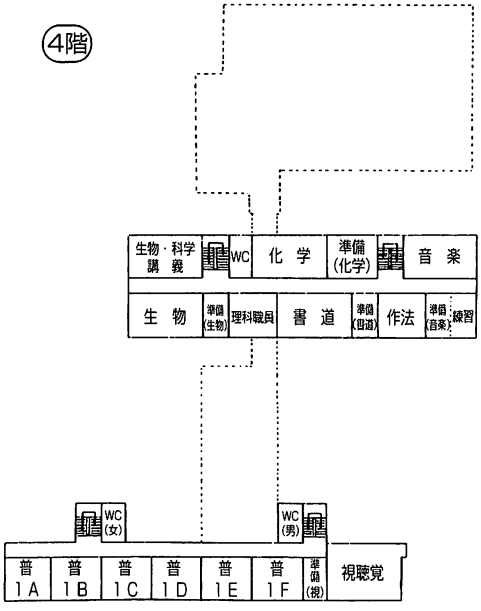

４階
生物・化学講義
WC
化学
準備（化学）
音楽
生物
準備（生物）
理科職員
書道
準備（書道）
作法
準備（音楽）
練習
WC（女）
WC（男）
普1A
普1B
普1C
普1D
普1E
普1F
準備（視）
視聴覚（視）

平成５年度

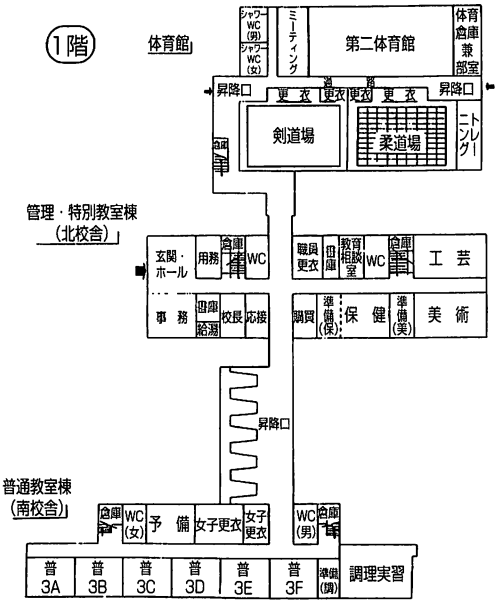

1階
体育館
シャワー WC (男)
シャワー WC (女)
ミーティング
第二体育館
体育倉庫兼部室
昇降口
更衣
更衣
更衣
更衣
昇降口
剣道場
柔道場
トレーニング
倉庫
管理・特別教室棟（北校舎）
玄関・ホール
用務
倉庫
WC
職員更衣
書庫
教育相談室
WC
倉庫
工芸
事務
書庫
給湯
校長
応接
購買
準備(保)
保健
準備(美)
美術
昇降口
普通教室棟（南校舎）
倉庫
WC (女)
予備
女子更衣
女子更衣
WC (男)
倉庫
普 3E
普 3F
普 3G
普 3H
普 3I
普 3J
準備(調)
調理実習

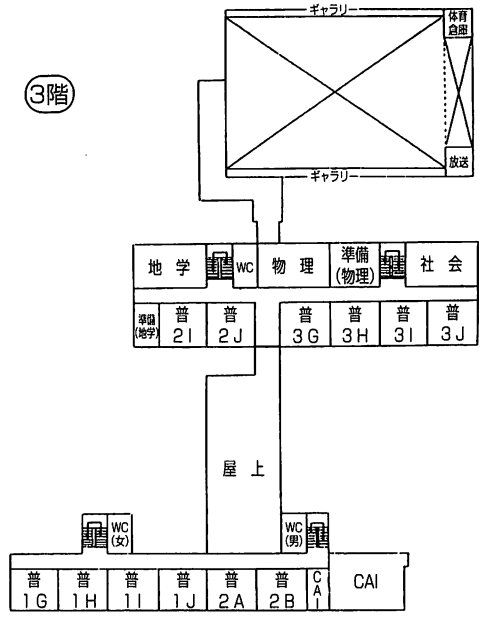

3階
ギャラリー
体育倉庫
放送
ギャラリー
地学
WC
物理
準備(物理)
社会
準備(地学)
普 2C
普 2D
普 2E
普 2F
普 2G
普 2H
屋上
WC (男)
WC (男)
普 1G
普 1H
普 1I
普 1J
普 2A
普 2B
CIA
CIA

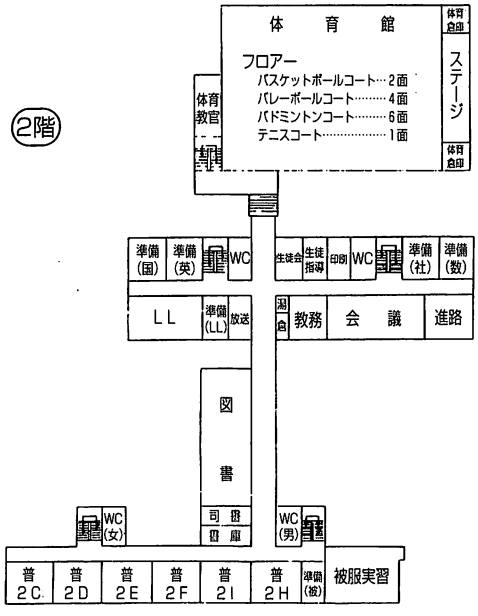

2階
体育館
体育倉庫
フロアー
バスケットボールコート…2面
バレーボールコート……4面
バドミントンコート……6面
テニスコート……1面
ステージ
体育倉庫
体育教官
準備(国)
準備(英)
WC
生徒会
生徒指導
印刷
WC
準備(社)
準備(数)
LL
準備(LL)
放送
湯
倉
教務
会議
進路
図書
司書
書庫
WC (女)
WC (男)
普 3A
普 3B
普 3C
普 3D
普 2I
普 2J
準備(被)
被服実習

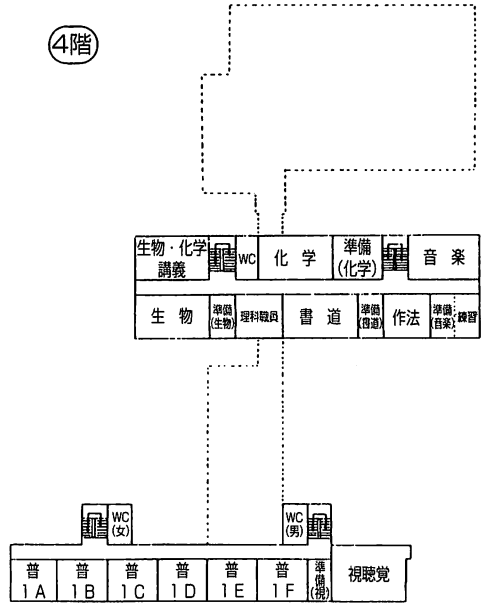

4階
生物・科学講義
WC
化学
準備(化学)
音楽
生物
準備(生物)
理科職員
書道
準備(書道)
作法
準備(音楽)
練習
WC (女)
WC (男)
普 1A
普 1B
普 1C
普 1D
普 1E
普 1F
準備(視)
視聴覚

平成８年度


1階
体育館
シャワー WC (男)
シャワー WC (女)
ミーティング
第二体育館
体育倉庫兼部室
昇降口
更衣
更衣
更衣
更衣
昇降口
剣道場
柔道場
トレーニング
倉庫
管理・特別教室棟
(北校舎)
玄関・ホール
用務
倉庫
WC
職員更衣
倉庫
教育相談室
WC
倉庫
工芸
事務
倉庫
給湯
校長
応接
調買
準備(保)
保健
準備(美)
美術
昇降口
普通教室棟
(南校舎)
倉庫
WC (女)
予備
女子更衣
女子更衣
WC (男)
倉庫
普 3A
普 3B
普 3C
普 3D
普 3E
普 3F
準備(調)
調理実習


3階
ギャラリー
体育倉庫
放送
ギャラリー
地学
WC
物理
準備(物理)
社会
準備(地学)
普 2I
普 2J
普 3G
普 3H
普 3I
普 3J
屋上
WC (女)
WC (男)
普 1G
普 1H
普 1I
普 1J
普 2A
普 2B
CAI
CAI


2階
体育館
フロアー
バスケットボールコート…2面
バレーボールコート……4面
バドミントンコート……6面
テニスコート……1面
体育倉庫
ステージ
体育教官
準備(国)
準備(英)
WC
生徒会
生徒指導
印刷
WC
準備(社)
準備(数)
LL
準備(LL)
放送
湯
教務
会議
進路
図書
司書
倉庫
WC (女)
WC (男)
普 2C
普 2D
普 2E
普 2F
普 2I
普 2H
準備(被)
被服実習


4階
生物・化学講義
WC
化学
準備(化学)
音楽
生物
準備(生物)
理科職員
書道
準備(書道)
作法
準備(音楽)
練習
WC (女)
WC (男)
普 1A
普 1B
普 1C
普 1D
普 1E
普 1F
準備(視)
視聴覚

職員在籍一覧

職名・教科	氏(旧姓)名	在　職　期　間
国　　語	岡里　　茂	平成5．4～
	西原　千晴	平成6．4～
	及川　全代	平成7．4～
	村田　安彦	平成8．4～平成9．3
	佐藤　陽一	平成8．4～平成10．3
	栗山　克明	平成9．4～
	小島　　昇	平成9．4～
	岡野　正博	平成10．4～
	酒井　滝雄	平成10．4～
	寺内　温穂	平成12．4～
社　　会	伊藤　龍芳	昭和55．4～昭和59．3
	尾形　　肇	昭和56．4～平成6．3
	鬼沢　三郎	昭和57．4～平成7．3
	香取　良和	昭和57．4～平成5．3
	小倉　晶文	昭和58．4～平成7．3
	椎名　克明	昭和59．4～昭和63．3
	梅木　範夫	昭和60．4～平成3．3
	加瀬　政一	昭和60．4～平成4．3
(地　　歴)	手島　和史	昭和63．4～平成12．3
	安藤　　清	昭和63．4～平成3．3
(地　　歴)	永長(佐藤)茂子	平成2．4～平成11．3
(地　　歴)	香取　正巳	平成2．4～
	下田　良彦	平成3．4～平成4．3
(公　　民)	高城　幸雄	平成3．4～
	大河内(小川)和代	平成3．4～平成9．3
	鈴木　文夫	平成4．4～平成10．3
(地　　歴)	川澄　成生	平成5．4～
(地　　歴)	諏訪　和夫	平成6．4～
(地　　歴)	平山　久春	平成7．4～
(公　　民)	赤尾　和輝	平成7．4～
(公民・商業)	宮本　　修	平成8．4～
	瓜生利恵子	平成9．4～平成10．3
(地　　歴)	井上　泰光	平成9．4～
(公　　民)	池畑　羊一	平成10．4～
(地　　歴)	山崎　弘康	平成11．4～
(地　　歴)	高柳　良訓	平成12．4～

職名・教科	氏(旧姓)名	在　職　期　間
校　　長	岩上　利男	昭和55．4～昭和59．3
	石井　　功	昭和59．4～昭和62．3
	羽生　正充	昭和62．4～平成3．3
	杉山　　進	平成3．4～平成6．3
	井上　洋一	平成6．4～平成8．3
	花井　　保	平成8．4～平成10．3
	村田　一男	平成10．4～平成12．3
	越川雄次郎	平成12．4～
教　　頭	石井　　寛	昭和55．4～昭和59．3
	菅谷　泰夫	昭和59．4～平成元．3
	香取　秀紀	平成元．4～平成3．3
	中尾　嘉夫	平成3．4～平成6．12
	中田　成气	平成7．1～平成11．3
	松井　立夫	平成11．4～
国　　語	越川雄次郎	昭和55．4～昭和62．3
	平山(山崎)啓子	昭和55．4～昭和58．3
	小關光比古	昭和57．4～昭和60．3
	丸山　直樹	昭和57．4～昭和62．3
	柴　恵美子	昭和58．4～昭和61．3
	藤田(山崎)昭子	昭和58．4～平成元．3
	池田　三男	昭和60．4～平成3．3
	坂元　義典	昭和60．4～平成4．3
	山根　昌子	昭和61．4～平成4．3
	米山　　茂	昭和62．4～平成元．3
	加藤　祐司	昭和62．4～平成9．3
	大沼　　巧	昭和63．4～平成4．3
	田口　富男	昭和63．4～平成8．3
	櫻井　裕子	平成元．4～平成2．3
	大木　　卓	平成元．4～平成10．3
	纐纈　康世	平成元．4～平成12．3
	根本　浩美	平成2．4～平成5．3
	磯貝　　智	平成2．4～平成9．3
	早田　正純	平成3．4～平成7．3
	山崎　　昭	平成4．4～
	山口志津子	平成4．4～
	榊原　通子	平成4．4～

職名・教科	氏(旧姓)名	在　職　期　間
理　　科	後藤　俊一	平成４．４～
	後藤　重峰	平成６．４～
	根本　　巌	平成６．４～
	荒居　哲也	平成６．４～
	丸山　大作	平成７．４～平成12．３
	水野　秋穂	平成10．４～
	上野　精一	平成12．４～
	佐々木輝彦	平成12．４～
保健体育	石井恵美子	昭和55．４～平成２．３
	高岡　誠次	昭和55．４～平成５．３
	石渡　　眞	昭和56．４～平成４．３
	永藤　孝一	昭和57．４～平成２．３
	國本　正美	昭和57．４～平成４．３
	小早志剛規	昭和63．４～平成11．３
	大八木正明	昭和62．４～昭和63．３
	今村　和彦	昭和63．４～平成元．３
	矢野　耕平	平成元．４～平成３．３
	坂本　欣人	平成２．４～平成６．３
	鈴木　博之	平成２．４～平成６．３
	鈴木小枝子	平成２．４～
	戸村　博之	平成３．４～平成11．３
	金子　幸雄	平成４．４～平成６．３
	秋葉　章二	平成４．４～
	三橋　啓重	平成４．４～
	田谷　伸治	平成５．４～
	小谷　幹夫	平成６．４～平成９．３
	猪股　康博	平成６．４～
	横尾　正晃	平成７．４～平成８．３
	渡邉　正巳	平成９．４～
	稲生　　茂	平成11．４～
	新村　浩章	平成11．４～
音　　楽	齋藤(上原)令子	昭和55．４～昭和59．３
	柴田　倫代	昭和59．４～平成４．３
	慈幸　正治	平成４．４～平成９．３
	大山早百合	平成９．４～
美　　術	齋藤(冨山)公美	昭和55．４～平成２．３
	湯浅　　仁	平成２．４～
工　　芸	多田　　敏	平成元．４～平成12．３

職名・教科	氏(旧姓)名	在　職　期　間
数　　学	富澤　　浩	昭和55．４～昭和58．３
	有美　　譲	昭和55．４～昭和59．３
	真鍋　憲雄	昭和56．４～平成７．３
	赤井　正男	昭和58．４～平成５．３
	志田　妙子	昭和58．４～昭和63．３
	齋藤　伸之	昭和59．４～平成２．３
	香取　一成	昭和59．４～平成３．３
	宮部　智哉	昭和62．４～平成２．３
	藤田　利夫	昭和63．４～平成３．３
	仲田　恵一	昭和63．４～平成11．３
	青柳　佳親	平成元．４～平成10．３
	熊坂　典雄	平成２．４～平成８．３
	石橋　博道	平成２．４～平成12．３
	古川慎一郎	平成３．４～平成５．３
	吉川　勲生	平成３．４～
	山崎美津子	平成５．４～平成６．３
	堀越　恵二	平成５．４～平成12．３
	石原　　守	平成７．４～
	高橋　義巳	平成８．４～
	松沢　史郎	平成10．４～
	佐倉　範子	平成11．４～
	加藤　健一	平成12．４～
	山口　　剛	平成12．４～
理　　科	富田　金秋	昭和55．４～昭和61．３
	林　　眞一	昭和55．４～昭和60．３
	畔蒜　　正	昭和56．４～昭和61．３
	大木　　実	昭和57．４～平成６．３
	山野井　昇	昭和59．４～平成元．４
	大里　晃之	昭和60．４～平成２．４
	石田　明宏	昭和61．４～平成３．３
	藤井　章裕	昭和61．４～平成10．３
	梶本　一之	昭和61．４～平成６．３
	兼坂　　仁	昭和63．４～平成４．３
	鵜野澤　健	平成元．４～平成６．３
	嶌田　裕美	平成元．４～平成12．３
	渡邊　　潔	平成２．４～平成３．３
	角田　光敏	平成３．４～平成11．３
	金塚　省吾	平成３．４～

職名・教科	氏(旧姓)名	在　職　期　間
英　　語	大場　　仁	平成7．4～平成8．3
	椎名　　泉	平成7．4～
	山川より子	平成8．4～平成9．3
	坂本とし子	平成8．4～
	金子佐知子	平成9．4～
	谷口　道子	平成9．4～
	広瀬　直子	平成10．4～平成11．3
	木内賢次郎	平成11．4～
	佐藤　敏之	平成11．4～
	三浦　一泰	平成12．4～
	野口久美子	平成12．4～
	中里　朋子	平成12．4～
養　　護	東(坂井)美栄子	昭和56．4～平成元．3
	坂本眞砂子	平成元．4～
	風間みどり	平成6．4～平成7．3
	八木　稔恵	平成7．4～平成9．3
	石川　恵子	平成9．4～平成11．3
	島崎こずえ	平成11．4～
実習助手	今関　久江	昭和55．4～昭和61．8
	工藤眞由美	昭和62．4～平成9．3
	夏目　信子	平成2．4～平成3．3
	谷ケ崎明子	平成2．4～平成4．3
	川野邉敦子	平成4．4～
	川上　和江	平成7．4～平成8．3
	宮本扶佐子	平成9．4～
事　務　長	渡辺　和男	昭和55．4～昭和58．3
	今井　万峯	昭和58．4～昭和61．3
	椎名　悦史	昭和61．4～平成元．3
	大又　一雄	平成元．4～平成4．3
	小林　澄江	平成4．4～平成7．3
	多田　要三	平成7．4～平成10．3
	水野　邦久	平成10．4～平成12．3
	佐々木　勲	平成12．4～
事務　主事	川合(菅谷)幸子	昭和55．4～昭和60．3
	増田登志明	昭和55．4～昭和61．3
	高橋八重子	昭和56．4～平成3．3
	石橋　隆男	昭和61．4～平成2．3
(副主査)	堀井　章代	昭和60．4～平成4．3

職名・教科	氏(旧姓)名	在　職　期　間
工　　芸	密本ゆかり	平成12．4～
書　　道	津本　英昭	昭和56．4～平成元．3
	山内　美和	平成元．4～
家　　庭	長谷川康子	昭和55．4～昭和56．3
	郡司　美枝	昭和56．4～平成3．3
	中西　ヒデ	平成元．4～平成4．3
	篠崎ひで子	平成3．4～
	土田　鈴子	平成4．4～平成6．3
	坂野　博美	平成6．4～平成7．3
	佐藤　弘子	平成7．4～平成11．3
	大木亜希子	平成7．4～平成8．3
	香川　悦子	平成8．4～平成9．3
	横須賀恵子	平成9．4～平成10．3
	鈴木　真紀	平成10．4～
	竹山百合子	平成11．4～
英　　語	川合　俊夫	昭和55．4～昭和57．3
	高橋　安雄	昭和55．4～昭和62．3
	泉(三矢)しのぶ	昭和56．4～昭和59．3
	小松栄三郎	昭和57．4～平成5．3
	江波戸好文	昭和57．4～平成5．3
	土戸　富子	昭和58．4～平成元．3
	大野　冬彦	昭和58．4～昭和63．3
	中川　眞伸	昭和59．4～平成2．3
	篠崎　昌美	昭和59．4～平成8．3
	根本　直美	昭和61．4～平成10．3
	佐瀬　郁夫	昭和63．4～平成11．3
	渡邉　範夫	昭和62．4～平成9．3
	中嶋　洋美	平成元．4～平成2．3
	向　　秀男	平成元．4～平成4．3
	伊藤千恵子	平成2．4～平成3．3
	内海　曜子	平成2．4～平成12．3
	池尻　俊次	平成2．4～
	武田　浩二	平成2．4～平成10．3
	嶋崎　泰樹	平成3．4～平成12．3
	畑瀬　慶博	平成4．4～
	花香　武男	平成5．4～
	戸村　玲子	平成5．4～
	木村謙一郎	平成6．4～平成7．3

職名・教科	氏(旧姓)名	在　職　期　間
学　校　医		
(眼　　科)	田辺　正義	昭和55．4～平成6．3
	山崎　直樹	平成6．4～
(内　　科)	鳥居　敏明	昭和55．4～
	川辺　　敏	昭和57．4～平成6．3
	片岡　満男	平成6．4～
(外　　科)	塩沢　　博	平成2．4～
(耳 鼻 科)	気賀沼昭三	昭和59．4～平成4．3
	鳥居　雅江	平成4．4
学校歯科医	斉藤　憲一	昭和55．4～
	野澤　隆大	昭和59．4～
薬　剤　師	宍倉　　清	昭和55．4～

職名・教科	氏(旧姓)名	在　職　期　間
事務　主事	小高　　緑	昭和63．4～平成5．3
	鈴木　重孝	平成2．4～平成5．3
(主　　任)	髙柳　洋子	平成3．4～平成6．3
	岡田　　稔	平成4．4～平成7．3
(副 主 査)	玉井美智江	平成5．4～平成8．3
	佐藤　祐子	平成5．4～平成9．3
(副 主 査)	櫻井　一浩	平成7．4～平成9．3
	岩館　栄子	平成7．8～平成9．3
	嶋田みゆき	平成6．3～平成11．3
	安松　悦子	平成10．4～平成11．3
(副 主 査)	前田しのぶ	平成8．4～平成12．3
(副 主 査)	山崎　祥子	平成9．4～
	岡田　千栄	平成9．4～
	鈴木　紀子	平成11．4～
(副 主 査)	横山　　武	平成12．4～
用　　務	佐久間茂広	昭和55．4～昭和63．3
(主　　任)	日暮　　勝	昭和56．4～
	三澤　貞子	昭和63．10～
委 嘱 講 師		
(華　　道)	岡嶋ふじ子	昭和56．4～昭和61．3
	中野　孝子	昭和61．4～平成10．3
(茶　　道)	和田　幸子	昭和56．4～昭和61．3
	岡嶋ふじ子	昭和61．4～
A　L　T	パトリシア・オーロックリン	平成元．8～平成2．7
	エイミィ・ロビンソン	平成2．8～平成3．7
	リン・キャンベル	平成3．8～平成6．7
	パトリシア・ハイダー	平成6．8～平成7．7
	ローリー・メハラック	平成7．8～平成8．7
	ニコル・ラ・ロック	平成8．8～平成9．7
	ケイト・ギャノン	平成9．8～平成11．7
	ローリー・小野	平成11．8～平成12．7
	ベリー・サリバン	平成12．8～

編集後記

★平成十年十二月、村田校長から手島和史先生以下六名の「二十周年記念誌」編集委員が任命されました。以後、記念誌編集に向けての作業が始まりましたが、十周年記念誌『黎明十年』の編集にも携わった手島先生以外は皆はじめての経験であり、大いに不安を感じていました。

しかしながら、豊富な経験と知識を持った手島先生の多大なる尽力によって、ここに二十周年記念誌『黎明二十年』は完成の運びとなりました。この機会をもって貴重な原稿をお寄せくださった方々に対して心から感謝の意を表したいと思います。皆様が、この記念誌を開く時、成田北高の成長の軌跡をたどると同時に、本校の一層の飛躍のための指標となれば幸いです。

（井上泰光記）

★情報も友人も機械の操作で簡単に手に入る。そんな時代が更に深化する。ここに二十周年の記念誌を出版する意義は何か、と考えた。

成田北高二十歳。二十世紀最後の年、三〇クラスのマンモス校最後の年度である。高校改革が進み、加速化する時代に我々は必死でしがみつく。だからこそ、時間に流されない本当のものを心の核としていきたい。『温故知新』―原点に戻ることが大切な気がする。

「北高沿革史」は、博学の手島教諭が、春以来夏休み一日もなく自宅にこもって書き上げたものである。莫大な資料と格闘した氏の〝熱〟が入っている。同様に、執筆者達の様々な思いが行間にあふれている。すべてが成田北高という存在そのものである。

（榊原通子記）

★記念誌を編集するにあたり、まず話題になったのがタイトルでした。前回の『黎明十年』を受けて『黎明二十年』とすることに決まりました。これから先も続く長い学校の歴史を考えれば、まだ「黎明」でもよいのかな、と思えます。が、一方で本校が十年前よりも様々な面で発展してきたことも事実です。この「発展」の様子が本誌で多少なりともお伝えできていることを願います。

自分が担当した箇所については、多少不安はありますが、何はともあれひとまず収まりがついてほっとしています。お忙しい中、原稿をお寄せくださった皆様、座談会に出席してくださった皆さん、そして編集委員会の牽引車としてお骨折りをいただいた手島先生、井上先生をはじめ委員の皆様に感謝します。

（戸村玲子記）

★まず編集委員として仕事の途中で転勤することになってしまい、委員長を始め、他の委員の方々にも多大な迷惑をおかけしたことを、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

そんなわけで、あまり編集の仕事はしていないのですが、私にとって在校生の討論会の司会をさせていただいたことが、とてもよい経験になりました。生徒たちの部活動に掛ける思い、授業に対する熱意、学校に対する愛情がひしひしと伝わってきて、今更ながら北高生の情熱を再認識させられました。そして北高生が翼をあげたペガサスのように、より

強く羽ばたくことを願っています。

（堀越恵二記）

★成田北高校の今昔をひもとく中で、時代の移り変わりを感じました。世の中の様々な動きの中で、北高校の行く末に幸多からんことを願います。今回、思いがけなくも編集のほんの一端ですが携わることとなりました。何もできませんでしたが、編集委員会の諸先生方に加わらせていただきましたこと、光栄に思っております。ありがとうございました。

（宮本扶佐子記）

★平成十年八月以降、創立二十周年記念事業への取り組みが始まり、記念誌編集委員会も十二月下旬から準備作業に入りました。本年度秋に創立二十周年記念式典をはじめとする記念事業が予定され、それらを記念誌に記録することになったため、平成十一年度末までは編集方針の確定、原稿依頼、必要資料の準備に追われ、沿革史・沿革年表などのための資料整理や作成作業は本年度にずれ込み、いろいろな面での苦労は避けられませんでした。

学校職員の人事の動きやその他の社会状況から、今後の学校の動きについての記録や資料などをどのように整理し保存していくかは、かなり大切な課題であると痛感しました。

記念誌作成にあたって、ＰＴＡ・同窓会・後援会をはじめ現職員・旧職員・卒業生・在校生など多くの皆様や関係機関のご協力をいただきました。一部の写真資料については、印旛郡市文化財センター、千葉県立房総風土記の丘資料館のご高配やヨネダカメラ様のご協力をいただき、また、記念式典のテープ起こしの作業などを三年生の伊藤香織さんにお手伝いしてもらい、イラスト同好会からはイラストの提供をいただきました。皆様のご理解とご協力、ご支援に心からお礼申し上げます。

編集委員一同、よりよい記念誌を作るために精一杯努力してまいりましたが、はたして皆様のお力添え・ご期待に応えるものとなったか大変心許ない限りです。現在は、本校にとりましても教育環境全般にとりましても、重い課題がつきつけられていると思われます。皆様のご批判・ご助言をいただきながら、『黎明二十年』が、本校の今後の発展の礎の一つになればと願わずにいられません。

最後になりましたが、常岡伸司氏をはじめ株式会社ぎょうせいの皆様のご尽力とご配慮に心から感謝いたします。

（手島和史記）

黎明二十年

平成十三年三月九日　発行

編集　千葉県立成田北高等学校
創立二十周年記念誌編集委員会

発行　千葉県立成田北高等学校
〒286-0011　千葉県成田市玉造五丁目一番
電話　〇四七六（二七）三四一一

印刷　㈱　ぎょうせい
〒162-8541　東京都新宿区東五軒町一―二
電話　大代表　〇三（三二六九）一三四一